

茨城県教育財団文化財調査報告第241集

宮後遺跡 3

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

下 卷

平成 17 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第241集

みや うしろ
宮 後 遺 跡 3

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 調 査 報 告 書 IV

下 卷

平成 17 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

目 次

－ 下 卷 －

第3章 調査の成果

第5節 奈良・平安時代の遺構と遺物

3 掘立柱建物跡	425
4 溝	517
5 土坑	518
6 粘土採掘坑	549
7 ピット群	556
8 遺物包含層	572

第6節 中世の遺構と遺物

1 竪穴状遺構	576
2 地下式墳	585
3 堀	604
4 井戸跡	608
5 粘土貼土坑	614
6 土坑墓	615
7 道路状遺構	616

第7節 時期不明の遺構と遺物

1 竪穴住居跡	617
2 掘立柱建物跡	621
3 屋外炉	625
4 火葬土坑	628
5 井戸跡	633
6 溝	636
7 土坑・土坑墓	642

第8節 遺構外出土遺物

第9節 まとめ

付章 宮後遺跡第110・115号住居跡出土土器片及び

第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び鉍物組成等について	687
------------------------------	-----

宮後遺跡第127号住居跡覆土及び第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び

鉍物組成等について	692
-----------	-----

写真図版

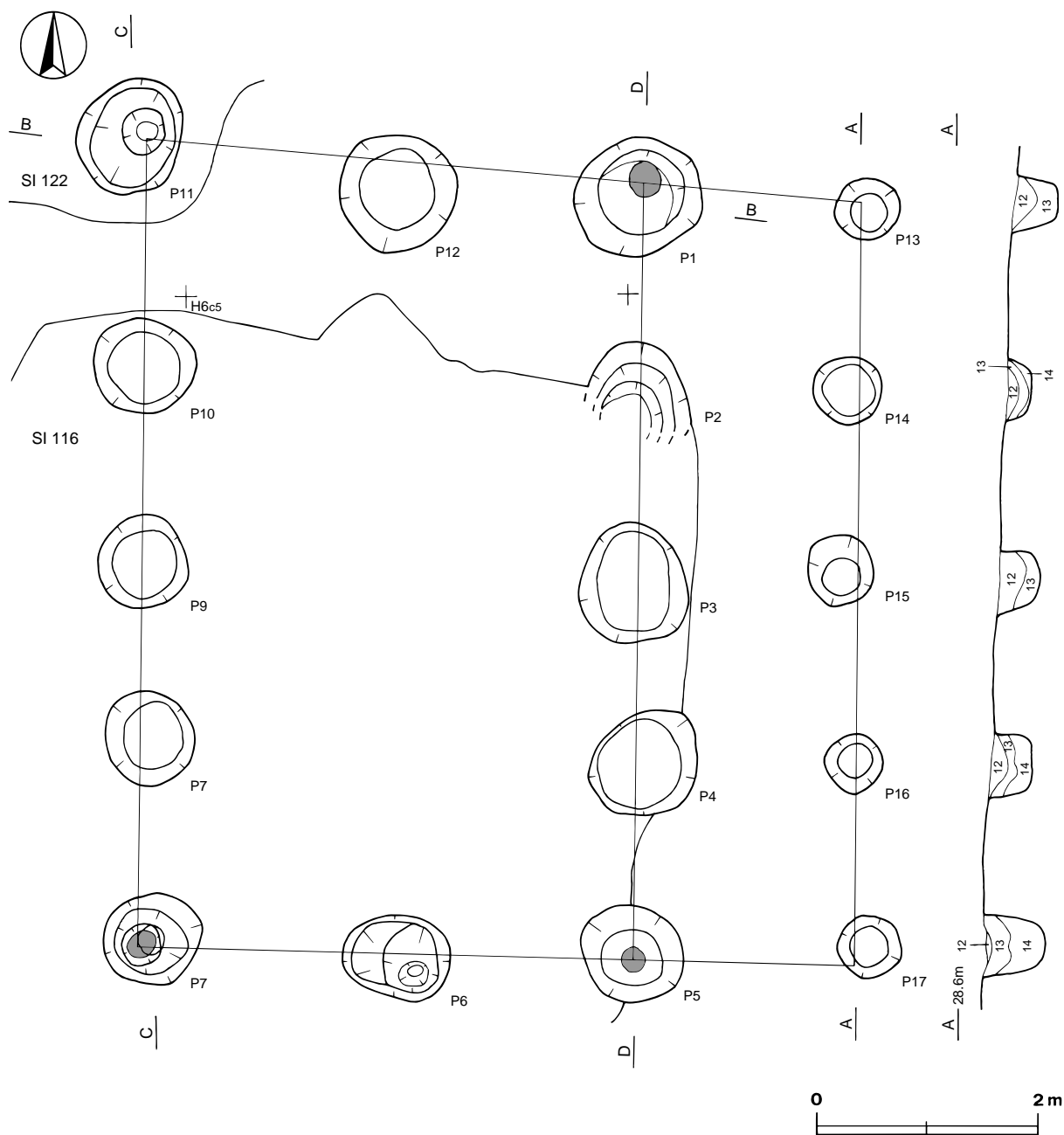
3 掘立柱建物跡

当跡から調査5区を中心に、奈良・平安時代の掘立柱建物跡63棟が検出されている。以下、検出された掘立柱建物跡の特徴及び出土した遺物について解説する。

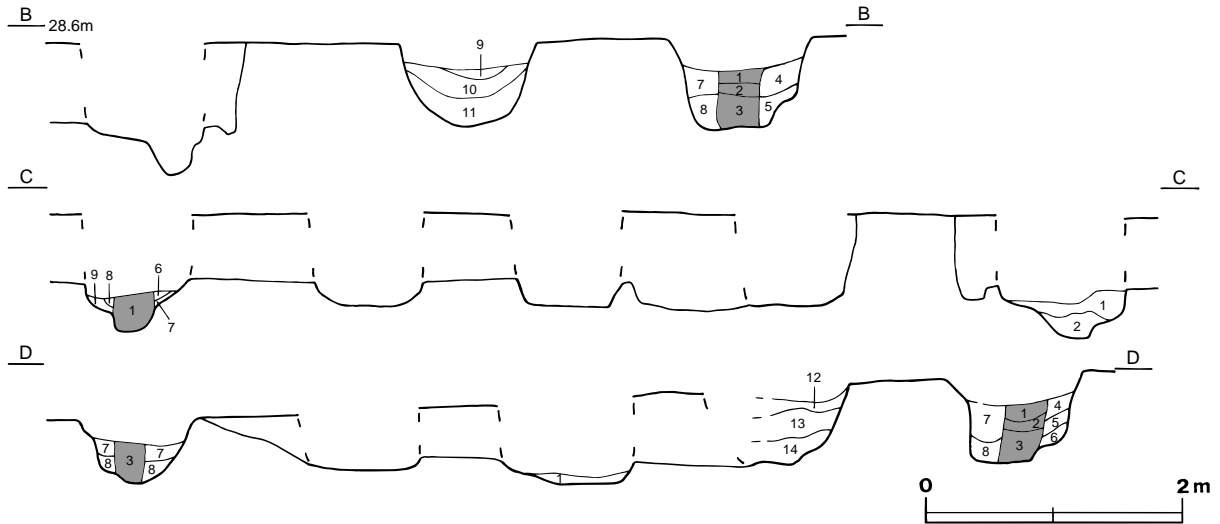
第1号掘立柱建物跡（第368～370図）

位置 調査5区の南東部，H6c5区。

重複関係 第116号住居跡の床面を掘り込んでいる。第122号住居跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第368図 第1号掘立柱建物跡実測図



第369図 第1号掘立柱建物跡実測図(2)

規模 桁行4間，梁行2間で，東側に底を持つ南北棟の側柱建物跡である。身舎の柱穴はP1～P12，底の柱穴はP13～P17である。桁行は東側柱列で7.12m，西側柱列で7.42m，梁行は南側柱列で4.55m，北側柱列で4.50mである。底の出は2.0mである。柱間寸法は桁行が1.60～2.20m，梁行が2.00～2.50mである。身舎の柱穴は，平面形が長径85～115cm，短径75～104cmの楕円形，深さは48～75cmである。底の柱穴は，平面形が径50～60cmの円形，深さは29～58cmである。

桁行方向 N - 1° - E

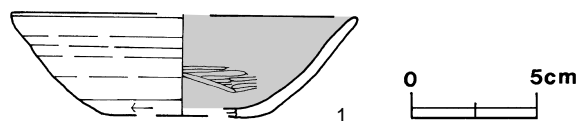
覆土 第1～3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及び粒子を含み締まりのない褐色土・暗褐色土である。第4～8層は締まりのある埋土，第9～14層は中程度に締まったレンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量	10 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	11 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
3 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量	12 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4 褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック微量	13 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
5 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量	14 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
6 暗褐色	ローム粒子多量，ローム大ブロック中量		
7 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量		
8 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子微量		
9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量		

遺物 土師器片12点，須恵器片24点が出土している。第370図1の土師器坏は，P11の覆土中から出土している。

所見 9世紀後葉に位置づけられる第122号住居跡との新旧関係は不明であり，時期は，出土した遺物の下限の時期から，9世紀中葉以降と考えられる。



第370図 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図

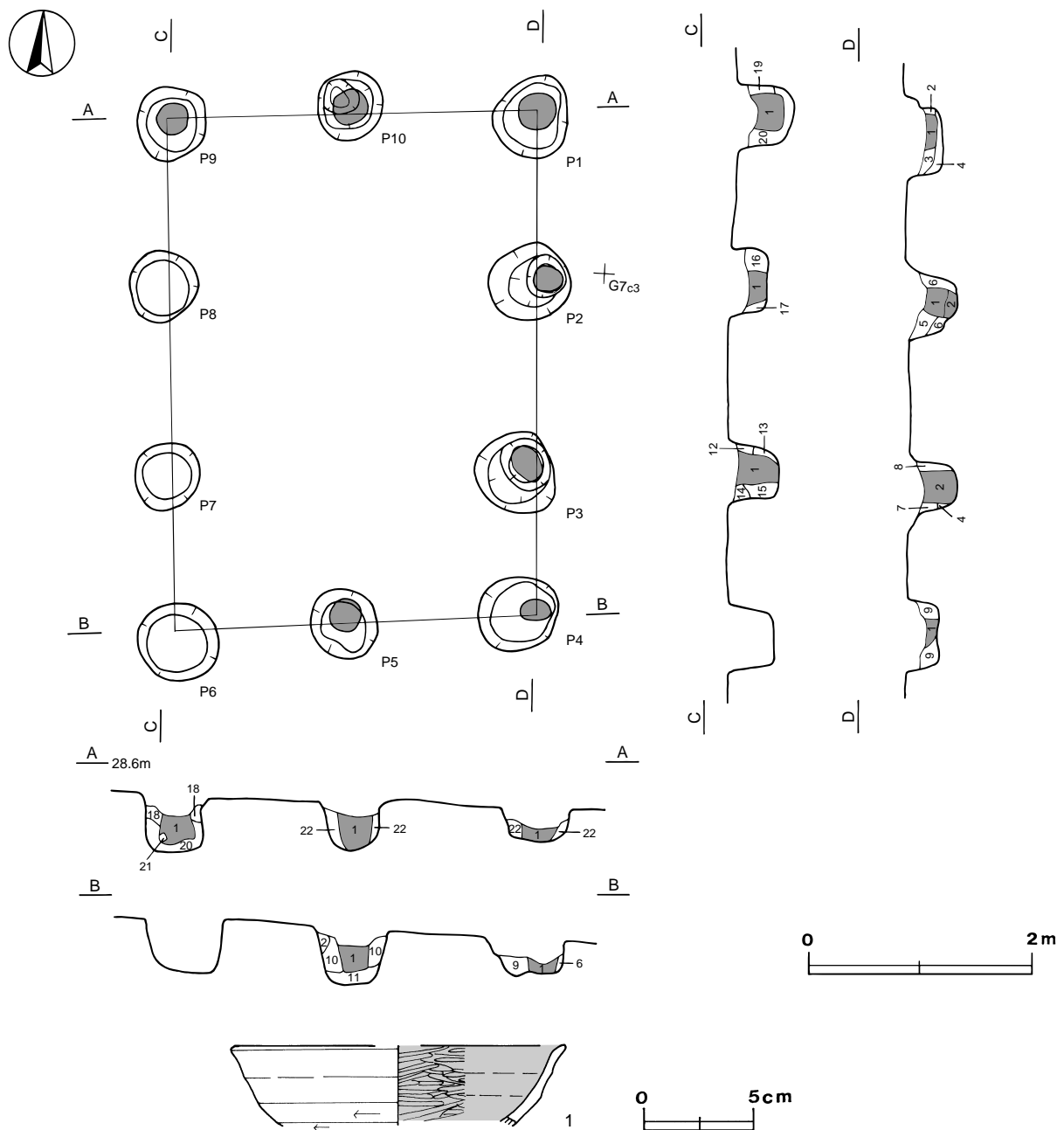
第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第370図 1	坏 土師器	A [14.0] B 4.3 C [5.9]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾して 立ち上がり、口縁部に至る。	体部内面へラ磨き、外面口クロナ デ。体部下端及び底部回転へラ削 り。内面黒色処理。	長石・石英・白色粒 子 浅黄橙色、普通	P 2502 20%

第2号掘立柱建物跡 (第371図)

位置 調査5区の北東部, G7c2区。

規模 桁行3間, 梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行4.65m, 梁行3.35mである。柱間寸法は桁行が1.30~1.70m, 梁行が1.50~1.70mである。柱穴は, 平面形が長径60~70cm, 短径65~75cmの楕円形及び円形, 深さは30~50cmである。



第371図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

桁行方向 N-3°-W

覆土 第1・2層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色土・黒褐色土である。第3～22層は締まりのある埋土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ローム大ブロック中量
2 黒褐色	ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量	12 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
4 暗褐色	ローム大ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック微量
5 褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	15 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
6 暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	16 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量
7 暗褐色	ローム大ブロック少量, 焼土粒子微量	17 暗褐色	ローム大ブロック中量, ローム粒子少量
8 褐色	ローム大ブロック多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量	18 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
9 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック少量	19 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
10 褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量	20 暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量
		21 褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック中量
		22 暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片5点が出土している。第371図1の土師器坏は、P7の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀後葉以降と考えられる。

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第371図 1	坏 土師器	A [15.1] B (3.6)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・針状鉱物、にぶい黄橙色、普通	P2503 10%

第3号掘立柱建物跡（第372図）

位置 調査5区の北東部、G6a9区。

重複関係 第126号竪穴住居跡を掘り込んでいる。

規模 桁行が南側柱列で3間、北側柱列で2間、梁行が東西柱列とも2間であり、東西棟の側柱建物跡である。南側柱列の桁行は3.55m、北側柱列の桁行は3.75m、西側柱列の梁行は3.10m、東側柱列の梁行は2.95mである。柱間寸法は、桁行が1.00～1.95m、梁行が1.45～1.60mである。柱穴は、平面形が長径45～60cm、短径40～50cmの楕円形及び円形、深さが26～55cmである。

桁行方向 N-11°-E

覆土 第1～3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む締まりのない褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。第4～20層は締まりのある埋土である。

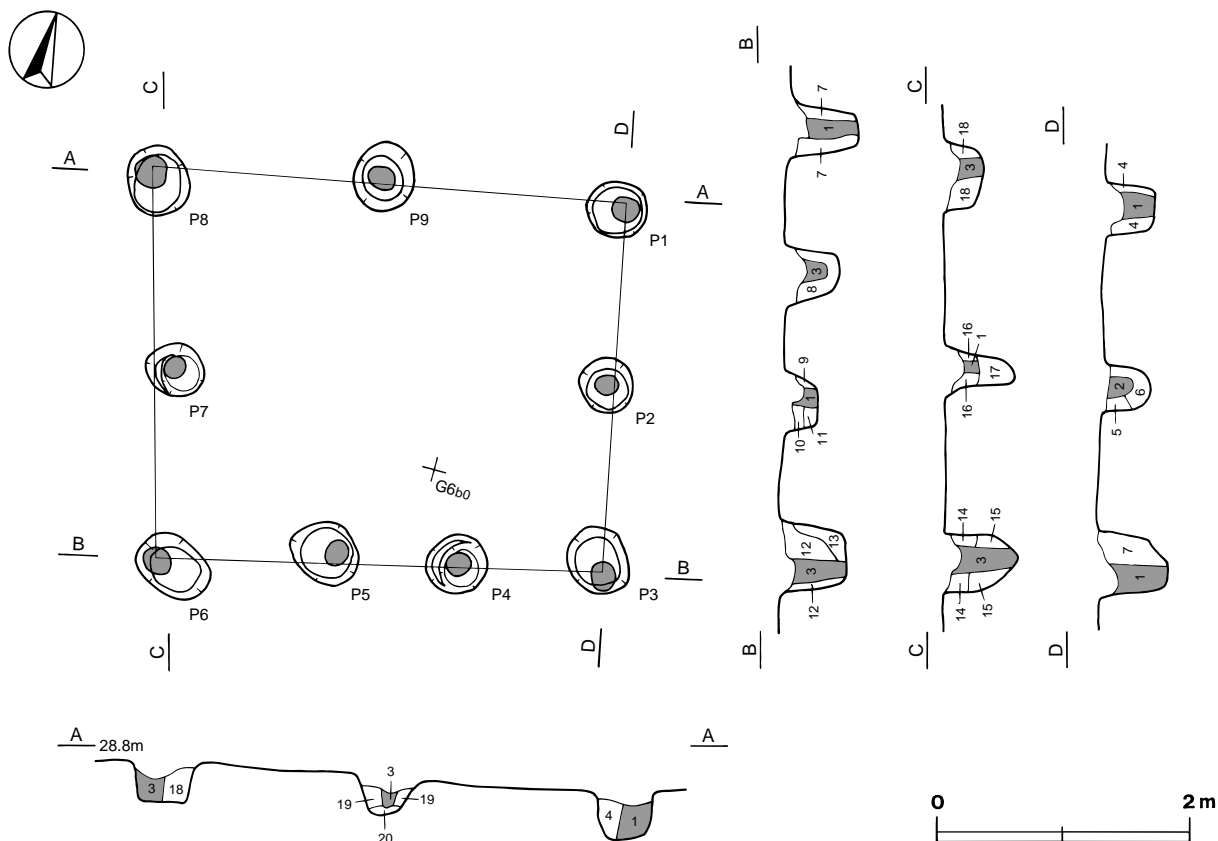
土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	8 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	11 暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量
5 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量	13 極暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
7 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
		15 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

- | | | | |
|--------|---------------------------------------|--------|---------------------------|
| 16 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 19 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 17 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 20 黒褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 18 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | | |

遺物 出土していない。

所見 本跡は出土遺物がなく、正確な時期は不明である。9世紀中葉以降に位置づけられる第10号掘立柱建物跡の桁行方向及び第105・111号竪穴住居跡の主軸の傾きが、本跡の桁行方向とほぼ同じであること、覆土や規模などから、9世紀中葉以降と類推される。



第372図 第3号掘立柱建物跡実測図

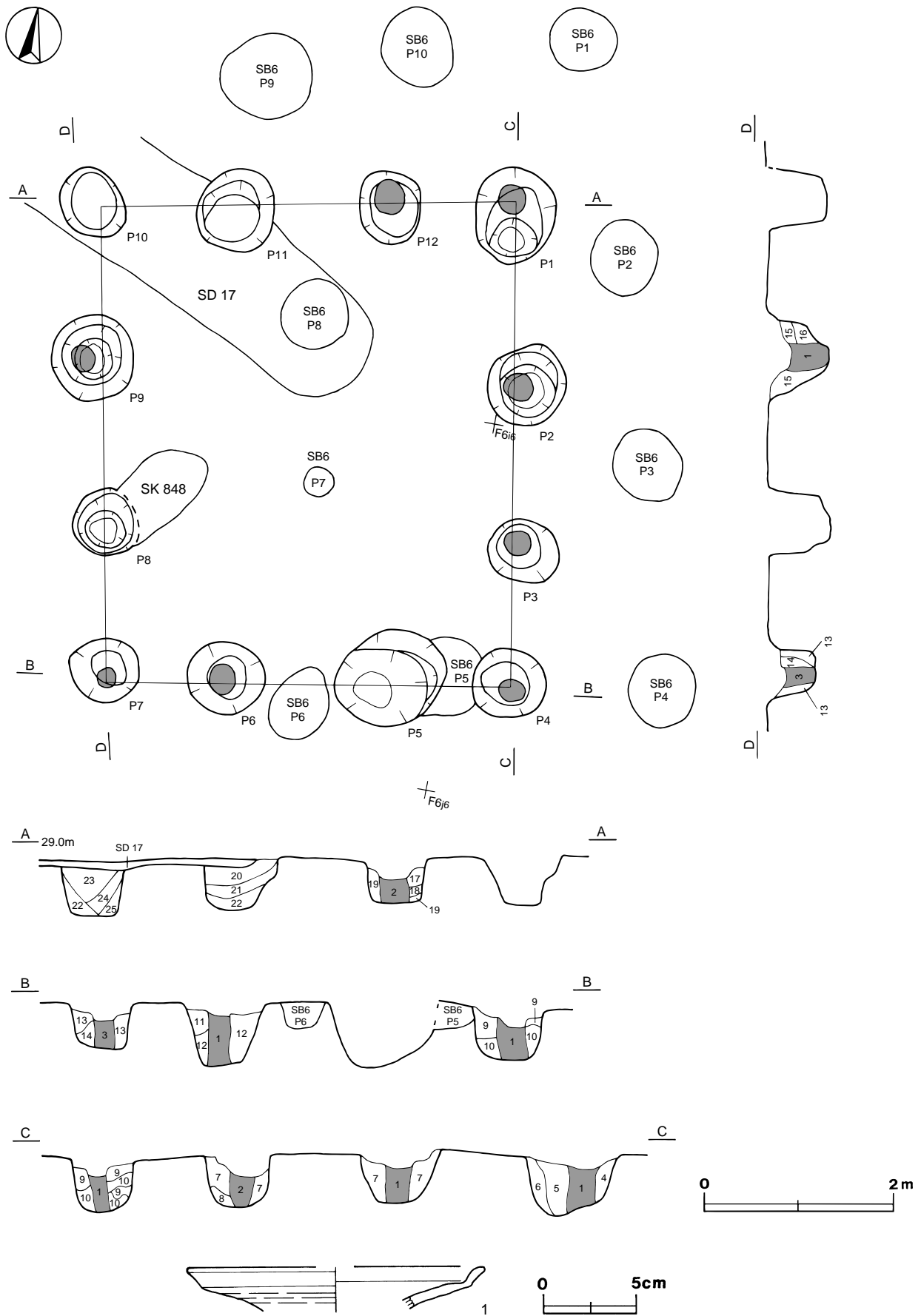
第4号掘立柱建物跡 (第373図)

位置 調査5区の北西部, F6h5区。

重複関係 第17号溝に掘り込まれている。また、第6号掘立柱建物跡及び第848号土坑と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間, 梁行3間で南北棟の側柱建物跡である。桁行は、東側柱列で5.20m, 西側柱列で5.10m, 梁行は、北側柱列で4.50m, 南側柱列で4.40mである。柱間寸法は桁行が1.50~2.00m, 梁行が1.30~1.90mである。柱穴は、平面形が長径75~125cm, 短径65~100cmの楕円形, 及び径70~95cmの円形, 深さが50~70cmである。

桁行方向 N-21°-E



第373图 第4号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 第1～3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含む締まりのない褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。第4～19層は締まりのある埋土である。P11の第20・21層は中程度に締まったレンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。P10の第22～25層は三角形を呈する堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土であり、第22層が締まりのない極暗褐色土、第23～25層が中程度に締まった褐色土・黒褐色土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
2	黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量, ローム中ブロック微量	15	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量
3	褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量	16	褐色	ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム大ブロック微量
4	褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量	17	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, ローム大ブロック微量
5	黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量	18	黒褐色	ローム小ブロック少量
6	暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量	19	褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・ローム大ブロック微量
7	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	20	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
8	褐色	ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量	21	黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
9	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量, ローム中ブロック微量	22	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
10	暗褐色	ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム大ブロック微量	23	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量
11	褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量	24	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
12	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム大ブロック微量	25	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック微量
13	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量			

遺物 土師器細片4点, 須恵器片1点が出土している。第373図1の須恵器盤は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土した遺物の下限の時期から9世紀前葉以降と考えられるが, 9世紀中葉以降に位置づけられる第10号掘立柱建物跡と桁行方向が近いことから, それ以降の可能性も考えられる。

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第373図 1	盤 須恵器	A [16.0] B (2.2)	体部は大きく開き, 屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内外面口クロナデ。	長石 灰黄褐色 普通	P2504 10%

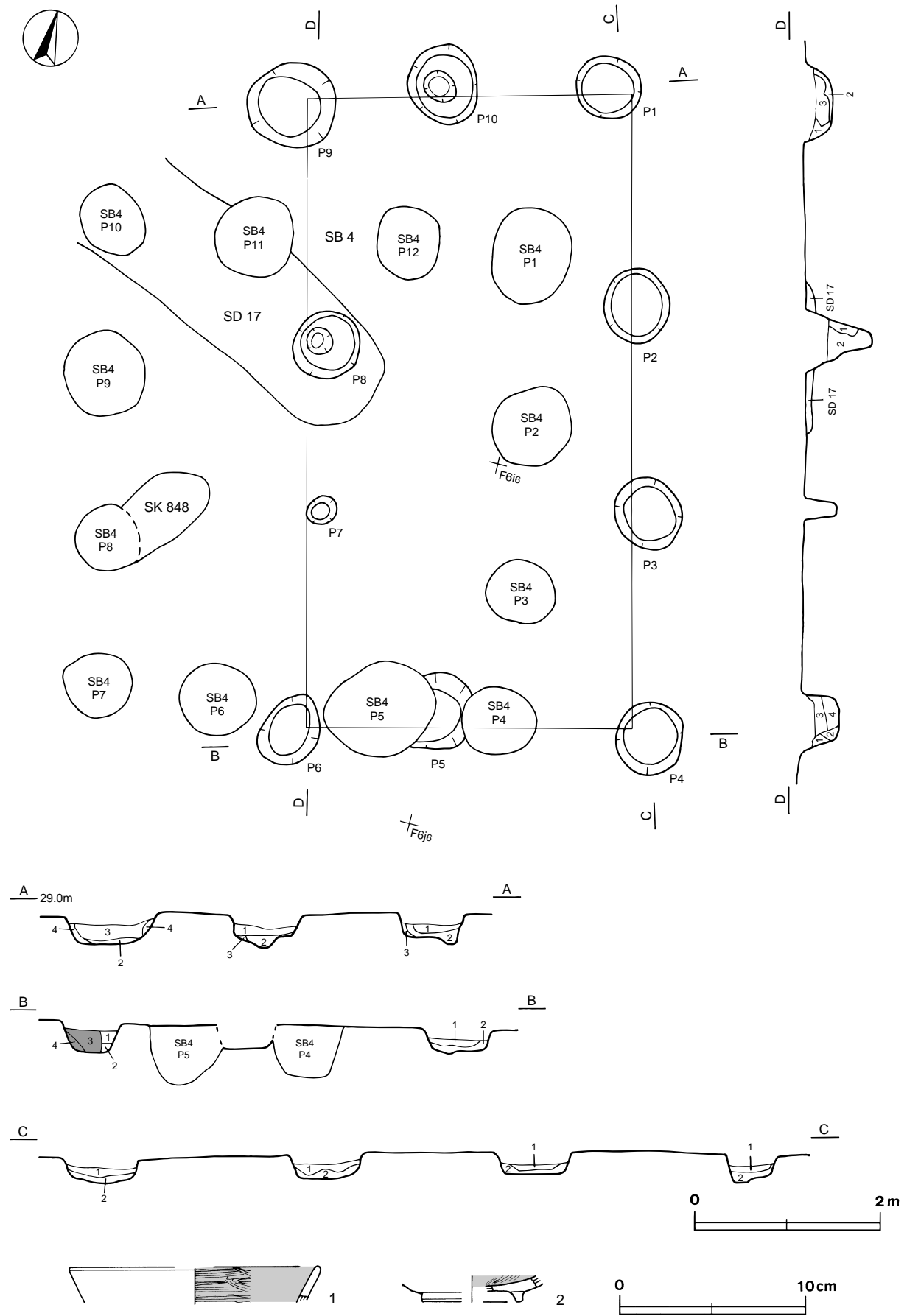
第6号掘立柱建物跡 (第374図)

位置 調査5区の北西部, F6h5区。

重複関係 第17号溝に掘り込まれている。第4号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間, 梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行6.80m, 梁行3.50mである。柱間寸法は桁行が1.80～2.60m, 梁行が1.50～2.10mである。柱穴は, 平面形が長径70～100cm, 短径65～90cmの楕円形, また, P7が径35cmの円形, 深さが25～70cmである。

桁行方向 N-14° - W



第374图 第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 P 6 の第 3・4 層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・炭化粒子を含む締めりのない暗褐色・黒褐色土である。P 6 の第 1・2 層は締めりのある埋土である。その他は中程度に締まったレンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- P 1 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- P 2 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- P 3 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- P 4 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- P 6 1 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- P 8 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- P 9 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- P 10 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片 2 点が出土している。第374図 1 の土師器坏は P 1 から, 2 の土師器高台付坏は P 9 からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土した遺物の下限の時期から 9 世紀後葉以降と考えられる。

第 6 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第374図 1	坏 土師器	A [13.4]	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面口ロナデ。内面 黒色処理。	長石・石英・針状鉱物 黒色, 普通	P 2505 5%
		B (1.9)				
2	高台付坏 土師器	B (1.4)	高台部から底部の破片。高台は短 くほぼ垂下する。	内面へラ磨き, 黒色処理。底部回 転へラ切り。高台貼り付け後ナデ。	長石 にぶい黄褐色 普通	P 2506 10%
		D [5.4]				
		E 0.5				

第 5 号掘立柱建物跡 (第375図)

位置 調査 5 区の北西部, F6j3区。

重複関係 第121号住居跡を掘り込んでいる。また, 第 8 号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 南東隅の柱穴が調査区域外になるが, 桁行 2 間, 梁行 1 間で南北棟の側柱建物跡と考えられる。西側柱列で桁行 7.25m, 北側柱列で梁行 2.85m である。柱間寸法は桁行が西側柱列で北から 3.50・3.75m, 東側柱列で北側が 4.00m, 梁行が北側柱列で 2.85m である。柱穴は, 平面形が長径 95~115cm, 短径 85~90cm の楕円形及び径 115cm の円形, 深さが 25~36cm である。

桁行方向 N-14° - E

覆土 第 1~3 層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含む締めりのない褐色土・黒褐色土である。第 9~13 層は締めりのある埋土, 第 4~8 層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土

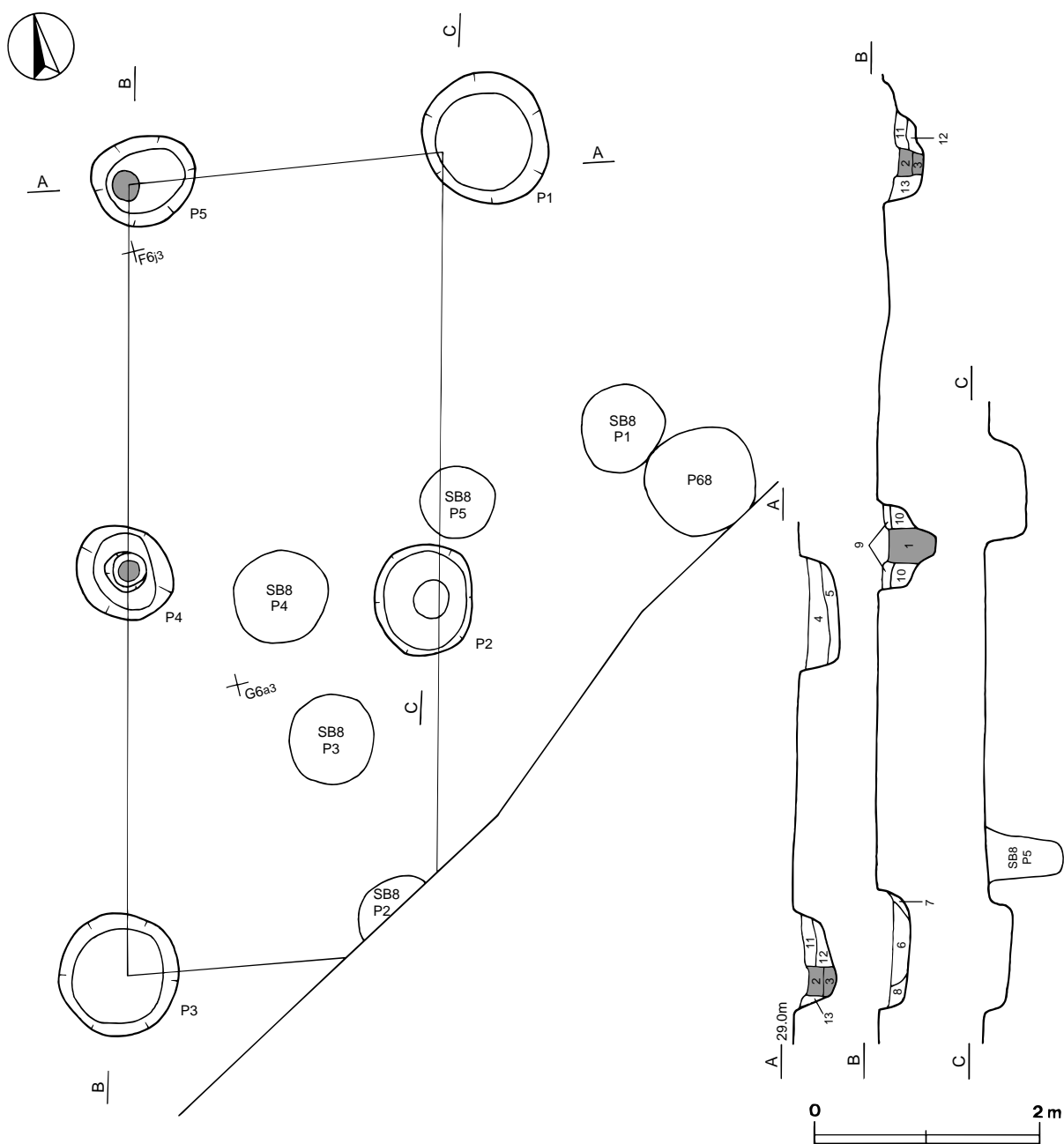
である。

土層解説

1	黒褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	8	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	9	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
3	褐色	ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量	10	褐色	ローム粒子多量
4	黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	11	褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
5	黒褐色	ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	12	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量
6	暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	13	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
7	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量			

遺物 出土していない。

所見 時期は、弥生時代末～古墳時代初頭に位置づけられる第121号住居跡を掘り込んでいることからそれ以降と考えられるが、出土遺物がなく正確な時期は不明である。桁行方向や覆土などから、他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と類推される。



第375図 第5号掘立柱建物跡実測図

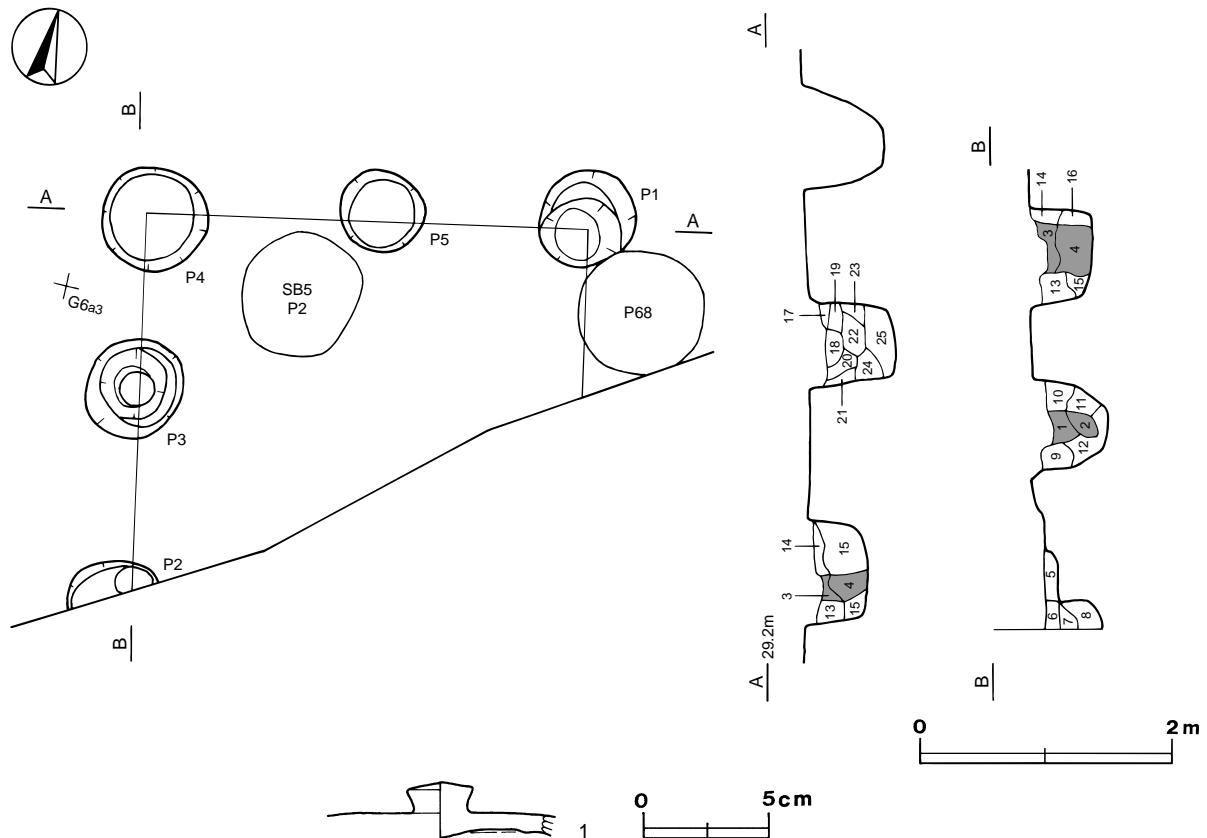
第 8 号掘立柱建物跡 (第376図)

位置 調査 5 区の北西部, G6a3区。

重複関係 第121号住居跡を掘り込んでいる。第68号ピット及び第 5 号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 本跡の南部が調査区域外になるため正確な規模は不明であるが, 北側柱列が 2 間 (3.50m), 西側柱列で 2 間以上 (3.00m) の側柱建物跡である。柱間寸法は北側柱列で東から1.60m・1.90m, 西側柱列で北から1.40m・1.60mである。柱穴は, 平面形が長径75~95cm, 短径65~77cmの楕円形及び径85cmの円形, 深さが50~65cmである。

桁行方向 N-11° - W



第376図 第 8 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 第 1 ~ 4 層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色土・黒褐色土・極暗褐色土である。第 9 ~ 16 層は締まりのある埋土, 第 5 ~ 8 層及び第17~25 層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	11 暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック中量	12 黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子少量	13 極暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子多量	15 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
6 極暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量	16 暗褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
7 黒褐色	ローム粒子少量	17 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
8 暗褐色	ローム粒子中量		
9 暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量		
10 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量		

18	極暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック 微量	22	極暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
19	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	23	極暗褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック 微量
20	黒褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロッ ク・ローム小ブロック微量	24	黒褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック微量
21	暗褐色	ローム粒子少量	25	極暗褐色	ローム粒子微量

遺物 弥生土器片 1 点, 土師器片 2 点, 須恵器片 4 点が出土している。第376図 1 の須恵器蓋は P 2 の覆土中から出土している。

所見 図示し得る下限の時期の遺物は, 8 世紀末葉～9 世紀初頭の須恵器蓋である。時期はこれ以降と考えられるが, 第10号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ同じであることなどから, 9 世紀中葉以降の可能性も考えられる。

第 8 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第376図 1	蓋 須恵器	B (22) F 2.6 G 12	天井部片。擬宝珠状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後, つまみ貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P 2508 15%

第27号掘立柱建物跡 (第377図)

位置 調査 5 区の南西部, H6a5区。

重複関係 第269号ピット及び第 9 号掘立柱建物に掘り込まれており, 第122号住居跡の北壁を掘り込んでいる。第207・253・254・258～260・262～269号ピットと重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行 3 間, 梁行 2 間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は南側柱列で 6.15m, 北側柱列で 5.70m, 梁行は 3.50m である。柱間寸法は桁行が 1.80～2.25m, 梁行が 1.70～1.80m である。柱穴は, 平面形が長径 66～84 cm, 短径 62～72cm の楕円形及び円形, 深さが 28～70cm である。

桁行方向 N - 3° - E

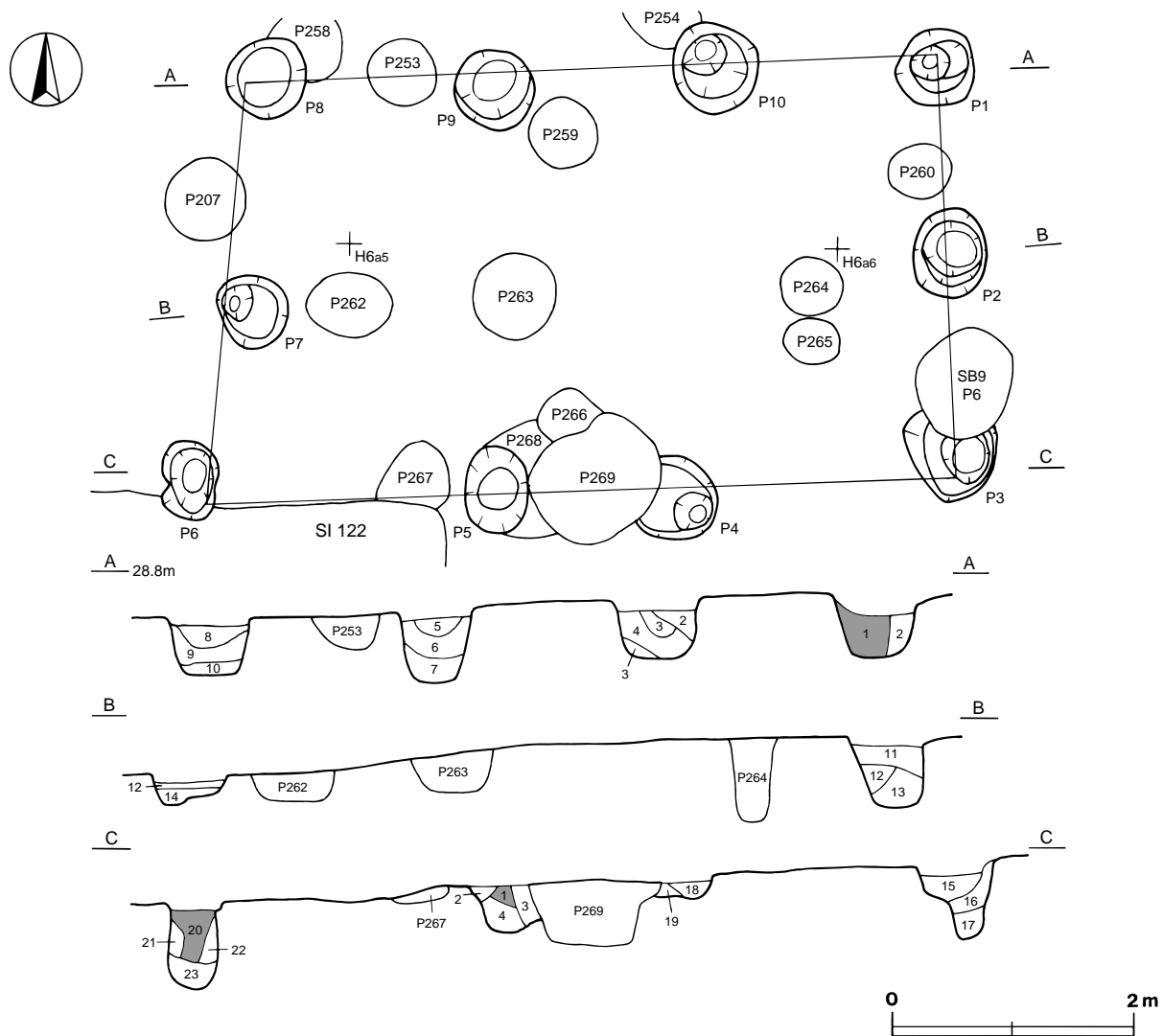
覆土 第 1・20 層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層は, ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを含む締まりのない暗褐色土である。第 2 層及び第 21～23 層は締まりのある埋土, その他は, 中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量, ローム中ブロック微量	12	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, ローム中ブロッ ク・ローム粒子微量	13	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ ローム中ブロック微量
3	褐色	ローム中ブロック中量, ローム粒子少量	14	褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
4	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
5	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子・ 炭化粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子中量
6	褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	17	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
7	暗褐色	ローム大ブロック中量, ローム粒子少量	18	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
8	暗褐色	炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・ ローム粒子・焼土小ブロック微量	19	褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
9	暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック・ ローム粒子・焼土小ブロック微量	20	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, ローム中ブロッ ク・ローム粒子微量
10	暗褐色	ローム中ブロック中量, ローム粒子少量	21	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量, ロー ム粒子微量
11	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロッ ク・ローム粒子微量	22	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・ 焼土小ブロック・炭化粒子微量
			23	褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, ローム粒子・焼 土大ブロック微量

遺物 土師器 10 点, 須恵器 3 点が出土している。いずれも細片であり, 図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり, 正確な時期は不明であるが, 本跡が 9 世紀中葉に位置づけられる第122号住居跡を掘り込んでいることから, それ以降と考えられる。なお, 9 世紀後葉に位置づけられる第 2・17号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ同じであることから, それ以降の可能性も考えられる。



第377図 第27号掘立柱建物跡実測図

第9号掘立柱建物跡（第378図）

位置 調査5区の南部，H6a6区。

重複関係 第27号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第869土坑及び第270・271号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行が2間，梁行は東側柱列で2間，西側柱列で1間であり，東西棟の側柱建物跡である。桁行は北側柱列で4.10m，南側柱列で4.05m，梁行は東側柱列で2.85m，西側柱列で2.65mである。柱間寸法は桁行が1.80～2.15m，梁行が東側柱列で北から1.25m・1.60mである。柱穴は，平面形が長径65～100cm，短径60～80cmの楕円形及び径52～57cmの円形，深さが27～70cmである。

桁行方向 N-81°-W

覆土 第1～4層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はローム粒子・焼土粒子を含む締まりのない褐色・暗褐色土である。第5・6層は締まりのある埋土，第7～13層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

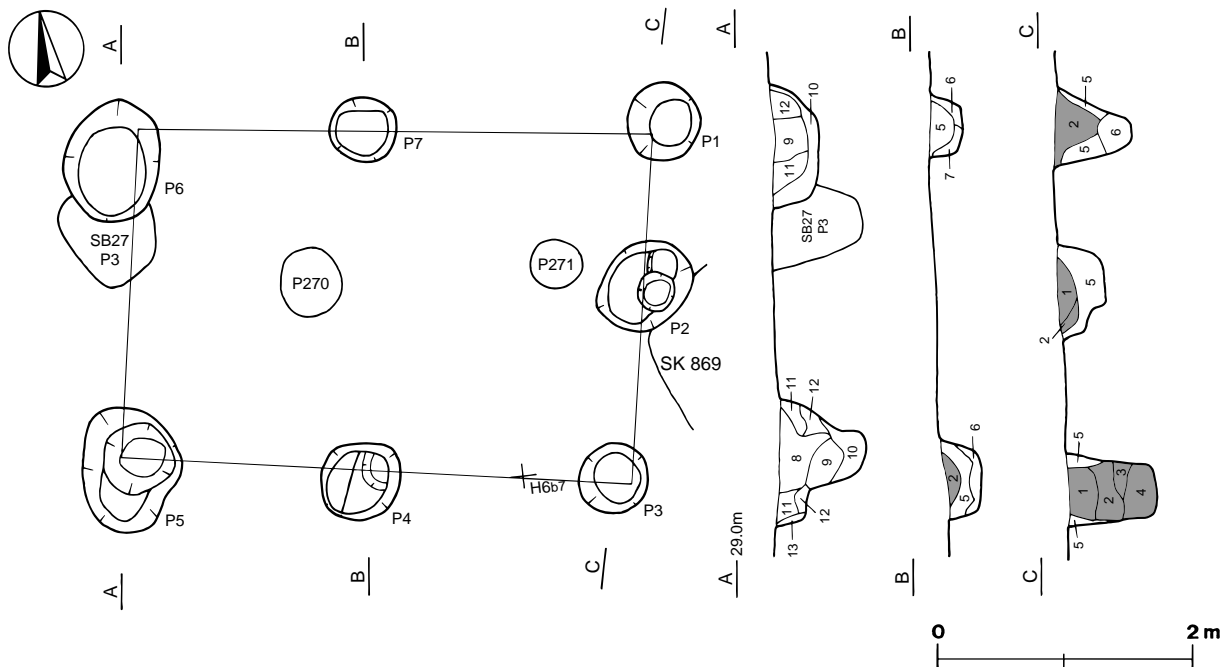
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量 |

- 9 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量
- 11 褐色 ローム粒子中量
- 12 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 13 褐色 ローム小ブロック少量

遺物 土師器片 5 点, 須恵器片 6 点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり, 正確な時期は不明であるが, 9 世紀後葉以降の可能性が考えられる第27号掘立柱建物跡を掘り込んでおり, それ以降とも類推される。



第378図 第9号掘立柱建物跡実測図

第10号掘立柱建物跡 (第379・380図)

位置 調査5区の北西部, F5i0区。

重複関係 第132・135号住居跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模 北西隅の柱穴が調査区域外になるが, 桁行4間, 梁行3間の東西棟であり, 側柱建物跡と考えられる。

桁行は7.65m, 梁行は4.65m, 柱間寸法は桁行が1.75~2.25m, 梁行が1.40~1.65mである。柱穴は, 平面形が長径75~138cm, 短径75~122cmの楕円形・円形及び隅丸方形, 深さが41~64cmである。

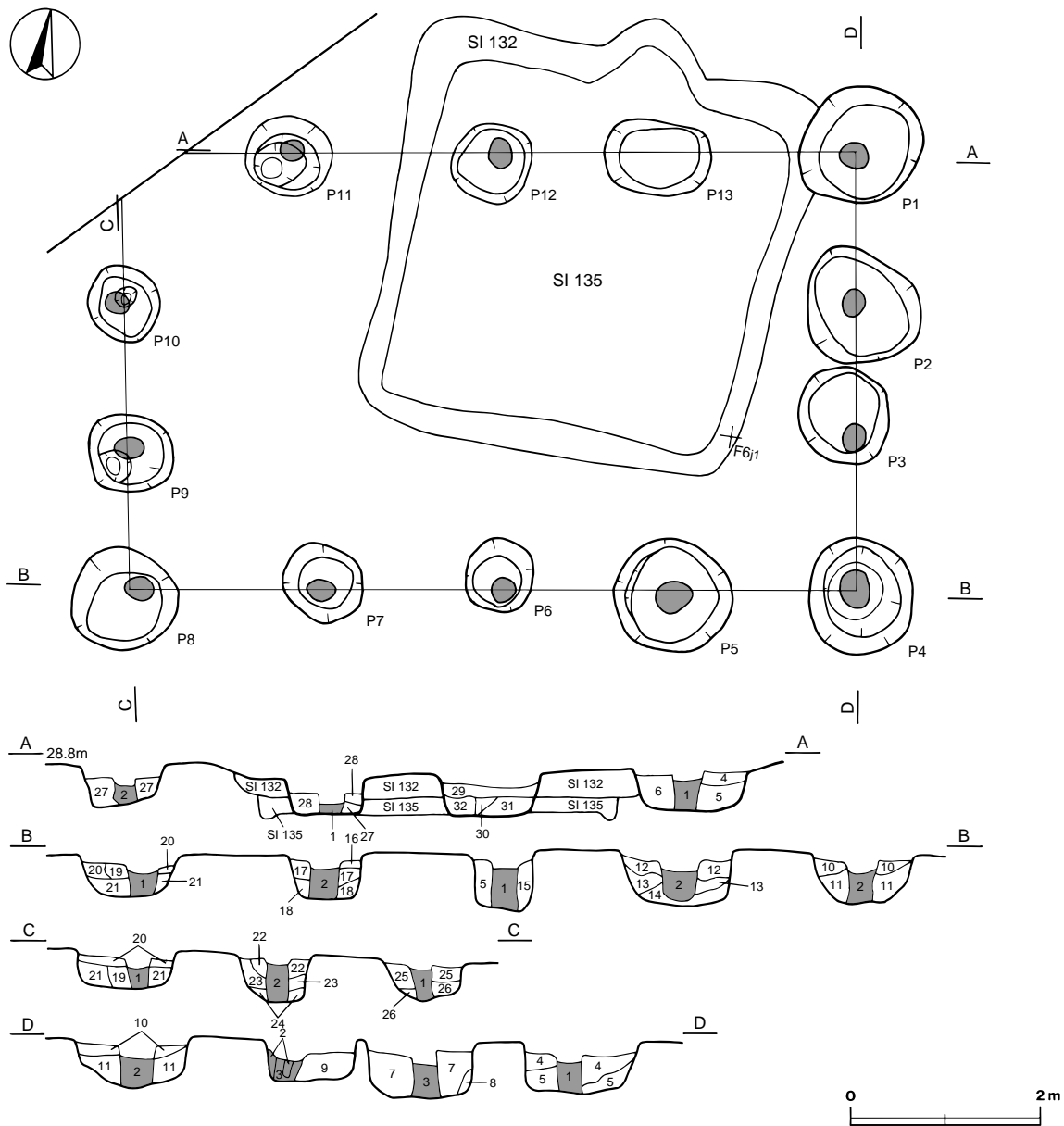
桁行方向 N - 8° - E

覆土 第1~3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・炭化物・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色土・黒褐色土・極暗褐色土である。第4~28層は締まりのある埋土, 第29~32層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------------------------|---------|-----------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量, ローム大ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 10 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム大ブロック少量 | 11 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 13 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| | | 14 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |

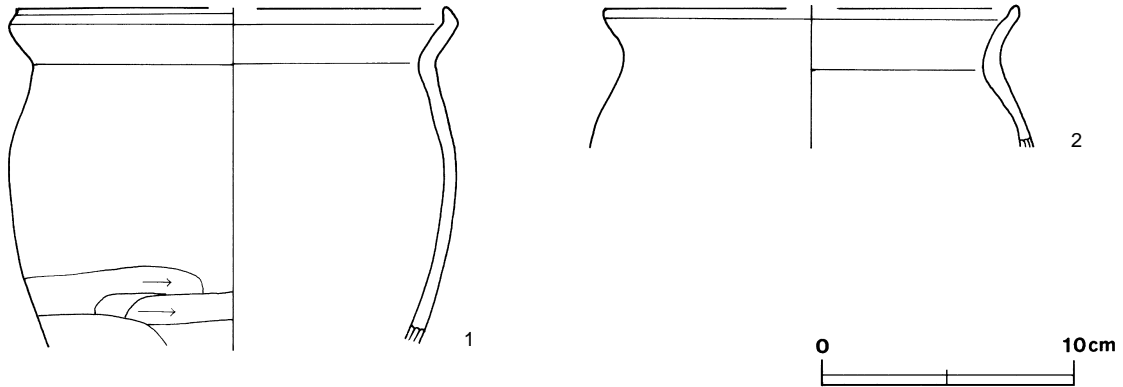
- | | | | | | |
|----|------|-----------------------------------------------|----|--------|-------------------------------------------------------|
| 15 | 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 25 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 16 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 26 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 17 | 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 27 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 18 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 28 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 19 | 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 29 | 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 20 | 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 30 | 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 21 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 31 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 22 | 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 32 | にぶい赤褐色 | 炭化物・炭化粒子少量 |
| 23 | 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 | | | |
| 24 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | | | |



第379図 第10号掘立柱建物跡実測図

遺物 土師器片2点, 須恵器片12点が出土している。第380図1・2の土師器小形甕の口縁部片は, ともにP13の覆土中から出土している。

所見 出土した下限の時期の遺物は 9 世紀中葉の土師器甕の口縁部片である。重複する第132・135号住居跡との新旧関係は不明であり，時期は 9 世紀中葉以降と考えられる。



第380図 第10号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第380図 1	小形甕 土師器	A [17.2] B (13.3)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は外反し，端部がつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下端横位のヘラ削り。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P2509 10%
2	小形甕 土師器	A [16.4] B (5.5)	口縁部片。口縁部は外反し，端部がつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P2510 5%

第11号掘立柱建物跡（第381図）

位置 調査5区の南西部，H6c3区。

重複関係 第116号住居跡を掘り込んでいる。また，第234号ピットを本跡のP1が掘り込んでいる。第38号掘立柱建物跡及び第886号土坑・第235・236・237号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 南西部が調査区域外になるが，桁行5間，梁行3間の東西棟で，側柱建物跡と考えられる。桁行は北側柱列で7.55m，梁行は東側柱列で5.60m，柱間寸法は桁行が1.40～1.80m，梁行が1.60～2.20mである。柱穴は，平面形が長径65～118cm，短径53～105cmの楕円形及び円形，深さが65～95cmである。

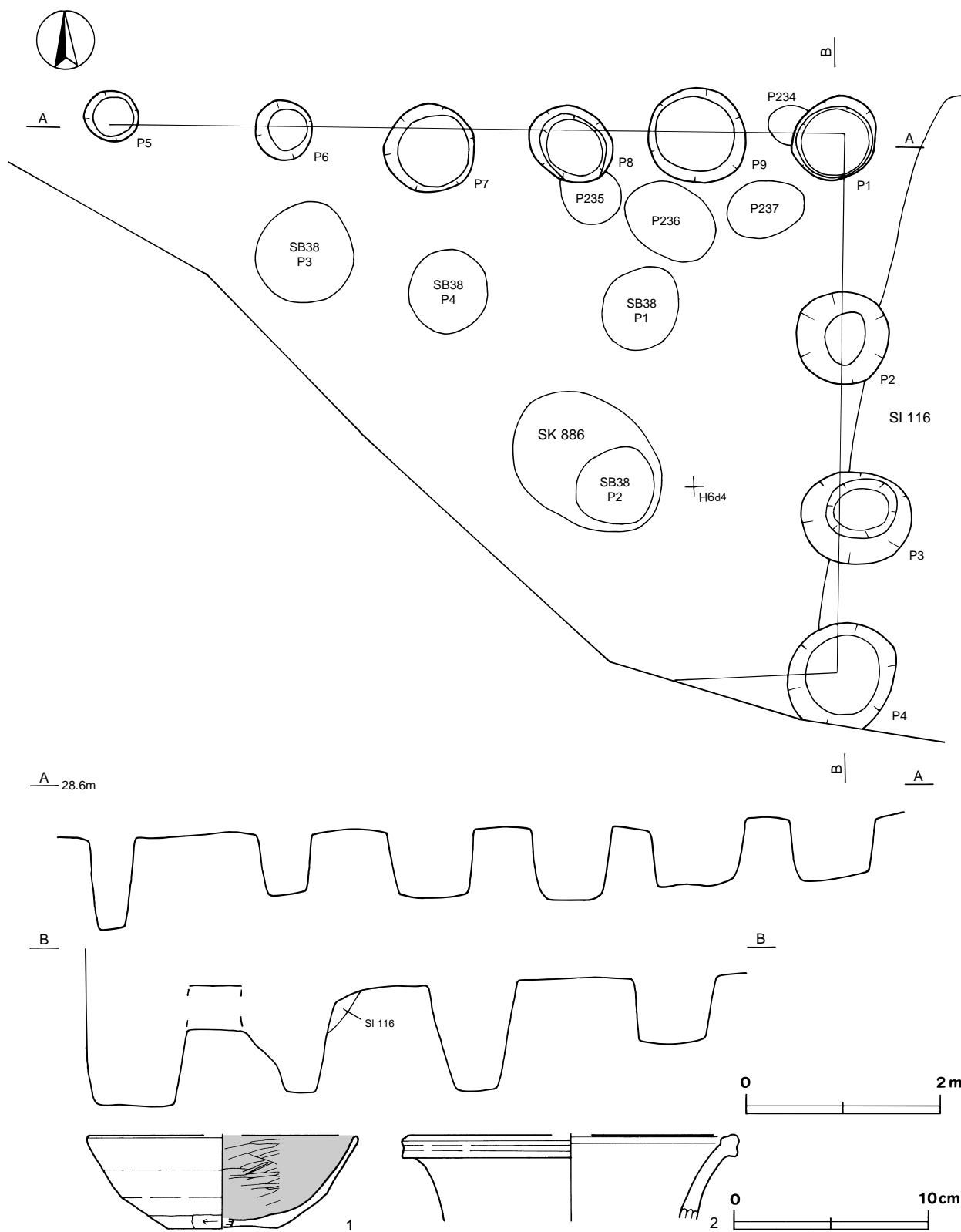
桁行方向 N-87°-W

遺物 土師器片3点，須恵器片12点が出土している。第81図1の土師器坏はP7，2の須恵器甕の口縁部は，P5の覆土中から出土している。その他の土師器片及び須恵器片は混入と考えられる。

所見 本跡の時期は，出土した遺物の下限の時期から9世紀後葉以降と考えられる。

第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第381図 1	坏 土師器	A [13.8] B 4.8 C 5.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・白色粒子 橙色，普通	P2512 40%
2	甕 須恵器	A [17.0] B (4.4)	口縁部片。口縁部は外反し，端部は下端が突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P2511 5%



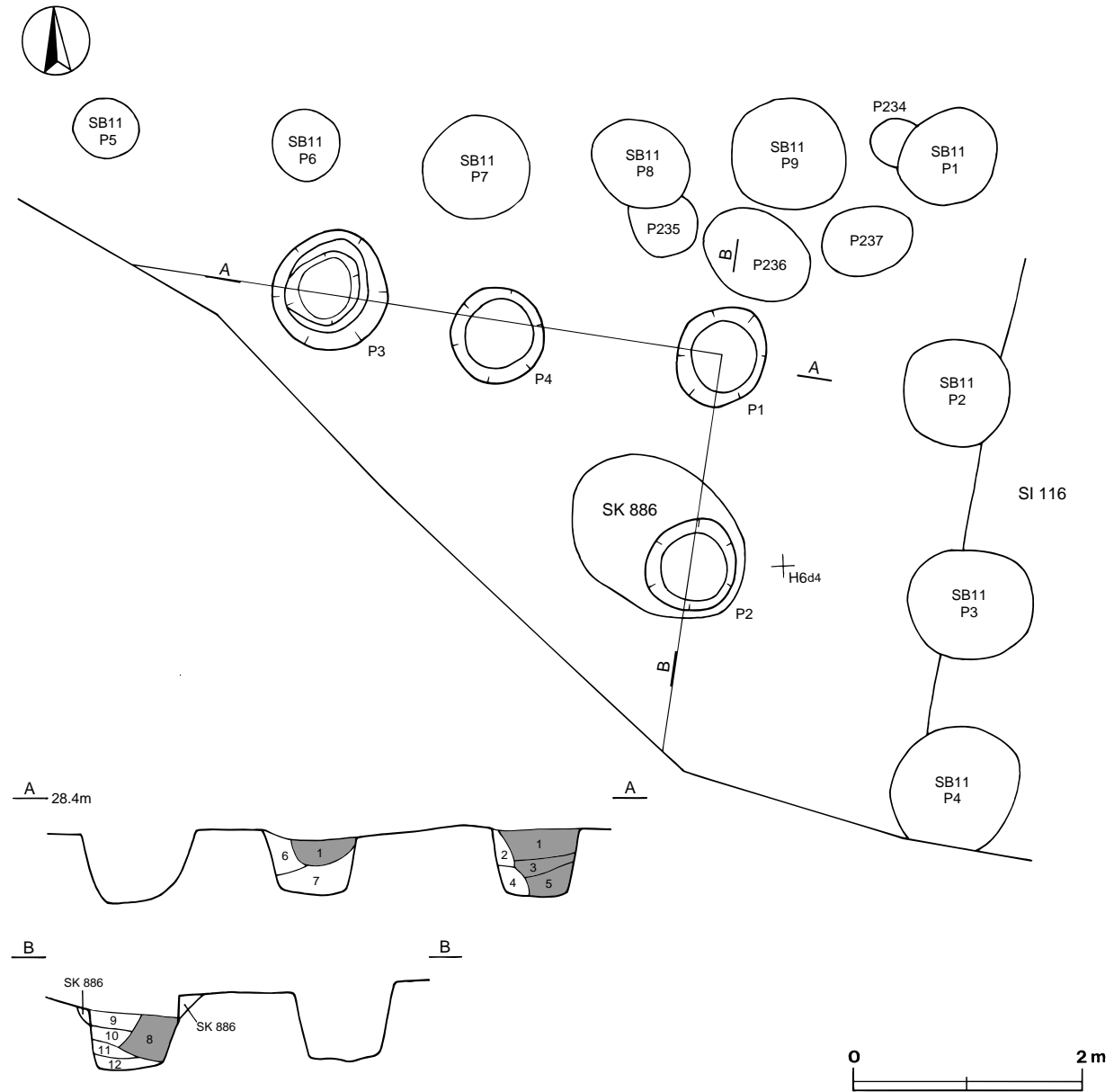
第381図 第11号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第38号掘立柱建物跡（第382図）

位置 調査5区の南西部，H6c3区。

重複関係 第886号土坑を掘り込んでいる。第11号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 南西部が調査区域外になるが、桁行2間以上、梁行1間以上の東西棟で、側柱建物跡と考えられる。桁行は5.25m、梁行は3.60m、柱間寸法は桁行が東から2.00cm・1.60cm、梁行が2.00cmである。柱穴は、平面形が長径85~108cm、短径70~103cmの楕円形及び円形、深さが58~65cmである。



第382図 第38号掘立柱建物跡実測図

桁行方向 N-80°-W

覆土 第1・3・5・8層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及び粒子・炭化物・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色・黒褐色・極暗褐色土である。第2・4・6・7・9~12層は締まりのある埋土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------------------------|---------|------------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 9 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 5 極暗褐色 | ローム中ブロック少量 | 11 極暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |

遺物 土師器片 1 点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、平安時代（9 世紀中葉）と考えられる第 886 号土坑を掘り込んでいることから、それ以降と推定される。

第 7 号掘立柱建物跡（第 383 図）

位置 調査 5 区の南西部，G6i5 区。

重複関係 第 248 号ピットに掘り込まれており，第 240・243 号ピットを掘り込んでいる。第 130・241・242・244・245・246・247・250・251・252 号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行 3 間，梁行 2 間で南北棟の側柱建物跡である。桁行 5.40m，梁行は南側柱列で 4.05m，北側柱列で 3.60m である。柱間寸法は桁行が 1.40～2.20m，梁行が 1.80～2.05m である。柱穴は，平面形が長径 80～132cm，短径 80～100cm の楕円形及び円形，深さが 63～85cm である。

桁行方向 東側柱列で N - 6° - W である。

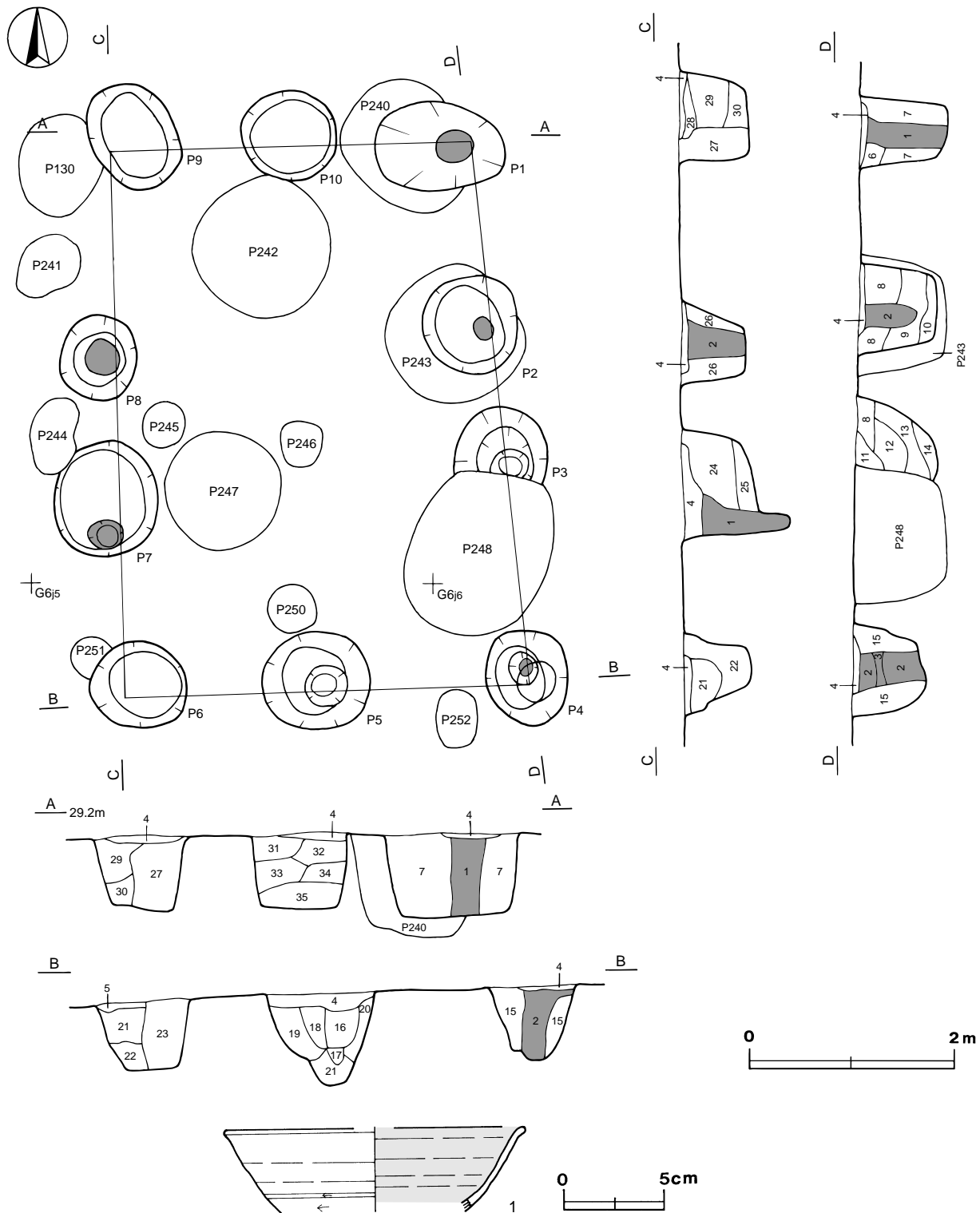
覆土 第 1～3 層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色・黒褐色土である。第 6～10 層及び第 15 層，第 24～26 層は締まりのある埋土である。その他は，中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	18	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量	19	暗褐色	ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3	黒褐色	焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量	20	褐色	ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	21	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土大ブロック微量
5	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量	22	暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	23	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	24	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化材微量	25	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物微量	26	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化材・炭化粒子微量
10	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量	27	褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
11	暗褐色	ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	28	暗褐色	ローム小ブロック少量
12	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化物微量	29	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
13	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量	30	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
14	暗褐色	焼土粒子微量	31	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
15	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	32	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
16	暗褐色	焼土小ブロック・炭化物中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量	33	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
17	暗褐色	焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	34	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
			35	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器片 63 点，須恵器片 78 点，灰釉陶器片 1 点が出土している。第 383 図 1 は灰釉陶器碗の口縁部片で，P 6 の覆土中から出土している。

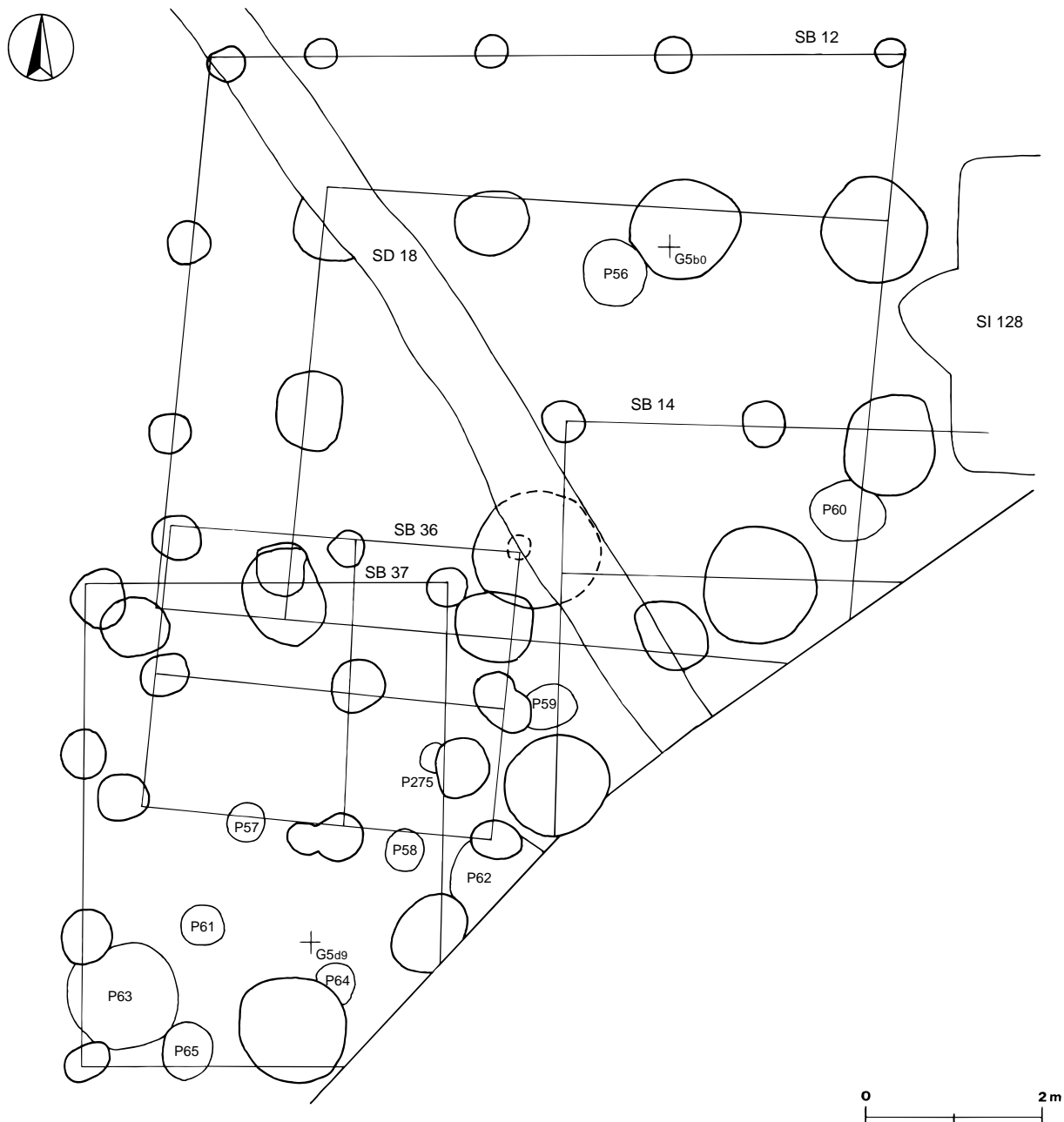
所見 時期は，出土した遺物の下限の時期から 9 世紀後半以降と考えられる。



第383図 第7号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第383図 1	椀 灰釉陶器	A [14.8] B (4.1)	口縁部から体部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はや外反する。	口縁部内・外面口クロナデ。外面下半回転ヘラ削り。口縁部及び体部内面施釉。	長石 灰黄色 良好	P2507 5% 黒笹14号窯様式期



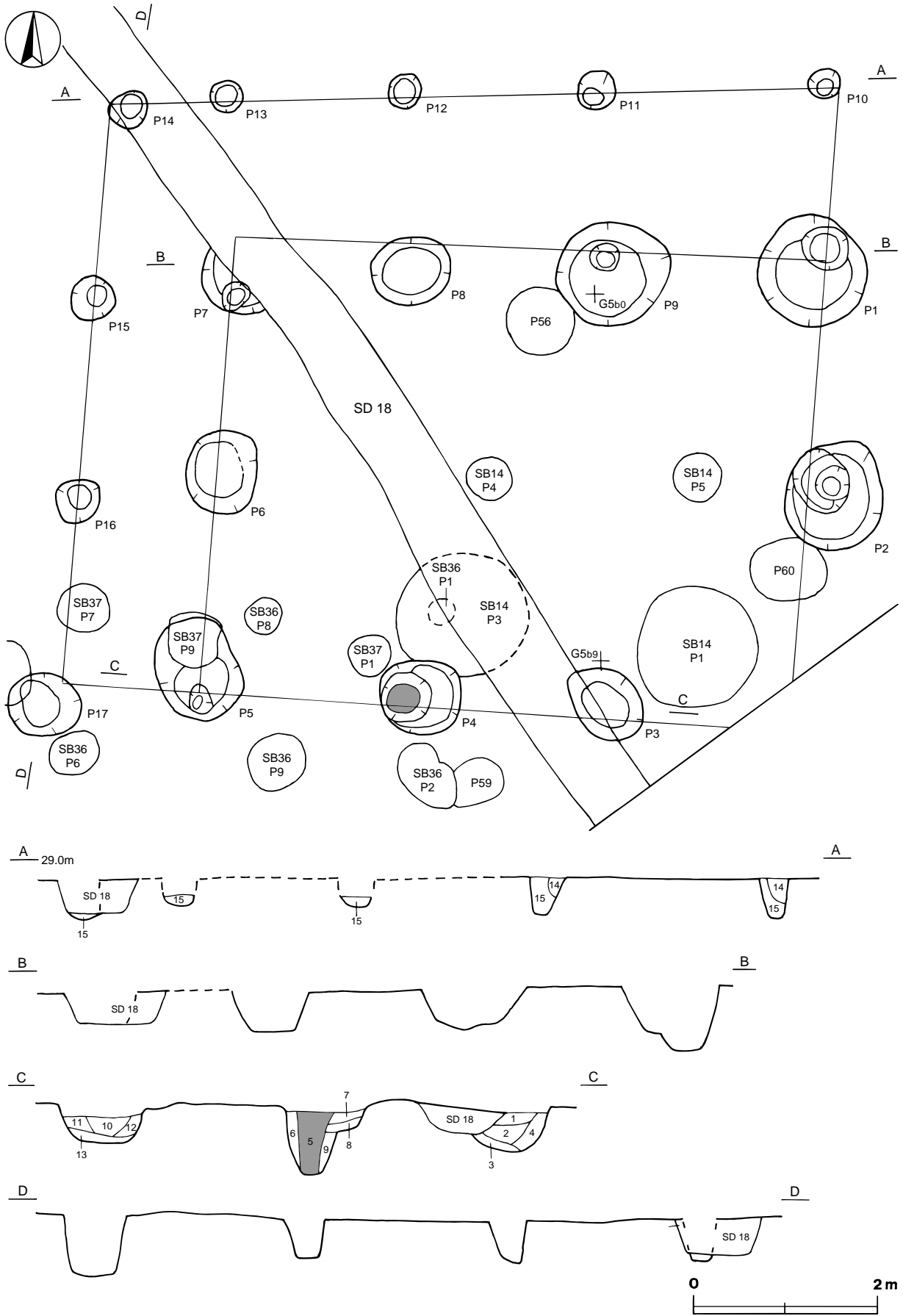
第384図 第12・14・36・37号掘立柱建物跡実測図

第12号掘立柱建物跡（第384～386図）

位置 調査5区の北西部，G5b9区。

重複関係 第129号住居跡を掘り込んでおり，第18号溝に掘り込まれている。第56・60号ピット及び第14・36・37号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 南東部隅の柱穴が調査区域外になるが，桁行3間，梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。北側及び西側に底を持っている。身舎の柱穴はP1～9，庇の柱穴はP10～17である。桁行は北側柱列で6.35m，梁行は東側柱列で5.00mである。庇の出は，北側，東側ともに1.50mである。柱間寸法は，桁行が1.90～2.35m，梁行が2.40m及び2.50mである。身舎の柱穴は，平面形が長径85～125cm，短径73～112cmの楕円形及び円形，深さが35～75cmである。庇の柱穴は，平面形が長径34～78cm，短径32～75cmの楕円形及び円形，深さが12～70cmである。



第385图 第12号掘立柱建物跡実測図

桁行方向 N-86° - W

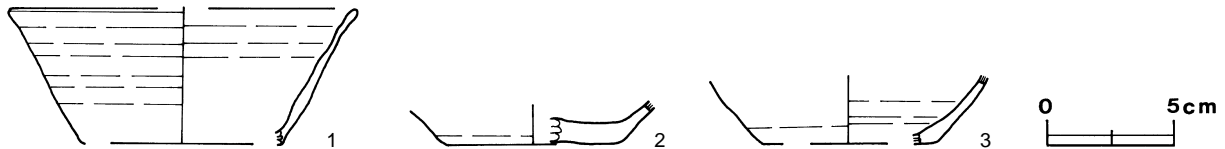
覆土 第5層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロックを含む締まりのない暗褐色土である。第6～9層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	9	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	10	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量	11	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	12	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
5	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量	13	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
6	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
7	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量	15	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
8	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量			

遺物 土師器片8点、須恵器片30点が出土している。第386図1は須恵器杯の口縁部から体部片でP6から、2は須恵器杯の体部から底部片でP9から、3は須恵器杯の体部から底部片でP1から、いずれも覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉以降と考えられる。



第386図 第12号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第386図 1	杯 須恵器	A [14.0] B 5.3 C [8.0]	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	長石・石英・針状鉱物、灰オリーブ色、普通	P2513 20%
2	杯 須恵器	B (1.6) C [6.5]	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転へら切り後、ナデ。	長石・石英・針状鉱物、にぶい橙色、普通	P2514 10%
3	杯 須恵器	B (2.7) C [6.8]	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。	長石・石英・針状鉱物・白色粒子、灰オリーブ色、普通	P2515 10%

第14号掘立柱建物跡 (第384・387図)

位置 調査5区の北西部、G5c0区。

重複関係 第18号溝に掘り込まれている。第128号住居跡及び第12・36号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 北及び西側柱列ともに1間以上を確認したが、南東部が調査区域外になるため、正確な規模は不明である。北側に庇を持っている。身舎の柱穴はP1～3、庇の柱穴はP4及びP5である。柱間寸法は北側柱列で2.20m、西側柱列で2.40mである。庇の出は1.70mである。身舎の柱穴は、平面形が長径123～137cm、短径112～130cmの楕円形及び円形、深さが36～42cmである。庇の柱穴は、平面形が径51cm及び径50cmの円形、深さが55cm及び52cmである。

桁行方向 N-89°-W

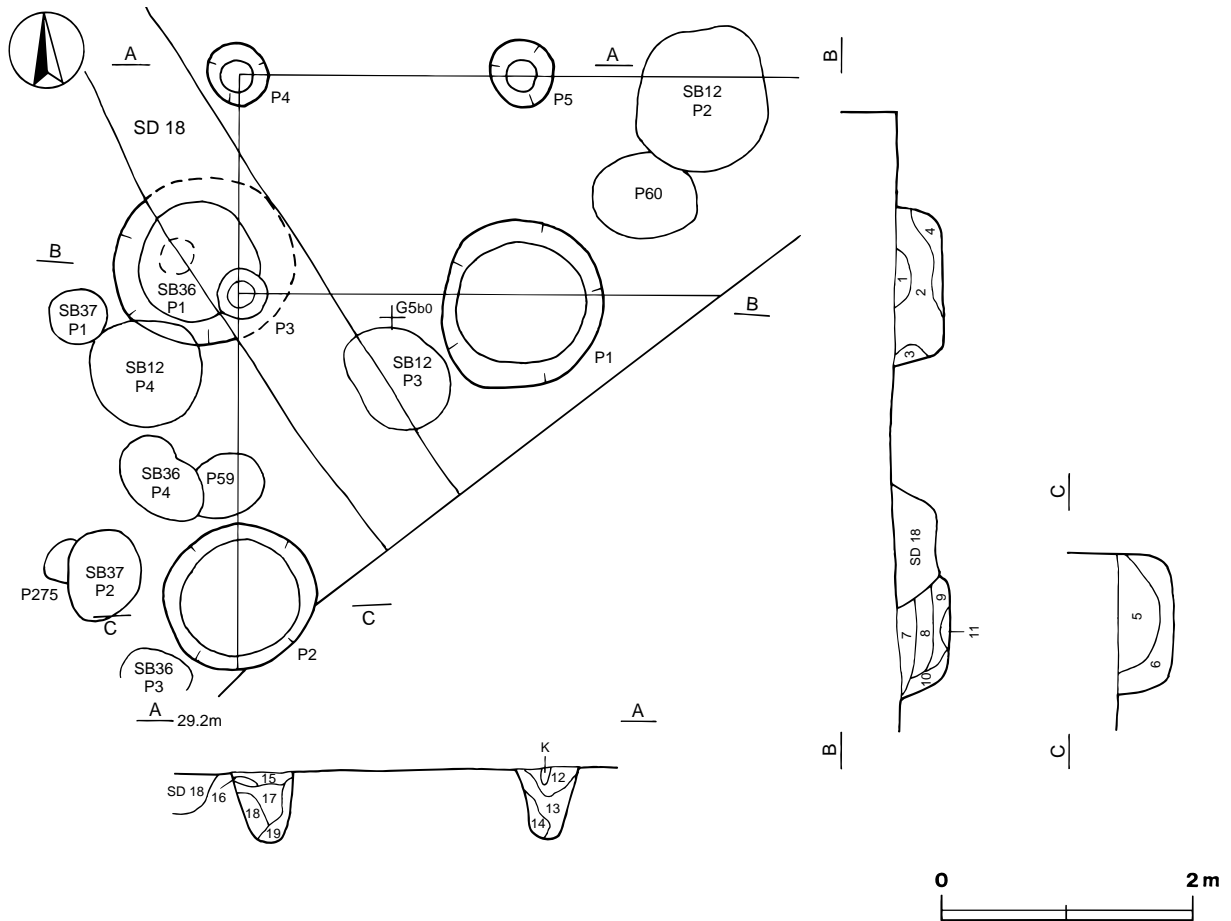
覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を含む中程度に締まった褐色・暗褐色・黒褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量	12	暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム小ブロック微量	13	暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
3	黒褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量	14	暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム大ブロック微量
4	黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック微量	15	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
5	黒褐色	ローム小ブロック少量	16	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
6	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	17	暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	18	暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
8	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子微量	19	暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子微量			
10	暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック微量			
11	褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量			

遺物 土師器片 9 点, 須恵器片 10 点が出土している。いずれも細片のため図示できなかった。

所見 細片のため図示できなかったが, P 2 から内面黒色処理の土師器が出土していることから, 9 世紀中葉以降と考えられる。



第387図 第14号掘立柱建物跡実測図

第36号掘立柱建物跡 (第388図)

位置 調査5区の北西部, G5c9区。

重複関係 第59号ピットを掘り込み, 第18号溝に掘り込まれている。第57・58・62号ピット及び第12・14・37号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行2間，梁行2間で東西棟の総柱建物跡である。桁行は3.95m，梁行は3.30mである。柱間寸法は，桁行が1.70～2.25m，梁行が1.50～1.80mである。柱穴は，平面形が長径40～66cm，短径35～60cmの楕円形及び円形，深さが20～69cmである。

桁行方向 N-85°-W

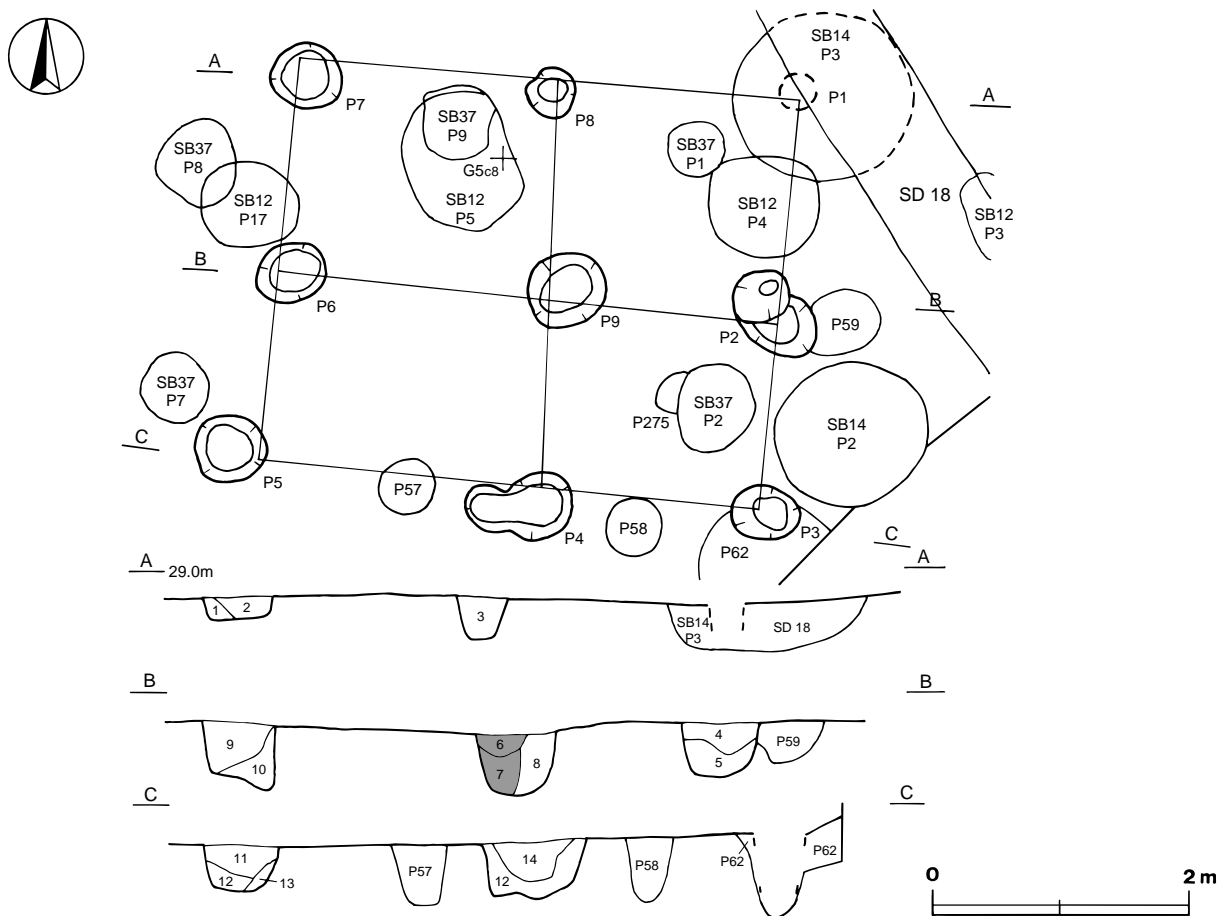
覆土 第6・7層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含む締まりのない黒褐色・極暗褐色土である。第8層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------------|---------|----------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック微量 |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 14 極暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物 土師器2点，須恵器2点が出土している。いずれも細片であり，図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり，正確な時期は不明であるが，桁行方向や覆土・規模などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と考えられる。



第388図 第36号掘立柱建物跡実測図

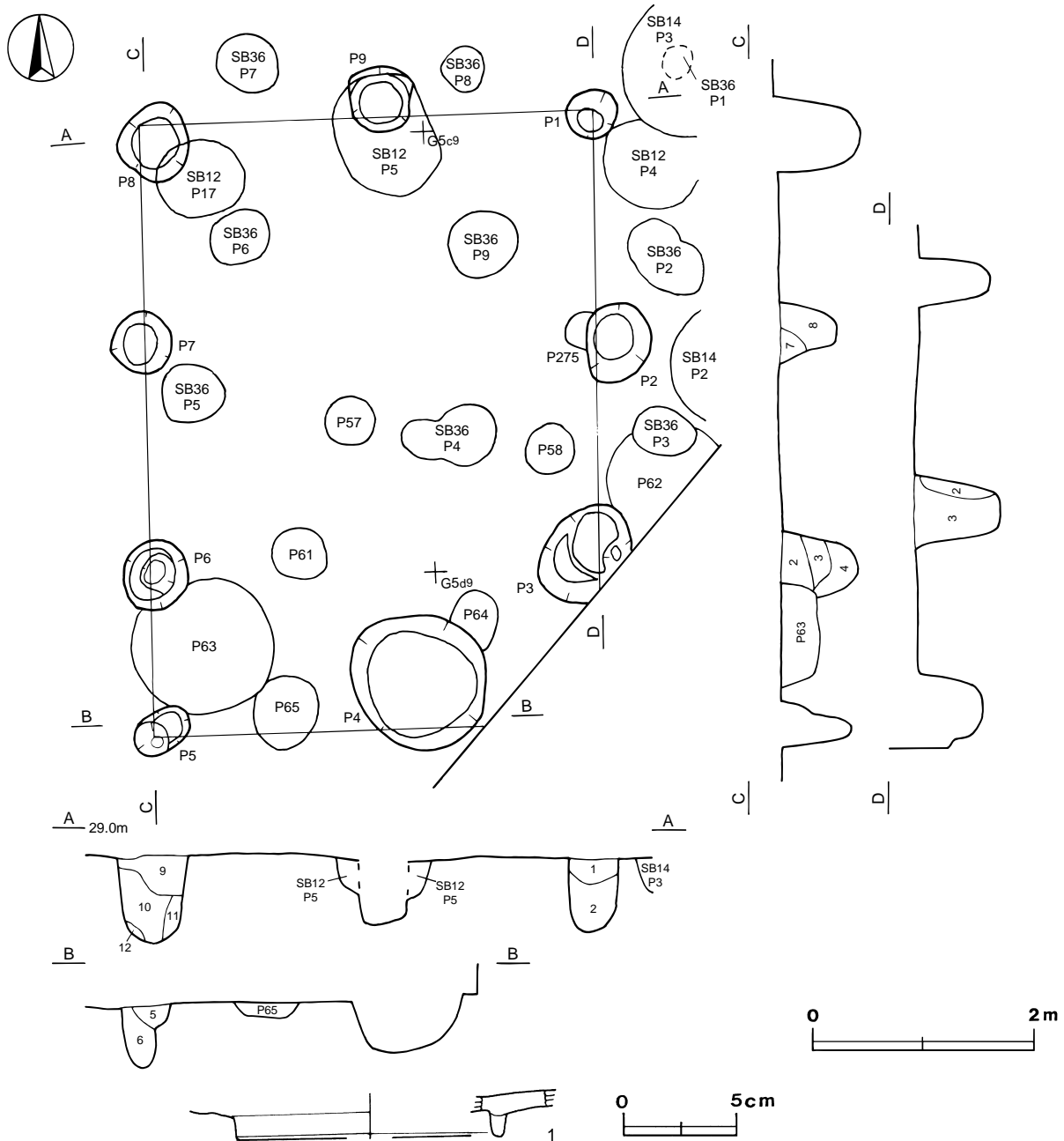
第37号掘立柱建物跡（第389図）

位置 調査5区の北西部，G5c9区。

重複関係 第63号ピットを掘り込んでいる。第57・58・61・62・64・65・275号ピット及び第12・14・36号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 南東部が調査区域外になるが，桁行3間，梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行は西側柱列で5.55m，梁行は北側柱列で4.10mである。柱間寸法は，桁行が1.50～2.10m，梁行が1.85～2.20mである。柱穴は，平面形が長径45～95cm，短径45～60cmの楕円形及び円形，深さが50～78cmである。

桁行方向 N - 1° - E



第389図 第37号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は，ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を含む中程度に締まった褐色・暗褐色・極暗褐色・黒褐色土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	8 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子少量	12 褐色	ローム大ブロック少量
6 黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量		
7 黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量		

遺物 土師器片 4 点, 須恵器片 5 点が出土している。第389図 1 は須恵器盤の底部片であり, P 3 の覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土した図示し得る遺物の下限の時期から, 奈良時代から 8 世紀末葉～9 世紀初頭以降と考えられる。

第 37 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 1	盤 須恵器	B (2.0) D [11.8] E 1.1	底部片。高台は短く垂下する。	体部及び底部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け。	長石 灰黄褐色 普通	P2533 5%

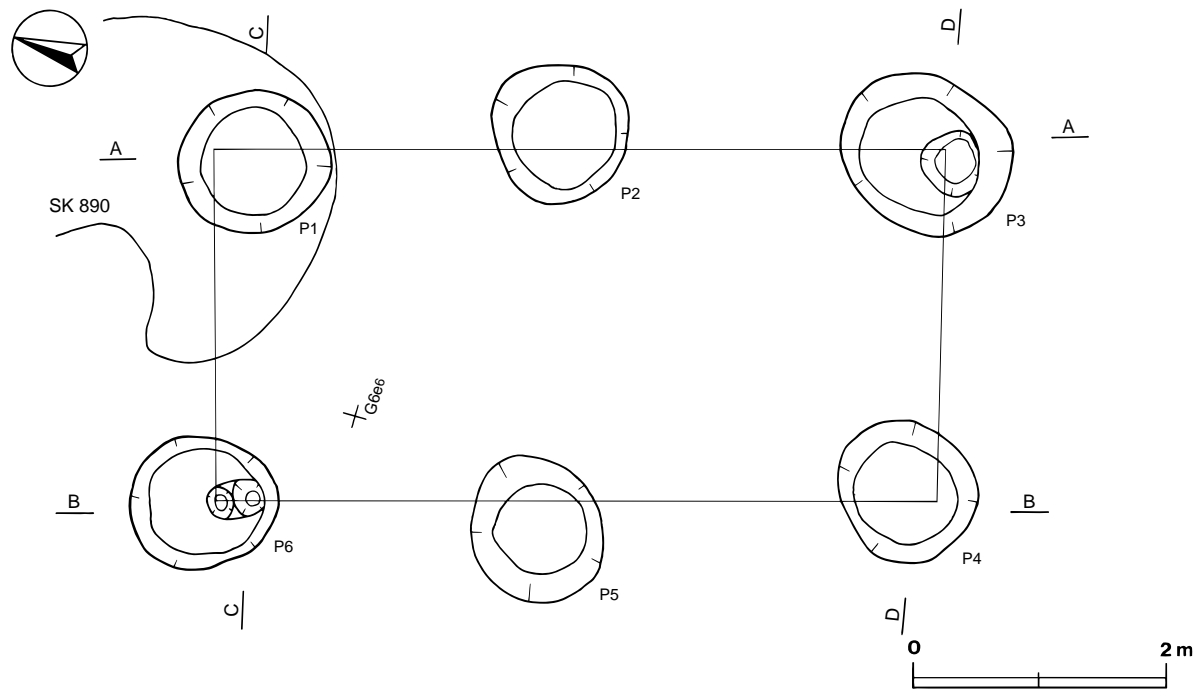
第13号掘立柱建物跡 (第390・391図)

位置 調査 5 区の中央部, G6e6区。

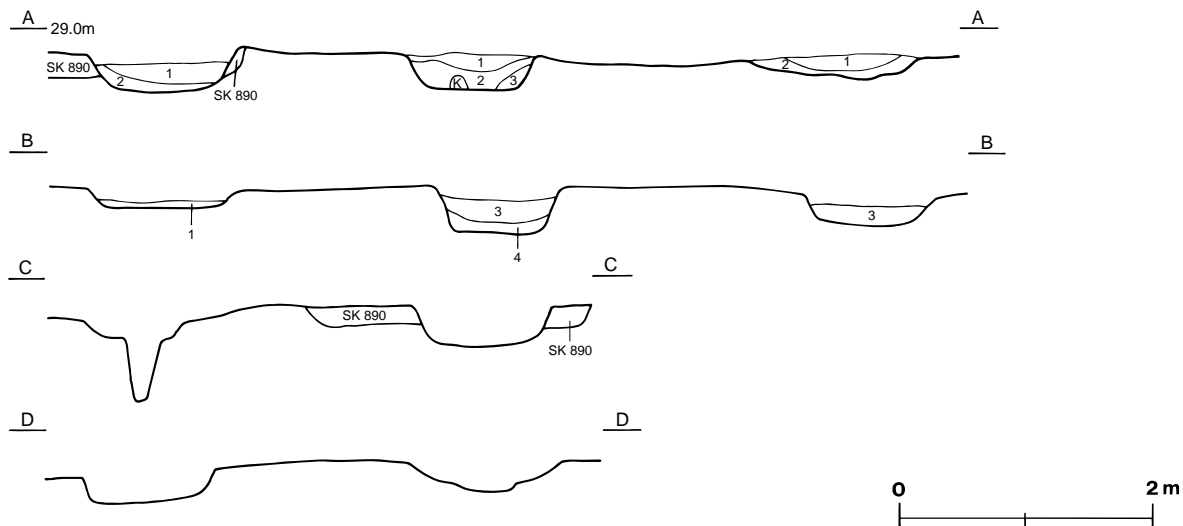
重複関係 第890号土坑を掘り込んでいる。

規模 桁行 2 間, 梁行 1 間で, 南北棟の側柱建物跡である。桁行は5.80m, 梁行は2.80mである。柱間寸法は, 桁行が2.70~3.10m, 梁行が2.80mである。柱穴は, 平面形が長径115~140cm, 短径100~120cmの楕円形及び円形, 深さが16~74cmである。

桁行方向 N-16° - W



第 390 図 第 13 号掘立柱建物跡実測図 (1)



第391図 第13号掘立柱建物跡実測図(2)

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック及びローム粒子を含む中程度に締まった暗褐色・黒褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |

遺物 縄文土器片1点, 弥生土器片12点, 土師器片67点, 須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり, 正確な時期は不明であるが, 桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じく8~9世紀以降と考えられる。

第15号掘立柱建物跡 (第392図)

位置 調査5区の北西部, G6c3区。

重複関係 第71・72号ピット及び第16号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模 北東部が調査区域外になるため, 正確な規模は不明である。東側及び西側に庇を持っている。身舎の柱穴はP1~3, 庇の柱穴はP4~9である。庇の出は, 東側で1.60m, 南側で1.90mである。柱間寸法は東側柱列で1.75m, 南側柱列で2.50mである。身舎の柱穴は, 平面形が径70~80cmの円形, 深さが20~52cmである。庇の柱穴は, 平面形が長径34~44cm, 短径32~36cmの楕円形及び円形, 深さが34~48cmである。

桁行方向 N-85° - W

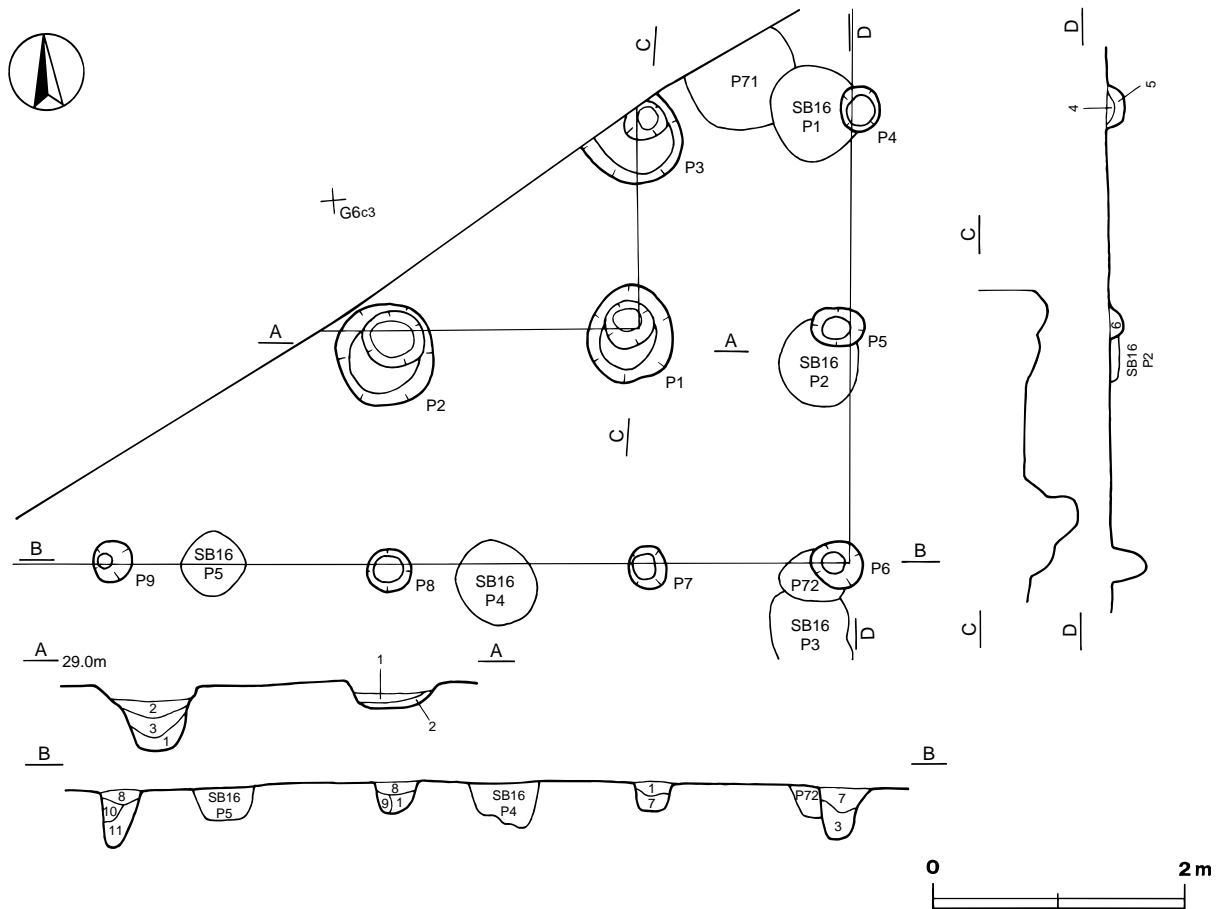
覆土 身舎・庇ともに柱痕跡及び埋土は確認されなかった。身舎の柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子を含む暗褐色土であり, レンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。P6の第3層は締まりのない覆土, 第7・9層は締まりのある覆土である。その他は中程度に締まった覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量 |
| 6 褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック微量 | | |

遺物 土師器片 3 点，須恵器片 4 点が出土している。いずれも細片であり図示できなかったが，P 1 から内面黒色処理された土師器片が出土している。

所見 出土した下限の時期の遺物は，内面黒色処理の土師器片である。時期は，9 世紀中葉以降と考えられる。



第392図 第15号掘立柱建物跡実測図

第16号掘立柱建物跡（第393図）

位置 調査5区の北西部，G6c3区。

重複関係 第71号ピットを掘り込み，第72号ピット及び第15号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 本跡の北東部が調査区域外になるため正確な規模は不明であるが，東側及び南側柱列ともに2間以上で，東西棟の側柱建物跡と考えられる。柱間寸法は2.00～2.35mである。柱穴掘り方は，平面形が長径50～92cm，短径48～65cmの楕円形及び円形，深さが20～38cmである。

桁行方向 N - 80° - W

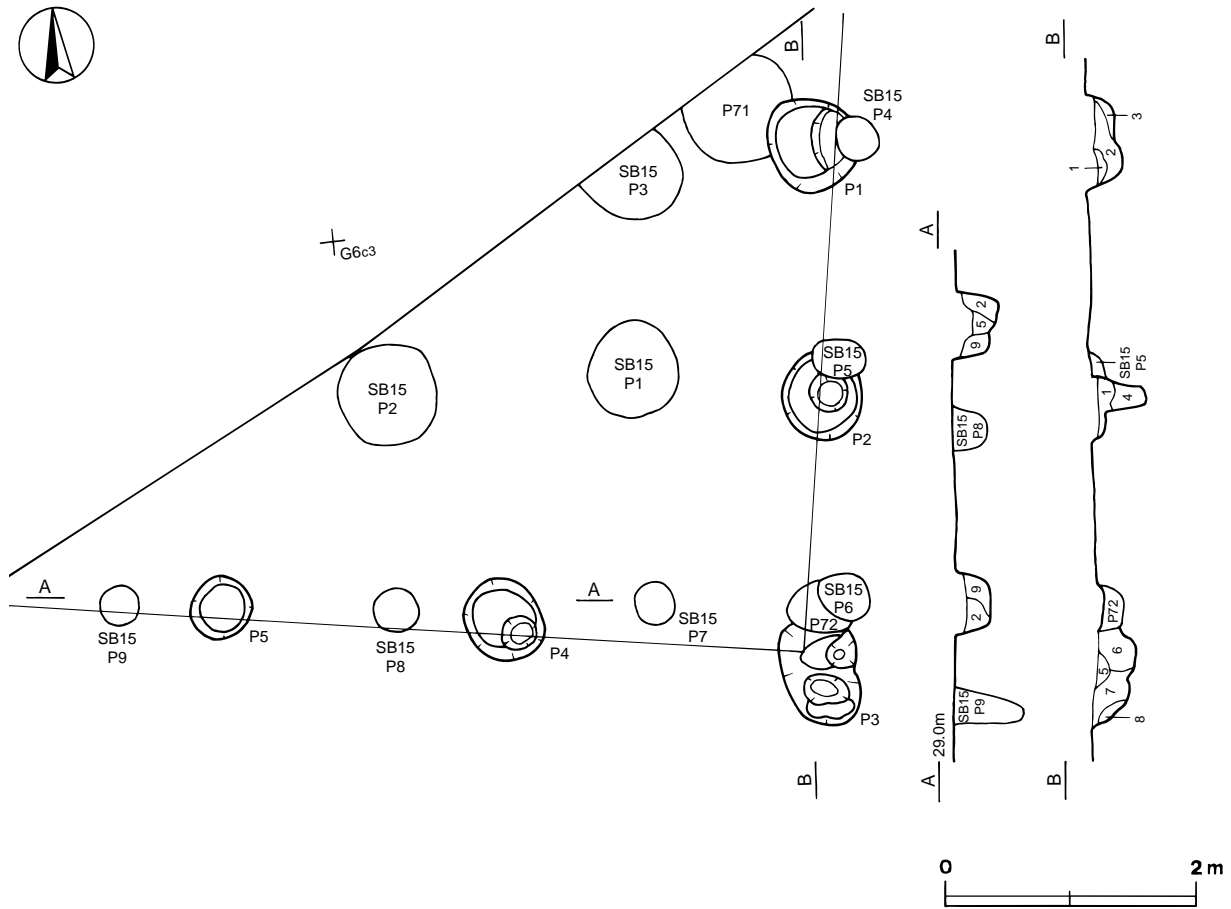
覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は，ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子を含む中程度に締まった暗褐色・黒褐色土であり，柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がなく、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と類推される。



第393図 第16号掘立柱建物跡実測図

第17号掘立柱建物跡 (第394図)

位置 調査5区の北西部, G5b7区。

重複関係 第906号土坑・第8～10号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

規模 北西部が調査区域外になるため、正確な規模は不明であるが、東側及び南側柱列ともに2間以上で、東西棟の側柱建物跡と考えられる。柱間寸法は東側柱列で北から1.85m, 2.15m, 南側柱列で東から2.25m, 2.30mである。柱穴は、平面形が長径94～112cm, 短径82～95cmの楕円形及び円形, 深さが48～66cmである。

桁行方向 N - 5° - W

覆土 第5層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含み締まりのない暗褐色土である。第6～10層は締まりのある埋土である。第1～4・11～13層は締まりのある覆土, 第14～16層は中程度に締まった覆土である。

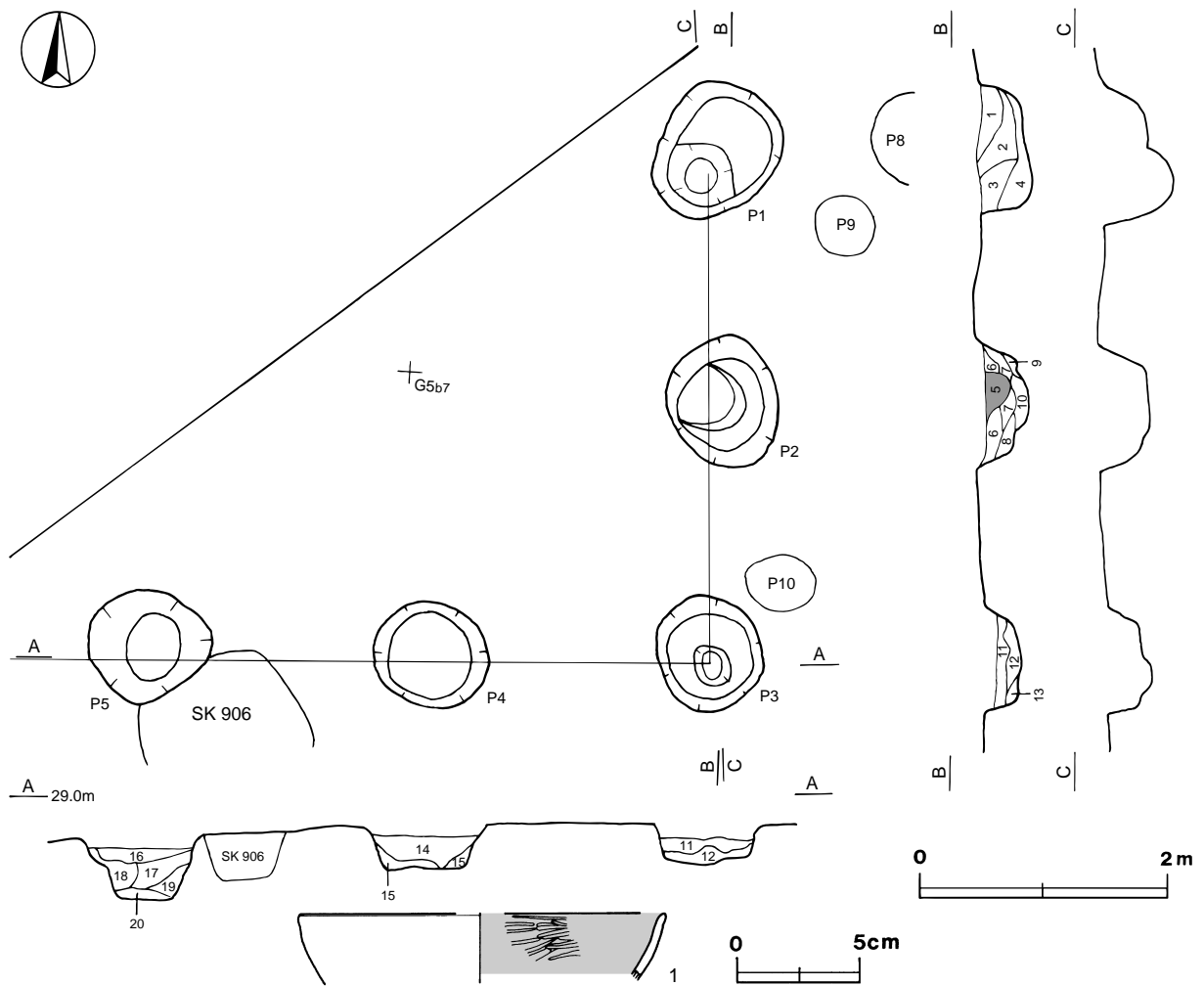
土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量 |

- | | | | |
|--------|---------------------------------------|--------|---------------------------------------|
| 9 褐色 | ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 15 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 10 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 16 黒褐色 | ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量 |
| 11 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 12 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量 | 18 褐色 | ローム大ブロック多量, ローム中ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 13 褐色 | ローム大ブロック多量, ローム粒子少量 | 19 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子微量 |
| 14 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量 | 20 黒褐色 | ローム大ブロック多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量 |

遺物 土師器片 4 点, 須恵器片 3 点が出土している。第394図1の土師器坏は, P4 覆土中から出土している。

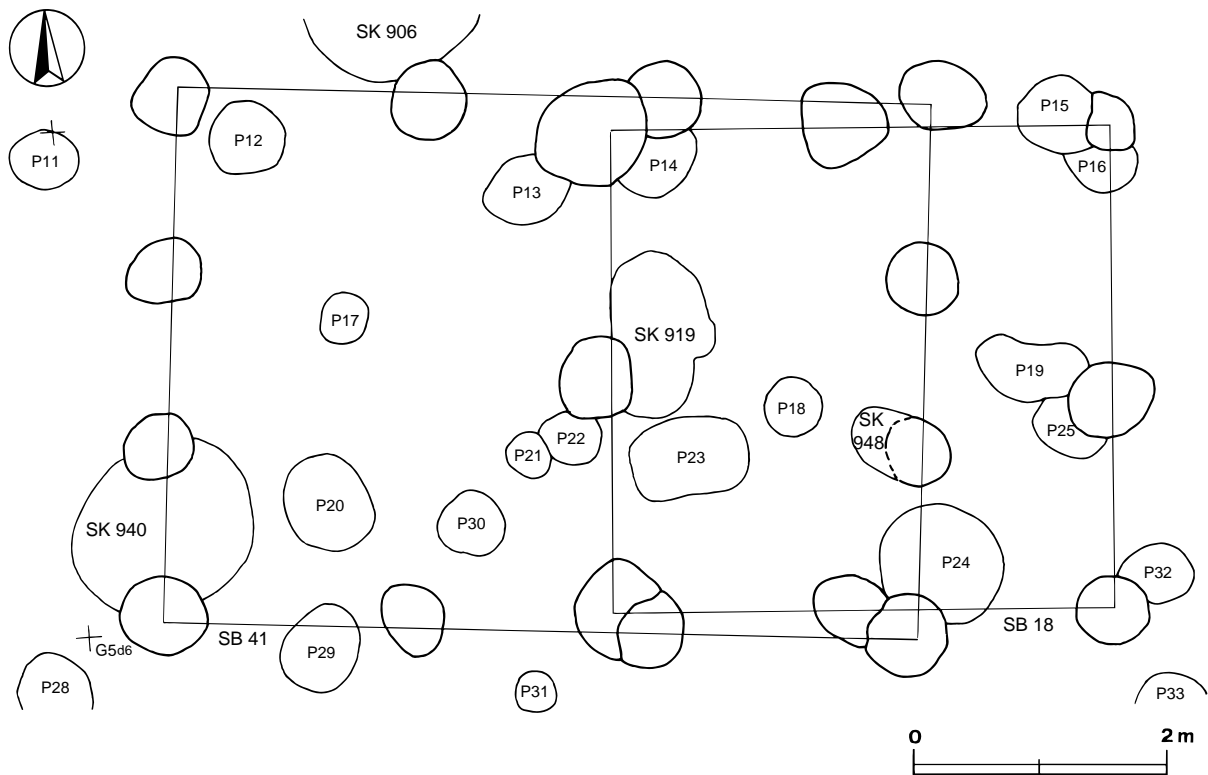
所見 本跡の時期は, 出土した遺物の下限の時期から9世紀後葉以降と考えられる。



第394図 第17号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第17号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第394図 1	坏 土師器	A [15.0] B (2.7)	口縁部片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面へラ磨き, 外面口口ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物 橙色, 普通	P2516 5%



第395図 第18・41号掘立柱建物跡実測図

第18号掘立柱建物跡（第395・396図）

位置 調査5区の北西部，G5c7区。

重複関係 第919号土坑，第15号ピット及び第41号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第948号土坑及び第13・14・16・18・19・21・22・23・24・25・30～32号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡である。桁行は3.95m，梁行は3.90mである。柱間寸法は，桁行が，南及び北側柱列ともに東から1.90m・2.05m，梁行が東側柱列で北から2.30m・1.60m，西側柱列で北から2.00m・1.90mである。柱穴は，平面形が長径50～95cm，短径40～80cmの楕円形及び円形，深さが50～60cmである。

桁行方向 N-86°-W

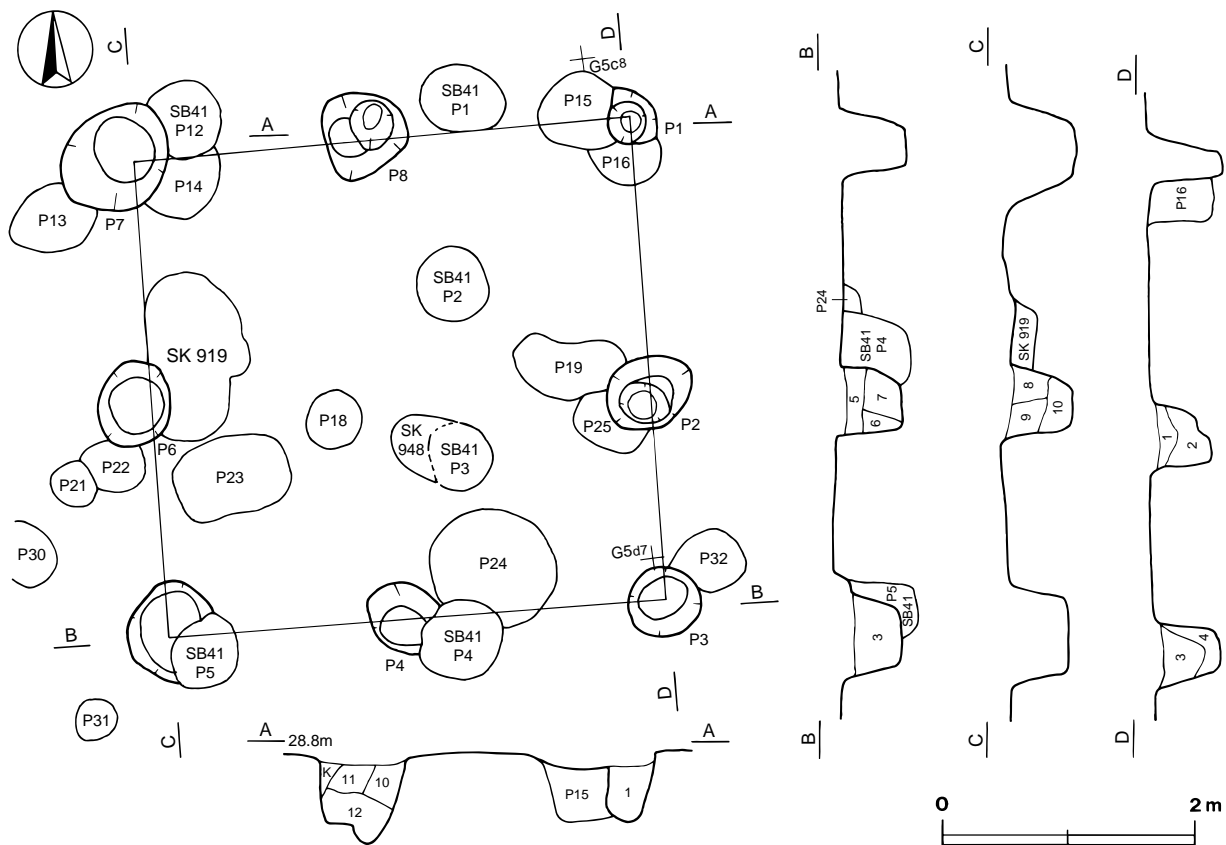
覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土はロームブロック及びローム粒子・炭化粒子を含み中程度に締まった暗褐色・黒褐色・極暗褐色土であり，柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------------|--------|-------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック微量 | | |

遺物 須恵器片2点が出土しているが，いずれも細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり，正確な時期は不明である。しかし，桁行方向及び規模が第36・39・40号掘立柱建物跡とほぼ同じであり，それとの重複関係や配列状況などから，9世紀後葉以降と推定される。



第396図 第18号掘立柱建物跡実測図

第41号掘立柱建物跡（第395・397・398図）

位置 調査5区の北西部，G5c6区。

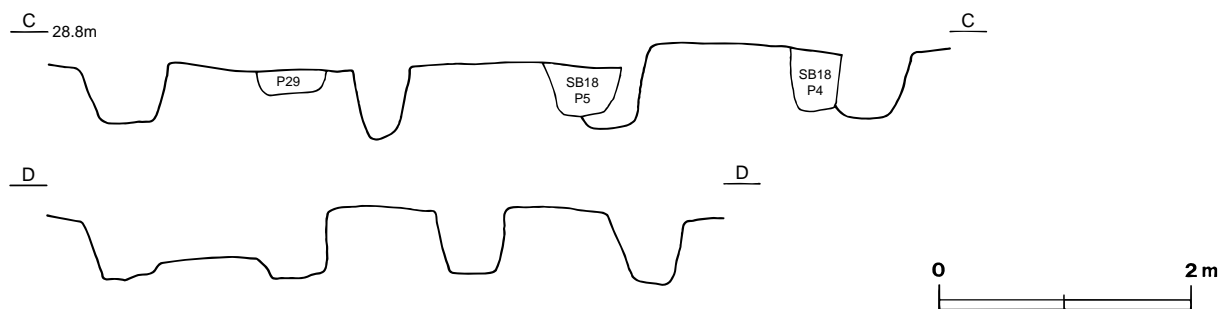
重複関係 第18号掘立柱建物に掘り込まれている。第906・919・940・948号土坑及び第11～15・17～25・29～31号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行3間の側柱建物跡である。桁行は5.95m，梁行は4.30mである。柱間寸法は，桁行が1.90～2.50m，梁行が1.40～1.50mである。柱穴は，平面形が長径54～84cm，短径45～65cmの楕円形及び円形，深さが55～110cmである。

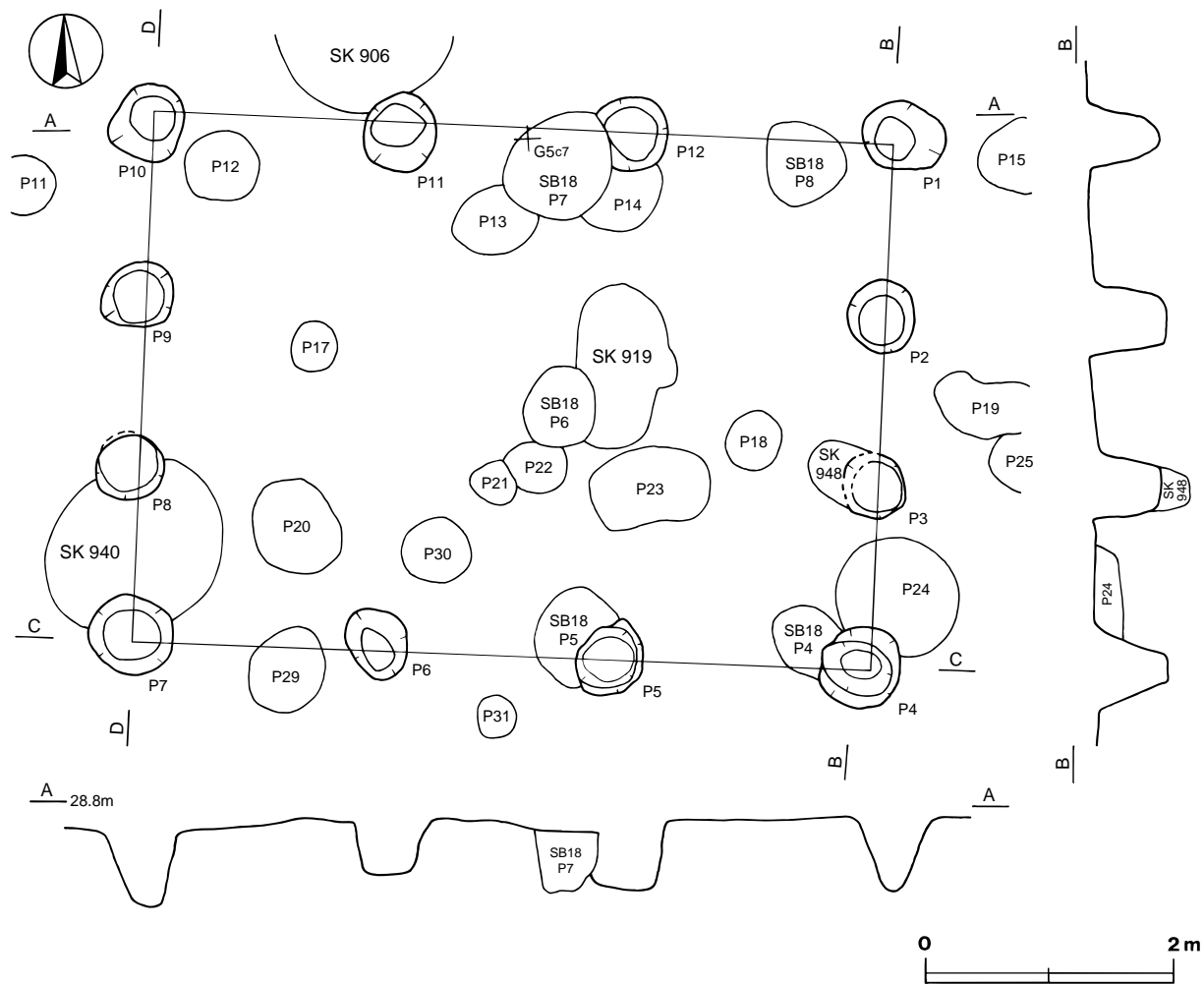
桁行方向 N-84° -W

遺物 縄文土器片6点，土師器片1点，須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

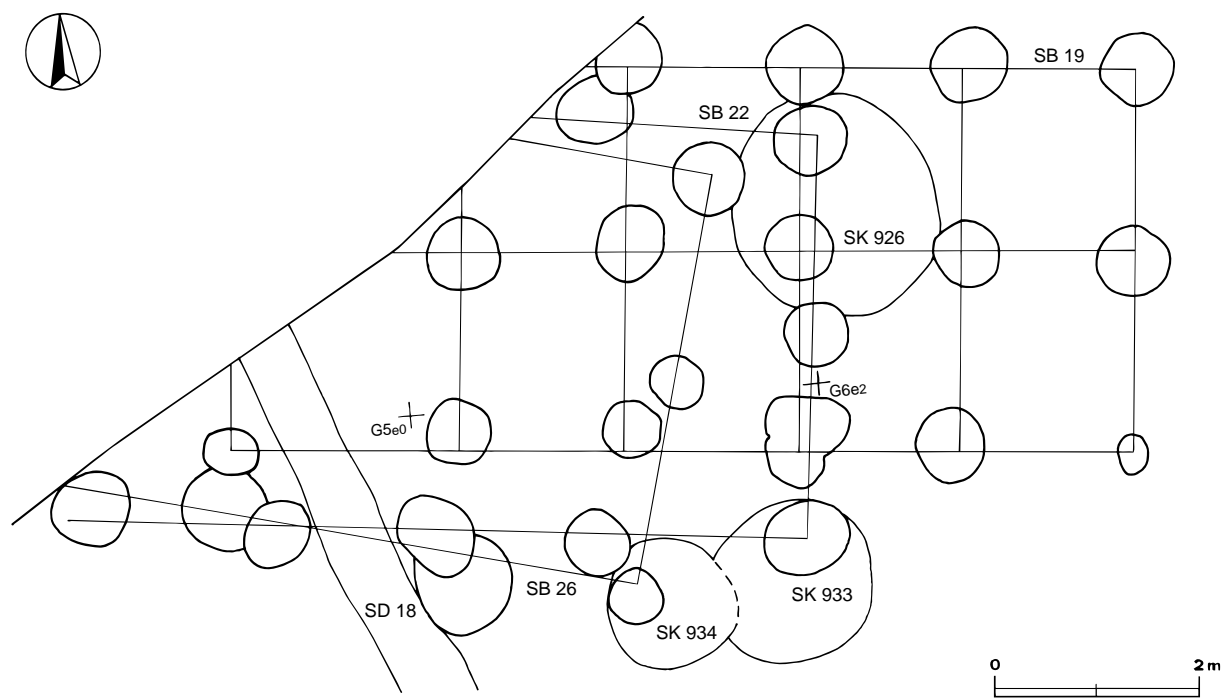
所見 出土遺物が細片であり，正確な時期は不明であるが，桁行方向などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と推定される。



第397図 第41号掘立柱建物跡実測図（1）



第398图 第41号掘立柱建物跡実測図(2)



第399图 第26・22・19号掘立柱建物跡実測図

第26号掘立柱建物跡（第399・400図）

位置 調査5区の北西部，G6d1区。

重複関係 第22号掘立柱建物に掘り込まれている。第926・934号土坑及び第19号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 西部が調査区域外になるため正確な規模は不明であるが，南側柱列が2間以上，東側柱列が2間の側柱建物跡である。柱間寸法は南側柱列で東から1.70m・2.40m，東側柱列で北から2.10m・2.05mである。柱穴は，平面形が長径70～105cm，短径70～95cmの楕円形及び円形，深さが20～43cmである。

桁行方向 N-75° -W

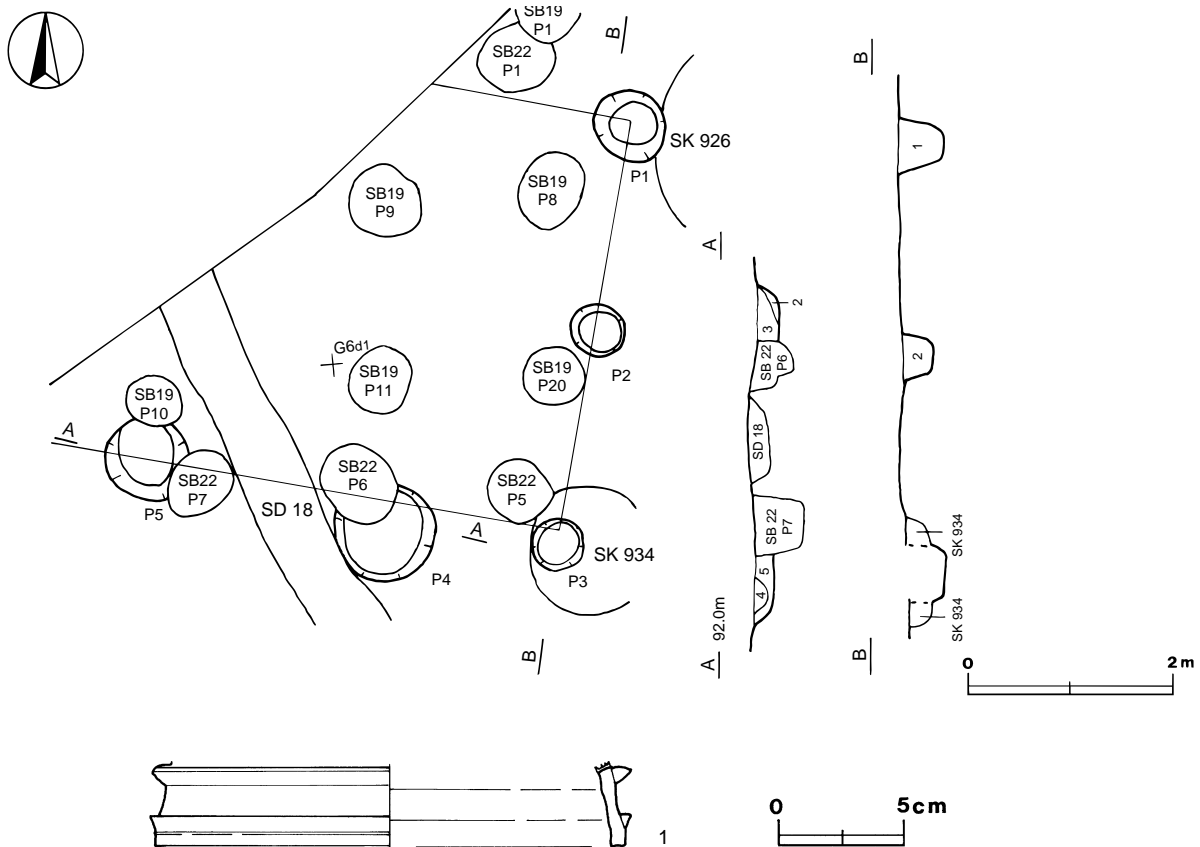
覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子を含み中程度に締まった暗褐色土であり，柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|----------------------------------|---|-----|-----------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 5 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | | | |

遺物 土師器片1点，須恵器片6点が出土している。第400図1の須恵器円面硯脚部片は，P2の覆土中から出土している。

所見 時期は，下限の時期の遺物から，8世紀以降と考えられる。



第400図 第26号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第26号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 1	円面硯 須恵器	B (3.3) D [18.4]	脚台部片。脚台の下位に隆帯が巡る。	脚部内面ナデ。	白色粒子・針状鉱物 黄灰色，普通	P 2525 5%

第22号掘立柱建物跡（第399・401図）

位置 調査5区の北西部，G6d1区。

重複関係 第926・933号土坑及び第26号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第934号土坑及び第19号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 西部が調査区域外になるため正確な規模は不明であるが，南側柱列が4間以上，東側柱列が2間の側柱建物跡である。柱間寸法は桁行が1.50～2.05m，梁行が北から2.00m・2.05mである。柱穴は，平面形が長径65～85cm，短径65～74cmの楕円形及び円形，深さが25～54cmである。

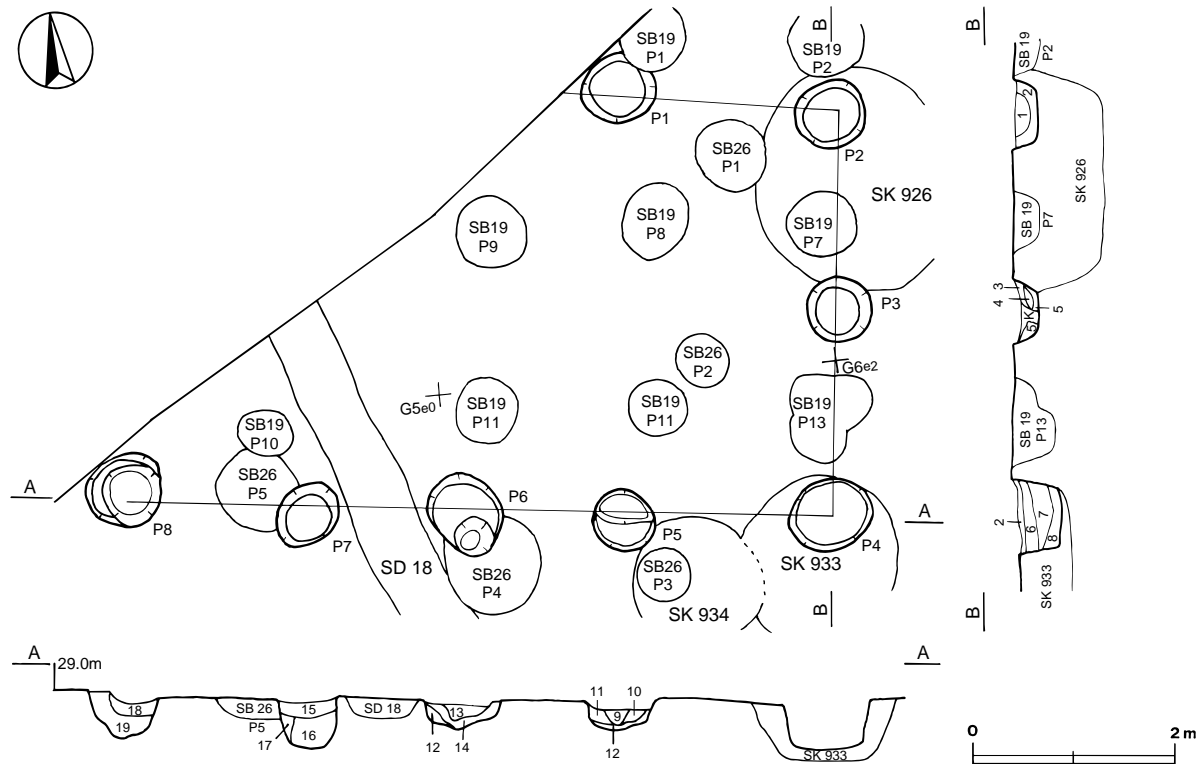
桁行方向 N-82°-W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。第1～5・9～19は中程度に締まった覆土，第6～8層は締まりのある覆土であり，いずれも柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子微量
2 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	12 暗褐色	ローム大ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
4 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	13 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	14 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
6 黒褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	15 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック・ローム大ブロック微量
7 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム粒子微量	16 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
8 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量	17 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子多量
9 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量	18 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
		19 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片2点，須恵器片3点が出土している。細片であり図示できなかった。



第401図 第22号掘立柱建物跡実測図

所見 出土遺物が細片であり，正確な時期は不明であるが，桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じ

く 8～9 世紀以降と推定される。

第19号掘立柱建物跡 (第399・402・403図)

位置 調査5区の北西部, G6d1区。

重複関係 第926号土坑を掘り込んでいる。第22・26号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

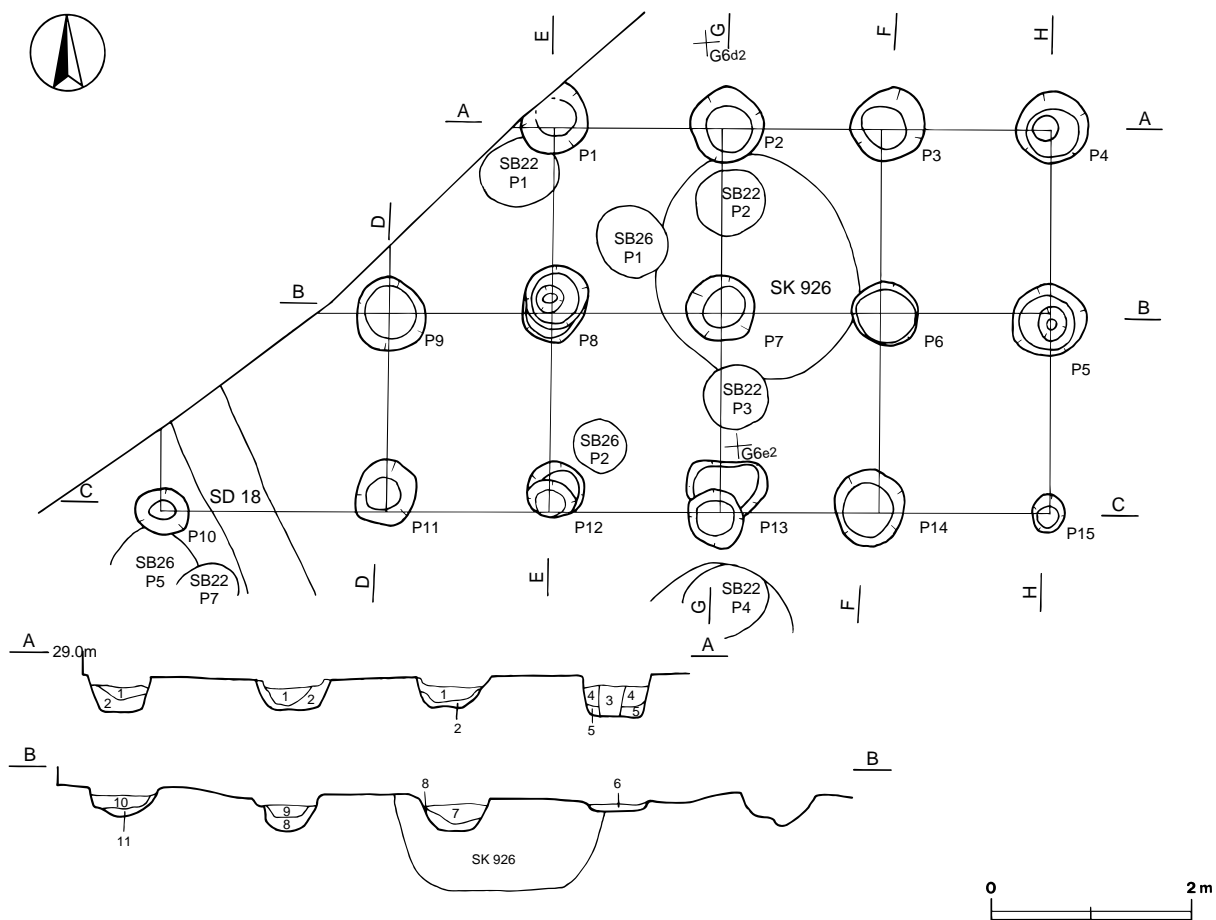
規模 西部が調査区域外になるが, 南側柱列が5間, 東側柱列が2間の総柱建物跡と考えられる。柱間寸法は, 桁行が1.55～2.25m, 梁行が北から1.80m・2.00mである。柱穴は, 平面形が長径45～73cm, 短径38～72cmの楕円形及び円形, 深さが10～48cmである。

桁行方向 N-85°-W

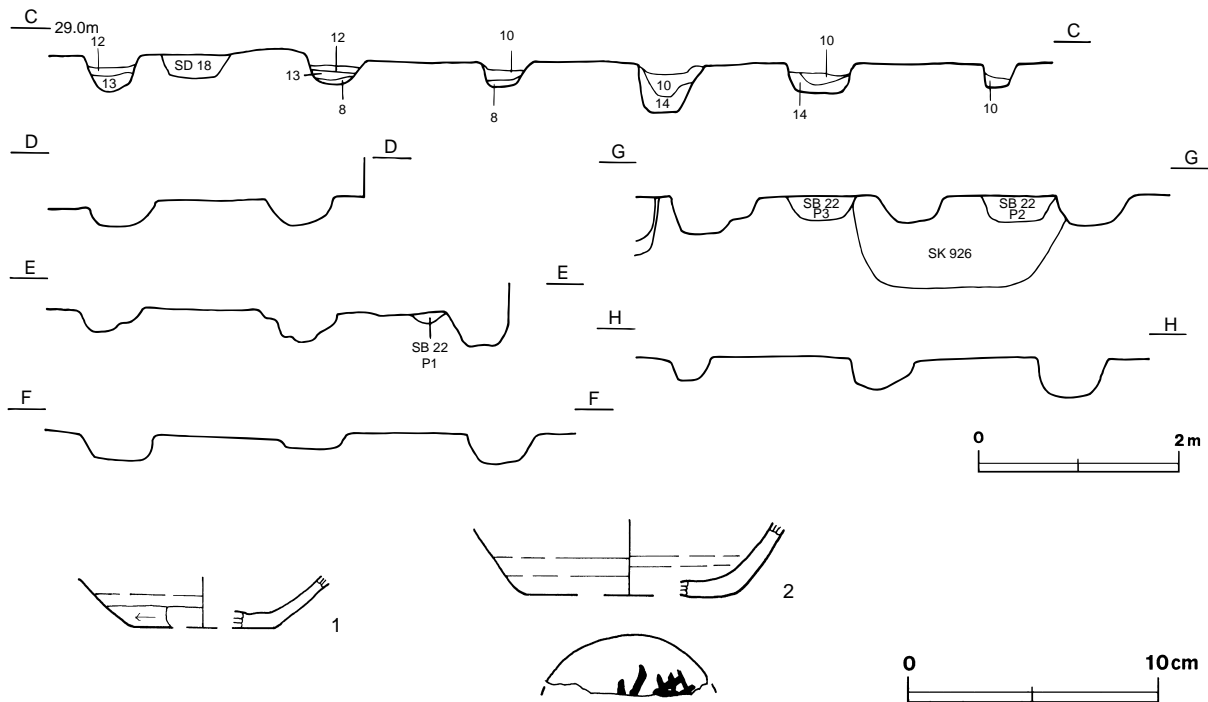
覆土 第3層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む締まりのない柱痕跡である。第4・5層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|---------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量 | 13 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 14 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |



第402図 第19号掘立柱建物跡実測図



第403図 第19号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物 土師器片6点，須恵器片11点が出土している。第403図1の須恵器坏の底部から体部片は，P3の覆土中から出土している。また，細片のため図示できなかったが，P5の覆土中から内面黒色処理された土師器高台付坏の底部片が出土している。2は須恵器坏の底部から体部片で墨書土器である。

所見 細片のため図示できなかったが，P5の覆土中から内面黒色処理された土師器片が出土している。第43図1は須恵器坏とともに下限の時期の遺物である。第403図2の須恵器坏は9世紀前葉と考えられる。本跡の時期は，出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉以降と考えられる。

第19号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	坏 須恵器	B (2.1) C [5.6]	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部調整不明。	長石・石英 灰褐色 普通	P2517 10%
2	坏 須恵器	B (3.0) C [8.2]	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部一方向の手持ちへう削り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P2518 10% PL70 体部外面墨書 「大在」

第20号掘立柱建物跡（第404・405図）

位置 調査5区の北西部，G6e3区。

重複関係 第123号住居跡を掘り込んでおり，第110号ピットに掘り込まれている。第101・103・104・105・106・107・109・111・113号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.45m，梁行は4.40mである。柱間寸法は桁行が1.70～2.00m，梁行が2.05～2.35mである。柱穴は，平面形が長径52～100cm，短径45～88cmの楕円形・隅丸方形及び円形，深さが21～57cmである。

桁行方向 N-84° - W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土は，ロームブロック及びローム粒子・焼土

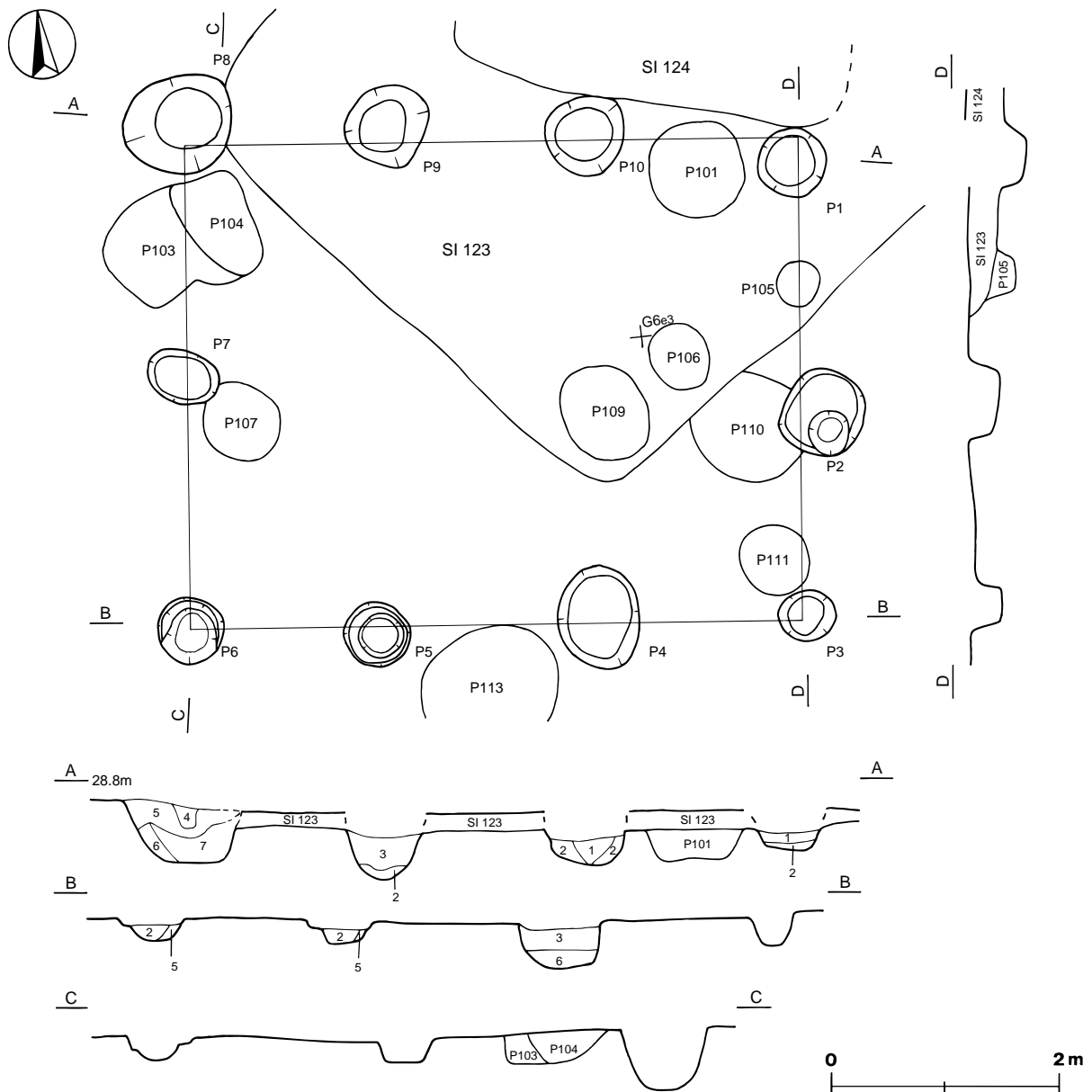
粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子を含む中程度に締まった黒色・黒褐色・極暗褐色・暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

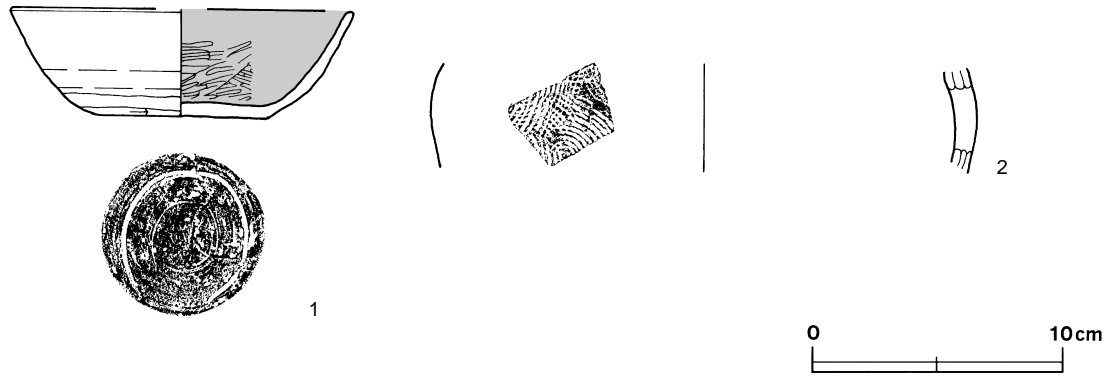
- | | | | |
|--------|--------------------------------|--------|------------------------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量・ローム小ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量・ローム小ブロック少量・ローム中ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子少量・ローム小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | | |

遺物 土師器片38点、須恵器片13点が出土している。第405図1の土師器坏は、P5からの覆土中から出土している。また、2の須恵器甕は、P8の覆土中から出土している。

所見 9世紀中葉に位置づけられる第123号住居跡を掘り込んでいる。また、出土している上限の遺物の時期は、第405図2の8世紀前葉の須恵器甕体部片、下限の遺物の時期は、第405図1の9世紀後葉の土師器坏であり、時期は出土している遺物の下限の時期から、9世紀後葉以降と考えられる。



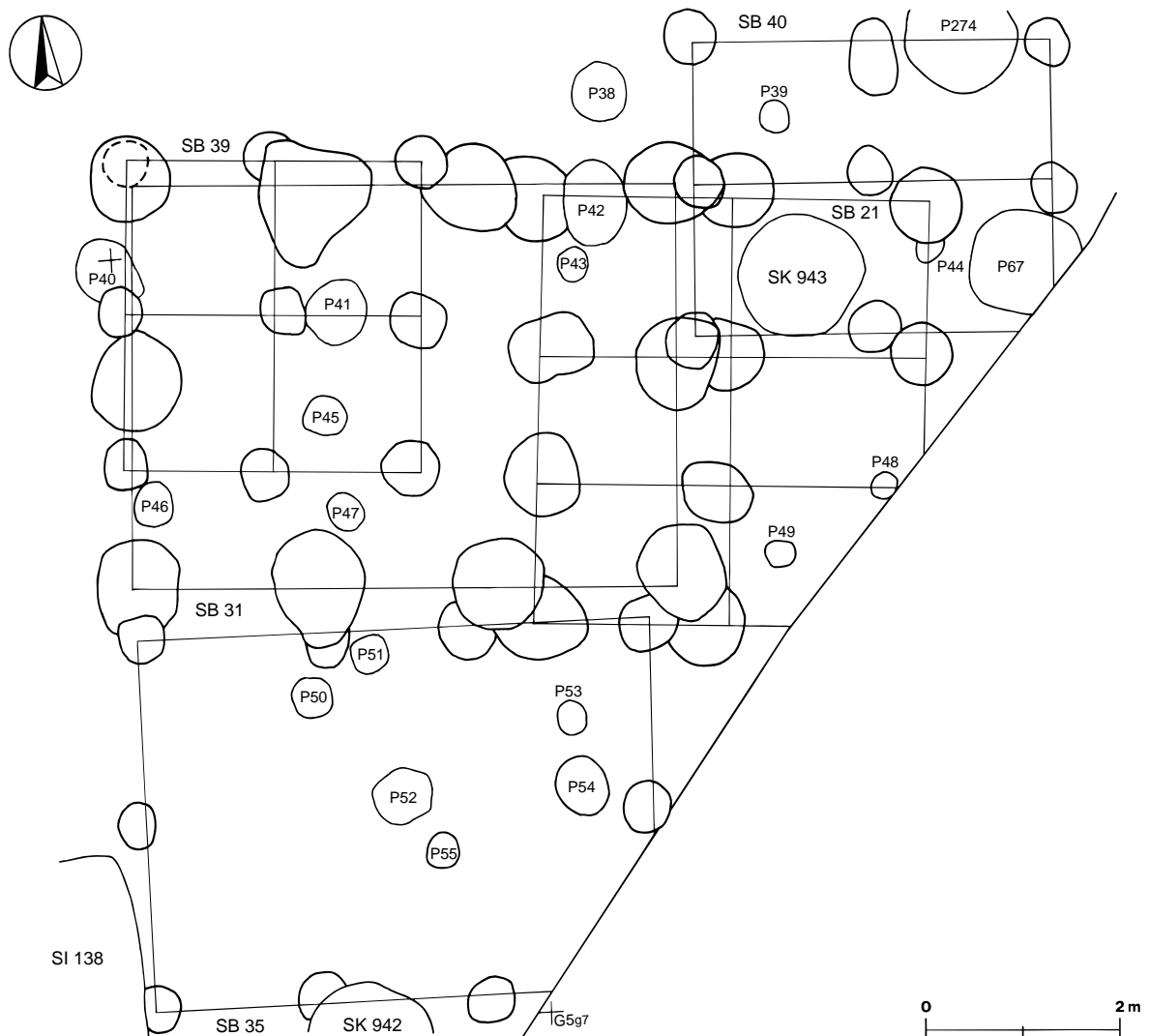
第404図 第20号掘立柱建物跡実測図



第405図 第20号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第20号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第405図 1	坏 土師器	A [13.5] B 4.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面口クロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色普通	P 2519 60%
2	甕 須恵器	C 6.4 B (4.1)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面同心円状の叩き。	長石・石英・雲母灰色普通	P 2520 5%



第406図 第21・31・35・39・40号掘立柱建物跡実測図

第21号掘立柱建物跡（第406・407図）

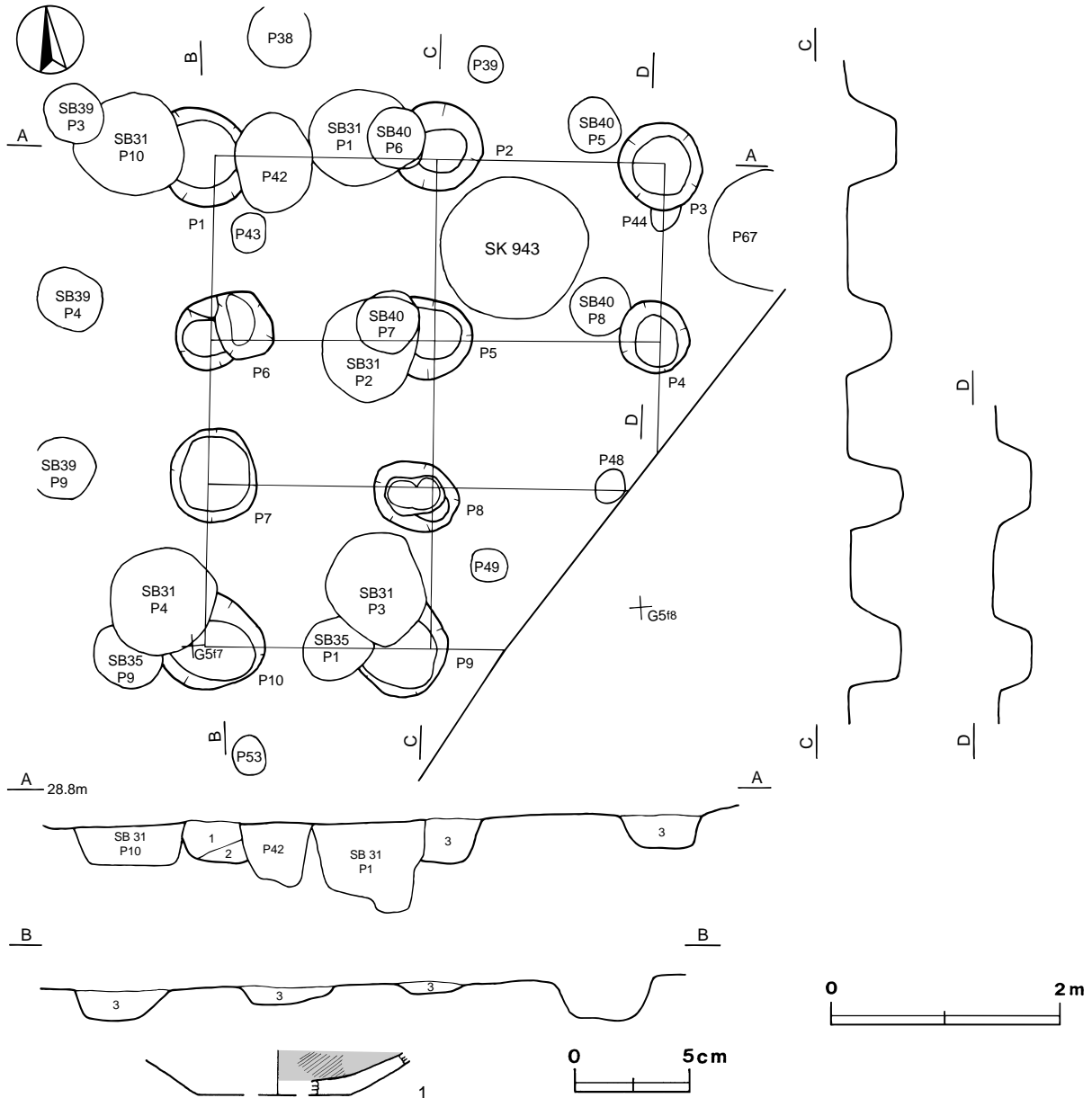
位置 調査5区の北西部，G5e7区。

重複関係 第40号掘立柱建物跡を掘り込んでおり，第42号ピット及び第31号掘立柱建物に掘り込まれている。

第38・39・43・48・49・53・67号ピット及び第35号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行2間で南北棟の総柱建物跡である。桁行は4.35m，梁行は4.00mである。柱間寸法は桁行が1.30～1.65m，梁行が1.60・2.40mである。柱穴は，平面形が長径83～95cm，短径62～82cmの楕円形及び円形，深さが10～47cmである。

桁行方向 N - 6° - E



第407図 第21号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土はロームブロック及びローム粒子を含み中程度に締まった暗褐色・黒褐色土であり，柱抜き取り後の覆土であり，柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

遺物 土師器片 2 点, 須恵器片 3 点が出土している。第407図 1 の土師器坏は, P10の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土した遺物の下限の時期から 9 世紀中葉以降と考えられる。

第 21 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第407図 1	坏 土師器	B (1.8) C [6.6]	底部から体部下端の破片。平底。 体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面へラ磨き, 体部下端回転へラ削り。底部調整不明。 内面黒色処理。	石英・赤色粒子・針状鉱物。にぶい橙色, 普通	P2521 10%

第31号掘立柱建物跡 (第406・408図)

位置 調査 5 区の北西部, G5e6区。

重複関係 第21・35・40号掘立柱建物跡を掘り込んでおり, 第39号掘立柱建物に掘り込まれている。第38・40～43・第45～47・51号ピットと重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行 3 間, 梁行 2 間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は 5.60m, 梁行は 4.10m である。柱間寸法は桁行が 1.80～2.00m, 梁行が 1.90～2.20m である。柱穴は, 平面形が長径 75～105cm, 短径 65～92cm の楕円形及び円形, 深さが 41～80cm である。

桁行方向 N - 85° - W

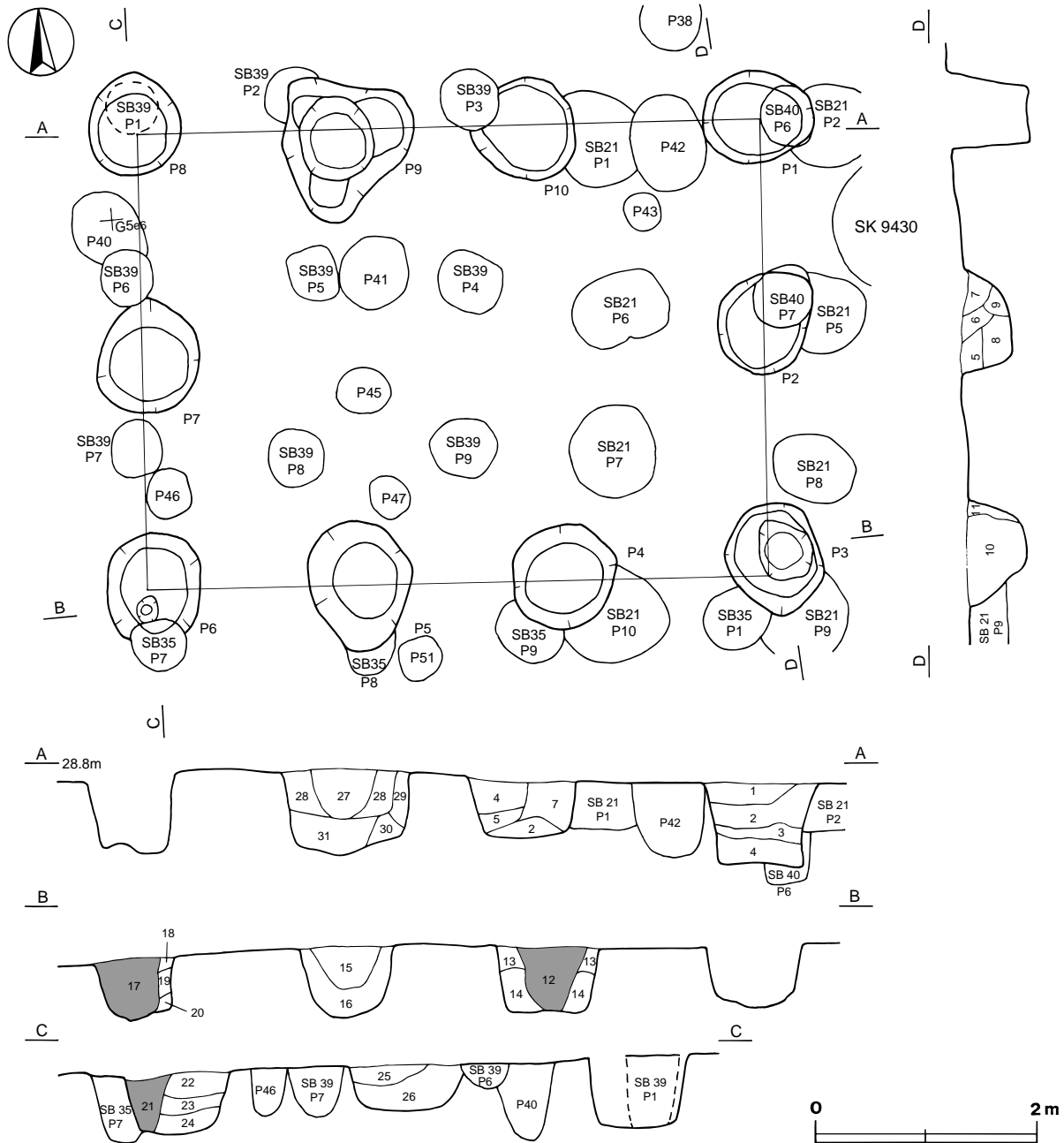
覆土 第12・17・21層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子を含み締まりのない暗褐色土である。第13・14・18～20・22～24層は締まりのある埋土で暗褐色・極暗褐色の互層をなしている。第1～11・15・16・25～31層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 16 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 17 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 粘土粒子微量
 3 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 18 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 19 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム大ブロック微量
 5 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量 20 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
 6 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 21 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 22 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量 23 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム大ブロック微量
 9 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 24 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
 10 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 25 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量
 11 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 26 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量
 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 27 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム中ブロック・ローム大ブロック・焼土粒子微量
 13 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 28 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
 14 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック微量 29 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
 15 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, ローム中ブロック微量 30 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
 31 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック微量

遺物 土師器片 2 点, 須恵器片 7 点が出土している。いずれも細片であり図示できなかったが, P 4 の覆土中から内面黒色処理され, ヘラ削り調整が施された土師器坏底部片が出土している。

所見 出土遺物が細片であり, 正確な時期は不明であるが, P 4 から出土した下限の遺物の時期から 9 世紀後葉以降と推定される。



第408図 第31号掘立柱建物跡実測図

第39号掘立柱建物跡 (第406・409図)

位置 調査5区の北西部, G5e6区。

重複関係 第40号ピット及び第31号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第41・45～47号ピットと重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行2間, 梁行2間の総柱建物跡である。桁行は3.15m, 梁行は3.10mである。柱間寸法は桁行が1.55m・1.60m, 梁行が1.55mである。柱穴は, 平面形が長径50～60cm, 短径45～52cmの楕円形及び円形, 深さが

40～70cmである。

桁行方向 N-85° - W

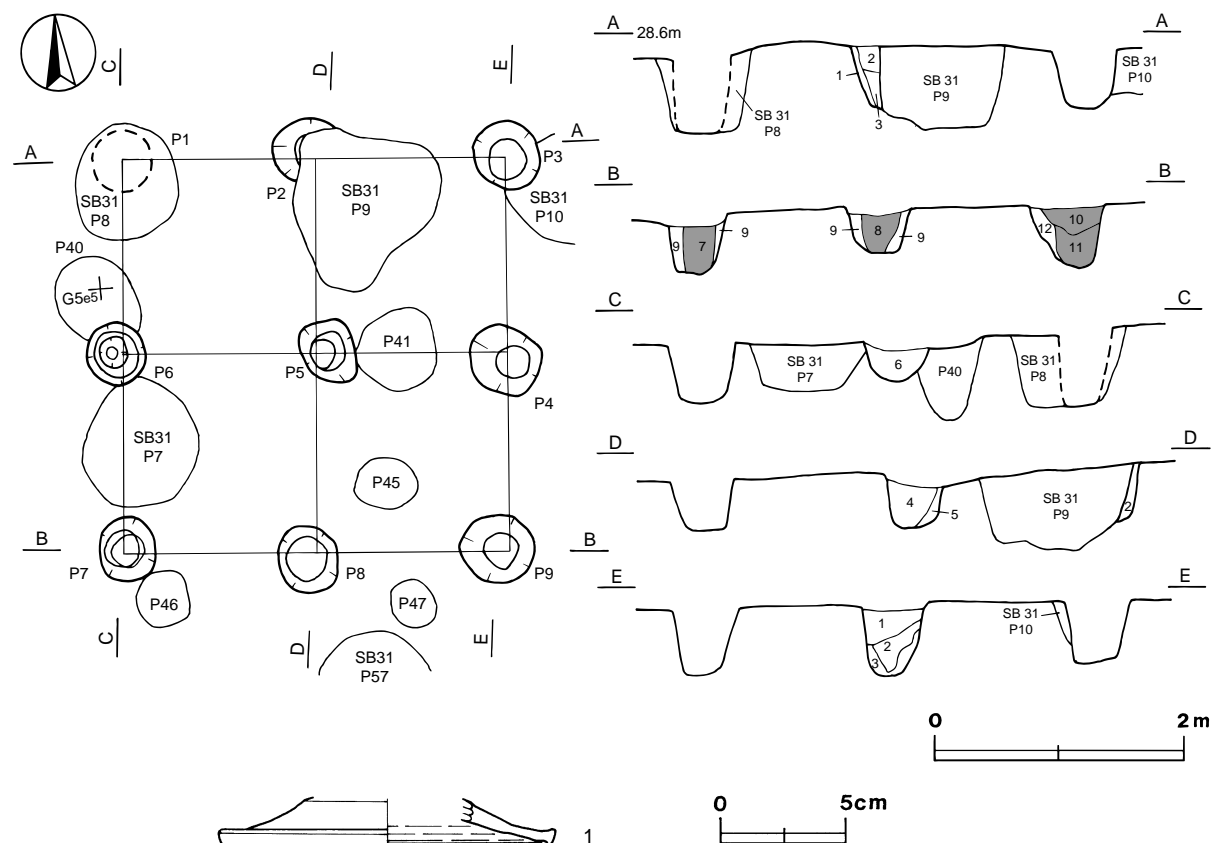
覆土 第7・8・10・11層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子を含み締まりのない暗褐色・黒褐色・極暗褐色土である。第9・12層は締まりのある埋土である。第1～6層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------------|---------|---------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |

遺物 土師器片4点, 須恵器片3点が出土している。第409図1の須恵器蓋は, P7の覆土中から出土している。

所見 本跡から出土している下限の時期の遺物は, 8世紀末～9世紀初頭の須恵器蓋であるが, 本跡は9世紀後葉に位置づけられる第31号掘立柱建物跡より新しいため, これ以降と考えられる。なお, 本跡の近くにまとまって検出された第18・36・40号掘立柱建物跡と桁行方向及び規模がほぼ同じであり, 配列状況などから, 本跡とそれらはほぼ同時期の可能性も推定される。



第409図 第39号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第39号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	蓋 須恵器	A [13.0] B (1.9)	口縁部から天井部片。天井部は低く扁平である。	天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・礫, 灰オリーブ色, 普通	P2534 5%

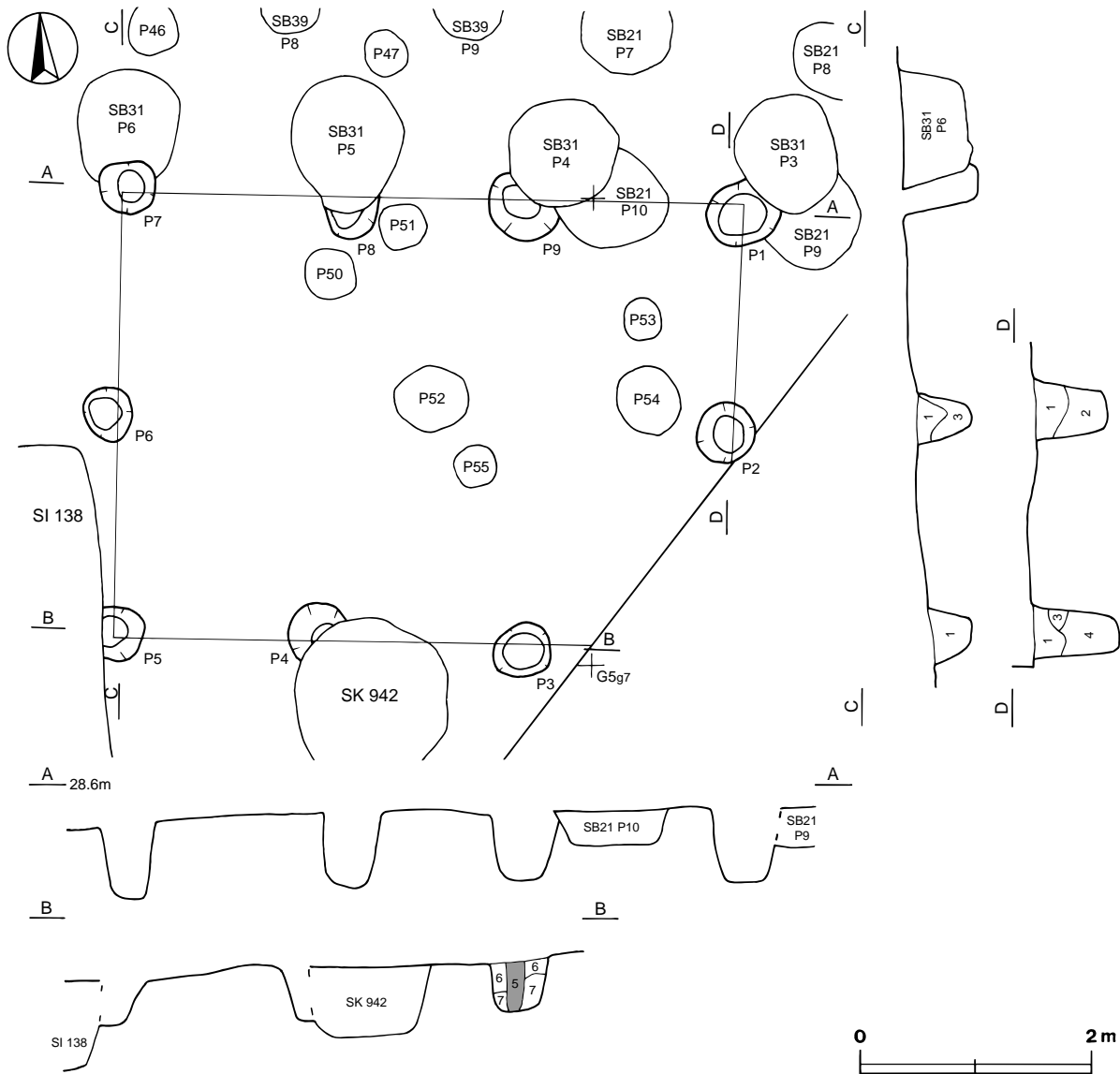
第35号掘立柱建物跡（第406・410図）

位置 調査5区の北西部，G5f6区。

重複関係 第31号掘立柱建物に掘り込まれている。第942号土坑，第46・47・50～55号ピット及び第138号住居跡，第21号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 南東隅の柱穴が調査区域外になるが，桁行3間，梁行2間で東西棟の側柱建物跡と考えられる。桁行は5.30m，梁行は3.80mである。柱間寸法は桁行が1.50～1.90m，梁行が1.90～1.95mである。柱穴は，平面形が長径46～70cm，短径40～48cmの楕円形及び円形，深さが45～74cmである。

桁行方向 N-88°-W



第410図 第35号掘立柱建物跡実測図

覆土 第5層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含む締まりのない暗褐色土である。第6・7層は締まりのある埋土である。第1～4層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	3 黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	4 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量	7 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
6 暗褐色	ローム粒子中量・ローム小ブロック少量		

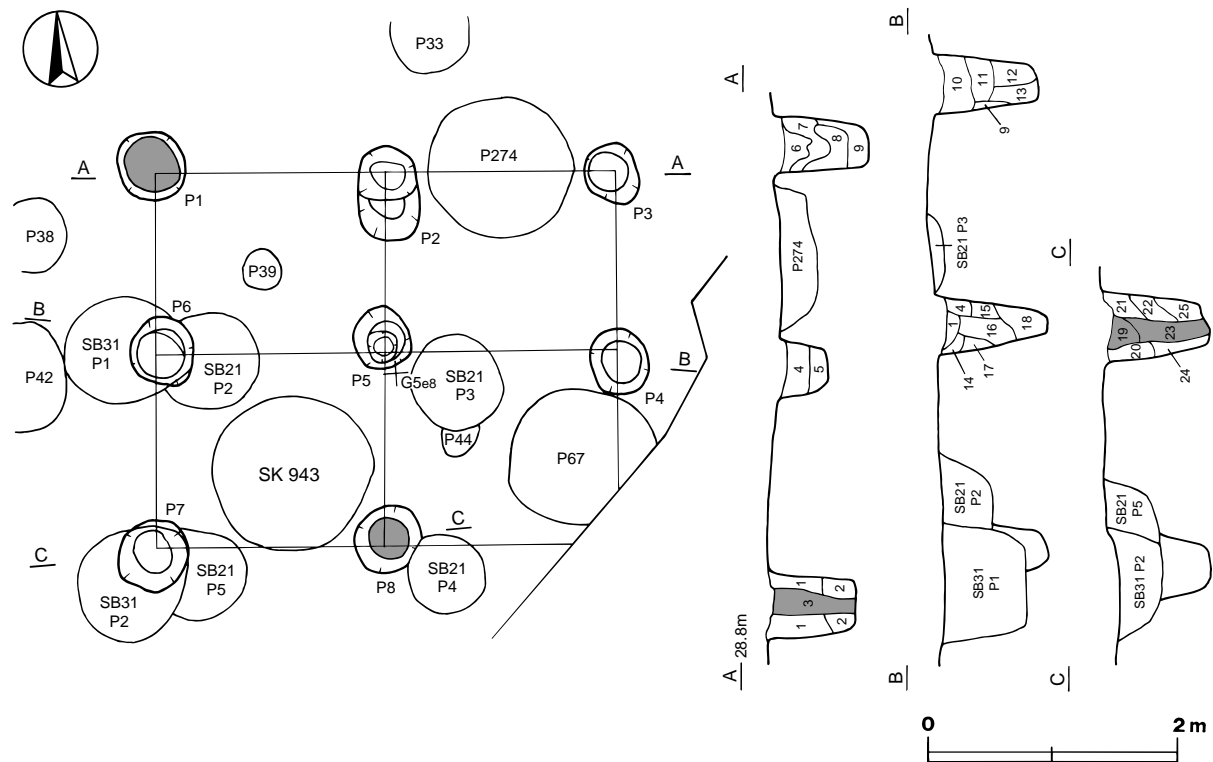
遺物 土師器片 1 点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じく 8～9 世紀以降と推定される。

第40号掘立柱建物跡 (第406・411図)

位置 調査 5 区の北西部, G5e8区。

重複関係 第21・31号掘立柱建物に掘り込まれている。第943号土坑及び第33・38・39・42・44・67・274号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第411図 第40号掘立柱建物跡実測図

規模 南東隅の柱穴が調査区域外になるが、桁行 2 間、梁行 2 間で東西棟の総柱建物跡である。桁行は 3.70m、梁行は 2.95m である。柱間寸法は桁行が 1.85m、梁行が 1.40～1.50m である。柱穴は、平面形が長径 50～78cm、短径 45～52cm の楕円形、深さが 45～91cm である。

桁行方向 N - 85° - W

覆土 第 3・19・23 層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含み締まりのない暗褐色・黒褐色土である。第 1・2・20～22・24・25 層は締まりのある埋土である。

第 4～18 層は中程度に締まった柱抜き取り痕の覆土である。

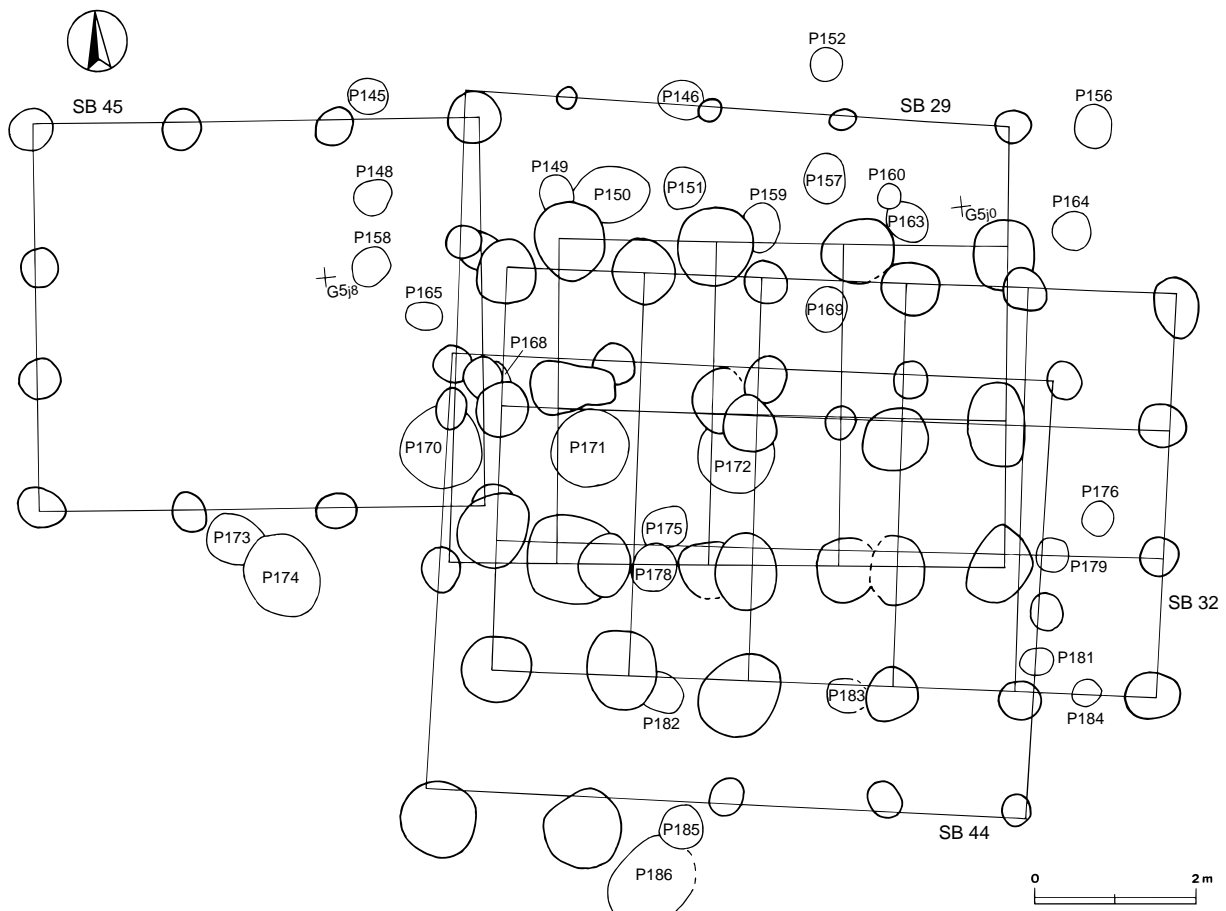
土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |

- | | | | |
|---------|--------------------------------------|---------|-----------------------------|
| 9 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 18 極暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 19 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子少量 | 20 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量 |
| 12 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 21 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 13 極暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 22 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 14 褐色 | ローム大ブロック中量 | 23 黒褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 15 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 24 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 16 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・炭化物微量 | 25 黒褐色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 17 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | | |

遺物 須恵器片 1 点が出土しているが，細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり，正確な時期は不明であるが，桁行方向及び規模が第18・36・39号掘立柱建物跡とほぼ同じであることや配列状況などから，9世紀後葉以降と推定される。



第412図 第29・32・44・45号掘立柱建物跡実測図

第45号掘立柱建物跡 (第412・413図)

位置 調査5区の南西部，G5j7区。

重複関係 第32号掘立柱建物に掘り込まれている。第148・158・165・170・173・174号ピット及び第29・44号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

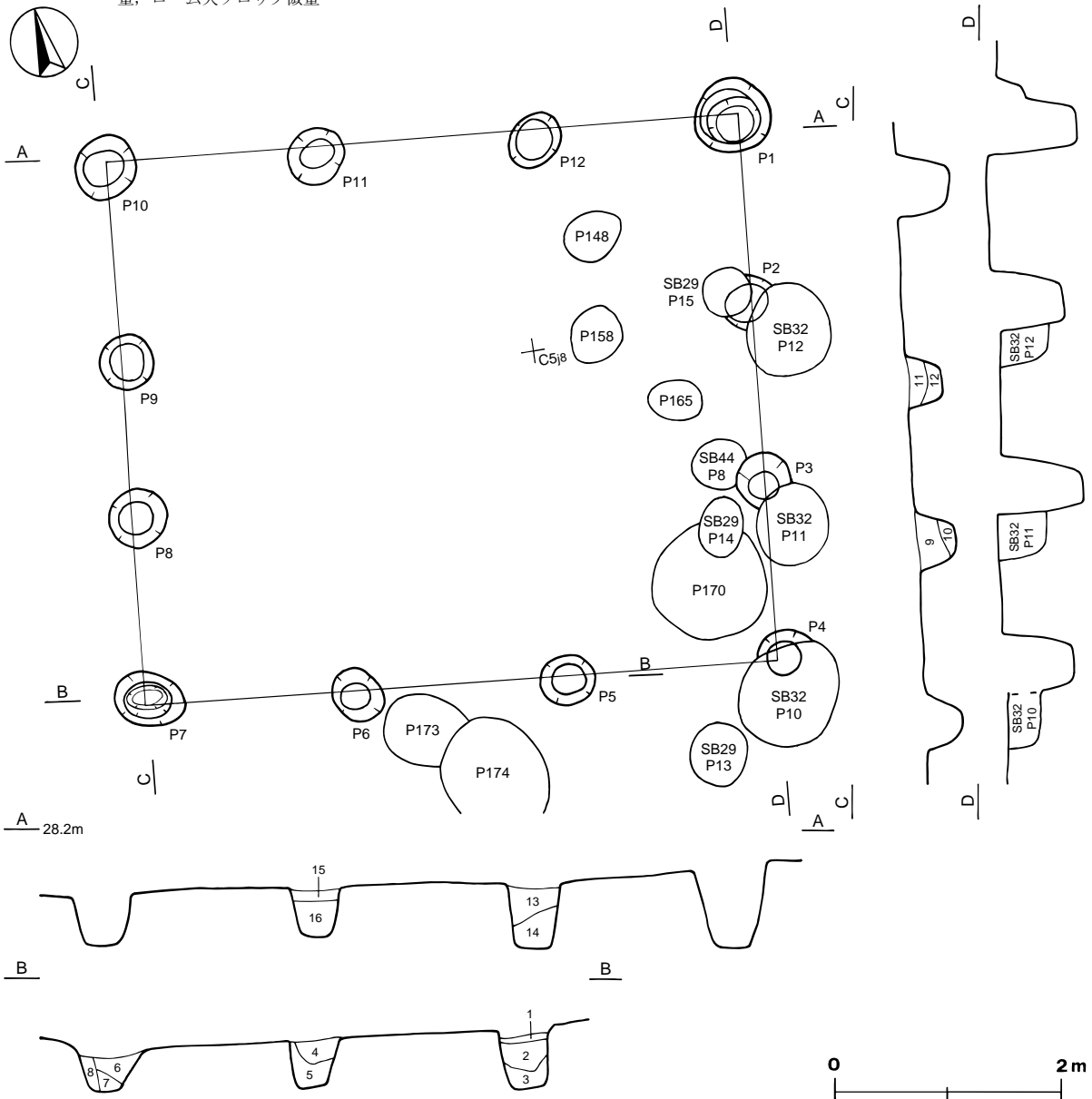
規模 桁行3間，梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.60m，梁行は4.80mである。柱間寸法は桁行が1.80～1.90m，梁行が1.40～1.80mである。柱穴は，平面形が長径48～63cm，短径43～54cmの楕円形及び円形，深さが36～68cmである。

桁行方向 N-85°-W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子を含み中程度に締まった褐色・暗褐色・灰褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------------|--------|-----------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量，ローム中ブロック微量 | 10 褐色 | ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 14 灰褐色 | ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 | 15 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 16 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 9 褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量 | | |



第413図 第45号掘立柱建物跡実測図

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と思われる、また、本跡より新しい第32号掘立柱建物跡が9世紀中葉に位置づけられるため、8～9世紀中葉の時期と類推される。

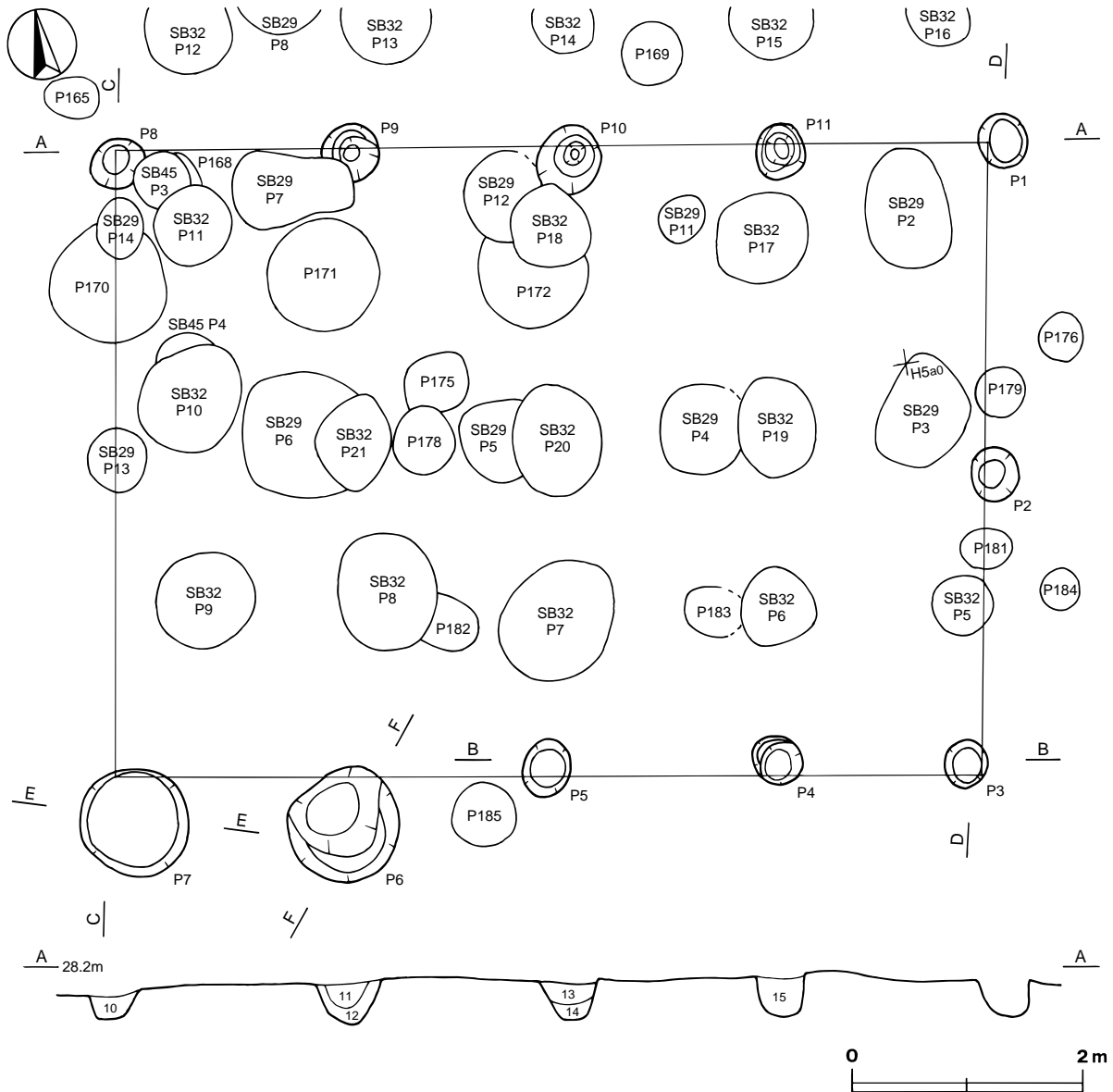
第44号掘立柱建物跡 (第412・414・415図)

位置 調査5区の南西部, G5j9区。

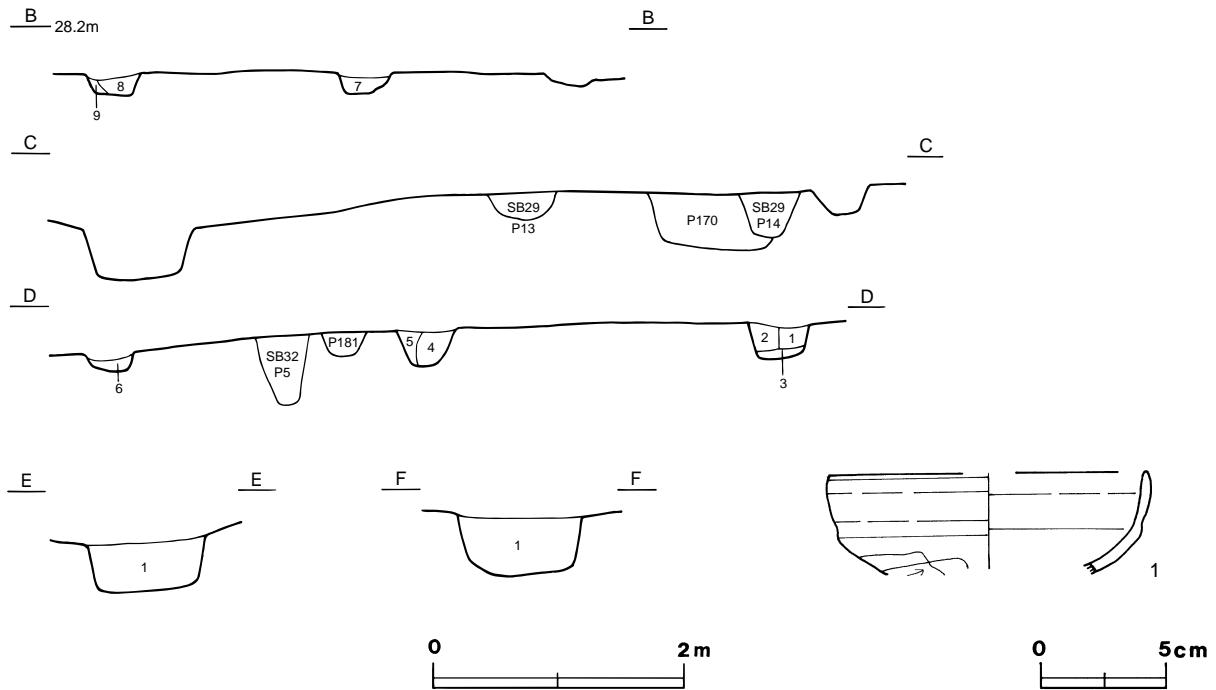
重複関係 第165・169・170～172・175・176・178・179・181～185号ピット及び第29・32・45号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行4間, 梁行は東側柱列で2間, 西側柱列で1間の東西棟の側柱建物跡である。桁行は7.55m, 梁行は5.14mである。柱間寸法は桁行が1.75～2.00m, 梁行が2.60～2.80mである。柱穴は、平面形が長径40～100cm, 短径40～50cmの楕円形及び円形, 深さが24～46cmである。

桁行方向 N-82°-W



第414図 第44号掘立柱建物跡実測図



第415図 第44号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子を含む中程度に締まった暗褐色・極暗褐色・黒褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 11 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック微量 | 13 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量 | 14 黒褐色 | ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量 | 15 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量 |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量 | | |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック微量 | | |
| 9 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | | |

遺物 土師器片5点が出土している。第415図1の土師器坏口縁部片は、P2の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土した遺物の下限の時期から、8世紀前葉以降と考えられる。

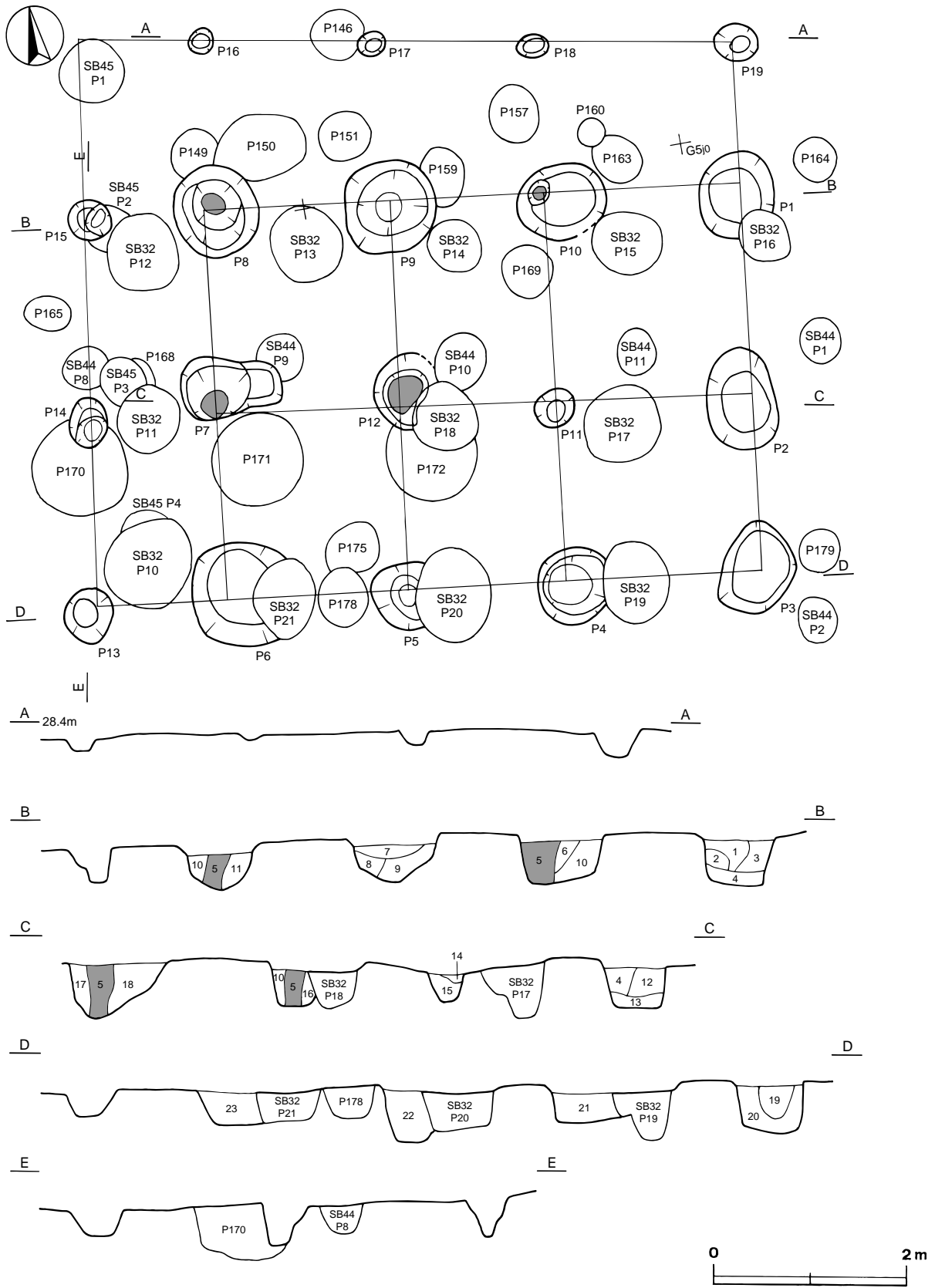
第44号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1	坏 土師器	A [12.8] B (3.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・白色粒子、にびい橙色、普通	P2537 10%

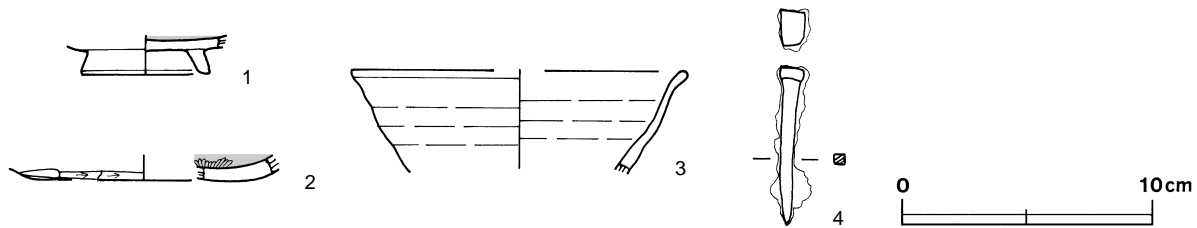
第29号掘立柱建物跡 (第412・416・417図)

位置 調査5区の南西部，G5j9区。

重複関係 第32号掘立柱建物に掘り込まれている。第146・149～151・157・159・160～171・163～165・168・169・175・178・179号ピット及び第44・45号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第416图 第29号掘立柱建物迹实测图



第417図 第29号掘立柱建物跡出土遺物実測図

規模 桁行3間，梁行2間で東西棟の総柱建物跡である。北側及び西側に庇を持っている。身舎の柱穴はP1～12，庇の柱穴はP13～19である。北西隅の庇の柱穴は確認できなかったが，配列から第45号掘立柱建物跡のP1が庇の柱穴と重複していた可能性が考えられる。第45号掘立柱建物跡のP1は，本跡の庇の柱穴よりも深いことから，第45号掘立柱建物跡が本跡より新しいと仮定した場合，これに掘り込まれた可能性もある。桁行は5.35m，梁行は4.05mである。庇の出は北側で1.45～1.70m，西側で1.15～1.35mと考えられる。柱間寸法は桁行が1.60～2.10m，梁行が1.90～2.15mである。身舎の柱穴は，平面形が長径46～115cm，短径38～95cmの楕円形及び円形，深さが42～55cmである。庇の柱穴は，平面形が長径30～55cm，短径25～41cmの楕円形及び円形，深さが7～28cmである。

桁行方向 N-84°-W

覆土 第5層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含み締まりのない暗褐色土である。第6・10・11・16～18層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1	褐色	ローム大ブロック少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	13	褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック・黒色土中ブロック微量	14	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量	15	黒褐色	ローム粒子微量
4	褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	16	褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	17	褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量	18	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・黒色土粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量	19	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
8	褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム粒子微量	20	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
9	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	21	褐色	ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量	22	褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・黒色土粒子，ローム中ブロック少量
11	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量	23	褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12	褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量			

遺物 土師器片20点，須恵器片9点が出土している。第417図1の土師器高台付坏底部片はP8から，2の土師器坏底部片，3の須恵器坏口縁部片はともにP6から出土している。

所見 時期は，出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉以降と考えられる。しかし，9世紀後葉に位置づけられる第127号住居跡と遺構の傾きが同じこと及びその平面的な位置関係から，本跡も同時期の可能性も考えられる。

第29号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第417図 1	高台付坏 土師器	B (1.6) D 5.0 E 1.0	高台部から底部の破片。高台は短くハの字状に開く。	底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・白色粒子，にぶい黄橙色，普通	P2527 20%

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第417図 2	坏 土 師 器	B (1.0) C [8.3]	底部から体部下端の破片。平底。 体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面へラ磨き, 体部 下端及び底部回転へラ削り。内面 黒色処理。	長石・石英・雲母・ 針状鉱物 明黄褐色, 普通	P 2528 5 %
3	坏 須 恵 器	A [13.4] B (4.0)	体部から口縁部片。体部は直線的 に外傾して立ち上がり, 口縁部に 至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナ デ。	石英・白色粒子 灰色 普通	P 2529 5 %

図版番号	器 種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第417図4	釘	(5.1)	0.9	0.4	7.1	鉄	断面形は方形	M2501

第32号掘立柱建物跡 (第412・418図)

位置 調査5区の南西部, G5j9区。

重複関係 第183号ピット及び第29・45号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第168・169・171・172・175・176・178・179・181・182・184号ピット及び第44号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行5間, 梁行3間の東西棟であり, 総柱建物跡と考えられる。桁行は8.35m, 梁行は5.00mである。柱間寸法は桁行が1.45~1.85m, 梁行が1.60~1.70mである。柱穴は, 平面形が長径50~115cm, 短径50~92cmの楕円形及び円形, 深さが20~70cmである。

桁行方向 N-82°-W

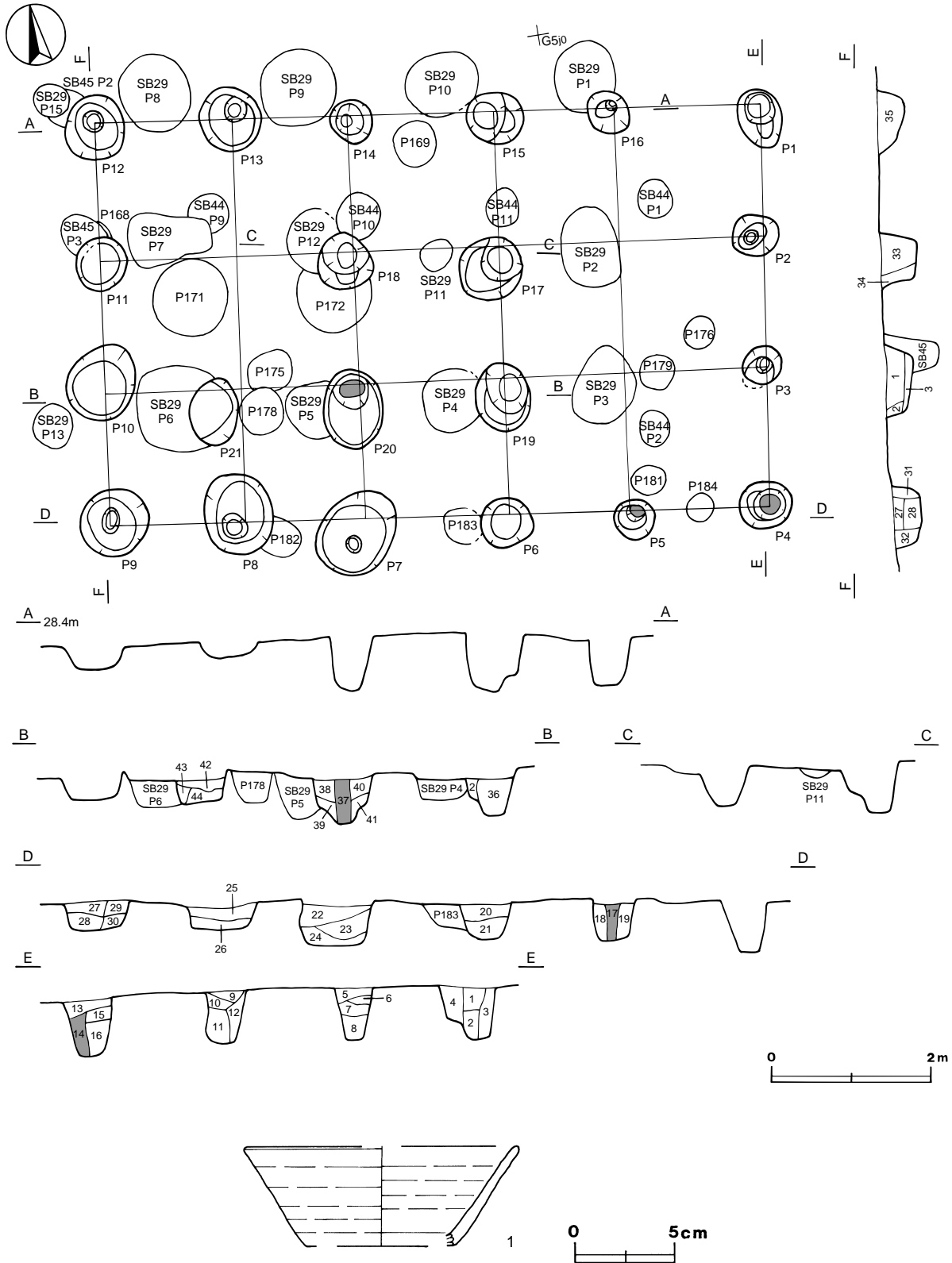
覆土 第14・17・37層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含み締まりのない暗褐色土である。第15・16・18・19・38~41層は締まりのある埋土である。その他は, 中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	24 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
2 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量	25 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量	26 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
4 褐色	ローム粒子中量	27 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 粘土小ブロック微量	28 褐色	ローム粒子少量
6 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量	29 褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
7 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	30 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
8 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量	31 褐色	ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
9 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量	32 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
10 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	33 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
11 暗褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック微量	34 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
12 暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量	35 暗褐色	ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
13 暗褐色	ローム大ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量	36 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量
14 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子微量	37 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
15 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量	38 暗褐色	ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量
16 褐色	ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量	39 暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, ローム粒子微量
17 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量	40 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量
18 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	41 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
19 暗褐色	ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量	42 暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
20 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	43 暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
21 褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	44 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
22 褐色	ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量		
23 暗褐色	ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量		

遺物 土師器片12点，須恵器片11点が出土している。第418図1の須恵器坏片は，P10の覆土中から出土している。

所見 本跡から出土した下限の遺物の時期は9世紀中葉と考えられる。本跡より古い第29号掘立柱建物跡は9世紀後葉以降の可能性が考えられることから，本跡の時期はそれ以降と考えられる。



第418図 第32号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 32 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

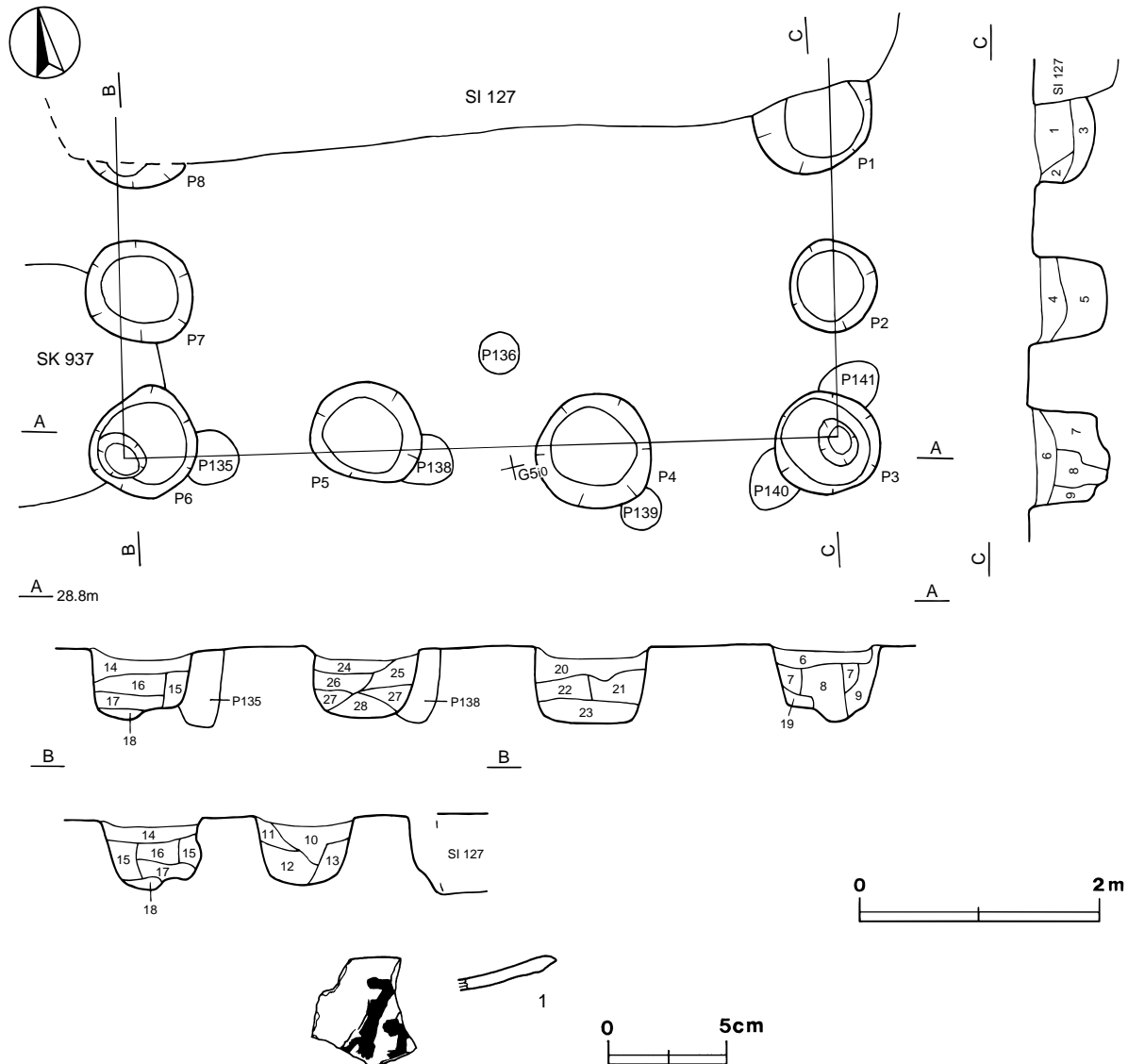
図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第418図 1	坏 須 恵 器	A [13.8] B 4.9 C [7.6]	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	長石・石英 灰白色 普通	P 2530 15%

第23号掘立柱建物跡 (第419図)

位置 調査5区の南西部, G5h0区。

重複関係 第135号ピットを掘り込んでおり, 第127号住居に掘り込まれている。第937号土坑及び第136・138～141号ピットと重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 東及び西側柱列の一部と北側柱列が第127号住居に掘り込まれており, 正確な規模は不明であるが, 南及び北側柱列が3間, 東及び西柱列が2間以上の側柱建物跡である。桁行は6.35m, 現存する梁行は3.20mである。柱間寸法は桁行が1.90~2.05m, 梁行が1.30~1.45mである。柱穴は, 平面形が長径80~102cm, 短径75~100cmの楕円形及び円形, 深さが55~66cmである。



第419図 第23号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

桁行方向 南側柱列でN-80°-W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子を含み中程度に締まった褐色・暗褐色・黒褐色・極暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	15	黒褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック微量	16	暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック微量	17	暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック微量	18	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量	19	褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
6	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量	20	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量	21	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	22	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	23	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
10	暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量	24	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量	25	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
12	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量	26	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・炭化物微量
13	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	27	暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
14	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	28	暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片 6点, 須恵器片 4点が出土している。第419図1の土師器高台付皿は、P1の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉～後葉と考えられる。

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第419図 1	高台付皿 土師器	B (1.5)	体部から口縁部の破片。体部は大きく開き, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き, 体部下端回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色普通	P2522 5% PL72 体部外面墨書「在」

第28号掘立柱建物跡 (第420・421図)

位置 調査5区の南西部, G6j3区。

重複関係 本跡が第939号土坑を掘り込んでいる。また、西側柱列南隅から2か所の柱穴が、規模・覆土及び配列状況から第43号掘立柱建物跡のP1・P2に掘り込まれている可能性がある。第194・195・199・201～204号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間, 梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は4.45m, 梁行3.60mである。柱間寸法は桁行1.30～1.60m, 梁行が1.60・1.70mである。柱穴掘り方は、平面形が長径70～95cm, 短径55～75cmの楕円形及び円形, 深さが40～62cmである。

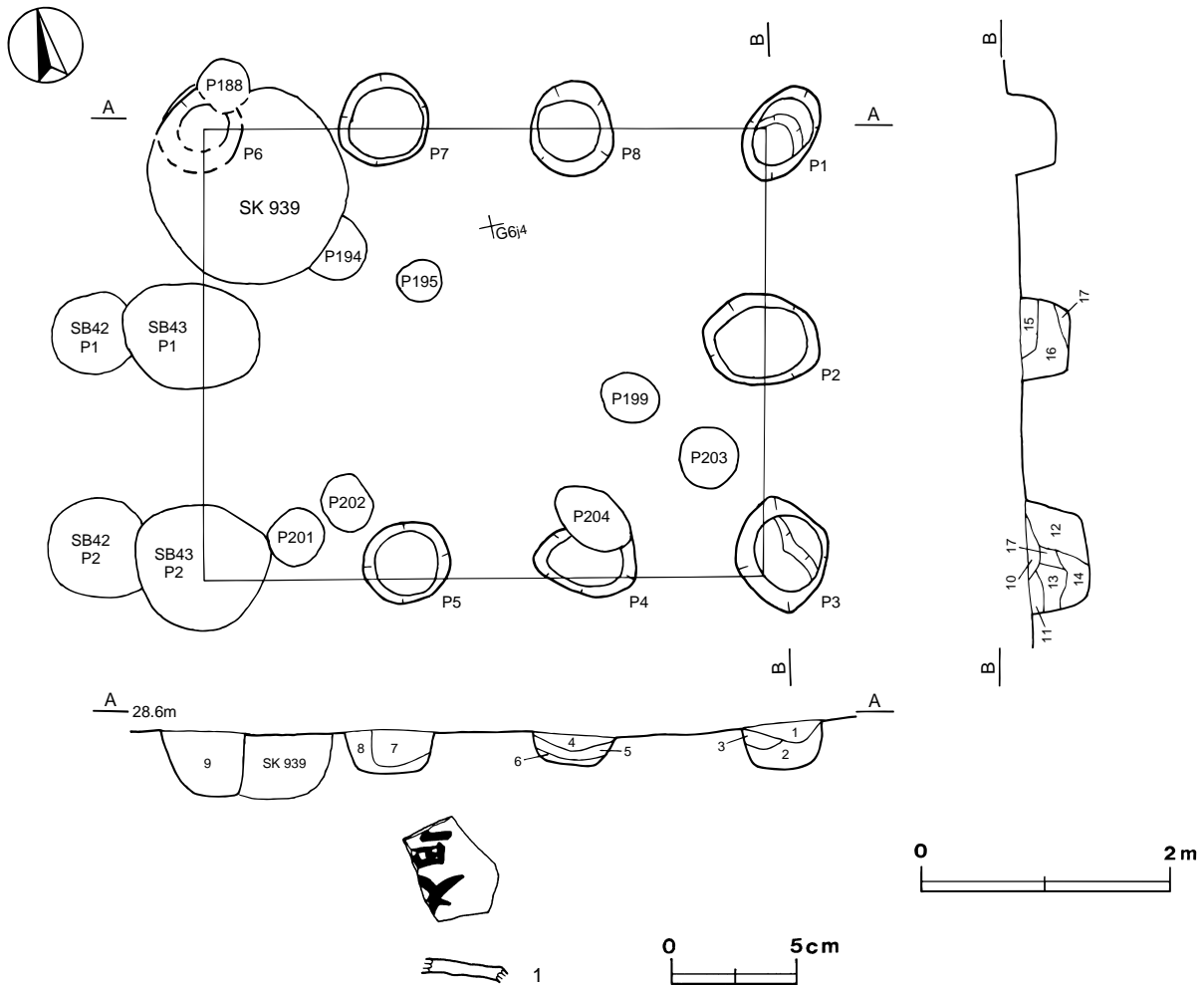
桁行方向 N-79°-W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック・粘土粒子・黒色土ブロックを含み中程度に締まった褐色・暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------------|--------|--------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 粘土小ブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子・黒色土小ブロック微量 | 12 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック微量 |
| 6 褐色 | ローム大ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 15 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子・粘土小ブロック微量 |
| 7 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子微量 |
| 8 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック微量 | 17 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 9 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

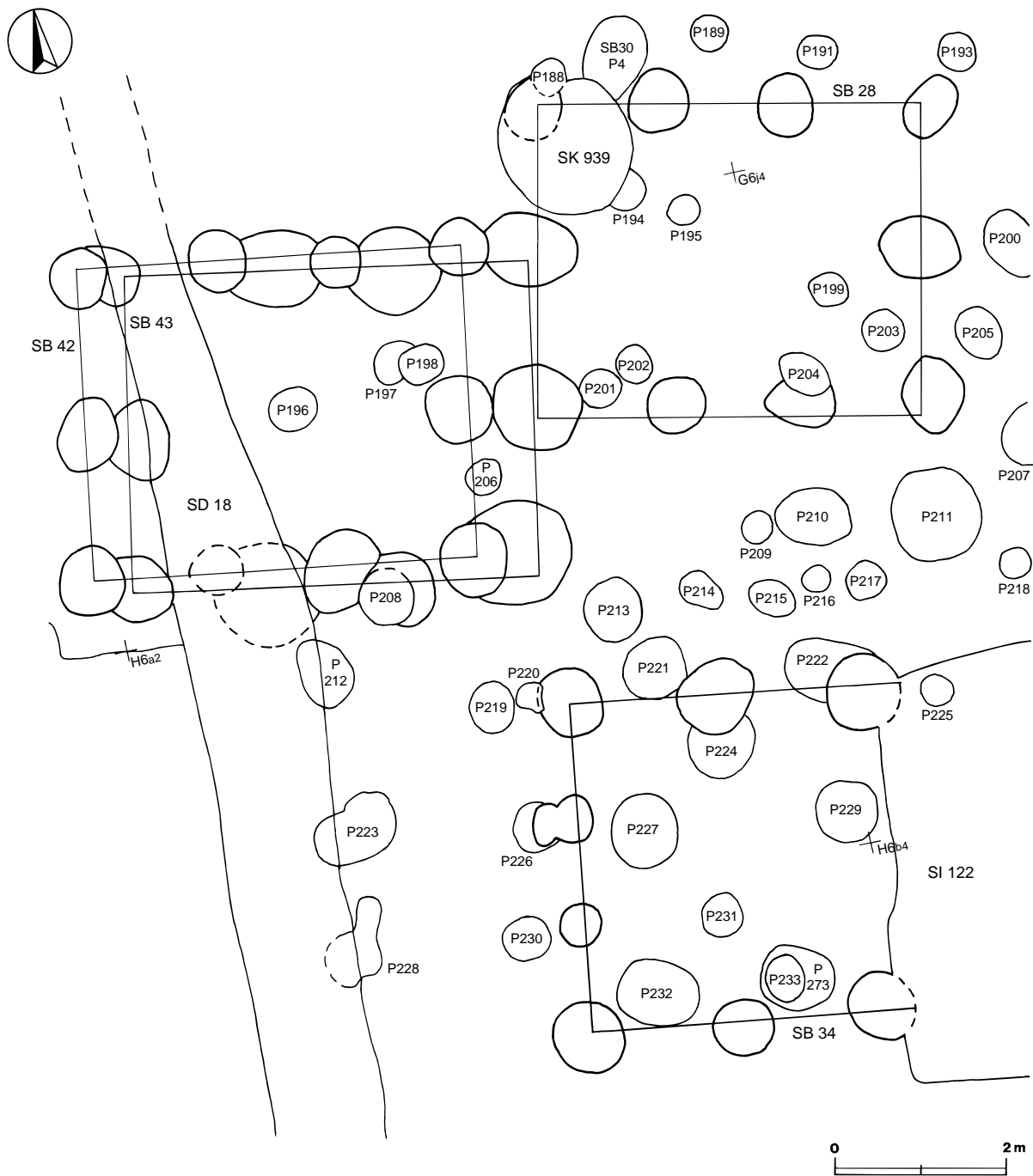
遺物 土師器片16点, 須恵器片13点が出土している。第420図1の須恵器蓋は, P7覆土中から出土している。
 所見 重複及び近接する第42・43号掘立柱建物跡と本跡の中では, 本跡が一番古く, 第42号掘立柱建物跡が一番新しい。本跡は, 出土した遺物の下限の時期などから8世紀後葉～9世紀前葉と考えられる。



第420図 第28号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第28号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第420図 1	蓋 須恵器	B (0.9)	口縁部から天井部片。天井部は低く扁平である。	天井部回転ヘラ削り。	長石・白色粒子 黄灰色 普通	P2526 5% PL73 天井部外面墨書「大」



第421図 第28・34・42・43号掘立柱建物跡実測図

第43号掘立柱建物跡（第421・422図）

位置 調査5区の南西部，G6j2区。

重複関係 柱穴の規模・覆土及び配列状況からP1・P2がそれぞれ第28号掘立柱建物跡の柱穴を掘り込んでいる可能性がある。また，第18号溝，第208号ピット及び第42号掘立柱建物に掘り込まれている。第196～198・201・206・208号土坑と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行2間の，東西棟の側柱建物跡である。桁行は4.70m，梁行は3.70mである。柱間寸法は桁行が1.80～1.90m，梁行が1.50～1.80mである。柱穴は，平面形が長径80～115cm，短径62～100cmの楕円形及び円形，深さが16～45cmである。

桁行方向 N-80°-W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子を含み中程度に締まった褐色・暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量	8 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2 褐色	ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	9 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	10 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量	11 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量	12 暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量	13 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量	14 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片 4 点，須恵器片 6 点が出土している。第422図 1 の土師器坏は，P 4 の覆土中から出土している。

所見 時期は，出土した遺物の下限の時期などから 9 世紀中葉以降と考えられる。

第42号掘立柱建物跡（第421・422図）

位置 調査 5 区の南西部，G6j2区。

重複関係 第43号掘立柱建物跡を掘り込んでおり，第18号溝に掘り込まれている。第196～198・206・208号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行 3 間，梁行 2 間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は4.45m，梁行は3.60mである。柱間寸法は桁行が1.30～1.70m，梁行が1.70～1.90mである。柱穴は，平面形が長径60～105cm，短径60～80cmの楕円形及び円形，深さが23～50cmである。

桁行方向 N-81°-W

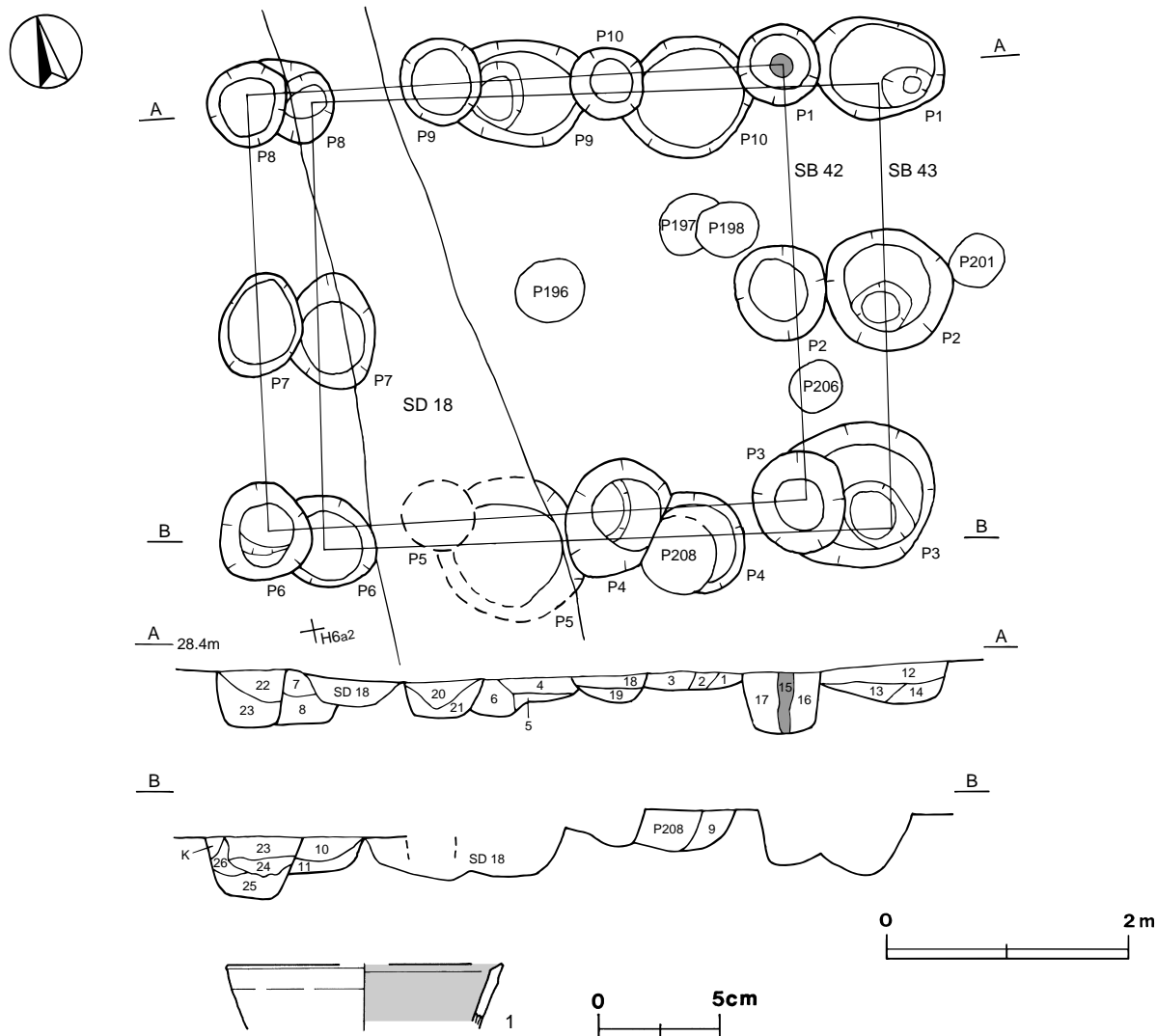
覆土 第15層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子，炭化物及び炭化粒子を含む締まりのない極暗褐色土である。第 2・3 層は締まりのある埋土である。第 4～12 層は中程度に締まったレンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

15 極暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量	22 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
16 暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	23 暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
17 褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量	24 暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化物微量
18 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量	25 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
19 褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量	26 黒褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
20 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量		
21 褐色	ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量		

遺物 土師器片 2 点が出土しているが，細片であり図示できなかった。

所見 時期は，出土遺物が細片であるため明確ではないが，9 世紀中葉以降に位置付けられる第43号掘立柱建物跡を掘り込んでおり，それ以降と考えられる。



第422図 第42・43号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第43号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第422図 1	坏 土師器	A [11.3] B (2.7)	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内面へラ磨き，外面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物，にぶい黄橙色，普通	P2535 5%

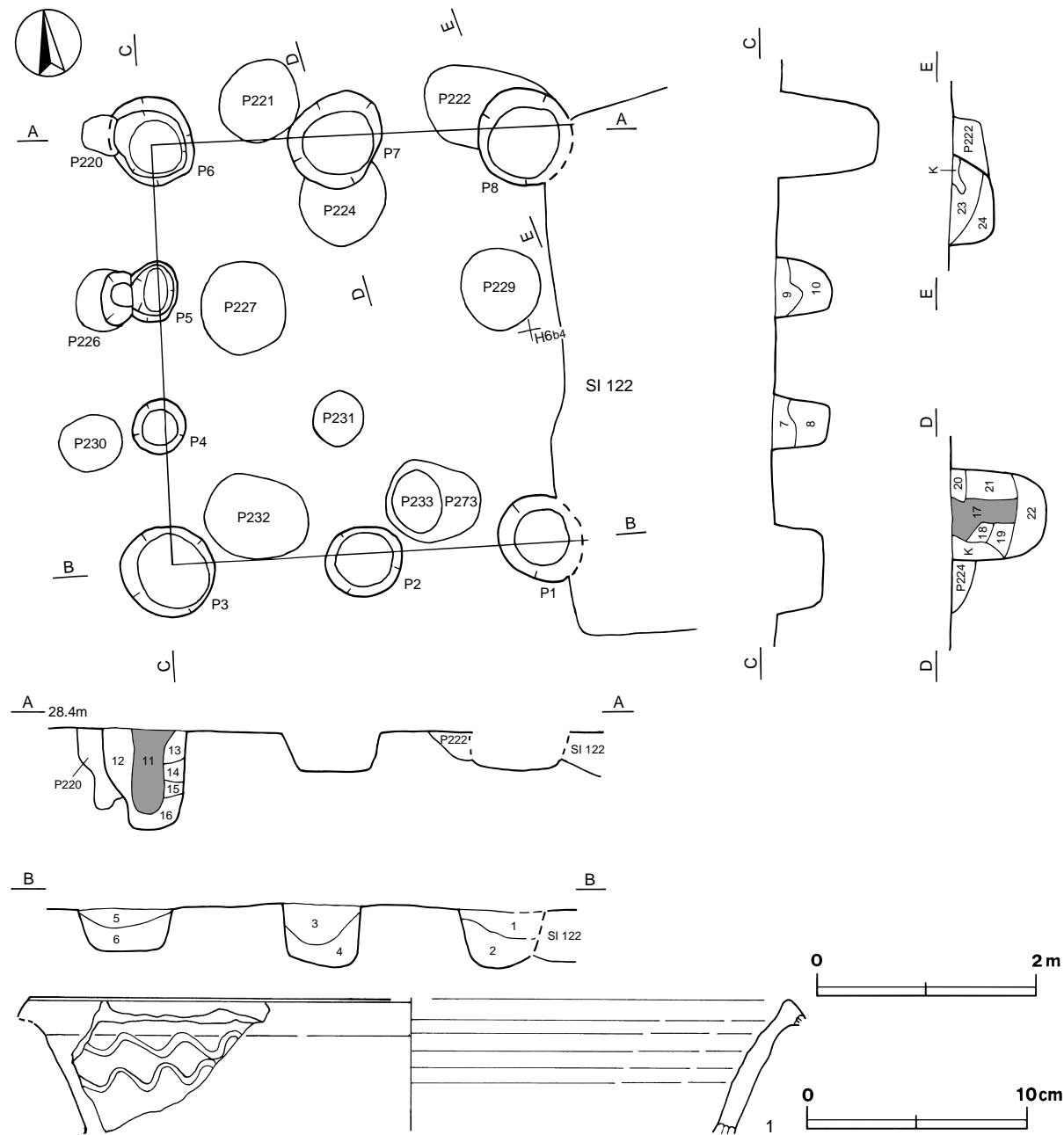
第34号掘立柱建物跡（第421・423図）

位置 調査5区の南西部，H6a3区。

重複関係 第220・222号ピットを掘り込んでいる。第122号住居跡及び第221・224・226・227・229～233・273号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 東側は第122号住居跡と重複しており，住居跡の確認面において本跡の柱穴を検出することができなかったため，本跡の正確な規模は不明である。西側柱列で3間，北及び南側柱列では2間が検出されており，北及び南側柱列が2間以上の側柱建物跡と考えられる。柱間寸法は西側柱列が1.30～1.25m，北及び南側柱列が1.70～1.80mである。柱穴は，平面形が長径55～90cm，短径43～88cmの楕円形及び円形，深さが38～87cmである。

桁行方向 N-82°-W



第423図 第34号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 第11・17層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含み締まりのない褐色土である。第12～16層及び第18～22層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|------|---------------------------------------|--------|---------------------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子微量 | 9 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量 | 10 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 12 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 13 褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 6 褐色 | ローム小ブロック少量 | 14 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 7 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | | |
| 8 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | | |

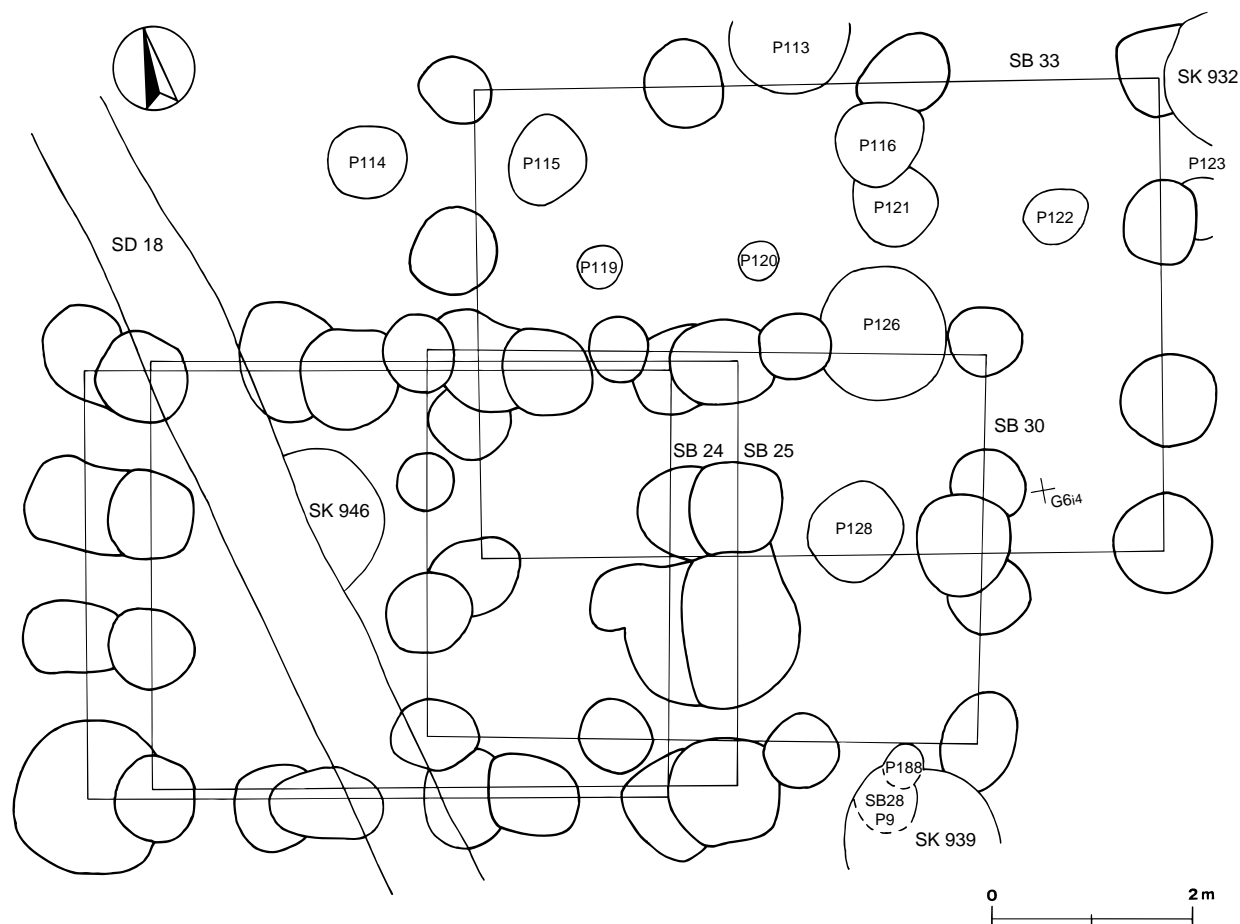
- | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|------------------------------------------|
| 15 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量 | 20 褐色 | ローム粒子微量 |
| 16 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, , ローム粒子少量 | 21 褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 17 褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 22 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック微量 |
| 18 褐色 | ローム粒子少量 | 23 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 19 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 24 褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |

遺物 須恵器片 5 点が出土している。第423図 1 の須恵器甕口縁部片は、P 2 の覆土中から出土している。細片であり図示できなかったが、P 8 から井ヶ谷78号窯式と考えられる灰釉陶器片が出土している。

所見 出土した図示し得る下限の遺物の時期は、8世紀末～9世紀初頭と考えられる。9世紀後葉に位置づけられる第122号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明であり、時期は、8世紀末～9世紀初頭以降と考えられる。

第 34 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第423図 1	甕 須恵器	A [34.4] B (6.0)	口縁部片。口縁部は外反する。端部下端が突出する。	口縁部内・外面口クロナデ。外面櫛歯状工具による波状文施文。	長石・石英 灰色 普通	P 2532 5 %

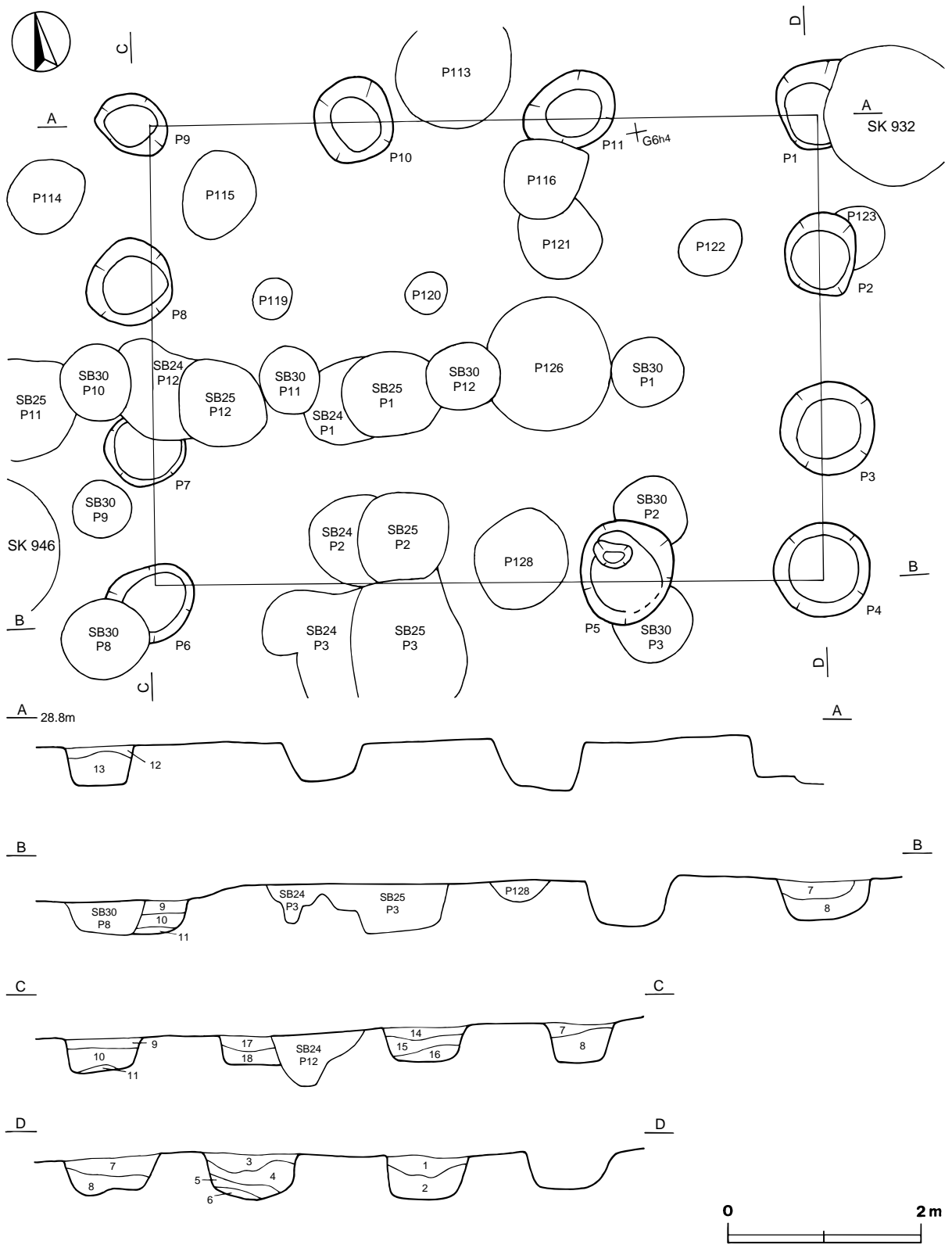


第424図 第24・25・30・33号掘立柱建物跡実測図

第33号掘立柱建物跡 (第424・425図)

位置 調査5区の南西部, G6h3区。

重複関係 第24号掘立柱建物に掘り込まれている。また、土層の切り合い関係から、第25・30号掘立柱建物跡よりも本跡が古い。第113～115・116・119～123・126・128号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第425図 第33号掘立柱建物跡実測図

規模 第24号掘立柱建物跡のP 2 と同位置に、本跡の柱穴があった可能性が配列から考えられる。検出された

柱穴のいずれもが第24号掘立柱建物跡の柱穴の深さより浅いため、想定される本跡の柱穴は第24号掘立柱建物跡のP2に掘り込まれたものと判断した。桁行は北側柱列で3間、南側柱列で2間、梁行は3間であるが、南側柱列に柱穴を想定し、3間×3間で東西棟の側柱建物跡と考えられる。桁行は6.80m、梁行は4.70mである。柱間寸法は桁行が北側柱列で2.10～2.50m、南側柱列で東から3.10m及び3.70m、梁行が1.40～1.80mである。柱穴は、平面形が長径76～104cm、短径63～98cmの楕円形・円形及び隅丸方形、深さが32～52cmである。

桁行方向 N-80° - W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含み中程度に締まった褐色・暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	10	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量	11	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量	12	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	13	暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
5	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
6	褐色	ローム大ブロック中量、ローム粒子少量	15	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
7	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	16	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
8	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量	17	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	18	暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片3点、須恵器片3点が出土している。細片のため図示できないが内面黒色処理された土師器皿がP9から出土している。

所見 時期は、出土した下限の遺物の時期などから9世紀後葉以降と考えられる。

第25号掘立柱建物（第424・426・427図）

位置 調査5区の南西部、G6h2区。

重複関係 第24・33号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第18号溝及び第30号掘立柱建物に掘り込まれている。第946号土坑及び第119・120・126・128号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

規模 桁行3間、梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.85m、梁行は4.25mである。柱間寸法は桁行が1.85～2.00m、梁行が1.30～1.50mである。柱穴は、平面形が長径83～115cm、短径70～118cmの楕円形・円形及び隅丸方形、深さが58～72cmである。

桁行方向 N-80° - W

覆土 第6・36層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含み締まりのない暗褐色である。第4・5・7層及び第31～35層は締まりのある埋土である。第14層は締まりのある、第1～5・7～13・15～30・36～45層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量	5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
2	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量	6	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量
3	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	7	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量
4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量

9 暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量	28 黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
10 極暗褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	29 暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
11 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量	30 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
12 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	31 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量
13 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	32 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
14 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	33 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
15 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	34 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
16 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック・炭化物微量	35 黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
17 極暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量	36 黒褐色	炭化物・炭化粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
18 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	37 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
19 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	38 黒褐色	ローム粒子少量
20 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	39 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
21 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	40 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量
22 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量	41 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
23 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量	42 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
24 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	43 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
25 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック微量	44 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
26 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量	45 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
27 黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量		

遺物 第24号掘立柱建物跡と合わせて、土師器片12点、須恵器片17点が出土している。第427図1の土師器高台付坏は、本跡・第24号掘立柱建物跡P4の覆土中から、2の須恵器坏は、本跡・第24号掘立柱建物跡P9の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 図示する遺物が本跡と第24号掘立柱建物跡のどちらのものであるか判断はできないが、出土した下限の時期の遺物は9世紀中葉以降のものと考えられる。しかし、本跡より古い第33号掘立柱建物跡が、その下限の時期の遺物から9世紀後葉と考えられるため、本跡の時期はそれ以降と考えらる。また、本跡と第24号掘立柱建物跡は、建て替えの可能性が考えられるため、本跡及び第24号掘立柱建物跡の時期は9世紀後葉以降を中心に想定される。

第24号掘立柱建物跡（第424・426・427図）

位置 調査5区の南西部，G6h2区。

重複関係 第33号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第18号溝及び第25・30号掘立柱建物に掘り込まれている。第946号土坑及び第119・120・126・128号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.85m，梁行は4.25mである。柱間寸法は桁行が1.85～2.00m，梁行が1.30～1.50mである。柱穴は，平面形が長径90～140cm，短径74～95cmの楕円形・円形及び隅丸方形，深さが55～82cmである。

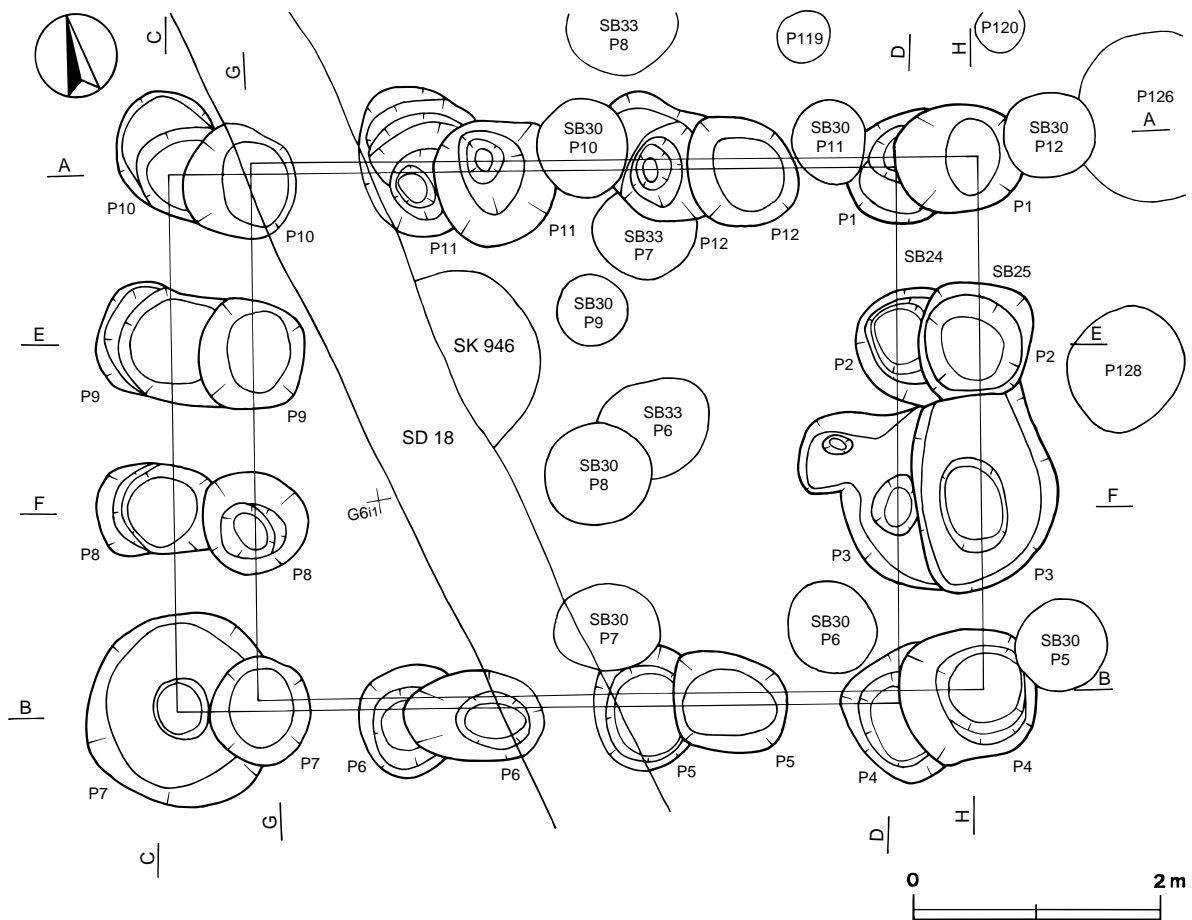
桁行方向 N-80°-W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は，ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・焼土粒子を含む中程度に締まった褐色・暗褐色・極暗褐色・黒褐色土である。

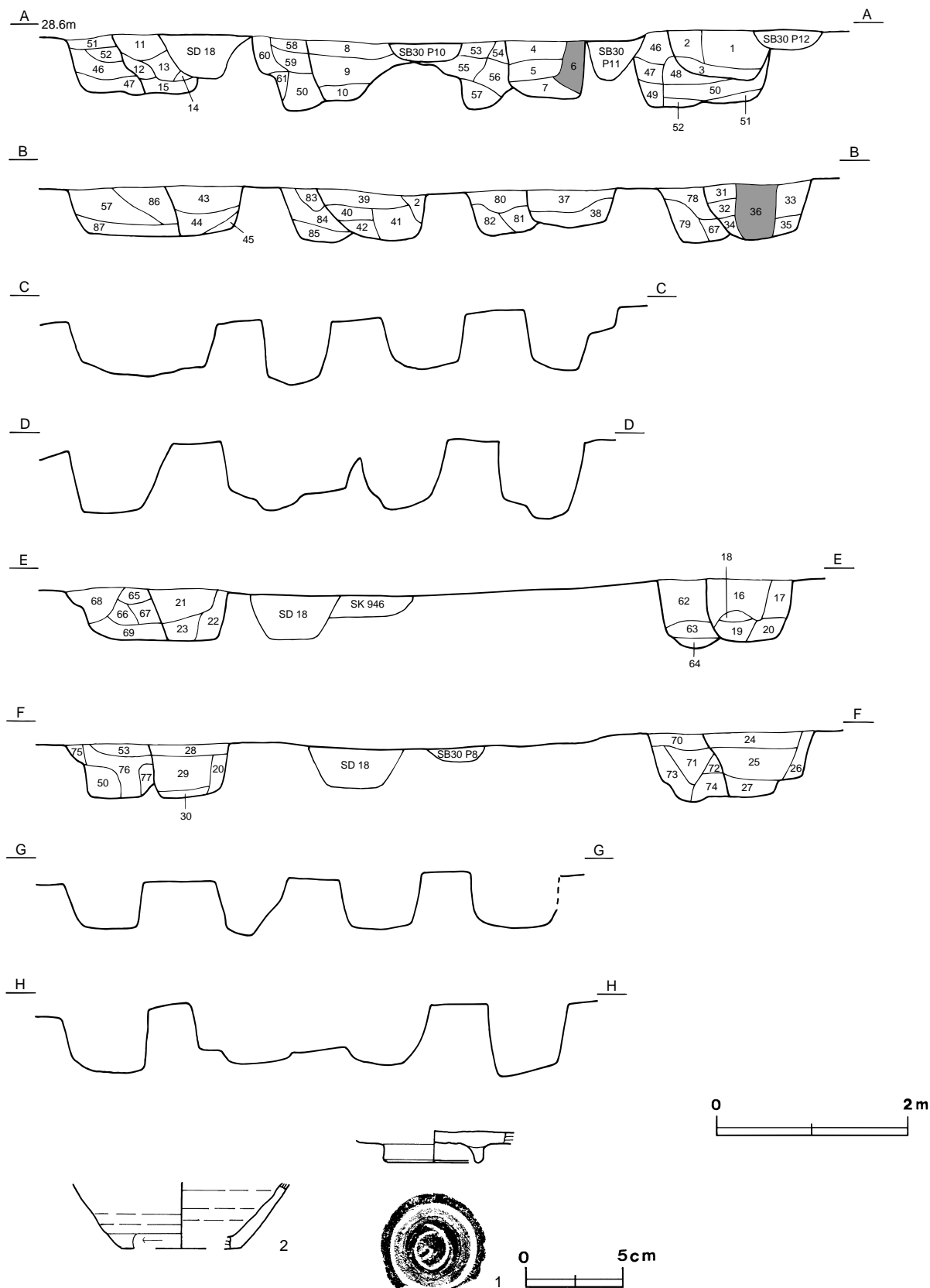
土層解説

46 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	49 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
47 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	50 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
48 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量		

- | | | | |
|---------|---------------------------------------------------------|---------|-----------------------------------------------|
| 51 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 | 69 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 52 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 70 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 53 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 71 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 54 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子微量 | 72 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 55 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, ローム大ブロック・ローム小ブロック微量 | 73 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 56 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 | 74 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量 |
| 57 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 75 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック微量 |
| 58 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 76 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 59 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 77 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 60 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量 | 78 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量 |
| 61 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 79 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量 |
| 62 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 80 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量 |
| 63 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 81 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 64 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量 | 82 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 65 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 83 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 66 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 | 84 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 67 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 | 85 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 68 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 86 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 87 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 |



第426図 第24・25号掘立柱建物跡実測図



第427図 第24・25号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物 すべての柱穴が第25号掘立柱建物跡の柱穴とそれぞれと重複しており、遺物は、本跡と第25号掘立柱建物跡と区別できなかった。よって第25号掘立柱建物跡と合わせて、土師器片12点、須恵器片17点が出土している。

所見 本跡と第25号掘立柱建物跡の遺物を分けられなかったため、その帰属は不明である。本跡と第25号掘立柱建物跡は、ほぼ同じ場所にあり、規模や桁行方向が同じことから、建て替えの可能性が考えられる。時期は、本跡より古い第33号掘立柱建物跡が9世紀後葉に位置づけられるため、それ以降と考えられる。

第24号・第25号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第427図 1	高台付坏 土師器	B (1.6) D 5.0 E 0.9	高台部から底部の破片。高台は短くほぼ垂下する。	底部内面へラ磨き。底部回転へラ切り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・白色粒子、にぶい褐色、普通	P2523 20
2	坏 須恵器	B (3.3) C [6.2]	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部調整不明。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P2524 10%

第30号掘立柱建物跡（第424・428図）

位置 調査5区の南西部，G6i3区。

重複関係 第24・25号掘立柱建物跡を掘り込んでおり，第18号溝に掘り込こまれている。第939号土坑及び第126・128・188号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.55m，梁行は3.90mである。柱間寸法は桁行が1.80～1.90m，梁行が1.30mである。柱穴は，平面形が長径72～100cm，短径62～82cmの楕円形及び円形，深さが16～48cmである。

桁行方向 N-80°-W

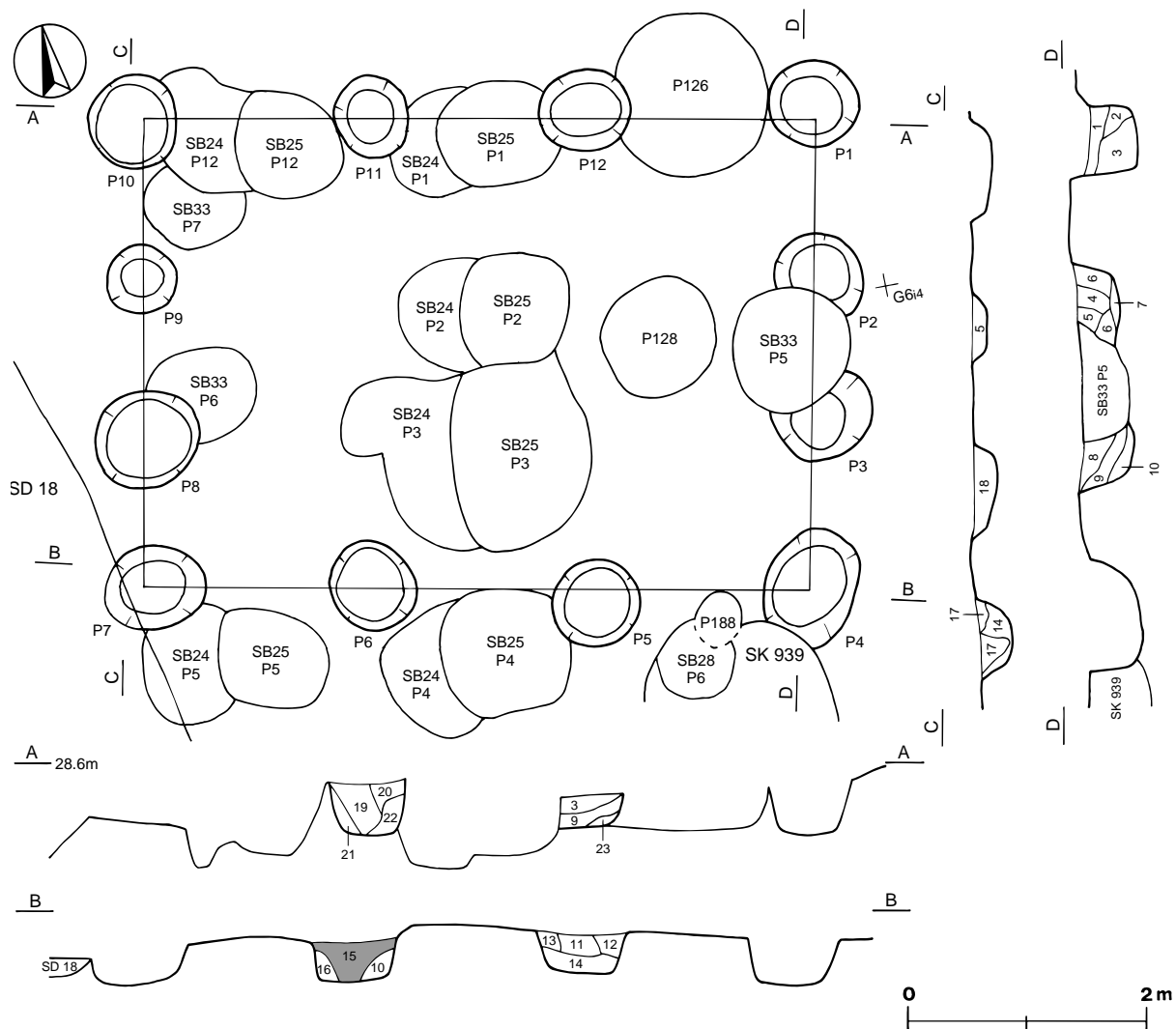
覆土 第15層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色土である。第10・16層は締まりのある埋土である。第5・14層は締まりのある，第1～4・6～13・17～23層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量	12 褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	13 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
3 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	14 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
4 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量	15 暗褐色	炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
5 暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム粒子・黒色土小ブロック微量	16 褐色	ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
6 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	17 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
7 暗褐色	ローム大ブロック中量，ローム粒子少量	18 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8 褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック微量	19 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
9 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	20 暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子微量
10 暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量	21 褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量
11 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量	22 褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
		23 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子，ローム小ブロック少量

遺物 土師器片8点，須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 本跡及び第24・25・33号掘立柱建物跡は，近接して検出され，いずれも桁行3間，梁行3間で，同じ桁行方向を示す東西棟の側柱建物であることから，これら4棟は，比較的近い時期に建て替えが行われた可能性が考えられる。本跡の時期は，出土遺物が細片であり不明であるが，第24・25・33号掘立柱建物跡が9世紀後葉以降に位置づけられることから，それ以後の近い時期を想定することが可能と思われる。



第428図 第30号掘立柱建物跡実測図

第47号掘立柱建物跡 (第429図)

位置 調査3区南西部, G2i7区。

重複関係 第291~294号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間, 梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行が7.00m, 梁行が3.70mである。柱間寸法は桁行が2.20~2.50m, 梁行が1.60~2.10mである。柱穴掘り方は、平面形が長径76~69cm, 短径47~54cmの楕円形及び円形, 深さが20~65cmである。

桁行方向 N - 5° - E

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・焼土ブロック・焼土粒子を含む締まりのない褐色・暗褐色・黒褐色土あり, 柱抜き取り後の覆土である。

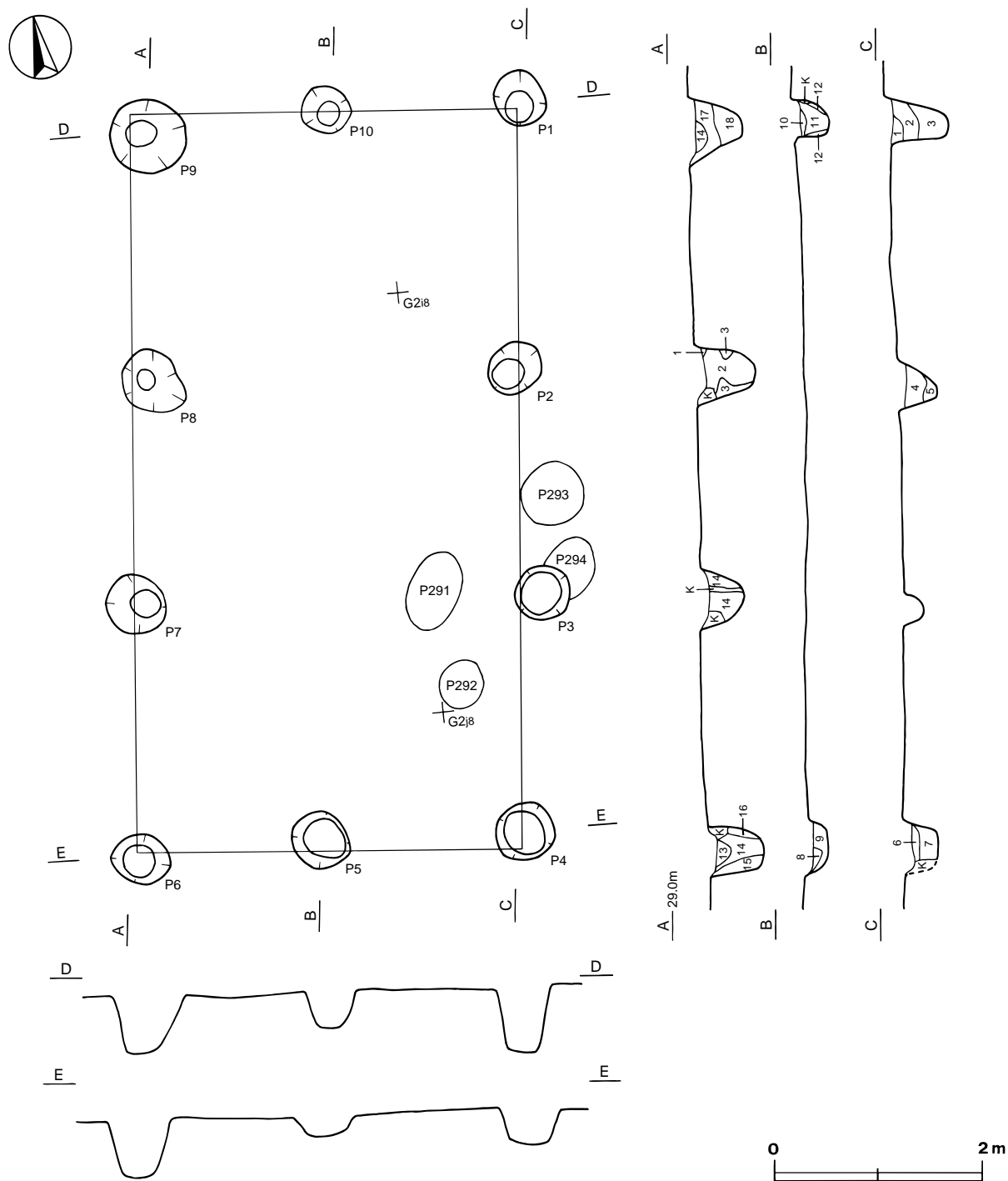
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化物微量 | 6 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化物少量 | 7 褐色 | 焼土小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック目炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|--------|--------------------------------------------|
| 11 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 12 褐色 | ローム中ブロック少量, 炭化物微量 | 16 褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 13 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 14 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量 |

遺物 出土していない。

所見 本跡の詳細な時期は、遺物が出土していないため不明である。



第429図 第47号掘立柱建物跡実測図

第46号掘立柱建物跡（第430図）

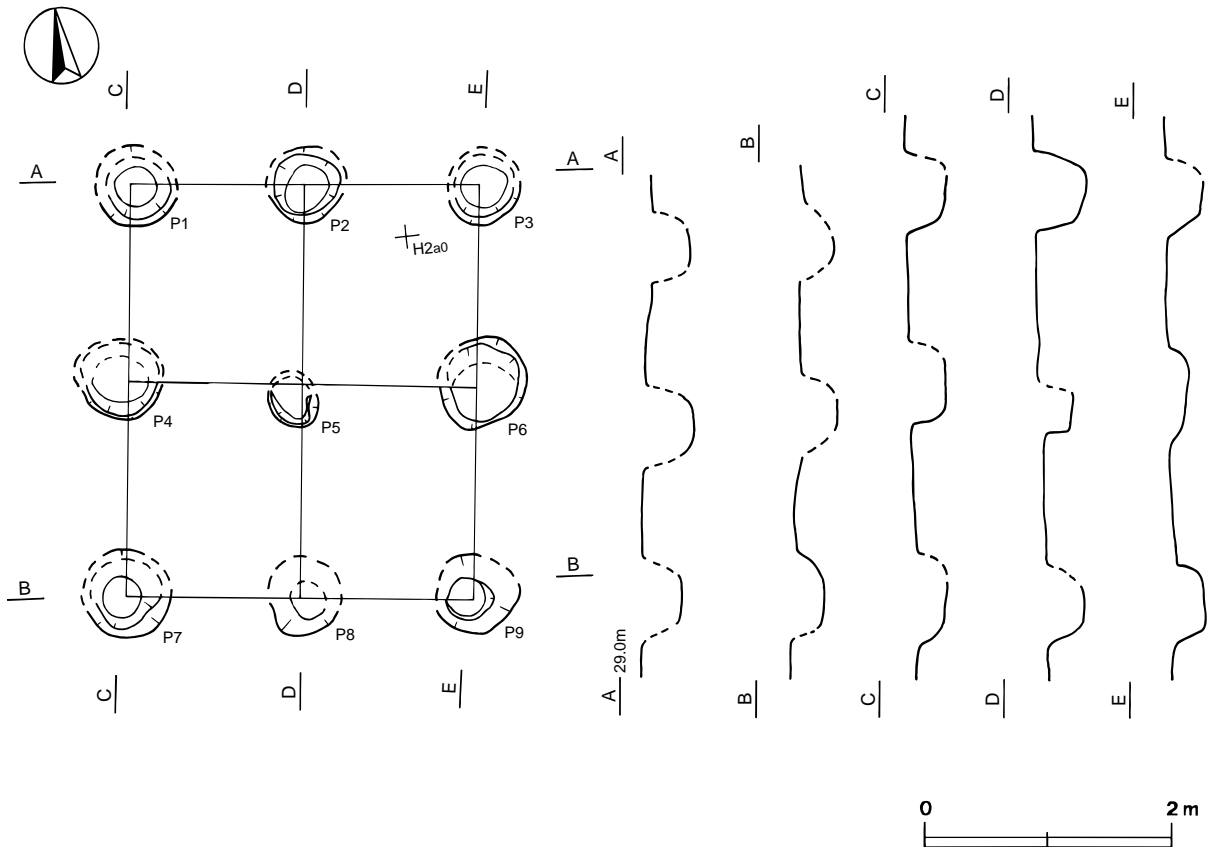
位置 調査3区部，H2a9区。

規模 桁行2間，梁行2間で南北棟の総柱建物跡である。桁行が3.30m，梁行が2.80mである。柱間寸法は桁行が南及び北柱列で北から，1.60m・1.80m，梁行が東及び西柱列で東から，1.30m・1.50mである。柱穴掘り方は，平面形が長径47～72cm，短径39～60cmの楕円形及び円形，深さが16～40cmである。

桁行方向 N - 8° - E

遺物 出土していない。

所見 本跡の詳細な時期は，遺物が出土していないため不明である。



第430図 第46号掘立柱建物跡実測図

第48号掘立柱建物跡（第431図）

位置 調査3区南西部，H2a8区。

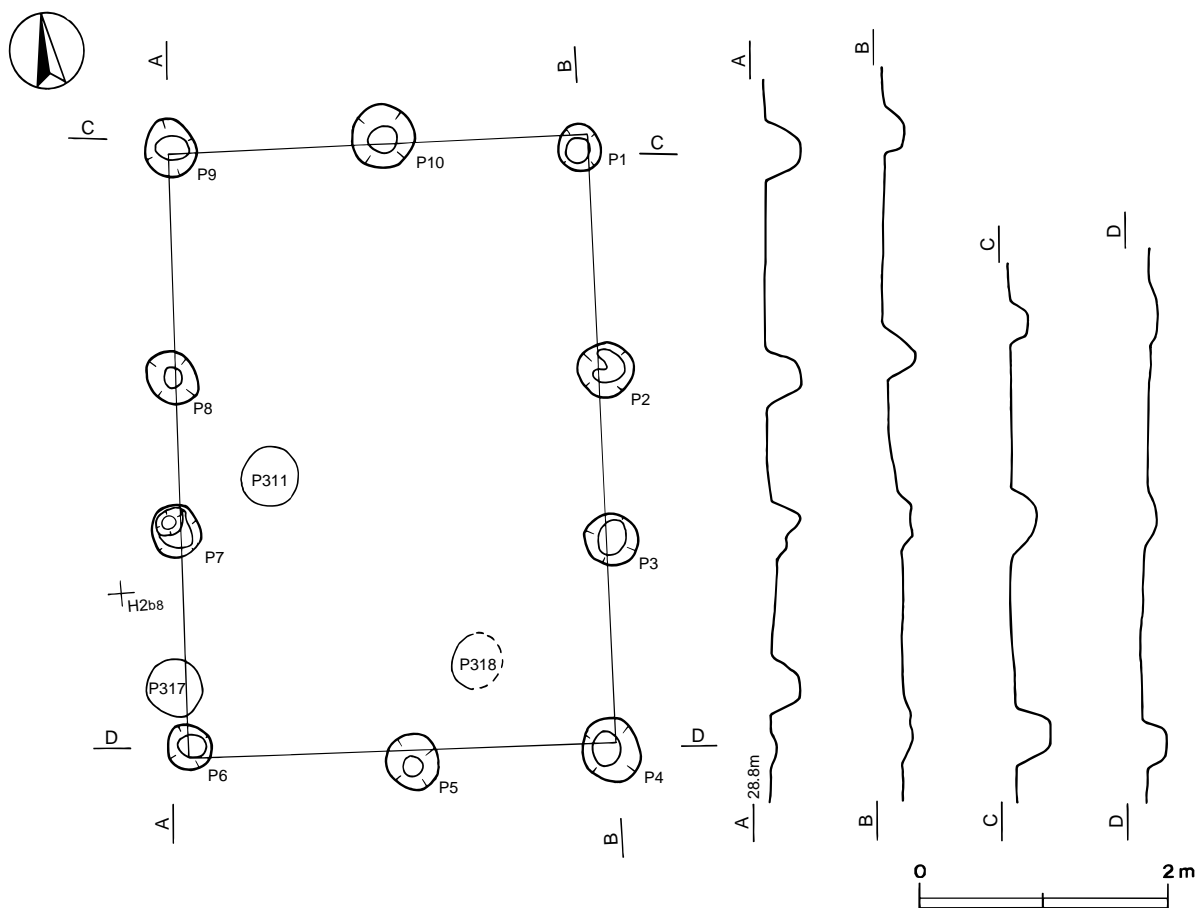
重複関係 第311・317・318号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行が4.80m，梁行が3.40mである。柱間寸法は桁行が1.20～1.80m，梁行が1.60～1.80mである。柱穴掘り方は，平面形が長径52～55cm，短径35～39cmの楕円形及び円形，深さが7～30cmである。

桁行方向 N - 3° - E

遺物 出土していない。

所見 本跡の詳細な時期は，遺物が出土していないため不明である。



第431図 第48号掘立柱建物跡実測図

第49号掘立柱建物跡 (第432図)

位置 調査4区北西部, F3j7区。

重複関係 第790・791・795号土坑と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間, 梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行が6.25m, 梁行が4.60mである。柱間寸法は桁行が2.05~2.20m, 梁行が1.50~1.60mである。柱穴掘り方は, 平面形が長径62~102cm, 短径48~70cmの楕円形及び円形, 深さが36~73cmである。

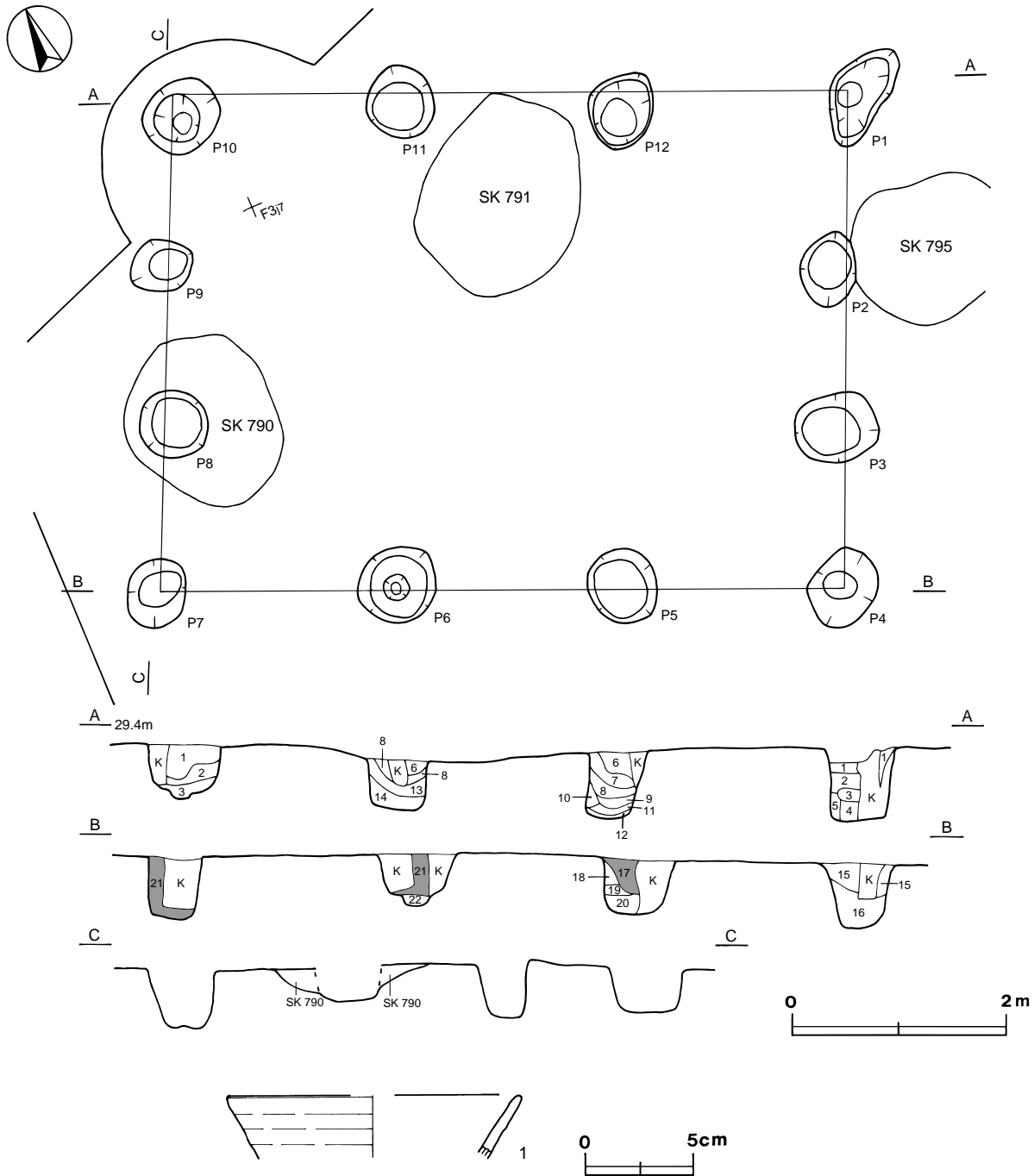
桁行方向 N-67° - W

覆土 第17・21層は柱痕跡に相当する。第18~20・22層は締まりのある埋土である。また, 攪乱のため柱痕跡は確認されなかったが, 第7~14層は埋土と考えられ, ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子及び粘土ブロックを含む, 締まりのある暗褐色・黒褐色土の互層をなしている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------------------------|--------|------------------------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量, 粘土小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・焼土小ブロック微量 | 9 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 粘土小ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量 |

- | | | | |
|--------|-----------------------------------------------------------|--------|--------------------------------------------|
| 11 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 17 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 12 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | 18 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 |
| 13 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック少量, 粘土小ブロック微量 | 19 暗褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック微量 |
| 14 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 20 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 15 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック中量, ローム中ブロック・粘土中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 21 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 16 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 22 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・粘土小ブロック少量 |



第432図 第49号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物 縄文土器片 2 点，土師器 13 点，須恵器片 6 点が出土している。第 432 図 1 は須恵器の坏でピットの覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から平安時代（9 世紀）と考えられる。

第 49 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

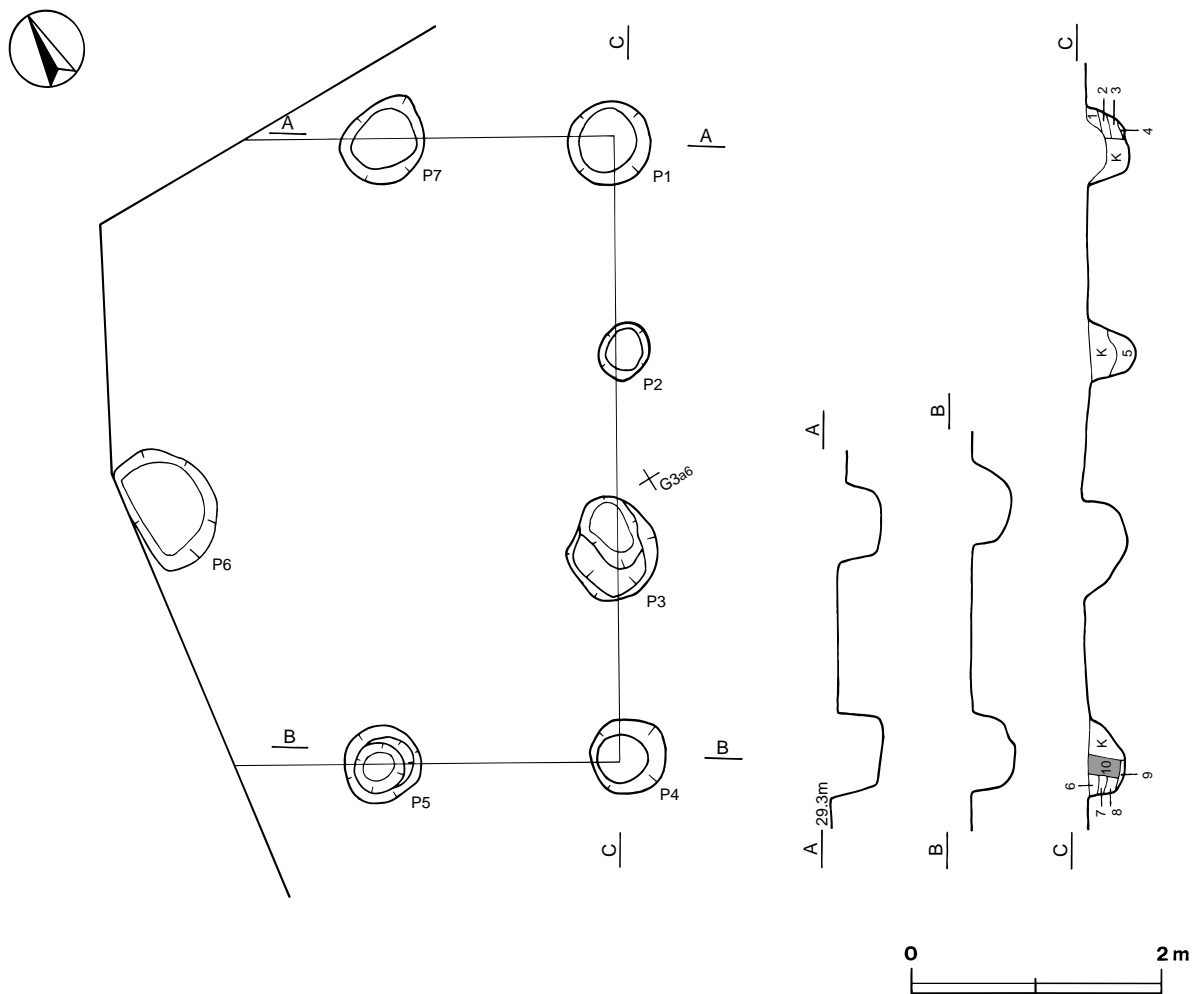
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 432 図 1	坏 須恵器	A [13.6] B (2.9)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	長石 橙色 普通	P 2501 5 %

第 50 号掘立柱建物跡 (第 433 図)

位置 調査 4 区北西部，F3j6 区。

規模 本跡の北西部が調査区外になるため正確な規模は不明であるが，南東側柱列が 3 間 (5.00m)，北東側及び南西側柱列が 2 間以上の側柱建物跡である。柱間寸法は南東側柱列で 1.40~1.70m，北東側柱列で 1.90m，南東側柱列で 1.80m である。柱穴は，平面形が長径 47~73cm，短径 40~65cm の楕円形及び円形，深さが 29~37cm である。

桁行方向 N - 59° - W



第 433 図 第 50 号掘立柱建物跡実測図

覆土 第10層は柱痕跡に相当する。第6～9層は締まりのある埋土である。また、P1では攪乱のため柱痕・柱抜き取り痕は確認されなかったが、第1～4層が埋土と考えられ、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子を含む、締まりのある暗褐色土の互層をなしている

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量	8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	9 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量	10 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量		
6 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック微量		

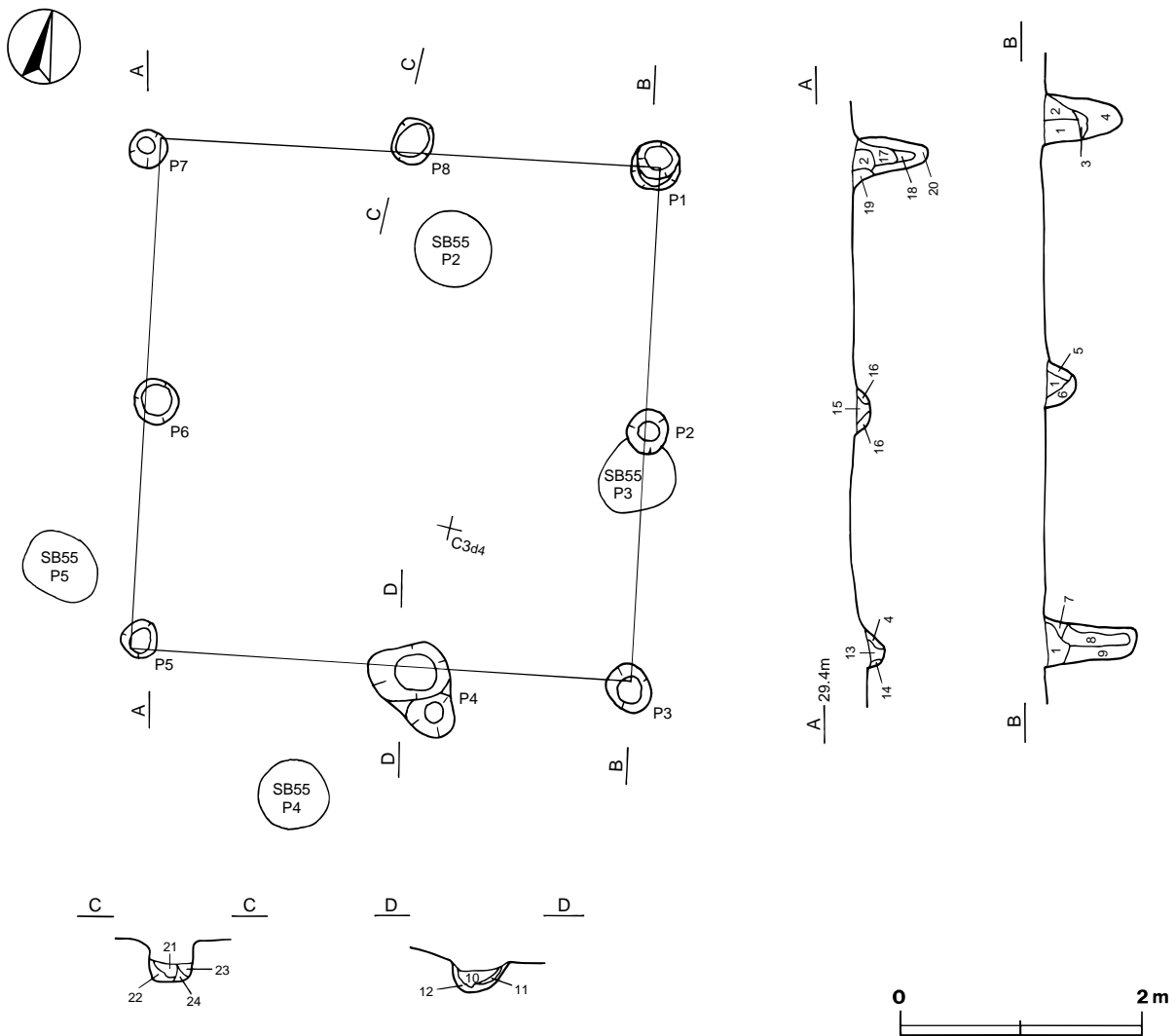
遺物 縄文土器片2点, 土師器片10点, 須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり, 詳細な時期は不明である。

第53号掘立柱建物跡 (第434・435図)

位置 調査2区の北部, C3c3区。

重複関係 第55号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。



第434図 第53号掘立柱建物跡実測図

規模 桁行2間，梁行2間であり，南北棟の側柱建物跡である。桁行は4.19m，梁行は4.13mである。柱間寸法は，桁行が2.03～2.15m，梁行が，2.03～2.10mである。柱穴は，平面形が長径31～78cm，短径28～50cmの楕円形及び円形，深さは10～76cmである。

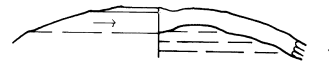
桁行方向 N-11°-W

覆土 第1～11，13～21，23・24層は不規則な堆積状況を示し，中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。第12・22層は締まりのある埋土である。

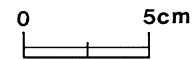
土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|---------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 14 褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量，ローム粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 16 褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 17 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 褐色 | ローム粒子微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 | 19 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 20 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子中量 | 21 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 22 極暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子少量 | 23 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 12 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 24 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物 須恵器1点が出土している。第435図1の須恵器蓋はP7の覆土中から出土している。



所見 時期は，出土土器から8世紀代と考えられる。



第435図 第53号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第53号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 1	蓋 須恵器	B (1.9)	天井部片。天井部は伏せ皿状。	天井部回転ヘラ削り。	礫・長石・針状鉱物 灰白色 普通	P7161 15%

第54号掘立柱建物跡 (第436・437図)

位置 調査2区の北部，C3i3区。

重複関係 第158号住居跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行2間，梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は，3.70m，梁行は，3.65mである。柱間寸法は桁行が1.73～1.97m，梁行が1.76～1.86mである。柱穴は，平面形が長径28～54cm，短径12～32cmの楕円形及び円形，深さが18～54cmである。

桁行方向 N-79°-W

覆土 第1・6・9～11層は柱抜き取り後の覆土である。第2～5，7・8層は締まりのある埋土である。

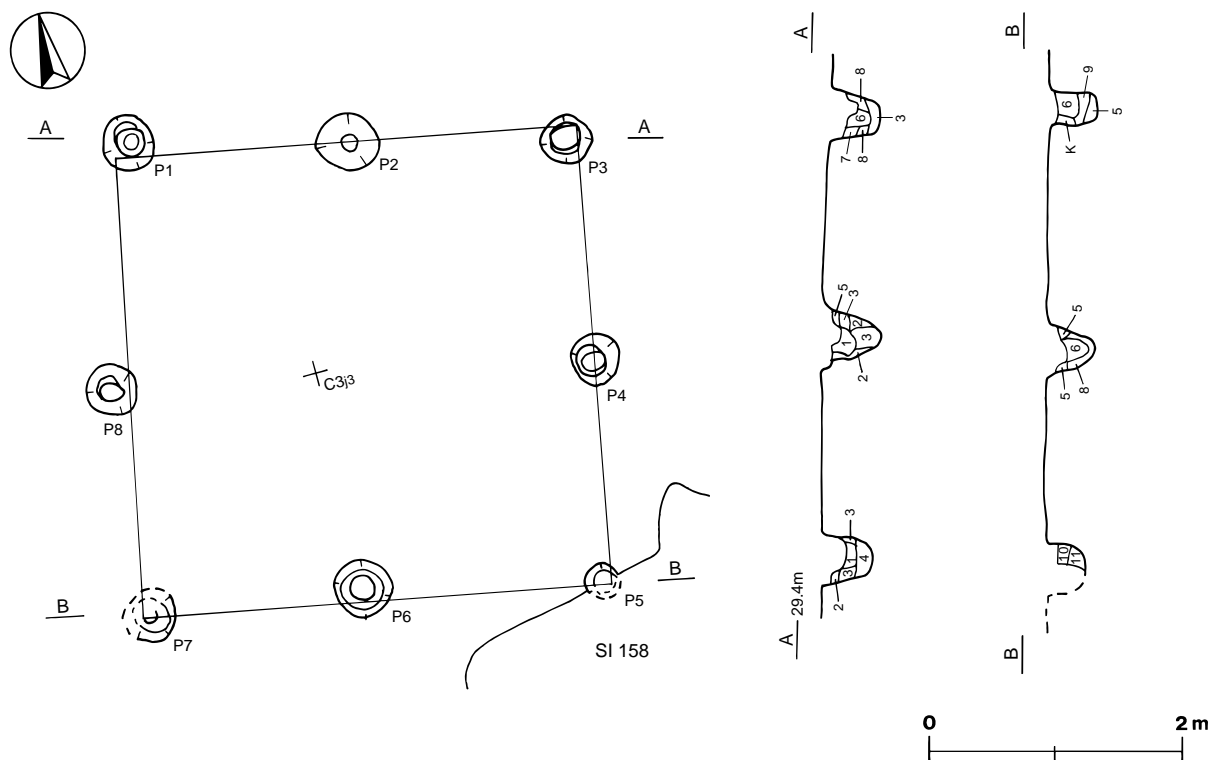
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 9 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック微量 | | |

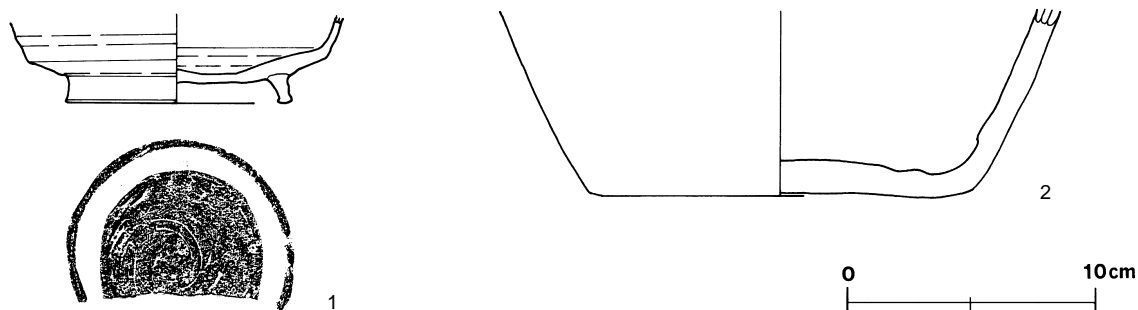
遺物 須恵器片2点が出土している。第437図1の須恵器盤はP2，2の須恵器甕はP4のそれぞれ覆土中か

ら出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第436図 第54号掘立柱建物跡実測図



第437図 第54号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第54号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図 1	高台付 須恵器	B (3.4)	高台部から体部にかけての破片。 高台はふんばる。体部は下位に稜 を有し，外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部回 転へら削り後，高台貼り付け。	礫・長石・石英 灰オリーブ色 普通	P7162 40% PL67
		D 8.9				
		E 1.1				
2	甕 須恵器	B (7.3)	底部から体部下端にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端横位のへら削り，内面ナ デ。底部調整不明。	礫・長石・石英・雲 母 灰色，普通	P7163 10%
		C 15.2				

第56号掘立柱建物跡（第438・439図）

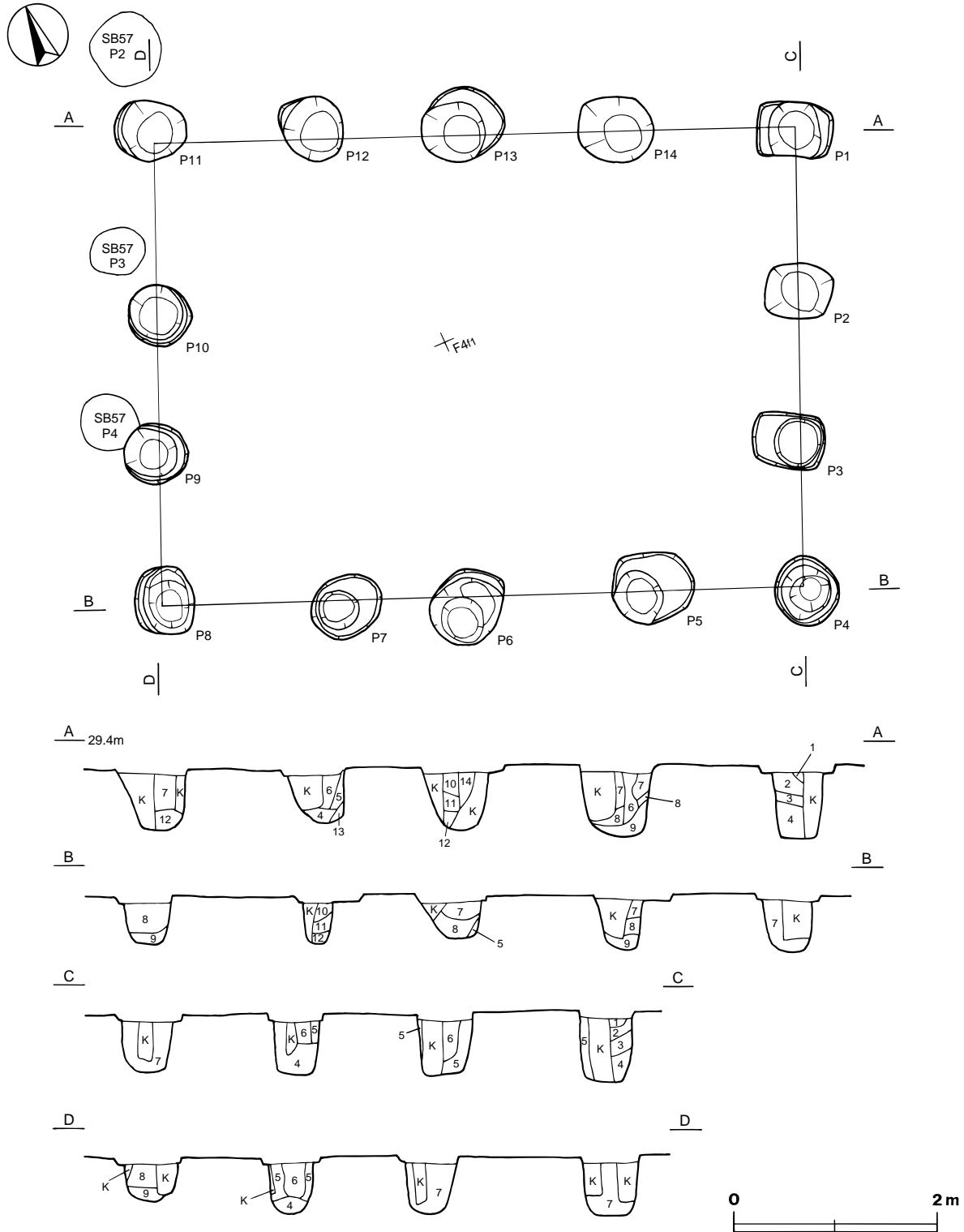
位置 調査2区，台地南部の縁辺部，F3e0区。

重複関係 第57号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行4間，梁行3間で東西棟の側柱建物跡と考えられる。桁行6.33m，梁行4.50mである。桁行は，P

6・P7間が1.40m、P12・P13間が1.43mとやや狭く、また、梁行においてP10・P11間が1.78mとやや広くなっている。それ以外の柱間寸法は、桁行が1.60～1.82m、梁行が1.36～1.57mである。柱穴は、平面形が長径62～84cm、短径52～80cmの楕円形及び円形、深さが50～70cmである。

桁行方向 N-68°-W



第438図 第56号掘立柱建物跡実測図

覆土 P8の8・9層は、レンズ状の堆積状況を示し、しまりがない柱抜き取り後の覆土である。他の柱穴においては、攪乱のため堆積状況の全容は不明であるが、第1～3, 14層は中程度のしまりがある、第4～8,

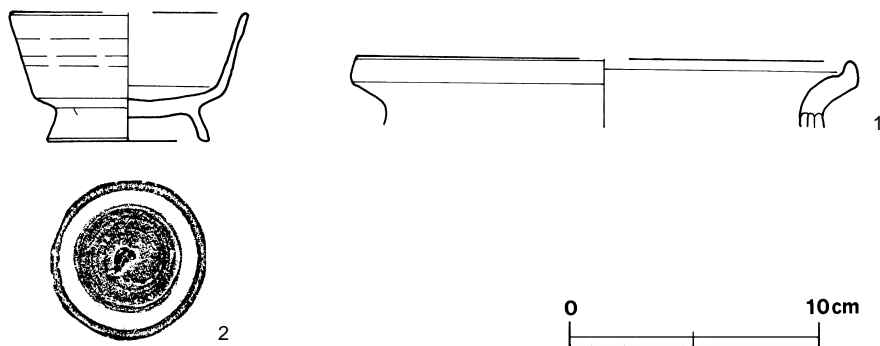
10～13層はしまりががない柱抜き取り後の覆土と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	粘土小ブロック・粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・粘土中ブロック少量	8	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・粘土小ブロック微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	9	黒褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・粘土小ブロック少量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量，ローム中ブロック・粘土小ブロック少量	10	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック中量，ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土粒子少量	11	黒褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・粘土粒子少量	12	黒褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
6	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子中量，ローム中ブロック少量	13	暗褐色	ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
7	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・粘土粒子少量	14	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量，粘土大ブロック微量

遺物 土師器 1点，須恵器 1点が出土している。第439図1の土師器甕はP11，2の須恵器高台付坏はP13のそれぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第439図 第56号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第56号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第439図 1	甕 土師器	A [19.7] B (2.6)	口縁部片。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色，普通	P7164 5%
2	高台付坏 須恵器	A [9.4] B 5.0 D 6.4 E 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	礫・長石・針状鉱物 褐灰色 普通	P7165 45% PL67

第57号掘立柱建物跡（第440図）

位置 調査2区，台地の南部縁辺部，F3d0区。

重複関係 第56・60号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行2間で南北棟の側柱建物跡と考えられる。桁行5.62m，梁行3.60mである。柱間寸法は桁行が1.74～1.95m，梁行が1.65～1.95mである。柱穴は，平面形が長径25～72cm，短径25～66cmの楕円形及び円形，深さが7～37cmである。

桁行方向 N-27° - E

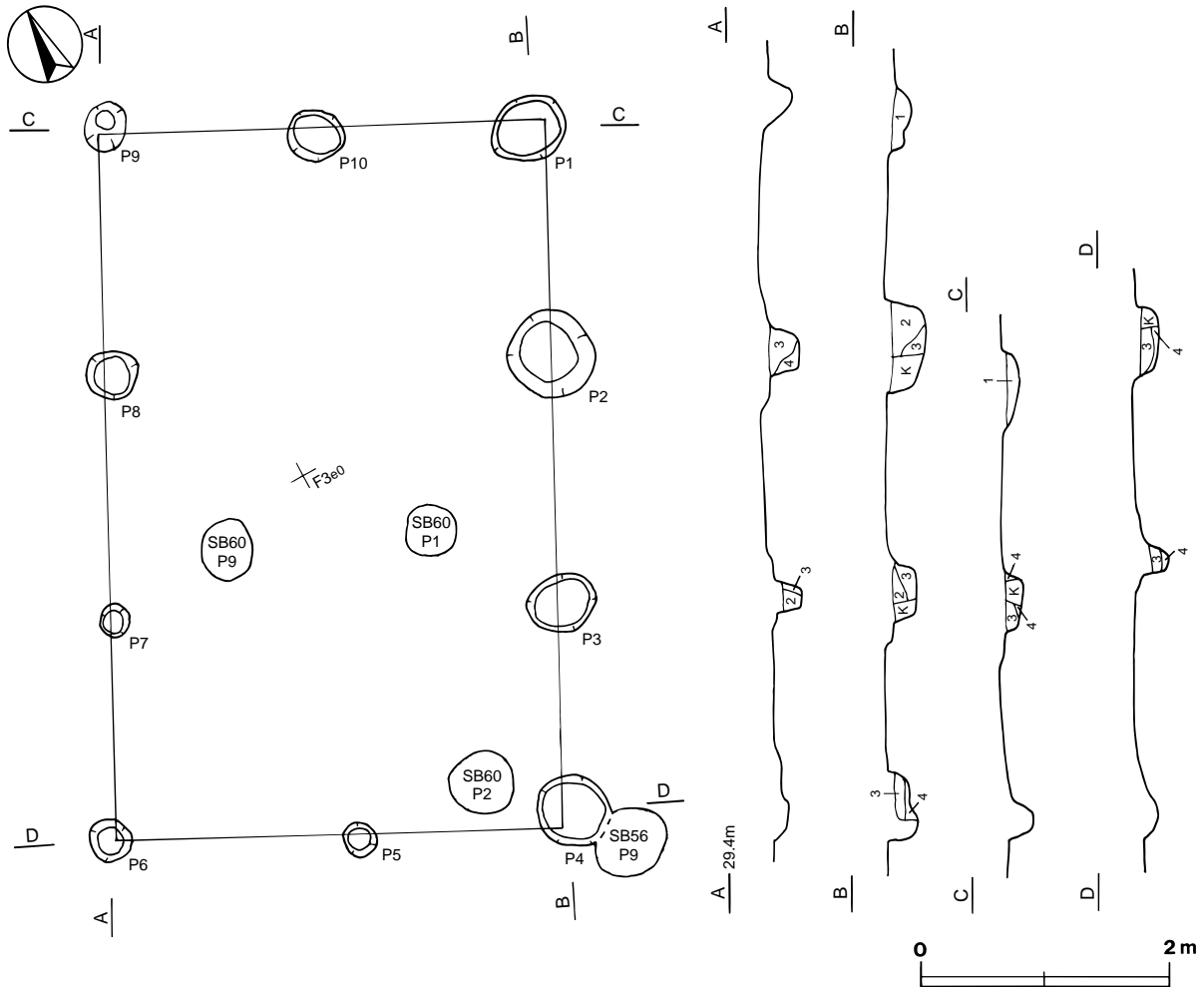
覆土 すべてレンズ状及び不規則な堆積状況を示し，しまりのない柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量 |

遺物 土師器片 1 点, 須恵器片 1 点が出土している。いずれも細片であり, 図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり, 詳細な時期は不明であるが, 土師器片及び須恵器片が出土していることから, 奈良・平安時代と考えられる。



第440図 第57号掘立柱建物跡実測図

第58号掘立柱建物跡 (第441図)

位置 調査2区, 台地南部の縁辺部, F3f7区。

重複関係 第24号溝と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行は南側柱列で3間, 北側柱列で3間, 梁行は東側柱列で2間, 西側柱列で1間であり, 東西棟の側柱建物跡と考えられる。桁行は5.13m, 梁行は4.08mである。柱間寸法は桁行が2.03~2.05m, 梁行が1.56~1.81mである。柱穴は, 平面形が長径28~72cm, 短径32~74cmの楕円形, 深さが8~34cmである。

桁行方向 N-68° - W

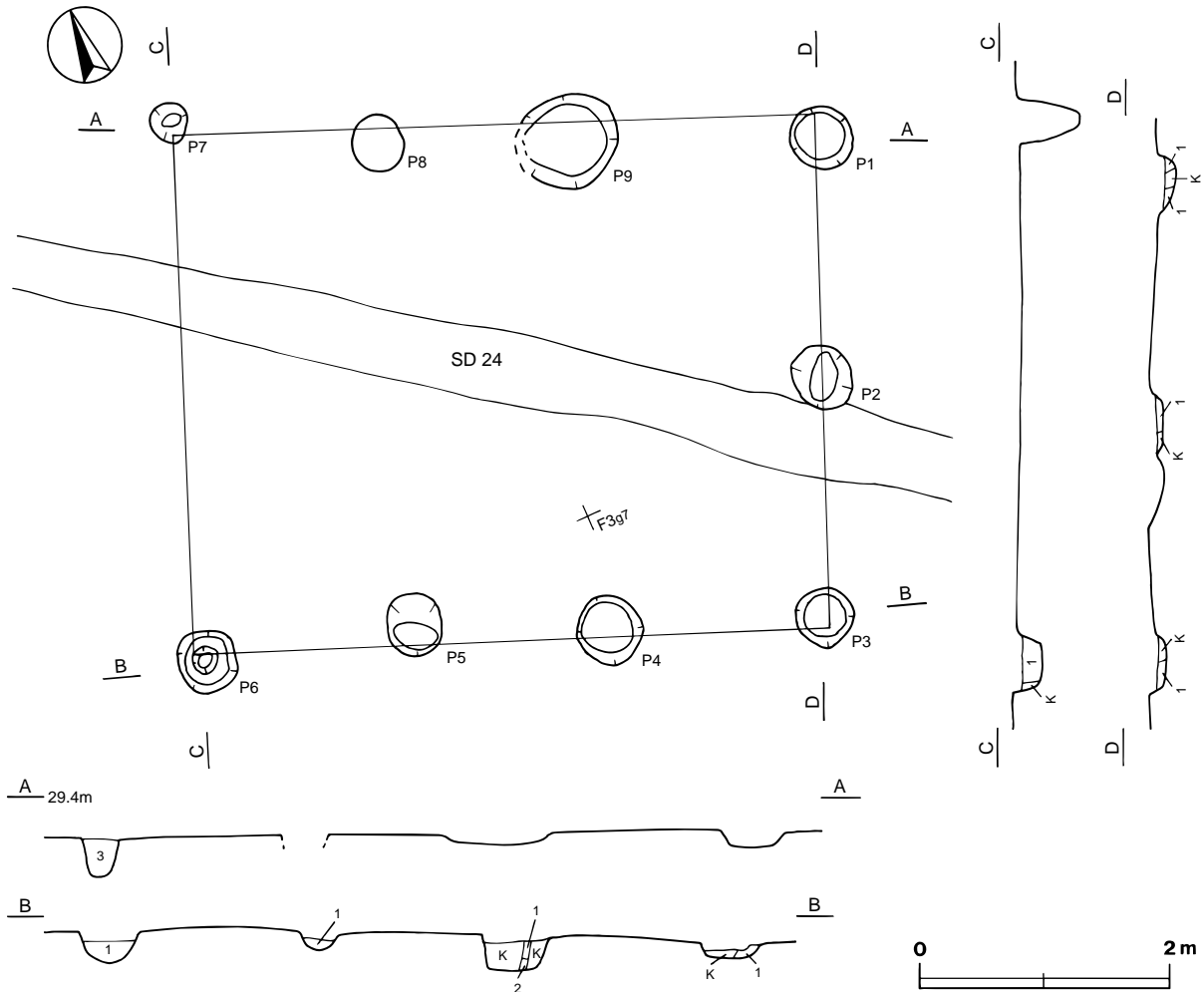
覆土 すべてしまりのない柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量 | | |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。しかし、掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと、また、桁行方向が、本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物跡らのそれとほぼ同じであることから、本跡も奈良・平安時代の可能性が考えられる。



第441図 第58号掘立柱建物跡実測図

第59号掘立柱建物跡 (第442図)

位置 調査2区、台地南部の縁辺部、F3d7区。

規模 桁行3間、梁行2間であり、東西棟の側柱建物跡である。桁行は4.95m、梁行は3.97mである。桁行はP4・P5間が1.47m、P1・P10間が1.35mとやや狭くなっている。それ以外の柱間寸法は、桁行きが1.68～1.82m、梁行が1.86～2.09mである。柱穴は、平面形が長径37～86cm、短径31～48cmの楕円形及び長楕円形、深さが22～52cmである。

桁行方向 N-69°-W

覆土 第5・16層は締まりのある埋土、第4・9・12・15・17層は中程度にしまり、第1～3、6～8、10・11、13・14層はしまりのない不規則な堆積状況を示していることから柱抜き取り後の覆土である。

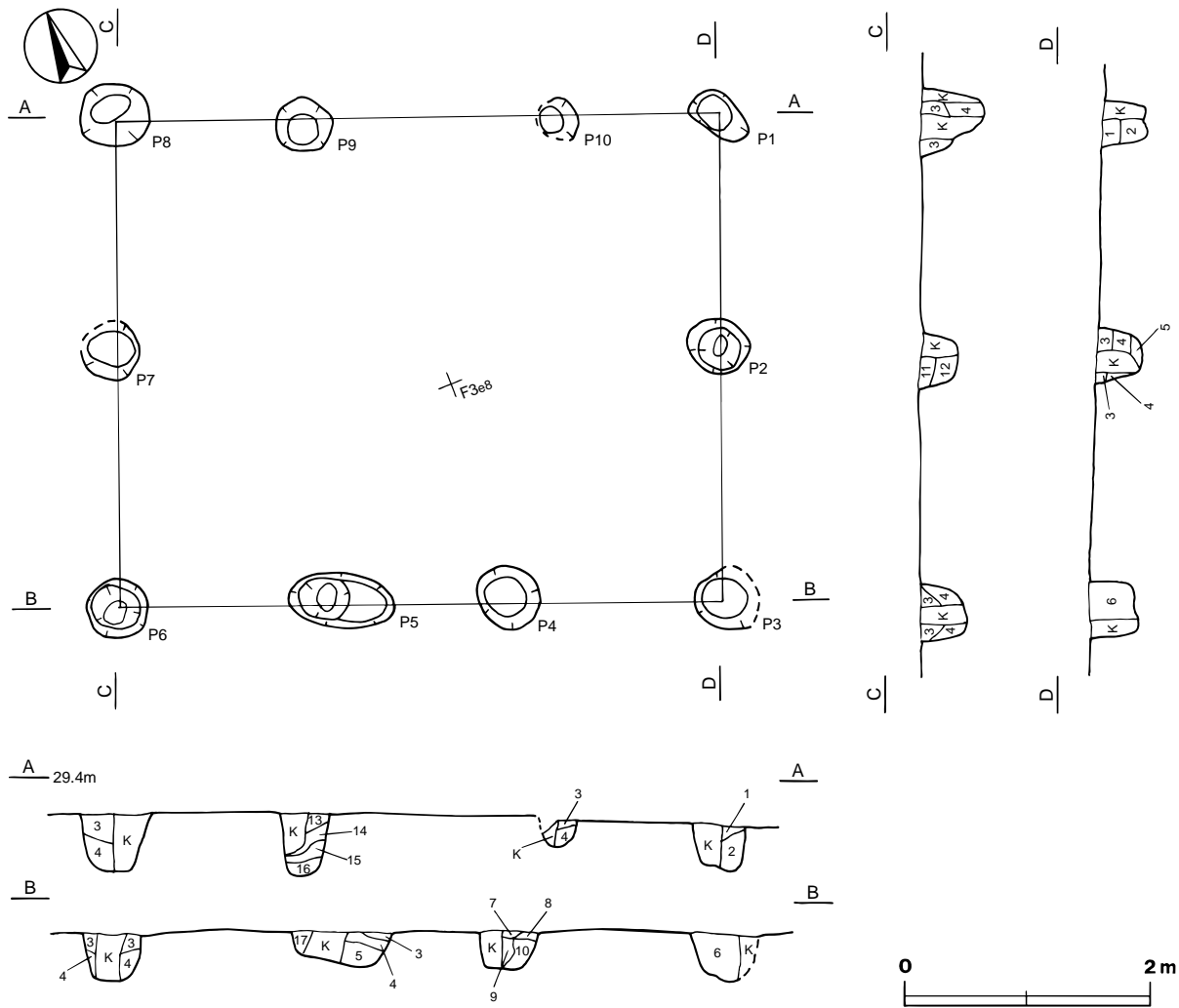
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量、粘土小ブロック少量、ローム中ブロック微量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量 |

- | | | | |
|--------|-------------------------------------------|--------|-------------------------------------|
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量，ローム中ブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，粘土小ブロック微量 | 13 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 15 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子少量，ローム大ブロック微量 |
| 9 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 16 暗褐色 | ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 10 黒褐色 | 粘土小ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・粘土中ブロック微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 11 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，粘土粒子微量 | | |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず，詳細な時期は不明である。しかし，掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと，また，桁行方向が，本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物跡らのそれとほぼ同じであることから，本跡も奈良・平安時代の可能性が考えられる。



第442図 第59号掘立柱建物跡実測図

第60号掘立柱建物跡 (第443図)

位置 調査2区，台地南部の縁辺部，F3e9区。

重複関係 第57号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 南側柱列で南西コーナーの柱穴1か所，北側柱列の柱穴1か所が確認されなかったが，配列から，桁行3間，梁行2間の東西棟で，側柱建物跡と考えられる。桁行は5.12m，梁行は4.11m，柱間寸法は桁行が1.64

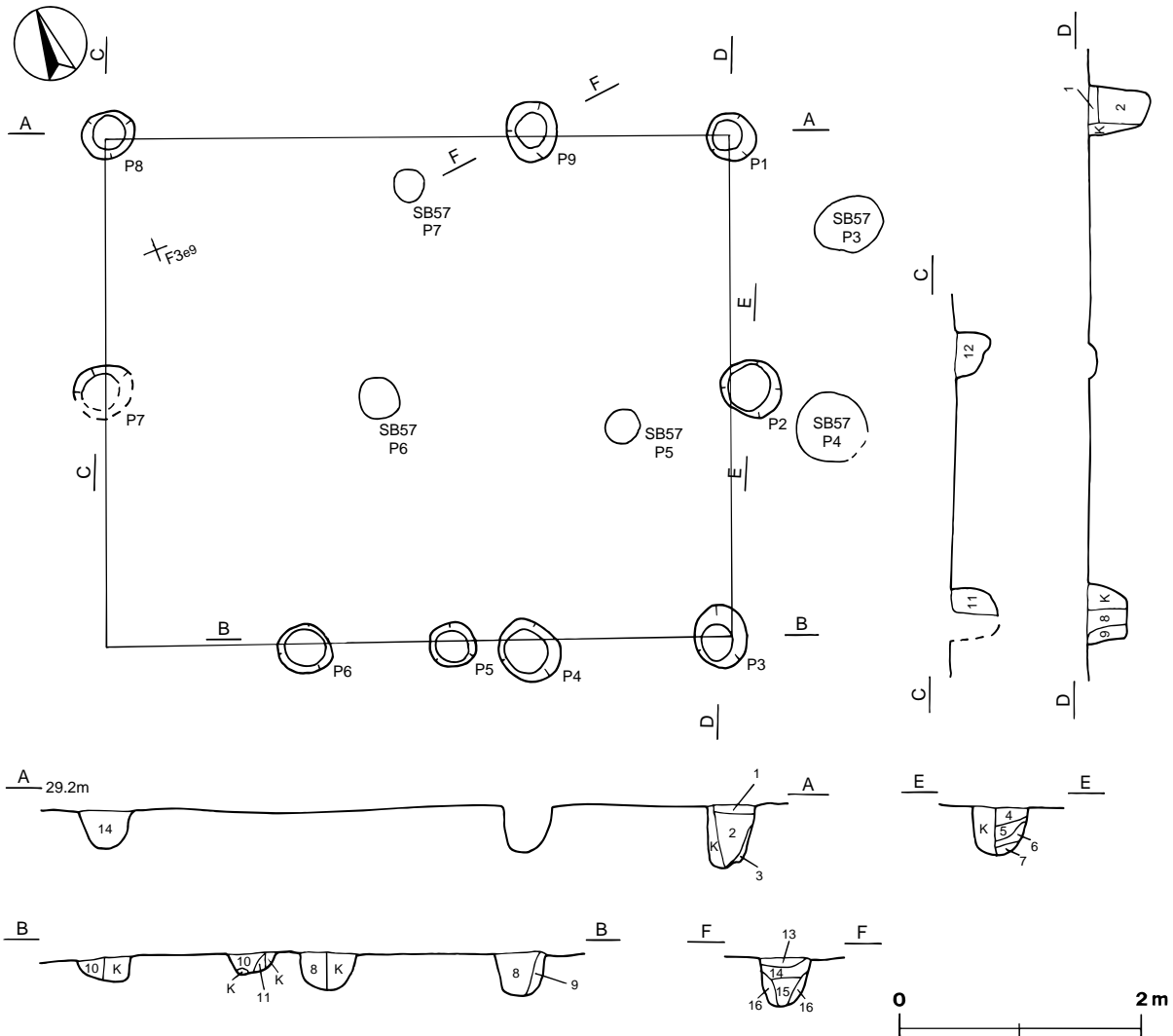
～1.80m, 梁行が2.00～2.11mである。柱穴は、平面形が長径38～55cm, 短径36～46cmの楕円形及び円形, 深さが17～50cmである。

桁行方向 N-69°-W

覆土 第7層は締めりのある埋土, 第1～6, 8～16層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------------|--------|---------------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・粘土小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・粘土小ブロック少量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子中量, ローム中ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック・粘土粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 | 13 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物微量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 14 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 |
| 7 黒褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 | 15 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化物微量 | 16 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 |



第443図 第60号掘立柱建物跡実測図

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず, 詳細な時期は不明である。しかし, 掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと, また, 桁行方向が, 本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立

柱建物跡らのそれとほぼ同じであることから、本跡も奈良・平安時代の可能性が考えられる。

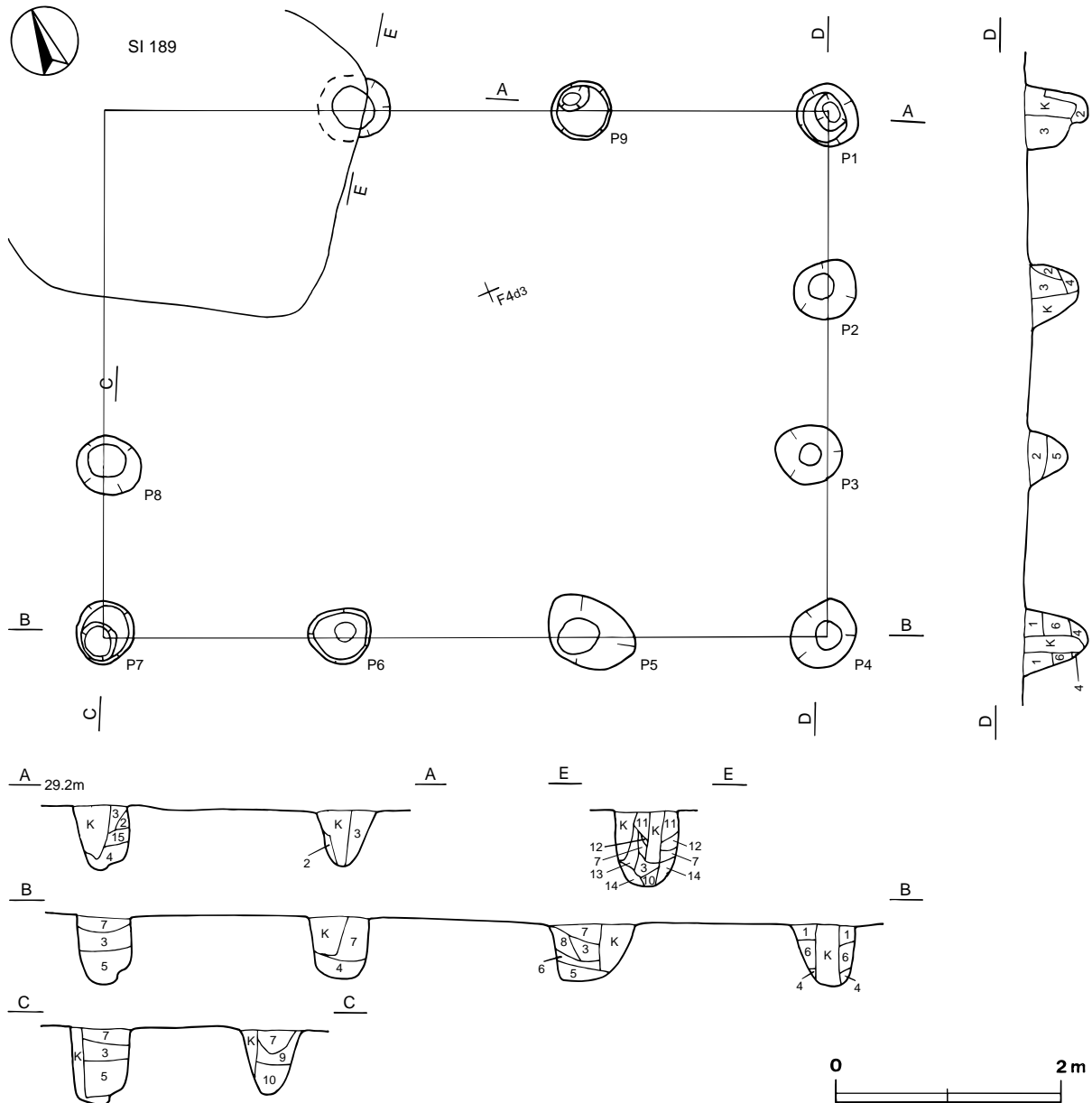
第61号掘立柱建物跡（第444図）

位置 調査2区，台地南部の縁辺部，F4c2区。

重複関係 第189号住居跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 北側柱列で北西コーナーの柱穴1か所が確認されなかったが，配列から，桁行3間，梁行3間の東西棟で，側柱建物跡と考えられる。桁行は6.42m，梁行は4.62m，柱間寸法は桁行が2.02～2.19m，梁行が1.50～1.56mである。柱穴は，平面形が長径50～80cm，短径49～60cmの楕円形及び円形，深さが36～68cmである。

桁行方向 N-68°-W



第444図 第61号掘立柱建物跡実測図

覆土 第4・5層は締まりのある埋土，第1～3，6～15層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- 1 黒褐色 量 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少
- 2 黒褐色 量 ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

3	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子微量	10	黒褐色	ローム小ブロック・粘土粒子中量, ローム中ブロック・粘土小ブロック少量
4	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	11	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量
5	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量	12	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック微量
6	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	13	黒褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・粘土粒子少量
7	黒褐色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量
8	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 粘土小ブロック微量	15	黒褐色	ローム小ブロック・粘土粒子中量, ローム中ブロック少量, 粘土中ブロック微量
9	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・粘土粒子少量			

遺物 土師器片 5 点, 須恵器片 3 点が出土している。いずれも細片であり, 図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり, 詳細な時期は不明であるが, 掘立柱建物跡が集中して検出された調査 5 区に近い調査 2 区の南部で検出されたこと, また, 桁行方向がそれらとほぼ同じであること, 土師器片及び須恵器片が出土していることから, 奈良・平安時代と考えられる。

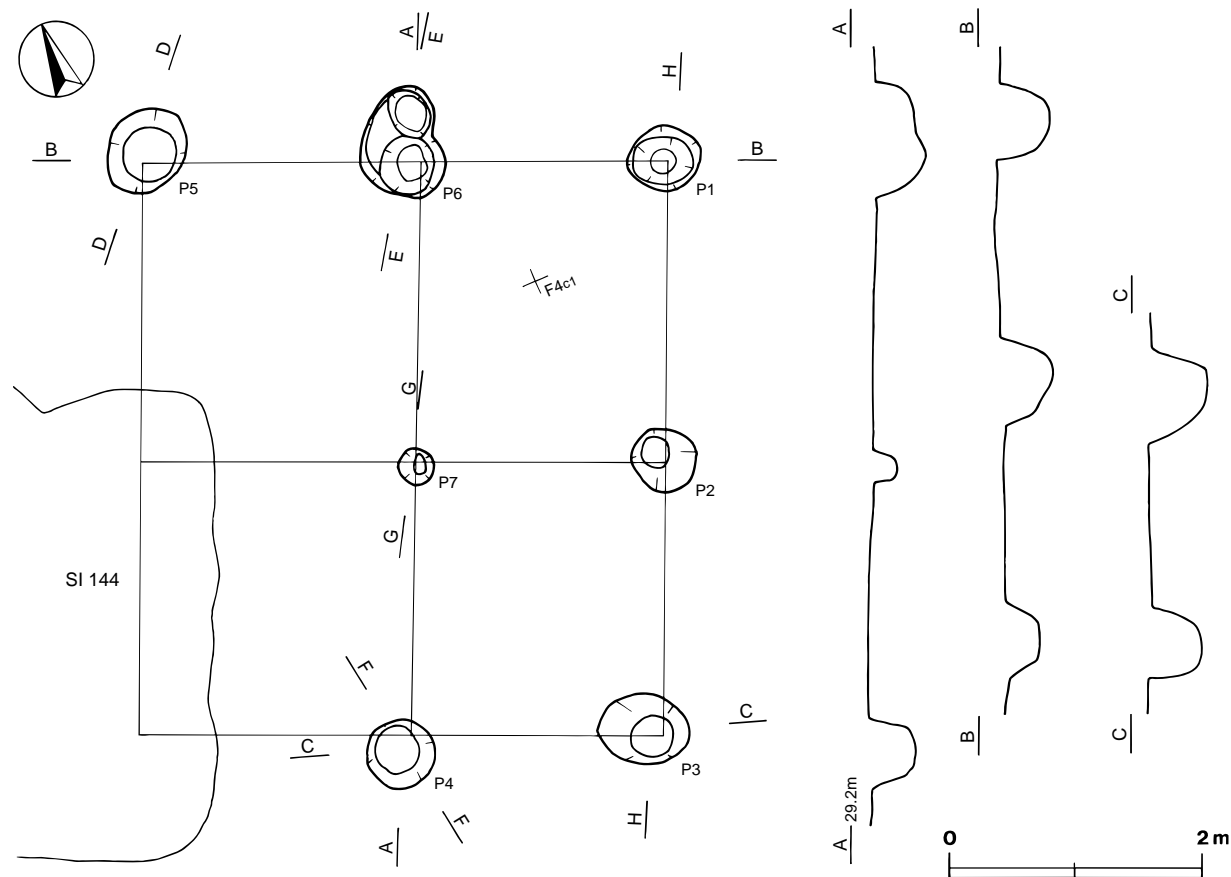
第62号掘立柱建物跡 (第445・446図)

位置 調査 2 区, 台地南部の縁辺部, F3c0区。

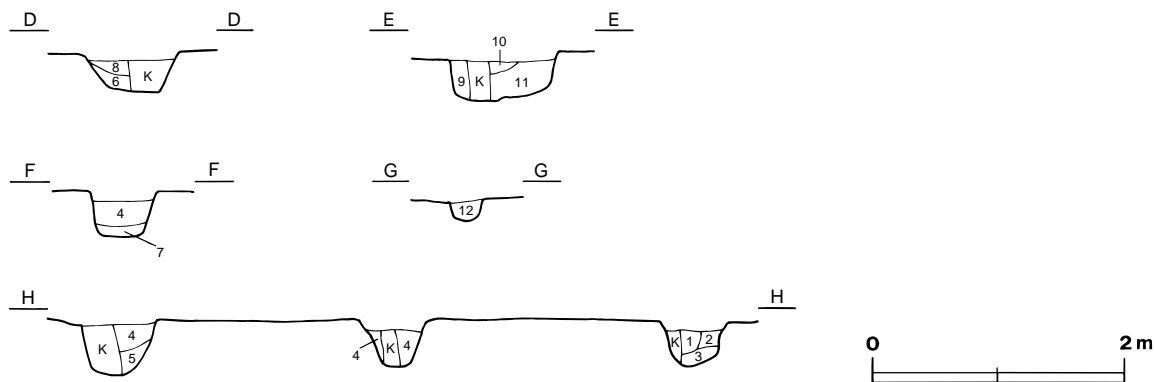
重複関係 第144号住居と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 西側柱列で柱穴 2 か所が確認されなかったが, 配列から, 桁行 2 間, 梁行 2 間の南北棟で, 総柱建物跡と考えられる。桁行は 4.57m, 梁行は 4.17m, 柱間寸法は桁行が 2.27~2.29m, 梁行が 2.04~2.12m である。柱穴は, 平面形が長径 30~85cm, 短径 27~69cm の不整楕円形, 楕円形及び円形で, 深さが 19~45cm である。

桁行方向 N-23° - E



第445図 第62号掘立柱建物跡実測図(1)



第446図 第62号掘立柱建物跡実測図(2)

覆土 第1～7, 9～12層は柱抜き取り後の覆土である。第8層は締めりのある埋土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 | 9 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量, ローム中ブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 12 黒褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量 |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず, 詳細な時期は不明である。しかし, 掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと, また, 梁行方向が, 本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物跡らのそれとほぼ同じであることから, 本跡も奈良・平安時代の可能性が考えられる。

第63号掘立柱建物跡 (第447図)

位置 調査2区, 台地南部の縁辺部, E3i9区。

規模 桁行4間, 梁行3間の東西棟で, 側柱建物跡である。桁行は6.48m, 梁行は4.74m, 柱間寸法は桁行が1.49～1.76cm, 梁行が1.51～1.60cmである。柱穴は, 平面形が長径41～63cm, 短径34～57cmの楕円形及び円形, 深さが26～58cmである。

桁行方向 N-74° - W

覆土 すべて柱抜き取り後の覆土である。

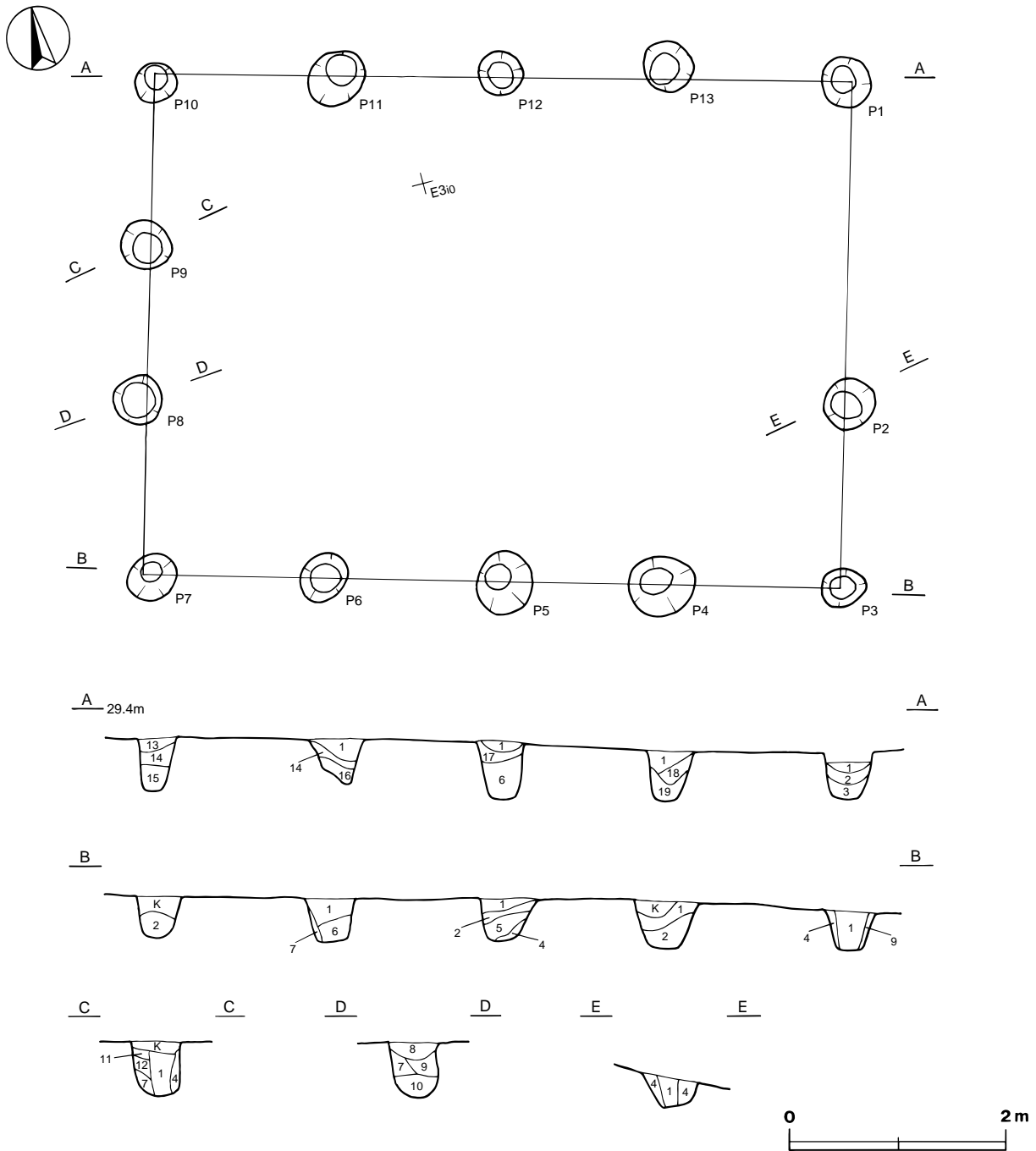
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------------------------------------|--------|---------------------------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・粘土中ブロック微量 | 9 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量, 粘土大ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・粘土小ブロック中量, ローム小ブロック・粘土中ブロック・粘土粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量, 粘土小ブロック微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 粘土中ブロック微量 | 12 暗褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 粘土小ブロック微量 | 13 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック・粘土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土小ブロック・粘土中ブロック微量 | 14 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 | 15 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量, 粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック・粘土大ブロック・粘土中ブロック微量 | 16 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量 |

- 17 黒褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 粘土小ブロック・粘土粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
- 18 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 19 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック微量

遺物 須恵器片 1 点が出土しているが, 細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり, 詳細な時期は不明であるが, 掘立柱建物跡が集中して検出された調査 5 区に近い調査 2 区の南部で検出されたこと, また, 桁行方向がそれらと近いこと, 須恵器片が出土していることから, 奈良・平安時代と考えられる。



第 447 図 第 63 号掘立柱建物跡実測図

第64号掘立柱建物跡（第448～450図）

位置 調査2区，台地南部の縁辺部，F4a3区。

重複関係 第65号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

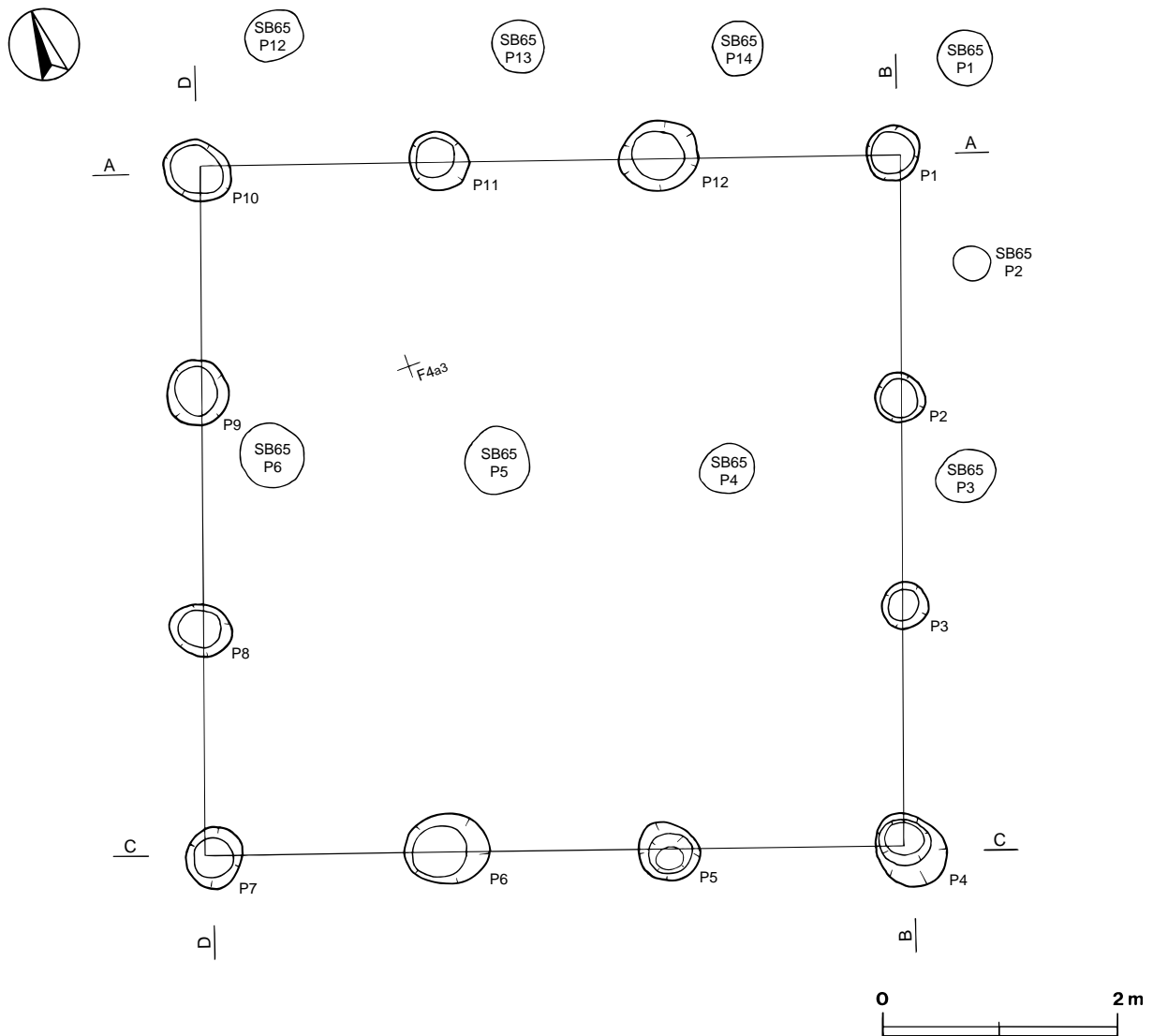
規模 桁行3間，梁行3間の東西棟で，側柱建物跡である。桁行は5.91m，梁行は5.88m，柱間寸法は桁行が1.90～2.03cm，梁行が1.74～2.09cmである。柱穴は，平面形が長径40～70cm，短径38～59cmの楕円形及び円形，深さが9～54cmである。

桁行方向 N-71°-W

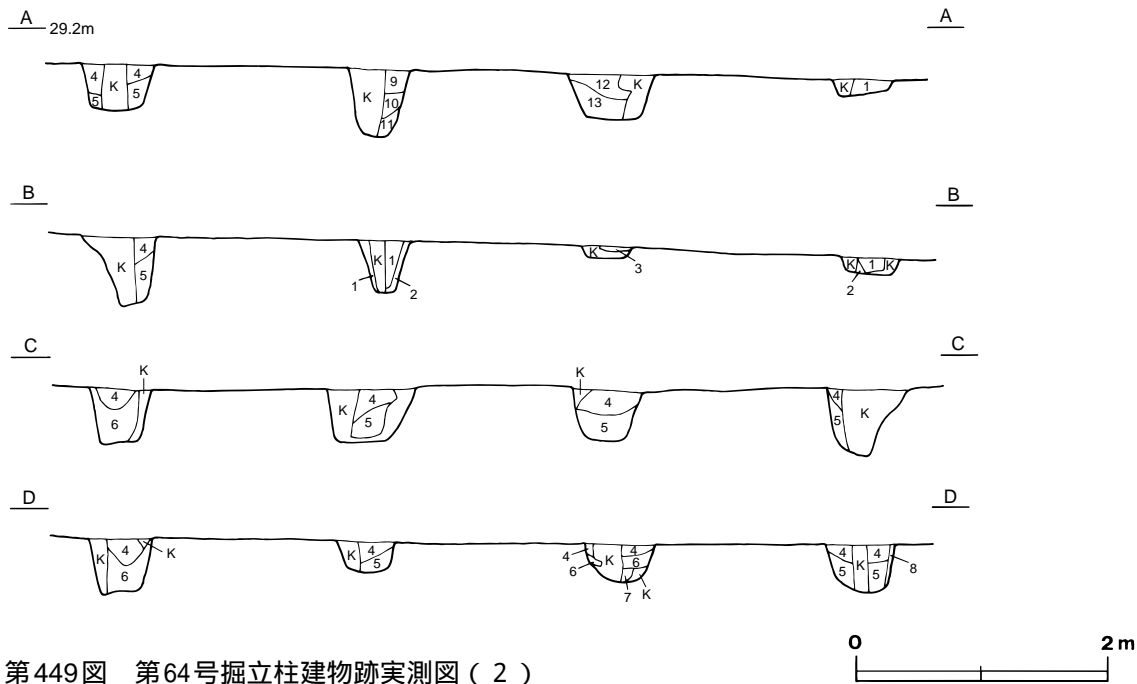
覆土 第1～7，9～13層は柱抜き取り後の覆土である。第8層はしまりのある埋土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土小ブロック微量 | 13 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 | | |

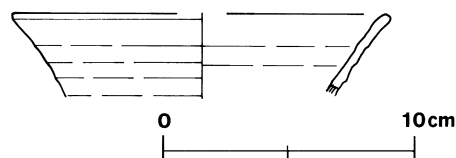


第448図 第64号掘立柱建物跡実測図（1）



第449図 第64号掘立柱建物跡実測図(2)

遺物 土師器4, 須恵器片7点が出土している。第449図1の須恵器片はP11の覆土中から出土している。
 所見 時期は, 出土土器から, 9世紀代と考えられる。



第450図 第64号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第64号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第450図 1	坏 須恵器	A [14.7] B (3.2)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口口ナデ。	礫・長石 灰オリーブ色 普通	P7166 5%

第65号掘立柱建物跡 (第451図)

位置 調査2区, 台地南部の縁辺部, E4j2区。

重複関係 第64号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行5間, 梁行2間の東西棟で, 側柱建物跡である。桁行は9.62m, 梁行は3.47m, 柱間寸法は桁行が1.80~2.02cm, 梁行が1.67~1.80cmである。柱穴は, 平面形が長径25~50cm, 短径25~45cmの楕円形及び円形, 深さが14~44cmである。

桁行方向 N-68°-W

覆土 すべて柱抜き取り後の覆土である。

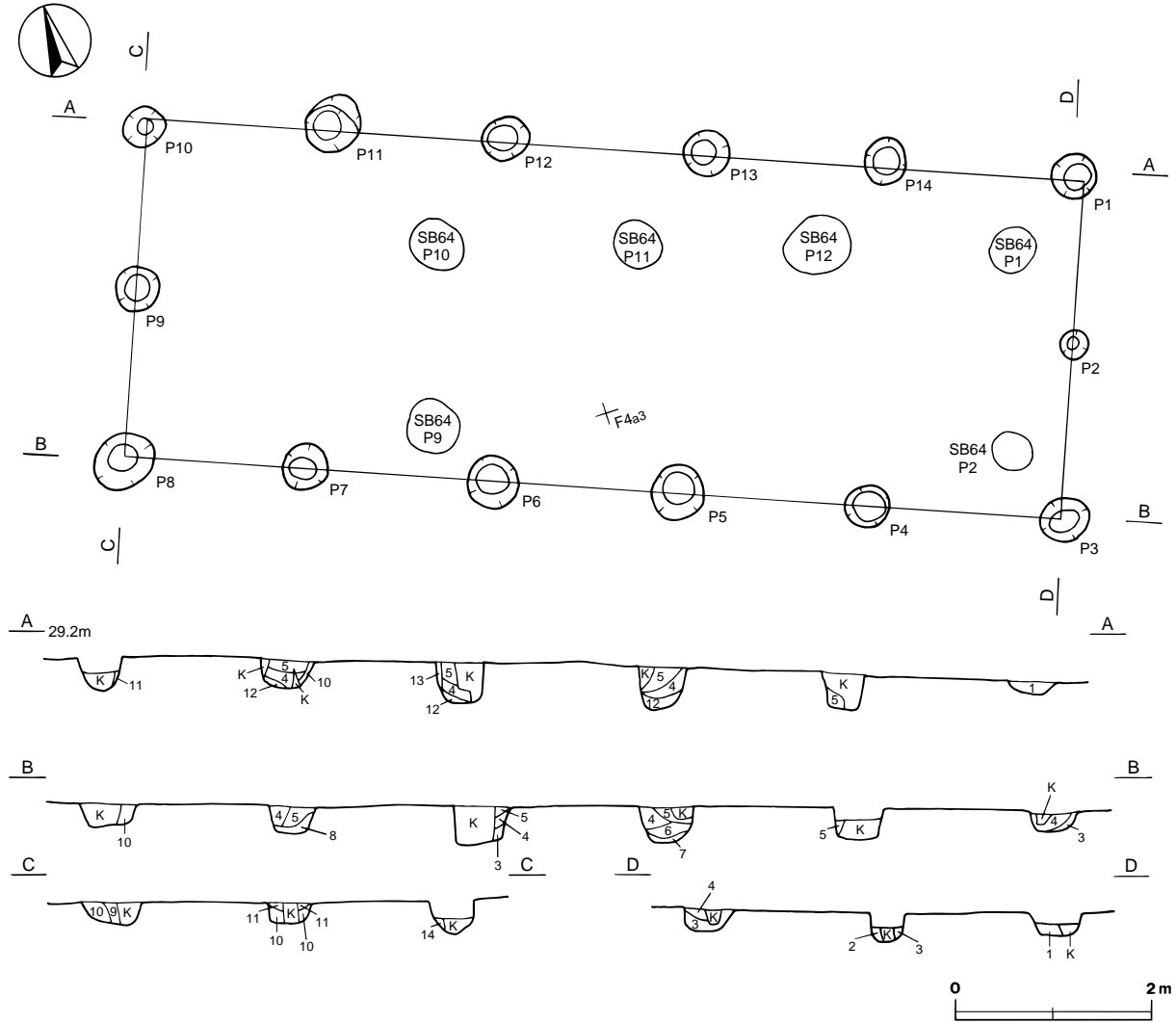
土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量	8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
3 暗褐色	ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量	9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子微量
4 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量	10 黒褐色	ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・ローム粒子中量, 炭化物微量
5 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
6 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	12 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量

13 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少 14 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 須恵器片 1 点が出土しているが, 細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり, 時期は不明であるが, 掘立柱建物跡が集中して検出された調査 5 区に近い調査 2 区の南部で検出されたこと, また, 桁行方向がそれらとほぼ同じであること, 須恵器片が出土していることから, 奈良・平安時代と考えられる。



第 451 図 第 65 号掘立柱建物跡実測図

第 66 号掘立柱建物跡 (第 452 図)

位置 調査 2 区, 台地南部の縁辺部, F3c6 区。

規模 西側柱列で柱穴 1 か所が確認できなかったが, 桁行 2 間, 梁行 2 間の南北棟で, 側柱建物跡と考えられる。桁行は 4.11m, 梁行は 3.67m, 柱間寸法は桁行が 2.03・2.05cm, 梁行が 1.52~1.91cm である。柱穴は, 平面形が長径 52~100cm, 短径 44~74cm の楕円形及び円形, 深さが 15~50cm である。

桁行方向 N - 20° - E

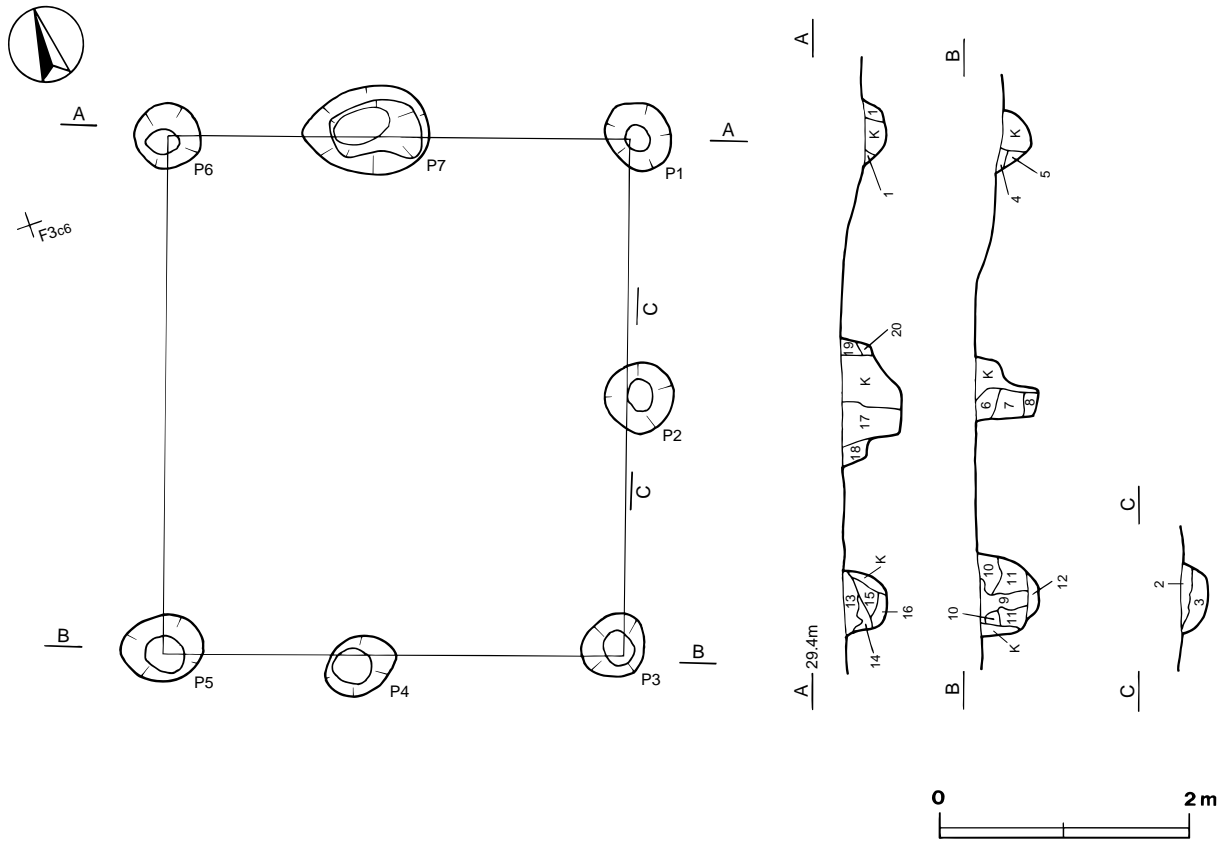
覆土 第 1~17, 19・20 層は柱抜き取り後の覆土である。第 18 層はしまりのある埋土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------------------|--------|---------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 | 11 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 | 18 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 9 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量 | 19 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化物微量 |
| 10 暗褐色 | ローム中ブロック多量, ローム小ブロック・ローム粒子中量 | 20 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |

遺物 土師器片 3 点, 須恵器片 1 点が出土しているが, 細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり, 時期は不明である。しかし, 掘立柱建物跡が集中して検出された調査 5 区に近い調査 2 区の南部で検出されたこと, また, 梁行方向が, 本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物跡らのそれとほぼ同じであること, 須恵器片が出土していることから, 奈良・平安時代と考えられる。



第 452 図 第 66 号掘立柱建物跡実測図

掘立柱 建物跡 番号	位置	桁行方向	桁×梁 (間)	規模 (m)	構造	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱 穴 (cm)				新 旧 関 係 (旧 新)	発掘番号
								平 面 形	長径(軸)	短径(軸)	深 さ		
45	G5j7	N - 85° - W	3×3	5.60×4.80	東西棟・側柱	1.80 - 1.90	1.40 - 1.80	橢円形・円形	48 - 63	43 - 54	36 - 68	本跡・SB32, SB29・44と重複	SB5054
46	H2a9	N - 8° - E	2×2	3.30×2.80	南北棟・総柱	1.60 - 1.80	1.30 - 1.50	橢円形・円形	47 - 72	39 - 60	16 - 40		SB3001
47	G2i7	N - 5° - E	3×2	7.00×3.70	南北棟・側柱	2.20 - 2.50	1.60 - 2.10	橢円形・円形	76 - 69	47 - 54	20 - 65		SB3002
48	H2a8	N - 3° - E	3×2	4.80×3.40	南北棟・側柱	1.20 - 1.80	1.60 - 1.80	橢円形・円形	52 - 55	35 - 39	7 - 30		SB3003
49	F3j7	N - 67° - W	3×3	6.25×4.60	東西棟・側柱	2.05 - 2.20	1.50 - 1.60	橢円形・円形	62 - 102	48 - 70	36 - 73		SB4001
50	F3j6	N - 59° - W	3×(2)	5.00×(3.70)	南北棟・側柱	1.40 - 1.70	1.90 - 1.80	橢円形・円形	47 - 73	40 - 65	29 - 37		SB4002
53	C3c3	N - 11° - W	2×2	4.19×4.13	南北棟・側柱	2.03 - 2.15	2.03 - 2.10	橢円形・円形	31 - 78	28 - 50	10 - 76	SB55と重複	SB2003
54	C3i3	N - 79° - W	2×2	3.70×3.65	東西棟・側柱	1.73 - 1.97	1.76 - 1.86	橢円形・円形	28 - 54	12 - 32	18 - 54	SI158と重複	SB2004
56	F3e0	N - 68° - W	4×3	6.33×4.50	東西棟・側柱	1.60 - 1.82	1.36 - 1.57	橢円形・円形	62 - 84	52 - 80	50 - 70	SB57と重複	SB2006
57	F3d0	N - 27° - E	3×2	5.62×3.60	南北棟・側柱	1.74 - 1.95	1.65 - 1.95	橢円形・円形	25 - 72	25 - 66	7 - 30	SB56・60と重複	SB2007
58	F3f7	N - 68° - W	3×2	5.13×4.08	東西棟・側柱	2.03 - 2.05	1.56 - 1.81	橢円形	28 - 72	32 - 74	8 - 34	SD24と重複	SB2008
59	F3d7	N - 69° - W	3×2	4.95×3.97	東西棟・側柱	1.68 - 1.82	1.86 - 2.09	橢円形・長楕円形	37 - 86	31 - 48	22 - 52		SB2009
60	F3e9	N - 69° - W	3×2	5.12×4.11	東西棟・側柱	1.64 - 1.08	2.00 - 2.11	橢円形・円形	38 - 55	36 - 46	17 - 50	SB57と重複	SB2010
61	F4c2	N - 68° - W	3×3	6.42×4.62	東西棟・側柱	2.20 - 2.19	1.50 - 1.56	橢円形・円形	50 - 85	49 - 60	36 - 68	SI189と重複	SB2011
62	F3c0	N - 23° - E	2×2	4.57×4.17	南北棟・総柱	2.27 - 2.29	2.04 - 2.12	不整楕円形・橢円形・円形	30 - 85	27 - 69	19 - 45	SI144と重複	SB2012
63	E3i9	N - 74° - W	4×3	6.48×4.74	東西棟・側柱	1.49 - 1.76	1.51 - 1.60	橢円形・円形	41 - 63	34 - 57	26 - 58		SB2013
64	F4a3	N - 71° - W	3×3	5.19×5.88	東西棟・側柱	1.90 - 2.03	1.74 - 2.09	橢円形・円形	40 - 70	38 - 59	9 - 54	SB65と重複	SB2014
65	E4j2	N - 68° - W	5×2	9.62×3.47	東西棟・側柱	1.80 - 2.02	1.67 - 1.80	橢円形・円形	25 - 50	25 - 45	14 - 44	SB64と重複	SB2015
66	F3c6	N - 20° - E	2×2	4.11×3.67	南北棟・側柱	2.03 - 2.05	1.52 - 1.91	橢円形・円形	52 - 100	44 - 74	15 - 50		SB2016

4 溝

調査2区北部から奈良・平安時代と考えられる1条の溝が検出された。以下、この遺構及び遺物について記載する。

第23号溝 (第453・454図)

位置 調査2区北部, C2d5~D2b6 6区。

形状と規模 北東方向及び南西方向の両端が調査区域外になり、さらに延びるものと思われるが、検出できた長さは32.9mで、上幅66~90cm, 下幅20~40cm, 深さ34~50cmである。断面形はU字形である。

方向 C2d5区から、南西方向 (N - 13° - W) にほぼ直線的に延びる。

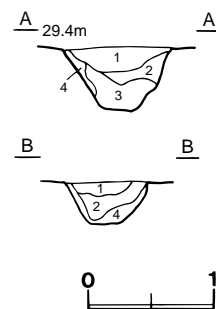
覆土 4層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

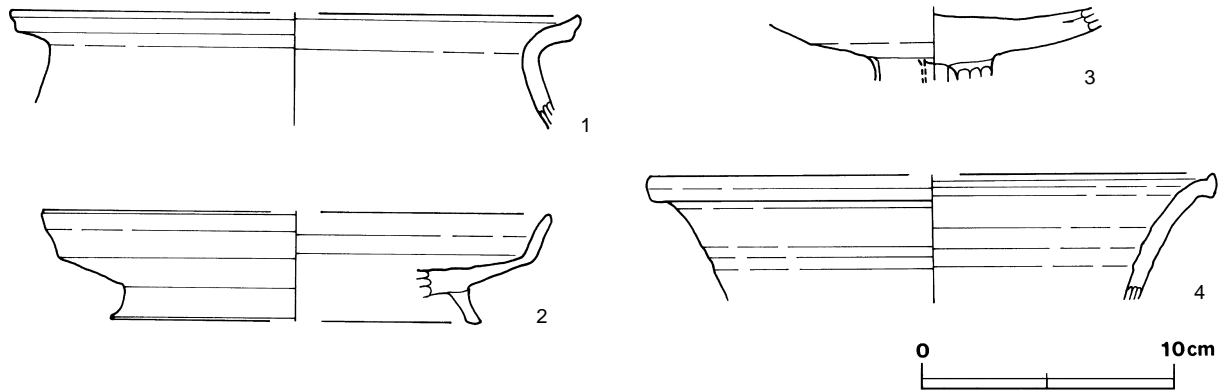
- | | |
|-------|---------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物 土師器片13点, 須恵器片11点が出土している。うち土師器1点, 須恵器3点を抽出・図示した。第454図1の土師器甕, 2の須恵器盤, 3の須恵器高盤, 4の須恵器甕は、いずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第453図 第23号溝実測図



第454図 第23号溝出土遺物実測図

第23号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第454図 1	甕 土師器	A [22.5] B (4.4)	頸部から口縁部にかけての破片。 頸くの字状に屈曲し、口縁端部は 外上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 にぶい黄橙色、普通	P7167 5%
2	盤 須恵器	A [20.0] B (4.2) D [14.4] E 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。 高台はハの字状に開く。体部は大 きく開き、口縁部との境に稜を持 つ。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。高台貼り付け。底部調整不明。	礫・長石・石英 灰色 普通	P7168 20%
3	高盤 須恵器	B (2.8)	脚部上位から坏部下位にかけての破 片。脚部には4方向に透かし孔を持 つ。坏部は内彎気味に大きく開く。	坏部内・外面口クロナデ。	礫・長石・針状鉱物 褐灰色 普通	P7169 10%
4	甕 須恵器	A [22.4] B (5.0)	口縁部片。口縁部は外反する。端 部は上下に突出し、中央に稜を持 つ。	口縁部内・外面口クロナデ。	礫・長石・針状鉱物 灰色 普通	P7170 5%

5 土坑

当遺跡からは、奈良・平安時代と考えられる土坑25基が検出された。以下、それらの土坑について記載する。

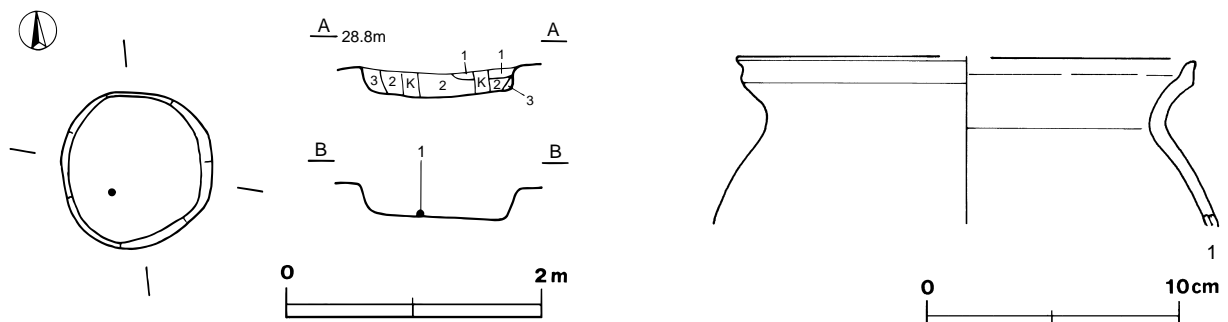
第762号土坑（第455図）

位置 調査3区の南部，H2b0区。

規模と平面形 長径1.26m，短径1.22mの円形で，深さは28cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。



第455図 第762号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片 2 点が出土している。うち土師器片 1 点を抽出・図示した。第455図1の土師器甕口縁部片は、南西壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀）と考えられるが、性格については不明である。

第762号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第455図 1	甕 土師器	A [18.0] B (6.6)	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P2538 5%

第773号土坑（第456～458図）

位置 調査4区の南西部，G4f1区。

規模と平面形 長軸4.74m，短軸3.75mの不定形で，深さは50cmである。

主軸方向 N-40°-W

壁 なだらかに立ち上がる。

底面 凹凸である。

ピット 2か所。P1は南東壁下に位置し，長径40cm，短径28cmの楕円形で，深さは54cmである。P2は北西壁下に位置し，長径40cm，短径30cmの楕円形で，深さは50cmである。形状から柱穴の可能性も考えられるが，性格は不明である。

覆土 23層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

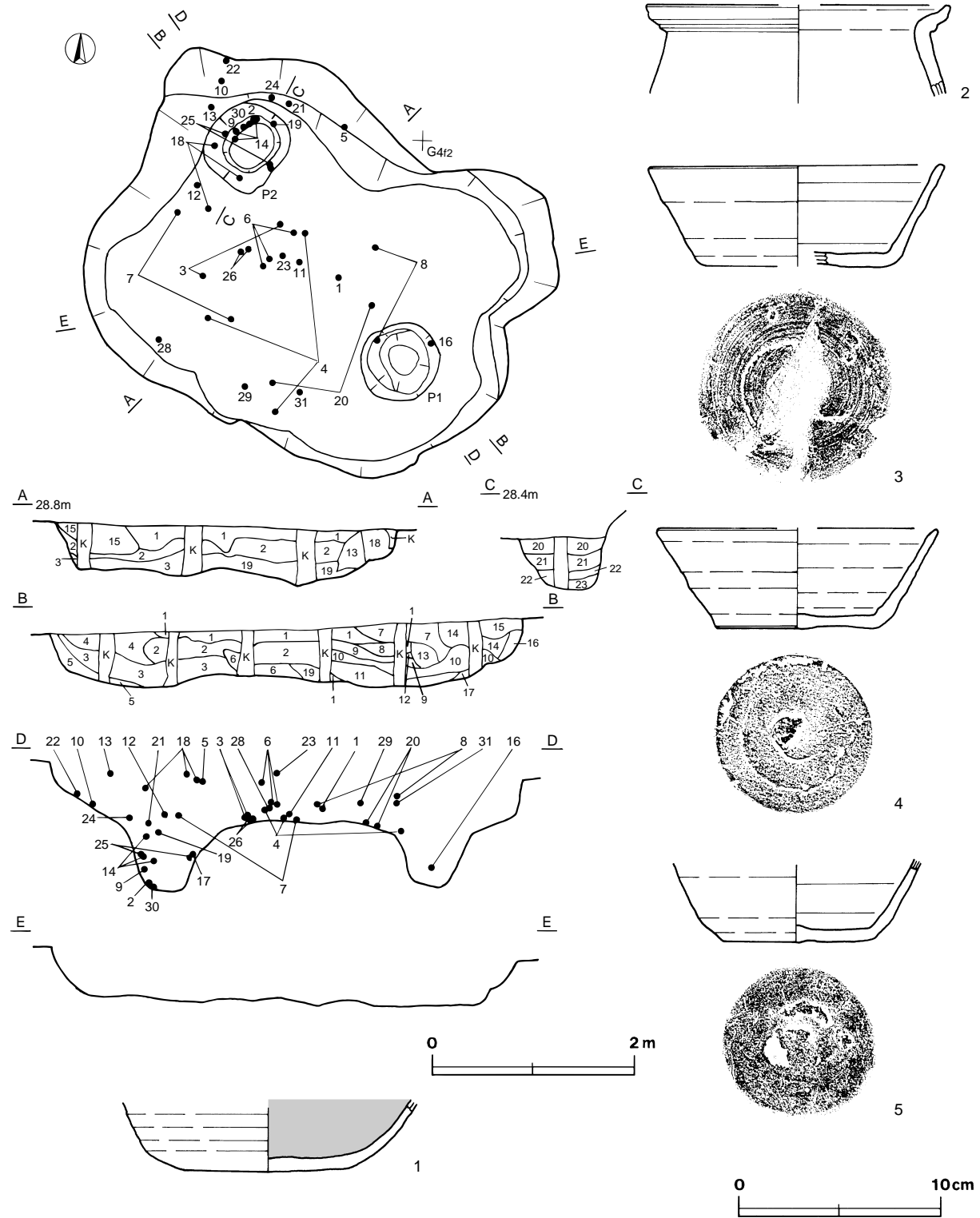
土層解説

1 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量	12 黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量	13 褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化物微量
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量	15 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5 褐色	ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量	16 褐色	ローム粒子多量
6 暗褐色	鹿沼パミス粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	17 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
7 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	18 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	19 明褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，鹿沼パミス粒子微量
9 暗褐色	ローム粒子微量	20 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・鹿沼パミス粒子微量
10 暗褐色	炭化粒子微量	21 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
11 暗褐色	ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	22 黒褐色	ローム中ブロック・炭化物・鹿沼パミス小ブロック微量
		23 黒褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

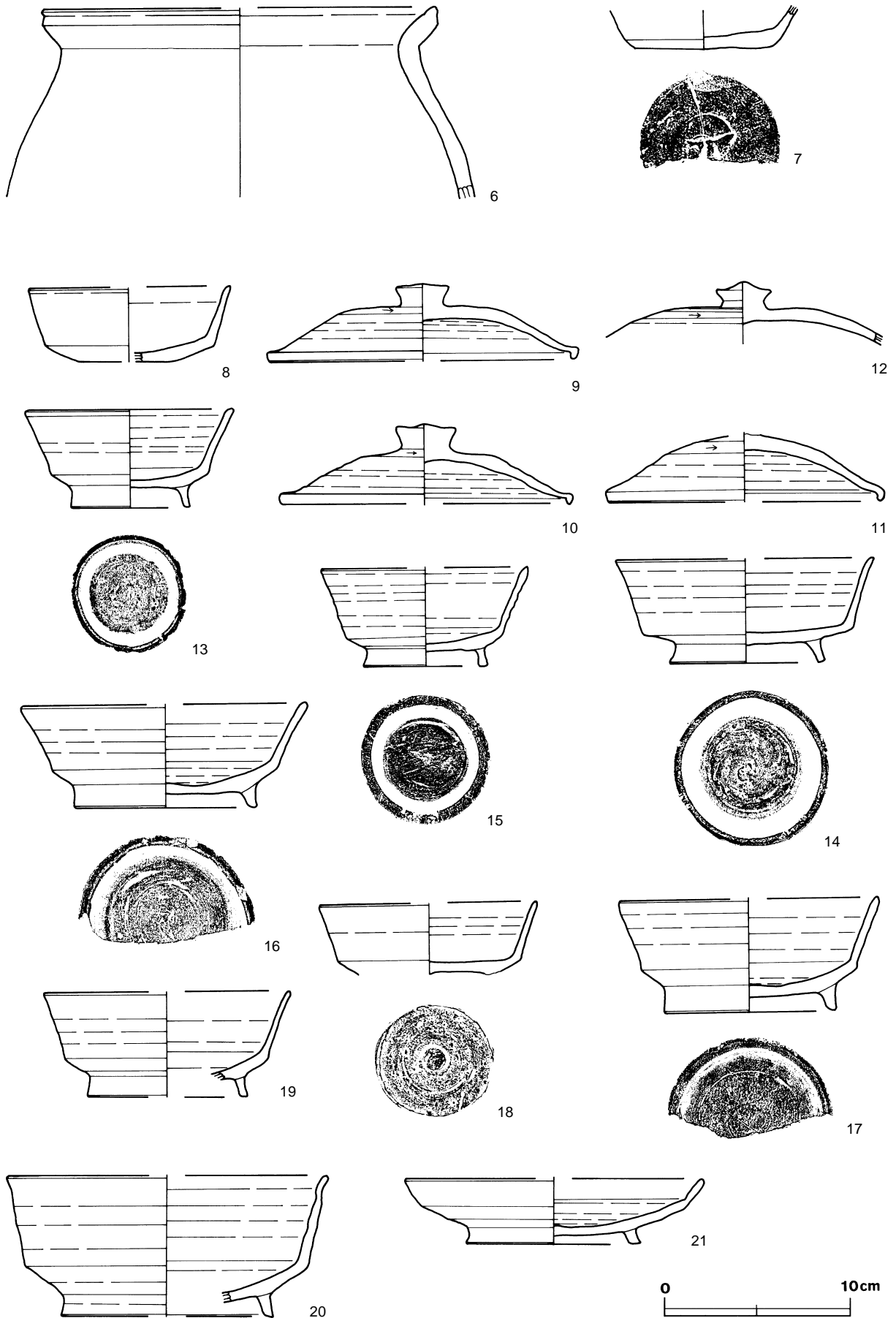
遺物 縄文土器片78点，弥生土器片2点，土師器片496点，須恵器片891点，金属製品（不明鉄製品）3点が出土している。うち，土師器片3点，須恵器片28点を抽出・図示した。第458図30の須恵器甕はP2の底面から，3の土師器甕，24の須恵器蓋は，ともにP2の覆土下層から，12の須恵器高台付坏はP1の覆土下層から，13の須恵器高台付坏はP2の覆土中層，10の須恵器高台付坏はP2の覆土中層及び北西壁寄りの覆土下層から，21の須恵器盤はP2の覆土中層及び覆土中から，15の須恵器高台付坏はP2の覆土上層及び覆土中から，16の須恵器高台付坏は中央部及び南壁際のほぼ底面と覆土中から，それぞれ出土している。1の土師器坏は中央部，4の須恵器坏は中央部西壁寄り及び南壁際，7の須恵器坏は中央部及び西壁寄り，21の須恵器盤は北壁際，11の須恵器蓋は中央部の，それぞれ覆土下層から出土している。24の須恵器盤は北壁際，26の須恵器高盤は中央部，12の須恵器蓋は北西壁寄りの，それぞれ覆土下層及び覆土中から出土している。10の須恵器蓋は北西壁際，29の須恵器甕は南壁際のそれぞれ覆土中層から出土している。6の土師器甕は中央部，8の須恵器坏は中央部及び南東壁寄り，28の須恵器小形鉢は南西壁際，31の須恵器円面硯は南壁際の，それぞれ覆土中層及び覆土中

から出土している。5の須恵器杯は北壁際、13・18の須恵器高台付坏は北壁寄り、22の須恵器盤は北西壁際、23の須恵器盤は中央部のそれぞれ覆土上層から出土している。11の須恵器高台付坏、27の須恵器高盤は、それぞれ覆土中から出土している。

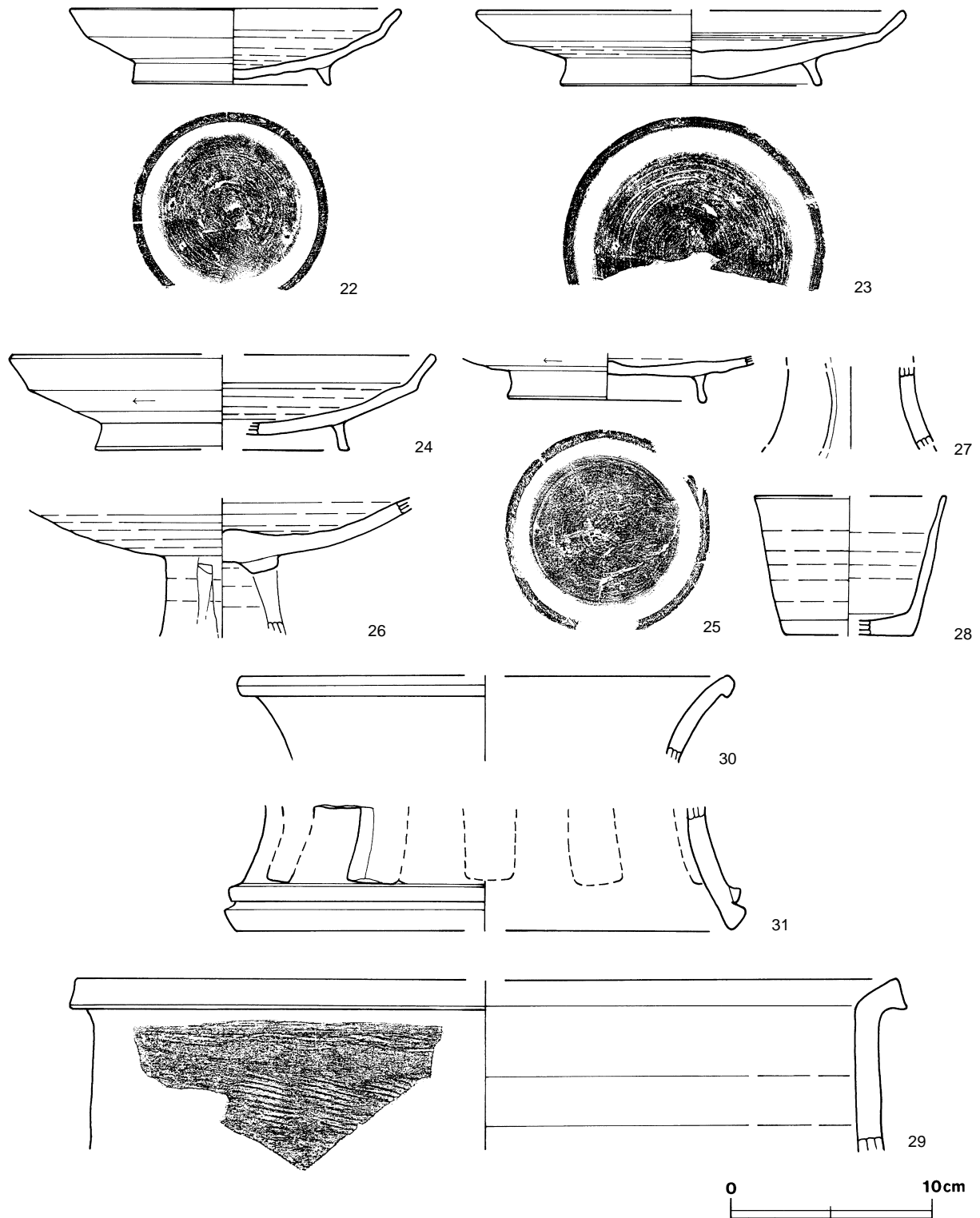
所見 土層の堆積状況が人為堆積であり、多量の遺物が覆土下層から覆土上層にかけて出土していることから、本跡の廃絶後に投棄場所として二次的に利用されたものと考えられる。時期は出土土器から平安時代（9世紀前葉）と考えられる。性格については不明である。



第456図 第773号土坑・出土遺物実測図



第457图 第773号土坑出土遺物実測図(1)



第458図 第773号土坑出土遺物実測図(2)

第773号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第456図 1	坏 土師器	B 3.2 C 4.2	底部から体部片。平底。体部は内 彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き，外面口クロナ デ。体部下端及び底部回転ヘラ削 り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱 物 橙色，普通	P2539 60%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第457図 6	甕 土師器	A [13.4] B (10.2)	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 2540 10%
第456図 2	甕 土師器	A [14.4] B (4.4)	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子 明赤褐色、普通	P 2570 5%
3	坏 須恵器	A 14.6 B 5.1 C (9.1)	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・礫・針状鉱物 灰色 普通	P 2541 70% PL67
4	坏 須恵器	A [13.9] B 5.0 C 8.0	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・礫・針状鉱物 灰色、普通	P 2542 50% PL67
5	坏 須恵器	B (3.9) C 7.3	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物 灰白色、普通	P 2543 40%
第457図 7	坏 須恵器	B (4.2) C 7.4	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り、周縁ナデ。	長石・石英・礫 灰色 普通	P 2544 30%
8	坏 須恵器	A [11.0] B 4.1 C [4.8]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り、周縁手持ちヘラ削り。	長石・石英・礫 黄灰色 普通	P 2545 40% 口縁部外面自然釉
13	高台付坏 須恵器	A 11.3 B 5.3 D 6.4 E 1.3	口縁部一部欠損。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫 灰色 普通	P 2546 70% PL67
14	高台付坏 須恵器	A [14.0] B 5.6 D 8.4 E 1.3	口縁部一部欠損。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・礫・針状鉱物 灰色 普通	P 2547 70% PL67
15	高台付坏 須恵器	A 11.0 B 5.4 D 6.8 E 1.0	底部から口縁部一部欠損。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫・針状鉱物、灰オリーブ色、普通	P 2548 60% PL67
16	高台付坏 須恵器	A [15.4] B 5.6 D 10.0 E 1.3	底部から口縁部片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 浅黄色 普通	P 2569 40%
17	高台付坏 須恵器	A [14.0] B 6.1 D 9.2 E 1.4	底部から口縁部片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 赤灰色 普通	P 2571 40%
18	高台付坏 須恵器	A [11.8] B (3.9)	体部から口縁部一部及び高台部欠損、体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P 2549 60%
19	高台付坏 須恵器	A [13.4] B 5.7 D [8.6] E 1.1	底部から口縁部片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・針状鉱物 黄灰褐色 普通	P 2550 40% PL67
20	高台付坏 須恵器	A [17.4] B 7.6 D [11.4] E 1.2	底部から口縁部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 外面灰赤色、内面 褐灰色、普通	P 2551 20%
第458図 22	盤 須恵器	A 16.3 B 3.7 D 9.9 E 1.1	体部及び口縁部一部欠損。丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰黄色 普通	P 2552 70% PL67

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第458図 23	盤 須 恵 器	A [20.9]	体部及び口縁部一部欠損。丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P 2553 60%
		B 4.7				
		D 12.8				
		E 1.4				
第457図 21	盤 須 恵 器	A [16.0]	体部及び口縁部一部欠損。やや丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は大きく開き、屈曲して口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P 2554 50%
		B 3.5				
		D 9.4				
		E 0.9				
第458図 24	盤 須 恵 器	A [21.0]	体部及び口縁部の破片。やや丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は大きく開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 黄灰色 普通	P 2555 35%
		B 4.7				
		D [12.6]				
		E 1.3				
25	盤 須 恵 器	B 2.4 D 9.6 E 1.4	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開く。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 にぶい橙色 普通	P 2564 30%
26	高 須 恵 器	B (6.9) E (4.0)	脚部から皿部にかけての破片。脚部は三方に透かしが入る。皿部は直線的に開く。	脚部及び坏部内・外面口ロナデ。	長石・石英・針状鉱物、外面灰褐色、内面暗灰黄色、普通	P 2556 50%
27	高 須 恵 器	B (4.1)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面口ロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P 2557 5%
第457図 9	蓋 須 恵 器	A [16.5]	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、擬宝珠状のつまみが付く。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内面口ロナデ。天井部内面口ロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P 2572 25%
		B 4.2				
		F 2.9				
		G 1.2				
10	蓋 須 恵 器	A [15.6]	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、擬宝珠状のつまみが付く。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内面口ロナデ。天井部内面口ロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 2558 30%
		B 4.4				
		F 3.2				
		G 1.4				
11	蓋 須 恵 器	A [14.8]	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は丸味を持つ。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内面及び天井部内面口ロナデ。外面回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P 2559 25%
		B (3.6)				
12	蓋 須 恵 器	B (3.5)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、擬宝珠状のつまみが付く。	口縁部内面及び天井部内面口ロナデ。外面回転ヘラ削り。	長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 2560 20%
		F 3.0				
		G 1.4				
第458図 28	小 形 鉢 須 恵 器	A [9.5]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P 2561 20%
		B 7.9				
		C [5.9]				
29	甕 須 恵 器	A [40.6]	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部が突出する。	口縁部内・外面口ロナデ。体部内面口ロナデ、外面横位の平行叩き。	長石 灰オリーブ色 普通	P 2562 5%
		B (8.5)				
30	甕 須 恵 器	A [24.0]	口縁部片。口縁部は外反し、端部が突出する。	口縁部内・外面口ロナデ。	白色粒子 褐灰色 普通	P 2565 5%
		B (4.3)				
31	円 面 硯 須 恵 器	B (6.2)	脚台部片。脚台部に透かし窓を持ち、下位に隆帯が巡る。	脚部内面ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石 灰黄色 普通	P 2563 5%
		C [24.6]				

第823号土坑（第459図）

位置 調査5区の南東部，H7a2区。

重複関係 第103号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径2.82m，短径2.48mの楕円形で，深さは178cmである。

主軸方向 N - 65° - E

壁 ならだかに立ち上がる。

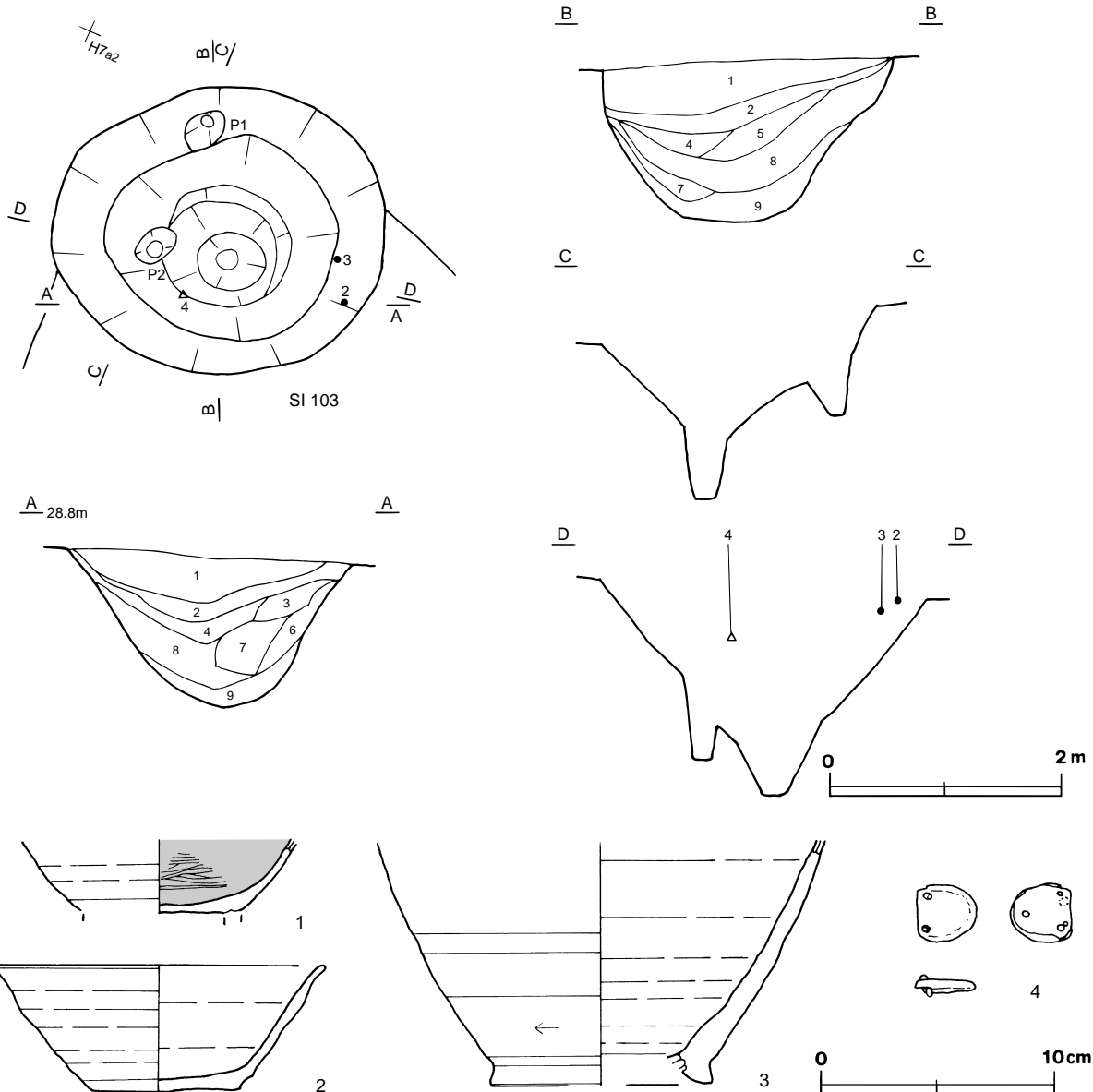
底面 皿状である。

ピット 2か所。P 1は北西壁面に位置し、長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さは50cmである。P 2は南西壁面に位置し、長径40cm、短径28cmの楕円形で、深さは54cmである。形状から柱穴の可能性が考えられるが、性格は不明である。

覆土 9層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|------------------------------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 6 極暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子ブロック・炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・鹿沼パミス粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 | | |



第459図 第823号土坑・出土遺物実測図

遺物 縄文土器片13点、土師器片5点、須恵器片12点、金属製品（鉈尾）1点が出土している。うち、土師器片1点、須恵器片2点、鉈尾を1点を抽出・図示した。第459図1の土師器高台付坏は覆土中から出土している。2の須恵器坏、3の須恵器壺はともに東壁際から、4の鉈尾は南壁よりの、それぞれ覆土上層から出土し

ている。

所見 時期は、出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられる。類例から氷室の可能性も考えられるが、その性格については不明である。

第823号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第459図 1	高台付 土師器	B (3.1)	底部から体部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。高台部剥離。	体部内・外面口クロナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P2589 30%
2	坏 須恵器	A 14.2 B 5.5 C 6.3	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部及び口縁内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P2590 70% PL67
3	壺 須恵器	B (10.5) C [9.5]	高台部から体部の破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開き、先端部が尖る。	体部内・外面口クロナデ。底部調整不明。	長石 にぶい赤褐色 普通	P2591 15%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第459図 4	腰帯具	2.6	2.5	1.0	7.4	鉄地銅貼り	鉋尾。裏金具なし、脚鉋3ヶ所、内1ヶ所欠損。外鉋2ヶ所。	

第824号土坑（第460・461図）

位置 調査5区の南東部，G7i1区。

規模と平面形 長径3.55m，短径3.35mの不定形で，深さは180cmである。

主軸方向 N-59°-E

壁 ならだかに立ち上がる。

底面 皿状である。

ピット 12か所。P1からP3は北壁面，P4は東壁面，P5からP7は南壁面，P8からP10南西壁面，P11は西壁面，P12は北西壁面に位置する。長径20～40cm，短径15～30cmの楕円形及び不整形で，深さは22～60cmである。

覆土 8層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

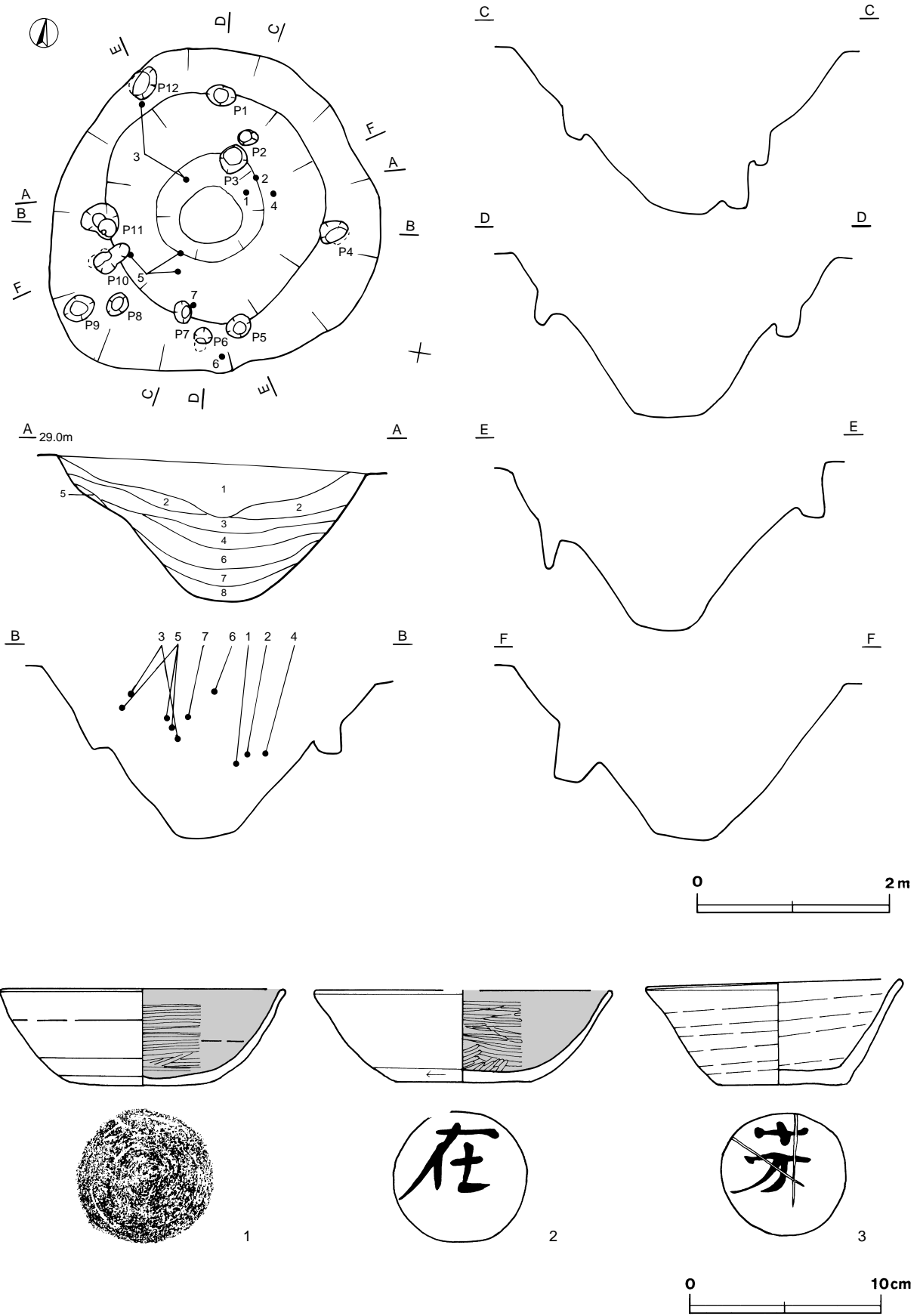
土層解説

1 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子多量
2 黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 極暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量
4 極暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，鹿沼パミス粒子微量	8 暗褐色	鹿沼パミス粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量

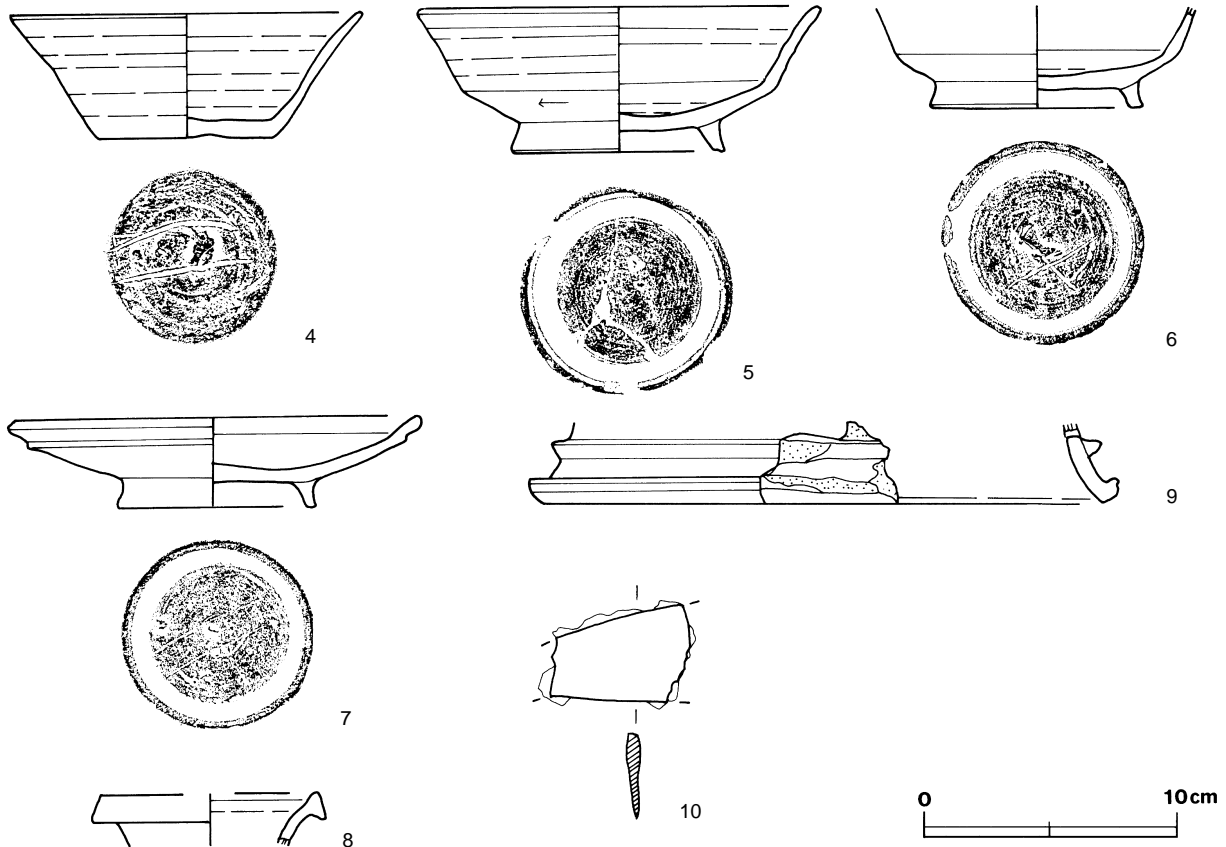
遺物 縄文土器片44点，土師器片14点，須恵器片47点，金属製品1点が出土している。うち土師器片2点，須恵器片7点，金属製品（鎌）1点を抽出・図示した。第461図8の須恵器長頸瓶の口縁部片及び9の須恵器円面硯脚部片，10の鎌は覆土中から出土している。6の須恵器高台付坏は南壁寄りの覆土上層から，7の須恵器盤は南壁際，1・2の内面に黒色処理された土師器坏は，ともに中央部から北東寄りの，それぞれ覆土中層から，3の須恵器坏は中央部から北西寄りの覆土上層から中層にかけて，4の須恵器坏は中央部から北東寄りの覆土中層から，5の須恵器高台付坏は中央部から南寄りの覆土中層から，それぞれ出土している。なお，2の土師器坏は，底部に墨書されている。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられる。類例から氷室の可能性も考えられるが，明

確ではない。



第460図 第824号土坑・出土遺物実測図



第461図 第824号土坑出土遺物実測図

第824号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第460図 1	坏 土 師 器	A 14.9	体部から口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物にぶい橙色、普通	P 2592 80% PL67
		B 5.0				
		C 7.1				
2	坏 土 師 器	A [15.4]	体部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。	長石・石英・針状鉱物、にぶい黄橙色普通	P 2593 60% PL67-72 底部外面墨書「在」
		B 4.8				
		C 6.9				
3	坏 須 恵 器	A 13.3	体部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへラ削り。	長石・石英・針状鉱物、灰色普通	P 2594 70% PL67-73 底部外面墨書「十万」、底部へラ記号
		B 5.6				
		C 6.8				
第461図 4	坏 須 恵 器	A 14.0	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。	長石・石英灰色普通	P 2595 70% PL67 底部へラ記号
		B 4.9				
		C 6.8				
5	高台付 坏 須 恵 器	A 15.8	体部から口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物、赤褐色普通	P 2596 95% PL67
		B 5.7				
		D 8.4				
		E 1.3				
6	高台付 坏 須 恵 器	B (4.0)	底部から体部片。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英灰黄色普通	P 2597 40% 底部へラ記号
		D 8.4				
		E 1.1				
7	盤 須 恵 器	A 16.1	体部から口縁部一部欠損。平底。高台はハの字状に開く。体部は直線的に開き、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物、灰色普通	P 2598 70% PL67 底部へラ記号
		B 3.6				
		D 7.6				
		E 1.0				
8	長頸瓶 須 恵 器	A (9.5)	口縁部片。口縁部は外反し、端部は下方へ突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石にぶい赤褐色普通	P 2599 5%
		B [2.1]				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第461図 9	円面硯 須恵器	B (3.2) D [22.2]	脚部片。脚部下に断面三角形を呈する2条の隆帯が付く。	体部内・外面口ロナデ。	長石 灰黄色 普通	P2600 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第461図10	鎌	(5.8)	(3.9)	0.5	(17.2)	鉄	刃部の一部残存。	M2503

第825号土坑（第462図）

位置 調査5区の北東部，F7e1区。

重複関係 第104号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.8mほどの円形で，深さは78cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

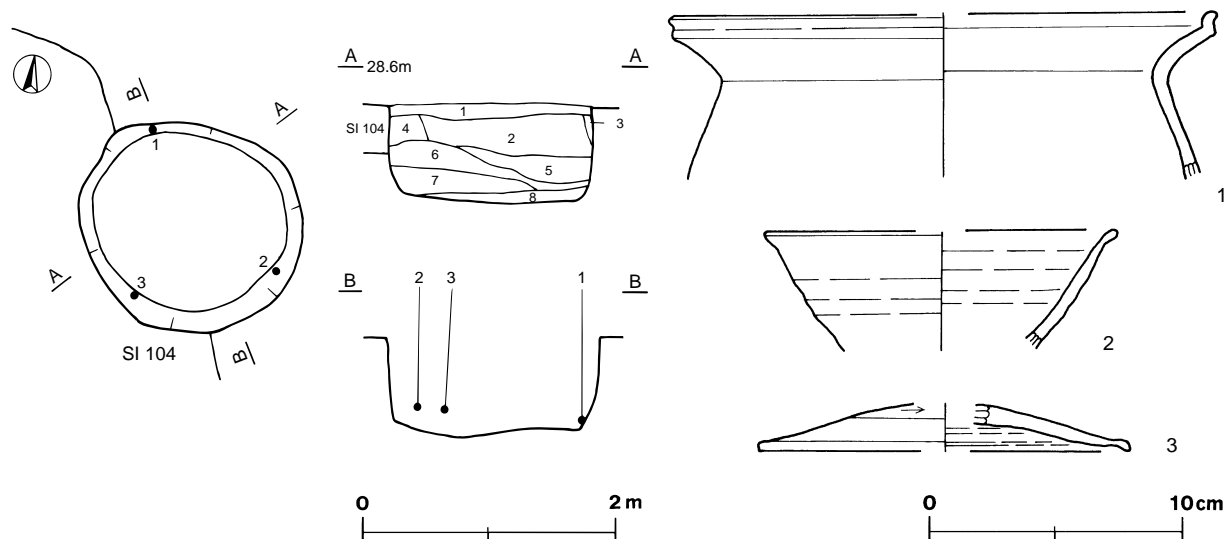
覆土 8層に分層される。不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック中量，炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量 |

遺物 縄文土器片8点，土師器片14点，須恵器片6点が出土している。うち土師器片1点，須恵器片2点を抽出・図示した。第462図1の土師器甕は口縁部片で北西壁際，2の須恵器坏は南東壁際，3の須恵器蓋は南西壁際の，それぞれ覆土下層から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが，性格については不明である。



第462図 第825号土坑・出土遺物実測図

第825号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第462図 1	甕 土師器	A [21.6] B (6.5)	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	石英・雲母に ぶい赤褐色 普通	P2601 10%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第462図 2	坏 須恵器	A [14.0] B (4.7)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内・外面口クロナデ。	石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P 2602 20%
3	蓋 須恵器	A [14.8] B (1.8)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び天井部内面口クロナデ。外面回転ヘラ削り。	長石 褐灰 普通	P 2603 20%

第851号土坑（第463図）

位置 調査5区の南東部，H6f9区。

規模と平面形 長径1.25m，短径1.06mの楕円形で，深さは43cmである。

主軸方向 N-87° - W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 8層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

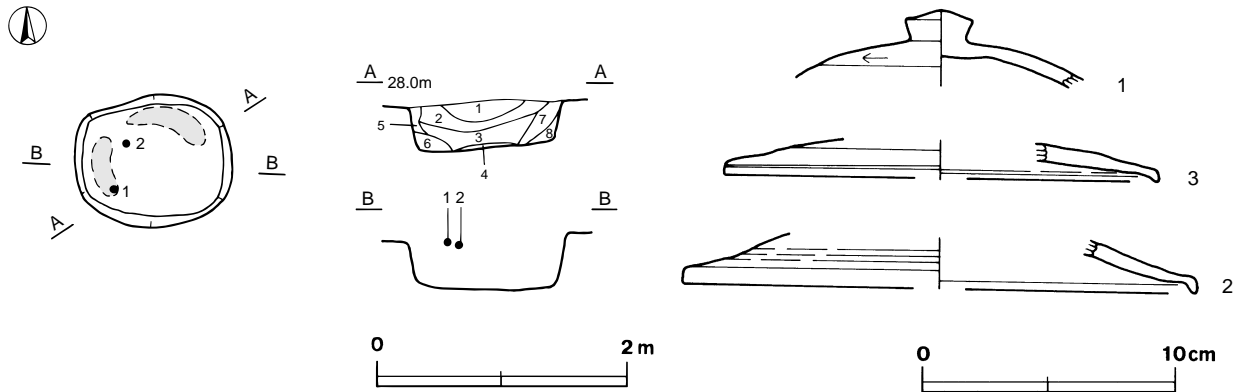
土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------------------|-------|------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量 | 7 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量 |

遺物 縄文土器片23点，土師器片1点，須恵器片12点が出土している。うち須恵器片3点を抽出・図示した。

第463図1～3は須恵器蓋であり，3は覆土中から，1・2はいずれも西壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀）と考えられるが，性格については不明である。



第463図 第851号土坑・出土遺物実測図

第851号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第463図 1	蓋 須恵器	B (2.0) F 1.7 G 1.2	天井部片。天井部は伏せ皿状で擬宝珠状のつまみが付く。	口縁部内面口クロナデ。天井部内面口クロナデ，外面回転ヘラ削り。	長石 灰黄色 普通	P 2604 20%
2	蓋 須恵器	A [20.2] B (2.0)	天井部から口縁部にかけての破片。口縁端部は屈曲し，短く垂下する。	口縁部内面口クロナデ。天井部内面口クロナデ，外面回転ヘラ削り。	長石 灰褐色 普通	P 2606 20%
3	蓋 須恵器	A [17.0] B (1.4)	天井部から口縁部にかけての破片。口縁端部は屈曲し，短く垂下する。	口縁部内面口クロナデ。天井部内面口クロナデ，外面回転ヘラ削り。	石英 灰白色 普通	P 2605 10%

第852号土坑（第464図）

位置 調査5区の南東部， H6f 8区。

規模と平面形 長径1.43m， 短径1.15mの楕円形で， 深さは40cmである。

主軸方向 N-40° -W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 段状である。北西部の平坦面から約6cmほど下がり， 南東部は平坦面である。

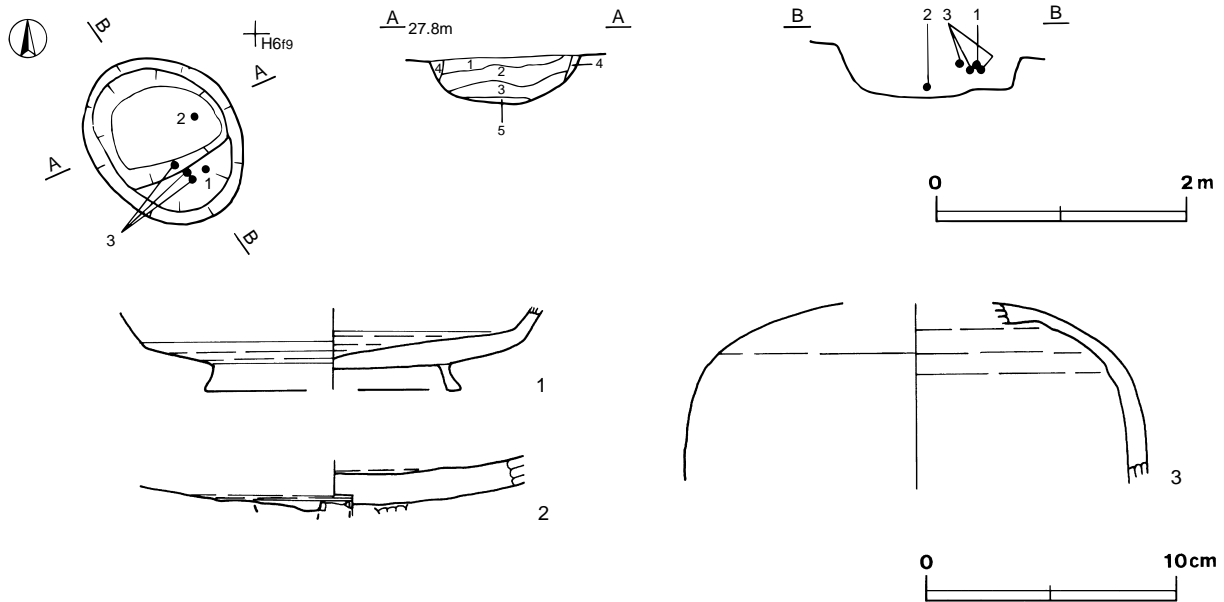
覆土 5層に分層され， 不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量， ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量， ローム小ブロック中量， ローム大ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量， 炭化粒子微量

遺物 縄文土器片4点， 土師器片3点， 須恵器片7点が出土している。うち須恵器片3点を抽出・図示した。第464図1の須恵器盤及び3の須恵器長頸瓶は， とともに南東壁寄りの覆土上層から， 2の須恵器高盤は北東壁寄りの覆土下層から， それぞれ出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代と考えられるが， 性格については不明である。



第464図 第852号土坑・出土遺物実測図

第852号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第464図 1	盤 須恵器	B (3.2) D [16.2] E 1.0	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開く。	体部内・外面口クロナデ。底部回転へラ切り後，高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰色，普通	P2607 30%
2	高盤 須恵器	B (1.6) E (0.4)	脚部から皿部にかけての破片。脚部は四方に透かしが入る。	脚部及び坏部内・外面口クロナデ。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P2608 10%
3	長頸瓶力 須恵器	B (7.3)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。	長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P2609 10%

第853号土坑（第465図）

位置 調査5区の南東部，H6f8区。

規模と平面形 長径1.50m，短径1.23mの楕円形で，深さは45cmである。

主軸方向 N-71°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

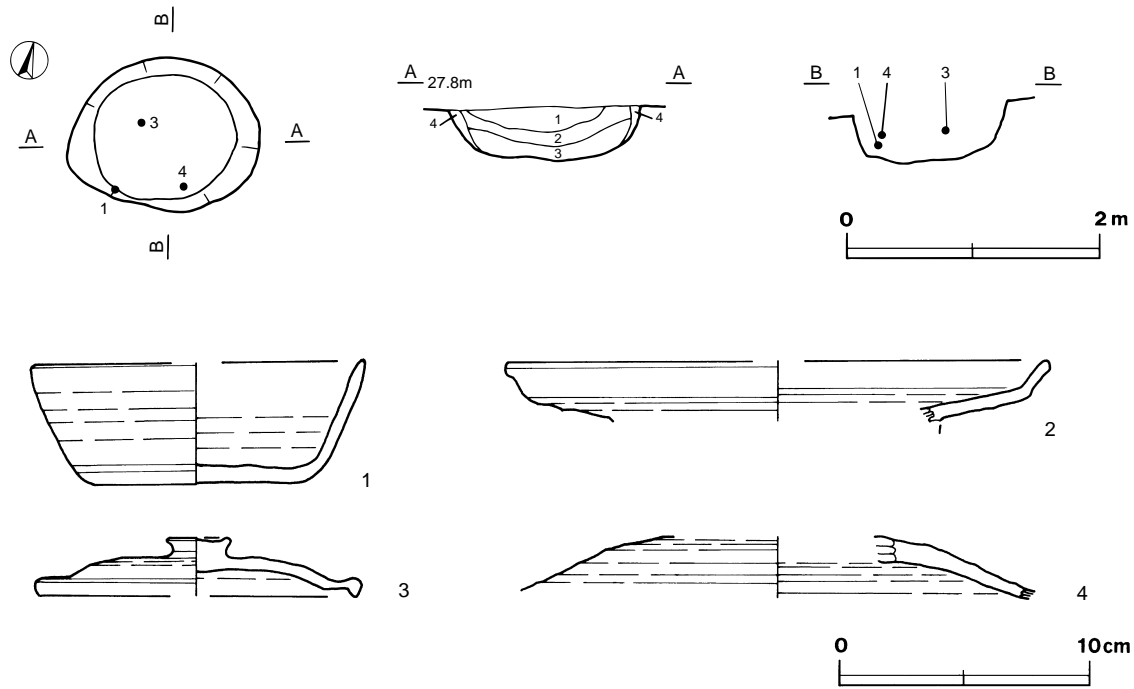
覆土 4層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，鹿沼パミス微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中
ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物 縄文土器片27点，土師器片4点，須恵器片23点が出土している。そのうち須恵器片4点を抽出・図示した。第465図2の須恵器盤は，覆土中から出土している。3の須恵器蓋は，中央部から北西壁寄り，4の須恵器蓋は，南東壁際の，ともに覆土下層から出土している。1の須恵器坏は，南西壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は出土土器から8世紀後葉と考えられるが，性格については不明である。



第465図 第853号土坑・出土遺物実測図

第853号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第465図 1	坏 須恵器	A [13.1] B 4.8 C 7.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物 にぶい橙色，普通	P2610 40%
2	盤 須恵器	A [21.4] B (2.4)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に開き，口縁部に至る。	体部及び口縁部内・外面口クロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P2611 10%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第465図 3	蓋 須恵器	A [12.5]	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、擬宝珠状のつまみが付く。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び天井部内面口ロナデ。外面回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物、黄灰色 普通	P 2612 30%
		B 2.4				
		F 2.6				
		G 0.8				
4	蓋 須恵器	B (2.4)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状である。	口縁部内面口ロナデ。天井部内面口ロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石 灰白色 普通	P 2613 10%

第858号土坑（第466図）

位置 調査5区の南東部，H6d7区。

重複関係 第854号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.49m，短径1.37mの円形で，深さは30cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------------|------|-----------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 3 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量 | | |

遺物 縄文土器片5点，土師器片2点，須恵器片6点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり，正確な時期及びその性格については不明であるが，土師器片及び須恵器片が覆土中から出土していること，9世紀中葉と考えられる第854号土坑に掘り込まれていることから，それ以前の奈良・平安時代の可能性が考えられる。

第854号土坑（第466図）

位置 調査5区の南東部，H6e7区。

重複関係 第858号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.54m，短径1.32mの楕円形で，深さは53cmである。

主軸方向 N-57° - E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 1か所。P1は中央部に位置し，径24cmの円形で，深さは26cmである。

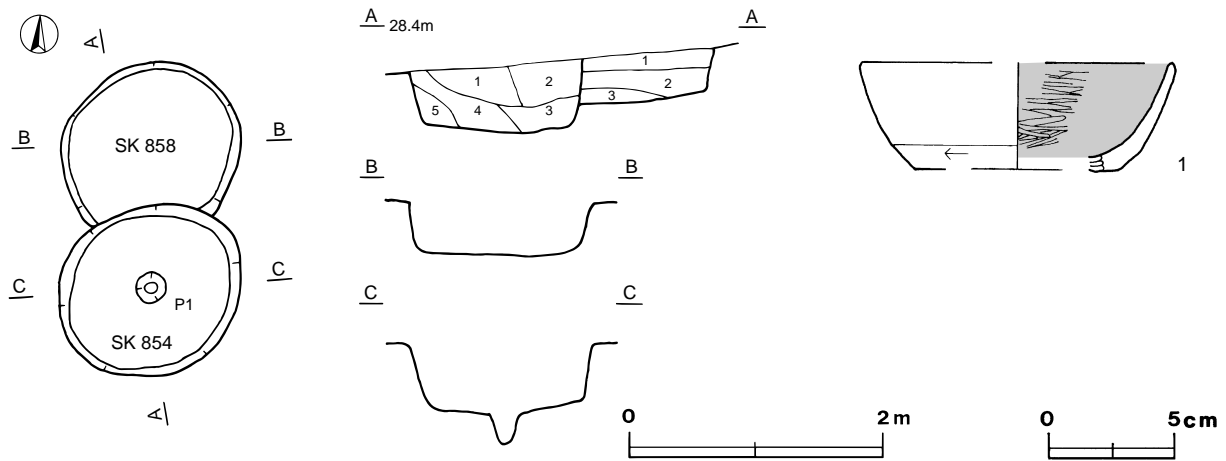
覆土 5層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック微量 | | |

遺物 縄文土器片356点，土師器片4点，須恵器片23点，金属製品2点（不明鉄製品）が出土している。うち土師器片1点を抽出・図示した。第466図1は内面黒色処理された土師器坏で，覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが，性格については不明である。



第466図 第854・858号土坑・出土遺物実測図

第854号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第466図 1	坏 土師器	A [12.2] B (4.2)	底部から口縁部部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内面へラ磨き、外面口クロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物 橙色、普通	P2615 10%

第857号土坑（第467図）

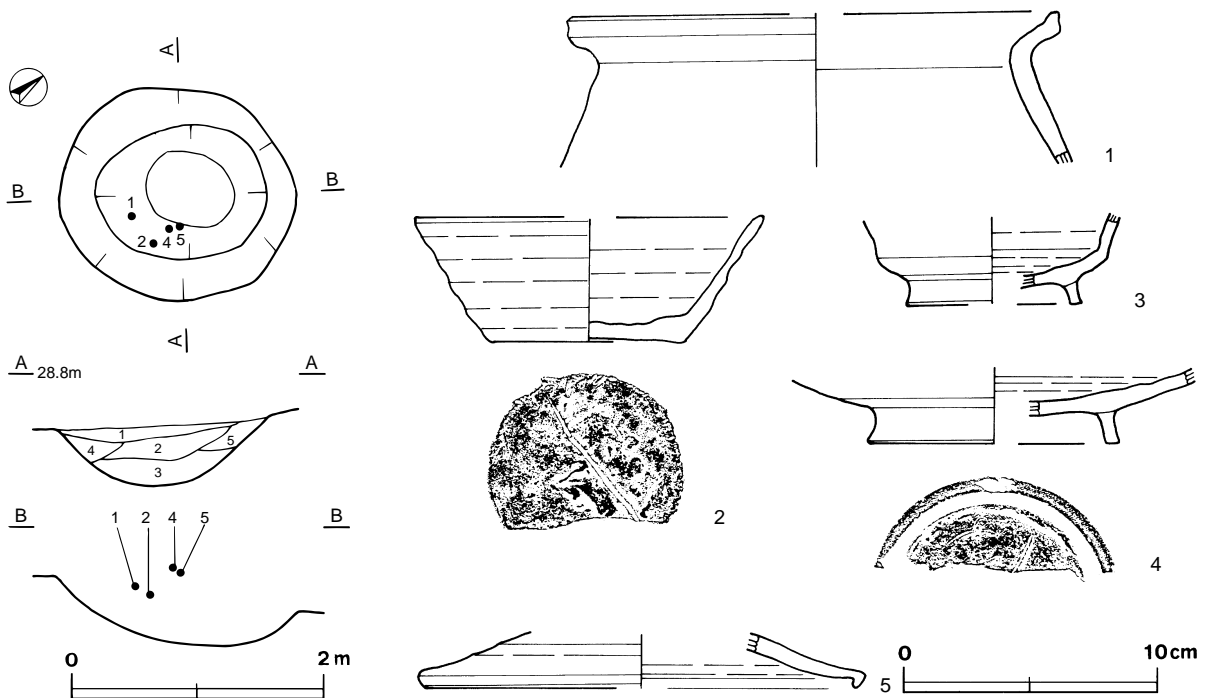
位置 調査5区の南東部，H6f7区。

規模と平面形 長径1.85m，短径1.65mの楕円形で，深さは37cmである。

主軸方向 N-45° - W

壁 なたらかに立ち上がる。

底面 皿状である。



第467図 第857号土坑・出土遺物実測図

覆土 5層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------------------|-------|-------------------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量, ローム大ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土中ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量 | | |

遺物 縄文土器片34点, 土師器片15点, 須恵器43片点, 灰釉陶器片1点が出土している。うち土師器片1点, 須恵器片4点を抽出・図示した。灰釉陶器片は細片であり図示できなかった。第467図3の須恵器高台付坏は, 覆土中から出土している。4の須恵器盤及び5の須恵器蓋は中央部の覆土上層から, 1の土師器甕の口縁部片は中央部から北西壁寄りの覆土中層から, 2の須恵器坏は中央部から南西壁寄りの覆土中層から, それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は出土土器から平安時代(9世紀中葉)と考えられる。覆土中に焼土及び炭化物などを比較的多く含んでいるが, 性格については不明である。

第857号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第467図 1	甕 土師器	A [19.2] B (6.1)	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色, 普通	P2616 5%
2	坏 須恵器	A [13.7] B 4.9 C 7.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり, 口縁部に至る。	体部及び口縁部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・白色粒子 灰色 普通	P2617 50% P68 底部ヘラ記号
3	高台付坏 須恵器	B (3.5) C [6.8]	底部から体部片。平底。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け。	礫・長石・白色粒子, 灰色 普通	P2618 10%
4	盤 須恵器	B (3.0) C [9.8]	底部から体部片。平底。高台はハの字状に開く。体部は直線的に開く。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け。	礫・長石・白色粒子, 暗灰黄色 普通	P2619 20% 底部ヘラ記号
5	蓋 須恵器	A [17.0] B (2.1)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で, 口縁端部は屈曲し, 短くやや内側に入る。	口縁部内面口ロナデ。天井部内面口ロナデ, 外面回転ヘラ削り。	長石 灰黄色 普通	P2620 5%

第877号土坑(第468図)

位置 調査5区の北部, G6b5区。

規模と平面形 長径1.22m, 短径1.12mの円形で, 深さは74cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

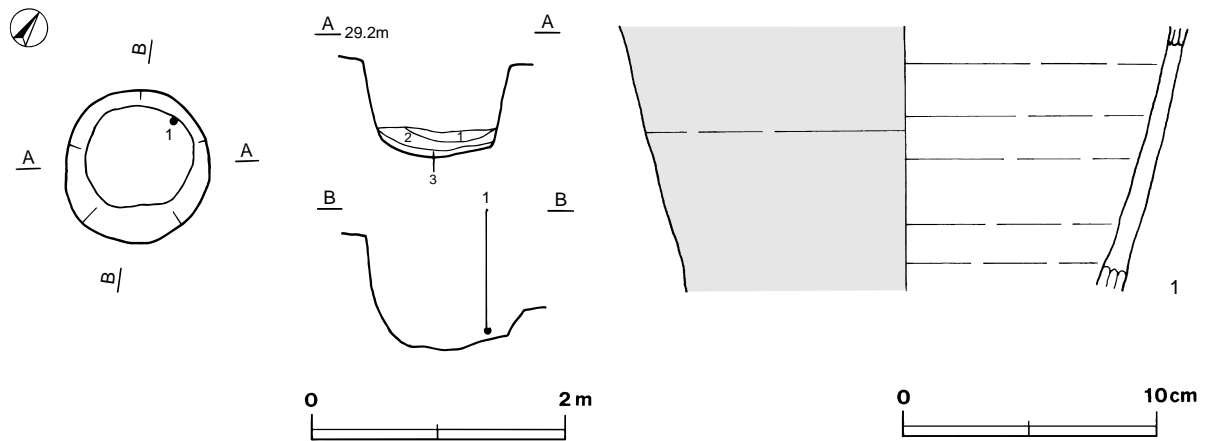
覆土 上層及び中層の記録が取れず下層のみの分層になったが, 下層は3層に分層され, レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 3 極暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物 縄文土器片9点, 土師器片5点, 須恵器片1点, 灰釉陶器片1点が出土している。うち灰釉陶器片1点を抽出・図示した。第468図1の灰釉陶器片は壺の体部片で, 北壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は出土土器から平安時代(9世紀)と考えられるが, 性格については不明である。



第468図 第877号土坑・出土遺物実測図

第877号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第468図 1	壺 灰釉陶器	B (10.4)	体部片。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面口クロナデ。体部外面施釉。	長石, 外面明赤褐色, 内面灰オリーブ色, 良好	P2622 5% 黒笹14号窯式期

第886号土坑 (第469図)

位置 調査5区の南部, H6c3区。

重複関係 第38掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.53m, 短径1.30mの楕円形で, 深さは26cmである。

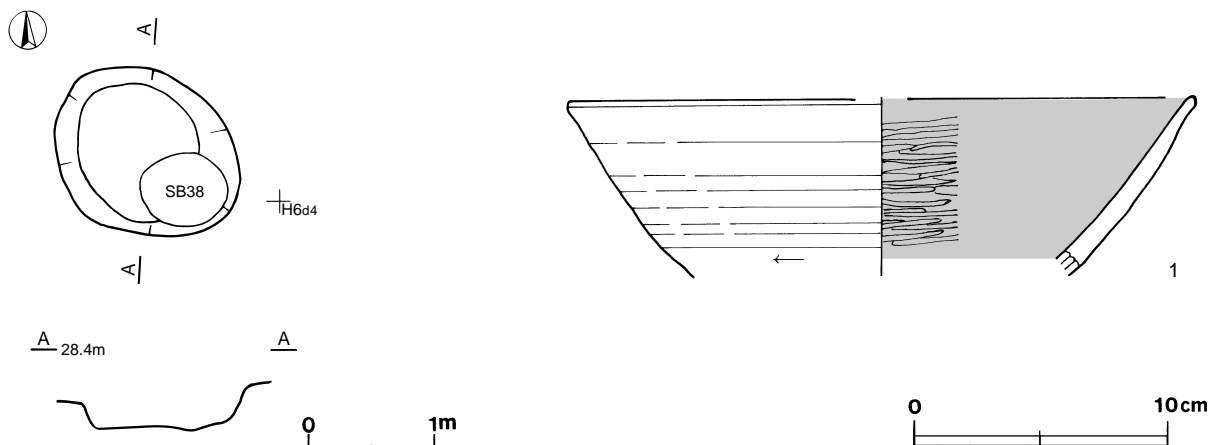
主軸方向 N-53°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 土師器片1点が出土している。第469図1の内面黒色処理された土師器鉢は, 覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代(9世紀中葉)と考えられるが, 性格については不明である。



第469図 第886号土坑・出土遺物実測図

第 886 号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第469図 1	鉢 土 師 器	A [24.6] B (7.0)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部び体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P 2623 15%

第891号土坑（第470図）

位置 調査5区の南東部，G6d6区。

重複関係 第110号住居跡及び第890号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.14mほどの円形で、深さは38cmである。

壁 なだらかに立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

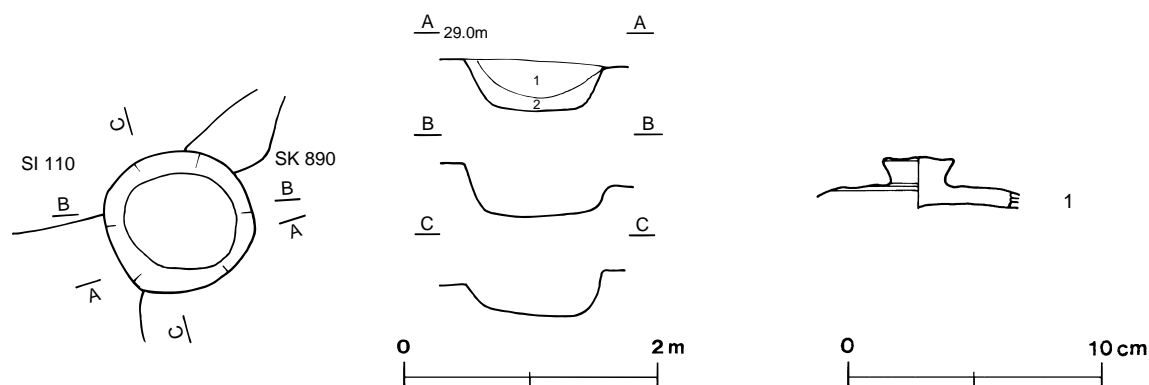
覆土 2層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量 2 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物 縄文土器片2点，須恵器片1点が出土している。うち須恵器片1点を抽出・図示した。第470図1の須恵器蓋は、覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀）と考えられるが、性格については不明である。



第470図 第891号土坑・出土遺物実測図

第 891 号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第470図 1	蓋 須 恵 器	B (2.1) F 1.1 G 2.9	天井部片。天井部は擬宝珠状のつまみが付く。	天井部内面ロクロナデ，外面回転へラ削り。	礫・長石・白色粒子 灰色 普通	P 2624 10%

第893号土坑（第471図）

位置 調査5区の北西部，G6f1区。

重複関係 第134号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.34m，短径1.14mの楕円形で、深さは24cmである。

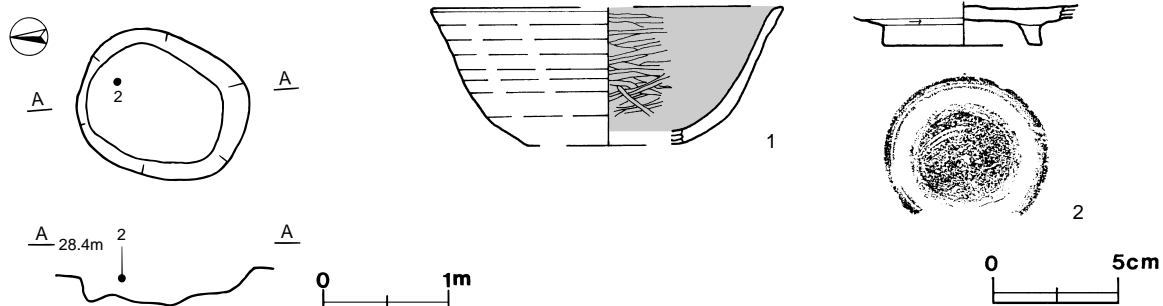
主軸方向 N-39° - E

壁 なだらかに立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 縄文土器片 7 点, 土師器片 7 点, 須恵器片 2 点が出土している。第471図 2 の土師器高台付坏は, 北東壁寄りの覆土上層から出土している。1 の土師器坏は覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代 (9 世紀中葉) と考えられるが, 性格については不明である。



第471図 第893号土坑・出土遺物実測図

第893号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第471図 1	坏 土師器	A [13.8] B (5.4)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部び体部内面へラ磨き, 外面ロクロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・白色粒子, にぶい黄橙色, 普通	P 2625 20%
2	高台付坏 土師器	B (1.6) C 5.2	高台部から底部の破片。高台は短くほぼ垂下する。	底部内面へラ磨き, 黒色処理。底部回転へラ切り。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英にぶい黄橙色普通	P 2626 10%

第898号土坑 (第472図)

位置 調査5区の南東部, H6c7区。

重複関係 第901号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径2.11m, 短径1.89mの楕円形で, 深さは32cmである。

主軸方向 N-40° - E

壁 なだらかに立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 1 か所。P 1 は北西壁寄りに位置し, 長軸129cm, 短軸62cmの不整形で, 深さは130cmである。

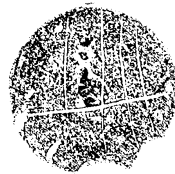
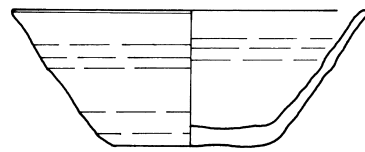
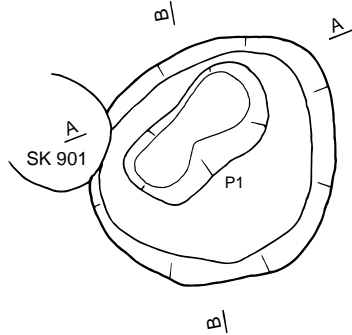
覆土 9層に分層される。第1~4層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第9層はローム大ブロック及び鹿沼パミス大ブロックを中量含み, また, 第5~9層は水平及び三角形の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

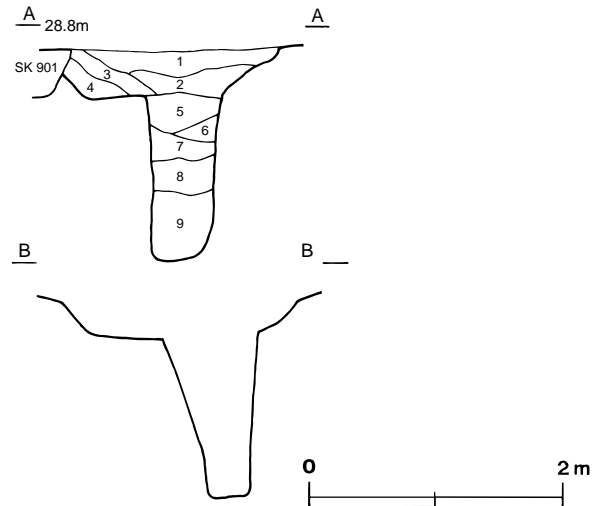
1 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼パミス微量	6 黒褐色	ローム小ブロック少量
2 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量	7 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック微量
4 褐色	ローム粒子中量	9 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子中量
5 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量		

遺物 縄文土器片16点, 土師器片16点, 須恵器片6点が出土している。うち須恵器1点を抽出・図示した。第472図1の須恵器坏は, 覆土上層及び覆土下層付近から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は出土土器から平安時代 (9 世紀中葉) と考えられるが, 性格については不明である。



1



第472図 第898号土坑・出土遺物実測図

第898号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第472図 1	坏 須恵器	A [14.1] B 5.4 C 5.8	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	長石・石英・白色粒子・針状鉱物 灰色、普通	P2627 60% PL68

第911号土坑（第473図）

位置 調査5区の南東部，G5g5区。

重複関係 第912号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.28mの円形で、深さは37cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

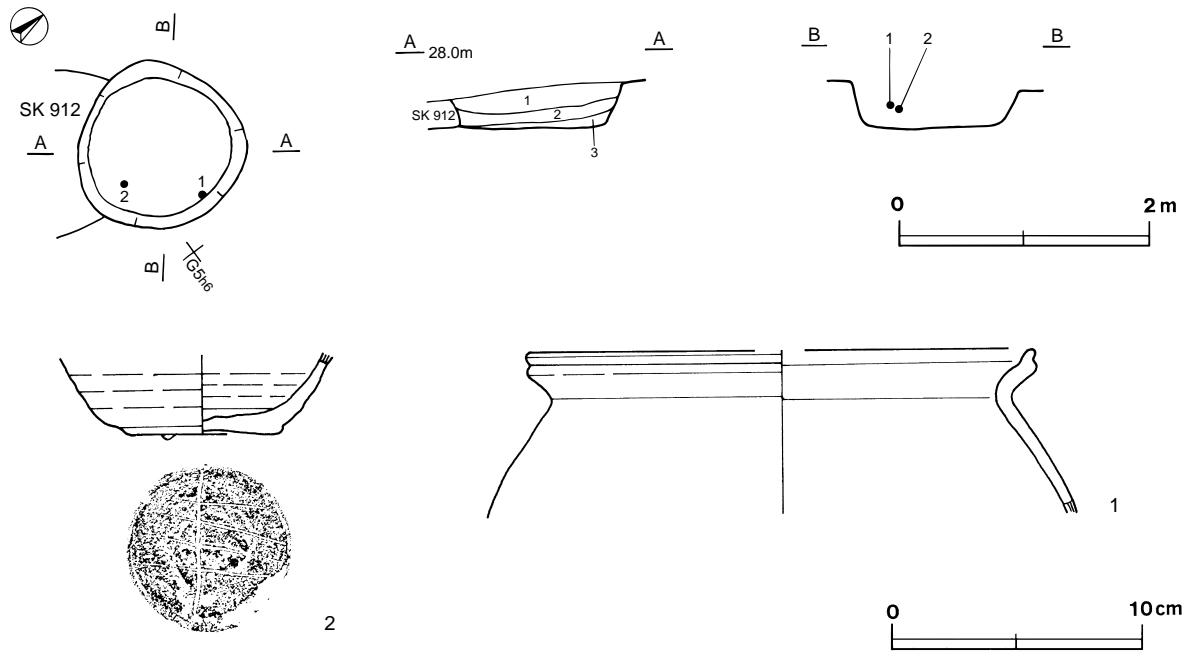
1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量

2 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

3 黒褐色 鹿沼パミス粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 縄文土器片5点，土師器片7点，須恵器片5点が出土している。うち土師器片1点，須恵器片1点を抽出・図示した。第473図1の土師器甕の口縁部片は東壁際，2の須恵器坏片は南壁寄りの，それぞれ覆土中層から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第473図 第911号土坑・出土遺物実測図

第911号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第473図 1	甕 土師器	A [20.0] B (6.5)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部がつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P 2628 10%
2	坏 須恵器	B (2.1) C 5.9	底部から体部片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P 2629 40% 底部ヘラ記号

第920号土坑（第474図）

位置 調査5区の南東部，H7a5区。

重複関係 第922号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.20m，短径0.85mの楕円形と考えられ，深さは57cmである。

主軸方向 N-75° - E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

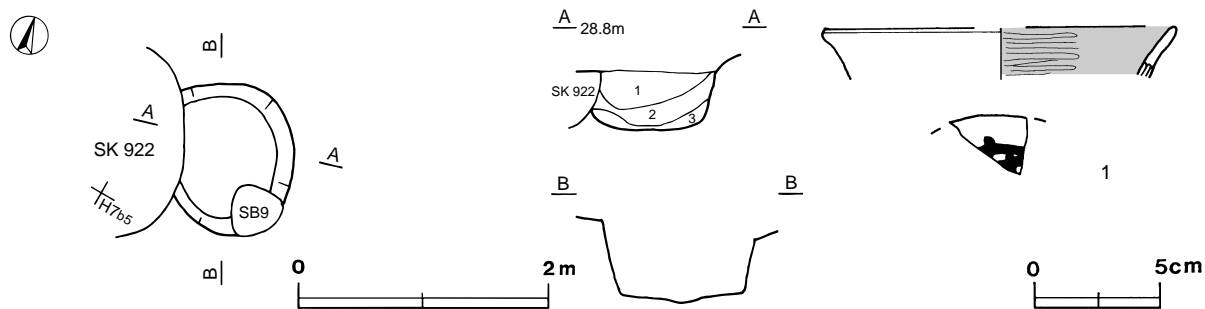
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック 少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 縄文土器片5点，土師器片6点，須恵器片2点が出土している。うち土師器片1点を抽出・図示した。

第474図1の土師器坏は，覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが，性格については不明である。



第474図 第920号土坑・出土遺物実測図

第920号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第474図 1	坏 土師器	A [14.0] B (2.1)	口縁部片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面へラ磨き，外面口ロナデ。内面黒色処理。	長石・針状鉱物 浅黄色 普通	P2630 5% 体部外面墨書「在」

第929号土坑（第475図）

位置 調査5区の北西部，G5c5区。

規模と平面形 長径1.52m，短径1.18mの不定形で，深さは42cmである。

主軸方向 N-50°-E

壁 ならだかに立ち上がる。

底面 段状である。南西部の平坦面から約8cmほど下がり，北東部に平坦面をなす。

覆土 3層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

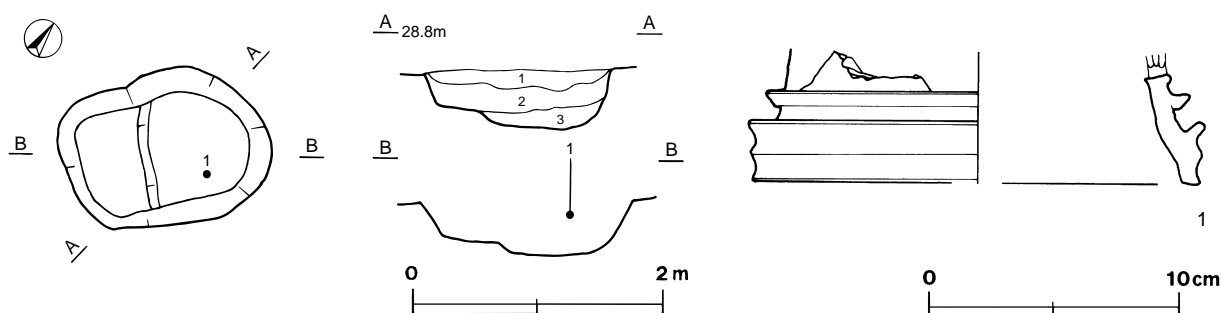
2 極暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 縄文土器片1点，土師器片9点，須恵器片1点が出土している。うち須恵器片1点を抽出・図示した。

第475図1の須恵器円面硯の脚部片は，北東壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は出土土器から8～9世紀と考えられるが，性格については不明である。



第475図 第929号土坑・出土遺物実測図

第929号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第475図 1	円面硯 須恵器	B (5.2) D [17.5]	脚台部片。脚台部の下位に2条の隆帯が巡る。	脚部内面ナデ。	長石・赤色粒子・針状鉱物。にぶい赤褐色，普通	P2631 5%

第940号土坑（第476図）

位置 調査5区の南東部，G5c6区。

規模と平面形 長径1.50m，短径1.30mの楕円形で，深さは60cmである。

主軸方向 N-60°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 1か所。P1は南西壁寄りに位置し，径50cmの円形で，深さは22cmである。

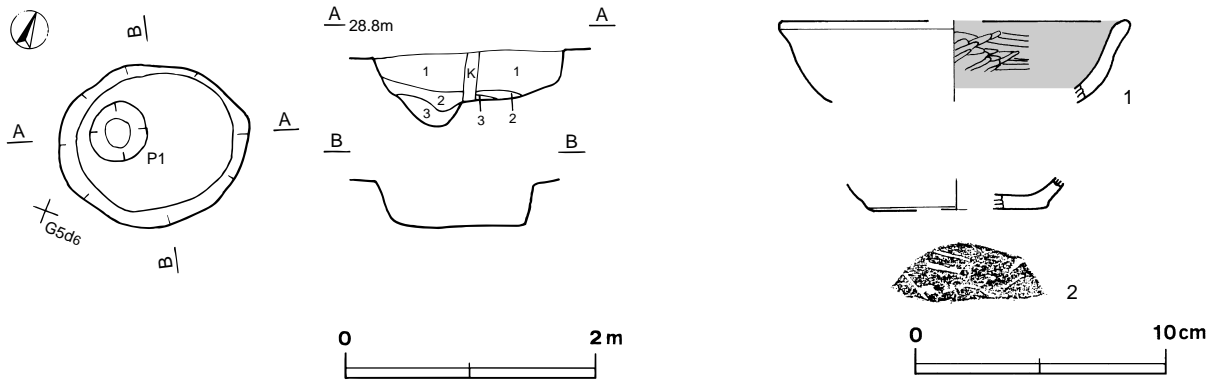
覆土 3層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物 縄文土器片6点，土師器片8点，須恵器片9点が出土している。うち土師器片1点，須恵器片1点を抽出・図示した。第476図1の土師器坏及び2の須恵器坏は，ともに覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが，性格については不明である。



第476図 第940号土坑・出土遺物実測図

第940号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第476図 1	坏 土師器	A [13.6] B (3.2)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに内反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物 暗褐色，普通	P2632 5%
2	坏 須恵器	B (1.3) C 7.0	底部片。平底。	底部回転へラ切り後，ナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P2633 5% 底部へラ記号

第941号土坑（第477図）

位置 調査5区の南東部，G5c5区。

規模と平面形 南西部の上面が攪乱されているが，長径1.68m，推定の短径1.62mの円形と考えられ，深さは76cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

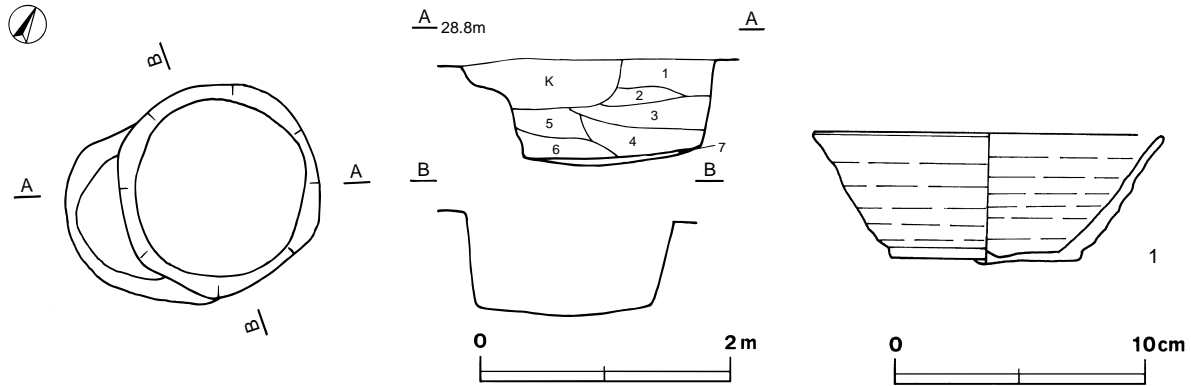
覆土 7層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------------------------|-------|--------------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・炭化物・鹿沼バミス粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 鹿沼バミス粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子少量 |
| | | 7 黒色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量 |

遺物 縄文土器片 5 点, 土師器片 6 点, 須恵器片 9 点が出土している。うち須恵器 1 点を抽出・図示した。第 477 図 1 の須恵器坏は, 覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9 世紀中葉）と考えられるが, 性格については不明である。



第 477 図 第 941 号土坑・出土遺物実測図

第 941 号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 477 図 1	坏 須恵器	A 14.0 B 5.0 C 7.7	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物 灰浅黄色, 普通	P2634 55% PL68

第 943 号土坑（第 478・479 図）

位置 調査 5 区の南東部, G5e7 区。

規模と平面形 確認面は長径 1.30m, 短径 1.24m の円形で, 北壁が約 10cm ほど掘り込まれてオーバーハングしている。深さは 45cm である。

壁 北壁がオーバーハングしている以外は, 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸である。

覆土 3 層に分層される。第 2 層が厚さの 8 割近くを占める同一質の暗褐色土層であり, 一挙に埋め戻されたものと思われる。

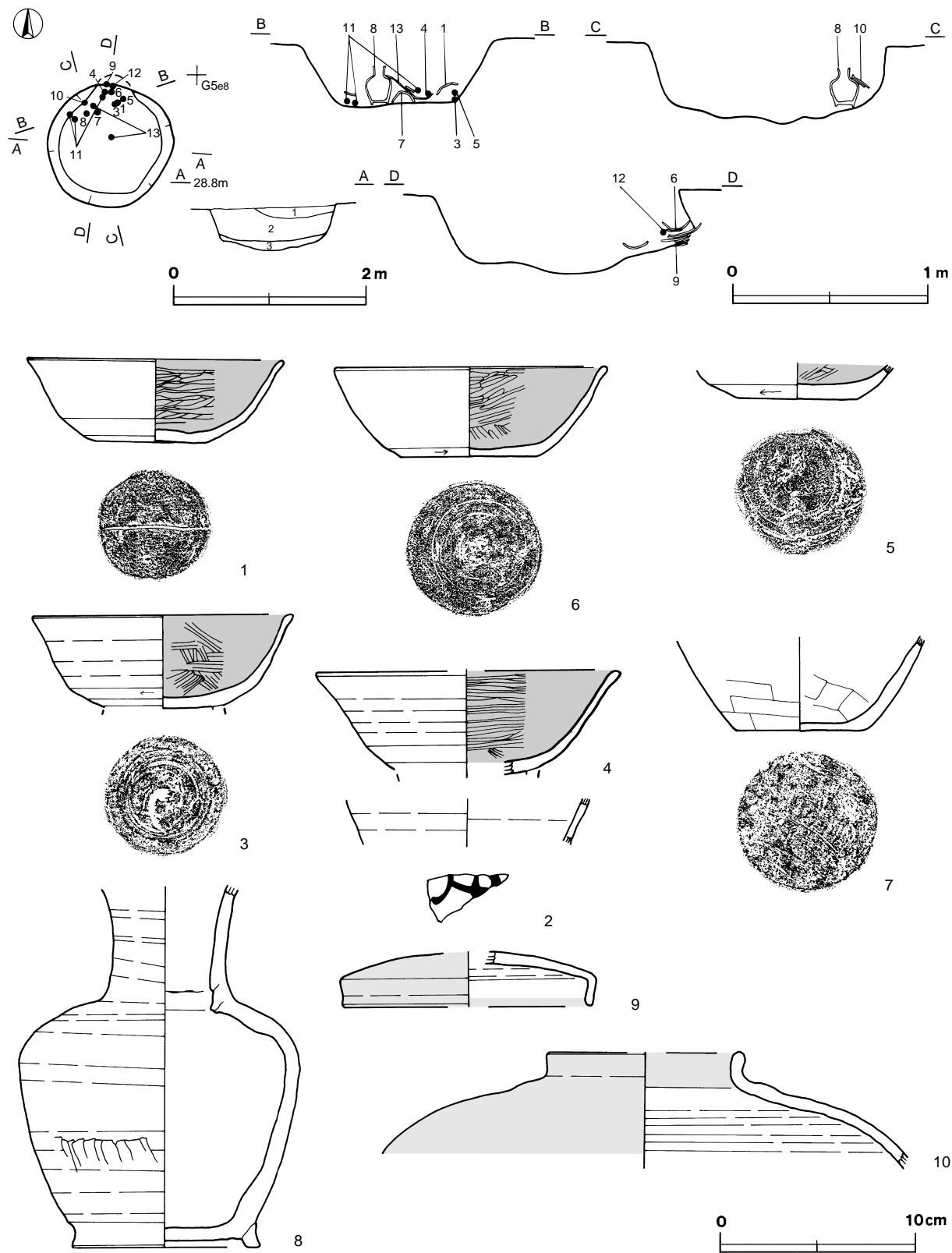
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 3 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | | |

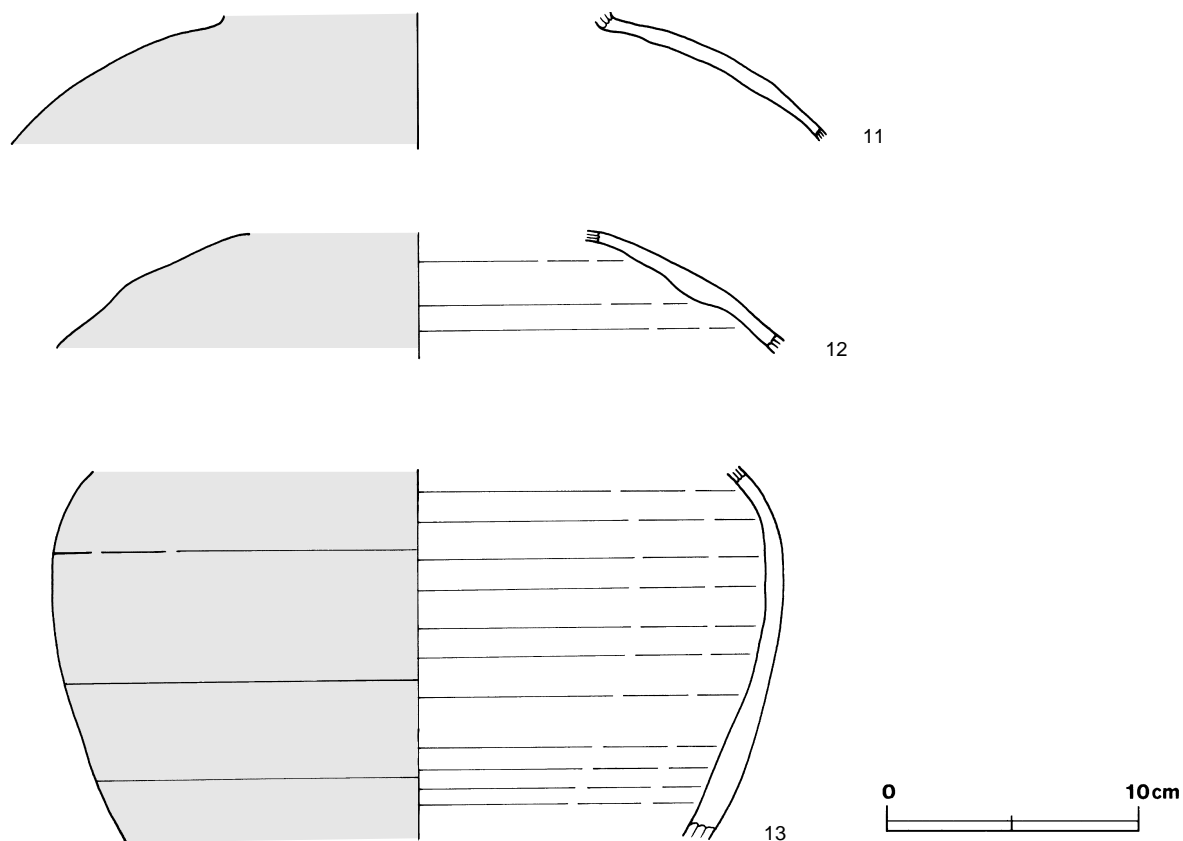
遺物 土師器片 8 点, 須恵器片 3 点, 灰釉陶器片 5 点が出土している。うち土師器 6 点, 須恵器 2 点, 灰釉陶器片 5 点を抽出・図示した。第 478 図 1・2・5・6 の土師器坏, 7 の土師器甕, 8 の須恵器長頸瓶, 9 の灰釉陶器蓋, 10~12 の灰釉陶器短頸壺の口縁部から体部片は, いずれもオーバーハングしている北壁際及び北壁寄りの覆土中層からまとも出土している。8 の須恵器長頸瓶は第 3 層の上面から北西壁寄りに正位で置かれたような状態で, また, 北壁際の底面から 9 の灰釉陶器蓋を一番下に, 12 の灰釉陶器体部片及び 6 の土師器坏が重なった状態で出土している。1・2・5・6 の土師器坏, 7 の土師器甕, 9~12 の灰釉陶器片は北壁寄

りから、それぞれ逆位・斜位・正位と流れ込んだ状態で出土している。2の墨書された須恵器坏体部片は、覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられる。遺物の出土状況などから墓塚の可能性も考えられるが、その詳しい性格については不明である。



第478図 第943号土坑・出土遺物実測図



第479図 第943号土坑出土遺物実測図

第943号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第478図 1	坏 土師器	A 13.2 B 4.2 C 5.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内面へラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英にぶい橙色普通	P 2635 65% PL68 底部へラ記号
2	坏 須恵器	B (2.4)	体部片。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英灰色普通	P 2641 5% PL72 体部外面墨書横位「在」カ
3	高台付坏 土師器	A 13.2 B (4.7)	底部から口縁部片。平底。高台剥離。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内面へラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端回転へラ削り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物にぶい褐色，普通	P 2636 60% PL68
4	高台付坏 土師器	A [15.4] B (5.8)	底部から口縁部片。平底。高台剥離。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内面へラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英褐灰色普通	P 2637 15%
5	坏 土師器	B (1.8) C 6.0	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物にぶい褐色，普通	P 2638 40%
6	坏 土師器	A 13.6 B 4.6 C 7.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内面へラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物にぶい黄橙色普通	P 2639 100% PL68
7	甕 土師器	B (4.7) C 6.7	底部から体部下端の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面下端へラナデ，体部外面下端横位のへラ削り。底部へラ削り。	長石・石英にぶい黄橙色普通	P 2640 20%
8	長頸瓶 須恵器	B (18.4) D 9.4 E 1.3	口縁部一部欠損。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，頸部に至る。頸部はわずかに外反する。	頸部及び体部内面ロクロナデ。外面ロクロナデ後，体部下位に縦位のへラナデ。底部回転へラ切り後，高台貼り付け。	長石・石英灰色普通	P 2642 90% PL67

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第478図 9	蓋 灰釉陶器	A [12.8] B (2.8)	天井部から口縁部片。天井部は丸味を持つ。口縁部は屈曲し、端部は垂下する。	天井部及び口縁部内・外面口クロナデ。天井部外面及び口縁部内・外面施釉	長石 外面浅黄色, 内面黄棕色, 良好	P 2643 40% 黒笹14号窯式期
10	短頸壺 灰釉陶器	A [5.8] B (5.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	体部及び口縁部内・外面口クロナデ。体部外面及び口縁部内・外面施釉。	長石 外面オリーブ黄色 内面灰白色, 良好	P 2644 10% PL68 黒笹90号窯式期
第479図 11	短頸壺 灰釉陶器	B (5.3)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部外面施釉。	長石・石英 外面オリーブ黄色 内面灰白色, 良好	P 2645 10% 黒笹90号窯式期
12	短頸壺 灰釉陶器	B (5.0)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部外面施釉。	長石 外面灰オリーブ色 内面灰黄色, 良好	P 2646 5% 黒笹90号窯式期
13	短頸壺 灰釉陶器	B (14.7)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部外面施釉。	長石・石英 外面オリーブ黄色 内面灰白色, 良好	P 2647 15% 黒笹90号窯式期

第945号土坑 (第480図)

位置 調査5区の西部, G5f5区。

重複関係 第138号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.83m, 短径1.28mの楕円形で, 深さは54cmである。

主軸方向 N-28°-W

壁 直立する。

底面 ほぼ平坦である。

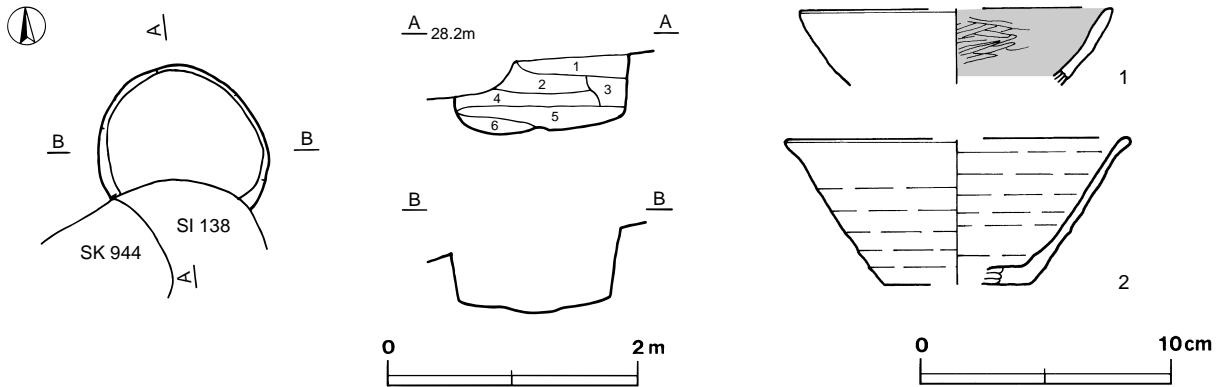
覆土 6層に分層され, レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量, ローム小ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 6 黒色 | 鹿沼パミス粒子微量 |

遺物 縄文土器片2点, 土師器片5点, 須恵器片3点が出土している。うち土師器片1点, 須恵器片1点を抽出・図示した。第480図1の土師器片, 2の須恵器片は, とともに覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代(9世紀中葉)と考えられるが, 性格については不明である。



第480図 第945号土坑・出土遺物実測図

第 945 号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第480図 1	坏 土師器	A [12.2] B (3.0)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物，にぶい黄橙色，普通	P 2649 10%
2	坏 須恵器	A [13.5] B 5.8 C 5.8	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面口クロナデ。底部調整不明。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P 2650 15%

第1714号土坑 (第481図)

位置 調査2区の南部，F3b4区。

規模と平面形 長径2.35m，短径2.12mの楕円形で，深さは22cmである。

主軸方向 N-11° - W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

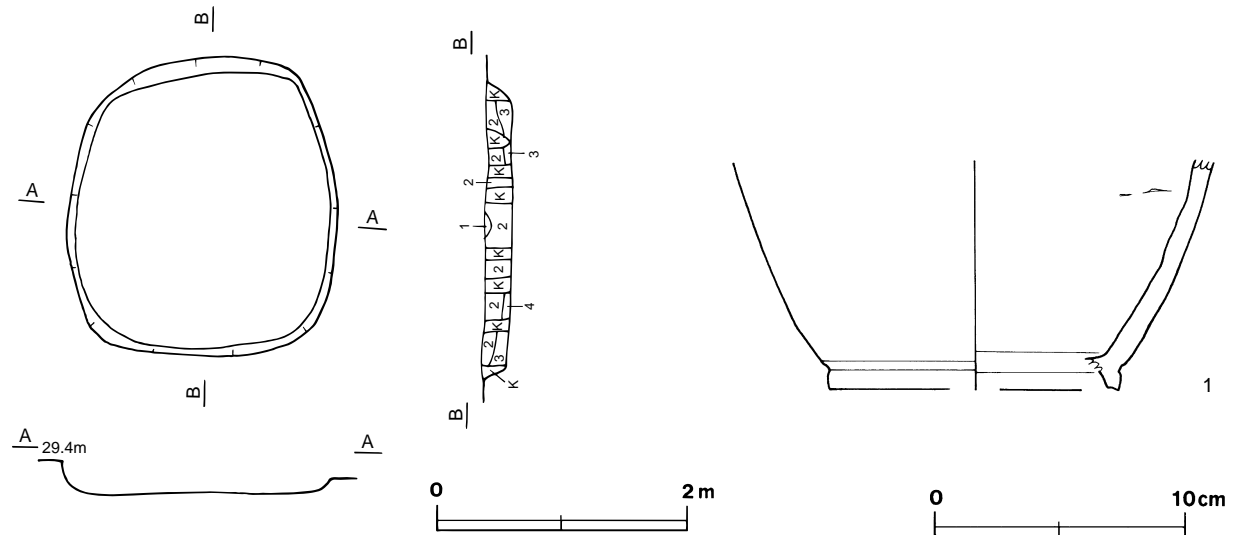
覆土 4層からなる。覆土が薄く，また，攪乱を多く受けているため，堆積状況は明確ではないが，各層にロームブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|----------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |

遺物 土師器片6点，須恵器片9点が出土している。うち須恵器片1点を抽出・図示した。第481図1の須恵器長頸瓶は，覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から9世紀と考えられるが，性格については不明である。



第481図 第1714号土坑・出土遺物実測図

第 1714 号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第481図 1	瓶 須恵器	B (9.1) D [11.4] C 8.4	高台部から体部下位にかけての破片。高台はふんばる。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。高台貼り付け。底部調整不明。	礫・長石 にぶい赤褐色 普通	P 7171 10%

第1894号土坑（第482図）

位置 調査2区の北部，D3c8区。

規模と平面形 長軸2.13m，短軸1.00mの隅丸長方形で，深さは11cmである。

主軸方向 N-40° - W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸である。

覆土 2層からなる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

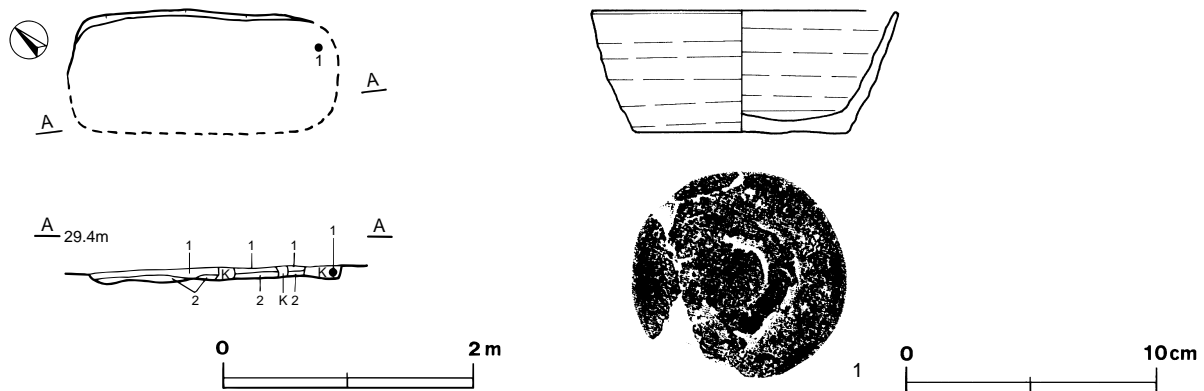
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物 須恵器1点が出土している。第482図1の須恵器坏は，南東コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 時期は出土土器から8世紀後葉と考えられる。詳細な性格については不明であるが，遺構の形状と規模から土坑墓の可能性も考えられる。



第482図 第1894号土坑・出土遺物実測図

第1894号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第482図 1	坏 須恵器	A [12.0] B 4.8 C 8.4	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	礫・長石・石英 灰白色 普通	P7172 55% PL68

表4 奈良・平安時代土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
762	H2b0	-	円形	1.26×1.22	28	外傾	平坦	人為	土師器片	
773	G4f1	-	円形	4.74×3.75	50	緩斜	凹凸	人為	土師器片，須恵器片，金属製品	
823	H7a2	N-65°-E	楕円形	2.82×2.48	178	緩斜	皿状	人為	土師器片，須恵器片，金属製品	SI103 本跡
824	G7i1	N-59°-E	不定形	3.55×3.35	180	緩斜	皿状	自然	土師器片，須恵器片，金属製品	
825	F7e1	-	円形	1.8	78	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	SI104 本跡
851	H6e9	N-87°-W	楕円形	1.25×1.06	43	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
852	H6f8	N-40°-W	楕円形	1.43×1.15	40	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
853	H6f8	N-71°-E	楕円形	1.50×1.23	45	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
854	H6e7	N-57°-E	楕円形	1.54×1.32	53	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片，金属製品	SI137 本跡
857	H6f7	N-45°-W	楕円形	1.85×1.65	37	緩斜	皿状	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器	

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
858	H6d7	-	円形	1.49×1.37	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SI132 本跡
877	G6b5	-	円形	1.22×1.12	74	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器	
886	G6d6	N - 53° - W	楕円形	1.53×1.30	26	外傾	平坦	-	土師器片	SB38と重複
891	G6d6	-	円形	1.14	38	緩斜	平坦	自然	須恵器片	SI138・SK890 本跡
893	G6f1	N - 39° - E	楕円形	1.34×1.14	24	緩斜	平坦	-	土師器片, 須恵器片	SI134 本跡
898	H6c7	N - 40° - E	楕円形	2.11×1.89	32	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡 SK901
911	G5g5	-	円形	1.28	37	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SK912 本跡
920	H7a5	N - 75° - E	楕円形	1.20×0.85	57	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
929	G5c5	N - 50° - E	不定形	1.52×1.18	42	緩斜	段状	自然	土師器片, 須恵器片	
940	G5c6	N - 60° - E	楕円形	1.50×1.30	60	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
941	G5c5	-	円形	1.68×1.62	76	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
943	G5e7	-	円形	1.30×1.24	45	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器	
945	G5f5	N - 28° - W	楕円形	1.83×1.28	54	直立	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
1714	F3b4	N - 11° - W	楕円形	2.35×2.12	22	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
1894	D3c8	N - 40° - W	隅丸長方形	2.13×1.00	11	外傾	凹凸	不明	須恵器片	

6 粘土採掘坑

今回の調査で、5基の粘土採掘坑が調査4区の南部にまとまって検出されている。いずれも粘土層を掘り込んでいる。以下、検出された粘土採掘坑について記載する。

第1号粘土採掘坑（第483図）

位置 調査4区の南部，H4e5区。

規模と平面形 長軸3.44m，短軸2.03mの不整長方形で，深さは37cmである。

主軸方向 N - 5° - E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 全体的にほぼ平坦であるが，東壁寄りの一部が凹凸である。

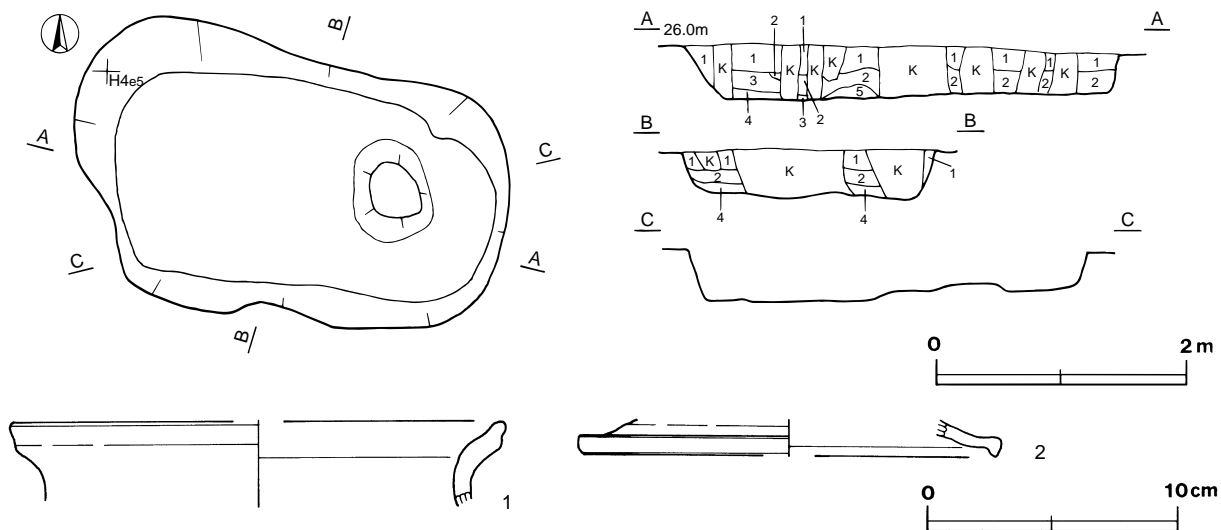
覆土 5層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子多量，焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	4 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土大ブロック少量，焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	5 暗褐色	粘土中ブロック・粘土小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
3 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量		

遺物 縄文土器片2点，土師器片13点，須恵器片4点が出土している。うち，土師器片1点，須恵器片1点を抽出・図示した。第483図1の土師器甕，2の須恵器蓋は，それぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は平安時代（9世紀）と考えられる土器が出土していることから，その時期以前まで採掘されていたものと考えられる。



第483図 第1号粘土採掘坑・出土遺物実測図

第1号粘土採掘坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第483図 1	甕 土師器	A [19.4] B (3.4)	口縁部片。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P2566 5%
2	蓋 須恵器	A [16.4] B (1.4)	口縁部片。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石 灰色 普通	P2567 5%

第2号粘土採掘坑（第484図）

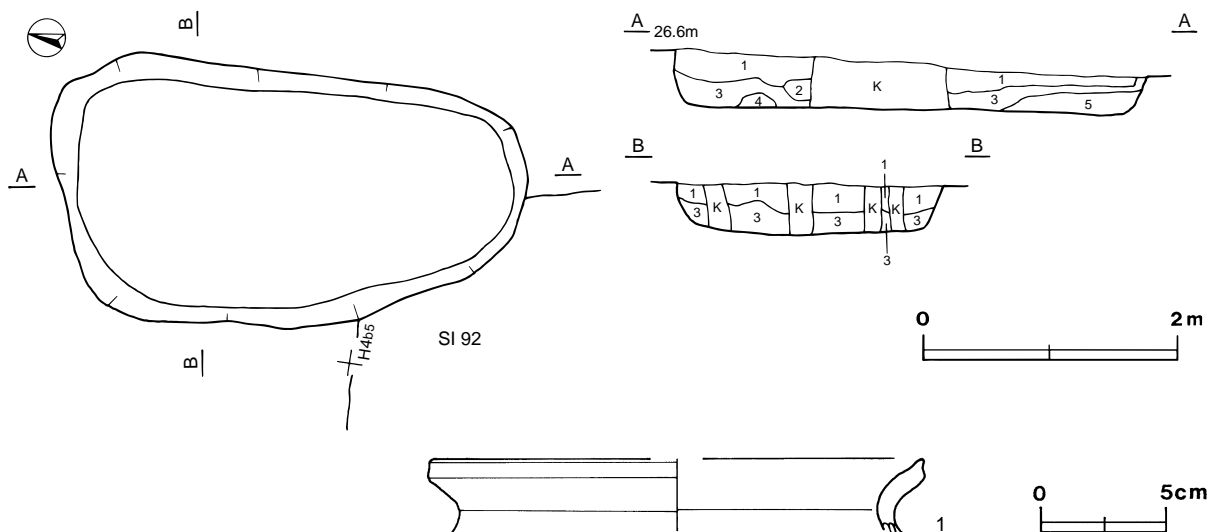
位置 調査4区の南部，H4a5区。

主軸方向 N - 8° - W

規模と平面形 長径3.70m，短径2.04mの不整楕円形で，深さは44cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。



第484図 第2号粘土採掘坑・出土遺物実測図

覆土 5層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 極暗褐色 | 粘土小ブロック少量、ローム粒子・小石微量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | 粘土中ブロック・粘土小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | | |

遺物 縄文土器片12点、土師器片34点、須恵器片16点が出土している。うち、土師器片1点を抽出・図示した。第484図1の土師器甕は、覆土中から出土している。

所見 時期は平安時代（9世紀）と考えられる遺物が出土していることから、その時期以前まで採掘されていたものと考えられる。

第2号粘土採掘坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第484図 1	甕 土師器	A [19.4] B (2.9)	口縁部片。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P2568 5%

第3号粘土採掘坑（第485図）

位置 調査4区の南部，H4d6区。

規模と平面形 長径3.02m，短径2.62mの楕円形で、深さは46cmである。

主軸方向 N-8°-E

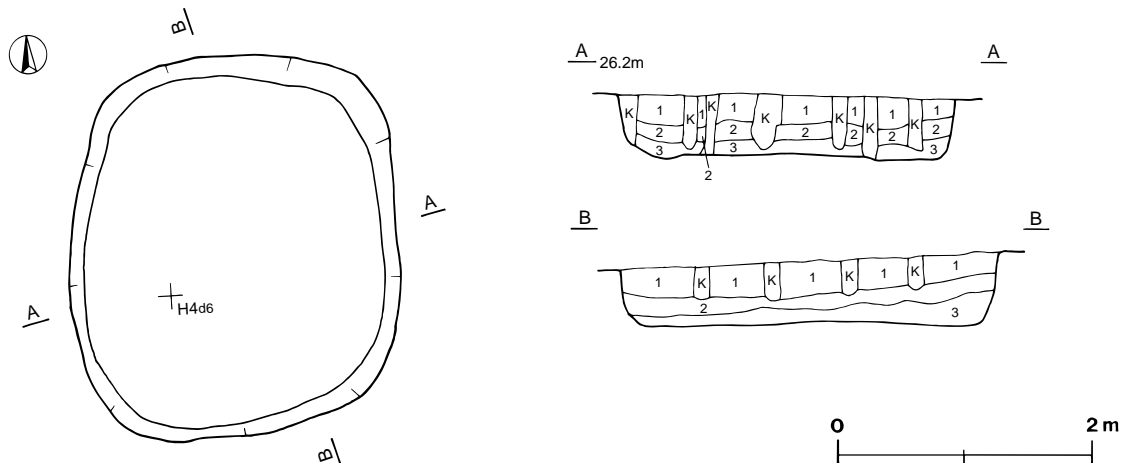
壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------------------|-------|----------------------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物微量 | | |



第485図 第3号粘土採掘坑実測図

遺物 縄文土器片25点，土師器片44点，須恵器片19点が出土している。いずれも細片であり図示できなかったが、内面黒色処理された土師器坏片が出土している。

所見 出土土器が細片であり正確な時期は不明であるが、内面黒色処理された土師器坏片が出土していることから平安時代（9世紀）ごろまでは採掘されていた可能性が考えられる。

第4号粘土採掘坑（第486・487図）

位置 調査4区の南部，H4c3区。

規模と平面形 長径5.68m，短径3.81mの楕円形で，深さは41cmである。

主軸方向 N-4°-E

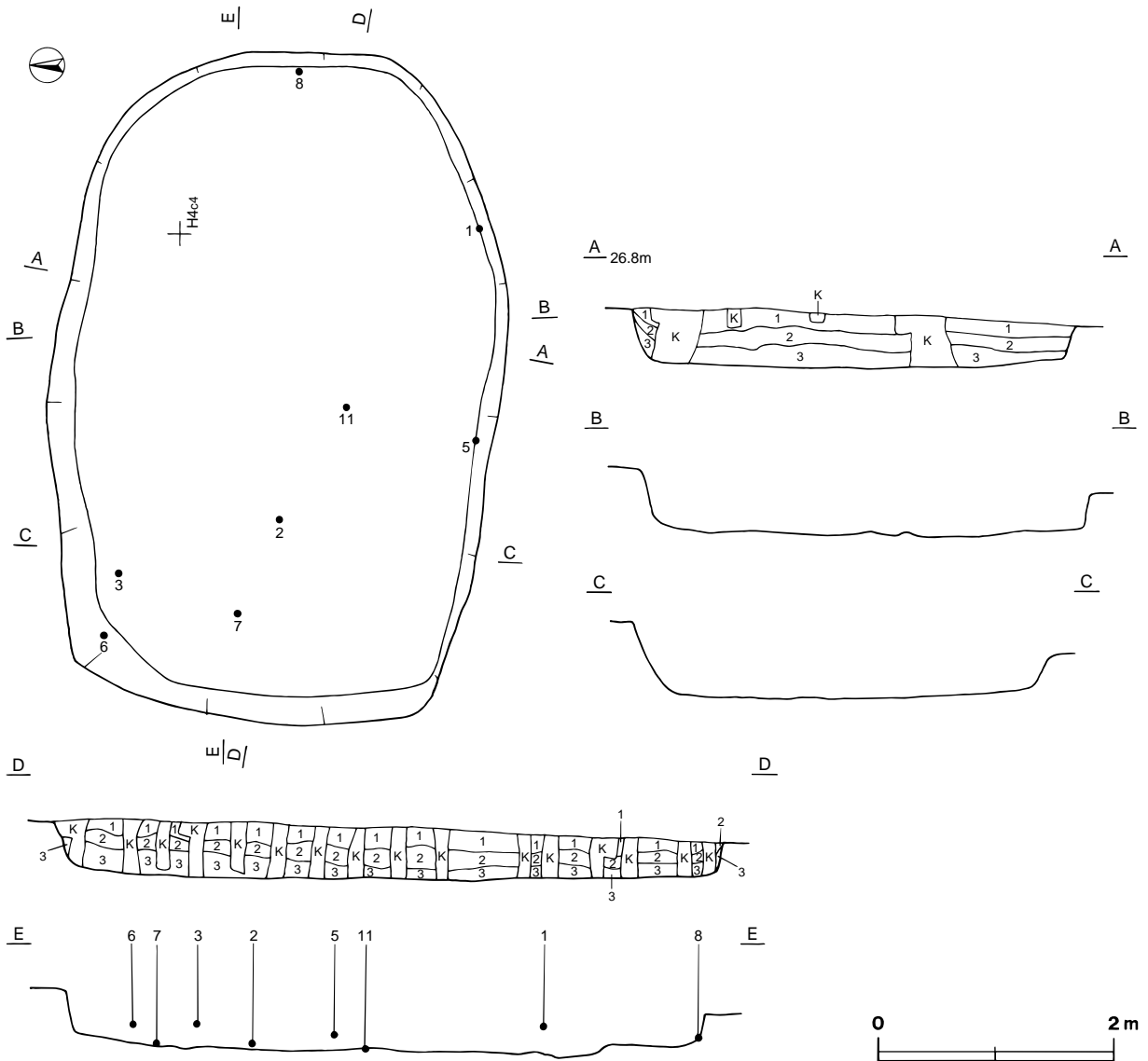
壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

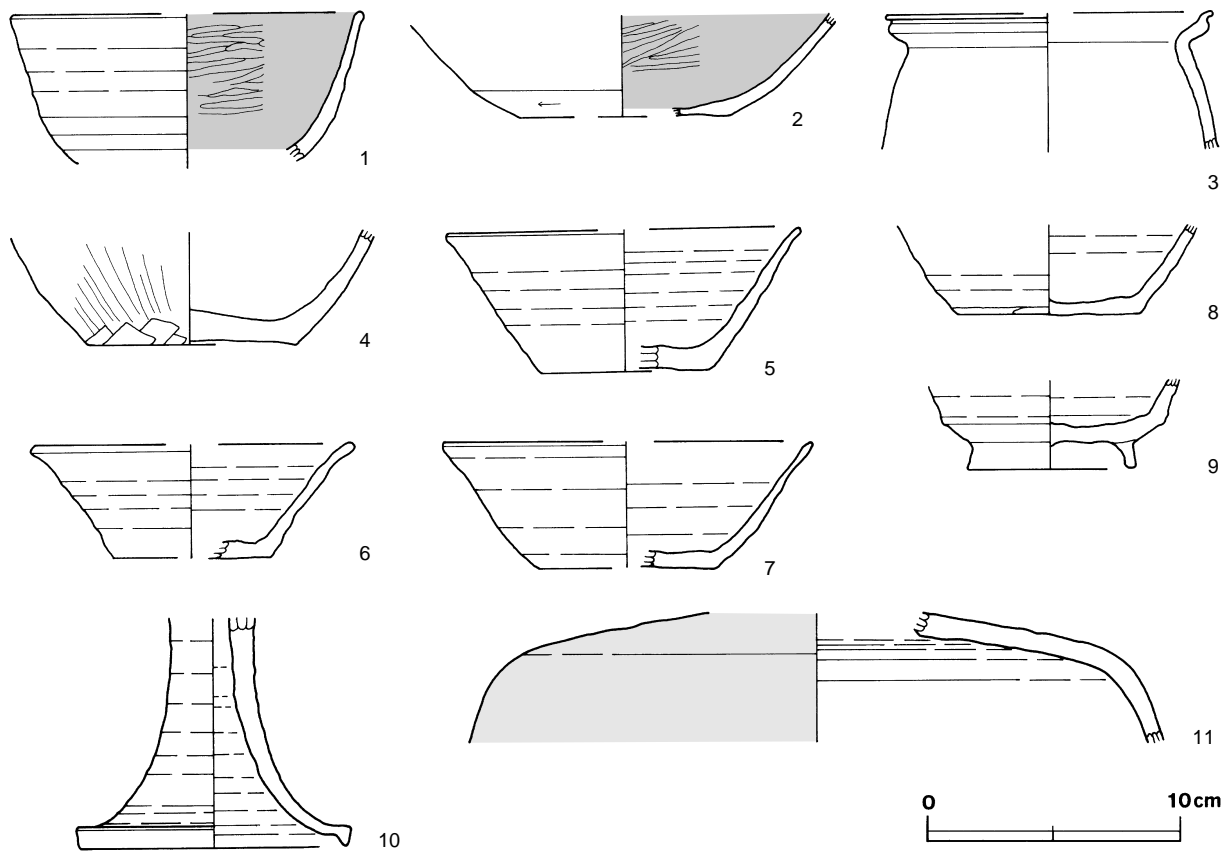
- | | | | |
|-------|-----------------------------------------|------|---------------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第486図 第4号粘土採掘坑実測図

遺物 縄文土器片4点, 土師器片95点, 須恵器片64点, 灰釉陶器片1点が出土している。うち, 土師器4点, 須恵器6点, 灰釉陶器片1点を抽出・図示した。第487図4の土師器甕, 9の須恵器高台付坏, 10の須恵器高盤は, それぞれ覆土中から出土している。1の土師器坏は, 南東壁際の覆土中層から出土している。2の土師器坏は中央部, 3の土師器甕・6の須恵器坏は北西壁際, 5の須恵器坏は南壁際, 8の須恵器坏は東壁際から, それぞれ覆土下層から出土している。7の須恵器坏は西壁寄り, 11の灰釉陶器壺は中央部よりやや南壁寄りの, それぞれほぼ床面から出土している。

所見 時期は平安時代(9世紀中葉)と考えられる遺物が出土していることから, その時期以前まで採掘されていたものと考えられる。



第487図 第4号粘土採掘坑出土遺物実測図

第4号粘土採掘坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第487図 1	坏 土師器	A [13.8] B (5.8)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き, 外面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英にぶい黄橙色 普通	P2573 15%
2	坏 土師器	B (4.0) C [8.4]	底部から体部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き, 外面口クロナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P2574 20%
3	小形甕 土師器	A [12.8] B (5.4)	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し, 端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・雲母にぶい赤褐色 普通	P2575 10%
4	甕 土師器	B (4.5) C 8.2	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラナデ, 体部下端斜位のヘラ削り。	長石・石英にぶい黄橙色 普通	P2576 10%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第487図 5	坏 須恵器	A [14.0] B 5.7 C [6.6]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 2577 40%
6	坏 須恵器	A [12.6] B 4.5 C [6.2]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面口ロナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰黄色、普通	P 2578 30%
7	坏 須恵器	A [14.5] B 5.0 C [7.0]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英 黄灰色 普通	P 2579 40%
8	坏 須恵器	B (3.5) C 7.2	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物、 灰黄色、普通	P 2580 40%
9	高台付坏 須恵器	B (3.5) D 6.6 E 1.1	底部から体部片。平底。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰黄褐色 普通	P 2581 30% 底部ヘラ記号
10	高盤 須恵器	B (9.1) D 10.6	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面口ロナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 2582 30%
11	長頸瓶 灰釉陶器	B (5.0)	体部上位の破片。体部上位は内彎気味に立ち上がり、屈曲してなだらかに内傾する。	体部内・外面口ロナデ。体部外面施釉。	長石 にぶい黄色 良好	P 2583 5% 黒笹14号～90号窯式期

第5号粘土採掘坑（第488・489図）

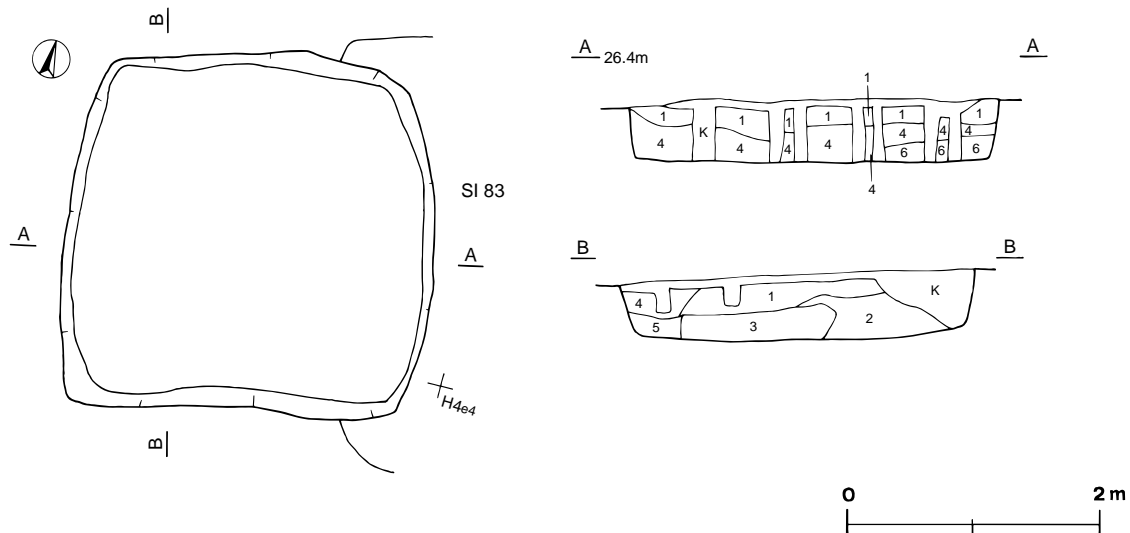
位置 調査4区の南部，H4d3区。

規模と平面形 長軸2.89m，短軸2.71mの方形で，深さは55cmである。

主軸方向 N - 9° - W

壁 直立する。

底面 ほぼ平坦である。



第488図 第5号粘土採掘坑実測図

覆土 6層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

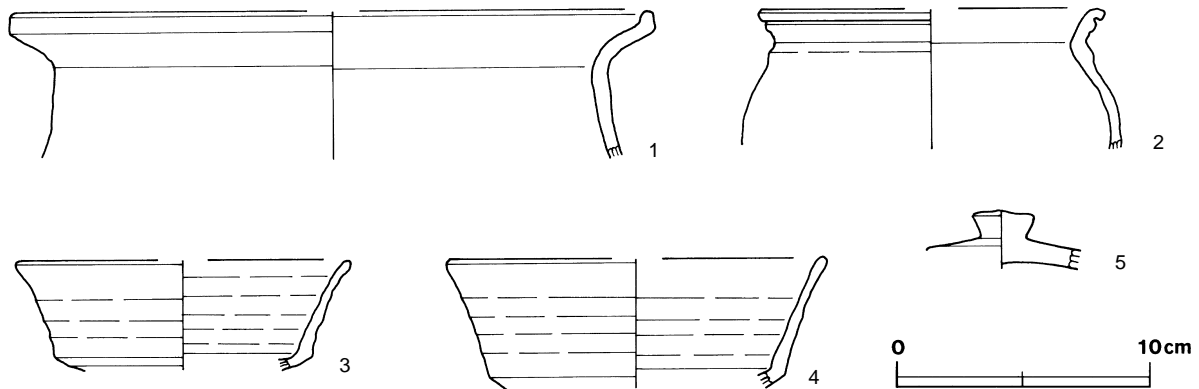
1 極暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量

2 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子微量

- 3 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量
 4 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，粘土中ブロック少量，粘土小ブロック微量
 5 黒 褐 色 粘土粒子少量，炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック微量
 6 暗 褐 色 粘土粒子中量，粘土小ブロック微量

遺物 縄文土器片45点，土師器片43点，須恵器片58点が出土している。うち，土師器 2 点，須恵器 3 点を抽出・図示した。第489図1の土師器甕，2の土師器小形甕，3・4の須恵器高台付坏，5の須恵器蓋は，それぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は平安時代（9世紀）と考えられる遺物が出土していることから，その時期以前まで採掘されていたものと考えられる。



第489図 第5号粘土採掘坑実測図

第5号粘土採掘坑出土遺物観察表

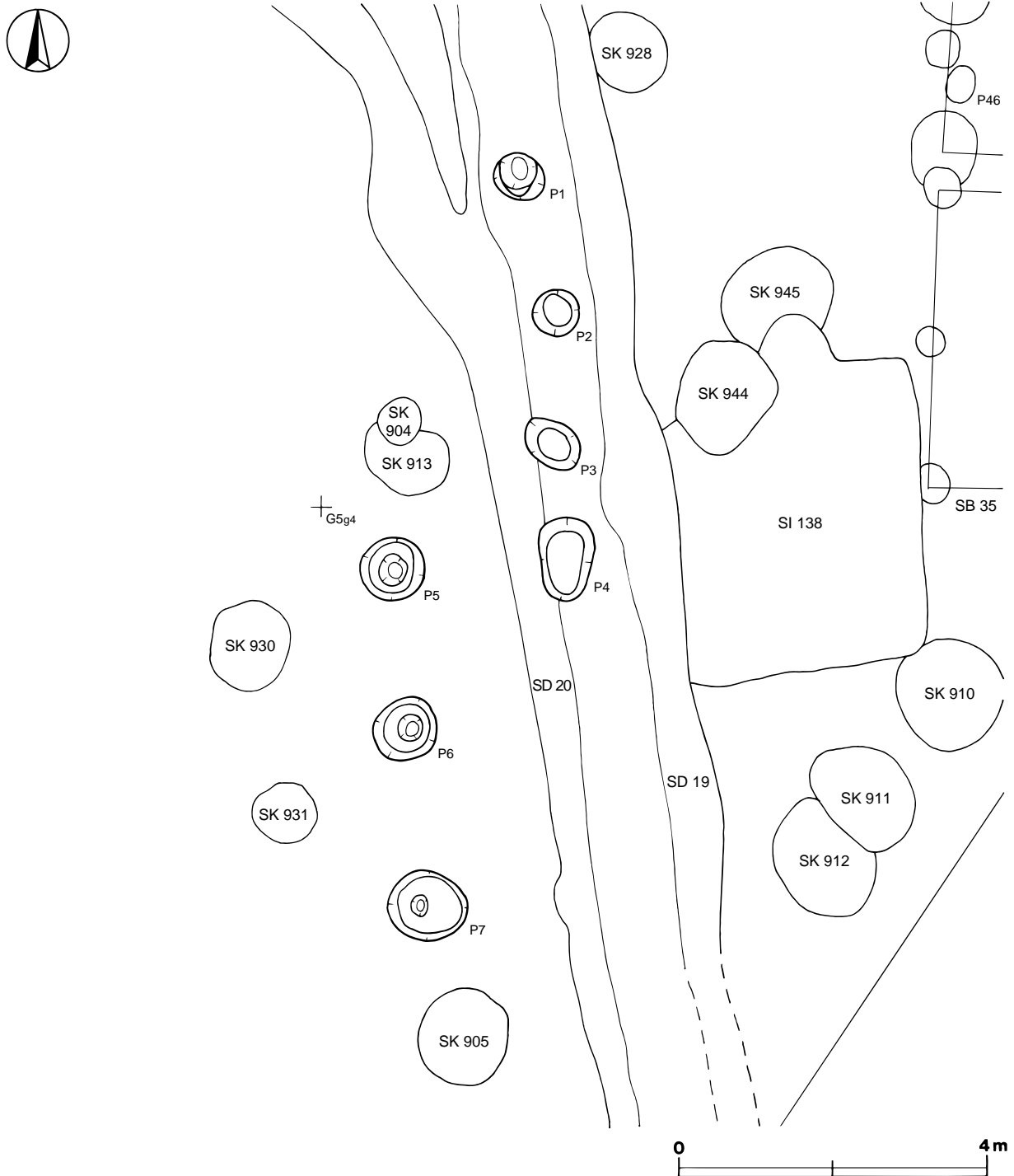
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第489図 1	甕 土師器	A [25.0] B (5.8)	口縁部片。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・赤色粒子 橙色，普通	P2584 5%
2	小形甕 土師器	A [13.3] B (5.5)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P2585 5%
3	高台付坏 須恵器	A [13.2] B (4.3)	体部から口縁部片。体部は外傾立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	長石 灰色 普通	P2586 15%
4	高台付坏 須恵器	A [14.8] B (5.1)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	長石 灰色 普通	P2587 10%
5	蓋 須恵器	B (2.4) F 2.4 G 1.2	天井部片。擬宝珠状のつまみが付く。	天井部内面口クロナデ。外面回転ヘラ削り。	長石・石英 褐灰色 普通	P2588 10%

表5 粘土採掘坑一覧表

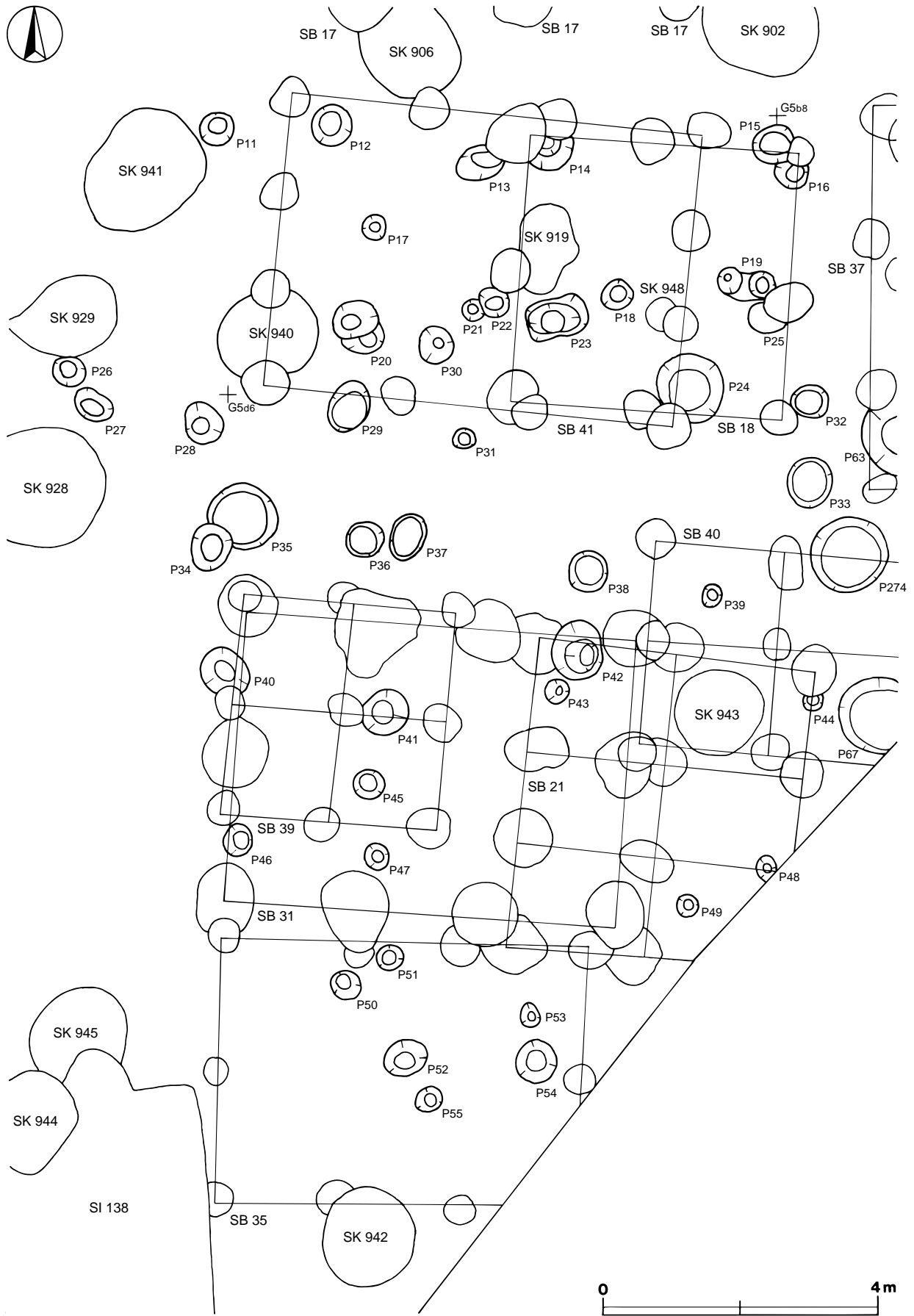
土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ(cm)					
1	H4e5	N-5°-E	不整長方形	3.44×2.03	37	外傾	平坦	不明	縄文土器片，土師器片，須恵器片	SK4006
2	H4a5	N-8°-W	不整楕円形	3.70×2.04	44	外傾	平坦	人為	縄文土器片，土師器片，須恵器片	SK4007
3	H4c6	N-8°-E	楕 円 形	3.02×2.26	46	外傾	平坦	不明	縄文土器片，土師器片，須恵器片	SK4033
4	H4c3	N-4°-E	楕 円 形	5.68×3.81	41	外傾	平坦	不明	縄文土器片，土師器片，須恵器片， 灰釉陶器片	SK4065
5	H4d3	N-9°-W	方 形	2.71×2.89	55	垂直	平坦	不明	縄文土器片，土師器片，須恵器片	SK4066

7 ピット群

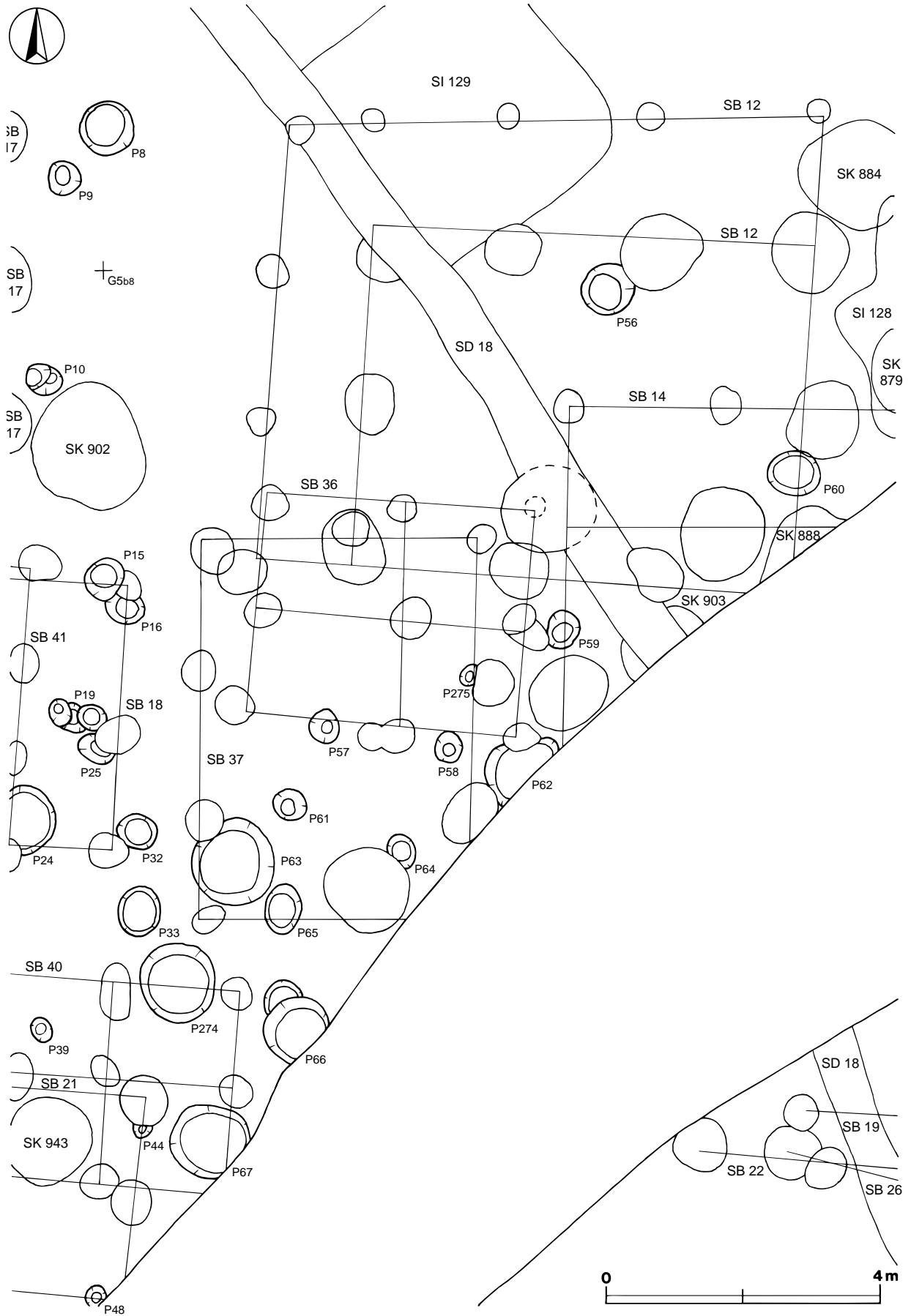
今回の調査で、規模及び形状から柱穴と考えられるピットが346基が検出された。そのうち、3区・5区に集中的に検出され、掘立柱建物跡として復元できなかった322基を、それぞれ、5区を第1号ピット群、3区を第2号ピット群として、一覧表にまとめる。



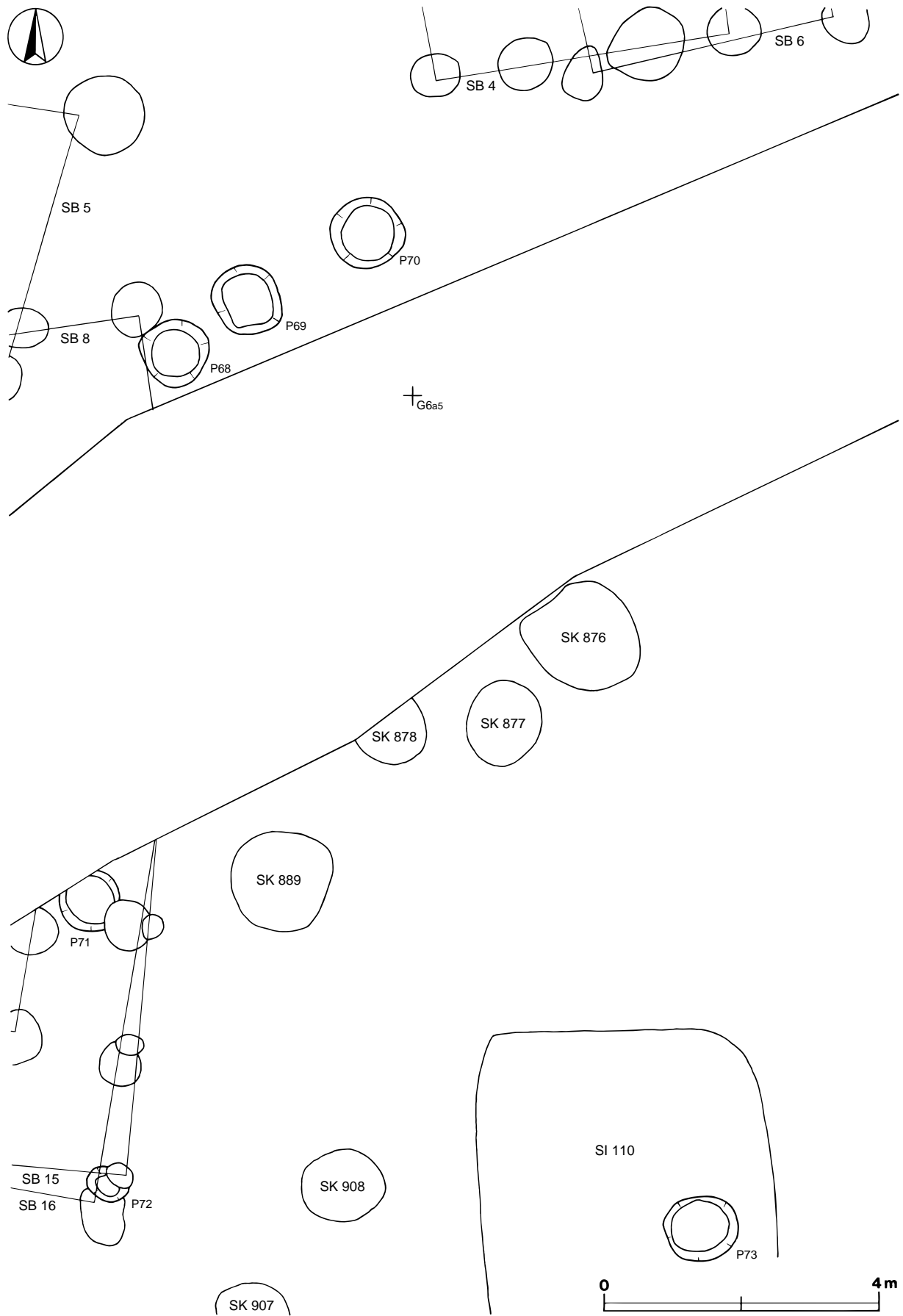
第490図 第1号ピット群実測図(1)



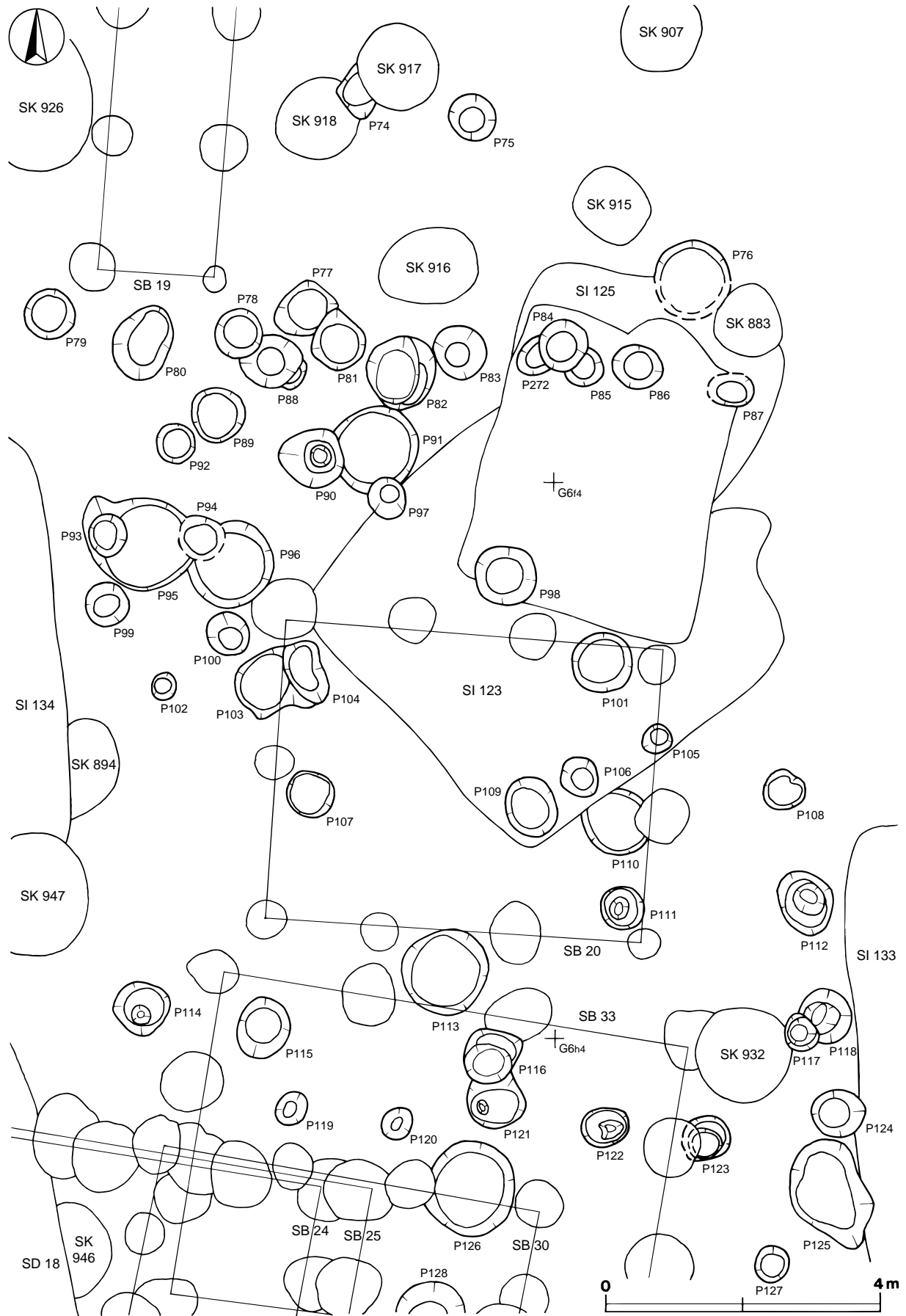
第491図 第1号ピット群実測図(2)



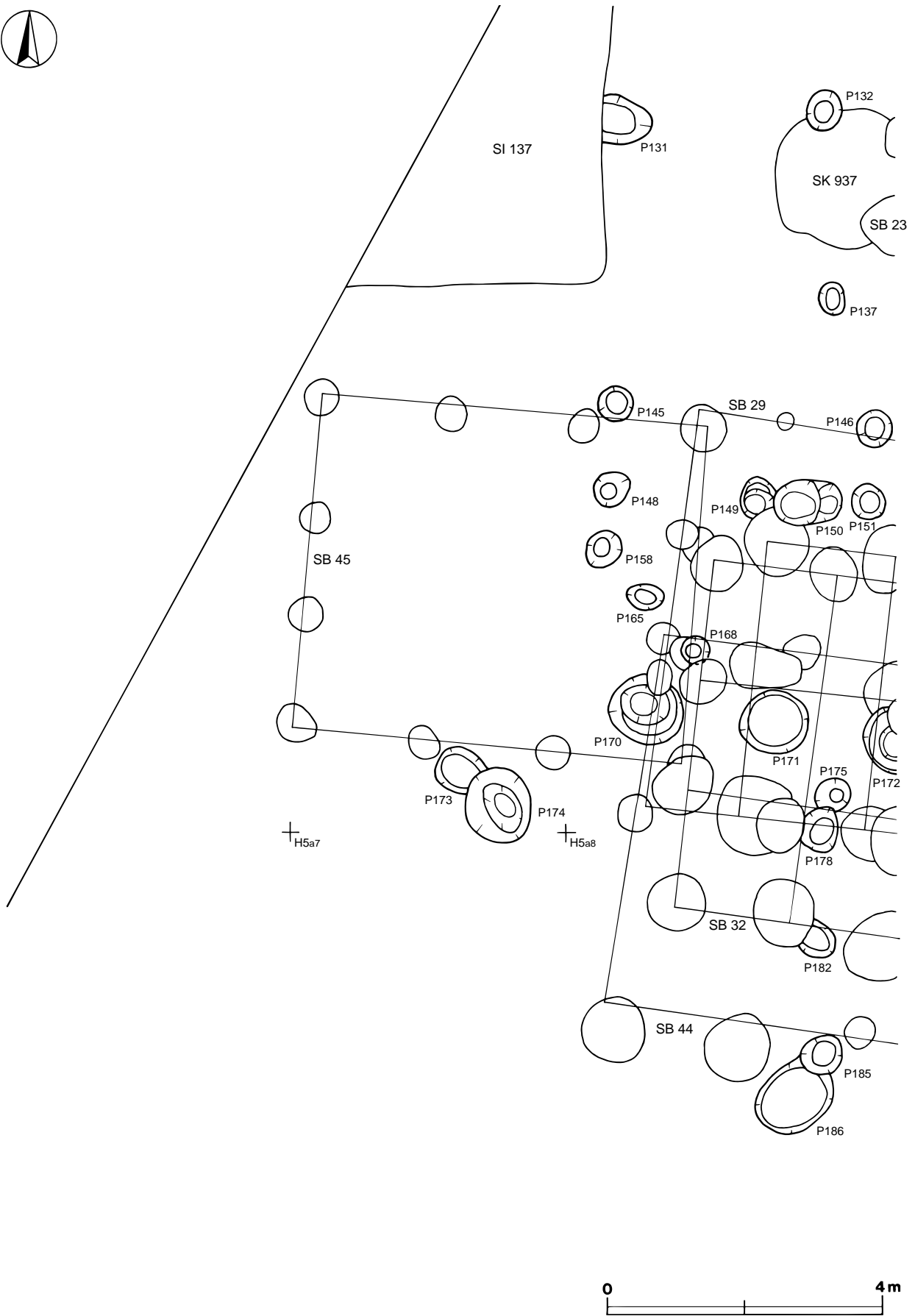
第492図 第1号ピット群実測図(3)



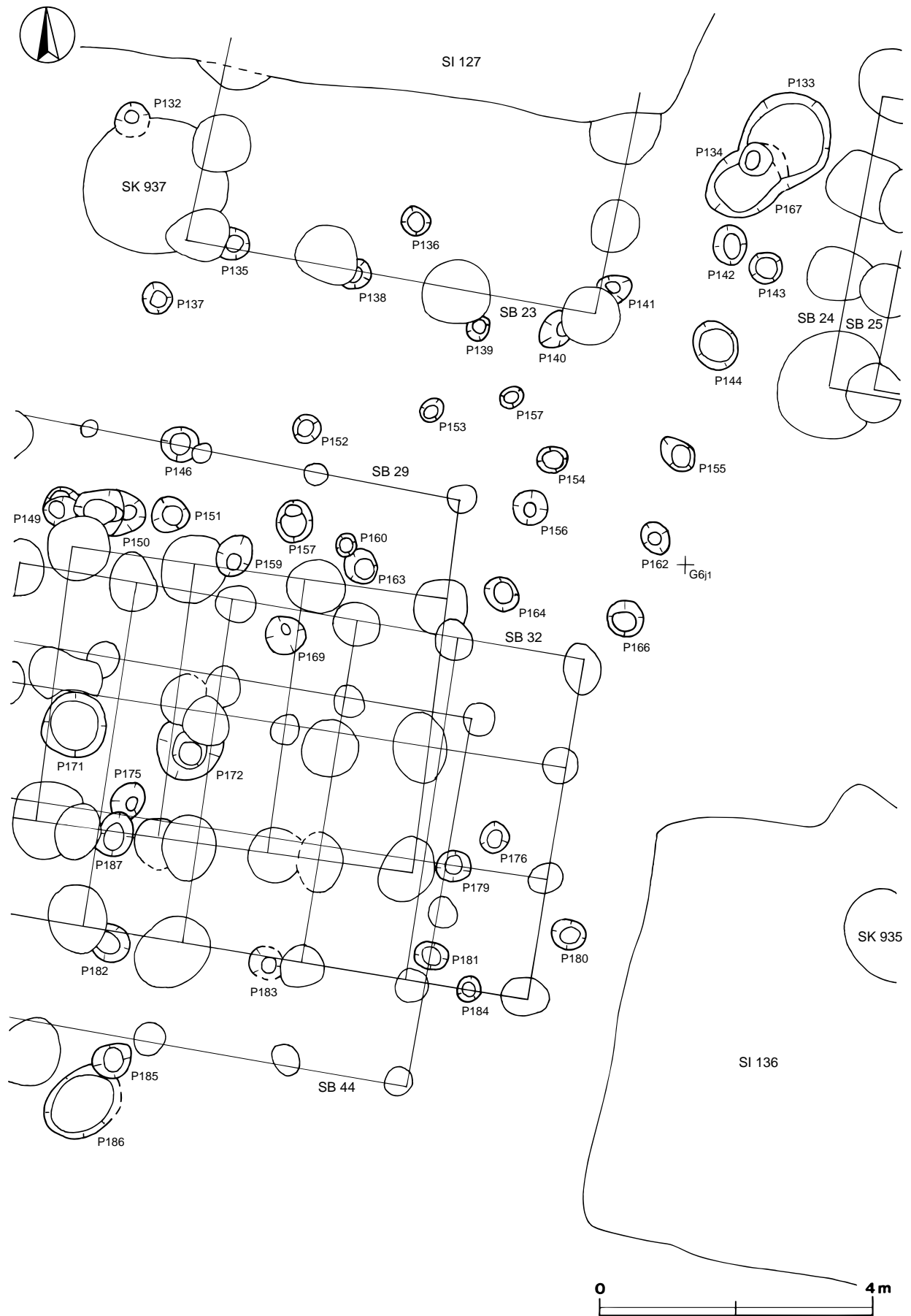
第493図 第1号ピット群実測図(4)



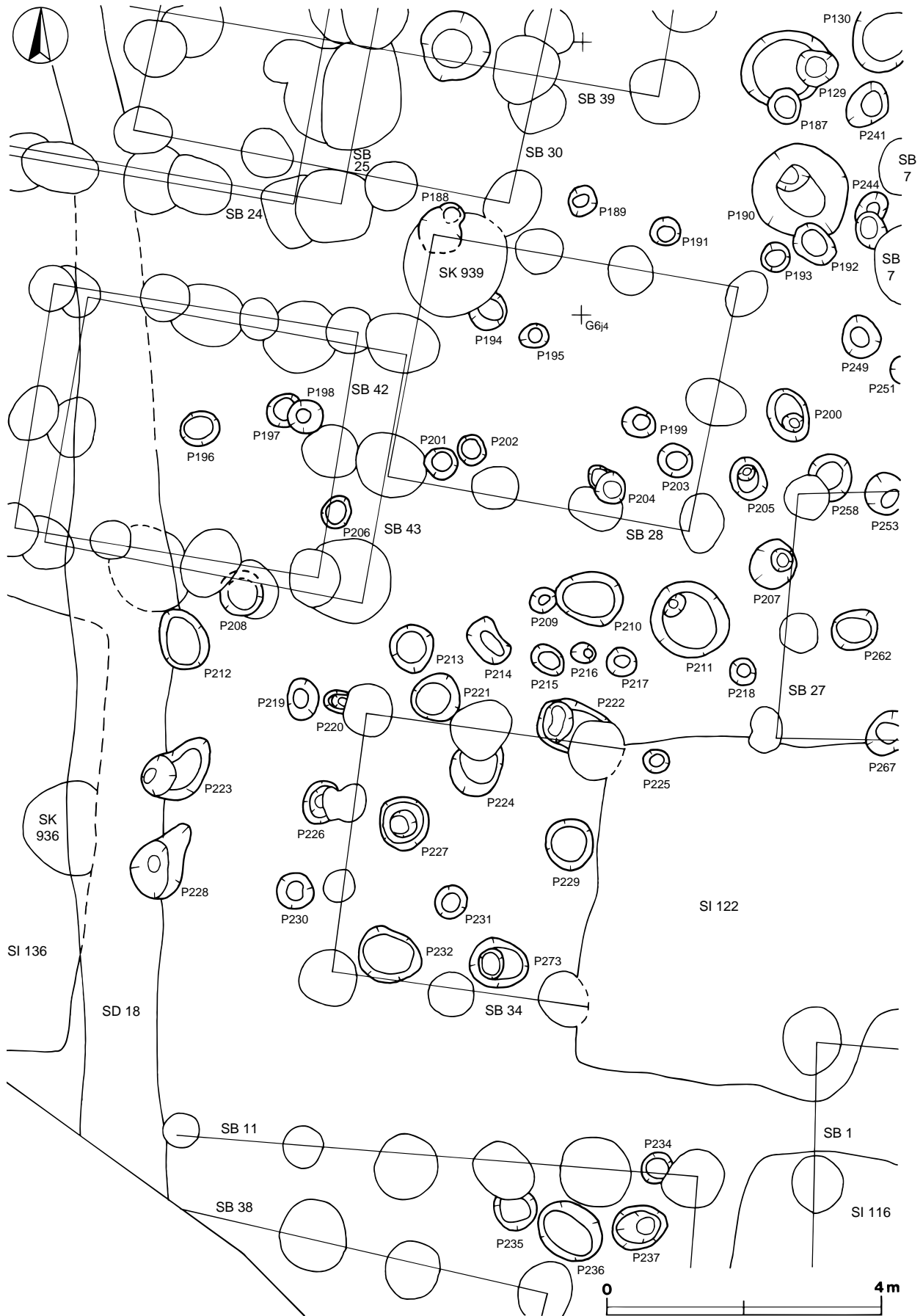
第494図 第1号ピット群実測図(5)



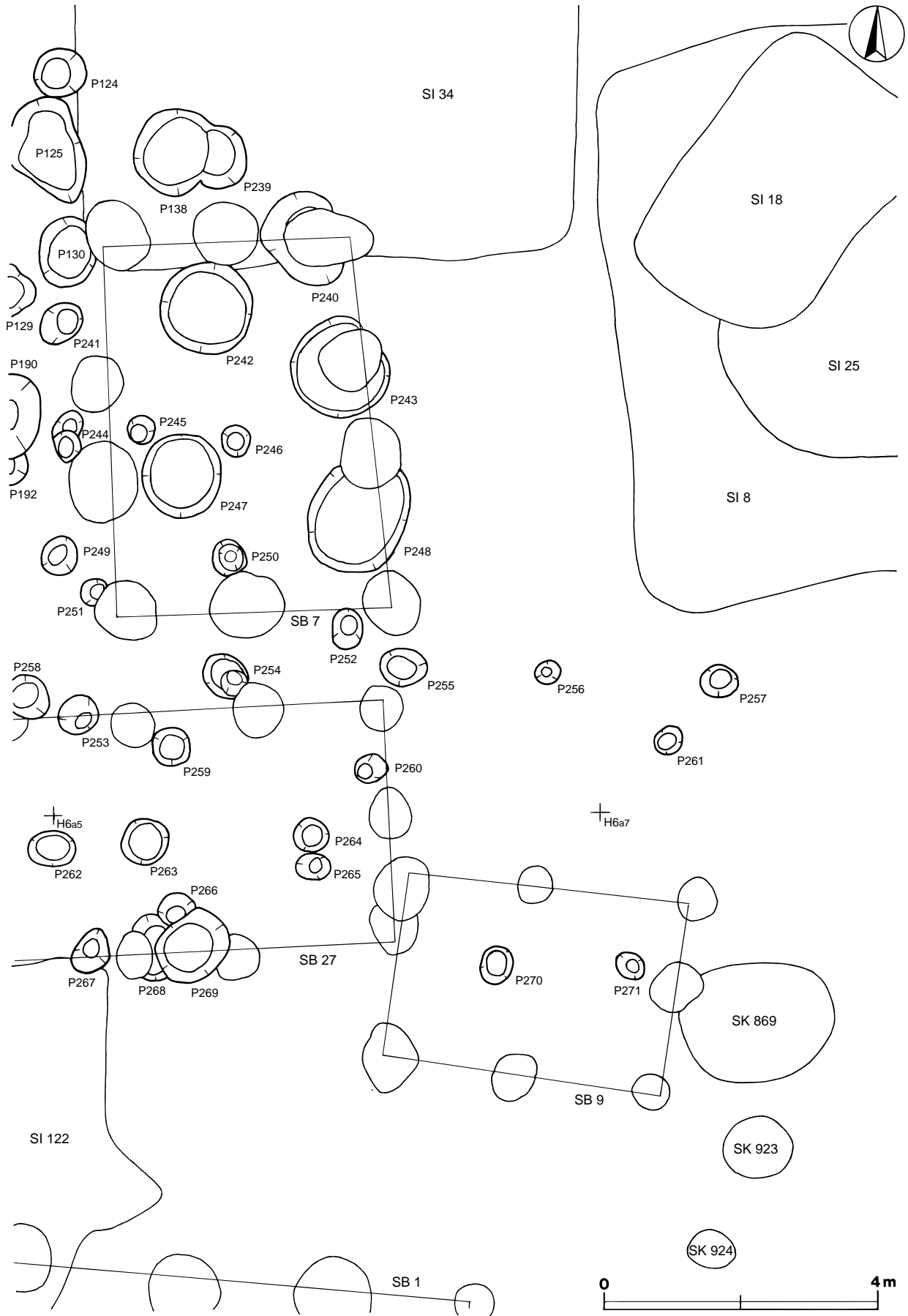
第495図 第1号ピット群実測図(6)



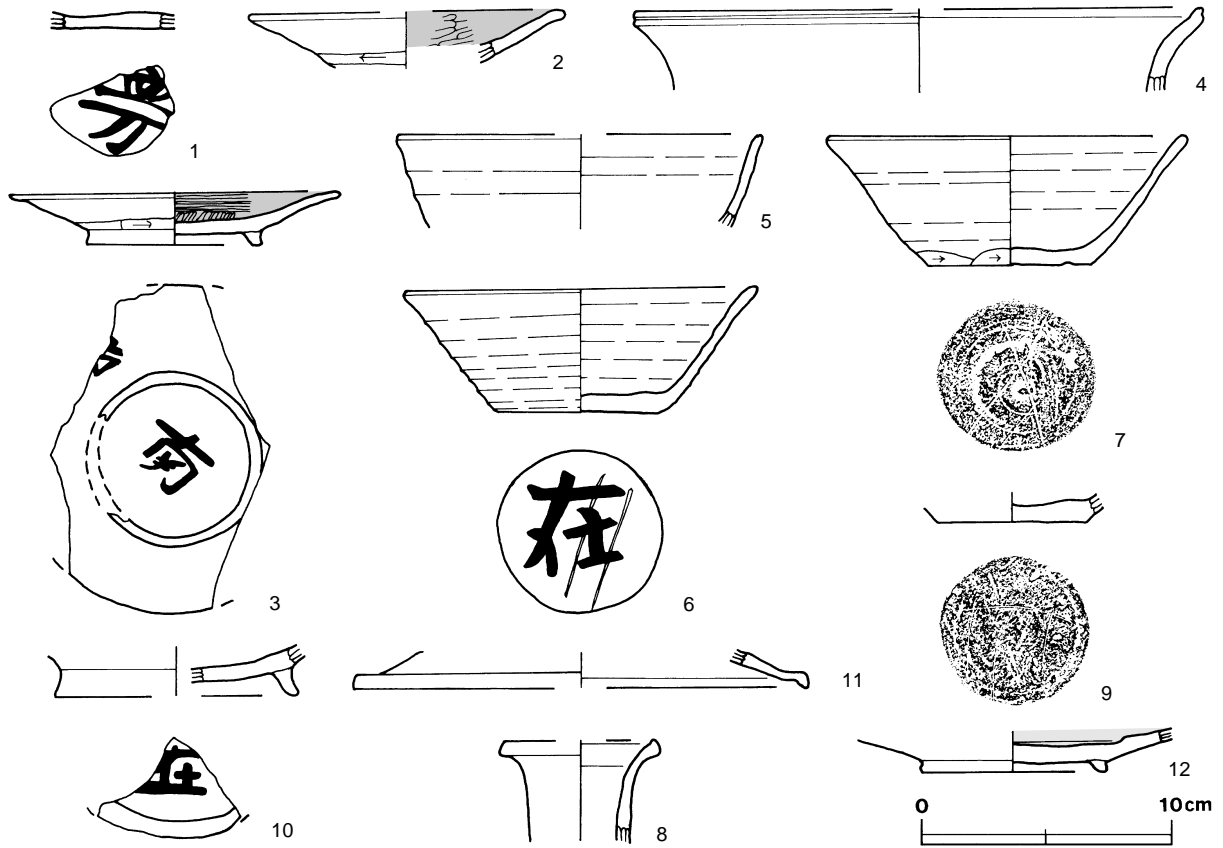
第496図 第1号ピット群実測図(7)



第497図 第1号ピット群実測図(8)



第498図 第1号ピット群実測図(9)



第499図 第1号ピット群出土遺物実測図

第63号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 1	坏 土師器	B (0.6) C (4.9)	底部片。平底。	底部内面へラ磨き，外面へラ削り。 内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物， にぶい黄橙色 普通	P2651 5% PL73 底部墨書「益万」

第237号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 2	皿 土師器	A [12.4] B (2.1)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら開く。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面ロクロナデ。内面黒色処理。	石英・針状鉱物 にぶい褐色 普通	P2648 5%

第76号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 3	高台付皿 土師器	A 13.0 B 2.1 D 6.8 E 0.6	底部から口縁部片。平底。高台はハの字状に開く。体部は外傾して大きく開き，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物 にぶい黄橙色 普通	P2654 60% PL68・74 底部墨書「南」 体部外面墨書「南」カ

第270号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 4	甕 土師器	A [22.2] B (3.3)	口縁部片。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P2655 5%

第 123 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第499図 5	坏 須 恵 器	A [14.2] B (3.7)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面口クロナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 2661 5 %

第 264 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第499図 6	坏 須 恵 器	A 13.8 B 5.0 C 6.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部及び底部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石 灰黄褐色 普通	P 2652 95% PL68-72 底部墨書「在」 底部ヘラ記号

第 67 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第499図 7	坏 須 恵 器	A 14.0 B 5.2 C 6.2	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P 2659 90% 底部ヘラ記号
8	長 頸 瓶 須 恵 器	A [6.0] B (4.0)	頸部から口縁部片。頸部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	頸部及び口縁部内・外面口クロナデ。	長石 灰色 普通	P 2660 5 %

第 87 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第499図 9	坏 須 恵 器	B (1.2) C 6.0	底部片。平底。	底部内面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・針状鉱物 灰白色 普通	P 2653 10% 底部ヘラ記号

第 38 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第499図 10	高台付坏 須 恵 器	B (2.0) D [9.6] E 1.1	底部片。平底。高台は八の字状に開く。	底部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P 2656 10% PL72 底部墨書「在」

第 115 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第499図 11	蓋 須 恵 器	A [18.0] B (1.5)	口縁部片。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P 2658 5 %

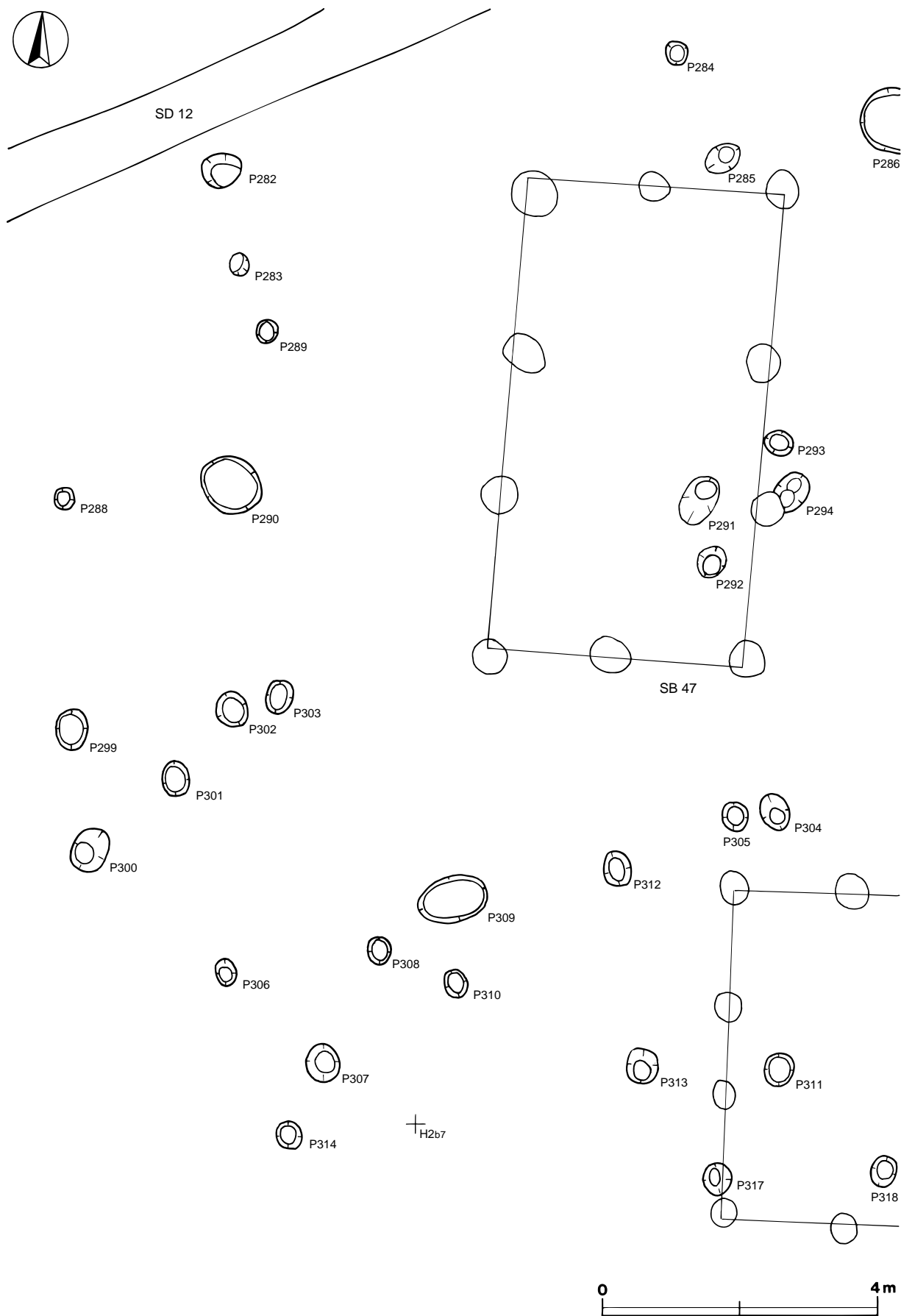
第 191 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第499図 12	段 皿 灰 釉 陶 器	B (1.7) D 7.2 E 0.5	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開き、体部内面に段を有する。	底部及び体部内・外面口クロナデ。高台貼り付け。底部及び体部内面施釉。	長石 内面灰オリープ色 外面灰黄色 普通	P 2657 20% 黒笹14号窯式期

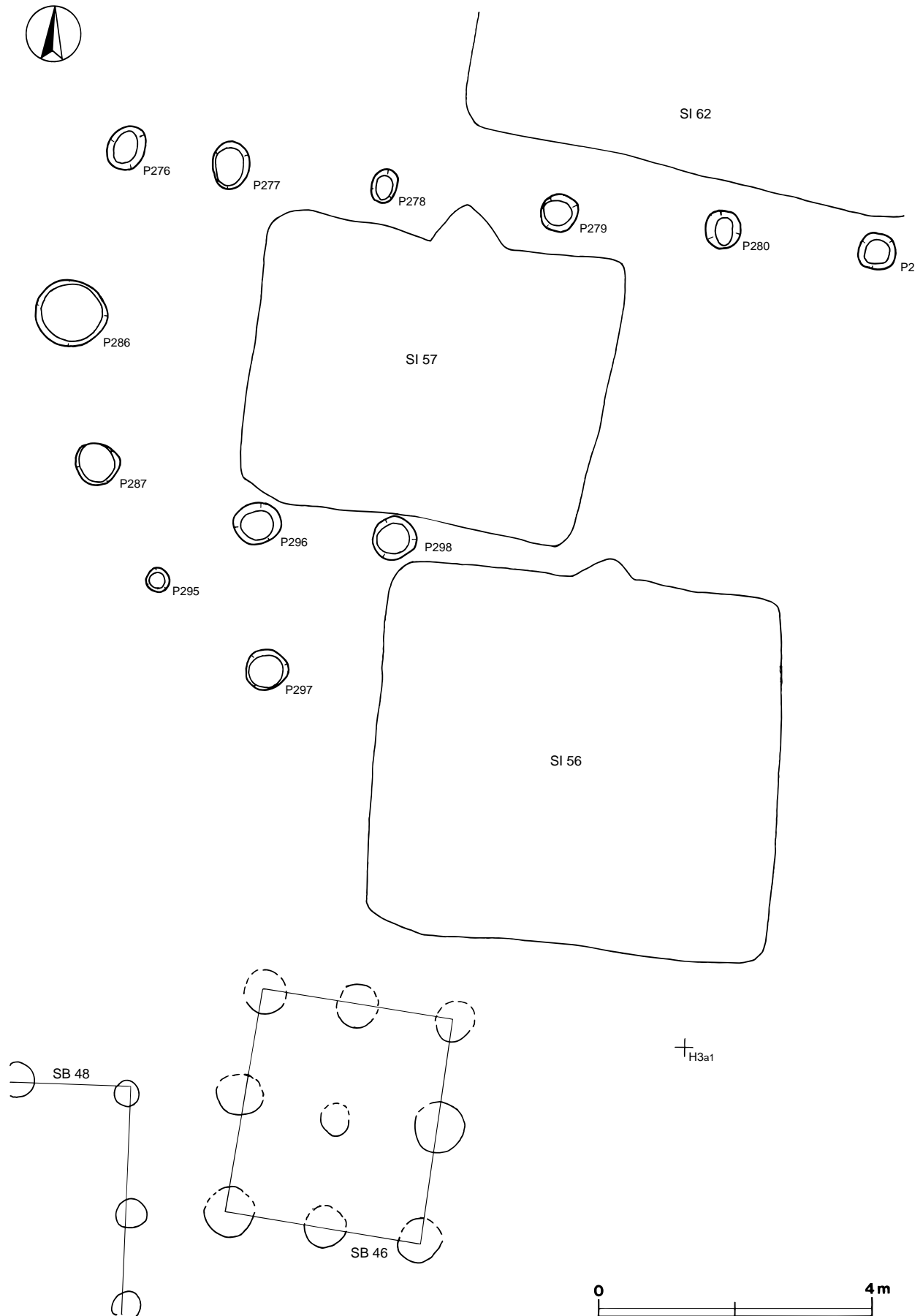
表6 第1号ピット群一覧表

番 号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番 号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番 号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	64	58	26	P 47	39	36	56	P 93	90	60	76
P 2	68	59	53	P 48	31	28	44	P 94	[72]	[70]	48
P 3	80	62	41	P 49	34	32	52	P 95	(108)	140	22
P 4	107	71	40	P 50	47	46	19	P 96	127	120	22
P 5	79	78	55	P 51	42	40	30	P 97	[62]	[58]	36
P 6	85	76	36	P 52	63	27	20	P 98	93	64	62
P 7	100	90	44	P 53	37	30	42	P 99	67	60	19
P 8	82	78	48	P 54	62	53	22	P 100	62	60	16
P 9	52	48	54	P 55	38	34	21	P 101	84	82	28
P 10	56	48	48	P 56	75	70	27	P 102	38	38	12
P 11	52	48	54	P 57	46	45	47	P 103	86	(75)	12
P 12	60	60	58	P 58	46	42	57	P 104	92	58	31
P 13	(76)	55	27	P 59	(50)	52	30	P 105	40	42	18
P 14	[76]	[70]	86	P 60	82	73	55	P 106	60	53	33
P 15	(54)	60	54	P 61	49	48	27	P 107	72	62	26
P 16	(42)	50	52	P 62	98	(76)	48	P 108	60	58	31
P 17	41	38	26	P 63	124	122	34	P 109	94	74	43
P 18	46	45	36	P 64	46	(40)	40	P 110	96	94	8
P 19	90	44	40	P 65	72	60	12	P 111	64	60	56
P 20	80	64	72	P 66	96	83	33	P 112	95	78	34
P 21	40	32	30	P 67	114	96	46	P 113	123	112	52
P 22	50	44	22	P 68	98	98	39	P 114	78	78	56
P 23	92	60	44	P 69	97	90	50	P 115	88	76	44
P 24	130	73	20	P 70	104	101	45	P 116	85	79	57
P 25	60	(24)	48	P 71	86	(66)	24	P 117	54	44	56
P 26	48	46	37	P 72	50	(30)	24	P 118	76	(57)	49
P 27	60	48	15	P 73	103	92	43	P 119	42	40	32
P 28	64	58	102	P 74	65	(36)	30	P 120	44	40	38
P 29	72	60	60	P 75	72	70	30	P 121	(84)	80	55
P 30	54	52	50	P 76	[160]	[110]	24	P 122	65	56	58
P 31	35	33	55	P 77	92	74	30	P 123	66	(66)	58
P 32	62	47	17	P 78	67	66	70	P 124	72	72	48
P 33	72	63	19	P 79	70	69	34	P 125	160	140	30
P 34	68	54	76	P 80	111	81	54	P 126	134	128	42
P 35	104	98	28	P 81	86	78	72	P 127	50	50	32
P 36	56	54	72	P 82	104	98	44	P 128	100	90	24
P 37	70	58	50	P 83	78	73	58	P 129	140	108	40
P 38	60	57	65	P 84	64	60	34	P 130	100	86	40
P 39	36	32	80	P 85	56	(29)	16	P 131	(68)	68	28
P 40	74	62	60	P 86	72	63	43	P 132	[45]	[40]	32
P 41	67	63	56	P 87	[72]	[44]	24	P 133	126	(82)	23
P 42	86	66	58	P 88	(80)	77	56	P 134	50	48	30
P 43	37	34	91	P 89	86	80	18	P 135	45	[45]	39
P 44	(20)	26	56	P 90	84	(62)	64	P 136	35	35	-
P 45	50	43	95	P 91	142	128	34	P 137	46	44	40
P 46	48	42	44	P 92	62	58	17	P 138	[46]	44	38

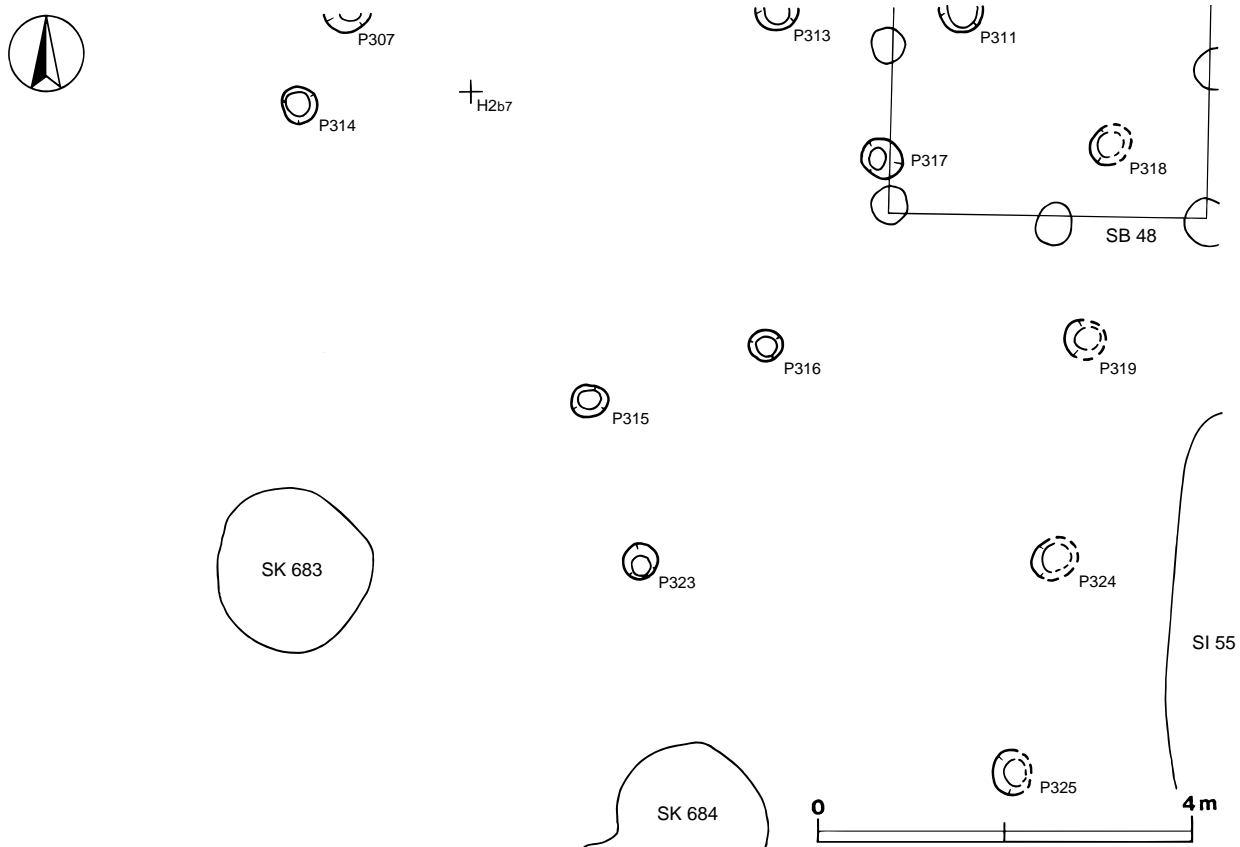
番 号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番 号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番 号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 139	35	35	44	P 186	118	90	28	P 231	48	48	42
P 140	(48)	44	38	P 187	52	46	20	P 232	94	74	60
P 141	(44)	42	82	P 188	42	[42]	32	P 233	46	44	30
P 142	51	44	26	P 189	44	38	32	P 234	42	(34)	46
P 143	50	50	16	P 190	134	130	48	P 235	60	(46)	-
P 144	70	64	28	P 191	43	38	22	P 236	98	74	24
P 145	50	48	28	P 192	(60)	50	36	P 237	82	62	60
P 146	48	48	27	P 193	47	40	20	P 238	156	124	36
P 147	34	30	50	P 194	50	(30)	22	P 239	98	(56)	36
P 148	52	44	46	P 195	39	35	70	P 241	72	58	56
P 149	60	50	44	P 196	60	52	12	P 242	136	134	54
P 150	96	66	20	P 197	51	(32)	14	P 243	132	130	52
P 151	50	50	38	P 198	52	46	18	P 244	78	46	44
P 152	42	42	28	P 199	48	41	32	P 245	44	42	12
P 153	56	42	44	P 200	74	60	48	P 246	46	44	8
P 154	44	44	44	P 201	48	44	33	P 247	118	114	60
P 155	56	42	44	P 202	46	42	36	P 248	166	134	60
P 156	60	56	30	P 203	48	48	26	P 249	56	54	32
P 157	64	50	32	P 204	66	42	-	P 250	52	50	26
P 158	52	46	26	P 205	60	54	24	P 251	42	(40)	40
P 159	54	49	46	P 206	46	43	24	P 252	52	46	72
P 160	34	30	44	P 207	70	64	96	P 253	56	56	30
P 162	46	40	48	P 208	[68]	[62]	34	P 254	[70]	56	32
P 163	50	48	48	P 209	36	32	26	P 255	66	50	26
P 164	54	44	56	P 210	88	62	40	P 256	27	27	86
P 165	48	36	30	P 211	114	106	40	P 257	52	48	62
P 166	54	50	44	P 212	80	60	26	P 258	64	[64]	60
P 167	[130]	96	20	P 213	72	64	22	P 259	59	58	20
P 168	42	[38]	34	P 214	54	38	16	P 260	52	46	92
P 169	58	50	38	P 215	54	40	14	P 261	44	42	32
P 170	104	100	44	P 216	32	30	24	P 262	71	53	24
P 171	100	92	52	P 217	46	44	40	P 263	73	68	34
P 172	[96]	96	56	P 218	38	34	82	P 264	50	50	70
P 173	(60)	62	16	P 219	60	52	64	P 265	50	40	56
P 174	104	90	26	P 220	32	(30)	68	P 266	36	48	30
P 175	56	48	50	P 221	72	72	48	P 267	36	36	34
P 176	44	40	46	P 222	(58)	74	40	P 268	(50)	94	-
P 178	58	54	18	P 223	104	68	22	P 269	128	114	54
P 179	42	42	28	P 224	(52)	76	18	P 270	56	50	28
P 180	50	44	26	P 225	36	36	34	P 271	48	38	48
P 181	44	36	26	P 226	60	[52]	60	P 272	60	(38)	26
P 182	(42)	42	-	P 227	82	78	40	P 273	86	70	28
P 183	[52]	42	28	P 228	108	60	26	P 274	114	110	32
P 184	36	36	46	P 229	74	72	35	P 275	34	(16)	-
P 185	56	54	28	P 230	54	52	30				



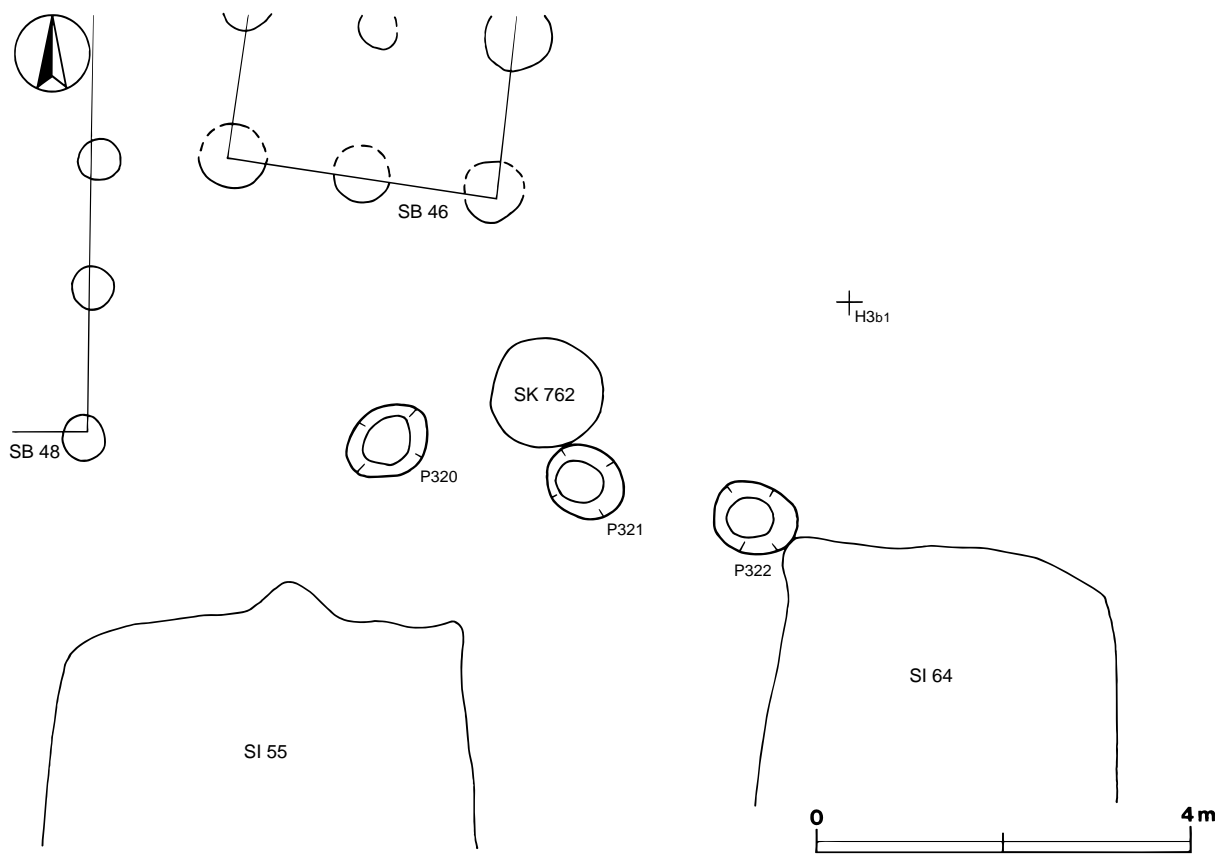
第500図 第2号ピット群実測図(1)



第501図 第2号ピット群実測図(2)



第502図 第2号ピット群実測図(3)



第503図 第2号ピット群実測図(4)

表7 第2号ピット群一覧表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 276	64	56	28	P 293	46	42	-	P 310	40	34	-
P 277	70	58	30	P 294	62	46	-	P 311	48	42	-
P 278	50	37	28	P 295	33	32	-	P 312	54	40	-
P 279	58	54	19	P 296	70	60	38	P 313	54	52	-
P 280	56	52	42	P 297	60	60	-	P 314	40	39	-
P 281	56	53	36	P 298	62	58	40	P 315	37	36	-
P 282	54	52	-	P 299	58	50	-	P 316	37	36	-
P 283	32	29	-	P 300	68	56	-	P 317	48	46	24
P 284	36	33	-	P 301	52	40	-	P 318	[44]	[40]	46
P 285	56	42	-	P 302	54	48	-	P 319	[44]	[42]	47
P 286	98	92	-	P 303	52	40	-	P 320	98	92	27
P 287	68	66	15	P 304	54	42	-	P 321	83	78	34
P 288	34	29	-	P 305	44	42	-	P 322	91	85	20
P 289	34	32	-	P 306	36	28	-	P 323	38	37	-
P 290	86	80	-	P 307	54	52	-	P 324	[46]	[42]	16
P 291	80	52	-	P 308	38	36	-	P 325	[46]	[40]	23
P 292	52	42	-	P 309	102	62	-				

8 遺物包含層

調査4区において、遺物包含層1か所を確認した。本跡は、周囲の台地上に調査2・3・5区が分布する埋没谷に堆積している遺物包含層であり、出土遺物の時期は縄文時代中期中葉から平安時代に及んでいる。これらの遺物の多くが、北側に舌状に延びた埋没谷中の暗褐色土から出土しており、調査2・3・5区及び当区の遺構からの流れ込みと考えられる。以下、その状況及び遺物について記載する。

第2号遺物包含層（第504～506図）

位置 調査第4区の南東及び南西部，G4区・H4区・H5区

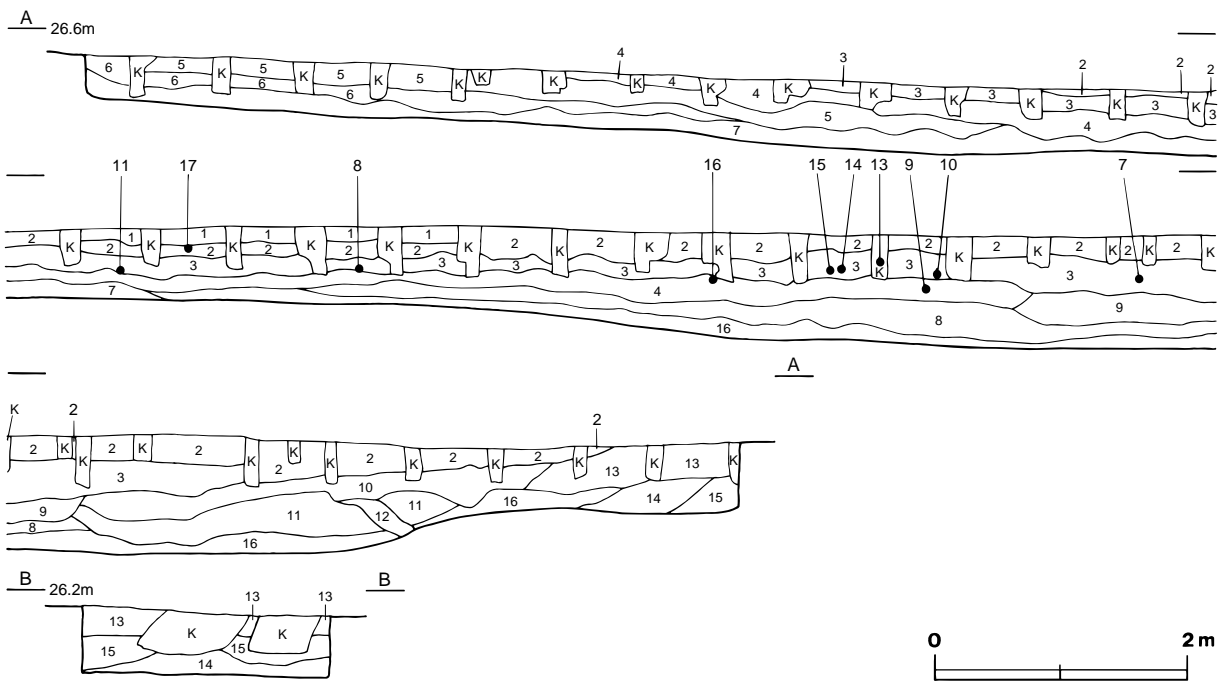
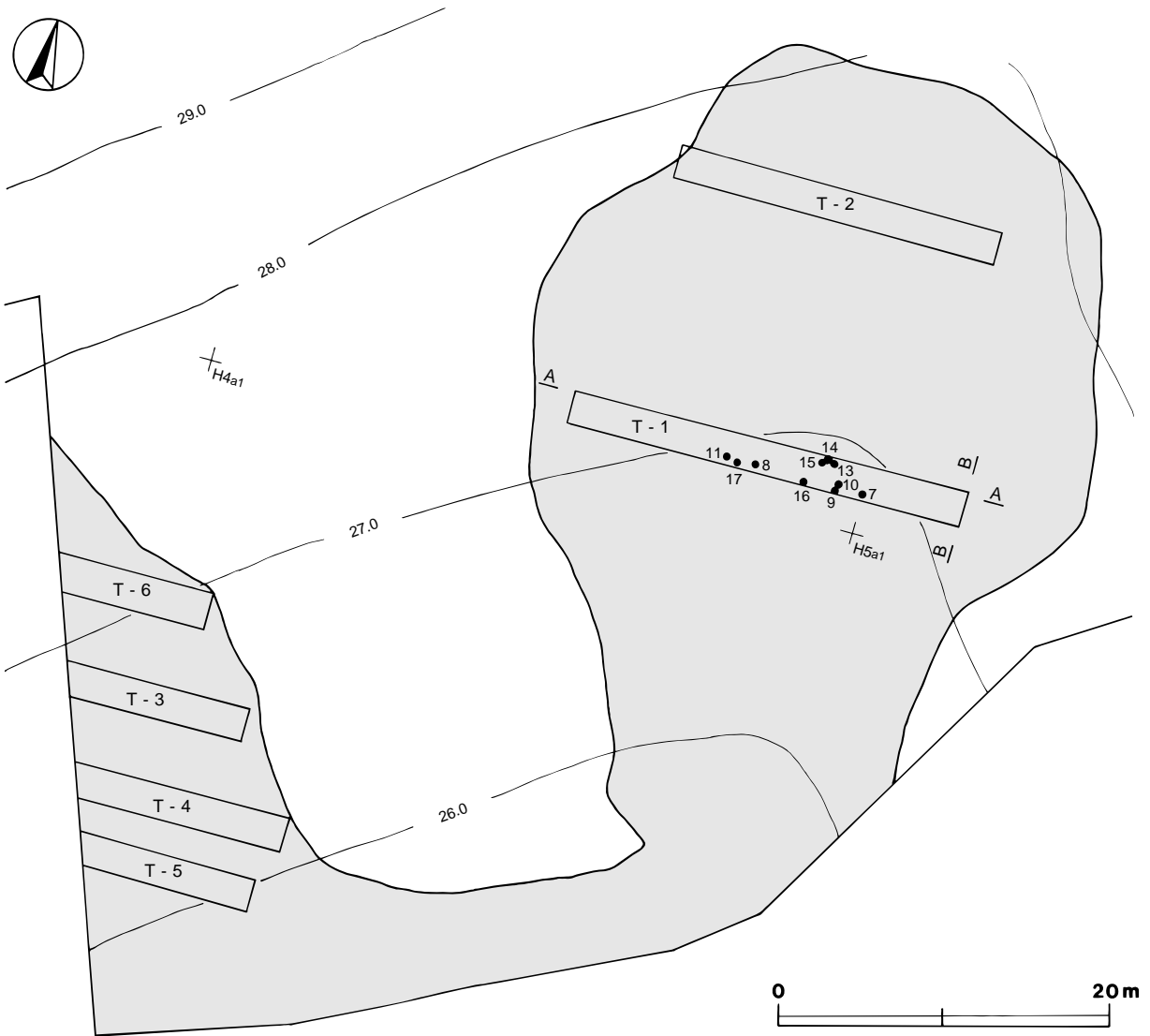
規模 堆積範囲は、調査区内において東西60m，南北68mに及んでいる。厚さは最大で0.95mである。

覆土 16層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

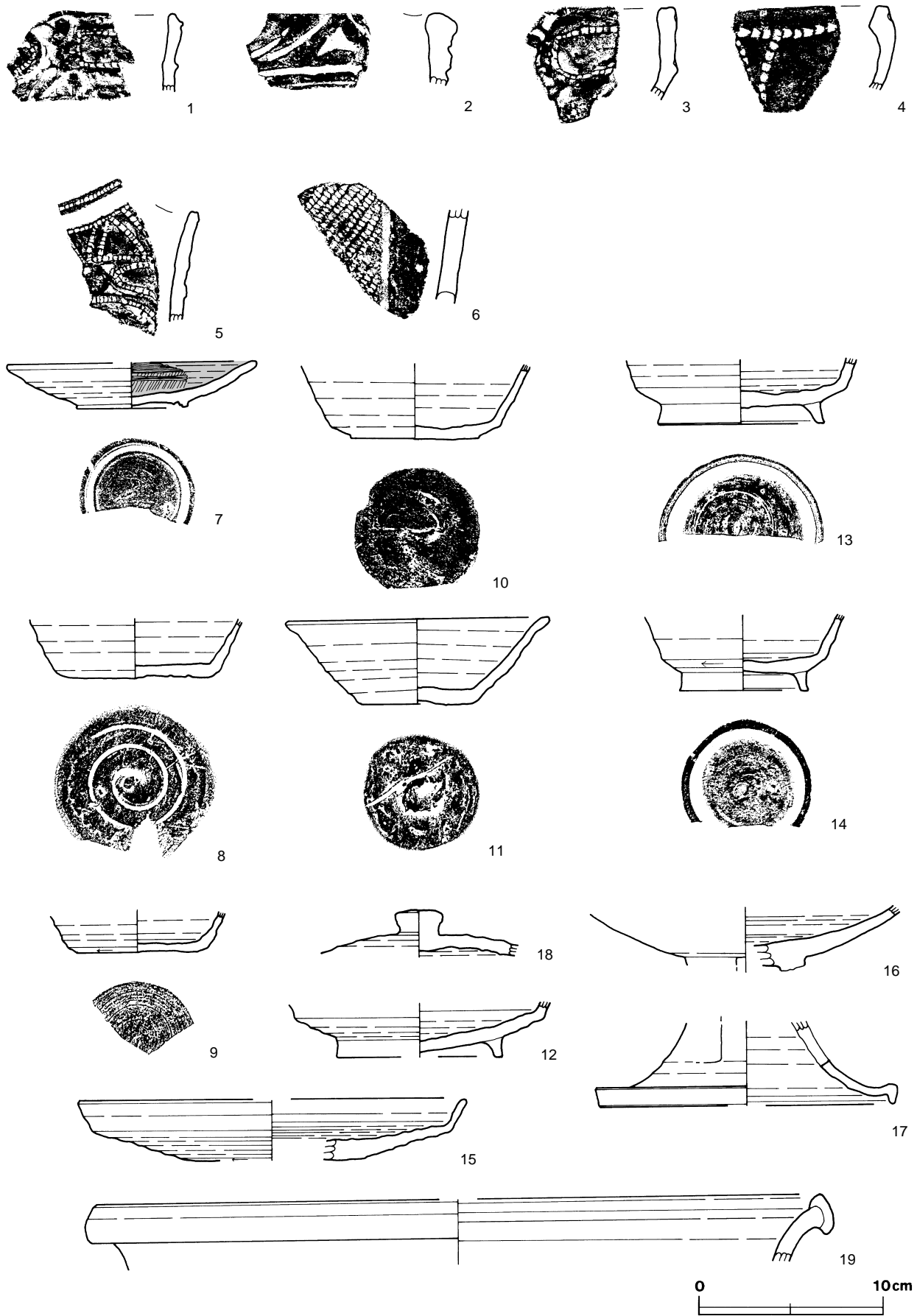
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|--------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒色 | 粘土粒子・白色スコリア微量 |
| 2 黒色 | 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子微量 | 11 黒色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 炭化物・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 13 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 6 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量 | 14 褐色 | 粘土粒子中量 |
| 7 暗褐色 | 粘土粒子中量，粘土小ブロック微量 | 15 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量 |
| 8 黒色 | ローム小ブロック・粘土粒子・白色スコリア微量 | 16 暗褐色 | 焼土小ブロック微量 |

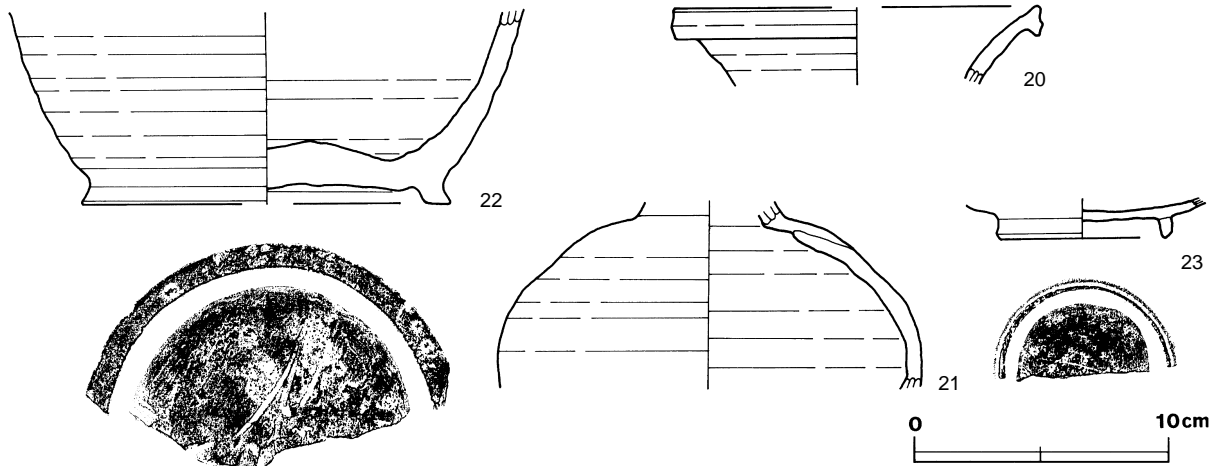
遺物 縄文土器片267点，弥生土器片6点，土師器146点，須恵器220点，灰釉陶器2点，不明鉄製品3点が出土している。うち、縄文土器片6点，土師器1点，須恵器15点，灰釉陶器1点を抽出・図示した。1から5の深鉢の口縁部片は、覆土中から出土しており、縄文時代中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。6の深鉢の胴部片は、覆土中から出土しており、縄文時代中期後葉（加曾利ⅤⅡ式期）と考えられる。7の土師器高台付皿，8から11の須恵器坏，13～15の須恵器高台付坏，16の須恵器盤，17・18の須恵器高盤，12の須恵器蓋，19の須恵器甕，20～22の須恵器長頸瓶，23の灰釉陶器皿は、いずれも東部の上層から出土している。



第504図 第2号遺物包含層実測図



第505图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第506図 第2号遺物包含層出土遺物実測図(2)

所見 覆土中から縄文土器片が、また、第3層を中心とした上層に集中して平安時代(9世紀)の土器が出土していることから、少なくとも縄文時代中期以降から平安時代(9世紀)にかけてほぼ堆積していたものと考えられる。調査時において、雨天時にはかなりぬかるむ状況であり、以前からも同じような状況が想像され、堆積時に遺物が流れ込んだものと考えられる。

第2号遺物包含層出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第505図 1	深鉢 縄文土器	B (4.1)	口縁部片。口縁部はほぼ直立する。口縁部には隆帯とそれに沿った結節沈線文により、区画文を施している。	長石・石英・雲母、 礫 にぶい褐色、普通	TP 2 5%
2	深鉢 縄文土器	B (3.8)	突起を有する口縁部片。口縁部は直立する。口縁部には沈線により、文様を描出している。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子 橙色、普通	TP 3 5%
3	深鉢 縄文土器	B (5.0)	口縁部片。口縁部は直立する。口縁部には隆帯とそれに沿った結節沈線文により、区画文を施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP 4 5%
4	深鉢 縄文土器	B (5.4)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。口縁部内面に稜を持つ。口縁部には結節沈線文により文様を描出している。	長石・石英・雲 褐色 普通	TP 5 5%
5	深鉢 縄文土器	B (5.9)	口縁部片。口縁部は外傾する。波状口縁を呈する。口唇部には結節沈線文を、口縁部には隆帯とそれに沿った結節沈線文により、文様を描出している。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子 褐色、普通	TP 6 5%
6	深鉢 縄文土器	B (5.0)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には沈線による懸垂文間を磨り消している。地文はR Lの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP 7 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第505図 7	高台付皿 土師器	A [13.4] B 2.4 C 6.0	底部から口縁部片。平底。高台は短く八の字状に開く。体部は大きく開き、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き、外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物、 にぶい黄橙色、 普通	P 2662 40%
8	坏 須恵器	B (3.2) C 8.0	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部及び底部内面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、周縁ナデ。	礫・長石・石英 灰白色 普通	P 2663 30%
9	坏 須恵器	B (2.1) C 6.6	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部及び底部内面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英 褐灰色 普通	P 2665 15%
10	坏 須恵器	B (4.2) C 7.0	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部及び底部内面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、周縁ナデ。	礫・長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 2664 40%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第505図 11	坏 須 恵 器	A 14.2	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英 灰色 普通	P2666 75% PL68 底部ヘラ記号
		B 4.7				
		C 6.0				
12	高台付坏 須 恵 器	B (2.9)	底部から体部片。丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 褐灰色 普通	P2669 25%
		D [9.0]				
		E 0.9				
13	高台付坏 須 恵 器	B (3.5)	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P2667 20%
		D 9.0				
		E 1.1				
14	高台付坏 須 恵 器	B (4.1)	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P2668 30%
		D 7.8				
		E 1.0				
15	盤 須 恵 器	A [20.8]	体部から口縁部片。体部は直線的に開き、屈曲して口縁に至る。	口縁部及び体部内面口クロナデ。体部下端回転ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P2670 20%
		B (3.2)				
16	高 須 恵 器	B (3.4)	脚部から皿部にかけての破片。脚部は透かしが入る。皿部は直線的に開く。	脚部及び坏部内・外面口クロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P2671 10%
		D [15.8]				
17	高 須 恵 器	E (4.5)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚端部は屈曲し短く垂下する。	脚部内・外面口クロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P2672 10%
		D [15.8]				
18	蓋 須 恵 器	B (2.5)	天井部片。擬宝珠状のつまみが付く。	天井部内面口クロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P2674 20%
		F 2.6				
		G 1.3				
19	甗 須 恵 器	A [39.0]	口縁部片。口縁部は外反する。口縁端部が突出する。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P2677 5%
		B (3.5)				
第506図 20	長頸瓶 須 恵 器	A [14.5]	口縁部片。口縁部は外反し、端部が突出する。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石 褐色 普通	P2673 5%
		B (3.0)				
21	長頸瓶 須 恵 器	B (7.4)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。	長石・石英、外面 暗オリーブ色、内 面暗灰黄色、普通	P2675 10%
22	長頸瓶力 須 恵 器	B (7.5)	底部から体部片。やや上げ底気味の平底。高台は八の字状に開く。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部ヘラ切り後、高台貼り付け。周縁ナデ。	長石・石英 灰白色 普通	P2676 10%
		D [14.8]				
23	皿 灰釉陶器	B (1.6)	底部片。平底。高台は八の字状にわずかに開く。	底部内面口クロナデ。高台貼り付け。底部内面施釉。	長石 外面灰白色、内面 オリーブ黄色 普通	P2678 20% PL68 黒笹14号窯式期(二 川力) 底部ヘラ記号
		D 6.6				
		E 0.9				

第6節 中世の遺構と遺物

1 堅穴状遺構

ここでは、平面形が方形または長方形で、遺構内にピットや突出部等をもつ遺構を堅穴状遺構として扱い、遺構・遺物について記載する。

第1号堅穴状遺構（第507図）

位置 調査1区の南東部、C5f0区。

重複関係 本跡上部を第7号溝に南北に、北西コーナー部を第515号土坑に、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.59m、短軸2.88mの隅丸長方形で、東壁中央部付近は、半楕円状に突き出ている。

長軸方向 N-22° - W

壁 壁高は48～70cmで、西壁は直立し、他は外傾する。

底面 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。あまり踏み固められていない。

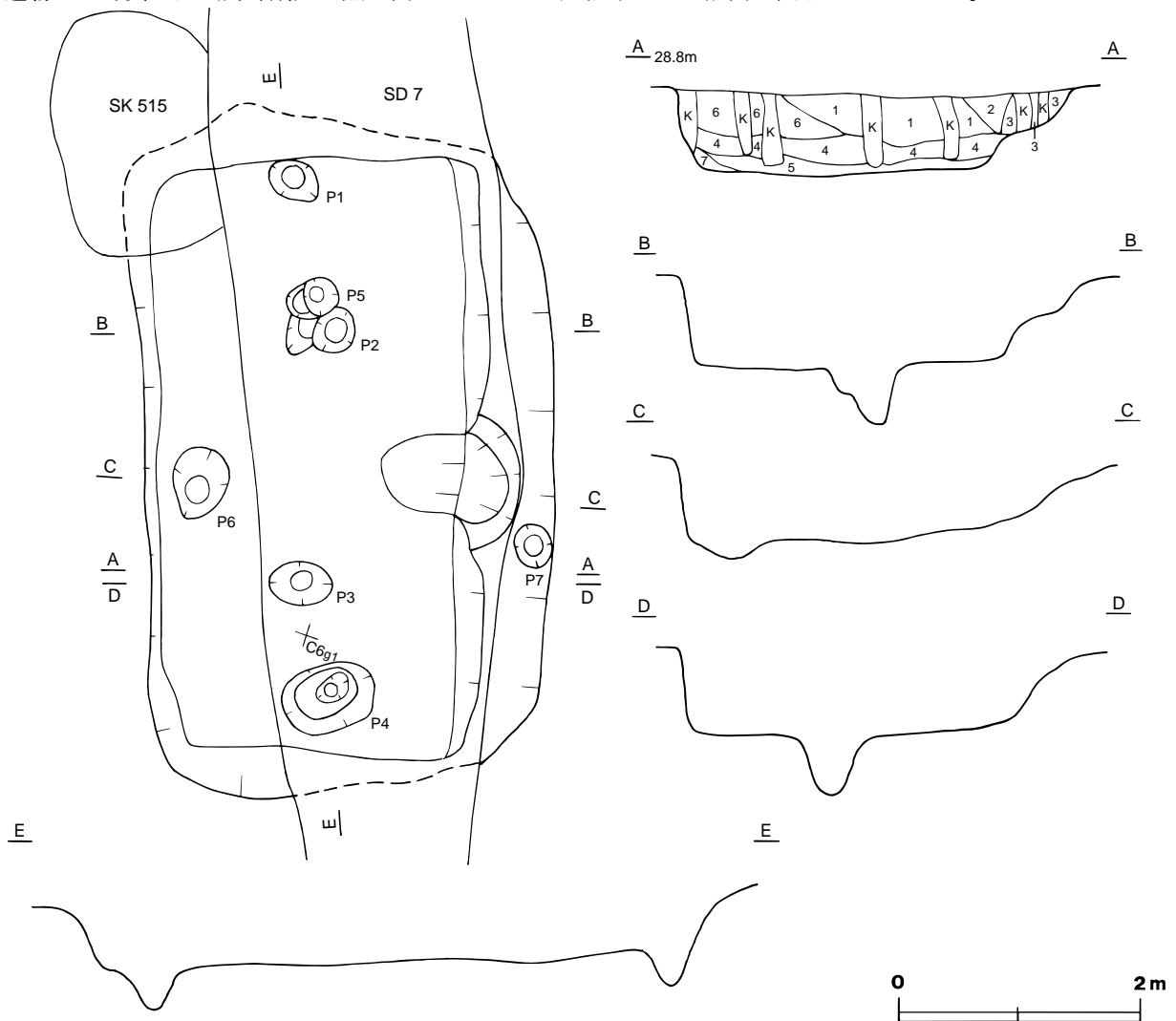
ピット 7か所（P1～P7）。P1～P5は長径40～76cm、短径36～56cmの楕円形で、深さ16～45cmである。P1は北壁際中央、P4は南壁中央寄りに位置する。P2・P3・P5は、P1からP4間にあり、ほぼ一直線に並んでいる。また、東西の壁とほぼ平行になることから柱穴と思われる。P6は長径60cm、短径44cmの楕円形で、深さ6cmである。突出部と向かい合う西壁中央付近に位置するが、深さがあまりないので性格は不明である。P7は径30cmの円形で、深さ65cmである。東壁中央の突出部の南東に位置する。

覆土 7層からなる。含有物や色調が類似していることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師質土器（内耳鍋）1点が出土しているが、細片のため抽出・図示できなかった。



第507図 第1号竪穴状遺構実測図

所見 P2は、P5と隣接していることから、柱穴の移動も考えらる。東壁中央部の半楕円状の突出部は、内側方向に傾斜してスロープ状を呈することから出入口に伴う施設と思われる。また、P7はその出入口に伴うピットの可能性も考えられる。内耳鍋の小片だけの出土なので、明確な時期は不明である。しかし、コの字状

を呈する堀の内側に位置することから、堀が存続していた時期（15世紀代）と同じ頃と思われる。

第2号竪穴状遺構（第508図）

位置 調査1区の北西部，B3f7区。

規模と平面形 長軸3.60m，短軸2.20mの隅丸長方形で，北西コーナーは，長径1.10m，短径0.70mの半楕円状に突出する。

長軸方向 N-10° - E

壁 壁高は20～30cmで，外傾する。

底面 西壁中央寄り及び北東コーナー付近が高まっている。

ピット 確認できなかった。

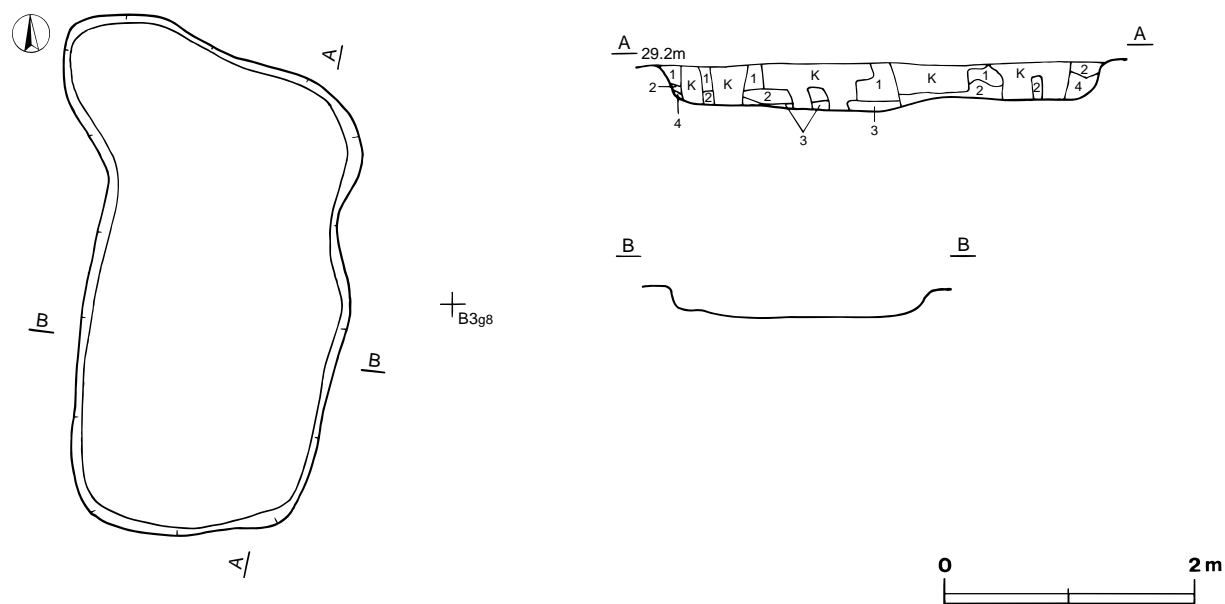
覆土 4層からなるが，攪乱が多いことや覆土が薄いことなどから堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・
焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック微量 | | |
| 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量 | | |

遺物 出土していない。

所見 竪穴状遺構の特徴の一つであるピットは，確認できなかったが，内耳鍋が出土した第3号竪穴状遺構と近く，平面形が類似していることなどから，竪穴状遺構とした。出土遺物がないことから，明確な時期は不明であるが，第3号竪穴状遺構と同じ頃と思われる。



第508図 第2号竪穴状遺構実測図

第3号竪穴状遺構（第509図）

位置 調査1区の西部，B3j8区。

規模と平面形 長軸3.09m，短軸1.34mの隅丸長方形，東コーナーは，長径0.68cm，短径0.45cmの半楕円状に突出する。

長軸方向 N-55° - E

壁 壁高は15~26cmで、外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 1か所。P1は長径24cm、短径20cmの楕円形で、深さ27cmである。北コーナー寄りに位置する。

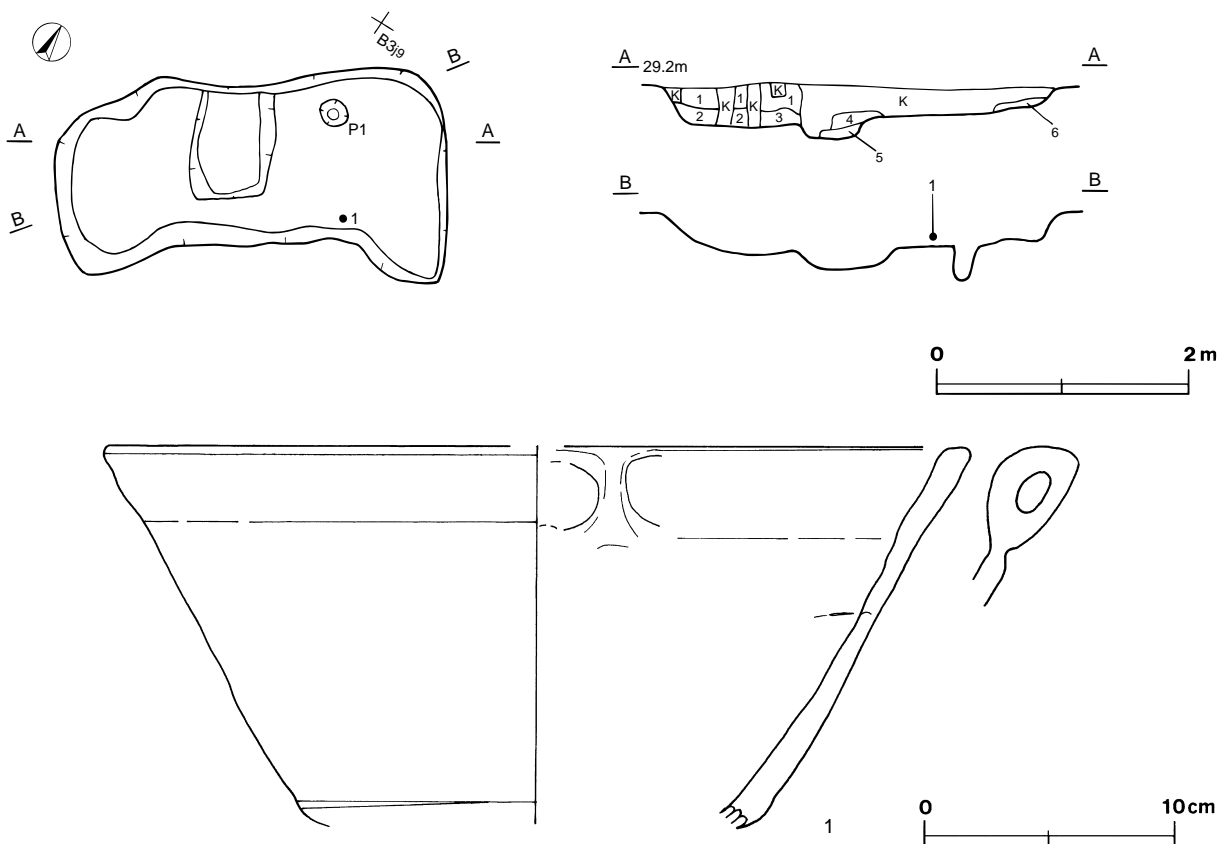
覆土 6層からなるが、攪乱が多いことや覆土が薄いことなどから堆積状況は不明である

土層解説

- | | | | |
|------|-----------------------------------------------|-------|------------------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・
焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子
微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子
微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子
微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量, ローム大ブロック少量, ローム中ブロッ
ク・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック中
量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師質土器1点が出土している。第509図1の土器質土器内耳鍋は、突出部近くの壁際の覆土中層から破片がまとまって出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第509図 第3号竪穴状遺構・出土遺物実測図

第3号竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第509図 1	内耳鍋 土師質土器	A [35.0] B (15.1)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁 部との境の内側に稜を持つ。口縁 部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。 耳貼り付け後、ナデ。	長石・針状鉱物・雲 母 橙色 普通	P3910 25% PL67 体部外面スス附着

第4号竪穴状遺構 (第510図)

位置 調査1区の東部, B4i8区。

重複関係 第238号土坑を掘り込んでいる。北コーナー部が、第341～343号ピットに掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.28m，短軸1.20mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-70°-W

壁 壁高は48～60cmで，北東壁は直立するが，他は外傾して立ち上がる。

底面 小さな凸凹はあるが，ほぼ平坦である。

ピット 2か所（P1・P2）。P1は径18cmの円形で，深さ22cmである。P2は長径24cm，短径21cmの楕円形で，深さ21cmである。P1は北東壁中央部寄り，P2は南壁際中央部にそれぞれ位置する。

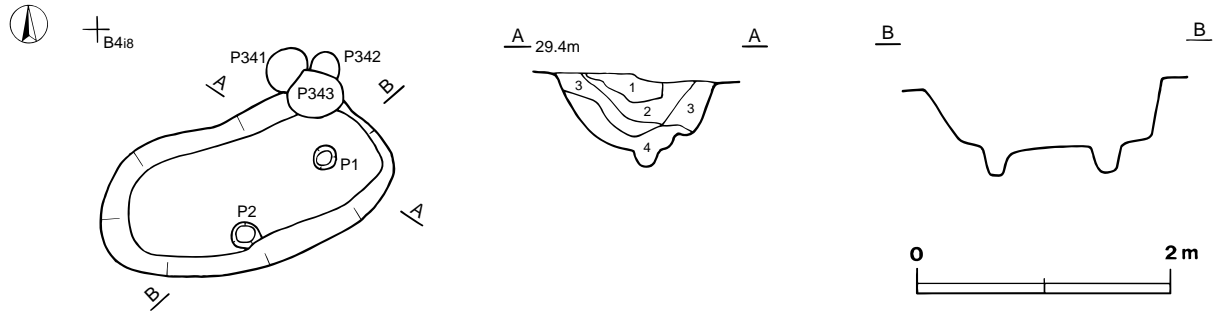
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物粒子少量，ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので，明確な時期は不明であるが，第1号堀の内側に位置することや遺構の形態から中世と思われる。



第510図 第4号竪穴状遺構実測図

第5号竪穴状遺構（第511図）

位置 調査1区の東部，C5a0区。

重複関係 東西両側で，第6号竪穴状遺構と第427号土坑と重複している。第427号土坑を掘り込んでいるが，攪乱が多いことなどから第6号竪穴状遺構との新旧関係は不明である。

規模と平面形 東西で重複しているために，長軸4.33m，短軸2.23mの隅丸長方形と推定される。

長軸方向 N-66°-E

壁 残存する南壁の壁高は30cmで，外傾する。

底面 小さな凸凹はあるが，ほぼ平坦である。

ピット 2か所（P1・P2）。P1・P2は長径38～39cm，短径30～35cmの楕円形で，深さ34～44cmである。

P1は南東コーナー，P2は中央部の東寄りに，それぞれ位置する。

覆土 3層で薄く，また攪乱が多く入っているために堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | | |

遺物 出土していない。

所見 耕作による攪乱が多数入っていることや第6号竪穴状遺構と重複しているため，ピットは2か所しか確認されなかった。第1号竪穴状遺構と同様に第1号堀の内側にあるので中世のものと思われる。

第6号竪穴状遺構（第511図）

位置 調査1区の東部，C5a9区。

重複関係 南東部で，第5号竪穴状遺構と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模と平面形 重複しているが，長軸2.89m，短軸2.02mの隅丸長方形と推定される。

長軸方向 N-71°-E

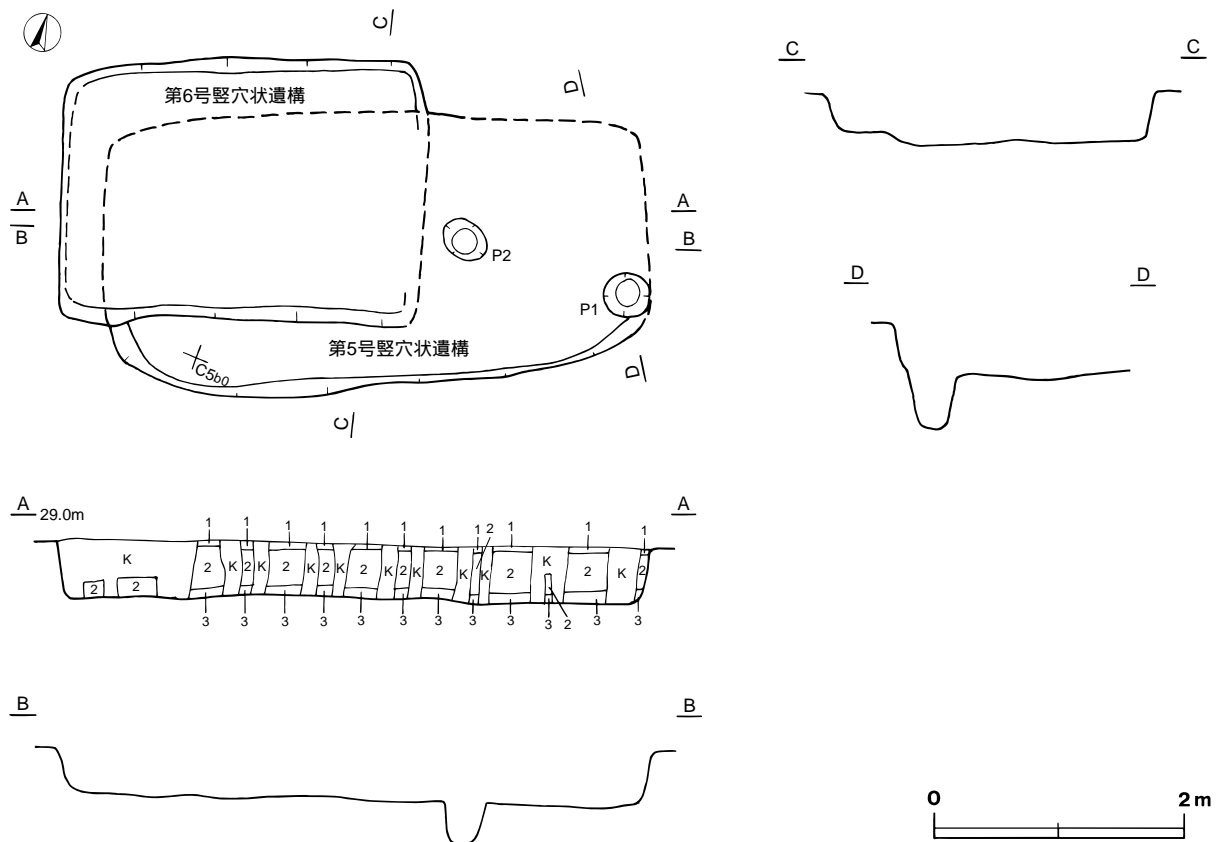
壁 残存する北壁の壁高は40cmで，直立する。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 確認できなかった。

遺物 出土していない。

所見 ピットは検出されなかったが，耕作による攪乱や重複のために検出できなかったことが考えられる。時期は，第1号竪穴状遺構と同じ頃と思われる。



第511図 第5・6号竪穴状遺構実測図

第7号竪穴状遺構（第512図）

位置 調査1区の東部，C5a8区。

規模と平面形 北西コーナーが攪乱されているが，長軸2.32m，短軸1.02mの不整逆台形である。

長軸方向 N-30°-W

壁 壁高は28~30cmで，ほぼ直立する。

底面 小さな凹凸はあるが，ほぼ平坦である。

ピット 2か所（P1・P2）。P1は長径35cm，短径30cmの楕円形で，深さ13cmである。北壁中央寄りに位置する。P2は長径30cm，短径20cmの楕円形で，深さ20cmである。南コーナー寄りに位置する。主柱穴と思われる。

れる。

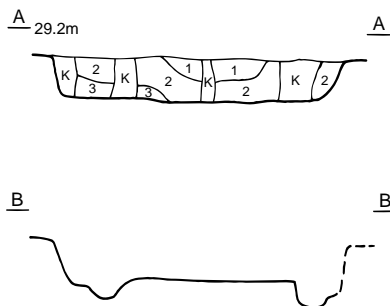
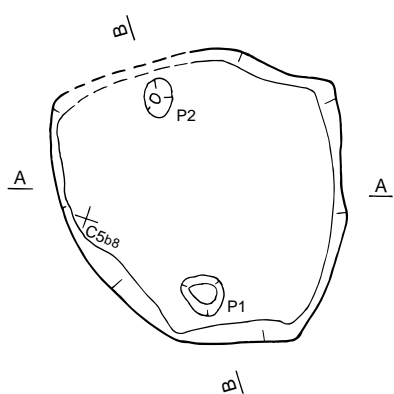
覆土 3層と覆土が薄い。含有物が類似していることや同一色調であることなどから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化物微量 | | |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので，明確な時期は不明であるが，第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから，同じ頃と思われる。



第512図 第7号縦穴状遺構実測図

第8号縦穴状遺構（第513図）

位置 調査1区の東部，C5a6区。

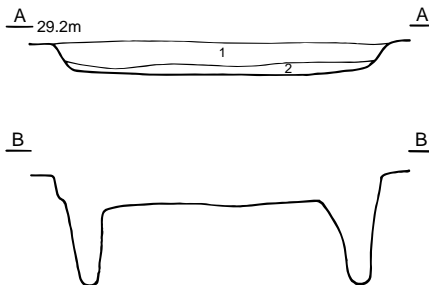
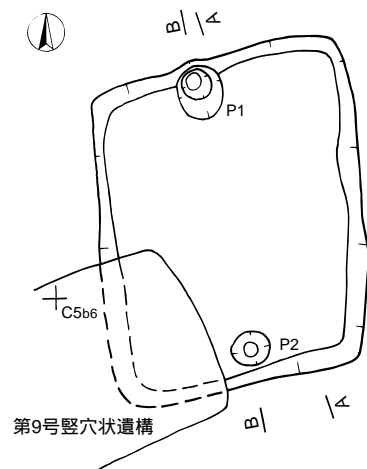
重複関係 南西コーナーを第9号縦穴状遺構に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.60m，短軸2.11mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-9°-W

壁 壁高は18~20cmで，外傾する。

底面 踏み固められて光沢があり，ほぼ平坦である。



第513図 第8号縦穴状遺構実測図

ピット 2か所（P1・P2）。P1は長径41cm，短径37cmの楕円形で，深さ68cmである。P2は径30cmの円

形で、深さ68cmである。P 1は北壁中央、P 2は南壁際中央にあり、2本を結ぶ線が東西壁とほぼ平行になることから柱穴と思われる。

覆土 2層と覆土が薄いので、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので、明確な時期は不明である。第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから、同じ頃と思われる。

第9号竪穴状遺構（第514図）

位置 調査1区の東部，C5b5区。

重複関係 第8号竪穴状遺構を掘り込み，西壁を第568号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.31m，短軸1.47mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-67° - E

壁 残存する壁高は26~32cmで，外傾する。

底面 小さな凸凹はあるが，ほぼ平坦である。

ピット 1か所。P 1は長径50cm，短径44cmの楕円形，深さ56cmである。西壁際中央に位置する。

P 1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

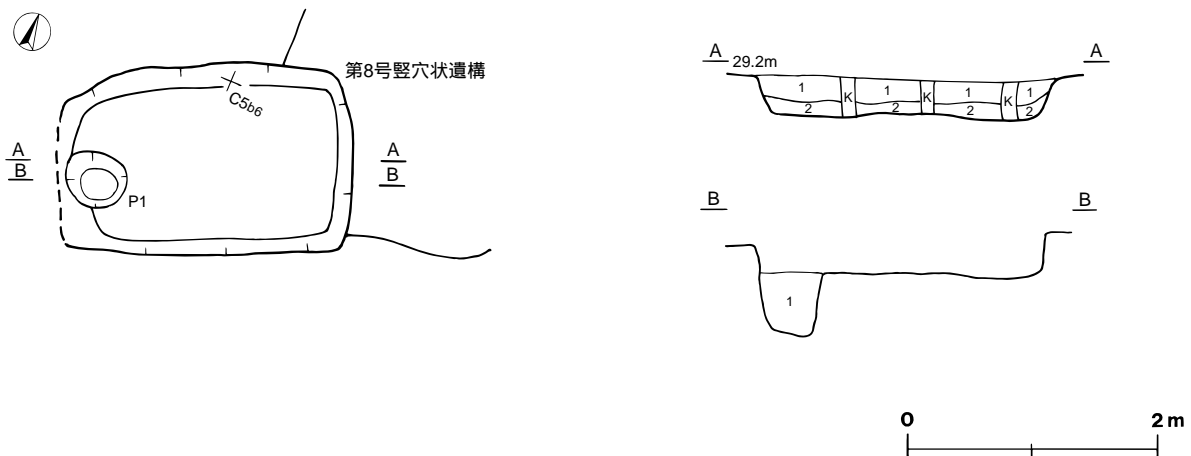
覆土 2層と薄い，ピットの覆土の含有物と類似していることから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 2 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので、明確な時期は不明であるが、第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから、同じ頃と思われる。



第514図 第9号竪穴状遺構実測図

第10号竪穴状遺構（第515図）

位置 調査1区の東部，C5b8区。

規模と平面形 長軸1.92m、短軸1.86mの隅丸方形である。

長軸方向 N-64° - E

壁 壁高は38~40cmで、西壁南部及び東壁中央部は、内傾して立ち上がり、他はほぼ直立する。

底面 中央部に弱い高まりを持つが、各コーナー付近は平坦である。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径75cm、短径54cmの楕円形、深さ14cmである。P2は径20cmの円形、深さ36cmである。P1は東壁際中央に、P2は西壁中央部寄りに、それぞれ位置する。

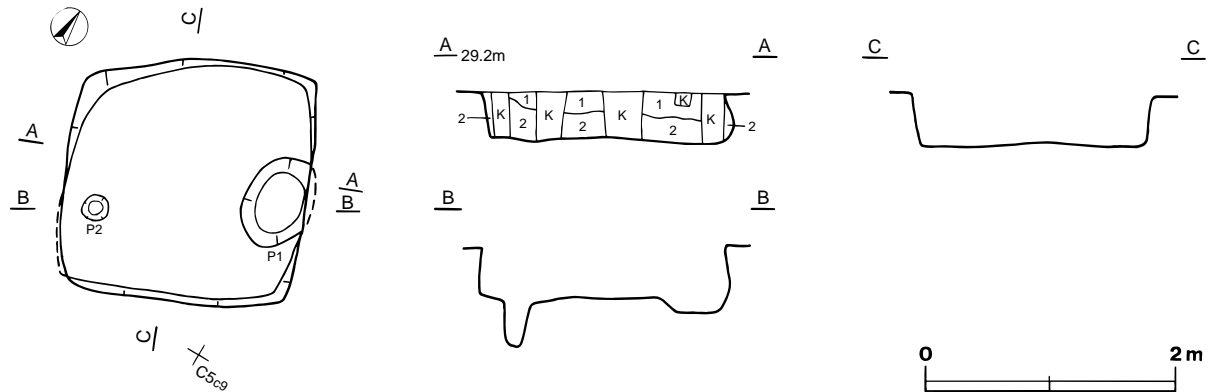
覆土 2層からなる。含有物が類似していることから人為堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので、明確な時期は不明であるが、第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから、同じ頃と思われる。



第515図 第10号竪穴状遺構実測図

第11号竪穴状遺構（第516図）

位置 調査1区の東部、B5h8区。

重複関係 東壁中央付近を第416号土坑に、中央部南寄りを第439号土坑に、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.75m、短軸4.18mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-63° - E

壁 壁高は8~10cmで、外傾する。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は径60cmの円形で、深さ44cm、P2は長径60cm、短径55cmの円形で、深さ28cm、P3は長径55cm、短径45cmの楕円形、深さ20cmである。P1は中央部北壁寄り、P2は南西コーナー部寄り、P3は西壁中央部寄りにそれぞれ位置する。P2とP3は、接している。

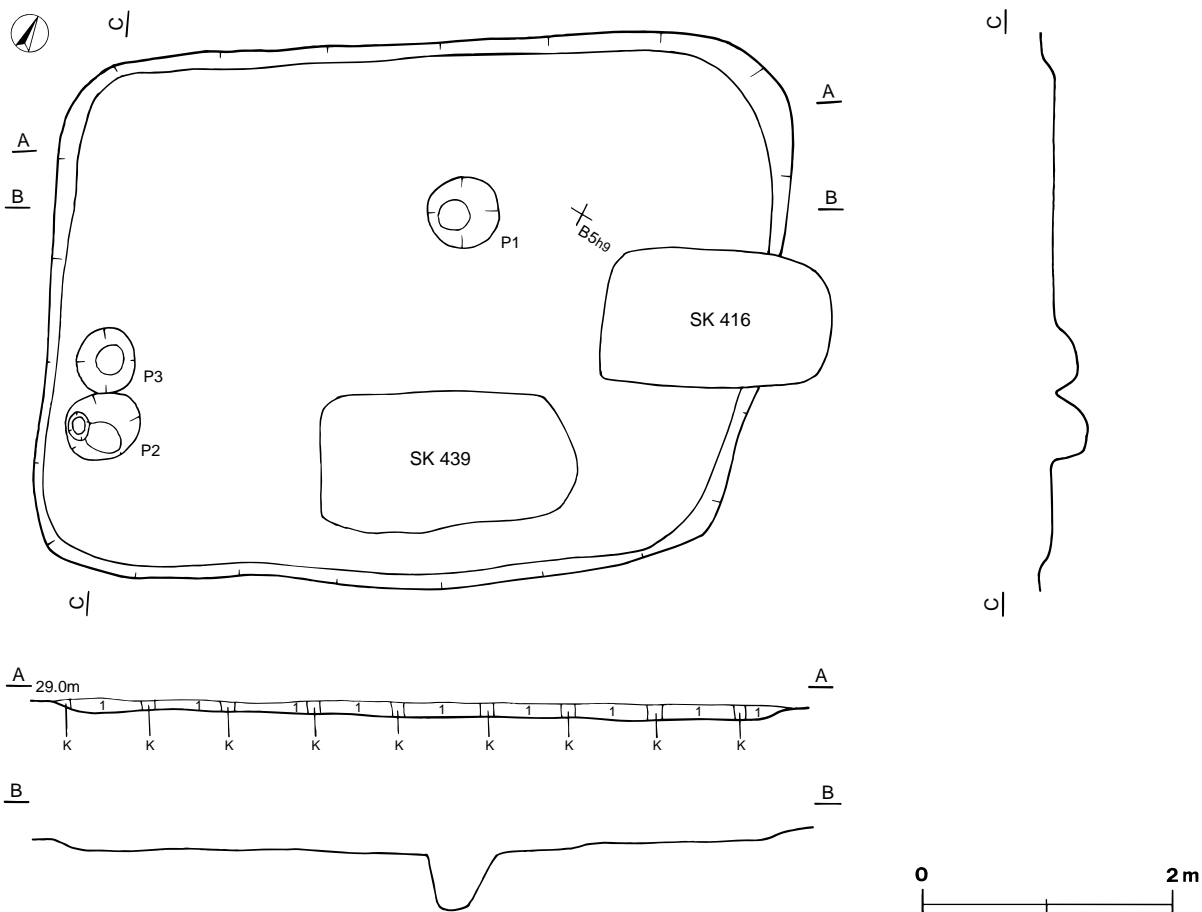
覆土 単一層のため堆積状況は不明である

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので、明確な時期は不明であるが、第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから、同じ頃と思われる。



第516図 第11号竪穴状遺構実測図

表8 竪穴状遺構一覧表

遺構番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	重複関係 (旧新)	備考 (旧番号)
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
1	C5f0	N - 22° - W	隅丸長方形	5.59 × 2.88	48 ~ 70	直立	平坦	人為	土師質土器	本跡 SD-7, SK515	SI37
2	B3f7	N - 10° - E	隅丸長方形	1.10 × 0.70	20 ~ 30	外傾	凹凸	不明			SK147
3	B3j8	N - 55° - E	隅丸長方形	0.68 × 0.45	15 ~ 26	外傾	平坦	不明	土師質土器		SK206
4	B4i8	N - 70° - W	隅丸長方形	2.28 × 1.20	48 ~ 60	直立	平坦	自然		SK238 本跡 P341・342・343	SK254
5	C5a0	N - 66° - E	隅丸長方形	4.33 × [2.23]	30	外傾	平坦	不明		SK427 本跡, 第6号竪穴状遺構と重複	SK437
6	C5a9	N - 71° - E	隅丸長方形	[2.89] × 2.02	40	直立	平坦	不明		第5号竪穴状遺構と重複	SK459
7	C5a8	N - 30° - W	不整逆台形	2.32 × 1.02	28 ~ 38	直立	平坦	人為			SK573
8	C5a6	N - 9° - W	隅丸長方形	2.60 × 2.11	18 ~ 20	外傾	平坦	不明		本跡 第9号竪穴状遺構	SK575
9	C5b5	N - 67° - E	隅丸長方形	2.31 × 1.47	26 ~ 32	外傾	平坦	人為		第8号竪穴状遺構 本跡 SK568	SK615
10	C5b8	N - 64° - E	隅丸方形	1.92 × 1.86	38 ~ 40	直立	平坦	人為			SK656
11	B5h8	N - 63° - E	隅丸長方形	5.75 × 4.18	8 ~ 10	外傾	平坦	不明		本跡 SK416・439	SK700

2 地下式墳

今回の調査で、18基の地下式墳が検出された。これらの遺構及び遺物について記載する。

第1号地下式墳 (第517図)

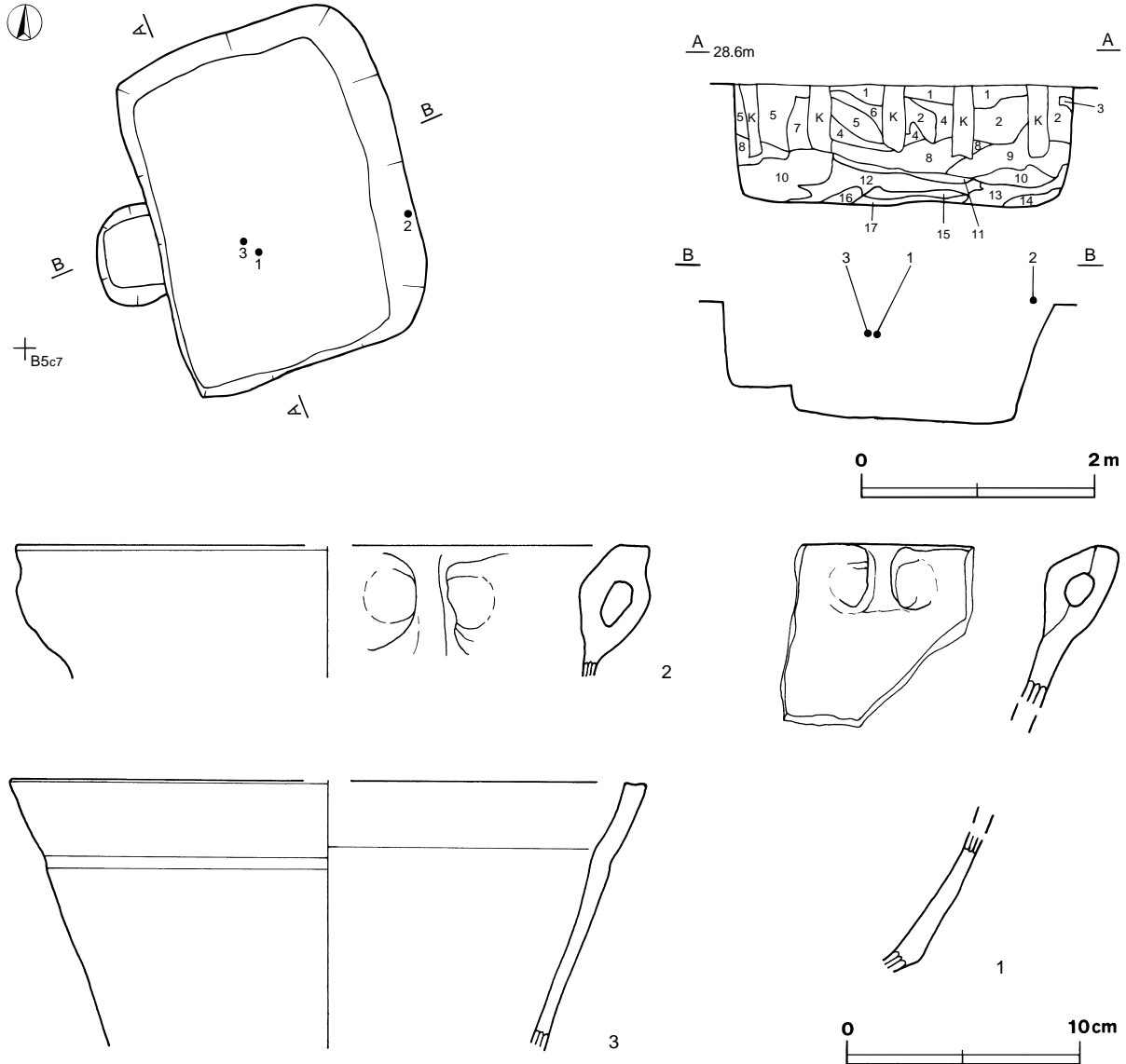
位置 調査1区の北西部, B5b7区。

主軸方向 N-71° - E

竪坑 上面は、長径0.84m、短径0.54mの楕円形である。底面は、長軸0.60m、短軸0.50mの長方形で、平坦である。確認面からの深さは0.74mである。

主室 底面は、長軸2.66m、短軸1.80mの長方形で、長軸方向はN-15° - Wである。確認面からの深さは、1.02mほどで、平坦である。

壁 竪坑は、直立する。天井部が崩落しているため主室は、東壁が外傾し、南北壁が直立する。



第517図 第1号地下式墳・出土遺物実測図

覆土 17層からなる。第8層から16層がブロック状に堆積しているので天井部が崩落したものと思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|--------|--------------------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 鹿沼パミス粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量 | 10 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 黄褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 | 11 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 鹿沼パミス粒子微量 |
| 4 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 12 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 | 13 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・鹿沼パミス粒子微量 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子少量, 鹿沼パミス粒子微量 | | |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子少量, 白色スコリア微量 | | |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | | |

- 14 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量
 15 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
 16 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
 17 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量

遺物 土師質土器13点が出土している。うち土師質土器3点を抽出・図示した。第517図2の土師質土器内耳鍋片は、主室南東コーナー寄りの覆土上層から出土している。1・3の内耳鍋片は、主室中央部の覆土中層から隣り合って出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から15世紀後半と考えられる。

第1号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第517図 1	内耳鍋 土師質土器	B (14.0)	体部下半及び口縁部片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内彎気味に外反する。耳1か所残存。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。耳貼り付け後、ナデ。	長石・雲母・針状鉱物にぶい橙色、普通	P3911 10% 体部外面スス附着
2	内耳鍋 土師質土器	A [28.0] B (5.6)	口縁部片。口縁部は内彎しながら外傾して立ち上がる。耳1か所残存。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後、ナデ。	長石・雲母・針状鉱物にぶい黄橙色、普通	P3912 5% 体部外面スス附着
3	内耳鍋 土師質土器	A [27.6] B (11.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、内面に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・雲母にぶい赤褐色普通	P3913 5% 体部外面スス附着

第2号地下式墳（第518図）

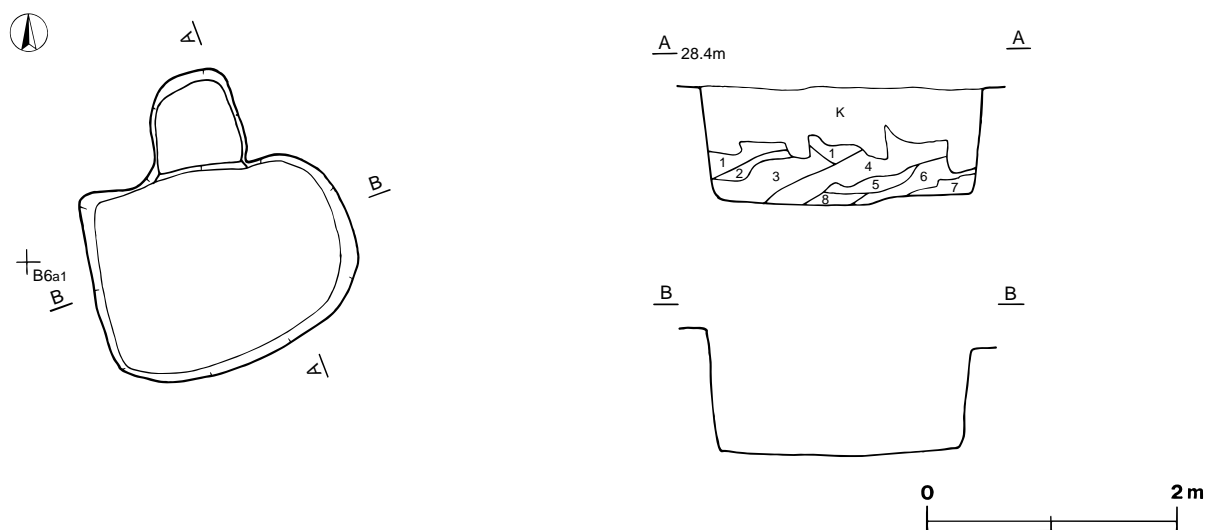
位置 調査1区の北西部, A6j1区。

主軸方向 N-168°-E

竪坑 上面は、長径0.80cm, 短径0.62cmの隅丸長方形である。底面は、長軸0.70m, 短軸0.66mの方形で、平坦である。確認面からの深さは、0.82mである。

主室 底面は、長軸1.94m, 短軸1.46mの隅丸長方形で、長軸方向はN-77°-Eである。確認面からの深さは0.74~0.98mで、平坦である。

壁 竪坑及び主室は、直立する。



第518図 第2号地下式墳・出土遺物実測図

覆土 8層からなる。上層は攪乱が入っている。中～下層はブロック状に堆積しているので天井部が崩落したものと思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量 | 6 黒褐色 | 黒色土中量, ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 7 褐色 | ローム粒子多量, 鹿沼パミス粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量 | 8 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 |
| 4 黒色 | ローム粒子・黒色土少量, 鹿沼パミス粒子微量 | | |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量 | | |

遺物 出土していない。

所見 土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式壙と同じ頃と思われる。

第3号地下式壙 (第519図)

位置 調査1区の北部, B6e1区。

主軸方向 N-30°-W

竪坑 上面は長軸1.00m, 短軸0.74mの隅丸長方形である。底面は, 主室より高くなっている。確認面からの深さは1.42~1.58mで, 主室方向に傾斜する。

主室 底面は, 長径3.48m, 短径1.98mの不整楕円形で, 長径方向はN-62°-Eである。確認面からの深さは, 1.60~1.70mで, 平坦である。東部に天井部の一部が残り, 底面から天井部までは1.24mである。

壁 竪坑は, 直立する。主室は, 天井部の一部が残る部分はオーバーハングし, 他は直立する。また, 北東部壁と南西部壁に, それぞれ1か所の錠状の掘り込みがある。

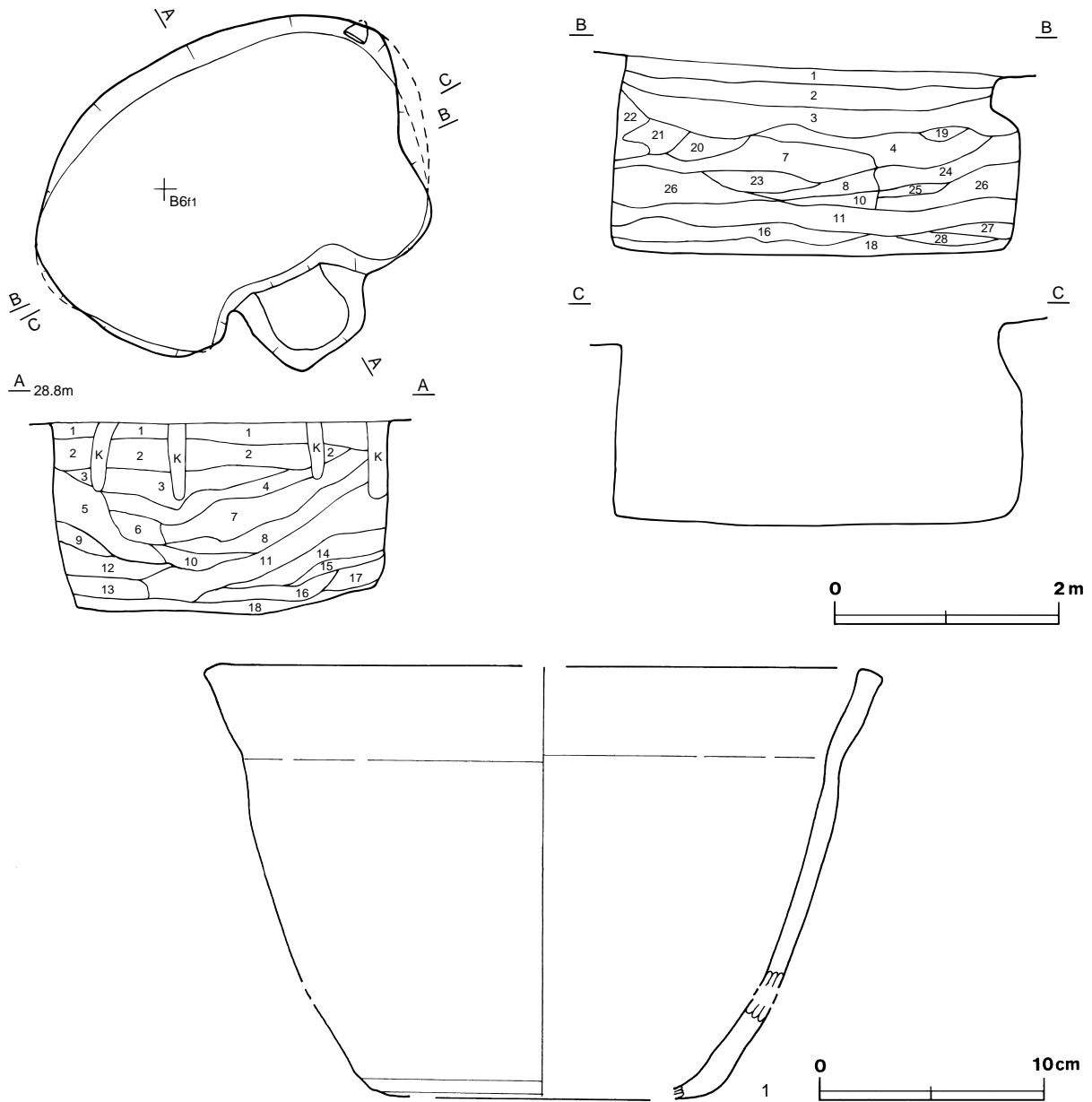
覆土 28層からなる。第5・10・13・14・18層は, ロームブロックを多く含むので, 天井部が崩落したものと思われる。覆土上層(第1~3層)は, レンズ状に堆積していることから崩落後に自然堆積したもの, 他はブロック状に堆積しているので, 天井部が崩落したものと思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------------------------------|---------|-----------------------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量, ローム小ブロック微量 | 16 黒色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 17 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量 | 18 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量, 鹿沼パミス粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 | 19 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 20 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 21 極暗褐色 | ローム粒子中量, 鹿沼パミス粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 7 黒色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 | 22 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 | 23 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量 |
| 9 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子少量, 鹿沼パミス中ブロック微量 | 24 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 25 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 鹿沼パミス粒子少量 |
| 11 黒色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | 26 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量 |
| 12 黒色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | 27 褐色 | ローム大ブロック多量, ローム中ブロック少量, 鹿沼パミス小ブロック微量 |
| 13 黒色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 | 28 黒色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 14 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 鹿沼パミス粒子微量 | | |
| 15 黒褐色 | ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量 | | |

遺物 土師質土器片10点が出土しているが, 細片が多い。うち土師質土器1点を抽出・図示した。第519図1の内耳鍋は, 覆土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第519図 第3号地下式壙・出土遺物実測図

第3号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第519図 1	内耳鍋 土師質土器	A [29.0] B (18.5) C [14.0]	底部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部との境の内側に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・針状鉱物・雲母 橙色 普通	P3914 5% 体部外面スス附着

第4号地下式壙 (第520図)

位置 調査1区の北西部, B5a9区。

主軸方向 N - 30° - E

竪坑 上面は長径0.78m, 短径0.70mの楕円形である。底面は, 主室より高くなっており, 長軸0.50m, 短軸0.40mの隅丸長方形である。確認面からの深さは0.80~1.00mで, 主室方向に傾斜する。

主室 底面は、長径0.78m、短軸0.70mの楕円形で、長径方向はN-51°-Wである。小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。確認面からの深さは1.16mで、南東部に天井部の一部が残っている。

壁 竪坑は、直立する。主室の南東部はオーバーハングし、他は直立する。北西部に奥行き4~14cmほどの錠状の掘り込みを持っている。

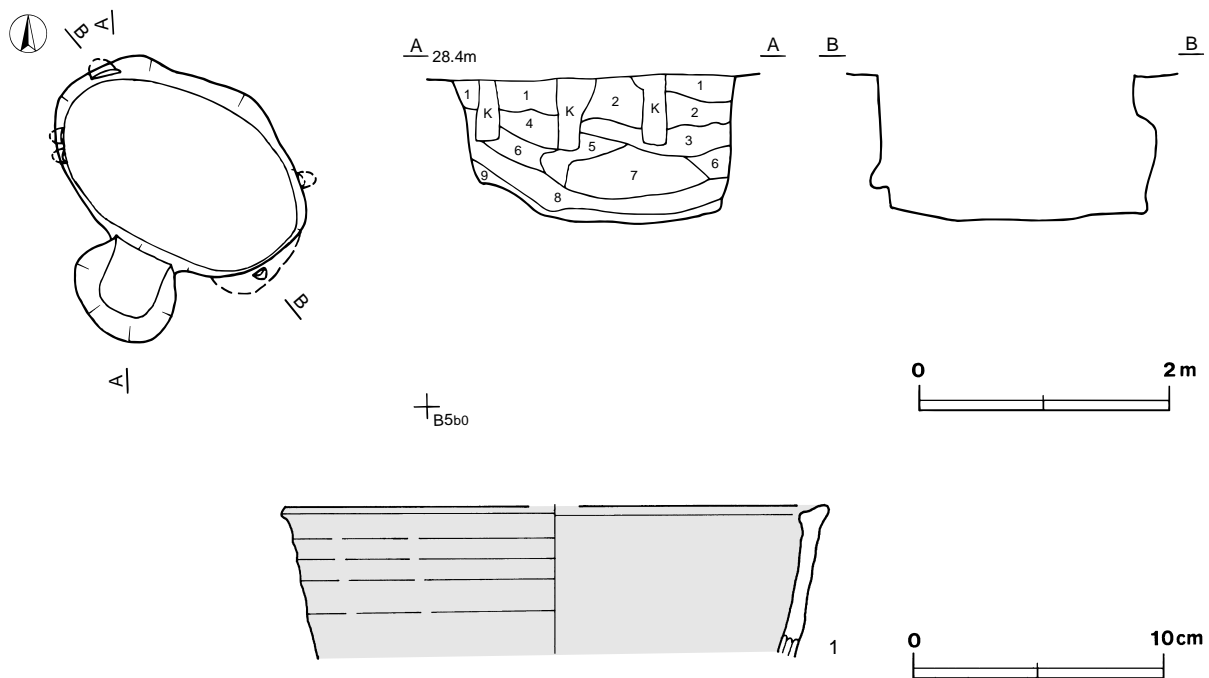
覆土 9層からなる。第4~8層はブロック状に堆積しているので、天井部の崩落と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|-------------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量 | 7 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 鹿沼パミス大ブロック少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | | |

遺物 陶器片1点が出土しており、それを図示した。第520図1の内・外面に釉のかかった陶器鉢は、覆土中から出土している。

所見 陶器片は瀬戸・美濃系と思われるが、時期は特定できない。遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃に造られたと思われる。



第520図 第4号地下式墳・出土遺物実測図

第4号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第520図 1	鉢 陶器	A [21.7] B (6.0)	口縁部片。口縁部は内彎気味に外傾する。口縁端部は平坦で内外に突出し、断面がT字状を呈する。	口縁部内・外面口ロナデ後、鉄釉施釉。	礫・長石 浅黄色 普通	P3915 5%

第5号地下式墳 (第521図)

位置 調査1区の北西部, B5f9区。

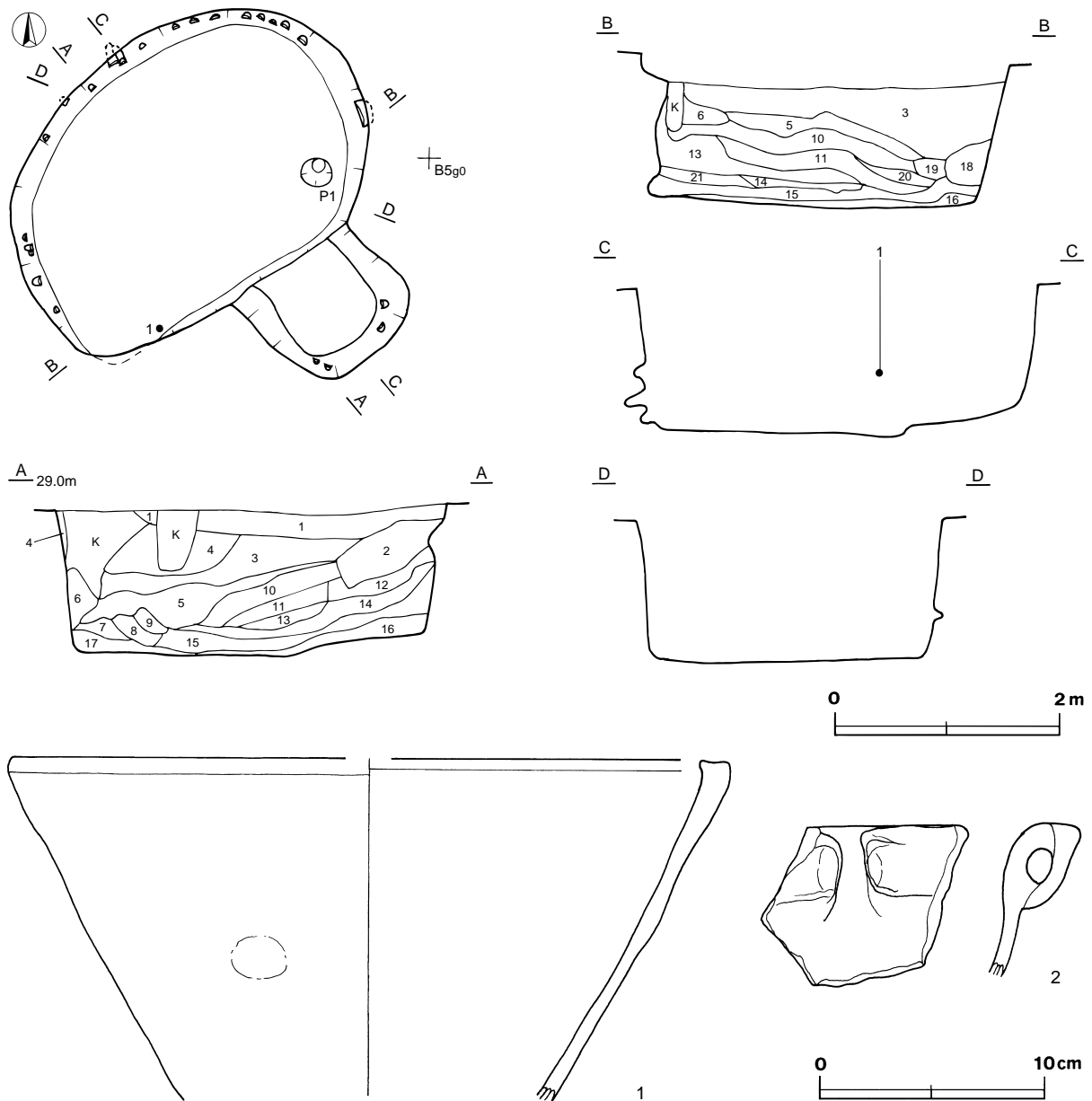
主軸方向 N-37° - W

竪坑 上面は、長軸1.24m、短軸1.06mの隅丸長方形である。底面は、主室より高くなっており、確認面からの深さは1.02~1.10mで、主室方向にゆるやかに傾斜する。

主室 底面は、長径3.00m、短径2.10mの楕円形で、長径方向はN-54° - Eである。確認面からの深さは、1.24~1.30mで、ほぼ平坦である。

壁 竪坑は、南壁上部でオーバーハングするが、他は直立する。主室の北東壁は、内彎して立ち上がり、0.5m上で内傾し、天井部に至る。他は、ほぼ直立する。また、壁の下部に、20数か所の奥行き4~24cmの鐙状の掘り込みを持つ。

ピット 1か所。P1は長径28cm、短径25cmの楕円形で、深さは25cmで、主室の東部に位置する。性格は不明である。



第521図 第5号地下式壙・出土遺物実測図

覆土 21層からなる。覆土下層（第14・15・21層）は、ロームのブロックを多く含んでいることから天井部が崩落したものと思われる。他は、ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量	12	黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
2	極暗褐色	ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	13	黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
3	黒褐色	ローム粒子少量	14	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・黒色土微量
4	黒色	ローム粒子・炭化粒子微量	15	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量
5	黒色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	16	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量, ローム中ブロック微量
6	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量	17	黒色	鹿沼パミス粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
7	黒色	ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量, ローム小ブロック微量	18	黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
8	黒色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	19	黒色	ローム粒子・炭化粒子微量
9	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量	20	黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
10	黒色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	21	褐色	ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
11	黒色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量			

遺物 土師質土器20点, 陶器2点が出土している。うち土師質土器2点を抽出・図示した。第521図2の土師質土器内耳鍋片は, 覆土中から出土している。1の土師質土器内耳鍋は, 主室の南西コーナー寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は, 遺構の形態及び出土土器から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。

第5号地下式墳 (SK333) 出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第521図 1	内耳鍋 土師質土器	A [31.8] B (15.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁端部は平坦で, 内側に突出する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面指頭圧痕。耳貼り付後, ナデ。	礫・長石・雲母・赤色粒子 にぶい褐色, 普通	P 3916 40% PL68 体部外面スス付着
2	内耳鍋 土師質土器	B (6.7)	口縁部片。口縁部は外反し, 端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付後, ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P 3917 5% 体部外面スス付着

第6号地下式墳 (第522図)

位置 調査1区の北部, B5e3区。

主軸方向 N-165° -W

竪坑 上面は長径1.10m, 短径0.50mの楕円形である。底面は, 長径0.90m, 短径0.50mの楕円形で, 確認面からの深さは0.90mである。主室方向にゆるやかに傾斜する。

主室 底面は長径2.00m, 短径1.12mの楕円形で, 北西方向から南東方向にゆるやかな傾斜を持っている。確認面からの深さは1.24mである。長径方向は, N-65° -Wである。

壁 竪坑は, 南壁上部でオーバーハングするが, 他は直立する。主室の北東壁は, 内彎して立ち上がり, 0.5m上で内傾し, オーバーハングを呈する。他は, ほぼ直立する。また, 壁の下部に, 20数か所の奥行き4~20cmの鐙状の掘り込みと南東壁近くに径26cmの円形で, 深さ6cmほどのレンズ状の窪みを持つ。

覆土 11層からなる。第5~7層はブロック状に堆積していることなどから天井部の崩落と思われる。

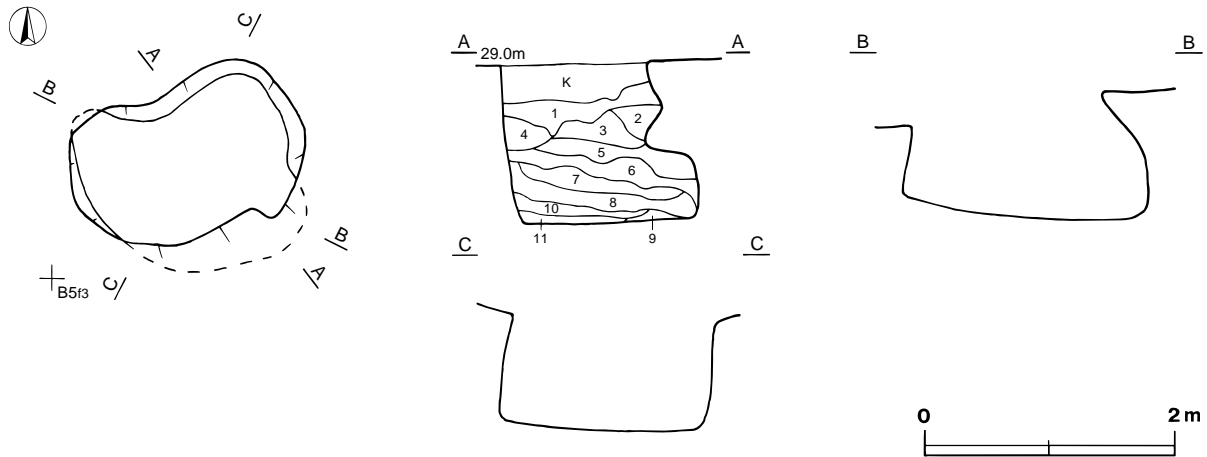
土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	5	黒色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック微量
2	暗褐色	ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量	6	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量
3	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量			
4	黒褐色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量			

- | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|---------------------------------------|
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |
| 8 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 | 11 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 |
| 9 黄褐色 | 鹿沼パミス粒子多量 | | |

遺物 出土していない。

所見 時期を判断できる土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。



第522図 第6号地下式墳実測図

第7号地下式墳（第523図）

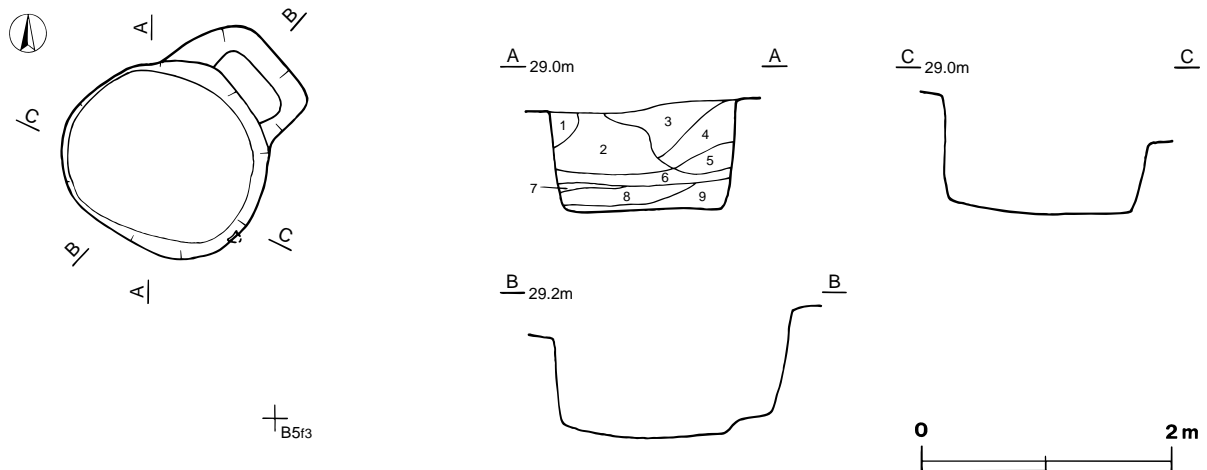
位置 調査1区の北部, B5e2区。

主軸方向 N-48° - E

竪坑 上面は長軸1.00m, 短軸0.58mの隅丸長方形である。底面は, 長軸0.62m, 短軸0.36mの隅丸長方形で, ほぼ平坦である。主室より高くなっており, 確認面からの深さは0.90mほどである。

主室 底面は長径1.50m, 短径1.30mの楕円形で, 長径方向はN-45° - Wである。確認面からの深さは0.90mで, ほぼ平坦である。

壁 竪坑は外傾し, 主室はほぼ直立する。



第523図 第7号地下式墳実測図

覆土 9層からなり, 第3～5層はロームブロックを多く含み, またブロック状に堆積していることから天井部が崩落したものと思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・ローム大ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子多量, 鹿沼パミス粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス大ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 鹿沼パミス小ブロック微量 | 9 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量 |
| 5 極暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量 | | |

遺物 出土していない。

所見 時期を判断できる土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。

第8号地下式墳 (第524・525図)

位置 調査1区の北西部, B5f4区。

重複関係 第360号土坑の南東部を掘り込んでいる。

主軸方向 N-148° -W

竪坑 上面は、長径0.68m, 短径0.62mの円形である。底面は、長径0.54m, 短径0.46mの楕円形で、主室方向にゆるやかに傾斜する。確認面からの深さは0.78mほどである。

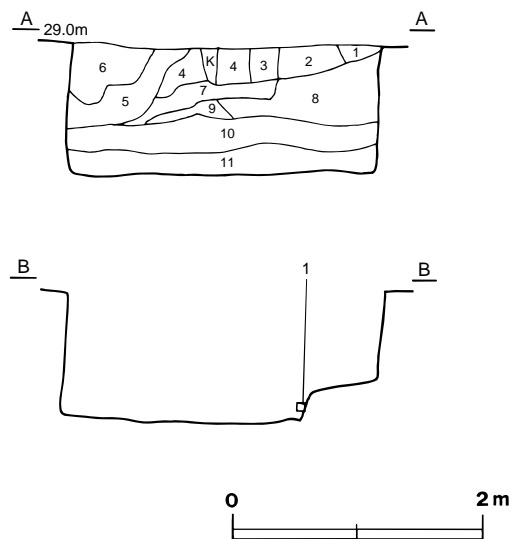
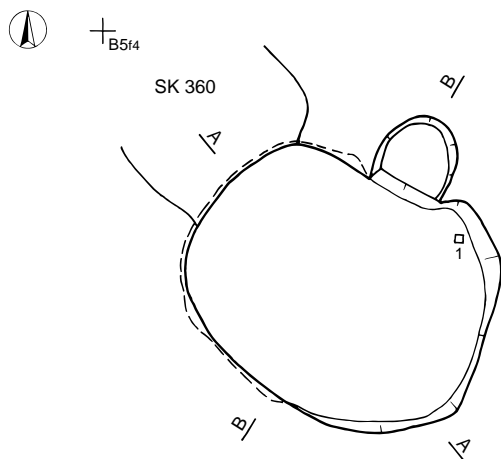
主室 底面は長径2.46m, 短径1.82mの楕円形, 長径方向はN-57° -Wである。確認面からの深さは1.02mで、ほぼ平坦である。

壁 竪坑は、直立する。主室の南西壁は内傾するが、他は直立する。

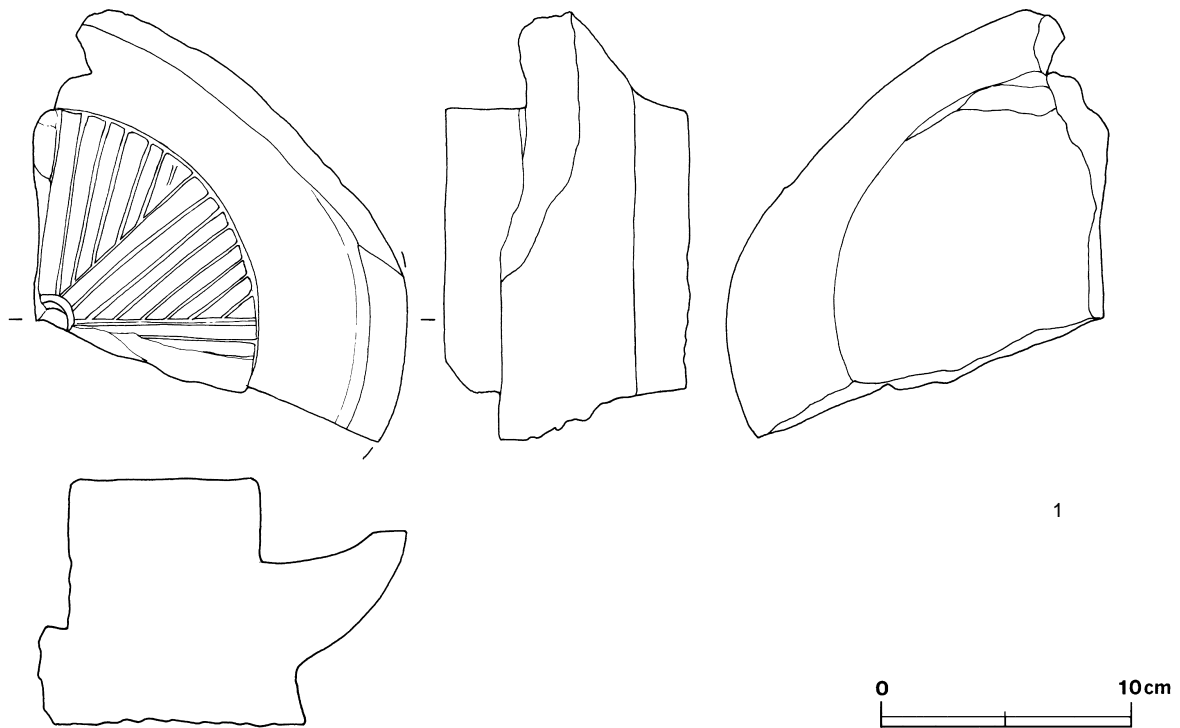
覆土 11層からなる。第7~10層が天井部崩落土層と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 2 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子少量, 鹿沼パミス小ブロック微量 | 7 明黄褐色 | 鹿沼パミス粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼パミス小ブロック少量 |
| 3 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量, 鹿沼パミス粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 | 10 黒色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| | | 11 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |



第524図 第8号地下式墳実測図



第525図 第8号地下式墳出土遺物実測図

遺物 石製品（石臼）1点が出土し、図示した。第525図1の石臼（茶臼）は、主室北東コーナー部の底面の10cmほど上から出土している。

所見 茶臼は中世のものと思われるが、明確な時期は分からない。時期を判断できる土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。

第8号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅・径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)			
第525図 1	石臼	-	[28.8]	9.8	(1604.3)	安山岩	茶臼の下臼。8分画と思われる。	Q3034 PL78

第9号地下式墳（第526図）

位置 調査1区の北西部，B5g4区。

主軸方向 N-153° - E

竪坑 上面は長径1.00m，短径0.80mの楕円形である。底面は，長径0.72m，短径0.54mの楕円形である。確認面からの深さは，0.84~1.00mで，主室方向に傾斜する。

主室 底面は，長径2.36m，短径1.68mの不整楕円形で，長径方向はN-67° - Eである。確認面からの深さは1.04mで，ほぼ平坦である。

壁 竪坑は，直立する。主室の西部は，丸味を持ちながら内傾して立ち上がり，オーバーハング状を呈する。他は，直立する。

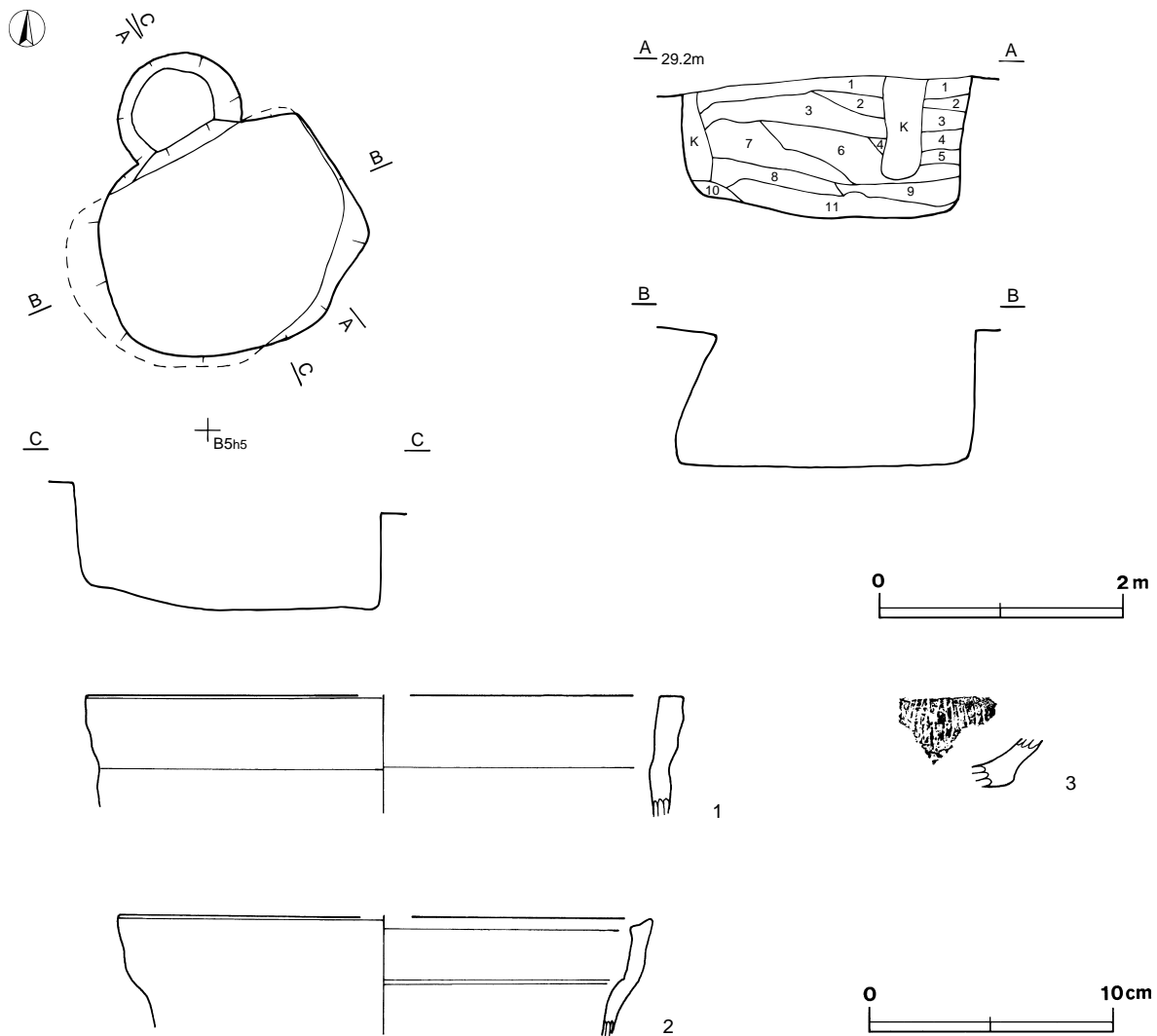
覆土 11層からなり，第4~11層がブロック状に堆積していることから天井部が崩落したものと思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------------|--------|-----------------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒色土少量, 炭化粒子微量 | 8 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子, ローム小ブロック微量 | 9 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量 |
| 3 黒色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 4 黒色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 11 黒色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 | | |
| 6 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量 | | |
| 7 黒色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師質土器12点, 陶器1点が出土している。うち土師質土器2点, 陶器1点を抽出・図示した。第526図の1・2の土師質土器内耳鍋と3の陶器の挿鉢は, 覆土中から出土している。

所見 1・2の内耳鍋は15世紀代に, 3の挿鉢は16世紀前後に, それぞれ位置づけられていることから, 本跡は, 15世紀後半から16世紀頃と考えられる。



第526図 第9号地下式塙・出土遺物実測図

第9号地下式塙出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第526図 1	内耳鍋 土師質土器	A [24.6] B (4.9)	口縁部片。口縁部は外反し, 内側に稜を持つ。	口縁部内面・外面横ナデ。	礫・長石・針状鉱物・雲母・赤色粒子 橙色, 普通	P3922 5%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第526図 2	播鉢 土師質土器	A [22.0] B (4.9)	口縁部片。口縁部は内側下端に稜を持ち、内彎気味に立ち上がる。端部は断面がT字状を呈する。	口縁部内・外面横ナデ。	礫・長石・針状鉱物・雲母にぶい橙色、普通	P 3923 5%
3	播陶 鉢器	B (2.9)	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面摺り目施文、外面口口ナデ。	礫・長石・石英にぶい赤褐色普通	P 3925 5% 志戸炉焼の可能性

第10号地下式墳 (第527図)

位置 調査1区の南東部, C5i5区。

主軸方向 N-14° - E

堅坑 上面は、長径0.84m、短径0.60mの楕円形である。底面は、主室方向にゆるやかに傾斜する。確認面からの深さは、1.10mである。

主室 底面は、長径1.38m、短軸1.20mの楕円形で、長径方向はN-71° - Wである。確認面からの深さは、1.26~1.34mで、ほぼ平坦である。

壁 堅坑は、ほぼ直立する。主室は、西部の一部を除き、内傾して立ち上がり、オーバーハング状を呈する。堅坑及び主室の底面付近に、9か所の奥行き6~24cmの鏡状の掘り込みを持つ。

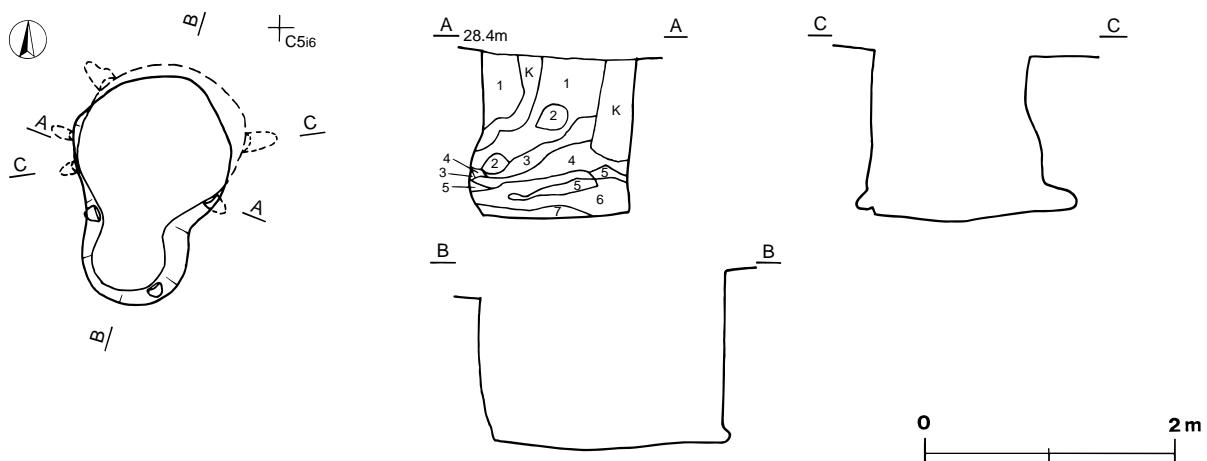
覆土 7層からなる。第4~7層がブロック状に堆積をしていることから天井部が崩落したものと思われる。

土層解説

1 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	4 黄褐色	鹿沼パミス中ブロック・鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子中量、鹿沼パミス大ブロック少量
2 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、鹿沼パミス粒子微量	5 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
3 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
		7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 陶器片2点が出土しているが、細片のため抽出・図示できなかった。

所見 時期を特定できる土器が出土している同様な遺構や小陶器片から、15世紀後半から16世紀頃と考えられる。



第527図 第10号地下式墳実測図

第11号地下式墳 (第528図)

位置 調査1区の中央部, C5a2区。

重複関係 第1号堀と重複しているが、新旧関係は不明である。

主軸方向 N-55°-W

竪坑 上面は長径0.76cm, 短径0.54cmの楕円形で, 底面は, 長径0.76cm, 短径0.54cmの楕円形である。確認面からの深さは, 1.10~1.28mで, 主室方向にゆるやかに傾斜する。

主室 底面は, 長軸1.54m, 短軸1.42mの隅丸方形で, 長軸方向はN-35°-Eである。確認面からの深さは1.50mで, 平坦である。南部を除いて天井部が残り, 底面から天井部までの高さは0.96mである。

壁 竪坑は, 南東部から主室方向に階段状に掘られている。主室の南西部は直立するが, 他は丸味を持って内傾し, オーバーハング状を呈する。

覆土 13層からなる。覆土下層(第12・13層)は, 竪坑からの自然堆積と思われる。上層は, ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

土層解説

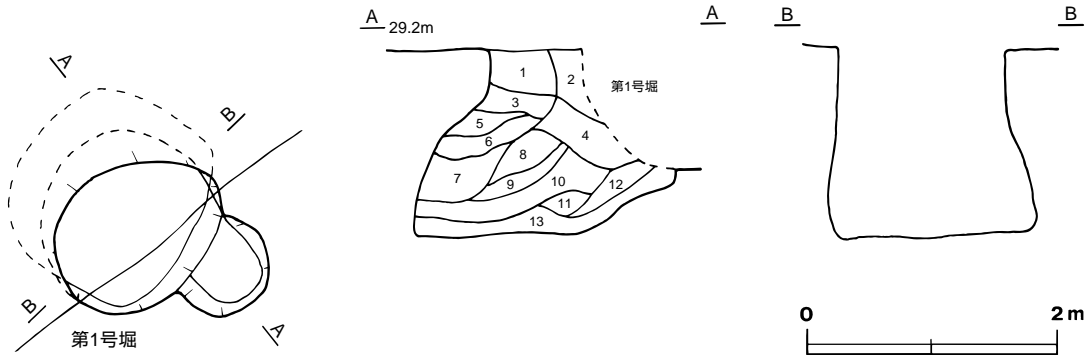
1 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒色	ローム粒子・炭化物微量	9 暗褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・黒色土少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量	10 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子微量
4 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物・鹿沼パミス中ブロック微量
5 極暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	12 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	13 黒色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量
7 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量		

遺物 出土していない。

所見 時期を判断できる土器が出土していないが, 遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。



C5a2



第528図 第11号地下式墳実測図

第12号地下式墳(第529図)

位置 調査1区の中央部, C4c9区。

重複関係 第671号土坑を掘り込んでいる。第1号堀と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

主軸方向 第1号堀と重複しているため, 主室の南部が確認できなかった。N-9°-Eと推定される。

竪坑 上面は長径0.50m, 短径0.44mの楕円形である。底面は, 長径0.50m, 短径0.44mの楕円形で, 主室方向にゆるやかに傾斜し, 確認面からの深さは0.50~0.70mである。

主室 堀と重複しているため平面形は不明である。残存する底面は, 長径1.80m, 短径0.70mの半楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは0.72mである。

壁 竪坑の西壁は, 直線的に内傾し, 他は直立する。主室の残存する壁は, 直立する。

覆土 堀と重複しているために本跡のものと確認できた覆土は, 2層だけである。堆積状況は, 不明である。

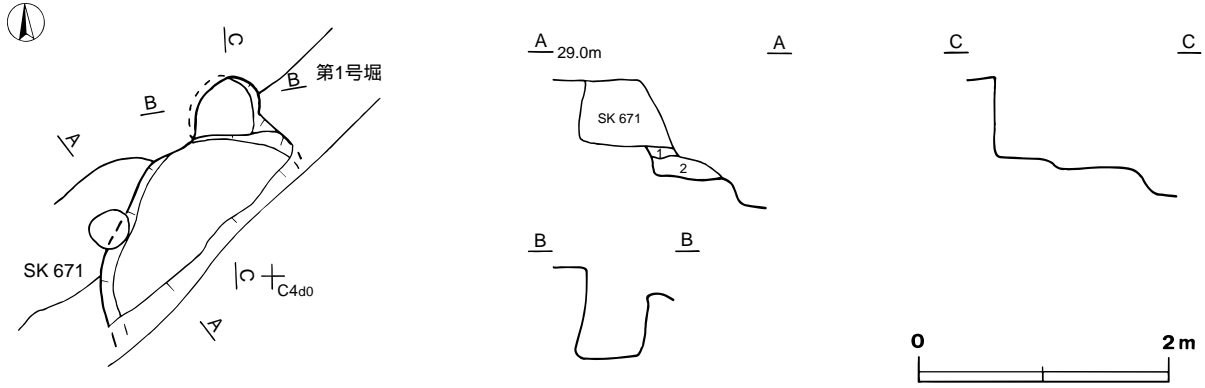
土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子・黒色土中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量

遺物 出土していない。

所見 土器が出土していないが, 遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。



第529図 第12号地下式墳実測図

第13号地下式墳 (第530図)

位置 調査1区の東部, C5a4区。

重複関係 第10号溝及び第679号土坑に掘り込まれている。

主軸方向 N-69° - E

竪坑 上面は長径1.02m, 短径0.46mの楕円形である。底面は, 確認面からの深さは0.40~0.56mで, 主室方向にゆるやかに傾斜する。

主室 底面は, 長径1.10m, 短径0.76mの楕円形で, 長径方向はN-17° - Wである。確認面からの深さは, 0.74~0.80mで, 中央部が皿状に窪む。

壁 竪坑は直立し, 主室は外傾する。

覆土 5層からなる。第2~5層はブロック状に堆積していることから天井部が崩落したものと思われる。

土層解説

1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

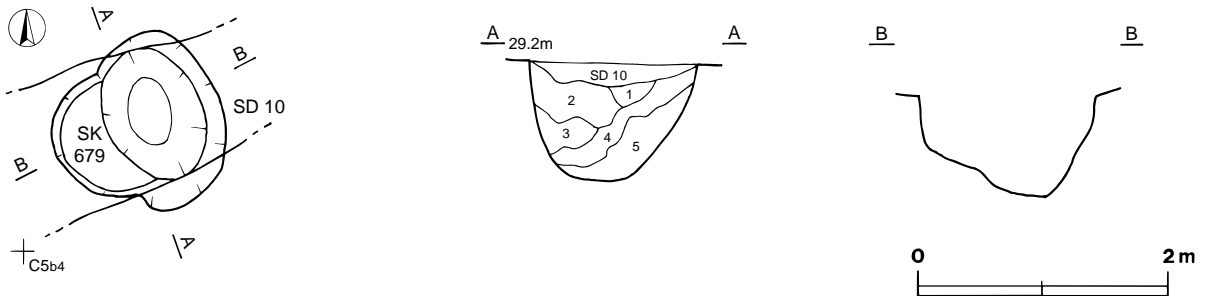
2 明褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック多量

5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

3 明褐色 ローム大ブロック多量

遺物 出土していない。

所見 時期を判断できる土器が出土していないが, 遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。



第530図 第13号地下式墳実測図

第14号地下式墳（第531図）

位置 調査4区の北東部，G4a7区。

重複関係 竪坑の上部を第14号溝と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

主軸方向 N-172° - E

竪坑 上面は長径0.80m，短径0.54mの楕円形である。底面は，主室方向にゆるやかに傾斜する。確認面からの深さは，0.54mである。

主室 底面は長軸1.60m，短軸1.00mの台形で，長軸方向はN-87° - Eである。天井部の一部が残り，底面からの高さは，0.74~0.94mである。底面は平坦で，確認面からの深さは1.16mである。

壁 竪坑は，外傾する。主室は，内彎気味に外傾する。

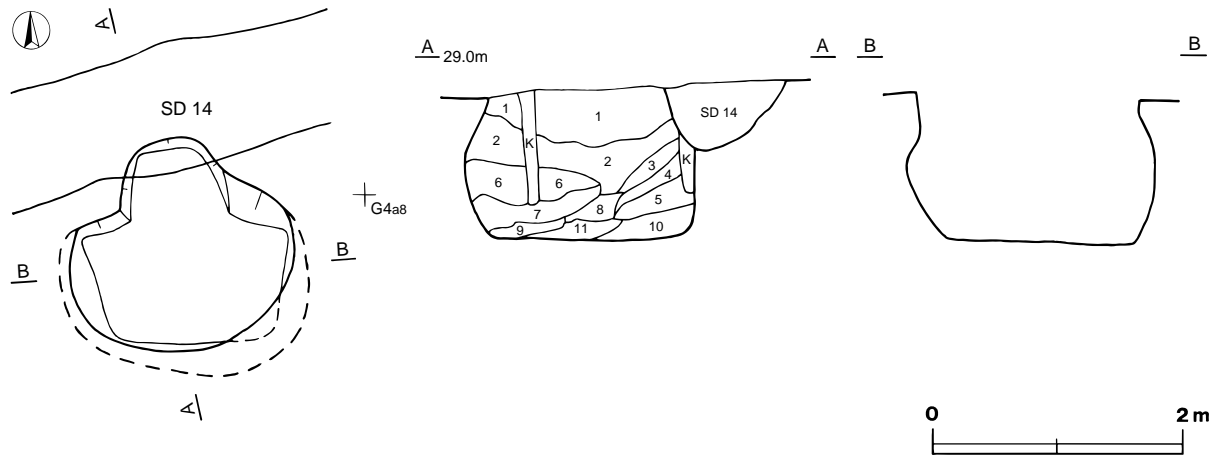
覆土 12層からなり，第4~12層はブロックに堆積していることから天井部が崩落したもの，第1~3層は崩落後に自然堆積したものと思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | 8 黒色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量，鹿沼パミス粒子微量 |
| 5 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 10 極暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量 |
| | | 11 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |

遺物 出土していない。

所見 土器が出土していないが，遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。



第531図 第14号地下式墳実測図

第15号地下式墳（第532図）

位置 調査4区の北東部，F4i9区。

重複関係 第15号溝と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

主軸方向 N-81° - E

竪坑 上面は長径1.04m，短径0.84mの楕円形である。底面は，長径1.04m，短径0.84mの楕円形で，主室方向にゆるやかに傾斜する。確認面からの深さは1.20~1.30mである。

主室 底面は，長軸1.34m，短軸0.94mの長方形で，長軸方向はN-9° - Wである。確認面からの深さは，1.36mで，平坦である。

壁 竪坑は，外傾する。主室は，南西部を除いて外傾して立ち上がり，中位で内傾してオーバーハング状を呈

する。

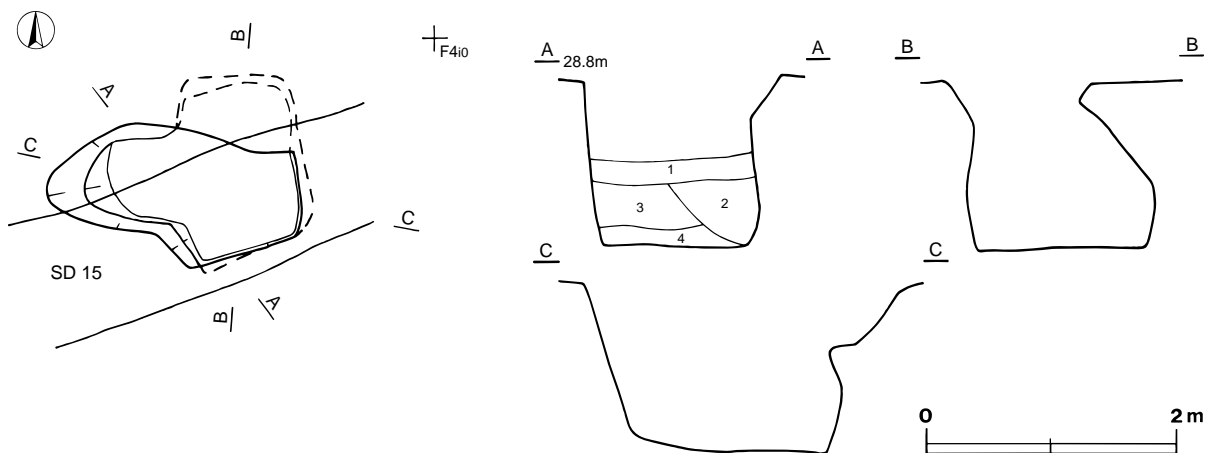
覆土 溝の掘り込み中に検出されたので確認できた層は、4層と薄いことから、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 黒色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 | 3 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 |

遺物 出土していない。

所見 土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。



第532図 第15号地下式墳実測図

第16号地下式墳（第533図）

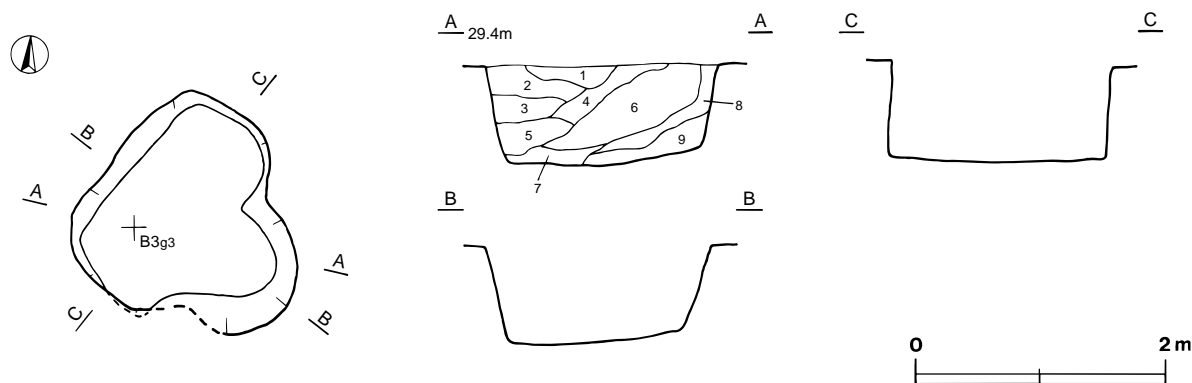
位置 調査2区の北部，B3f3区。

主軸方向 N-49° - W

竪坑 上面は、長径1.20m，短径0.75m，底面は、長径0.79m，短径0.51mで、いずれも半円形状である。底面は確認面からの深さは0.73mである。

主室 底面は、長軸1.70m，短軸0.91mの隅丸長方形で、長軸方向はN-41° - Eである。確認面からの深さは、0.76mほどで、平坦である。

壁 主室の北西壁及び竪坑は外傾して立ち上がる。主室は北西壁を除いて直立する。



第533図 第16号地下式墳実測図

覆土 9層からなる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 4 黒色 | ローム粒子少量 |

- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック多量

- 8 黒色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 9 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないため時期は不明であるが, 遺構の形態から中世と考えられる。

第17号地下式墳 (第534図)

位置 調査2区の北部, D2a7区。

主軸方向 N-18° - E

竪坑 天井部が崩落しており, 上面の形状は不明である。底面は長軸0.56m, 短軸0.45mの長方形で, 主室に向かってわずかに傾斜している。確認面からの深さは0.84~0.94mである。

主室 底面は, 長軸0.97m, 短軸0.81mの長方形で, 長軸方向はN-12° - Eである。確認面からの深さは0.98mで, 平坦である。

壁 竪坑及び主室は, 外傾して立ち上がる。

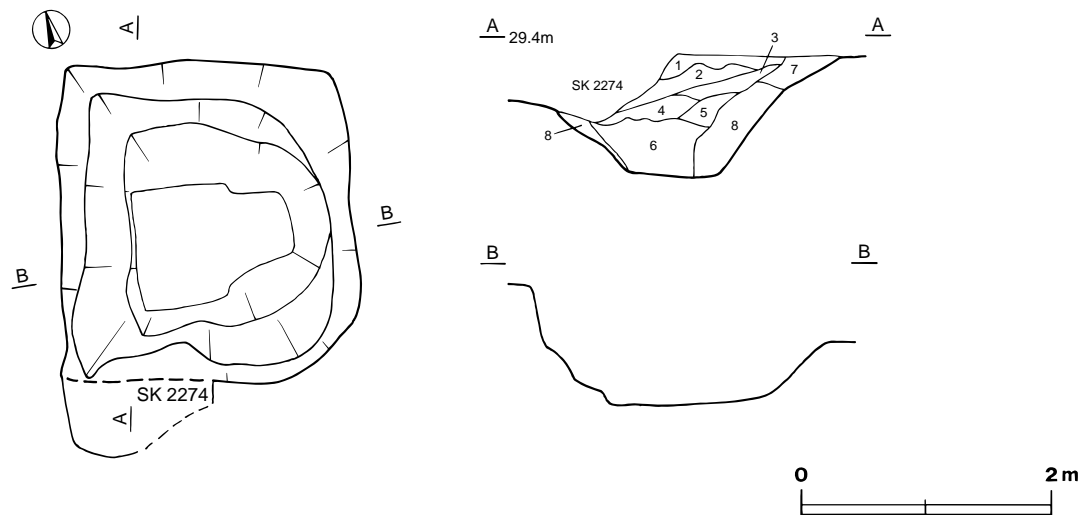
覆土 8層からなる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量 | 8 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量 |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないため時期は不明であるが, 遺構の形態から中世と考えられる。



第534図 第17号地下式墳実測図

第18号地下式墳 (第535図)

位置 調査2区の北部, B3i3区。

主軸方向 N-46° - E

竪坑 上面は, 長径0.89m, 短径0.62m, 底面は, 長径0.72m, 短径0.54mで, いずれも半円形状である。底面は主室に向かってわずかに傾斜している。確認面からの深さは, 0.80~0.88mである。

主室 底面は、長径1.44m、短径1.20mの楕円形で、長径方向はN-35°-Wである。確認面からの深さは1.08mで、平坦である。

壁 竪坑は直立する。主室はわずかにオーバーハングする。

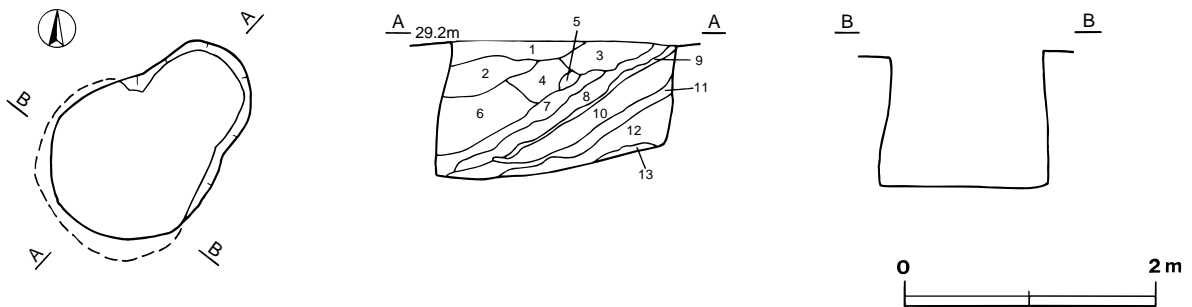
覆土 13層からなる。竪坑から主室へ流れ込むような堆積状況を示している。第5・6層はローム大ブロックが主体となっていることから、天井部が崩落したものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 9 黒色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック微量 | 11 黒色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 |
| 5 黄褐色 | ローム大ブロック多量 | 12 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量 |
| 6 褐色 | ローム大ブロック多量 | 13 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム大ブロック・鹿沼パミス粒子少量 |
| 7 黒色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量 | | |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないため時期は不明であるが、遺構の形態から中世と考えられる。



第535図 第18号地下式竪坑実測図

表9 地下式竪坑一覧表

遺構番号	位置	長径方向 (長軸方向)	規模 (m)						底面	覆土	出土遺物	重複関係 (旧 新)	備考 (旧番号)
			竪坑			主室							
			長径×短径	深さ	平面形	長径×短径	深さ	平面形					
1	B5b7	N - 71° E	0.84 × 0.54	0.74	楕円形	2.66 × 1.80	1.02	長方形	平坦	崩落	土師質土器		SK11
2	A6j1	N - 168° - E	0.80 × 0.62	0.82	隅丸長方形	1.94 × 1.46	0.98	隅丸長方形	平坦	崩落			SK271
3	B6e1	N - 30° - E	1.00 × 0.74	1.58	隅丸長方形	3.48 × 1.98	1.70	不整楕円形	平坦	自・崩	土師質土器		SK321
4	B5a9	N - 30° - E	0.78 × 0.70	1.00	楕円形	0.78 × 0.70	1.16	楕円形	平坦	崩落	陶器		SK326
5	B5f9	N - 37° - E	1.24 × 1.06	1.10	隅丸長方形	3.00 × 2.10	1.30	楕円形	平坦	人為	土師質土器，陶器		SK333
6	B5e3	N - 165° - E	1.10 × 0.50	0.90	楕円形	2.00 × 1.12	1.24	楕円形	緩斜	崩落			SK363
7	B5e2	N - 48° - E	1.00 × 0.58	0.90	隅丸長方形	1.50 × 1.30	0.90	楕円形	平坦	崩落			SK373
8	B5f4	N - 148° - E	0.68 × 0.62	0.78	円形	2.46 × 1.82	1.02	楕円形	平坦	崩落	石製品	SK360 本跡	SK374
9	B5g4	N - 153° - E	1.00 × 0.80	1.00	楕円形	2.36 × 1.68	1.04	不整楕円形	平坦	崩落	土師質土器，陶器		SK423
10	C5i5	N - 14° - E	0.84 × 0.60	1.10	楕円形	1.38 × 1.20	1.34	楕円形	平坦	崩落	陶器		SK592
11	C5a2	N - 55° - E	0.76 × 0.54	1.28	楕円形	1.54 × 1.42	1.50	隅丸長方形	平坦	自・人		第1号堀と重複	SK674
12	C4c9	[N - 9° - E]	0.50 × 0.44	0.70	楕円形	(1.80 × 0.70)	0.72	不明	平坦	不明		SK671 本跡，第1号堀と重複	SK748
13	C5a4	N - 69° - E	1.02 × 0.46	0.56	楕円形	1.10 × 0.76	0.80	楕円形	皿状	崩落		本跡 第10号溝	SK763
14	C4a7	N - 172° - E	0.80 × 0.54	0.54	楕円形	1.60 × 1.00	0.94	台形	平坦	自・崩		第14号溝と重複	SK4017
15	F4i9	N - 81° - E	1.04 × 0.84	1.30	楕円形	1.34 × 0.94	1.36	長方形	平坦	不明		第15号溝と重複	SK4059
16	B3f3	N - 49° - W	1.20 × 0.75	0.73	半円形状	1.70 × 0.91	0.76	隅丸長方形	平坦	不明			SK2005
17	D2a7	N - 18° - E	0.56 × 0.45	0.94	長方形	0.97 × 0.81	0.98	長方形	平坦	不明			SK2275
18	B3i3	N - 46° - E	0.89 × 0.62	0.88	半円形状	1.44 × 1.20	1.08	楕円形	平坦	崩落			SK2440

3 堀

調査1区の中央部から南部にかけて、平面形が南向きにコの字状を呈する堀が、1条検出された。以下、遺構と遺物について記載する。

第1号堀（第536～538図，付図）

位置 調査1区の中央部以南，C4h5～D7a1区。

重複関係 第25・26・43号住居跡を掘り込み，第11号地下式墳に掘り込まれている。また，第10号溝と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 検出できた長さは199.0m，上幅2.55～4.25m，下幅0.75～2.10m，深さ0.78～1.10mである。

1区の南部を東西及び南北方向に走り，平面形がコの字状を呈する。壁は，底面から21～40度の角度で立ち上がる。12～38cm立ち上がった後，角度を45～50度に変えて確認面まで立ち上がる。断面形は箱薬研状である。

方向 検出されたD4a6区から北西方向（N-23° -W）に伸び，C4g5区で北東方向（N-49° -E）に向きを変え，再びB6c2区で南東方向（N-150° -E）へと向きを変え，D7c1区の調査区端まで直線的に延びる。

底面 鹿沼層の中・下層まで掘り込んでいる。北側及び東側部分から多数のピットが検出され，凸凹である。しかし，西側部分（D4区付近）には，ピットはほとんど存在せず，平坦である。

ピット 底面・壁面から多数のピットが検出された。そのうち底面から壁が立ち上がる付近の両側に長径30～70cm，短径24～60cmの円形ないし楕円形，深さ5～30cmほどのピットが並行しているところがあるが，間隔は必ずしも一定ではない。

覆土 6～11層からなる。土層断面図中のSPD-D'付近は縄文時代の遺構が多く，そこを掘り込んでいるために，不規則な堆積状況をしている。遺構の重複が少ないところの土層（SPA，SPB，SPC，SPE）は，レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説（SPD-D'）3区

1 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，鹿沼パミス粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・鹿沼パミス中ブロック・鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子微量	9 褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量	10 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量

土層解説（SPE-E'）11区

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量	6 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	7 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量	8 暗褐色	鹿沼パミス小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
4 黒褐色	白色粘土ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量		
5 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量		

土層解説（SPF-F'）17区

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子微量	5 黄褐色	鹿沼パミス粒子多量
3 黒褐色	ローム小ブロック少量，ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量

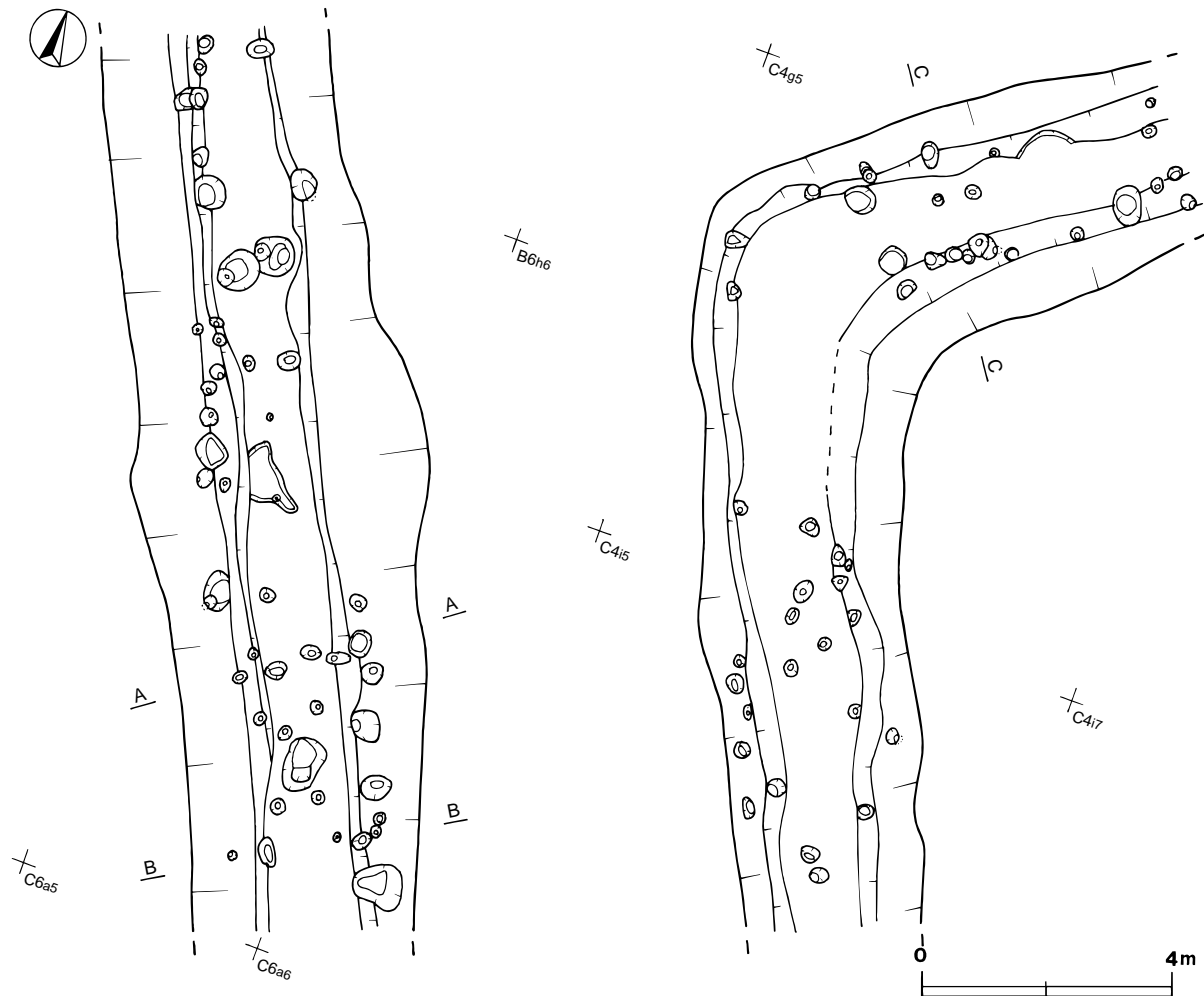
土層解説（SPG-G'）23区

1 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・鹿沼パミス粒子微量	4 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
2 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量	6 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

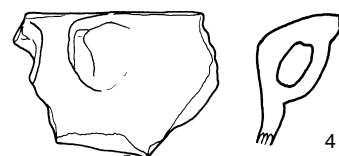
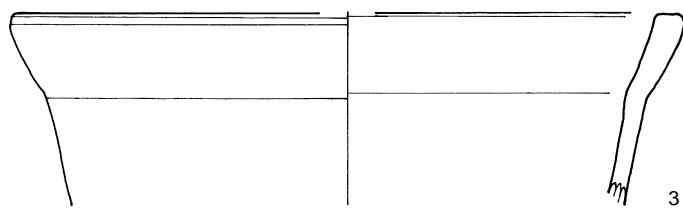
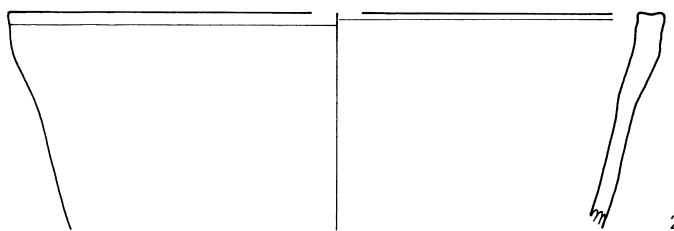
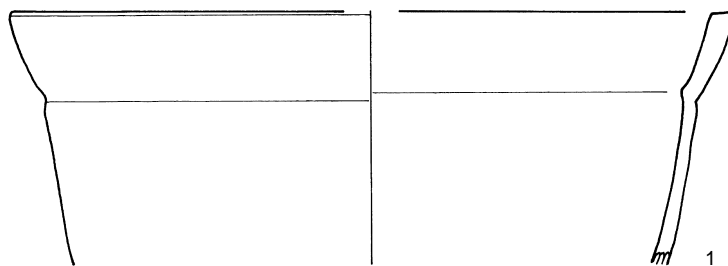
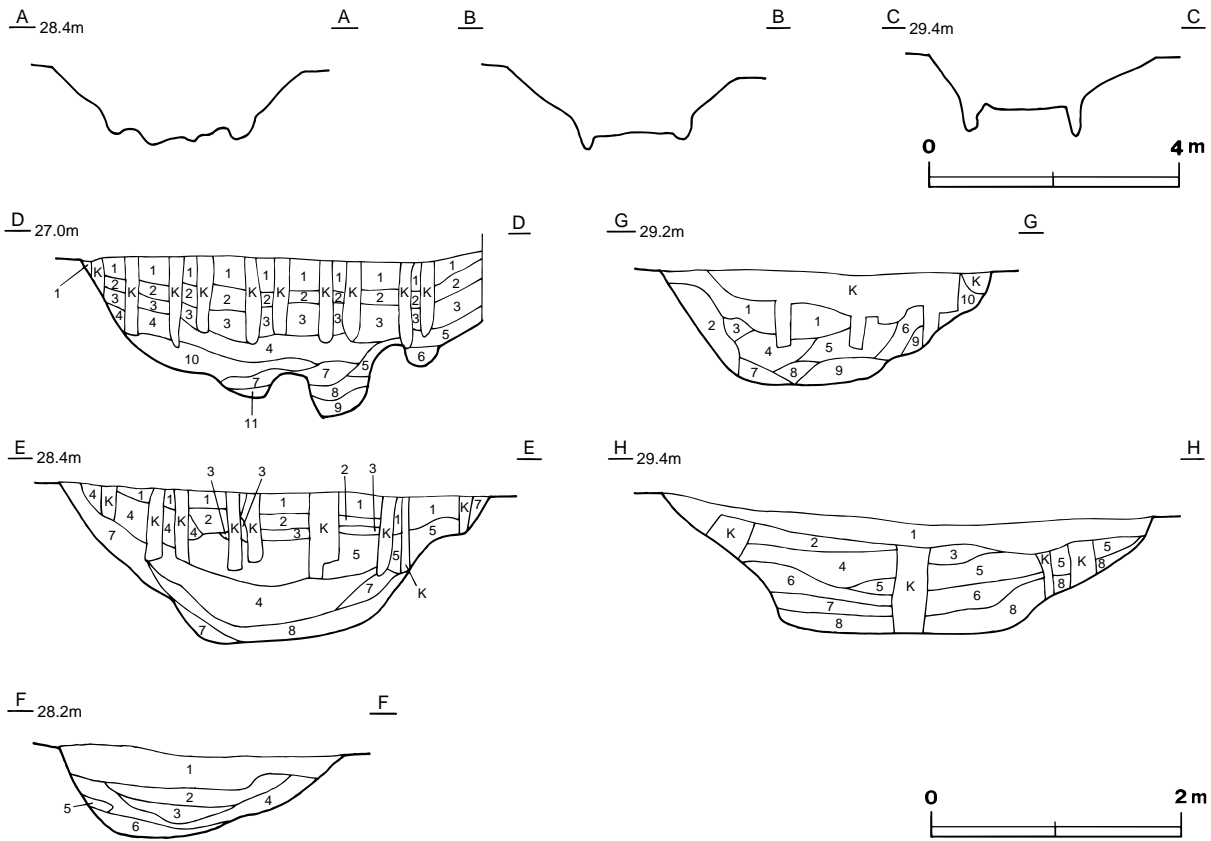
- | | | | |
|--------------------------|----------------------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 7 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 |
| 土層解説 (SPH-H') 35区 | | | |
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス中ブロック微量 | 7 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量 |

遺物 東西方向に走る北側堀の東側, 南北方向に走る東側堀を中心に, 土師質土器80点, 陶器片24点等が出土している。細片が多いので, うち土師質土器4点, 陶器片4点を抽出・図示した。第537図1~4の土師質土器内耳鍋は, 東側堀の覆土から出土している。6の陶器鉢片は, 東側堀の覆土中層から出土している。5の陶器甕の口縁部片は, 覆土下層から出土している。7の陶器片口鉢は, 東側堀の南部の覆土下層から出土している。8の陶器挿鉢は, 北側堀の覆土中層から出土している。

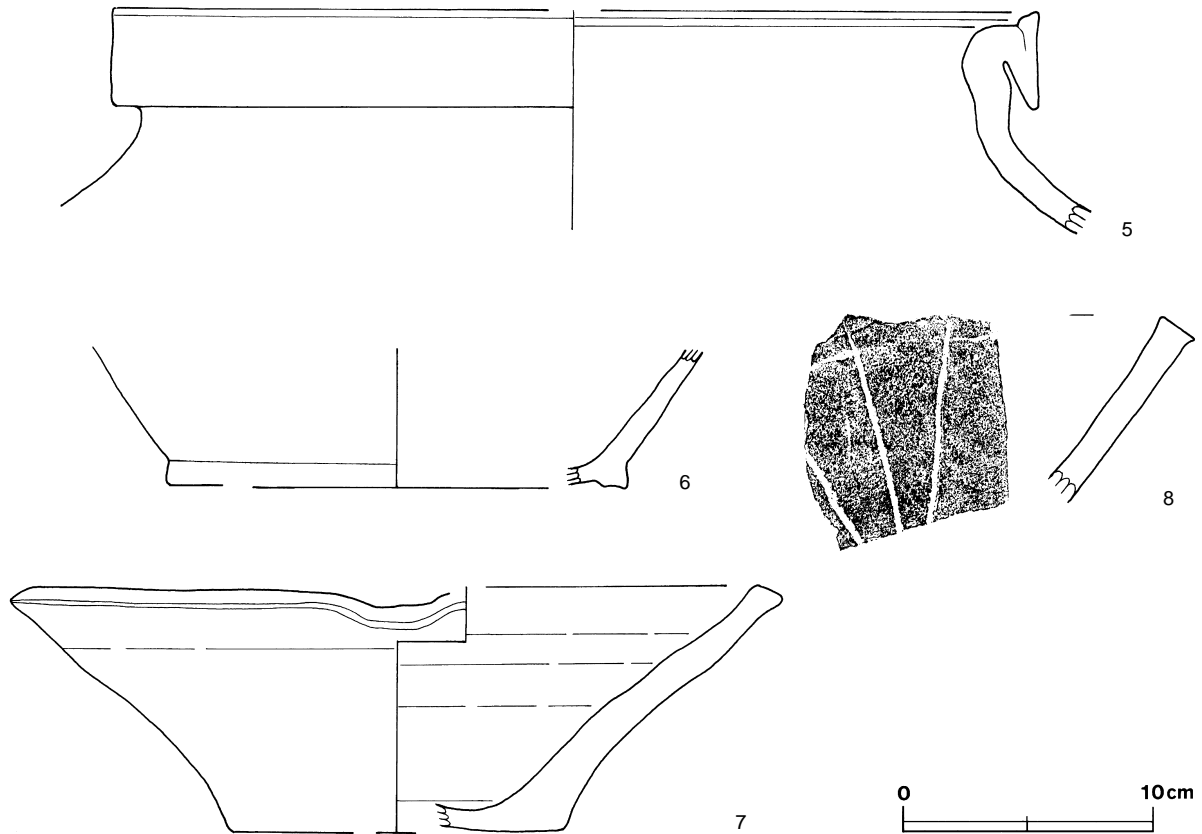
所見 本跡は箱藁研状に掘られただけでなく, 底面に沿って不規則な並びのピットが検出されていることから柵のようなものを伴っていたことも考えられる。出土遺物の中で5の甕片と6の鉢片は, 断面が滑らかになっていることから, 砥石に転用されたと思われる。5の甕片は, 常滑産で, 口縁部の様子から14世紀前半のもの, 一方, 内耳鍋片は胎土に金雲母を含むことから在地産で, 15世紀代のものと思われることなどから, 14世紀代に掘られ, 15世紀代に廃絶されたものと考えられる。また覆土中から硬化面(道路状遺構)が検出されたことから, 通路としても利用されたと思われる。



第536図 第1号堀実測図



第537图 第1号堀・出土遺物実測図



第538図 第1号堀出土遺物実測図

第1号堀出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第537図 1	内耳鍋 土師質土器	A [29.0]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。口縁 部は外反し、内側に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・針状鉱物 雲母 明赤褐色，普通	P 3926 10% 体部外面スス付着
		B (10.0)				
2	内耳鍋 土師質土器	A [26.4]	体部から口縁部にかけての破片。体 部は直線的に外傾して立ち上がる。 口縁部は外反し、内側に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・針状鉱物・雲 母・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P 3927 5%
		B (8.5)				
3	内耳鍋 土師質土器	A [26.8]	体部上部から口縁部にかけての破 片。体部は外傾して立ち上がる。 口縁部は外反し、内側に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・針状鉱物 赤色粒子 にぶい橙色，普通	P 3928 5%
		B (7.6)				
4	内耳鍋 土師質土器	B (5.7)	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内面・外面横ナデ。耳貼り 付け後，ナデ。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 橙色，普通	P 3929 5%
第458図 5	甕 陶器	A [37.0]	口縁部片。口縁部は折り返されて 上下に突出し、口縁部との間に隙 間を持ち、断面N字状を呈する。	口縁部内・外面口クロナデ後，鉄 釉施釉。	礫・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 3930 5% PL68 常滑系，断面砥石 転用，外面自然釉
		B (7.8)				
6	鉢 陶器	B (5.5)	高台部から体部にかけての破片。 高台が付く。体部は直線的に外傾 して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。	礫・長石・石英 灰赤色 普通	P 3931 5%
		A [18.4]				
7	鉢 陶器	A [28.8]	底部から口縁部にかけての破片。平 底。体部は外傾して立ち上がり，口 縁部に至る。口縁部は片口を呈する。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。	礫・長石・石英・赤 色粒子 明褐色，普通	P 3932 20% PL68
		B 9.8				
		A [13.0]				
8	播鉢 陶器	B (7.0)	体部上部から口縁部にかけての破 片。体部は直線的に外傾して立ち 上がり，口縁部に至る。口縁端部 は断面がT字状を呈する。	口縁部及び体部内面播り目施文， 外面指頭痕。	礫・長石 暗褐色 普通	TP3087 5%

4 井戸跡

今回の調査で井戸跡が13基検出され、うち7基を遺構の形態や遺物から中世の井戸跡とした。以下遺構及び遺物について記載する。

第1号井戸跡（第539図）

位置 調査1区の北部，A4g0区。

規模と平面形 長径1.70m，短径1.48mの楕円形である。断面の形状は，下位が狭くなる逆台形状に掘り込まれているが，湧水のために確認面から2.21mまでしか掘り下げられなかった。

長径方向 N-32° - E

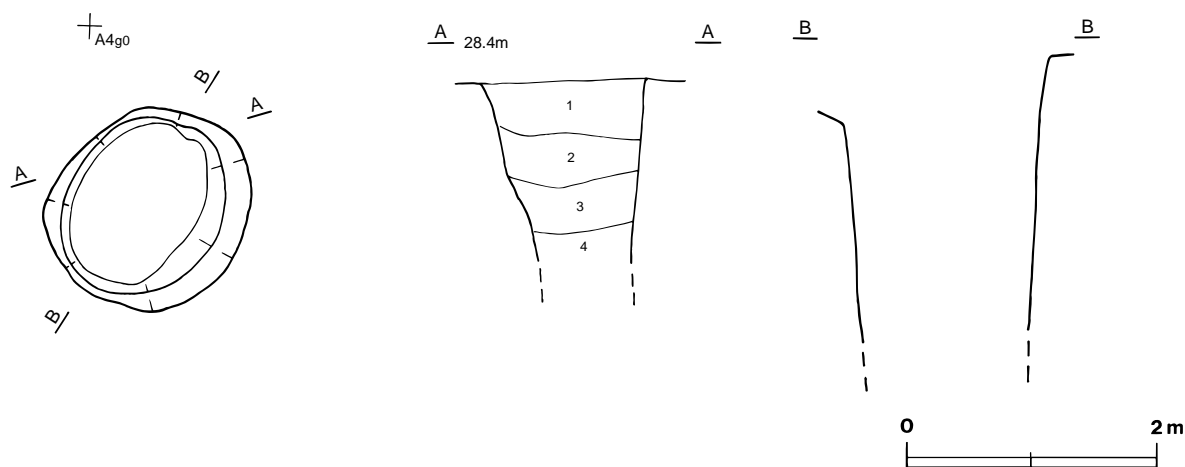
覆土 崩落のために図化できたのは，確認面から1.45mの深さまでである。4層からなり，ブロック状に堆積しているため人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | | |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・白色粘土中ブロック微量 | | |

遺物 土師質土器片18点が出土しているが，細片のため抽出・図示できなかった。

所見 本跡は，谷部の先端部にある。谷部は，黒色土除去後，雨天になると水が溜まり，プールの状態を呈し，なかなか抜けないことから水量は豊かであったと思われる。抽出・図示はできなかったが，出土した土師質土器（内耳鍋）片は，第3号井戸跡と同様なものであることから，15世紀後半から16世紀前半と思われる。



第539図 第1号井戸跡実測図

第2号井戸跡（第540図）

位置 調査1区の北西部，B4d1区。

規模と平面形 長径1.64m，短径1.41mの楕円形である。断面形の形状は，確認面から0.95mの深さまで漏斗状に，そこから下は径約0.85mの円筒形に，それぞれ掘り込まれている。湧水及び崩落の危険のために確認面から1.77mまでしか掘り下げられなかった。

長径方向 N-86° - E

覆土 12層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

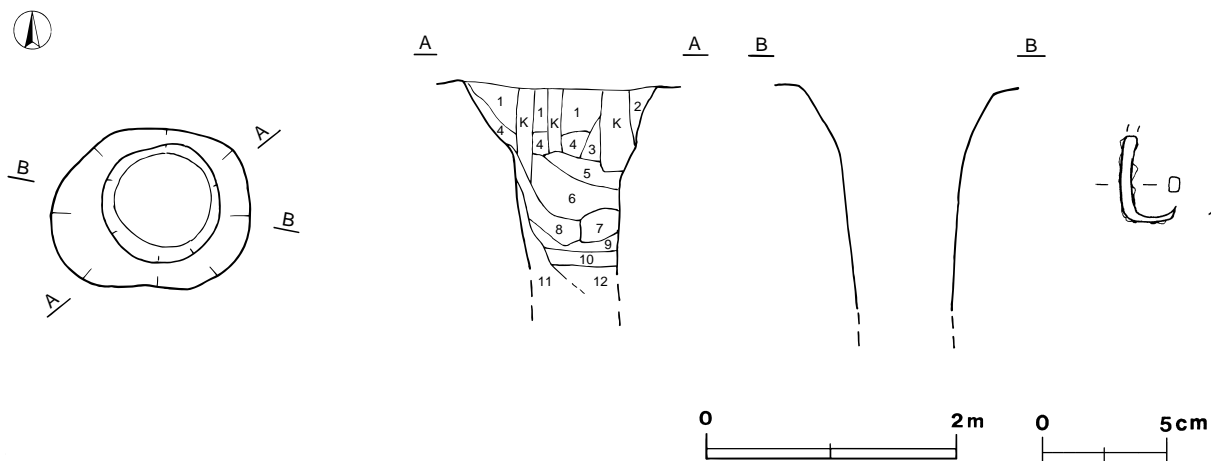
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量 |

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|--------------------------------|
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 9 黒色 | ローム粒子微量 |
| 6 黒色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 鹿沼パミス粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック微量 | 12 褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |

遺物 金属製品1点(釘)が出土している。第540図1の釘は、覆土から出土している。

所見 釘が出土しているが、本跡に伴うものかどうか不明である。その他に遺物は出土していないが、遺構の形態などから近在する第1号井戸跡と同じ頃と思われる。



第540図 第2号井戸跡・出土遺物実測図

第2号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第540図1	釘	(3.5)	0.4	0.5	(3.8)	鉄	先端がJ字状に屈曲。	M3147

第3号井戸跡(第541図)

位置 調査1区の北西部, B3e6区。

規模と平面形 長径1.50m, 短径1.30mの楕円形である。断面形は、確認面から深さ約0.55mまで漏斗状に、そこから底面の粘土層まで径約0.94mの円筒形状に、それぞれ掘り込まれている。東壁の中層から下層にかけてに壺鏡状の掘り込みがある。

長径方向 N-62°-W

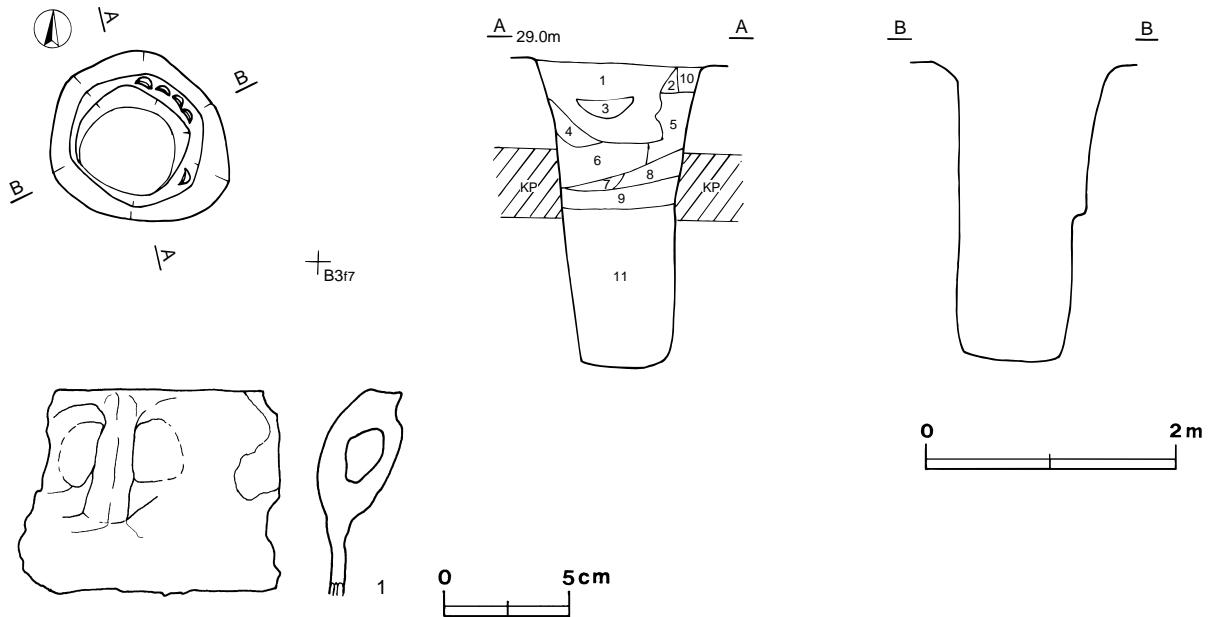
覆土 11層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|--------|-----------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量, 鹿沼パミス粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 3 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・鹿沼パミス粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 鹿沼パミス粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 鹿沼パミス小ブロック微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 鹿沼パミス粒子微量 | | |

遺物 土師質土器片3点, 陶器片5点, 水中より長さ約50cm, 幅約30cmの長方形, 厚さ3~4cmのわらで編まれたものが出土している。うち土師質土器内耳鍋片1点を抽出・図示した。第541図1の土師質土器内耳鍋は、覆土中から出土している。

所見 わら製のものは、井戸の屋根などに用いられていたものと考えられる。時期は、出土土器から15世紀後半から16世紀前半と思われる。



第541図 第3号井戸跡・出土遺物実測図

第3号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第541図 1	内耳鍋 土師質土器	B (8.2)	口縁部片。口縁部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後、ナデ。	礫・長石・石英・雲母にぶい橙色，普通	P3933 5%

第4号井戸跡（第542図）

位置 調査1区の北部，A5i2区。

規模と平面形 長径2.03m，短径1.94mの円形である。断面形の形状は，確認面から約1.30mの深さまで漏斗状に掘り込まれ，この付近に壺鐘状の掘り込みを持つ。それより下位は，逆台形状に開いて掘り込まれているが，湧水のために確認面から2.22mまでしか掘り下げられなかった。

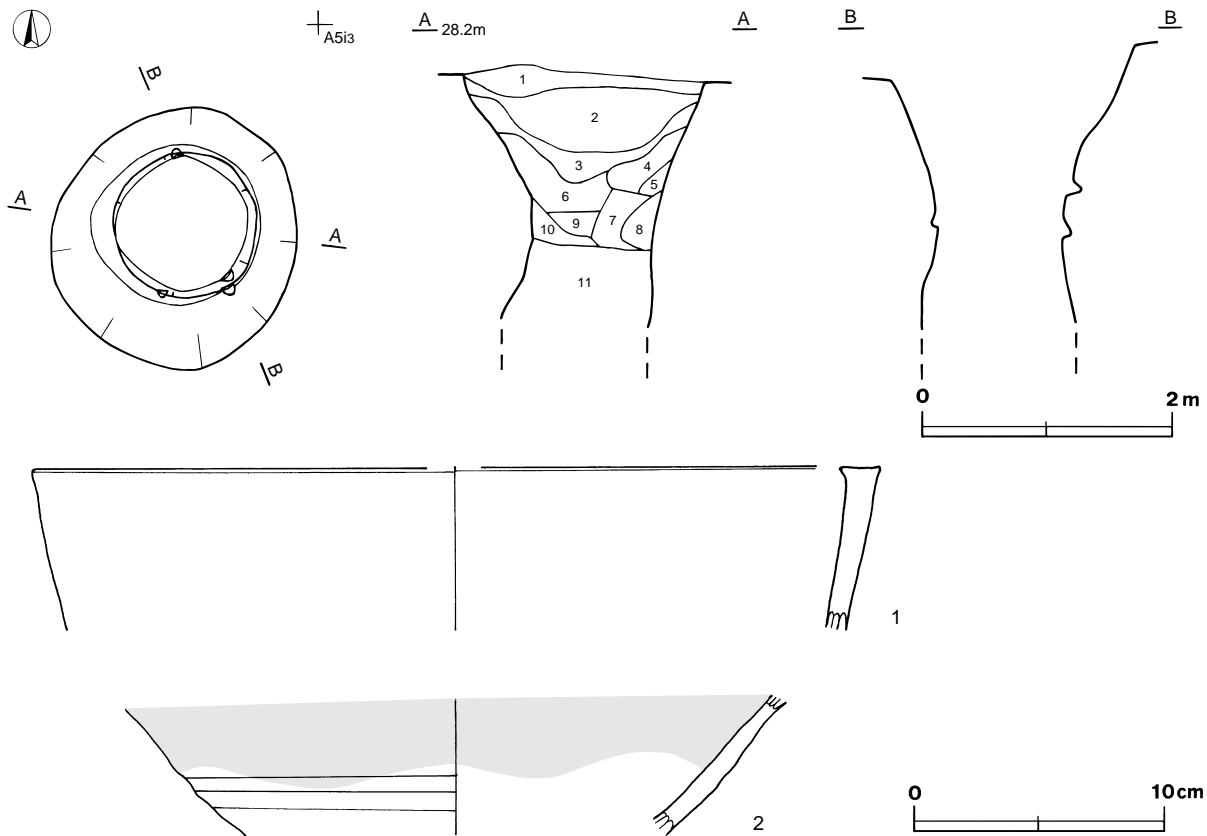
覆土 11層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 黒色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量	9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，鹿沼パミス粒子少量	11 褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量
6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量		

遺物 土師質土器片2点，陶器片5点と出土遺物は少なく，細片である。うち陶器2点を抽出・図示した。第542図1の陶器片口鉢（常滑産）と2の陶器深鉢（瀬戸産）は，出土位置は不明であるが，覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から15世紀後半と考えられる。



第542図 第4号井戸跡・出土遺物実測図

第4号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第542図 1	片口鉢 陶器	A [34.4] B (6.5)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。端部は平坦で断面がT字状を呈する。	口縁部内・外面口クロナデ。	礫・長石・石英明 明赤褐色 普通	P 3934 5%
2	深鉢 陶器	B (5.5)	体部片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面口クロナデ，外面回転ヘラ削り後，内・外面上半部施釉。	長石 灰黄色 良好	P 3935 5% 釉：オリブ黄色

第5号井戸跡 (第543図)

位置 調査1区の西部，C4c2区。

規模と平面形 径1.18mの円形である。断面形の形状は，確認面から約0.80mの深さまで漏斗状に掘り込まれている。そこから下位は，径約1.00mの円筒形状に掘り込まれているが，湧水のために確認面から約1.37mまでしか掘り下げられなかった。確認面から0.74~1.72m間の壁に，壺鐘状の掘り込みを持つ。

覆土 13層からなる。黒色土中心のあまり締りのない，しかも湿り気のある土層のため崩れやすかったが，湿り気のある覆土のため馬骨の残りが良かった。馬骨が入っていたことなどから人為堆積と思われる。

土層解説

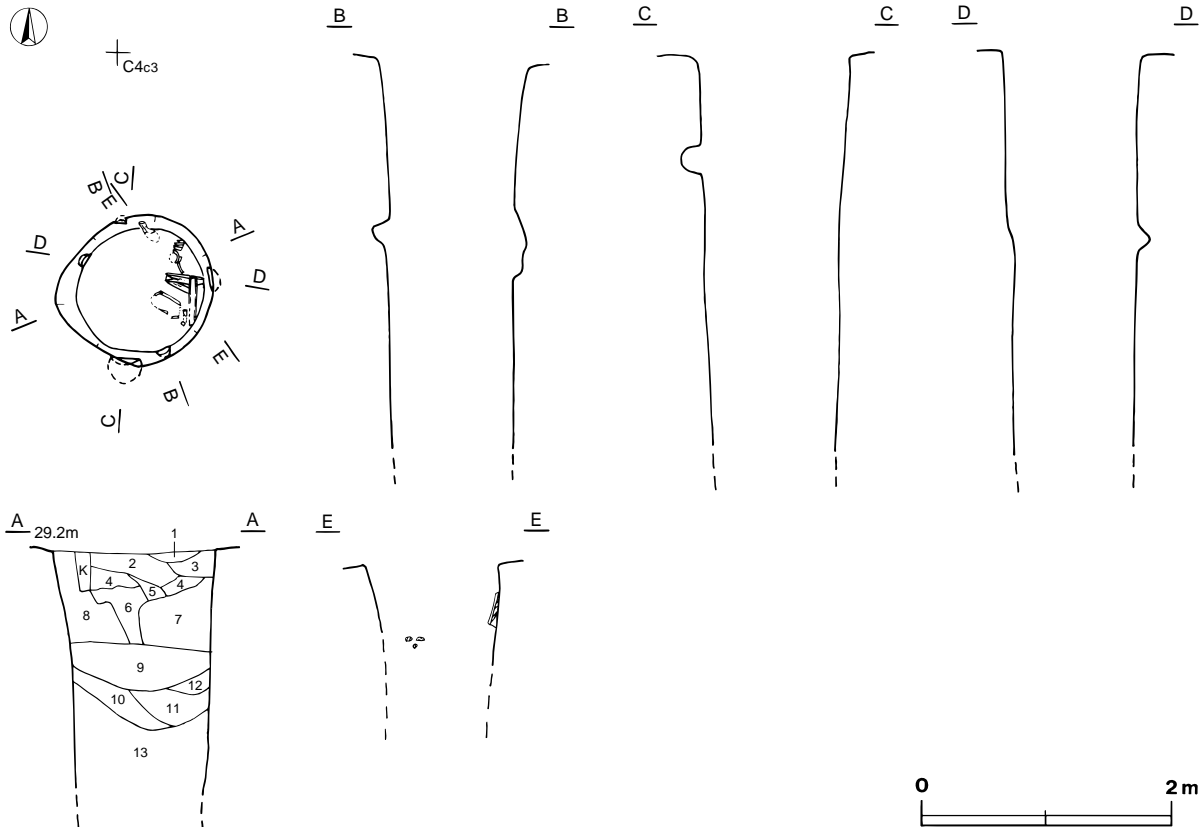
- | | | | |
|-------|--------------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化物微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| | | 11 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子・白色スコリア微量 |

12 暗褐色 鹿沼パミス粒子多量

13 黒褐色 ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量

遺物 陶器片1点と馬骨が出土している。陶器は、細片で図示できなかつた。馬骨（頭・足等）は、折り重なるように確認面から0.24~0.72m（第4~8層）の間で出土している。

所見 馬骨を挟む土層がブロック状に堆積していることから、馬骨は、井戸の廃棄時に意図的に埋められたと思われる。時期は、壁に笠状の掘り込みを持つ第4号井戸跡等と同じ頃と思われる。



第543図 第5号井戸跡実測図

第6号井戸跡（第544図）

位置 調査1区の南東部，C5d0区。

重複関係 第1号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.45mのほぼ円形で、北側付近の壁は、確認面から深さ0.95mまで急な傾斜を持つが、他はほぼ直に垂下する。それから下位は、径0.78~0.94mの円筒形状に、3.55mの底面まで掘り込まれている。底面は、平坦である。

覆土 12層からなる。確認面から深さ0.95mまで攪乱が入り、特にそれが著しい0.45m前後までは、土層を割愛した。1層から11層までは、白色粘土ブロックを中心とした覆土である。壁は、鹿沼層下の褐色系のローム土であることから、人為的に埋め戻されたものと思われる。

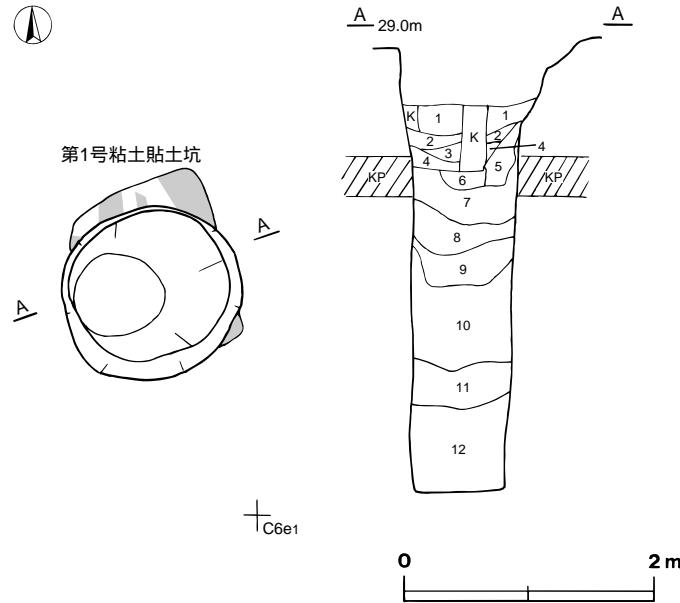
土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------------|---------|----------------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・粘土中ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 5 黄褐色 | 白色粘土粒子多量，鹿沼パミス粒子中量，炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 6 オリーブ色 | 白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子多量，ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・白色粘土小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量 | 7 黄褐色 | ローム粒子中量，白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | 白色粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量 | | |

- | | | | | | |
|----|--------|-------------------------------------------------------------------|----|----|--------------------------------------------------------|
| 8 | オリーブ色 | 白色粘土大ブロック・白色粘土中ブロック多量, ローム粒子・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子・砂粒少量, 炭化物・炭化粒子微量 | 11 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, 白色粘土中ブロック中量, 白色粘土大ブロック少量, ローム中ブロック微量 |
| 9 | 灰オリーブ色 | 白色粘土大ブロック・白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子多量, 砂粒中量, ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量 | 12 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック微量 |
| 10 | オリーブ黄色 | 白色粘土大ブロック・白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子微量 | | | |

遺物 陶器片 2 点が出土しているが、細片のために抽出・図示できなかった。

所見 小支谷を望むゆるやかな斜面上に位置する。小陶器片や遺構の形態などから、15世紀後半～16世紀前半と思われる。



第544図 第6号井戸跡実測図

第8号井戸跡 (第545図)

位置 調査1区の南東部, C5g9区。

重複関係 北西部を第520号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 北西部上部を第520号土坑に掘り込まれているため、長径1.45m, 短径1.23mの楕円形と推定される。確認面から深さ1.62mにある底面は、長径1.33m, 短径1.08mの楕円形である。断面の形状は、確認面から約1.30mの深さまで漏斗状に掘り込まれ、この付近に壺笠状の掘り込みを持つ。それより下位は、円筒形を呈するが、湧水のために確認面から2.22mまでしか掘り下げられなかった。

長径方向 N-66° - E

覆土 8層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

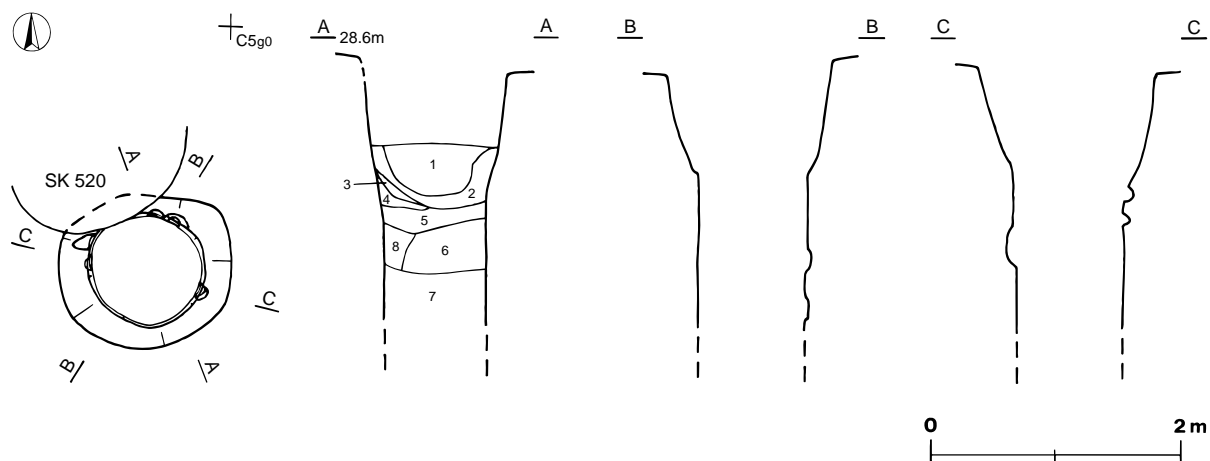
土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------------------------------|---|-----|-------------------------------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック微量 | 6 | 暗褐色 | ローム小ブロック多量, ローム大ブロック・ローム粒子中量, 鹿沼バミス粒子少量, 鹿沼バミス大ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, 鹿沼バミス粒子少量, ローム中ブロック微量 | 7 | 黒褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子少量, ローム大ブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 | 8 | 暗褐色 | 鹿沼バミス粒子多量, ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 鹿沼バミス中ブロック・鹿沼バミス粒子少量 | | | |
| 5 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 鹿沼バミス粒子微量 | | | |

遺物 出土していない。

所見 出土遺物は無いが、遺構の形態や第1号堀の内側に位置することなどから他の多くの井戸跡と同じ頃と

思われる。



第545図 第8号井戸跡実測図

表10 中世井戸跡一覧表

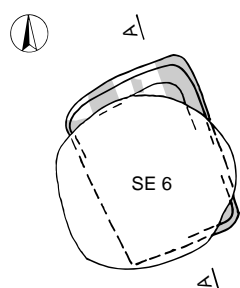
遺構番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		断面形	覆土	出土遺物	重複関係 (旧 新)	備考 (旧番号)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	A4g0	N - 32° - E	楕円形	1.70 × 1.48	(221)	逆台形状	人為	土師質土器		SK51
2	B4d1	N - 86° - E	楕円形	1.64 × 1.41	(177)	漏斗状・円筒状	人為	金属製品		SK75
3	B3e6	N - 62° - W	楕円形	1.50 × 1.30	0.94	漏斗状・円筒状	人為	土師質土器, 陶器, 自然遺物(墓)		SK162
4	A5i2		円形	2.03 × 1.94	(222)	漏斗状・逆台形状	人為	土師質土器, 陶器		SK211
5	C4c2		円形	1.18	(137)	漏斗状・円筒状	人為	陶器, 馬骨		SK248
6	C5d0		円形	1.45	3.55	円筒状	人為	陶器	第1号粘土貼土坑 本跡	SK482
8	C5g9	N - 66° - E	[楕円形]	[1.45 × 1.23]	(222)	漏斗状・円筒状	人為		本跡 SK520	SK601

5 粘土貼土坑

1区南部のゆるやかな斜面部に粘土を貼った土坑が、1基検出された。以下、遺構について記載する。

第1号粘土貼土坑 (第546図)

位置 調査1区の南東部, C5d0区。



A 29.0m



0 1m

第546図 第1号粘土貼土坑実測図

重複関係 大部分を第6号井戸に掘り込まれている。

規模と平面形 第6号井戸に掘り込まれているため正確な規模と平面形は不明であるが、長軸1.43m、短軸1.10mの隅丸長方形と推定される。

長軸方向 N-17°-Wと推定される。

壁 残存する壁高は25cmほどで、外傾する。4~7cmの厚さに粘土が貼ってある。

底 北東コーナー付近が残存し、平坦である。4cm前後の厚さに、粘土が貼ってある。

覆土 耕作による攪乱が多数入っていることや確認面からの深さがあまりないために、図化できなかった。

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がないため明確な時期は不明であるが、15世紀後半から16世紀前半と思われる第6号井戸に掘り込まれていることから、それ以前と考えられる。

6 土坑墓

調査1区の北東部から、人骨と古銭を伴う土坑墓1基が検出されているので、その状況及び遺物について記載する。

第2号土坑墓（第547図）

位置 調査1区の北東部，B3b4区。

規模と平面形 北壁東側がやや突出しているが、長軸2.01m、短軸1.28mの隅丸長方形で、深さ40～50cmである。

長径方向 N-47° -W

底面 踏み固められていないローム土で、北側がやや高くなっている。

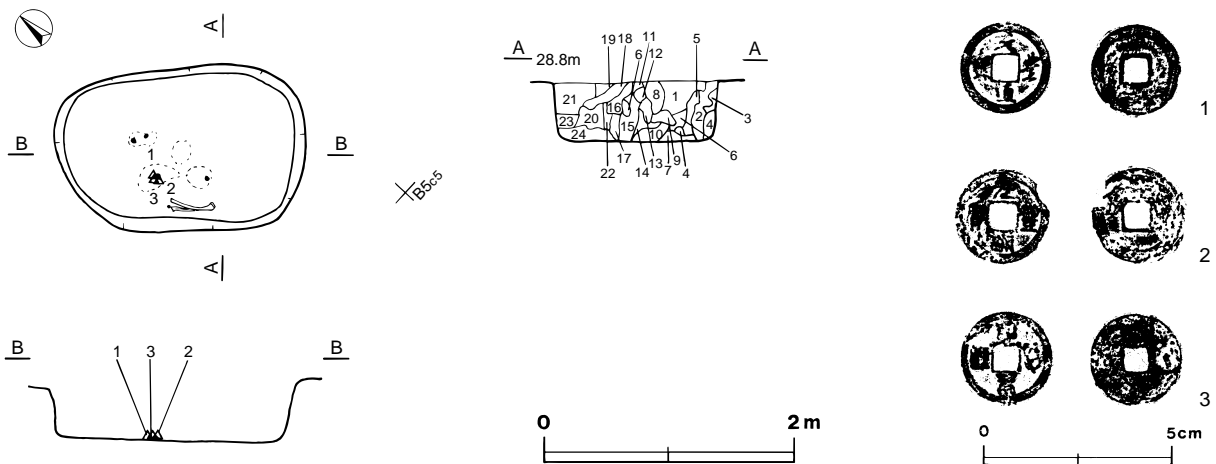
覆土 24層からなる。不規則な堆積状況をしていることから、人為堆積である。

土層解説

1	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	14	褐色	ローム粒子・炭化物中量，ローム中ブロック微量
2	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量	15	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量
3	褐色	ローム粒子中量，炭化物少量，ローム大ブロック微量	16	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子。炭化粒子少量，焼土粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量	17	黄褐色	ローム粒子多量，炭化粒子微量
5	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	18	黄褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子中量
6	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物微量	19	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
7	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量，焼土粒子・炭化粒子微量	20	褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量	21	褐色	ローム粒子多量
9	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	22	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
10	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量	23	にぶい褐色	ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量
11	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化物中量	24	褐色	ローム大ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
12	暗褐色	ローム粒子・炭化材多量			
13	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量			

遺物 人骨片5点，古銭3点が出土している。骨は最大で37cmほどの長さをもつが、粒状及び粉状の部分もあり、脆い状態で出土している。また、古銭が3点まとまって、北コーナーよりの頭骨と思われる近くの覆土層から出土している。

所見 本跡は、人骨と古銭が出土していることや遺構の形態から土坑墓と考えられる。出土している古銭のうち2点は、「元豊通寶（行書体）」と判読できる。「元豊通寶」は、11世紀後半（1078～1086年）に铸造された北宋銭であることから中世の土坑墓と思われる。当遺跡の中世の遺構である堀や地下式墳の時期は、15世紀～16世紀前半と考えられることから、本跡もこの頃のものと思われる。



第547図 第2号土坑墓・出土遺物実測図

第2号土壌墓出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第547図 1	古 銭	2.4	0.7	0.2	2.8	銅	「元豊通寶」, 初鑄年1078年, 北宋銭	M3148 PL80
2	古 銭	2.5	0.7	0.2	2.8	銅	「元豊通寶」, 初鑄年1078年, 北宋銭	M3149 PL80
3	古 銭	2.4	0.7	0.2	3.1	銅	「通寶」,	M3150

7 道路状遺構

この字状を呈する第1号堀の内側に道路状遺構1条が検出されている。検出された道路状遺構について記載する。

第1号道路状遺構 (第548図・付図)

位置 調査1区の中央部, G4f6~C5a2区。

重複関係 第1号堀の一部が埋まった後, 踏み固められている。

規模と平面形 底面から26~40cmほど埋まった覆土上に, 幅が0.10~1.14m, 長さが34.56mの光沢のある硬化面が検出できた。深さは, 堀の確認面から60~70cmほどである。硬化面の北部は厚さ4~8cm(第1層)であるが, 南部は踏み固めが弱く, 硬化面の幅が狭くなったり途切れたりする。また, 硬化面と堀の覆土境が不明瞭である。

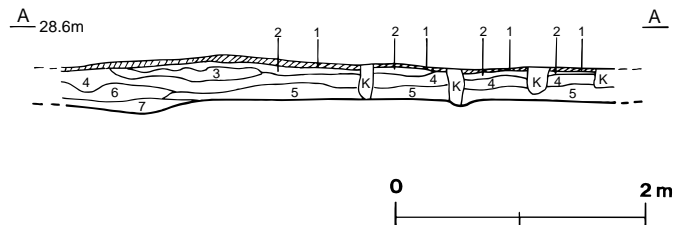
覆土 北東部の硬化面下の土層は, 7層からなる。堀の土層の多くは, レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------------------------------------------|-------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス中ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 | | |
| 5 褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス中ブロック・鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | | |

遺物 出土していない。

所見 本跡は, 北東コーナー方向に続いていたと思われる。第1号堀が底面から26~40cmほど埋まった頃に, 通路として利用されたため硬化したと思われる。時期は, 出土遺物がなく不明であるが, 堀の埋まりが少ないことから, まだ堀が機能していた頃(15世紀代)のものと考えられる。



第548図 第1号道路状遺構実測図

第7節 時期不明の遺構と遺物

1 竪穴住居跡

調査1区及び4・5区から、遺構の重複がなく、遺構にともなう遺物も出土していないため、時期が明らかでない竪穴住居跡が6軒検出された。以下、これらの遺構について記述する。

第4号住居跡 (第549図)

位置 調査1区の西部, B3h0区

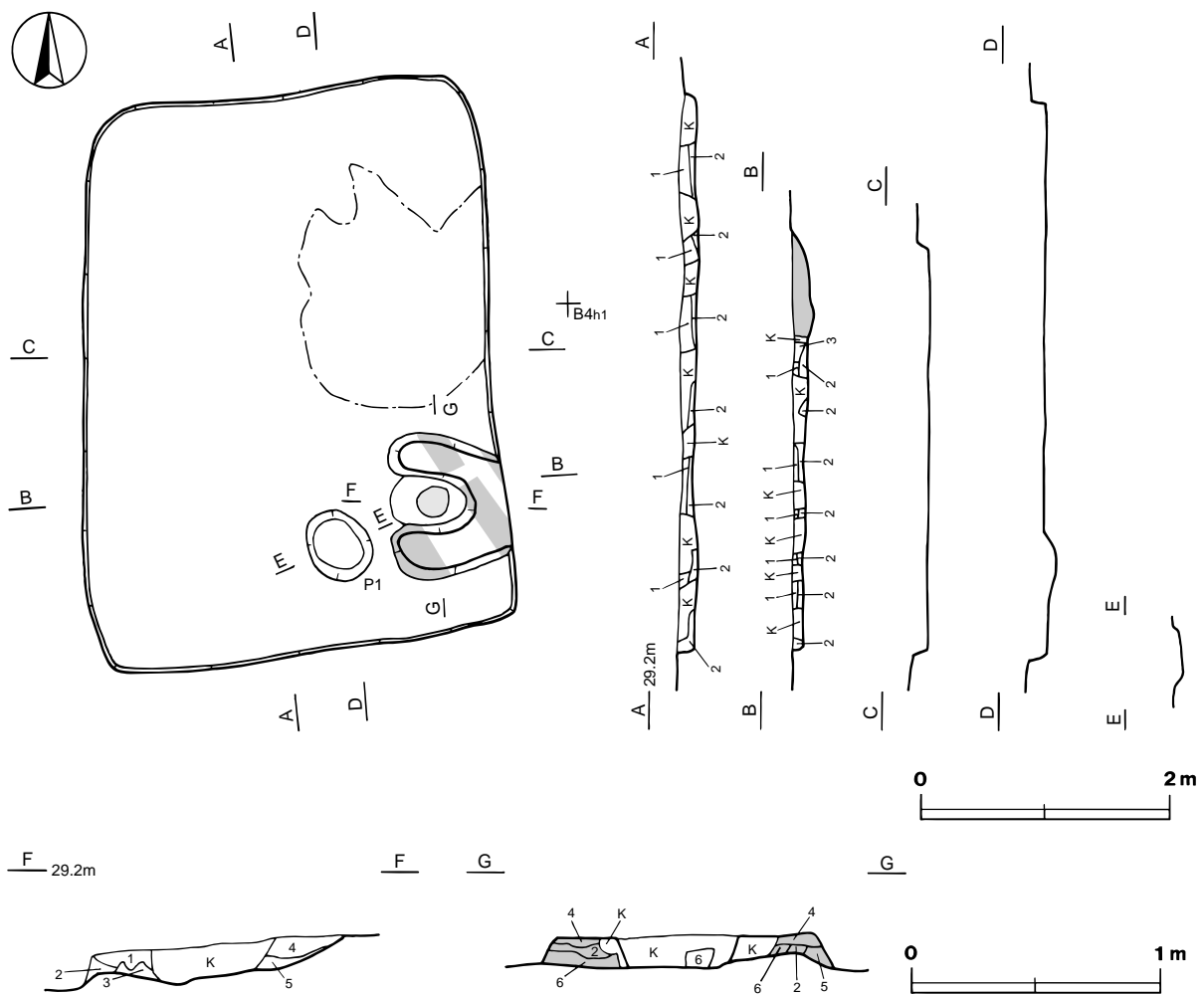
規模と平面形 長軸4.34m, 短軸3.42mの長方形である。

主軸方向 N-96° - E

壁 壁高は10~12cmで, ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦である。耕作機械による攪乱がひどく, 竈左袖部の北側にのみ踏み固められた部分が遺存している。

ピット 1か所。P1は, 南壁寄りの竈近くにあり, 長径60cm, 短径48cmの楕円形, 深さ8cmである。性格は不明である。



第549図 第4号住居跡実測図

竈 東壁の南コーナー寄りに、粘土と少量の砂粒を混ぜて構築されている。壁外への掘り込みは、攪乱により確認できなかった。規模は、確認できた北壁から焚口部まで98cm、最大幅118cmである。火床面は床面と同じレベルの平坦面を使用している。攪乱を免れた袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが、あまり硬化していない。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|------|-------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック微量 | | |
| 4 黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | | |

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------------|--------|----------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 出土量は少なく、竈中及び竈の周りの床面から土師器の細片が6片出土しているだけである。図示できるものはない。

所見 出土土器も少なく、細片であることから、本跡の時期は不明である。

第16号住居跡 (第550図)

位置 調査1区西部, B4j6区。

確認状況 壁や床は残存していないが、炉とピットが確認されたことから住居跡と判断した。

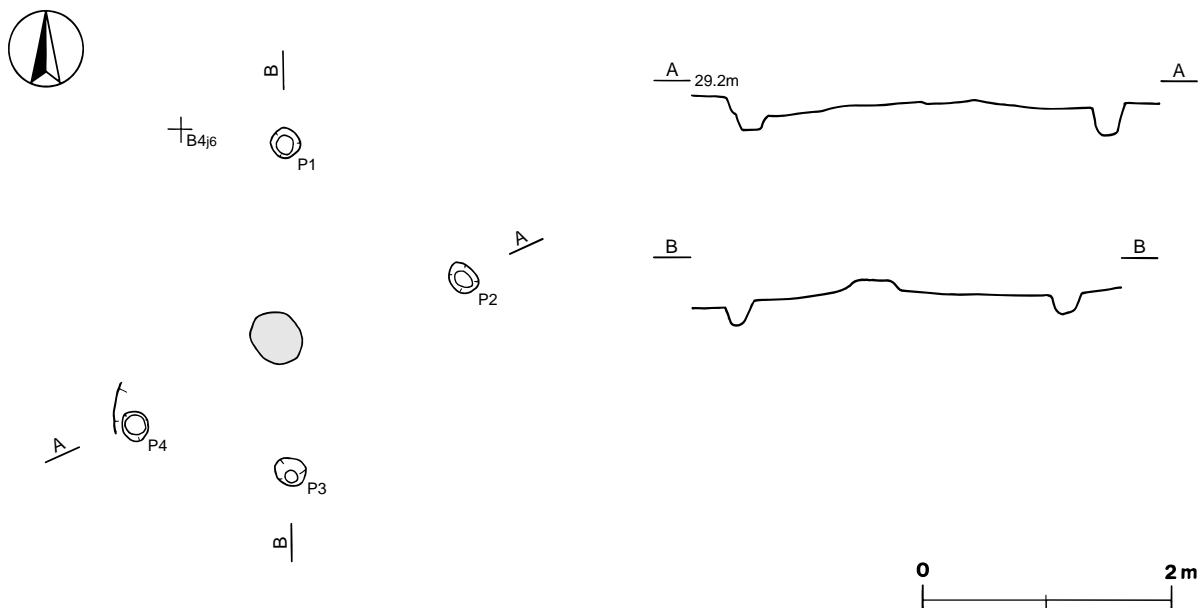
規模と平面形 不明である。

主軸方向 不明である。

壁 確認されなかった。

床 確認されなかった。

ピット 4か所 (P1～P4)。P1は長径24cm, 短径22cmの円形, P2～P4は長径25～26cm, 短径20～22cmの楕円形で、確認面からの深さは14～29cmである。



第550図 第16号住居跡実測図

炉 長径45cm，短径38cmで，ほぼ楕円形を呈する地床炉と考えられる。確認面で炉床が検出された。

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず，時期は不明である。

第22号住居跡（第551図）

位置 調査1区南西部，C4d6区。

確認状況 壁や床は残存していないが，炉とピットが確認されたことから住居跡と判断した。

規模と平面形 不明である。

主軸方向 不明である。

壁 確認されなかった。

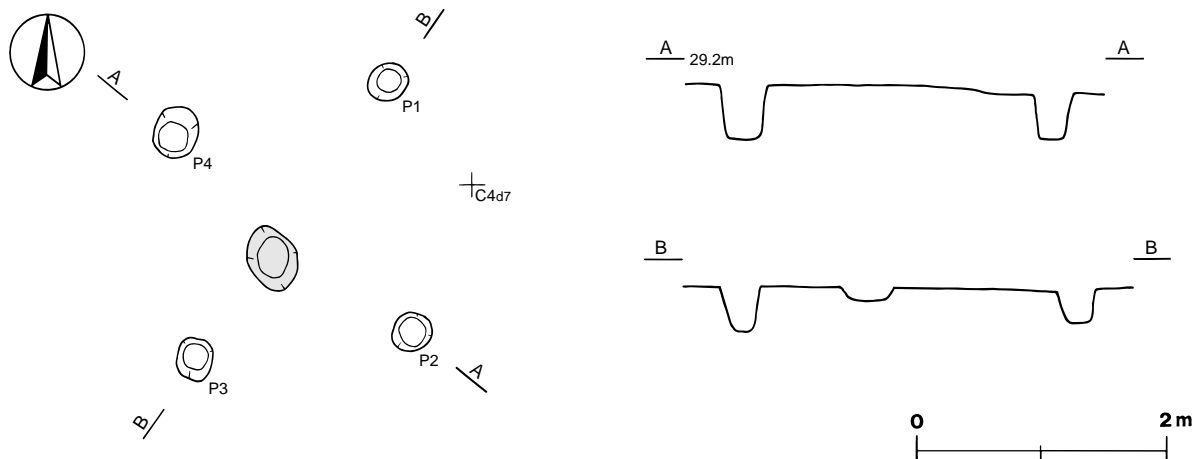
床 確認されなかった。

ピット 4か所（P1～P4）。P1～P3は長径30～32cm，短径31～34cmの円形，P4は長径45cm，短径34cmの楕円形で，確認面からの深さは29～44cmである。

炉 長径54cm，短径39cmで，楕円形を呈する地床炉である。確認面から10cmほど下に炉床が見られる。

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず，時期は不明である。



第551図 第22号住居跡実測図

第29号住居跡（第552図）

位置 調査1区の東部，C6g7区

規模と平面形 床面がほぼ露出した状態で検出され，壁などが検出できなかったが，竈の火床部と出入口ピット等から，長軸2.78m，短軸2.70mの方形と推定される。

主軸方向 [N - 2° - E]

床 ほぼ平坦である。

ピット 3か所（P1～P3）。P1は径26cmほどの円形，深さ31cmで，竈の火床部の南方向に位置することなどから出入口施設に伴うピットと思われる。P2は径24cmほどの円形，深さ36cmである。P3は長径38cm，短径32cmの楕円形，深さ31cmである。両者の性格は不明である。

竈 北側から火床部と思われる赤変下楕円形の皿状のくぼみと，その周りに袖部の痕跡と思われる薄い粘土の

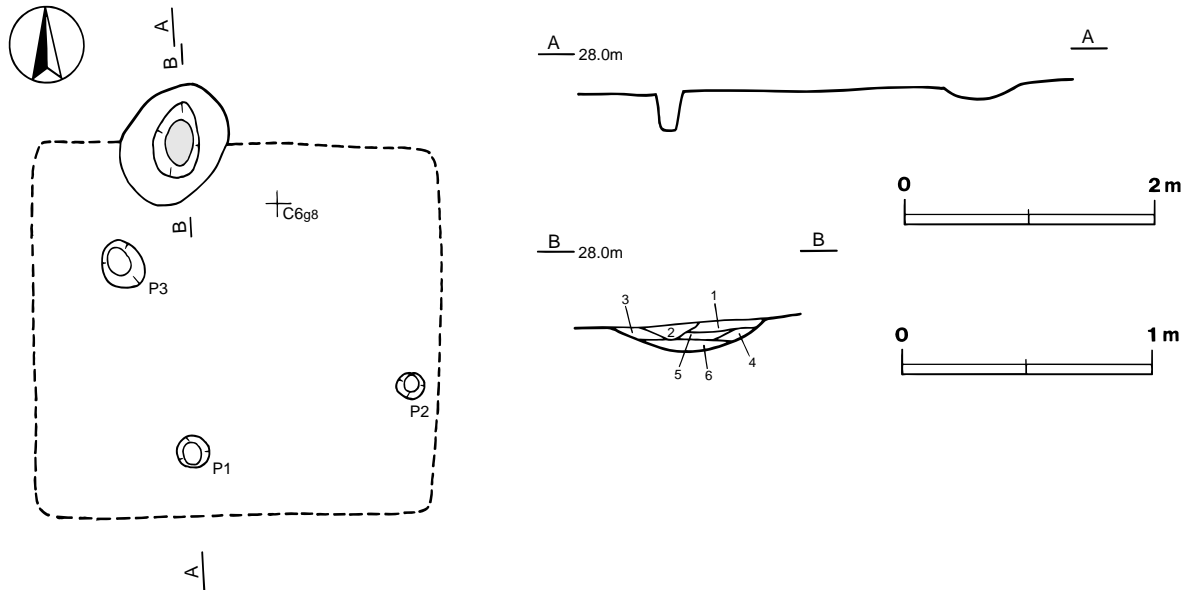
広がりが検出された。

竈火床部土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|----------------------------------|---|------|---------------------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 4 | 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量 | 5 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 6 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

遺物 出土していない。

所見 床面しか残存していなかったため、覆土の堆積状況は不明である。また、出土遺物がないことから時期も不明である。



第552図 第29号住居跡実測図

第90号住居跡 (第553図)

位置 調査4区の西部, G4h1区。

重複関係 第13号溝に掘り込まれており, 第794号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 段差のある斜面部に位置しているため, 南部及び東部は確認できなかった。床面と思われる硬化面が確認できたため, 住居跡の可能性を考えた。硬化面の範囲は南北1.32m, 東西1.20mである。

主軸方向 硬化面だけの検出のため, 不明である。

壁 攪乱及び溝や土坑と重複しているために確認できなかった。

床 検出された部分は, ほぼ平坦で, 踏み固められている。

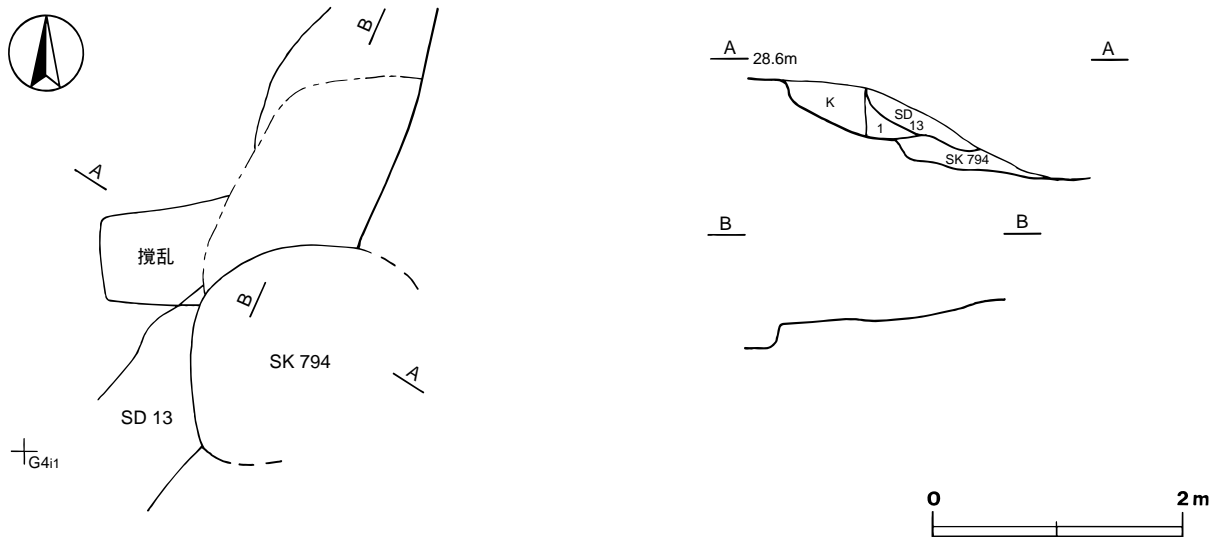
覆土 本跡のものと確認できたのは, 1層だけである。堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス少量

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がなく, また住居跡の形状が不明なため。時期は不明である。



第553図 第90号住居跡実測図

第125号住居跡（第229図）

位置 調査5区の中央部，G6e4区。

重複関係 第124号住居及び第76・87号ピットに掘り込まれ，第883号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 第124号住居跡等に掘り込まれているため，残存状況は悪い。残存する壁の長さは，東西3.57m，南北1.75mである。平面形は不明である。

主軸方向 不明である。

壁 残存する壁高は35～55cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。検出された範囲は，踏み固められている。

遺物 弥生土器や土師器，須恵器の細片が少量出土しているが，抽出・図示できるものはなかった。

所見 弥生時代や奈良・平安時代の土器が混じって出土していることや遺構の形態が不明であることなどから，時期は不明である。

表 11 時期不明住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	重複関係 (旧 新)	発掘番号
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
4	B3h0	N-96°-E	長方形	4.34×3.42	10-12	平坦				1	1		自然	土師器		SI4
16	B4j6	不明	不明	不明						4	1		不明			SI19
22	C4d6	不明	不明	不明						4	1		不明			SI26
29	C6g7	[N-2°-E]	方形	2.78×2.70		平坦			1	2	1		不明			SI29
90	G4h1	不明	長方形	(1.32×1.20)		平坦							不明		本跡 SD13・SK794	SI4010
125	G6e4	不明	不明	(3.57×1.75)	35-55	平坦							不明		SK883 本跡 SI123,P76・87	SI5032

2 掘立柱建物跡

調査2区の北部に，遺物が出土しておらず，時期不明の掘立柱建物跡3棟が検出された。以下，その遺構について解説する。

第51号掘立柱建物跡（第554図）

位置 調査2区の北部，C2e0区。

重複関係 第146号住居跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

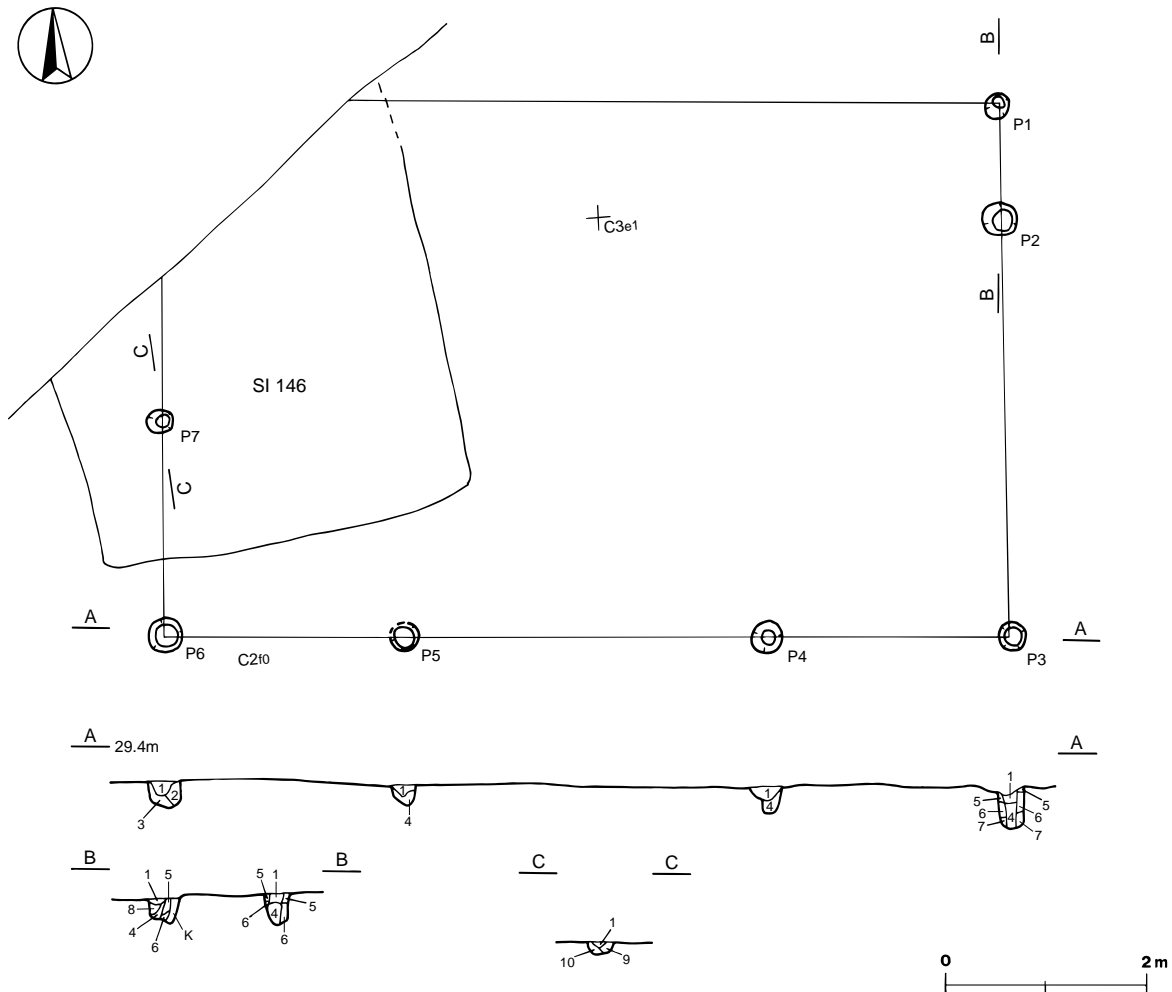
規模 東側柱列の柱穴1ヶ所及び北側柱列は確認されなかったが，検出された柱穴の覆土及び配列から，掘立柱建物跡とした。東西棟で，桁行3間，梁行3間の側柱建物跡と考えられる。桁行は8.44m，梁行は5.30mである。桁行は，P4・P5間が3.50mとほかより広く，それ以外の柱間寸法は，2.45mほどである。また，梁行は，P5・P6間が1.75mとP1・P7間の2.13mより狭くなっている。柱穴は，平面形が長径22~35cm，短径10~24cmの円形及び楕円形で，深さは12~52cmである。

桁行方向 N-86° - W

覆土 第1・4・8層は柱抜き取り後の覆土である。第5~7層は，土層断面図上，柱抜き取り痕をはさんで，ほぼ水平な堆積状況を示す埋土である。その他は不規則な堆積状況を示し中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量， | 7 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック微量 | 8 黒色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |



第554図 第51号掘立柱建物跡実測図

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。

第52号掘立柱建物跡（第555図）

位置 調査2区の北部，C3d2区。

重複関係 第55号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 北側柱列は確認されなかったが、検出された柱穴の覆土及び配列から、掘立柱建物跡とした。南側柱列は2間であり、東側及び西側柱列は1間以上で、側柱建物跡と考えられる。南側柱列が3.15m，西側柱列が1.90m，東側柱列が1.53mである。柱間寸法は南側柱列が1.70・1.81mである。柱穴は、平面形が長径35～42cm，短径30～40cmの楕円形及び円形，深さは36～50cmである。

桁行方向 N-19° - W

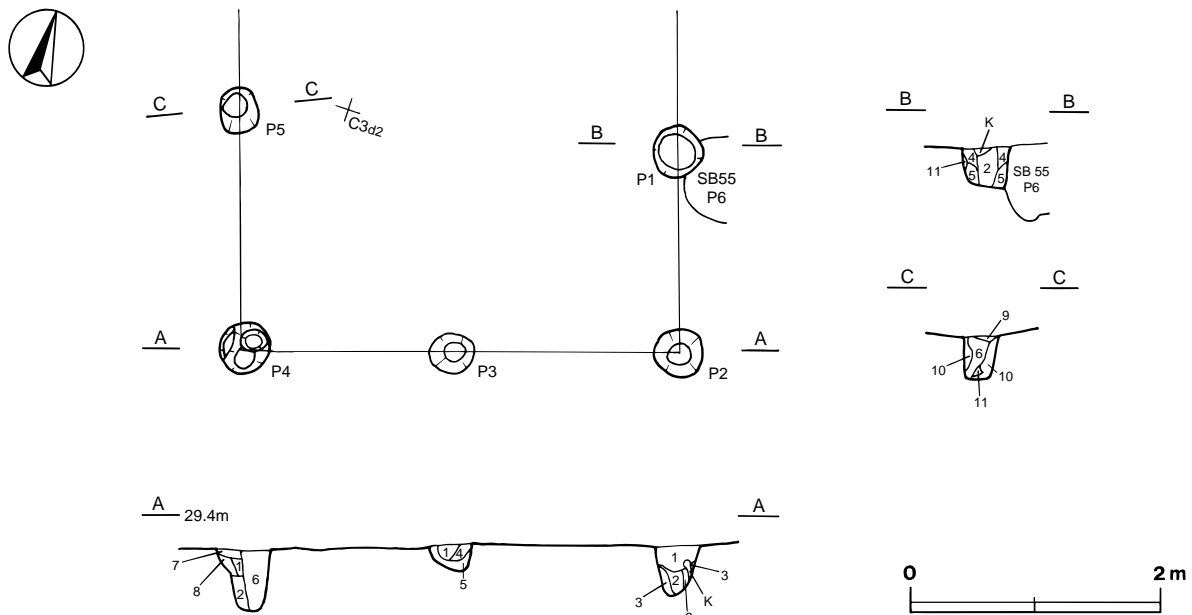
覆土 いずれも不規則な堆積状況を示し、中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|---------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | 10 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 | 11 褐色 | ローム粒子多量，ローム中ブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第555図 第52号掘立柱建物跡実測図

第55号掘立柱建物跡（第556図）

位置 調査2区の北部，C3c3区。

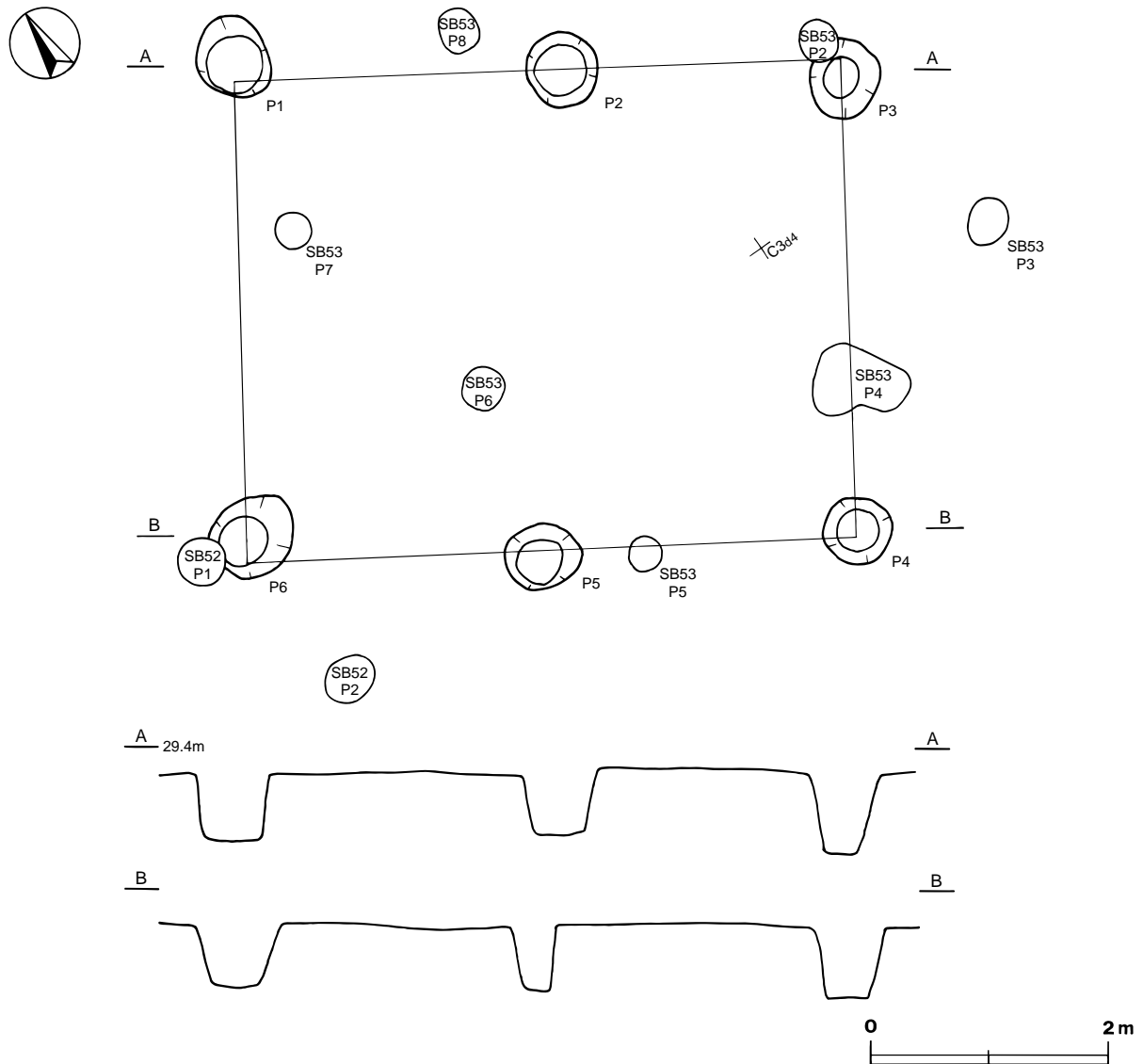
重複関係 第52・53号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行2間，梁行1間で東西棟の側柱建物跡である。桁行5.14m，梁行4.04mである。柱間寸法は桁行が2.40～2.75m，梁行が4.03～4.07mである。柱穴は、平面形が長径59～76cm，短径54～64cmの楕円形及び円形で、深さが48～68cmである。

桁行方向 N - 57° - W

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第556図 第55号掘立柱建物跡実測図

表 12 時期不明掘立柱建物跡一覧表

掘立柱 建物跡 番号	位置	桁行方向	桁×梁 (間)	規模 (m)	構造	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱 穴 (cm)			新 旧 関 係 (旧 新)	発掘番号	
								平 面 形	長径(軸)	短径(軸)			深 さ
51	C2e0	N - 86° - W	3 × (2)	8.44 × (5.30)	東西倒・側柱	2.45	1.75	橢円形・円形	22 - 35	10 - 24	12 - 52	SI146と重複	SB-2001
52	C3d2	N - 19° - W	(1) × 2	4.65 × 3.35	側柱	1.70・1.81	-	橢円形・円形	35 - 42	30 - 40	36 - 50	SB55と重複	SB-2002
55	C3c3	N - 57° - W	2 × 1	5.14 × 4.04	東西棟・側柱	2.40 - 2.75	4.03 - 4.07	橢円形・円形	59 - 76	54 - 64	48 - 68	SB52・53と重複	SB-2005

3 屋外炉

今回の調査で、壁や床、ピットが確認できず、炉のみを検出した遺構11基を屋外炉とした。そのなかで、時期不明の屋外炉8基について記載する。

第9号屋外炉（第557図）

位置 調査2区の北部，D2a7区。

規模と平面形 長径60cm，短径45cmの楕円形で，確認面からの深さは7cmほどでの地床炉ある。

炉壁 底面から緩やかな傾斜をもって立ち上がる。火熱を受けた痕跡は北側から西側の炉壁に顕著で，赤変硬化が認められた。

炉床 皿状である。ロームが凹凸状に硬化しているが，赤変は認められなかった。

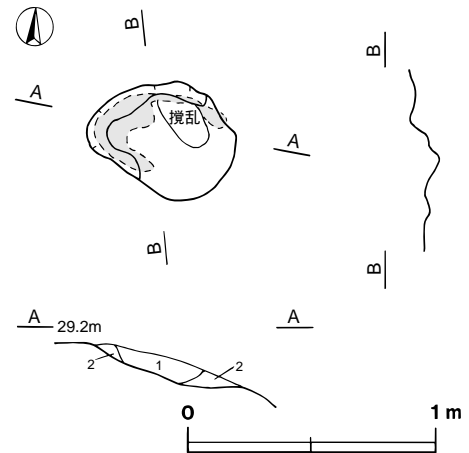
覆土 2層からなる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物 覆土中から縄文土器の細片1点が出土している。

所見 縄文時代の住居の炉跡の可能性も考えられるが，壁，床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で，かつ，覆土中からの出土であるため，時期は不明である。



第557図 第9号屋外炉実測図

第11号屋外炉（第558図）

位置 調査2区の北部，C3f4区。

規模と平面形 径80cmの円形を呈し，確認面からの深さは9cmほどの地床炉である。

炉壁 底面から緩やかな傾斜をもって立ち上がる。南西側が火熱を受けて赤変硬化している。

炉床 皿状である。火熱を受けて赤変硬化している。

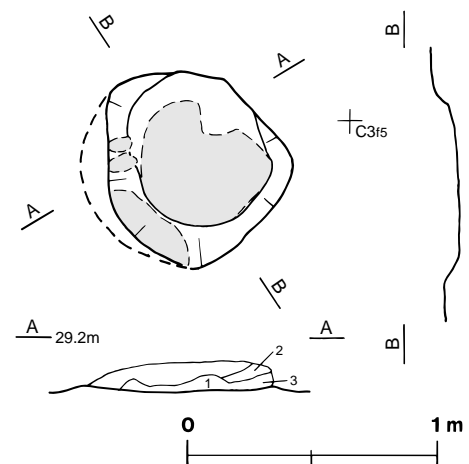
覆土 3層からなる。全体に焼土粒子が含まれ，中程度に締まっている。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物 覆土中から縄文土器の細片19点が出土している。

所見 縄文時代の住居の炉跡の可能性も考えられるが，壁，床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で，かつ，覆土中からの出土であるため，時期は不明である。



第558図 第11号屋外炉実測図

第12号屋外炉（第559図）

位置 調査2区の北部，C3e5区。

規模と平面形 調査の過程で南側を掘り込んでしまったため全容はつかみがたいが，長径102cm，短径80cmの楕円形を呈する地床炉と推定される。確認面からの深さは20～30cmほどである。

主軸方向 N-52°-W

炉床 火熱を受けて凹凸状に赤変硬化している。

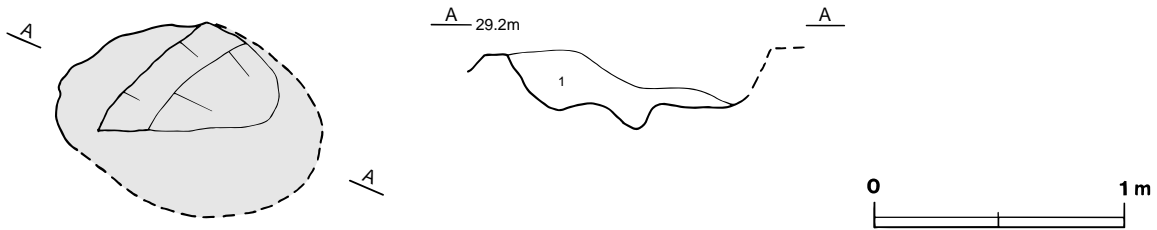
覆土 単一層である。

土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量

遺物 覆土中から縄文土器の細片20点が出土している。

所見 縄文時代の住居の炉跡の可能性も考えられるが, 壁, 床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で, かつ, 覆土中からの出土であるため, 時期は不明である。



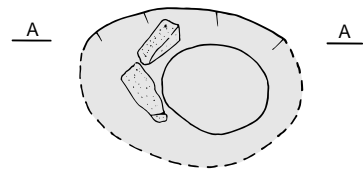
第559図 第12号屋外炉実測図

第13号屋外炉 (第560図)

位置 調査2区の北部, C3j5区。

規模と平面形 長径92cm, 短径64cmの楕円形を呈し, 確認面からの深さは18cmほどの石囲炉と推定される。炉石は, 西側で2点のみ検出され, とともに火熱を受けた痕跡が認められた。

主軸方向 N-58°-E

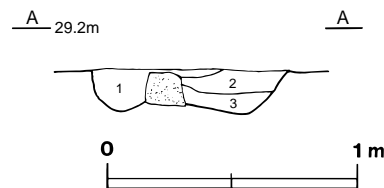


炉床 凹凸状に赤変硬化している。

覆土 3層からなる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



遺物 覆土中から縄文土器の細片10点, 炉石2点が出土している。

所見 特に石囲炉であるということから, 縄文時代の住居跡の可能性も考えられるが, 壁, 床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で, かつ, 覆土中からの出土であるため, 時期は不明である。

第560図 第13号屋外炉実測図

第14号屋外炉 (第561図)

位置 調査2区の中央部, E3d4区。

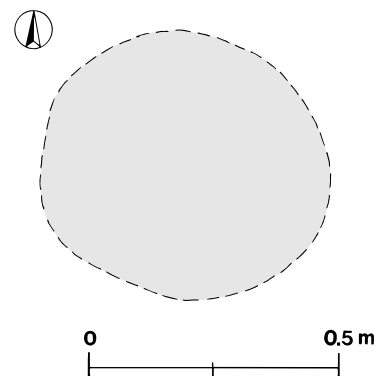
規模と平面形 確認面が炉床であり, 全容は不明であるが, 残存する焼土範囲から, 長径59cm, 短径51cmの楕円形と推定される。

主軸方向 N-58°-W

炉床 攪乱により残存状況はよくないが、火熱を受け凹凸状に赤変硬化している部分が一部認められた。

遺物 出土していない。

所見 住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第561図 第14号屋外炉実測図

第15号屋外炉 (第562図)

位置 調査2区の中央部, E3c5区。

重複関係 第25号溝に掘り込まれている。

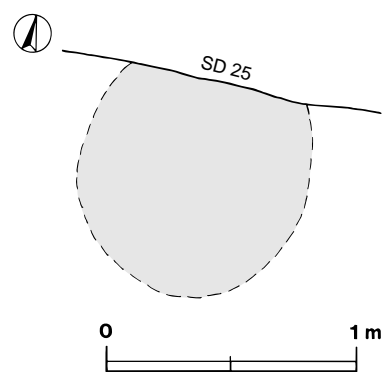
規模と平面形 確認面が炉床であり、また、第25号溝に掘り込まれているため、全容はつかみがたいが、残存する焼土範囲から、長径111cm、短径91cmの楕円形と推定される。

主軸方向 N-18°-E

炉床 わずかに赤変硬化している。

遺物 出土していない。

所見 住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第562図 第15号屋外炉実測図

第16号屋外炉 (第563図)

位置 調査2区の北部, C3e6区。

規模と平面形 長径88cm、短径58cmの楕円形で、確認面からの深さは23cmほどの地床炉ある。

主軸方向 N-12°-E

炉壁 西壁が緩やかに、東壁が外傾して立ち上がる。火熱を受け赤変硬化している。

炉床 火熱を受け赤変硬化している。

覆土 2層からなる。

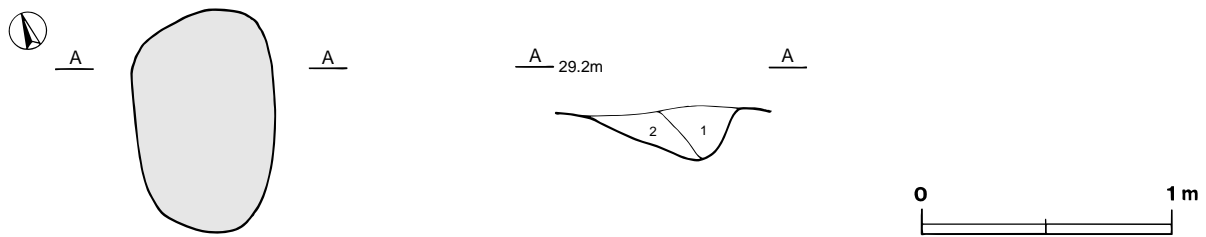
土層解説

1 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量

2 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム粒子微量

遺物 出土していない。

所見 住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第563図 第16号屋外炉実測図

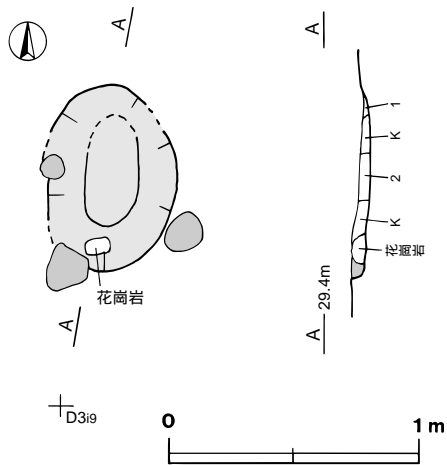
第18号屋外炉 (第564図)

位置 調査2区の中央部, D3h9区。

確認状況 確認面において, 楕円形の焼土の広がり白色粘土ブロックが認められた。

規模と平面形 長径75cm, 短径55cmの楕円形で, 確認面からの深さは8cmほどである。

主軸方向 N - 6° - E



第564図 第18号屋外炉実測図

炉壁 底面から緩やかな傾斜を持って立ち上がる。火熱を受け赤変している。南壁付近からもろくなった花崗岩及び白色粘土塊が確認されたが, 攪乱が激しいため本跡に伴うかどうかは不明である。

炉床 皿状である。火熱を受け凹凸状に硬化している。

覆土 2層からなる。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量, 焼土小ブロック微量

遺物 覆土中から縄文土器の細片6点, 花崗岩1点が出土している。

所見 縄文時代の住居の炉跡の可能性も考えられるが, 壁, 床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で, かつ, 覆土中からの出土であるため, 時期は不明である。

表 13 時期不明屋外炉一覧表

遺構番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		出土遺物	重複関係 (旧 新)	備考 (旧番号)
				長径×短径(m)	深さ(cm)			
9	D2a7	N - 82° - W	楕円形	60 × 45	7	縄文土器片		屋外炉 2
11	C3f4		円形	80	9	縄文土器片		屋外炉 4
12	C3e5	[N - 52° - W]	[楕円形]	[102 × 80]	20~30	縄文土器片		屋外炉 5
13	C3j4	[N - 58° - E]	[楕円形]	[92 × 64]	18	縄文土器片, 炉石		屋外炉 6
14	E3d4	[N - 58° - W]	[楕円形]	[59 × 51]				屋外炉 7
15	E3c5	[N - 18° - E]	[楕円形]	[111 × 91]			本跡 SD25	屋外炉 8
16	C3e6	N - 12° - E	楕円形	88 × 58	23			
18	D3h9	N - 6° - W	楕円形	75 × 55	8	縄文土器片, 花崗岩		SI2108

4 火葬土坑

2区及び1・5区の斜面部に, 焼けた骨片及び炭化物を伴う平面形が長方形や眼鏡状の遺構が5基検出された。それらを火葬土坑とし, 以下遺構と遺物について記載する。

第1号火葬土坑（第565図）

位置 調査1区の南東部，C5e9区。

規模と平面形 全長1.60mで，平面形は眼鏡状である。燃焼部は長径0.70m，短径0.65mの円形，焚口部は，長径1.06m，短径0.82mの楕円形である。焚口部と燃焼部の間に，長さ20cm，上幅18cm，下幅10cm，深さ15～23cmで，燃焼部方向に傾斜する溝が入る。

長軸方向 N-21°-W

壁 燃焼部の壁高は10cm，焚口部の壁高は20cmほどで，ともに外傾して立ち上がる。

底 小さな凹凸はあるが，ほぼ平坦である。

ピット 1か所。P1は，長径25cm，短径20cmの楕円形，深さ25cmで，燃焼部の西側に位置する。対になると思われるが，攪乱が多いために東側では確認できなかった。

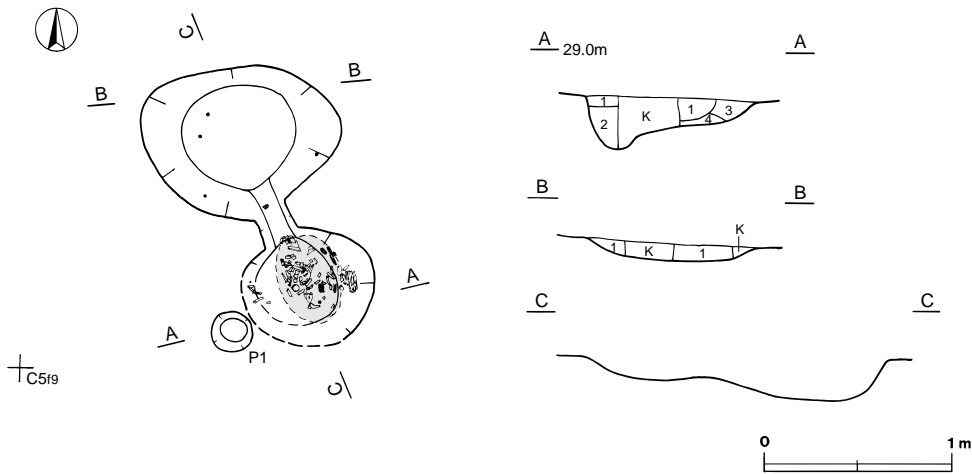
覆土 4層からなる。含有物が類似していることやブロック状に堆積していることから，人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化材・炭化物少量，焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・骨片少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量 | | |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・骨片微量 | | |

遺物 最大で3～4cmほどの焼けた骨片と骨粉が出土している。

所見 本跡は，焼けた骨片や炭化物等が出土したことから火葬土坑と思われる。焚口部と燃焼部を結ぶ溝は，燃焼部に空気を入れる通気溝と考えられる。また，ピットは，火葬にする時に遺骸を支えるための支柱の穴と思われる。時期を特定できる遺物等が出土していないことから，時期は不明である。



第565図 第1号火葬土坑実測図



第566図 第2号火葬土坑実測図

第2号火葬土坑（第566図）

位置 調査1区の南東部，C5f5区。

規模と平面形 確認面に焼けた骨片及び骨粉が検出された。掘り込みは確認されなかったことから，骨片のある面が底面と思われる。規模及び平面形は不明であるが，骨片及び骨粉は，南北約1.11m，東西約0.57m長方形の広がりを持っている。

長軸方向 骨片及び骨粉の広がり方向は，N-5°-Wである。

壁 なし。

底 あまり締まりがなく，赤化した場所もなかった。南方向に緩やかな傾斜をもつ。

覆土 なし。

遺物 焼けた骨片及び骨粉が出土している。

所見 骨片が焼けていることや大きな骨がないこと、同じ斜面で、南東に約17m離れて第3号火葬土坑が存在することなどから、地形（斜面部）を利用し、遺骸を火葬にした施設と思われる。時期は、特定できるような遺物が出土していないので不明である。

第3号火葬土坑（第567図）

位置 調査1区の南東部、C5h8区。

規模と平面形 全長（東西）1.82mで、平面形は、眼鏡状である。燃焼部は、長径0.65m、短径0.55mの楕円形、焚口部は長径1.15m、短径0.65mの楕円形である。燃焼部と焚口部の間に、長さ50cm、上幅25～28cm、下幅13cmほど、深さ13～25cmの溝が入る。

長軸方向 N-83° - W

壁 燃焼部の壁高は10cm、焚口部の壁高は20cm、ともに外傾して立ち上がる。

底 耕作による攪乱がひどく、遺存している部分は少ないが、ほぼ平坦である。東側土坑に径0.40cmの円形、深さ10cmほどのピットを持つ。西側の底面は、少し赤味を帯びている。

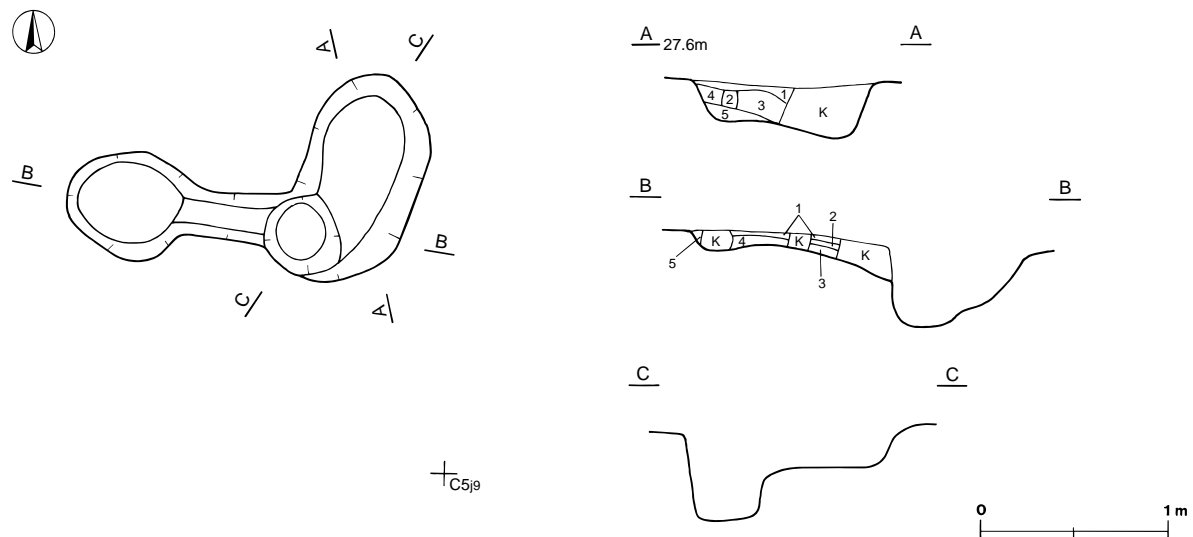
覆土 7層からなる。ブロック状に堆積していること、焼けた骨片や炭化物が含まれることなどから人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 3 黒色 | 炭化粒子多量，炭化物中量，骨片・骨粉微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 黒色 | 炭化粒子中量，ローム粒子・炭化物微量 |
| | | 5 黒色 | ローム粒子・炭化粒子少量，炭化物微量 |

遺物 焼けた骨片と骨粉が、出土している。

所見 燃焼部の底面に火熱による赤化した部分があることや焼けている骨片及び骨粉が出土していることなどから、地形（斜面部）を利用した火葬土坑と考えられる。時期は、特定できような遺物が出土していないことから不明である。



第567図 第3号火葬土坑実測図

第4号火葬土坑（第568図）

位置 調査5区の南東部、H7a1区。

規模と平面形 長軸2.20m、短軸0.95mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-53°-W

壁 壁高は19cmほどで、外傾して立ち上がる。南コーナー壁及び北東壁の南側が、火熱により赤化している。

底 南東方向に緩やかな傾斜を持つ。

ピット 2か所（P1・P2）。P1は長径20cm、短径17cmの楕円形、深さ8cmで、壁は北方向にオーバーハングする。P2は径22cmの円形、深さ9cmで、壁は南方向にオーバーハングする。

P1・P2土層解説

1 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

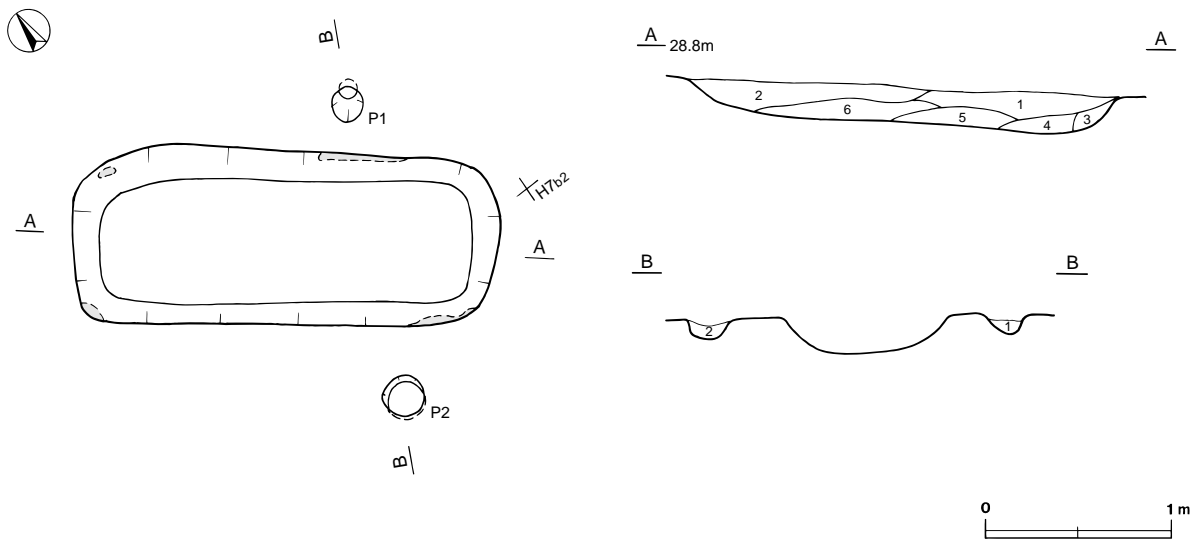
覆土 6層からなる。含有物に焼土粒子や炭化粒子等が混じることや、ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・炭化物中量 | 5 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、炭化物少量 | |
| 4 黒色 炭化物・炭化粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子少量 | |

遺物 覆土から土師器片1点、須恵器片4点、覆土及び底面から焼けた骨片及び骨粉が出土している。土器片は、細片のため抽出・図示できなかった。

所見 骨片や南側の壁が焼けていることや炭化物類が多く出土していることから、遺骸を火葬にした施設と思われる。ピットは、オーバーハングしているので、支柱を差し込んだものと思われる。覆土から出土した土器は、平安時代のもと思われるが、斜面部に位置することから、本跡が埋まりきらない窪地の状態時に流れ込んだものとも考えられるので、時期は不明である。



第568図 第4号火葬土坑実測図

第5号火葬土坑（第569図）

位置 調査2区の中央部、E4c5区。

重複関係 第26号溝を掘り込んでいる。

規模と平面形 燃焼部は長径1.25m、短径0.56mの長楕円形で、その中央部西側に長軸0.32m、短軸0.13mの半円形状の焚口部を有している。燃焼部中央に通気溝と考えられる溝が入っている。通気溝は長さ0.69m、幅0.29mである。

長軸方向 N-24° - W

壁 燃焼部は深さ29cm、焚口部は深さ21cmで、ともに外傾して立ち上がる。通気溝は深さ35cm、断面形はU字状である。

底 凹凸である。

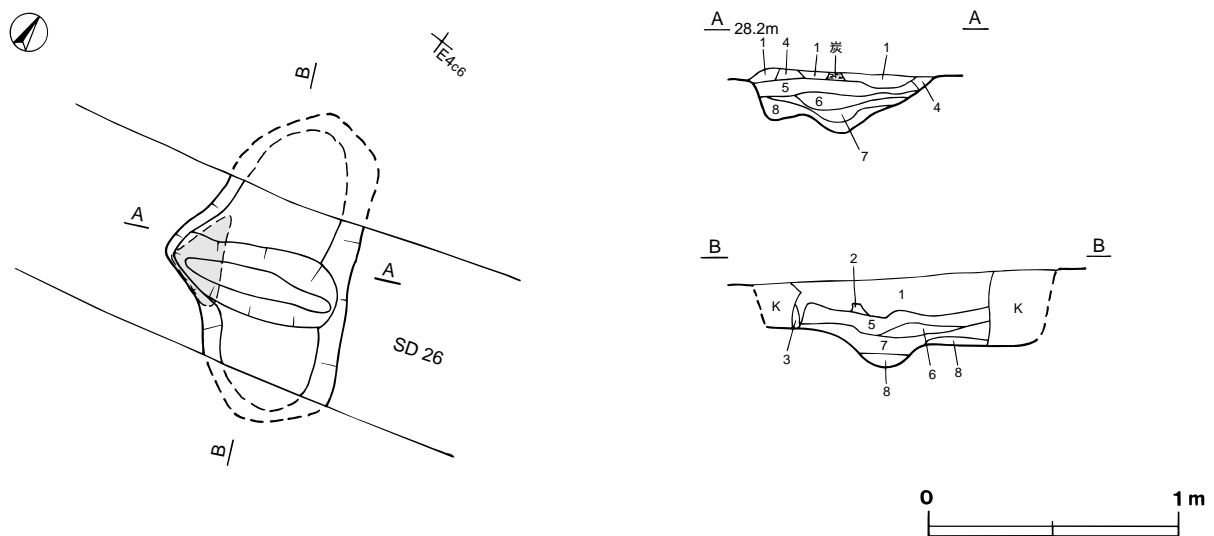
覆土 8層からなる。焼土や炭化物が混じってブロック状に堆積していることから、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------------------|--------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化物・炭化粒子少量、焼土粒子・炭化材微量 | 6 黒褐色 | 炭化物・炭化粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・骨片少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物・炭化粒子多量、焼土粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 炭化物・炭化粒子多量、焼土粒子中量、骨片微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量 | | |
| 5 黒褐色 | 炭化物・炭化粒子多量、焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材少量 | | |

遺物 最大で5cmほどの骨片と骨粉が出土している。

所見 本跡は、骨片や焼土・炭化物等が出土したことから火葬土坑と思われる。時期は、特定できる遺物等が出土していないことから不明である。



第569図 第5号火葬土坑実測図

表 14 火葬土坑一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規 模 (cm)											底面	覆土	出土遺物	重複関係 (旧 新)	発掘番号
				燃 焼 部			通 気 溝					焚 口 部							
				長軸×短軸	深さ	壁面	長さ	上幅	下幅	深さ	壁面	長軸×短軸	深さ	壁面					
1	C5e9	N-21°W	眼鏡状	70×65	10	外傾	20	18	10	15~23	外傾	106×82	20	外傾	平坦	人為	骨片, 骨粉		SK568
2	C5f5	N-5°W	不明	(110×57)											平坦	不明	骨片, 骨粉		SK603
3	C5h8	N-83°W	眼鏡状	65×55	10	外傾	50	25~28	13	13~25	外傾	115×65	20	外傾	平坦	人為	骨片, 骨粉		SK731
4	H7a1	N-53°W	隅丸長方形	220×95	19	外傾									平坦	人為	土師器, 須恵器, 骨片, 骨粉		SK5063
5	E4c5	N-24°W	T字状	125×56	29	外傾	69	29		21	外傾				凹凸	人為	骨片, 骨粉	SD26 本跡	SK20261

5 井戸跡

1区から8基、2区から5基の井戸跡が検出されたが、遺構の形態が違うもの、または遺物が出土していないか、遺構に伴うと思われる遺物が出土していない6基を時期不明とした。その遺構について記載する。

第7号井戸跡 (第570図)

位置 調査1区の南東部, D6b9区。

規模と平面形 長径1.42m, 短径1.37mのほぼ円形, 確認面から深さ1.62mの底面は, 長径1.33m, 短径1.08mの楕円形で, 断面形は円筒状である。底面中央部に, 平面形が長軸0.90m, 短軸0.70mの隅丸長方形, 深さ0.46mで, 断面形がU字状の掘り込みを持つ。

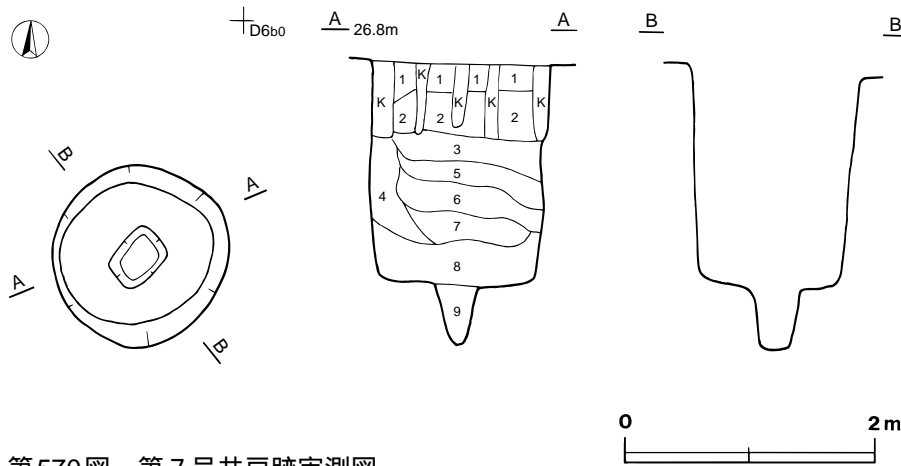
覆土 9層からなる。含有物が類似していることなどから人為堆積である。

土層解説

1	褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子微量	6	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土中ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム中ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
2	黄褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック少量, ローム中ブロック・鹿沼パミス中ブロック・白色粘土小ブロック微量	7	褐色	ローム小ブロック・粘土中ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 鹿沼パミス小ブロック微量
3	褐色	粘土中ブロック・粘土粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量	8	褐色	ローム小ブロック中量, 砂粒少量, ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子微量
4	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 粘土粒子・砂粒微量	9	にぶい黄褐色	砂粒中量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
5	褐色	粘土中ブロック・砂質粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 鹿沼パミス粒子微量			

遺物 出土していない。

所見 底面は, 灰色の砂質で湿り気を持っている。コの字状の堀の内側にあることから中世のものと考えられるが, 中央部に窪みを持つ同様の遺構の形態が他にないことなどから, 時期は不明である。



第570図 第7号井戸跡実測図

第9号井戸跡 (第571図)

位置 調査2区の北部, C2e5区。

規模と平面形 長径1.94m, 短径1.82mの円形である。断面の形状は, 漏斗状であるが, 崩落の危険があるために確認面から2.06mまでしか掘り下げられなかった。

覆土 12層からなり, ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

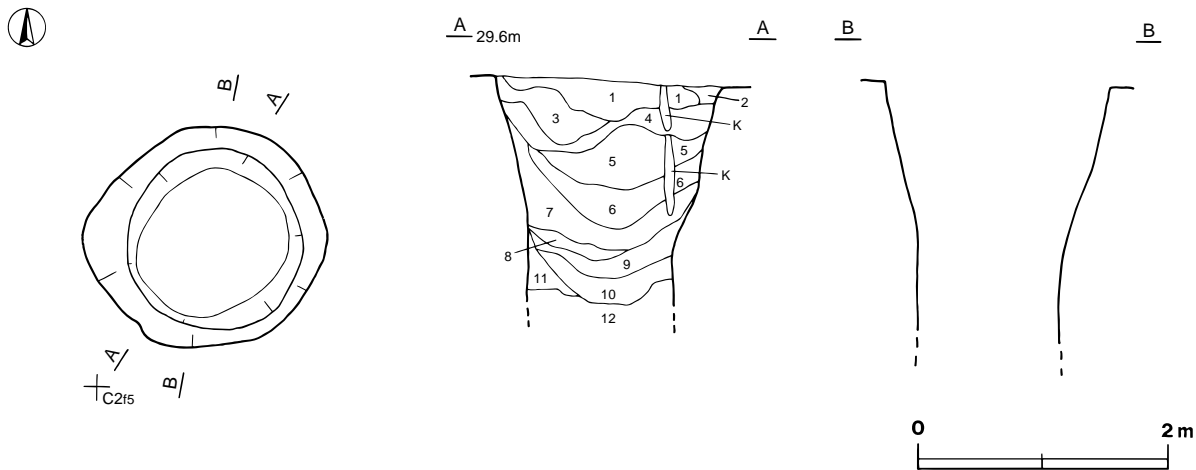
土層解説

1	褐色	ローム小ブロック多量, ローム大ブロック中量, 鹿沼パミス小ブロック少量	3	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
2	黒褐色	ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量	4	黒色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量
			5	黒色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
			6	暗褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック中量

- | | | | |
|------|------------------------|--------|------------------|
| 7 褐色 | ローム中ブロック多量, ローム大ブロック中量 | 10 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子多量 |
| 8 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 | 11 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 9 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量 |

遺物 出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから、中世の可能性も考えられるが、遺物が出土していないため、時期は不明である。



第571図 第9号井戸跡実測図

第10号井戸跡 (第572図)

位置 調査2区の北部, C3i3区。

規模と平面形 長径0.94m, 短径0.86mの円形である。断面形の形状は、漏斗状である。崩落の危険のために確認面から1.38mまでしか掘り下げられなかった。

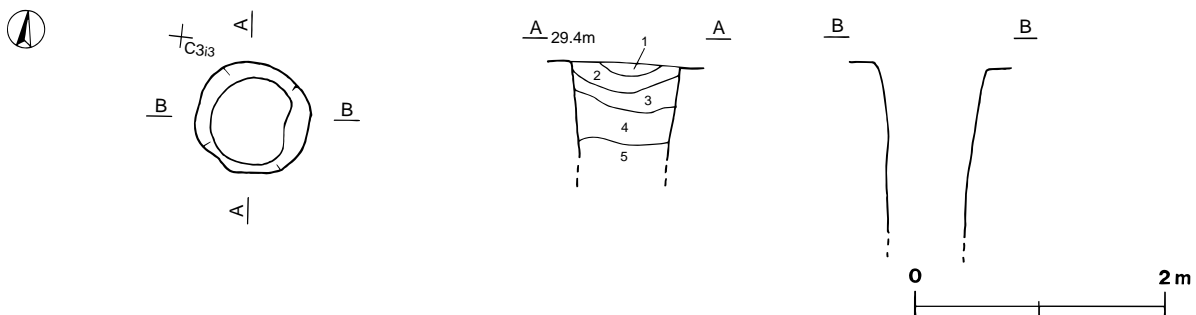
覆土 5層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------------|------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 鹿沼パミス粒子微量 | 4 黒色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | 5 黒色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子少量 | | |

遺物 出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから、中世の可能性も考えられるが、遺物が出土していないため、時期は不明である。



第572図 第10号井戸跡実測図

第11号井戸跡 (第573図)

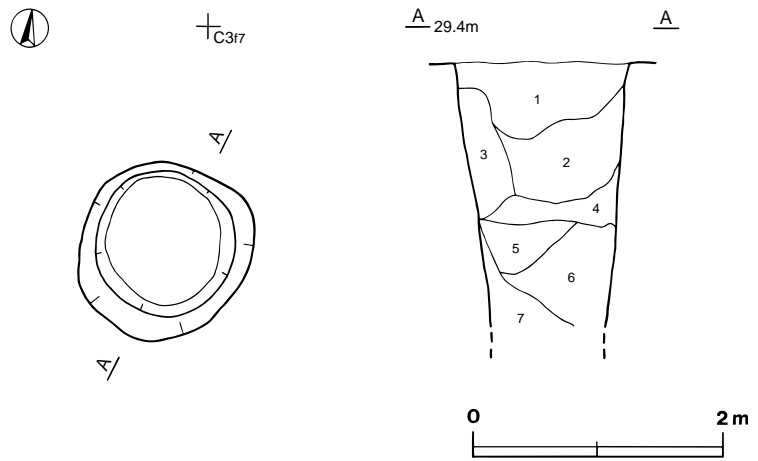
位置 調査2区の北部, C3f6区。

規模と平面形 長径1.48m, 短径1.36mの円形である。円筒状に掘り込まれている。崩落の危険のために確認面から2.10mまでしか掘り下げられなかった。

覆土 7層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子・砂質粘土粒子・鹿沼パミス粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
- 5 黒色 ローム粒子微量
- 6 黒色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 7 黒色 ローム小ブロック・粘土小ブロック微量



第573図 第11号井戸跡実測図

遺物 縄文土器片31点, 土師器片・須恵器片各1点が覆土中から出土している。いずれも流れ込みと考えられ, 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから, 中世の可能性も考えられるが, 伴う遺物が出土していないため, 時期は不明である。

第12号井戸跡 (第574図)

位置 調査2区の南部, F3e6区。

規模と平面形 長径2.32m, 短径2.00mの楕円形である。断面形の形状は, 漏斗状である。崩落の危険のために確認面から1.42mまでしか掘り下げられなかった。

長径方向 N-7°-E

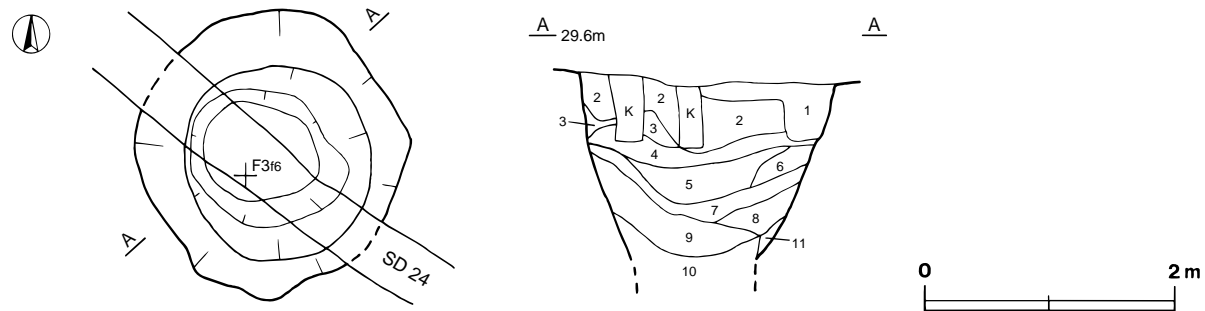
覆土 11層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 鹿沼パミス粒子少量

遺物 縄文土器片136点, 土師器片1点, 須恵器片7点が覆土中から出土している。いずれも流れ込みと考えられ, 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから, 中世の可能性も考えられるが, 伴う遺物が出土していないため, 時期は不明である。



第574図 第12号井戸跡実測図

第13号井戸跡 (第575図)

位置 調査2区の中央部, E3c3区。

規模と平面形 長径2.10m, 短径1.95mの円形である。断面形の形状は、漏斗状である。崩落の危険のために確認面から1.85mまでしか掘り下げられなかった。

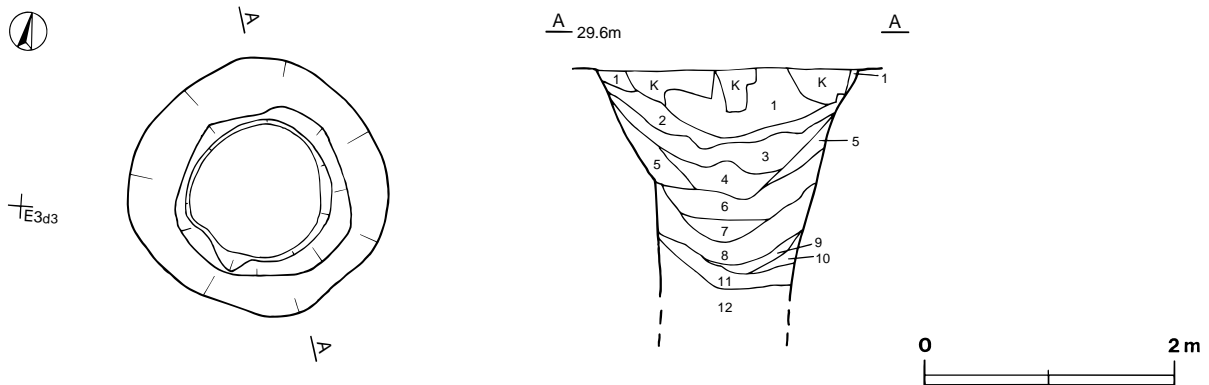
覆土 12層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------------------|--------|----------------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 鹿沼パミス粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 鹿沼パミス粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 | 11 黒褐色 | ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, 鹿沼パミス粒子・礫少量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・礫微量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック多量, 鹿沼パミス粒子少量, ローム大ブロック・鹿沼パミス中ブロック微量 |

遺物 縄文土器片118点, 土師器片15点, 須恵器片16点が覆土中から出土している。いずれも流れ込みと考えられ, 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから, 中世の可能性も考えられるが, 伴う遺物が出土していないため, 時期は不明である。



第575図 第13号井戸跡実測図

表 15 時期不明井戸跡一覧表

遺構番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		断面形	覆土	出土遺物	重複関係 (旧 新)	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
7	D 6 b9		円形	1.42×1.37	1.62	逆台形状	人為			SK556
9	C 2 e5		円形	1.94×1.98	(2.06)	漏斗状	人為			SE2001
10	C 3 i2		円形	0.94×0.86	(1.38)	漏斗状	人為			SE2002
11	C 3 f6		円形	1.48×1.36	(2.10)	円筒形状	人為	縄文土器・土師器・須恵器		SE2003
12	F 3 e6	N-7°-E	楕円形	2.32×2.00	(1.42)	漏斗状	人為	縄文土器・土師器・須恵器		SE2004
13	E 3 c3		円形	2.10×1.95	(1.85)	漏斗状	人為	縄文土器・土師器・須恵器		SE2005

6 溝

調査1区から10条, 2区から5条, 3区から2条, 4区から4条, 5区から5条の計26条の溝が確認された。第1・5・13・19号溝などのように最近の地籍図の筆境と位置がほぼ一致し, 土地の区画・根切り等に利用されたものと考えられるものもある。しかし, 多くは時期を特定できる出土遺物が少ないために性格や時期は不明である。ここでは11条の溝について記述し, その他は一覧表に記載する。

第8号溝（第576図・付図）

位置 調査1区南部，C5g1～C5j3区。

重複関係 第9号溝と重複しているが，耕作による攪乱のため新旧関係は不明である。

形状と規模 斜面部に位置するために南部は検出できなかった。検出できた長さは14.52m，上幅1.08～1.24cm，下幅0.24～0.54cm，深さ17～28cmである。断面形はゆるやかなU字形である。

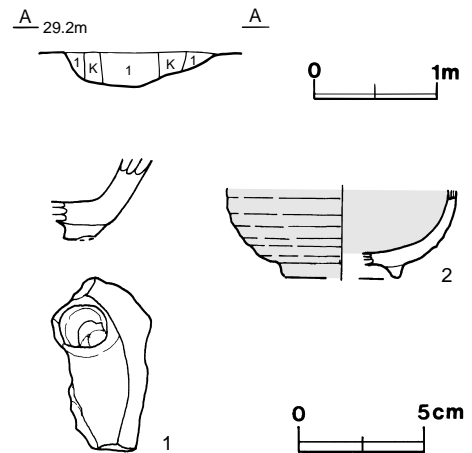
方向 南部は検出できなかったが，南方向（N-151° - E）に直線的に延びると思われる。

覆土 単一層である。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

土層解説（SPA-A'）4区

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物 瓦質土器1点，土師質土器片1点，陶器片6点が出土している。うち瓦質土器1点，陶器1点を抽出・図示した。1の瓦質土器香炉と2の陶器碗は，ともに覆土中から出土している。



第576図 第8号溝・出土遺物実測図

第8号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第576図 1	香炉 瓦質土器	B (3.2) E 0.7	底部から体部にかけての破片。平底。断面が逆台形の支脚が付く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。支脚貼り付け。	礫・長石・雲母 灰色 普通	P 3936 10%
2	碗 陶器	B (3.5) D [4.6] E 0.6	底部から体部にかけての破片。平底。断面逆台形の高台が付く。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面・外面口クロナデ。底部調整不明。内面灰釉，外面鉄釉施釉。	長石 内：灰白色，外：黒褐色，良好	P 3937 5% 瀬戸・美濃系

所見 中世（瓦質土器香炉）や近世（瀬戸・美濃系陶器）と時期幅がある遺物が出土していること，本跡南部が検出されていないことなどから，時期及び性格は不明である。

第9号溝（第577図・付図）

位置 調査1区の南部，C4g7～C5j2区。

重複関係 第36・46号住居跡を掘り込んでいる。第8号溝と重複しているが，耕作による攪乱のため新旧関係は不明である。

形状と規模 平面形は南を向くU字状で，南北方向に走る東側は斜面部のために南部は検出できなかったが，東西とも調査区域外に延びると思われる。検出できた長さは61.96m，上幅0.60～1.45cm，下幅0.10～0.60cm，深さ35～66cmである。断面形はU字状ないし箱葉研状である。

方向 1区南部から北西方向（N-37° - W）に向かい，C4e9区で北東方向（N-24° - E）に屈曲する。さらに，C4e9区で南東方向（N-124° - E）に屈曲する。

覆土 2～3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説（SPA-A'）4区

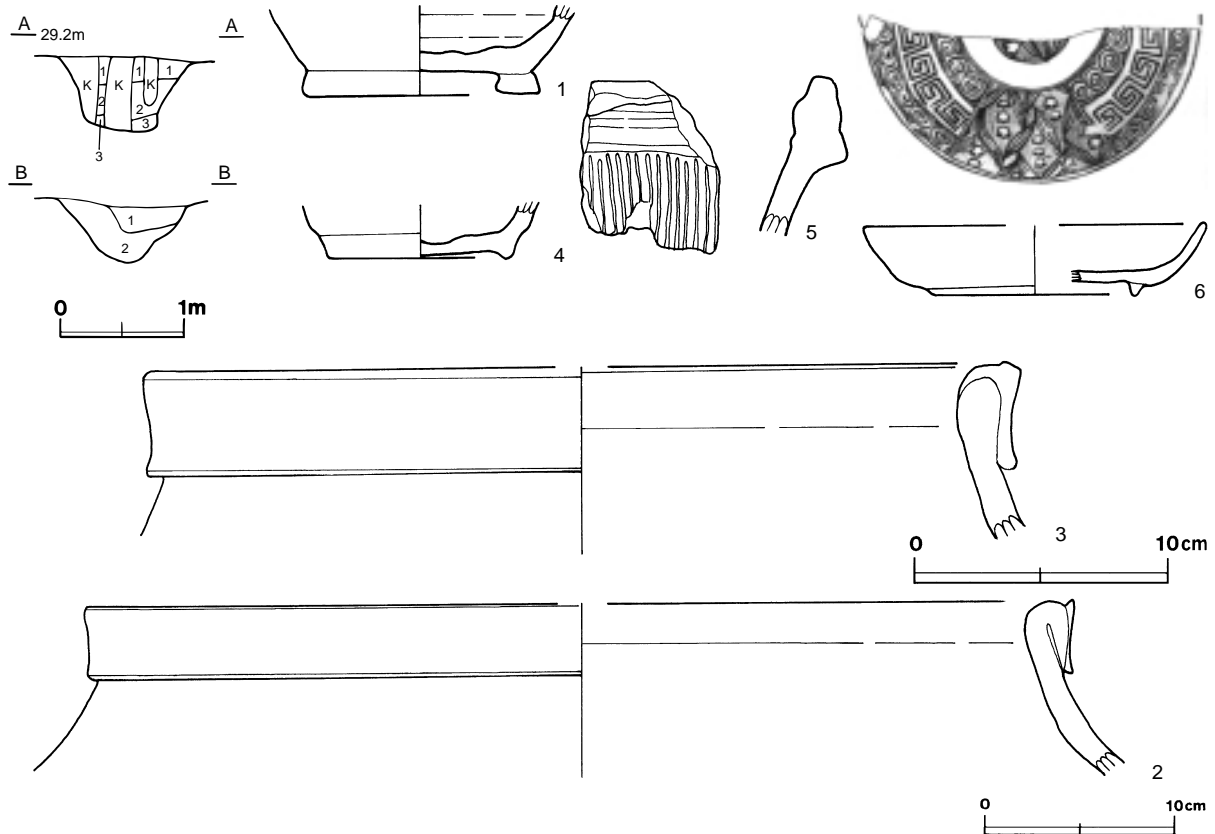
1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック 微量
2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
3 極暗褐色 ローム粒子中量，鹿沼バミス粒子微量

土層解説（SPB-B'）2区南側

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
2 黒褐色 ローム中ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物 灰釉陶器1点，土師質土器18点，陶磁器23点が出土している。うち灰釉陶器1点，陶器4点，磁器1点を抽出・図示した。1の灰釉陶器壺片，2～6の陶磁器片は，覆土中から出土している。

所見 古代から近現代までの時期幅がある遺物が出土している。「天王様」と呼ばれる祠の周囲をU字状に廻ることから，それに関連する区画溝と思われるが，時期は不明である。



第577図 第9号溝・出土遺物実測図

第9号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第577図 1	壺 灰釉陶器	B (3.6) D 9.5 E 0.9	底部片。断面台形の高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転系切り後，高台貼り付け。	礫・砂粒・長石 灰白色 普通	P 3939 5% 三河・遠江産力 底部内面釉
2	甕 陶器	A [50.6] B (9.1)	口頸部片。頸部は内傾する。折返し口縁で，端部外面はつまみ上げられている。	口縁部上部は折り返されている。外面鉄釉。	礫・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 3940 5% PL68 常滑系
3	甕 陶器	A [34.0] B (7.1)	口縁部片。幅の広い粘土紐が巡る。	口縁部内面口クロナデ，外面幅広の粘土紐貼り付け。内・外面鉄釉。	礫・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 3941 5% 断面砥石転用 常滑系
4	鉢 陶器	B (2.2) D [7.2] E 0.4	高台部片。高台は断面が逆台形の呈する。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面口クロナデ，外面ヘラ削り。削り出し高台。	長石 淡黄色 良好	P 3943 10% 瀬戸・美濃系
5	播 陶 鉢器	B (0.9)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がり，上部に隆帯が貼られる。	口縁部上部に隆帯貼り付け。内面播り目施文。	礫・長石 にぶい赤褐色 普通	P 3942 5% 堺・明石系力
6	皿 磁器	A [13.8] B 2.8 D [8.2] E 0.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して開き，口縁部に至る。	口縁部及び体部口クロ成形。削りだし高台。絵付け。透明釉。	- 灰白色 普通	P 3938 40%

第11号溝（第578図・付図）

位置 調査3区の中央部及び4区の北西部，G2i3～G3b8区

重複関係 第62・73・74号住居跡を掘り込んでいる。また，第786号土坑と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

形状と規模 3区中央部の西端から直線的に東端に向かい，調査区域外の町道部分を越え，4区に11.5mほど延びる。検出できた長さは約43.5m，上幅0.50～1.28cm，下幅0.30～0.64cm，深さ12～50cmである。断面形はU字状である。

方向 東方向（N-76° - E）に直線的に延びる。

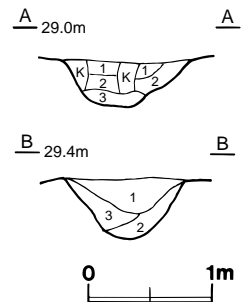
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説（SPA-A'）2区

- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

土層解説（SPB-B'）9区

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量



第578図 第11号溝実測図

遺物 土師器や須恵器片が出土している。住居跡と重複する付近の覆土上層から出土していることから，住居跡を掘り込んでいることによるものと思われる。

所見 本跡に伴うと思われる遺物が出土していないために，時期は不明である。本跡は4区まで延びて途切れるが，途切れた所から東側に90cmほど離れて，第15号溝が，東方向に延びている。本跡と第15号溝は，3区の西端から4区の東端にかけて，一直線に延びていることから関連する溝と思われる。

第15号溝（第579図・付図）

位置 調査4区の北部，G3b9～F5h1区

重複関係 第88号住居跡及び第817号土坑を掘り込んでいる。また，第15号地下式壙及び第16号溝と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

形状と規模 4区の東端で調査区域外に延びる。検出された長さは，50.32m，上幅0.70～1.80cm，下幅0.26～0.70cm，深さ52～60cmである。断面形はU字状である。

方向 東方向（N-76° - E）に直線的に延びる。

覆土 2～5層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説（SPA-A'）5区

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・礫微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

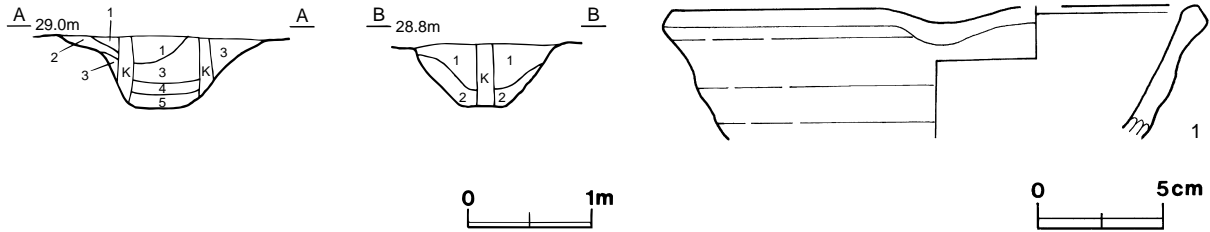
土層解説（SPB-B'）3区

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片や須恵器片が出土しているが，住居跡を掘り込んでいることによるものと思われる。他に陶器片1点（片口鉢）が出土している。

所見 1の片口鉢片は常滑産で，13世紀代に位置づけられるものであるが，この時期の土器が1点しか出土していないことや第15号地下式壙との重複関係も不明なため時期不明とした。また，5区の第18号溝は断面形が

類似していることや、これら3条の溝（第11・15・18号）を結ぶと4区の谷部をL字状に囲むようになることなどから関連性も考えられるが、性格は不明である。



第579図 第15号溝・出土遺物実測図

第15号溝出土遺物観察表

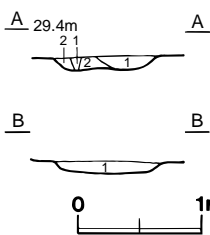
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第579図 1	片口鉢 陶器	A [21.0] E (5.2)	体部上部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は肥厚する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ後、施釉。	長石 淡黄色 良好	P 3944 10% PL68 瀬戸・美濃系

第22号溝（第580図）

位置 調査2区北部，C2a9～B3h1区。

形状と規模 長さは17.0mで、上幅26～62cm，下幅12～47cm，深さ11cmである。断面は皿状である。

方向 C2a9区から北東方向（N-141°-W）に直線的に延びる。



覆土 2層からなる。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物 縄文土器片16点が覆土中から出土している。いずれも流れ込みと考えられ、本跡に伴う遺物は出土していない。

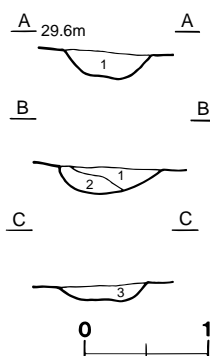
第580図 第22号溝
実測図

所見 時期及び性格は不明である。

第24号溝（第581図）

位置 調査2区南部，F3c3～F3h9区。

重複関係 第12号井戸，第204号住居跡，第58号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。



形状と規模 南東方向が調査区域外に延びるため、検出できた長さは29.2mで、上幅36～64cm，下幅22～50cm，深さ20～22cmである。断面はゆるやかなU字形である。

方向 F3c3区から南東方向（N-130°-E）に直線的に延びるとされる。

覆土 3層からなる。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 縄文土器片62点，土師器片2点，須恵器片1点，陶器片1点が覆土中から出土しているが、いずれも流れ込みと考えられ、本跡に伴う遺物は出土していない。

第581図 第24号溝
実測図

所見 時期及び性格は不明である。

第25号溝 (第582図)

位置 調査2区中央部, E3b2~E3d0区。

形状と規模 西方向が調査区域外に延びるものと思われるが, 検出できた長さは31.85mで, 上幅84~102cm, 下幅34~68cm, 深さ5~14cmである。断面は皿状である。

方向 E3d0区から西方向(N-80°-W)に直線的に延びるとされる。

覆土 単一層である。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

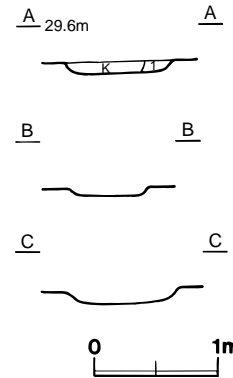
土層解説

1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量

遺物 縄文土器片370点, 土師器片2点, 須恵器片6点が覆土中から出土している。

いずれも流れ込みと考えられ, 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 時期及び性格は不明である。



第582図 第25号溝
実測図

第26号溝 (第583図)

位置 調査2区中央部, E4c3~E4c6区。

重複関係 第5号火葬土坑を掘り込んでいる。

形状と規模 東方向が調査区域外に延びるものと思われ, 検出できた長さは13.2mで, 上幅58~84cm, 下幅30~54cm, 深さ15cmである。断面は皿状である。

方向 E4c3から北東方向(N-75°-E)に直線的に延びるとされる。

覆土 単一層である。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

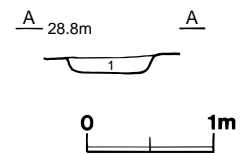
土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物 縄文土器片80点, 土師器片2点, 須恵器片10点が覆土中から出土している。い

ずれも流れ込みと考えられ, 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 時期及び性格は不明である。



第583図 第26号溝
実測図

第27号溝 (第584図)

位置 調査2区北部, D2c6~D2e8区。

形状と規模 北西方向が調査区域外に延びるものと思われ, 検出できた長さは11.5mで, 上幅112~162cm, 下幅58~90cm, 深さ14cmである。断面は皿状である。

方向 D2e8区から北西方向(N-30°-W)に直線的に延びるとされる。

覆土 3層からなる。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

土層解説

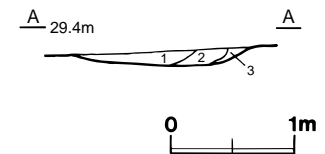
1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

2 黒色 ローム粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 出土していない。

所見 時期及び性格は不明である。



第584図 第27号溝
実測図

表 16 時期不明溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模				断面	底面	覆土	出土遺物	重複関係 (旧 新)	発掘番号
				確認長	上幅	下幅	深さ						
1	A5h6 ~ A5e0	南西 ~ 北東	直線状	(24.00)	0.86 ~ 1.44	0.32 ~ 0.74	0.17 ~ 0.28	U字形	皿状	不明			SD1
2	A5f9 ~ A5e0	南西 ~ 北東	直線状	(7.42)	0.48 ~ 0.66	0.12 ~ 0.44	1.00 ~ 1.40	U字形	皿状	不明			SD2
3	A5f9 ~ A5e0	南西 ~ 北東	直線状	(5.18)	0.32 ~ 0.48	0.12 ~ 0.22	0.10 ~ 0.14	U字形	皿状	不明			SD3
4	B5c5 ~ B6a4	西 ~ 東	直線状	(38.32)	0.48 ~ 1.46	0.66 ~ 0.88	0.17 ~ 0.36	U字形	皿状	自然			SD5
5	B6i3 ~ C6a4	東 ~ 西 南 ~ 北	L字状	(13.96)	0.24 ~ 0.36	0.15 ~ 0.34	0.14 ~ 0.24	U字形	平坦	自然			SD7
6	B5j8 ~ B6i2	西 ~ 東	直線状	(16.82)	1.24 ~ 1.72	0.38 ~ 1.28	0.24 ~ 0.48	U字形	皿状	自然		SI31と重複	SD8
7	B5i7 ~ C6g1	北西 ~ 南東	直線状	(36.58)	1.10 ~ 2.80	0.44 ~ 1.12	0.18 ~ 0.45	U字形	平坦	自然		SI31・38, SK440・515・583, 第1号竪穴状遺構と重複	SD9
8	C5g1 ~ C5j3	北西 ~ 南東	直線状	(14.52)	1.08 ~ 1.24	0.24 ~ 0.54	0.17 ~ 0.28	U字形	皿状	不明	瓦質土器, 土師質土器, 陶器	SD8・11と重複	SD10
9	C4g7 ~ C5j2	南東 ~ 北西 南西 ~ 北東	コの字状	(61.96)	0.60 ~ 1.45	0.10 ~ 0.60	0.35 ~ 0.66	U字形 箱葉研	平坦	自然	灰釉陶器, 土師質土器, 陶器	SI36 本跡, SD8と重複	SD11
10	H2d6 ~ H2d9	西 ~ 東	直線状	(12.76)	1.14 ~ 1.50	0.72 ~ 1.02	0.17 ~ 0.23	U字形	平坦	不明			SD3001
11	G2i3 ~ G3b8	西 ~ 東	直線状	(43.50)	0.50 ~ 1.28	0.30 ~ 0.64	0.12 ~ 0.50	U字形	平坦	自然	土師器, 須恵器	SI61・72・73 本跡, SK786と重複	SD3002
13	G3j9 ~ G5h2	南西 ~ 東	直線状	(64.58)	0.66 ~ 2.22	0.08 ~ 1.50	0.10 ~ 0.33	U字形	平坦	自然		SI89・90, SK772・782・783・794・798と重複	SD4001
14	G3g9 ~ E5a1	南西 ~ 東	直線状	(63.16)	0.19 ~ 0.96	0.10 ~ 0.44	0.16 ~ 0.44	U字形	皿状	自然		第14号地下式壙と重複	SD4002
15	G3b9 ~ F5h1	西 ~ 東	直線状	(50.32)	0.70 ~ 1.80	0.26 ~ 0.70	0.52 ~ 0.60	U字形	皿状	自然	土師器, 須恵器, 陶器	SI87, SK817 本跡, 第15号地下式壙, SD16と重複	SD4003
16	F4j1 ~ G4a2	北西 ~ 南東	直線状	(12.17)	0.52 ~ 0.72	0.18 ~ 0.36				不明		SI86, SK822と重複	SD4004
17	F6g3 ~ F6i5	西 ~ 東	直線状	9.86	1.14 ~ 1.30	0.94 ~ 1.12				不明		SB4・6, SK849・855と重複	SD5001
18	G5a8 ~ H6b2	北西 ~ 南	直線状	(50.16)	1.18 ~ 1.82	0.22 ~ 0.46	0.23 ~ 0.68	U字形	皿状	自然		SI128・133・135, SB12・24・25・30・42・43, SK882・936, P223・228・243・946と重複	SD5002
19	G5c4 ~ G5i5	北 ~ 南	直線状	(29.24)	0.46 ~ 1.12	0.14 ~ 0.72	0.45 ~ 0.55	U字形	皿状	自然		SI137, SK927と重複	SD5003
20	G5d2 ~ G5i5	南 ~ 北 東 ~ 西	L字状	(21.54)	0.24 ~ 0.74	0.68 ~ 0.34	0.13 ~ 0.15	U字形	平坦	不明		P3・4と重複	SD5004
21	G5d3 ~ G5f4	北 ~ 南	直線状	7.58	0.42 ~ 0.78	0.12 ~ 0.48	0.12 ~ 0.17	U字形	平坦	不明			SD5005
22	C2a9 ~ B3h1	南西 ~ 北東	直線状	17	0.26 ~ 0.62	0.12 ~ 0.47	0.11	皿状	平坦	不明	縄文土器片		SD2001
24	F3c3 ~ F3h9	南東 ~ 北西	直線状	(29.2)	0.36 ~ 0.64	0.22 ~ 0.50	0.20 ~ 0.22	U字形	平坦	不明	縄文土器, 土師器, 須恵器, 陶器	SB58, SI204, SE12と重複	SD2003
25	E3b2 ~ E3d0	東 ~ 西	直線状	(31.85)	0.84 ~ 1.02	0.34 ~ 0.68	0.05 ~ 0.14	皿状	平坦	不明	縄文土器, 土師器, 須恵器	第5号火葬土坑 本跡	SD2004
26	E4c3 ~ E4c6	東 ~ 西	直線状	(13.2)	0.58 ~ 0.84	0.30 ~ 0.54	0.15	皿状	平坦	不明			SD2005

7 土坑・土坑墓

今回の調査で、時期不明の366基の土坑が検出された。そのうち、人骨及び遺物を伴い土坑墓と考えられる2基について記載し、その他は一覧表で報告する。

第3号土坑墓 (第585図)

位置 調査1区の北東部, B3e6区。

規模と平面形 長径1.41m, 短径0.82mの楕円形で、確認面からの深さは13cmである。

長径方向 N - 8° - W

壁 なたらかに立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる。堆積状況は不明である。

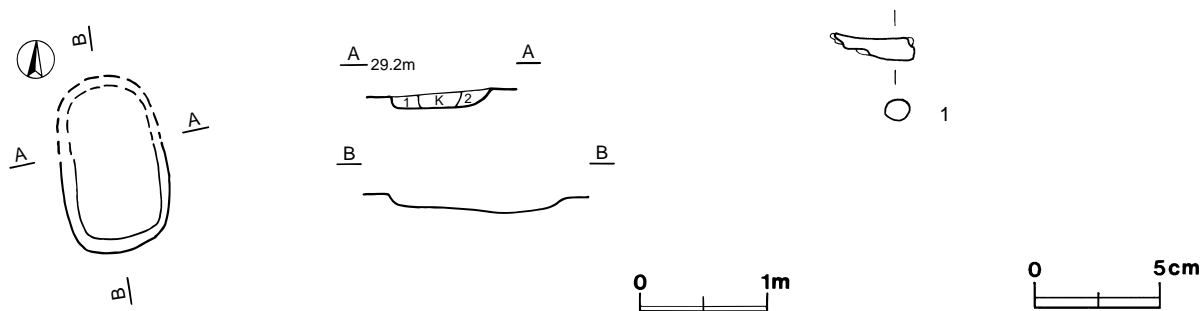
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子多量

遺物 人骨1点及び骨粉、煙管の雁首が出土している。骨は西壁際、骨粉は南壁際の底面から、煙管の雁首は覆土中から出土している。

所見 人骨及び煙管の雁首が出土していること、遺構の規模や形態などから土坑墓と考えられる。正確な時期は不明であるが、煙管の雁首が出土していることから、近世以降と考えられる。



第585図 第3号土坑墓・出土遺物実測図

第3号土坑墓出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第585図 1	煙管	(3.3)	(0.9)	-	(2.0)	銅	雁首の一部。断面形が円形。	M2506

第5号土坑墓 (SK743) (第586図)

位置 調査1区の中央部、C5a2区。

重複関係 第1号堀に掘り込まれている。第661号土坑と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模と平面形 北西部の下部が残存しているのみで、正確な規模及び平面形は不明である。

長径方向 不明である。

壁 北西壁が残存しており、なだらかに立ち上がる。

底面 平坦である。

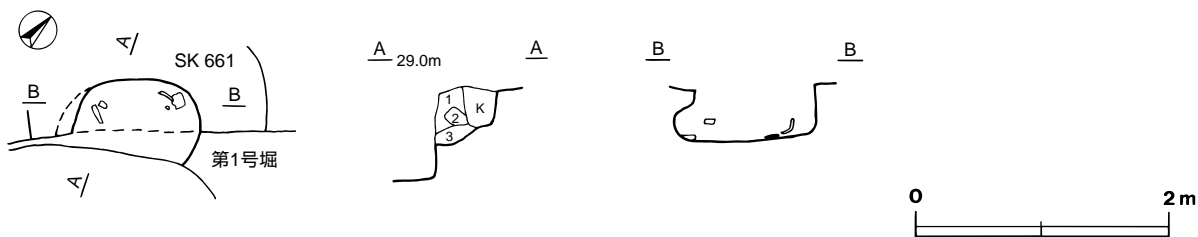
覆土 3層からなり、不規則な堆積状況を示していることから人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量



第586図 第5号土坑墓実測図

遺物 人骨4点及び骨粉が出土している。うち、1点是一部歯の残る頭骨で、北西際から出土している。

所見 人骨が出土していること及び覆土が人為堆積であることから、土坑墓の可能性が考えられる。人骨以外に出土遺物がなく、時期は不明である。

表 17 時期不明土坑墓・土坑・ピット一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧 新)	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
第3号土坑墓	B3e6	N - 8 ° - W	楕円形	1.41 × 0.82	13	緩斜	平坦	人為			SK141
第4号土坑墓	C5a2	-	-	-	-	緩斜	平坦	人為		本跡 第1号堀, SK661と重複	SK743
	218	B3e8	N - 10 ° - E	楕円形	2.25 × 1.15	50	直立	平坦	自然	SK207 本跡	SK236
	302	B5c0	N - 29 ° - W	長方形	1.43 × 1.13	42	外傾	平坦	不明		SK327
	343	B5c9	N - 18 ° - W	隅丸長方形	2.06 × 1.06	46	外傾	平坦	不明		SK369
	344	B5b9	N - 23 ° - W	長方形	1.83 × 0.74	67	直立	平坦	不明		SK370
	360	B5f4	-	[円形]	(1.48) ×	114	直立	平坦	不明	第8号地下式墳と重複	SK388
	376	C4f4	N - 35 ° - W	台形	2.14 × 1.48	13	外傾	平坦	不明		SK405
	406	C6h2	N - 75 ° - E	長方形	2.13 × 1.68	25 - 27	直立	平坦	人為		SK436
	407	C5b0	N - 16 ° - W	隅丸長方形	1.93 × 1.77	38	外傾	平坦	不明		SK438
	411	C5j0	N - 16 ° - W	楕円形	1.50 × 1.03	17	緩斜	平坦	不明		SK442
	413	C6a3	N - 17 ° - W	隅丸長方形	1.94 × 1.23	26	緩斜	平坦	人為		SK444
	416	B5h9	N - 67 ° - E	隅丸長方形	1.77 × 1.08	15 - 30	緩斜	平坦	人為	本跡 第11号竪穴状遺構	SK447
	425	B6h4	-	不整円形	1.45 × 1.38	12	緩斜	皿状	不明		SK457
	428	C5c0	-	不整円形	1.16 × 1.14	18	緩斜	皿状	不明		SK462
	430	C6c2	-	楕円形	1.83 × 0.71	30	緩斜	平坦	不明		SK465
	432	C6b3	-	円形	0.57	34	緩斜	平坦	不明		SK467
	433	C6b2	N - 26 ° - W	隅丸長方形	2.65 × 1.25	18 - 20	外傾	平坦	人為		SK468
	438	C6c2	N - 12 ° - E	隅丸長方形	2.52 × 1.36	23 - 32	外傾	平坦	人為		SK473
	439	B5h8	N - 65 ° - E	隅丸長方形	2.03 × 1.10	10 - 15	外傾	平坦	人為	第11号竪穴状遺構 本跡	SK474
	440	C5c0	N - 0 °	楕円形	1.32 × 1.20	48	外傾	平坦	人為		SK475
	442	C6e3	N - 24 ° - W	楕円形	1.68 × 1.05	29	緩斜	平坦	自然		SK477
	451	C6a5	N - 77 ° - E	隅丸長方形	2.48 × 1.50	32 - 40	外傾	平坦	人為	SK433と重複	SK489
	452	C6b5	N - 20 ° - W	楕円形	1.60 × 1.47	22	緩斜	皿状	不明		SK490
	453	C6b5	N - 70 ° - E	隅丸長方形	2.43 × 1.34	35 - 40	直立	平坦	不明		SK491
	454	C6d5	-	不整円形	1.35	62	外傾	平坦	人為		SK492
	455	C4g5	N - 37 ° - W	楕円形	1.07 × 0.67	37	外傾	平坦	不明		SK494
	466	C6f6	N - 15 ° - W	楕円形	1.20 × 1.00	28	外傾	平坦	不明		SK505
	468	C6h2	N - 68 ° - E	楕円形	1.20 × 1.00	8	外傾	平坦	不明		SK507
	469	C6f6	-	隅丸方形	1.97 × 1.96	11	緩斜	平坦	自然		SK509
	470	C6h2	-	円形	1.40 × 1.36	39	外傾	平坦	不明		SK511
	471	C6h3	N - 25 ° - W	楕円形	1.49 × 1.28	53	直立	平坦	人為		SK512
	472	C6h4	N - 0 °	楕円形	1.52 × 1.32	22	緩斜	平坦	不明		SK513
	473	C6f4	N - 0 °	不整楕円形	1.42 × 1.03	34	緩斜	凹凸	不明		SK514
	476	D6c0	N - 22 ° - W	[楕円形]	1.47 × (1.20)	37	外傾	平坦	不明		SK517
	477	C6j9	N - 0 °	[楕円形]	(1.50) × 1.28	33	外傾	平坦	不明		SK518
	478	C6h7	N - 10 ° - W	楕円形	1.53 × 0.94	10	緩斜	平坦	人為		SK519
	479	C6i7	N - 33 ° - W	楕円形	1.50 × 1.07	42	直立	平坦	不明		SK520
	480	D6a8	-	円形	1.46 × 1.40	37	外傾	平坦	人為		SK521
	481	C6j9	N - 16 ° - W	楕円形	1.83 × 1.14	46	外傾	平坦	不明		SK522

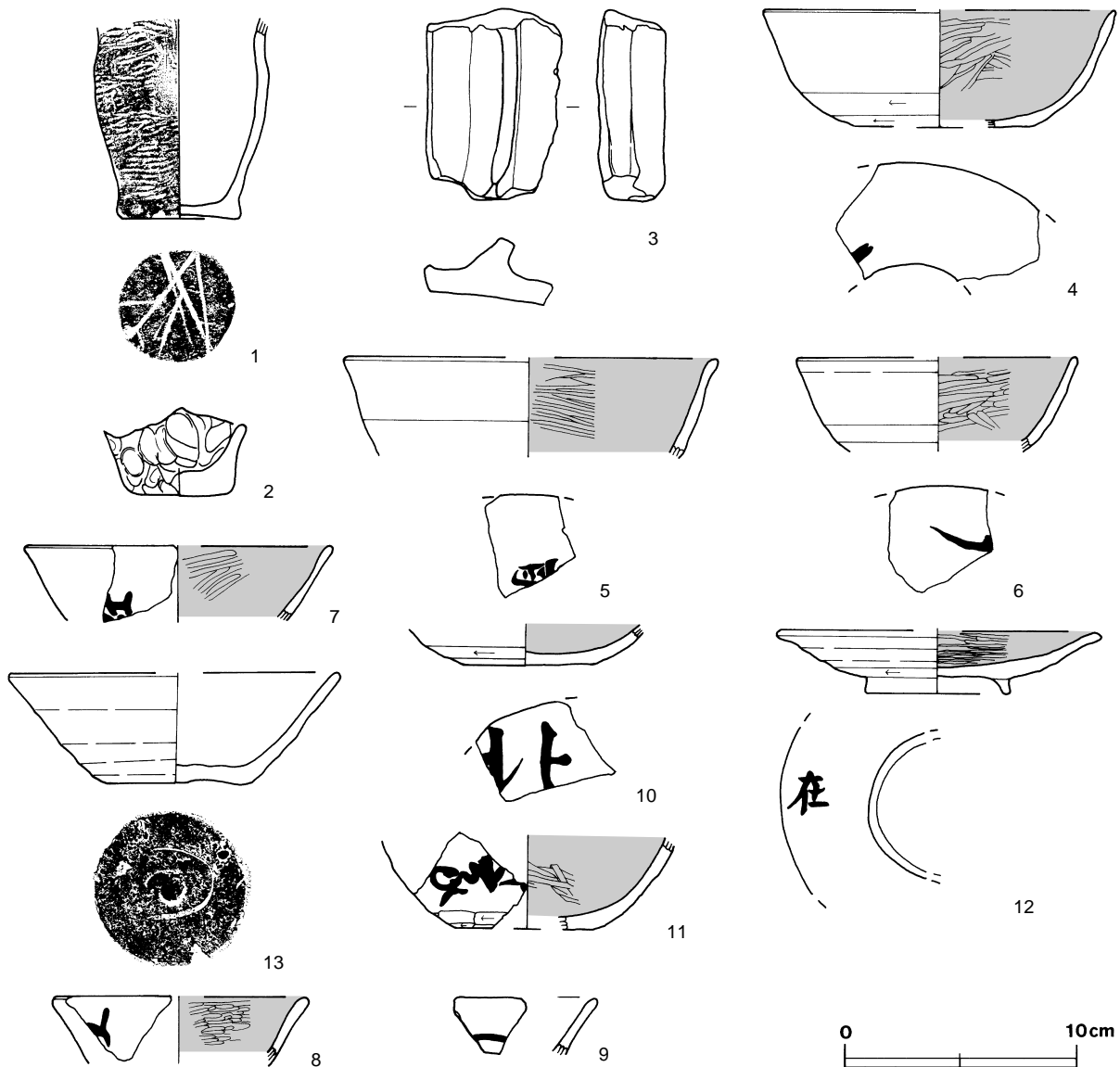
土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧 新)	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
482	C6j9	N - 25 ° - E	不整楕円形	1.65 × 1.20	23	外傾	平坦	不明			SK523
483	D6b0	-	円形	1.32 × 1.30	47	外傾	平坦	不明			SK524
484	D6c9	-	[円形]	1.72 × (0.53)	33	外傾	平坦	不明			SK526
485	D6c0	N - 22 ° - W	[楕円形]	1.63 × (0.37)	38	外傾	平坦	人為			SK527
486	D6a8	N - 18 ° - W	楕円形	1.32 × 1.24	38	外傾	平坦	不明			SK528
487	D6c9	N - 27 ° - W	[楕円形]	(1.67 × 0.73)	56	緩斜	平坦	不明		SK490 本跡	SK529
488	D6b8	-	[円形]	1.33 × 1.32	32	外傾	平坦	不明			SK530
489	D6b9	-	[円形]	1.33 × (0.92)	37	外傾	平坦	不明			SK531
490	D6b9	N - 32 ° - E	[楕円形]	(1.13 × 1.16)	53	緩斜	平坦	不明			SK532
491	D6a7	-	円形	1.33 × 1.32	44	直立	平坦	不明			SK533
492	C6j7	-	円形	1.32 × 1.30	31	外傾	平坦	不明			SK534
493	C6i7	-	円形	1.24 × 1.14	65	外傾	平坦	自然	弥生土器片, 須恵器片		SK535
494	C6j6	-	円形	1.20 × 1.10	17	緩斜	平坦	不明			SK536
495	C6j8	N - 7 ° - E	[楕円形]	1.35 × (0.57)	47	緩斜	平坦	不明			SK537
496	C6i6	-	円形	1.33 × 1.28	44	直立	平坦	人為			SK538
497	C6i6	N - 10 ° - E	楕円形	1.48 × 1.12	52	外傾	平坦	不明			SK539
498	C6j5	N - 43 ° - E	楕円形	1.60 × 1.38	43	外傾	平坦	人為			SK540
499	C6j6	-	円形	1.41 × 1.30	48	外傾	平坦	不明			SK541
500	C6j5	-	円形	1.32	50	緩斜	皿状	不明			SK542
501	C6i5	N - 5 ° - E	楕円形	1.67 × 1.48	47	外傾	平坦	人為			SK543
502	C6h4	-	円形	1.50 × 0.94	53	外傾	平坦	不明			SK544
503	C6j6	N - 9 ° - W	楕円形	1.60 × 1.44	45	緩斜	平坦	不明			SK545
504	C6i4	N - 34 ° - W	楕円形	1.68 × 1.50	38	外傾	平坦	不明			SK546
505	C6i4	-	円形	1.32	32	外傾	平坦	不明			SK547
506	C6i3	-	円形	1.41 × 1.40	48	直立	平坦	不明			SK548
507	D6b9	-	円形	1.43 × 1.42	41	外傾	平坦	不明			SK549
508	C6f5	N - 55 ° - W	楕円形	1.74 × 1.37	8	緩斜	平坦	不明			SK550
514	C6j5	N - 59 ° - E	[楕円形]	2.10 × (1.81)	37	外傾	平坦	不明			SK557
515	C6d8	N - 20 ° - W	楕円形	1.00 × 0.84			平坦	不明		第1号堀・SK511 本跡	SK558
520	C5g9	N - 66 ° - E	[楕円形]	1.50 × [1.38]	25	外傾	平坦	不明			SK565
521	C5f0	N - 10 ° - E	楕円形	1.34 × 1.00	22	緩斜	皿状	不明			SK566
522	C5e9	N - 16 ° - W	隅丸長方形	1.50 × 0.78	20	外傾	平坦	不明			SK567
524	C5d9	N - 24 ° - E	楕円形	2.40 × 1.76	38	外傾	平坦	不明			SK570
525	C5d8	N - 24 ° - E	隅丸長方形	2.27 × 2.11	34	外傾	皿状	人為			SK571
526	C5d9	N - 0 °	楕円形	2.17 × 1.94	19	外傾	皿状	不明			SK572
527	C5d6	N - 69 ° - W	隅丸長方形	2.35 × 1.38	32 ~ 37	直立	平坦	不明			SK574
529	C5d6	-	円形	1.44 × 1.35	34	外傾	平坦	不明			SK577
531	C5e7	-	円形	1.48 × 1.47	41	緩斜	平坦	不明			SK580
535	C5c5	-	不整円形	1.62	14	緩斜	平坦	不明			SK583
536	C5e5	N - 13 ° - W	楕円形	1.10 × 0.78	19	緩斜	皿状	不明			SK584
537	C5e5	-	円形	1.37 × 1.35	40 ~ 50	外傾	凹凸	自然			SK585
538	C5f5	N - 18 ° - W	隅丸長方形	2.65 × 1.75	10 ~ 30	外傾	凹凸	人為			SK586
539	C5g7	-	不整円形	1.50 × 1.46	21	緩斜	平坦	不明			SK588
540	C5h6	N - 35 ° - W	楕円形	1.82 × 0.93	18	緩斜	皿状	不明			SK589
541	C5g6	N - 17 ° - W	楕円形	1.05 × 0.88	15	緩斜	平坦	不明			SK590
543	C5h6	N - 18 ° - W	楕円形	1.32 × 1.20	24	緩斜	皿状	不明			SK593

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧 新)	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
797	H4a1	-	不整円形	1.25×1.21	25	緩斜	凹凸	不明			SK4035
798	G3i0	N-15°-W	楕円形	1.26×0.92	33	緩斜	皿状	不明			SK4036
799	G4e0	N-0°	隅丸長方形	(1.58)×0.88	74	外傾	平坦	不明			SK4037
800	G4e0	N-8°-W	長方形	(2.08)×0.88	55	外傾	平坦	不明			SK4038
801	G4c1	N-40°-E	楕円形	1.10×0.98	9	緩斜	皿状	不明			SK4039
802	G4e0	N-13°-W	長方形	1.66×0.86	26	外傾	平坦	不明			SK4040
803	F4h3	-	円形	1.47×1.38	14	外傾	平坦	不明			SK4043
804	F4i2	-	不整円形	1.74×1.64	12	外傾	皿状	不明			SK4044
805	F4i2	-	円形	1.48×1.47	14	緩斜	平坦	不明			SK4045
806	F4h5	N-35°-W	不整楕円形	1.76×0.80	28	緩斜	皿状	自然			SK4046
807	F4h6	-	円形	0.84×0.80	17	緩斜	凹凸	自然			SK4047
808	F4j2	N-8°-W	隅丸長方形	1.36×0.86	46	緩斜	平坦	人為			SK4048
809	G4a6	N-4°-W	楕円形	1.94×1.57	17	緩斜	平坦	自然			SK4049
810	F4j2	N-8°-W	[隅丸長方形]	1.10×(0.46)	28	緩斜	平坦	不明			SK4050
811	F4i3	-	円形	1.93×1.87	31	緩斜	平坦	自然			SK4051
812	H4a1	N-44°-W	[不整楕円形]	1.14×(0.33)	37	緩斜	平坦	人為			SK4052
813	H4b1	-	円形	1.24×1.02	55	外傾	皿状	人為			SK4053
814	H4a1	-	不整円形	1.36×1.29	20	外傾	平坦	不明			SK4054
815	H4b2	-	円形	1.35×1.25	28	外傾	平坦	不明			SK4055
816	H4b1	N-20°-W	楕円形	1.41×0.82	20	外傾	平坦	不明			SK4056
818	F5i0	N-10°-W	楕円形	1.09×0.86	10	緩斜	皿状	不明			SK4060
819	F5j1	N-4°-W	楕円形	0.83×0.71	31	外傾	皿状	自然			SK4061
820	F3i9	N-0°	楕円形	1.57×1.02	17	緩斜	凹凸	人為			SK4062
821	H3a8	-	円形	1.28×1.20	37	緩斜	平坦	不明			SK4063
822	C4i1	N-42°-E	不整楕円形	2.62×1.29	37	緩斜	凹凸	不明			SK4064
828	F6e8	-	円形	0.97×0.93	40	外傾	平坦	不明			SK5006
830	F6e0	N-33°-E	楕円形	1.45×1.30	30	外傾	平坦	不明			SK5008
831	F6e9	-	円形	1.28×1.26	52	外傾	平坦	不明			SK5009
832	F6d0	-	円形	1.25×1.20	62	外傾	凹凸	不明			SK5010
833	F7d1	N-49°-W	楕円形	1.04×0.92	14	緩斜	平坦	不明			SK5011
838	G7a4	N-77°-W	楕円形	1.07×0.85	52	外傾	皿状	不明			SK5016
839	G7e7	N-13°-E	不定形	2.22×1.27	92	外傾	平坦	不明			SK5017
840	G7a4	N-63°-W	不定形	1.15×0.95	65	外傾	凹凸	不明			SK5019
842	G7f3	N-27°-E	楕円形	1.00×0.90	24	外傾	平坦	不明			SK5022
843	G7g4	N-41°-W	楕円形	1.30×1.15	45	外傾	平坦	不明			SK5023
844	G7g4	-	円形	1.48×1.37	20	緩斜	平坦	不明			SK5024
845	F7j5	N-21°-E	楕円形	1.10×0.90	50	外傾	平坦	不明			SK5025
846	F7e4	N-9°-E	楕円形	1.85×1.20	45	緩斜	皿状	不明			SK5026
847	G7g4	N-30°-W	楕円形	1.49×1.25	32	外傾	平坦	不明			SK5027
848	F6i5	N-46°-E	[楕円形]	(0.90)×0.70	42	外傾	平坦	不明			SK5032
849	F6g3	N-31°-W	楕円形	1.35×1.20	34	緩斜	皿状	不明			SK5034
850	H7a4	N-4°-E	不整楕円形	1.40×1.26	25	緩斜	皿状	不明			SK5035
855	H6e7	N-14°-E	楕円形	1.70×1.37	50	外傾	平坦	不明			SK5041
856	H6e6	-	円形	1.68×1.67	47	外傾	凹凸	不明			SK5042
859	G7c3	N-54°-E	楕円形	1.20×1.09	14	緩斜	平坦	不明			SK5047
860	G6c9	N-67°-W	楕円形	2.20×1.60	23	緩斜	平坦	不明			SK5049

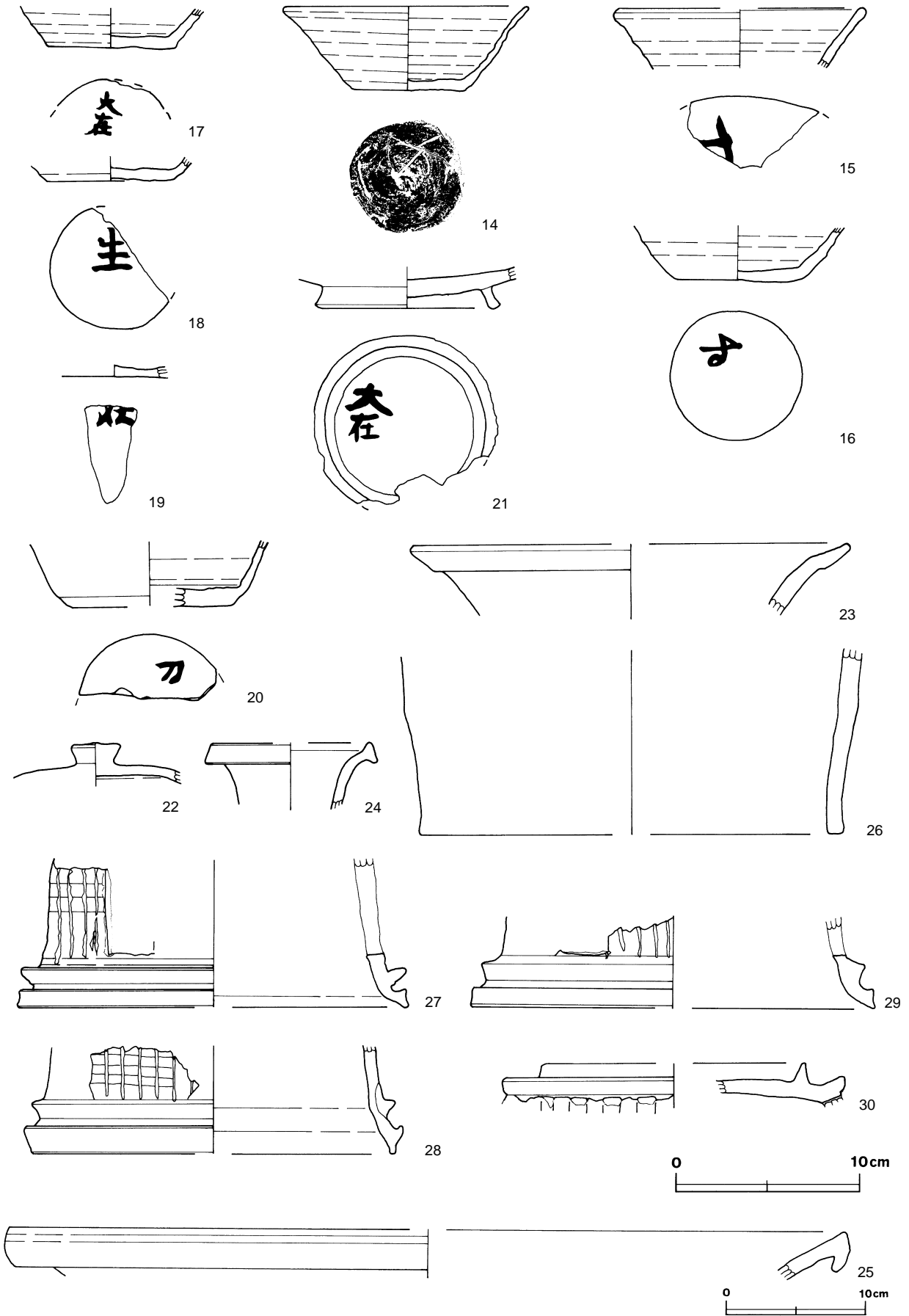
土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧 新)	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
P339	C4e0	N - 40° - E	精 円 形	0.42 × 0.38	23	外傾	平坦	不明		SK682 第1号堀	SK766
P340	B4i6	-	円 形	0.36 × 0.33	60	直立	平坦	不明		SI15と重複	
P341	B4i8	-	[円 形]	0.37 × (0.27)	105	直立	平坦	不明		SI18・第4号竪穴状遺構と重複	
P342	B4i8	-	円 形	0.22 × (0.18)	不明	直立	平坦	不明		SI18・第4号竪穴状遺構と重複	
P343	B4i8	-	円 形	0.43 × 0.40	82	直立	平坦	不明		SI18・第4号竪穴状遺構と重複	
P344	C4b6	N - 20° - W	不整楕円形	0.35 × 0.30	100	直立	平坦	不明		SI22・23と重複	
P345	C4b7	-	円 形	0.38 × 0.35	不明	直立	平坦	不明		SI22・23と重複	
P346	C4d7	-	円 形	0.28 × 0.26	30	直立	平坦	不明		SI25と重複	
P347	B5i2	-	円 形	0.35 × 0.34	177	直立	平坦	不明		SI27と重複	
P348	B5h2	-	円 形	0.35	145	直立	平坦	不明		SI27と重複	
P349	B5h3	-	円 形	0.37 × 0.34	174	直立	平坦	不明		SI28と重複	

第 8 節 遺構外出土遺物

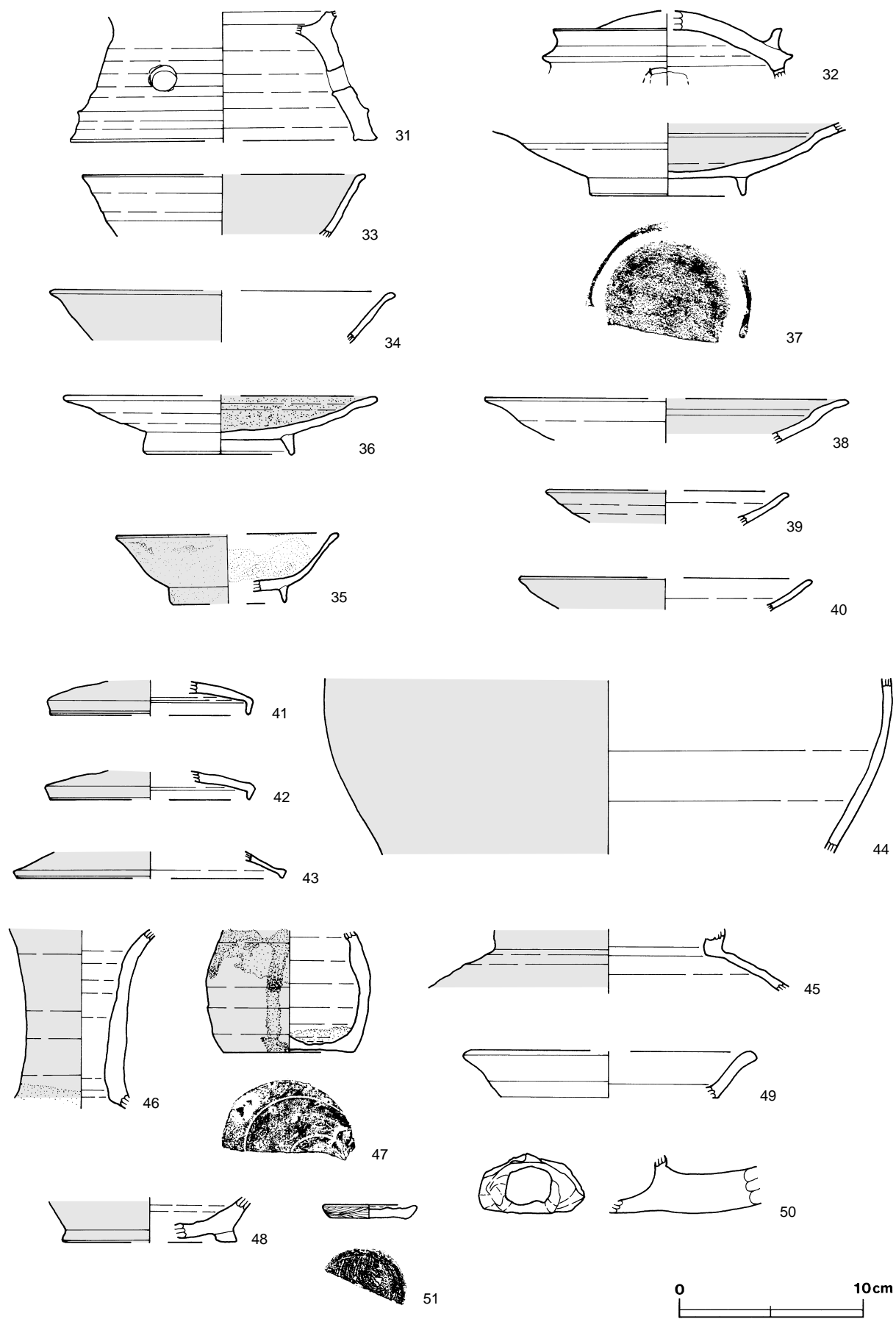
今回の調査では、遺構に伴わない遺物が多数出土している。ここではそれらの遺物のうち、弥生時代から中・近世の遺物で特徴のあるものについて図示・解説する（第587～590図）。



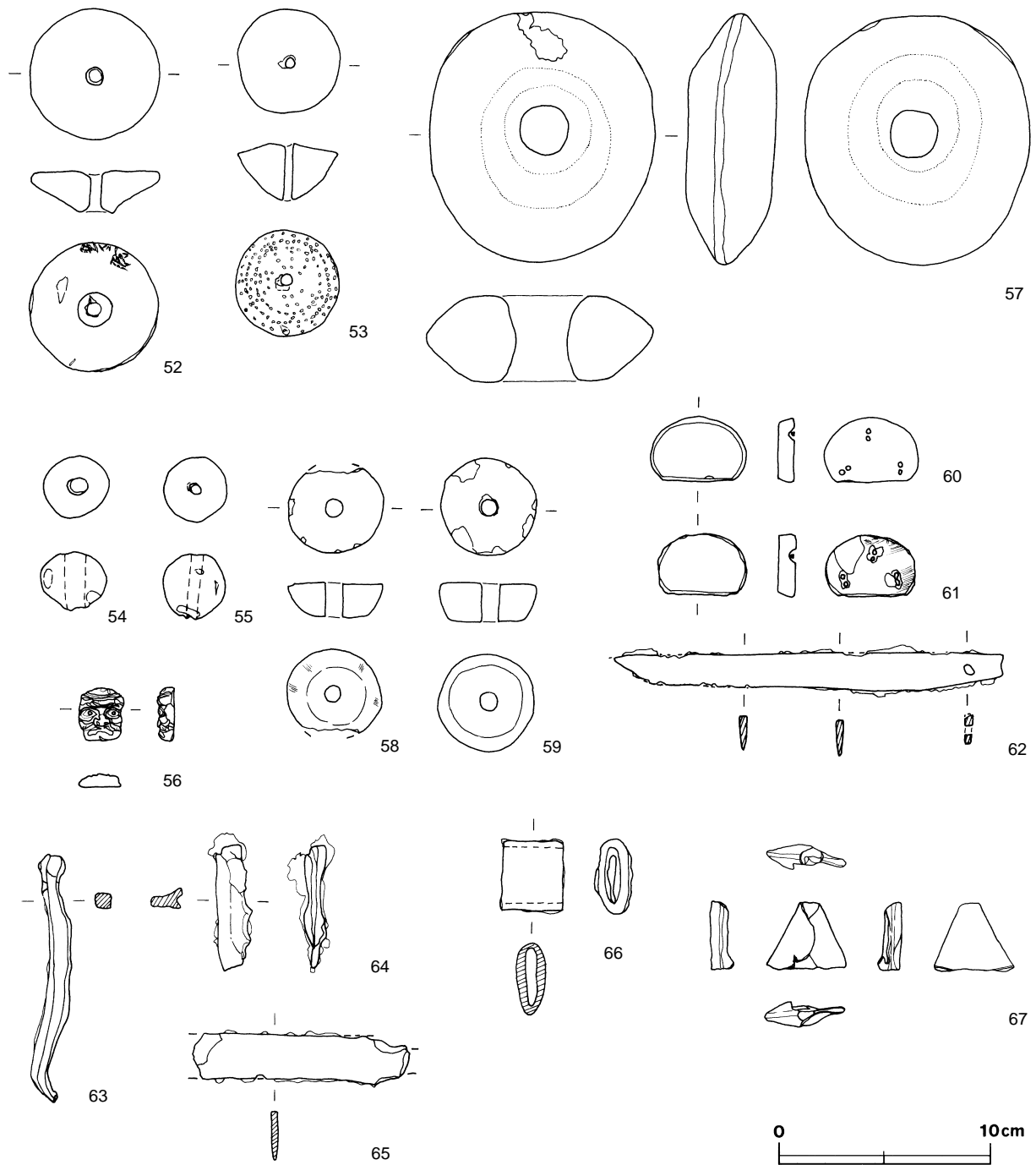
第587図 遺構外出土遺物実測図(1)



第588図 遺構外出土遺物実測図(2)



第589図 遺構外出土遺物実測図(3)



第590図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第587図 1	小形広口壺 弥生土器	B (8.5) C 5.2	胴部から底部にかけての破片。平底。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。胴部には、附加条二種（附加1条）の縄文が施され、羽状構成をとる。底部は木葉痕。	長石・石英にぶい黄橙色普通	P 2679 70%	
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第587図 2	手捏土器 土師器	A 6.0 B 3.8 C 4.4	口縁部及び体部一部欠損。肉厚の平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面指頭によるナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P 2680 70%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第587図 3	置カマド 土師器	B (8.1)	焚口部片。焚口部は直立する。庇が付く。	焚口部内面ナデ。外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英・針状鉱物 橙色、普通	P 2689 5 %
4	坏 土師器	A [15.7] B 5.0 C [7.0]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P 2683 25% PL74 体部外面墨書「」
5	坏 土師器	A [15.8] B (4.2)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 2684 10% PL74 体部外面墨書「前」カ
6	坏 土師器	A [11.9] B (4.0)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P 2726 5 % 体部外面墨書「」
7	坏 土師器	A [13.2] B (3.1)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら、外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。内面黒色処理。	石英 にぶい褐色 普通	P 2687 5 % PL72 体部外面墨書「在」カ
8	坏 土師器	A [10.7] B (2.9)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P 2682 5 % PL72 体部外面墨書「」
9	坏 土師器	B (2.4)	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。内面黒色処理。	長石 にぶい黄橙色 普通	P 2681 5 % 体部外面墨書「」
10	坏 土師器	B (1.8) C [5.4]	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P 2685 5 % PL74 底部墨書「北」
11	坏 土師器	B [4.0] C [5.8]	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P 2688 10% PL73 体部外面墨書「家」
12	高台付皿 土師器	A [13.6] B 2.7 D 6.2 E 0.7	底部から口縁部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は内彎しながら外傾して開き、口縁部に至る、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P 2686 60% PL72 体部外面墨書「在」
13	坏 須恵器	A [14.0] B 4.8 C 6.3	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ切り後、ナデ。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P 2691 70% 底部へラ記号
第588図 14	坏 須恵器	A 13.1 B 4.6 C 5.8	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ切り後、ナデ。	長石・石英 灰白色 普通	P 2690 70% 底部へラ記号
15	坏 須恵器	A [13.2] B (3.2)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石 浅黄色 普通	P 2694 5 % PL72 体部外面墨書「」
16	坏 須恵器	B (3.0) C 7.0	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ切り。	長石・針状鉱物 灰白色 普通	P 2621 65% PL74 底部墨書「寸」(村)カ
17	坏 須恵器	B (2.1) C 6.8	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ切り後、ナデ。	長石・石英・針状鉱物、 灰オリーブ色 普通	P 2728 10% PL70 底部墨書「大在」
18	坏 須恵器	B (1.3) C 6.8	底部片。平底。	底部回転へラ切り。	長石・石英 灰白色 普通	P 2692 10% PL74 底部墨書「生」
19	坏 須恵器	B (0.6)	底部片。平底。	底部外面調整不明。	長石・石英 灰色 普通	P 2727 5 % 底部墨書「在」カ
20	坏 須恵器	B (3.5) C [8.4]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端ナデ。底部回転へラ切り後、手持ちへラ削り。	礫・長石 灰色 普通	P 7179 25% 底部墨書「万」
21	高台付坏 須恵器	B (2.2) D 9.4 E 1.2	底部片。やや丸味のある平底。高台は八の字状に開く。	底部回転へラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英 褐灰色 普通	P 2695 20% 底部墨書「大在」

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第588図 22	蓋 須恵器	B (2.3) F 2.8 G 1.1	天井部片。擬宝珠状のつまみが付く。	天井部内面口クロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石 褐灰色 普通	P 2697 30%
23	甕 須恵器	A [23.6] B (3.8)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石・石英 褐灰色 普通	P 2698 5%
24	長頸瓶 須恵器	A [8.6] B (3.6)	口縁部片。口縁部は外反し、端部が突出する。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P 2701 5%
25	甕 須恵器	A [59.2] B (3.4)	口縁部片。口縁部は外反し、端部が突出する。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石・石英 褐灰色 普通	P 2699 5%
26	甗 須恵器	B (10.0) C [23.0]	底部から体部下端にかけての破片。体部はわずかに外傾して立ち上がる。	体部外面口クロナデ、内面ヘラナデ。	長石・針状鉱物 灰黄色 普通	P 2700 10%
27	円面硯 須恵器	B (8.0) D [20.9]	脚部片。脚台部は透かし窓を有し、下位に隆帯が巡る。	脚台部内面ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石・石英 褐灰色 普通	P 2706 5%
28	円面硯 須恵器	B (5.8) D [19.6]	脚部片。脚台部は透かし窓を有し、下位に断面三角形の隆帯が巡る。	脚台部内面ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石 褐灰色 普通	P 2707 5%
29	円面硯 須恵器	B (4.9) D [21.6]	脚部片。脚台部は透かし窓を有し、下位に断面三角形の隆帯が巡る。	脚台部内面ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石 灰色 普通	P 2703 5%
30	円面硯 須恵器	A [18.1] B (2.3)	硯部片。外縁の内側にU字状の海が巡る。硯部と脚台部との境に透かし窓の痕跡を残す。	外縁及びU字状海部ナデ。	長石 外面灰黄色 内面淡黄色、普通	P 2702 10% 硯部内面自然釉
第589図 31	円面硯 須恵器	B (7.0) D [16.5]	脚部片。脚台部は円形の透かし窓を有し、下位に断面三角形の隆帯が巡る。	脚台部内面ナデ。	長石 灰色 普通	P 2704 5%
32	円面硯 須恵器	A [12.2] B (3.6)	硯部片。硯部と脚台部との境に透かし窓の痕跡を残す。	硯部内面及び外縁ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P 2705 5%
33	椀 灰釉陶器	A [15.2] B (3.3)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面口クロナデ。口縁部内面施釉。	長石 灰白色 良好	P 2716 5% 黒笹90号窯式期
34	椀 灰釉陶器	A [18.4] B (2.7)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面口クロナデ。口縁部内・外面施釉。	長石、内面灰黄色、 外面灰白色 良好	P 2717 5% 黒笹90号窯式期
35	椀 灰釉陶器	A [11.9] B (3.7) D [6.1] E 0.9	高台部から口縁部にかけての破片。断面三日月状の高台が付く。体部はわずかに内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。高台内・外面口クロナデ。施釉。	長石 灰白色 良好	P 7185 45% PL68 見込み重ね焼き痕 黒笹90号窯式段階
36	段皿 灰釉陶器	A [16.8] B 3.2 D [8.0] E 1.2	底部から口縁部片。平底。高台はハの字状開く。体部は直線的に開き、体部と口縁部の境に段をなす。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。内面施釉。	長石 灰白色 良好	P 2710 50% PL68 黒笹14号窯式期
37	段皿 灰釉陶器	B (3.8) D 8.2 E 1.0	底部から口縁部片。平底。高台は垂下する。体部は直線的に開き、体部と口縁部の境に段をなす。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。周縁ナデ。口縁部及び体部内面施釉。	長石、内面オリ ブ黄色、外面灰白 色、良好	P 2711 30% 黒笹14号窯式期
38	段皿 灰釉陶器	A [19.4] B (1.8)	体部から口縁部片。体部は直線的に開き、口縁部の境に段をなす。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。口縁部及び体部内面施釉。	長石 灰白色 良好	P 2712 5% 黒笹14号窯式期
39	皿 灰釉陶器	A [13.0] B (1.8)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎しながら開く。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内・外面口クロナデ。口縁部内・外面施釉。	礫長石 灰白色	P 2709 10% 黒笹14号窯式期
40	皿 灰釉陶器	A [15.5] B (1.7)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎しながら開く。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内・外面口クロナデ。口縁部内・外面施釉。	長石 灰オリブ色 良好	P 2708 5% 黒笹14号窯式期

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第589図 41	蓋 灰釉陶器	A [10.6]	天井部から口縁部片。天井部はなだらかな丸味を持って口縁部に至る。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び天井部ナデ。口縁部及び天井部外面施釉。	長石、内面灰オリブ色、外面灰黄色、良好	P 2713 25% 黒笹14～90号窯式期
		B (1.8)				
42	蓋 灰釉陶器	A [10.7]	天井部から口縁部片。天井部はなだらかに口縁部に至る。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び天井部ナデ。口縁部及び天井部施釉。	長石、内面灰オリブ色、外面灰黄色、良好	P 2715 10% 黒笹14～90号窯式期
		B (1.6)				
43	蓋 灰釉陶器	A [14.4]	口縁部片。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部ナデ。口縁部外面施釉。	長石、内面灰オリブ色、外面にぶい黄色、良好	P 2714 10% 黒笹14号窯式期
		B (1.4)				
44	壺 力 灰釉陶器	B (9.3)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部外面施釉。	長石、内面灰白色、外面灰黄色良好	P 2721 10% 黒笹14～90号窯式期
45	短頸壺 灰釉陶器	B (3.4)	体部上位から口縁部片。体部上位は内頸して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。口縁部内・外面及び体部外面施釉。	長石、内面にぶい黄色、外面灰オリブ色、良好	P 2723 5% 井ヶ谷78号窯式期
46	長頸瓶 灰釉陶器	B (9.6)	頸部片。頸部は外反して立ち上がる。	頸部内・外面口クロナデ。頸部下端外面施釉。	長石 灰白色 良好	P 2722 15% 黒笹90号窯式期
47	小 瓶 灰釉陶器	B (6.5) C 7.1	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部糸切り。体部外面施釉。	長石、内面灰黄色、外面オリブ色、良好	P 2718 5% PL6 8 黒笹14～90号窯式
48	長頸瓶力 灰釉陶器	B (2.4) C [9.4]	底部から体部下端の破片。平底。高台はハの字状に開く。体部下端は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部調整不明。高台貼り付け後、ナデ。体部外面施釉。	長石 灰白色 良好	P 2720 10% 黒笹90号窯式期
49	皿 力 陶 器	A [15.0]	口縁部片。口縁部下端で屈曲し、外傾する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石、内面灰黄色、外面オリブ色、良好	P 2724 5%
		B (2.5)				
50	焙 烙 力 土師質土器	B (2.8)	体部から把手部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。断面楕円形で中実の把手を持つ。	体部及び把手部ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 2725 10%
51	小 皿 土師質土器	A 5.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は短く外傾して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部糸切り離し。	白色粒子 橙色 普通	P 7186 50%
		B 0.7				
		C 4.0				

図版番号	器 種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第590図52	紡 錘 車	6.1	2.0	0.6	55.2	土 製	断面三角形。	DP2501 PL76
53	紡 錘 車	5.0	2.7	0.4～0.6	47.1	土 製	断面三角形。	DP2502 PL76
54	土 玉	3.1	2.7	1.0	21.5	土 製	断面形は球状。	DP2503
55	土 玉	3.0	3.0	0.4～0.6	22.4	土 製	断面形は球状。	DP2504

図版番号	器 種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第590図56	泥 面 子	2.6	2.1	0.7	3.5	土 製	扁平。人面描出。	DP2505

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	特 徴	備 考
		長さ (cm)	幅・径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第590図57	環 状 石 斧	11.8	10.5	4.2	613.5	砂 岩	ほぼ円形、中央部に断面X字状になる穿孔有り。	Q2501 PL78
58	紡 錘 車	-	4.4	1.6	(45.5)	泥 岩	一部欠損、中央部に0.8cmの孔が空く。	Q2502
59	紡 錘 車	-	4.5	1.8	64.1	不 明	黒色。中央部に0.8cmの孔が空く。	Q2503 PL77
60	腰 帯 具	3.0	4.5	0.7	19.0	花崗岩質岩石	丸靱。オリブ灰色に白色が混じる。3ヶ所に潜り穴。	Q2504 PL77
61	腰 帯 具	2.9	4.2	0.7	19.7	粘板岩	丸靱。黒色。3ヶ所に潜り穴。	Q2505 PL77

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第590図62	小刀	(18.1)	1.8	0.3	(40.3)	鉄	茎一部欠損。径0.4cmの目釘穴1ヶ所。	M2504 PL80
63	釘	(11.6)	1.3	0.8	(26.3)	鉄	頭部欠損。断面が方形。	M7015
64	鋤	(6.3)	1.7	0.5~1.0	(15.6)	鉄	断面がY字状。	M7016
65	小刀	(10.2)	2.2	0.3	(36.5)	鉄	刀身の剥片。平造。	M7017
66	鋸	(4.4)	0.6	0.6	20.5	鉄	完形。断面が長楕円形。	M7018
67	不明	3.2	3.7	1.2	8.2	銅	平面が三角形。	M7019 PL80

第9節 まとめ

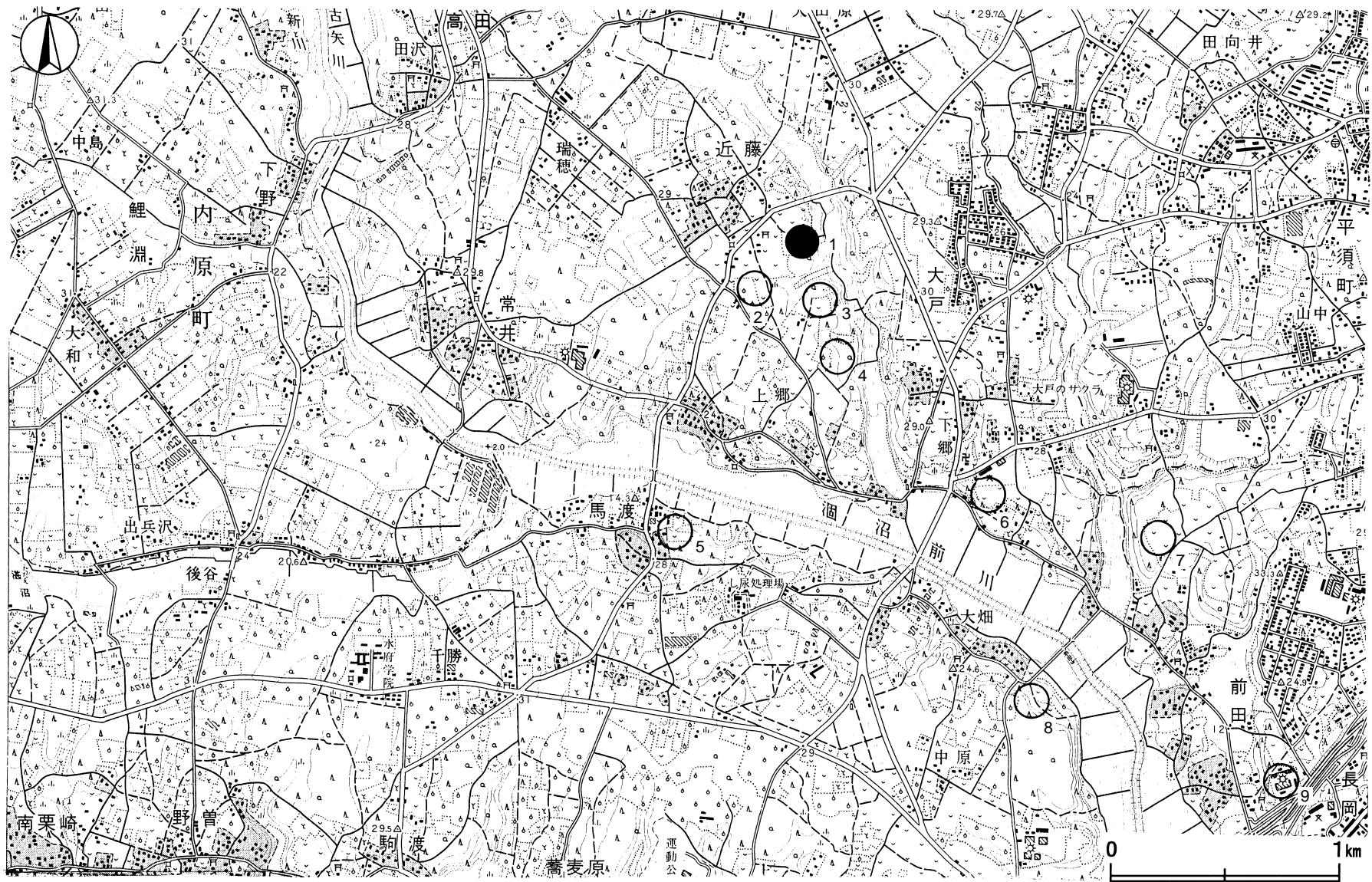
宮後遺跡は、縄文時代から中・近世にわたる複合遺跡であることが明らかになり、特に縄文時代中期中葉から後葉、弥生時代後期後半から古墳時代前期、さらに奈良時代から平安時代にかけて大きな集落が形成されたことが確認された。本書が取り扱った時代は、このうち弥生時代から中・近世までである。ここでは、弥生時代から古墳時代、奈良・平安時代及び中・近世の調査成果を概観し、まとめとする。

1 弥生時代～古墳時代

当遺跡からは、弥生土器だけが出土した住居跡1軒、弥生土器と古墳時代前期の土師器が一緒に出土した住居跡が4軒、古墳時代前期の土師器が出土した住居跡8軒、古墳時代後期の土師器が出土した住居跡2軒が検出されたが、検出数が少ないので、当遺跡が位置する酒沼前川沿いの遺跡から考えてみたい。酒沼前川沿いには、大畑遺跡、矢倉遺跡、桜の郷遺跡群（石原遺跡・綱山遺跡・大塚遺跡）等の弥生時代後期後半の遺跡が多く分布し、県北部から中央部にかけてを中心に分布する十王台式土器が出土している。各遺跡を概観してみると、大畑遺跡や矢倉遺跡では弥生土器（十王台式）と土師器との共伴事例はなかったが、上流に位置する石原遺跡や当遺跡ではその事例が見られた。海老澤稔氏の十王台式編年をもとに弥生時代後期後半と弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭とに分け、その出土土器の特徴及び文様に焦点を当てて述べることにする。

(1) 弥生時代後期後半

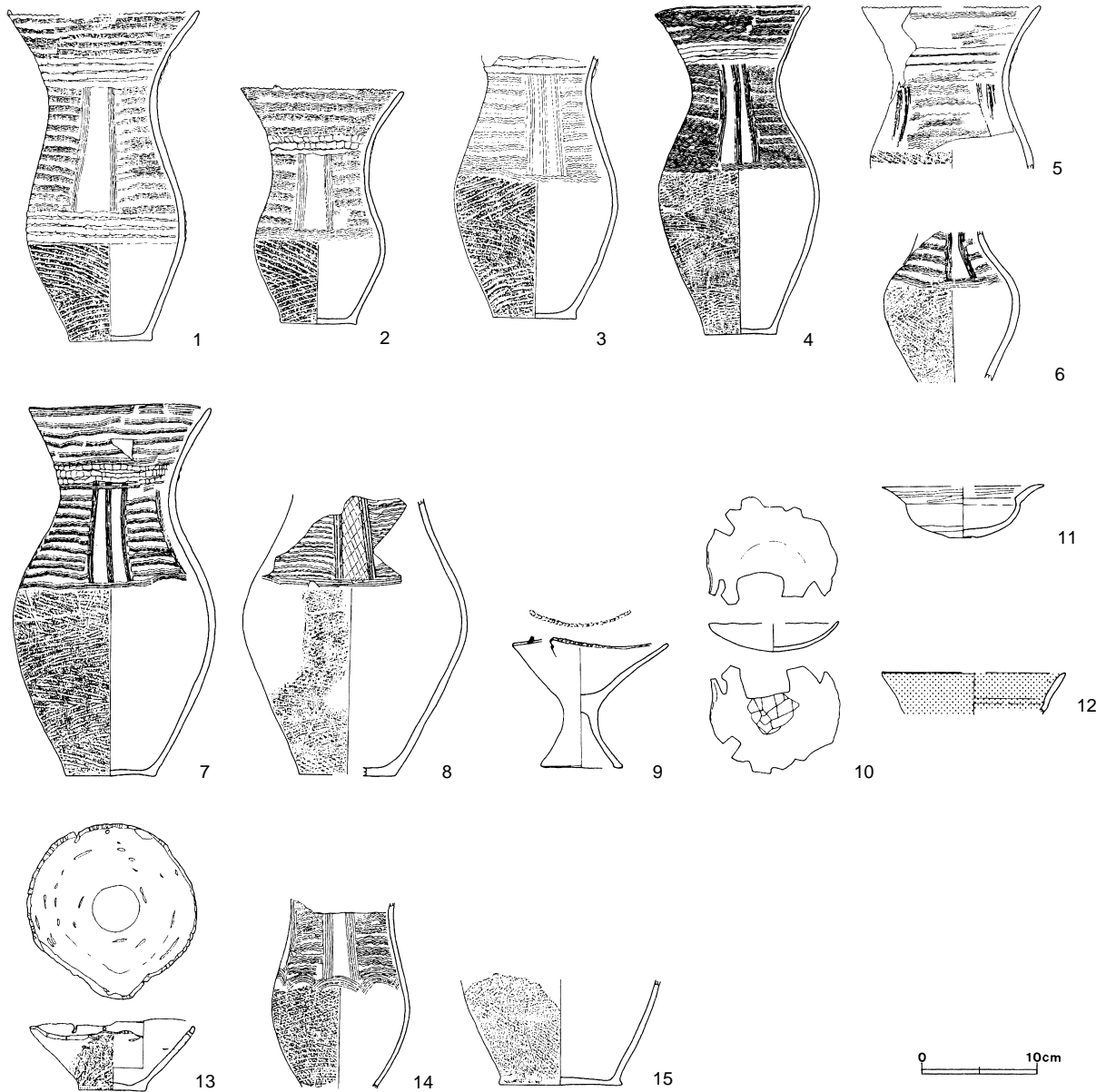
当該期の遺構は、第126号住居跡の1軒である。小支谷を挟んで綱山遺跡（石原遺跡と隣接）と対峙する標高28～29mの5区の平坦部に構築されている。石原遺跡では、10数軒（第2・4・12号住居跡等）が検出され、中央に広場をもつ4・5軒の小グループに分けられるようであると記述されていることから、奈良・平安時代に住居や掘立柱建物等の建設で掘り込まれなければ、当遺跡の小支谷を見下ろす台地の平坦部にも小さなまとまりをもった住居群の存在が確認されたのではないかと考えられる。土器の編年から当遺跡より先行すると思われる大畑遺跡や矢倉遺跡は酒沼前川に面した台地の縁辺部に立地しているが、石原遺跡や本跡は酒沼前川に流れ込む支流（小橋川）沿いに立地している。このことは人口の増加などにより土地を求めて川沿いに遡ったことによるもの（第591図「宮後遺跡及び周辺遺跡」参照）と考えられる。遺物は広口壺・片口鉢・炉石・環状石斧などが出土している。片口鉢（第592図13）は、色調が橙色を帯び、胎土に針状鉱物を含んでいることなど広口壺片との違いが見られる。また、口唇部付近に孔が2つ空けられており、木製か革製の蓋を留める穴と思われる。石原遺跡でも2個体出土しているが、全体的に出土数が少ないことから貴重なものを入れていたことも考えられる。また、この期の広口壺（第592図14・15）は、2点しか出土していないが、14の広口壺の頭部文様は、櫛描文が密に胴部の最大径の近くまで施文されていることから矢倉遺跡の第14・23号住居跡（第



第591図 宮後遺跡及び周辺遺跡 1 宮後遺跡 2 大塚遺跡 3 畑山遺跡 4 石原遺跡 5 東畑遺跡
6 大戸下郷遺跡 7 矢倉遺跡 8 大畑遺跡 9 長岡遺跡

592図1～3), 石原遺跡の第5号住居跡(第592図4～6)出土の土器と同時期のものと思われる。住居の規模と平面形は, 矢倉遺跡の第14号住居跡が長軸6.1m, 短軸5.4mの隅丸方形, 第23号住居跡が長軸3.8m, 短軸3.5mの隅丸方形, 石原遺跡の第5号住居跡が長軸5.58m, 短軸4.55mの隅丸長方形で, 当遺跡の第125号住居跡は長軸3.74m, 短軸3.70mの隅丸方形である。このようにこの時期は, 隅丸方形と隅丸長方形が併存することが窺われる。

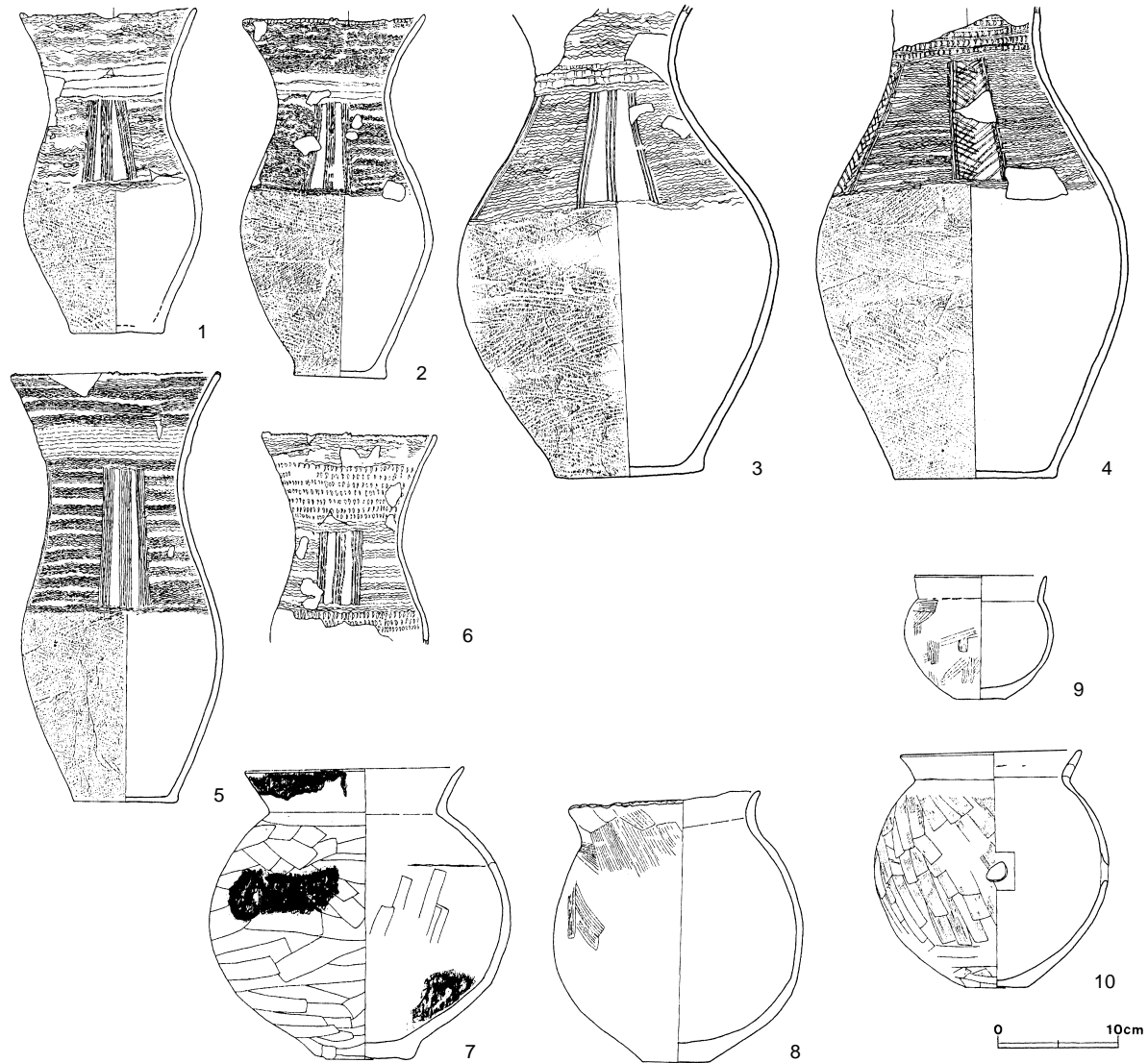
特筆する遺物として環状石斧があげられる。5区の遺構外から出土したものではあるが, 完形品は本県で初出である。



第592図 矢倉遺跡・石原遺跡・宮後遺跡出土弥生土器・土師器
 1: 矢倉遺跡第14号住 7~12: 石原遺跡第23号住
 2・3: 矢倉遺跡第23号住 13~15: 宮後遺跡第126住
 4~6: 石原遺跡第5号住

(2) 弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭

次に、弥生土器と古墳時代前期の土師器と一緒に出土した住居は、第101・103・110・121号住居跡の4軒である。弥生時代後期後半の住居跡と同様に、当遺跡の南部（5区）の平坦部の中央に位置し、南北に弧状に並んでいた。平面形は、不明1軒を除き、隅丸長方形である。石原遺跡でも共伴事例が第23号住居跡（第592図7～12）などに見られる。第592図7の広口壺は口縁部の幅が広く、頸部境の隆帯がほとんど隆起していない。また、頸部の櫛描文が胴部の最大径近くまで施文されている。当遺跡の広口壺（第593図1・2・5・6）も石原遺跡と同様な文様構成をもち、特に第593図5の広口壺の頸部と胴部の境の隆帯が半截竹管状の工具で刺突された爪形文に変化している。ひたちなか市武田石高遺跡の第41号住居跡でも爪形文をもつ土器が出土し、土師器を伴っている。また、第593図3・4のような器高のある広口壺も、石原遺跡の第23号住居跡（第592図8）等から出土しており、頸部の文様構成が類似しており、この点からも二つの住居跡が同時期といえる。ところで、広口壺の用途を考えてみると、器高が30cm前後より以下のものの多くに、二次焼成痕があったり、炭化物・ススが付着していたりすることが見られ、第592図3・4のような50cm以上の大形のものにはその痕跡



第593図 宮後遺跡出土弥生土器・土師器
 1～4・6～8：宮後遺跡第110号住
 5・9・10：宮後遺跡第103号住

は見受けられなかった。このことから中形・小形のもの煮炊き具として、大形のものそれ以外の用途として、というように機能が分かっていたことが窺える。

土師器と一緒に出土した弥生土器の全体的な特徴は、①口唇部に小突起がつくものが多く見受けられる。②頸部文様帯の縦区画が3本のものが多い。③頸部と胴部境との区画は、横走波状文がほとんどである。④底部は布目痕が多いことなどが挙げられる。この傾向は矢倉遺跡や石原遺跡でも言え、久慈川流域出土の弥生土器と様相を異にしていることから潤沼前川流域の弥生時代後期後半の弥生土器に共通する特徴と思われる。

ところで、当遺跡と同様に弥生土器と土師器が共伴した遺跡には、石原遺跡以外に岡山市外山遺跡、大洗町長峰遺跡、水戸市大鋸町遺跡、ひたちなか市鷹ノ巣遺跡、平成11年度に調査された大塚遺跡や綱山遺跡などがある。弥生土器は、前述したように十王台式土器の終わりの様相を呈している。一方の土師器は、第593図の8～10のようにハケ目を持つものが多いが、第593図7のように見受けられないものもある。第593図8の甕は胴部の下位に最大径を持ち、口唇部は小波状を呈するのが特徴的である。口唇部が小波状を呈する土器は、石原遺跡からも出土しており、さらに波状が強くなった土器が、当遺跡から南西に3.4kmほど離れた古墳時代前期の集落である南小割遺跡から数多く出土している。南小割遺跡出土の強く波状を呈する土師器は、弥生土器を伴っていないことなどから当遺跡より後の時期とも考えられ、関連性が注目される。第110号住居跡の弥生土器と共伴した土師器は、外山遺跡の第5号住居跡から弥生土器と一緒に出土した土師器の様相と類似していることも記しておきたい。

(3) 古墳時代前期

次に、土師器だけが出土した住居は、古墳時代前期（4世紀代）の炉をもつ竪穴住居跡9軒である。調査区北部（1区）に5軒、南部（5区）に4軒である。小橋川や小支谷を望む台地の縁辺部に沿って立地し、南北に二つのグループに分かれる。住居の平面形は、（隅丸）方形が5軒（第1・37・38・104・129号）、（隅丸）長方形が3軒（第31・41・102号）、不明が1軒で、南北での形状の違いは見られない。規模は、長軸が長くても5m代であるが、第101号住居跡は、長軸8.14m、短軸7.34mと大きく、遺物として手捏土器（10個体以上）及び土玉（4個）が出土していることが注目される。祭祀的なことや潤沼前川や小橋川に挟まれたこの地で、漁労が行われていたことが想定できる。出土土器の様相からみて、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭から継続して、集落が営まれたことが窺える。

4世紀末には2度目の集落の終わりを迎え、古墳時代中期（5世紀代）から後期（6世紀代）の遺構は検出されない。しかし、石原遺跡では中期（5世紀代）の住居跡が、綱山遺跡や大塚遺跡では後期（6世紀代）の住居跡がそれぞれ検出されており、集落の移動を小橋川と潤沼前川に挟まれた地域で考える必要がある。

(4) 古墳時代後期

途絶えて後の古墳時代後期（7世紀代）になってからの遺構としては、調査1区の西部から住居跡1軒（第3号住居跡）と、2区の南部から1軒（第143号住居跡）が検出された。遺物としては土師器坏や長胴の甕が出土している。

2 奈良・平安時代

奈良・平安時代の主な遺構は、竪穴住居跡117軒・竪穴状遺構1基・掘立柱建物跡63棟・土坑25基・溝1条・粘土採掘坑5基である。この時代は大きな集落が形成された時期で、多くの土器が出土している。住居跡から出土した土器をⅠ～Ⅵ期の6期に区分し、その変遷を把握し、各時期の様相を述べていくことにする。

(1) 奈良・平安時代の土器の変遷

ここでは当時代の土器を、この時代のほぼ全体にわたってみられる須恵器坏の変化を中心に分類し、その変遷をみていくことにする。

なお、坏については形態や調整技法によって以下のように分類した。

- 土師器坏A類 丸底で半球形状を呈するもので、口縁部が内彎、外傾、直立するものがある。体部外面に手持ちヘラ削りを施すものである。
- B類 平底で体部が内彎気味に立ち上がるもので、口縁部が外傾、外反するものがある。体部外面に手持ちヘラ削りを施すものである。
- C類 丸底もしくは扁平な丸底で、底部と口縁部の境に稜を持つもの。体部外面に手持ちヘラ削りを施すものである。
- D類 平底で体部が内彎気味に立ち上がるもので、口縁部が外傾、外反するものがある。ロクロ成形のものである。
- 須恵器坏A類 丸底で口径と底径の差が小さく、底部外周に段があり、いわゆる二次底部面を有するもの。
- B類 平底で口径と底径の差が小さく、底部外周に段があり、いわゆる二次底部面を有するもの。
- C類 B類以外で平底のもの。

I 期（8世紀前葉）

食膳具は、土師器が目立つ段階である。

須恵器坏は丸底のA類、平底のB類、C類がみられる。

A類及びB類の底部及び外周部には、回転ヘラ削りが施されている。

C類は、いずれも底部に回転ヘラ削りが施されている。

A類・B類の坏は、大・中・小が確認され、大形が口径約14cm、中形が約口径12cm、小形が口径約10cmである。

土師器坏は丸底で半球形状を呈するA類（1～4）、平底で体部が内彎気味に立ち上がるB類（5～8）、丸底で口縁部との境に稜を持つC類（9～12）がみられる。いずれの坏も体部外面もしくは底部には手持ちヘラ削りが、口縁部には横ナデが施されている。A類のなかには黒色処理のされているもの（3）、B類のなかには底部に木葉痕を残すもの（5）がみられる。

須恵器蓋は、須恵器坏の大形と中形のもの口径と合うものが出土しており、それぞれの坏とセットになるものと思われる。口縁部にかえりが付くものと、口縁端部がわずかに垂下するものが認められる。形態的にかえりが付くものから、端部がわずかに垂下するものへと移行すると思われるが、当遺跡では両者が共伴するため明確に時期差として区別できないため、当該期に含めた。いずれの蓋も扁平なつまみが付き、天井部からならだらかに口縁部に至るもの、直線的に口縁部に至るもの、全体的に低く扁平なものがみられる。

須恵器高台付坏は、低い高台が底部の外側に付いており、高台径が大きい。当該期で1点認められる（34）。

煮沸具・貯蔵具は須恵器より土師器の占める割合が非常に多い。

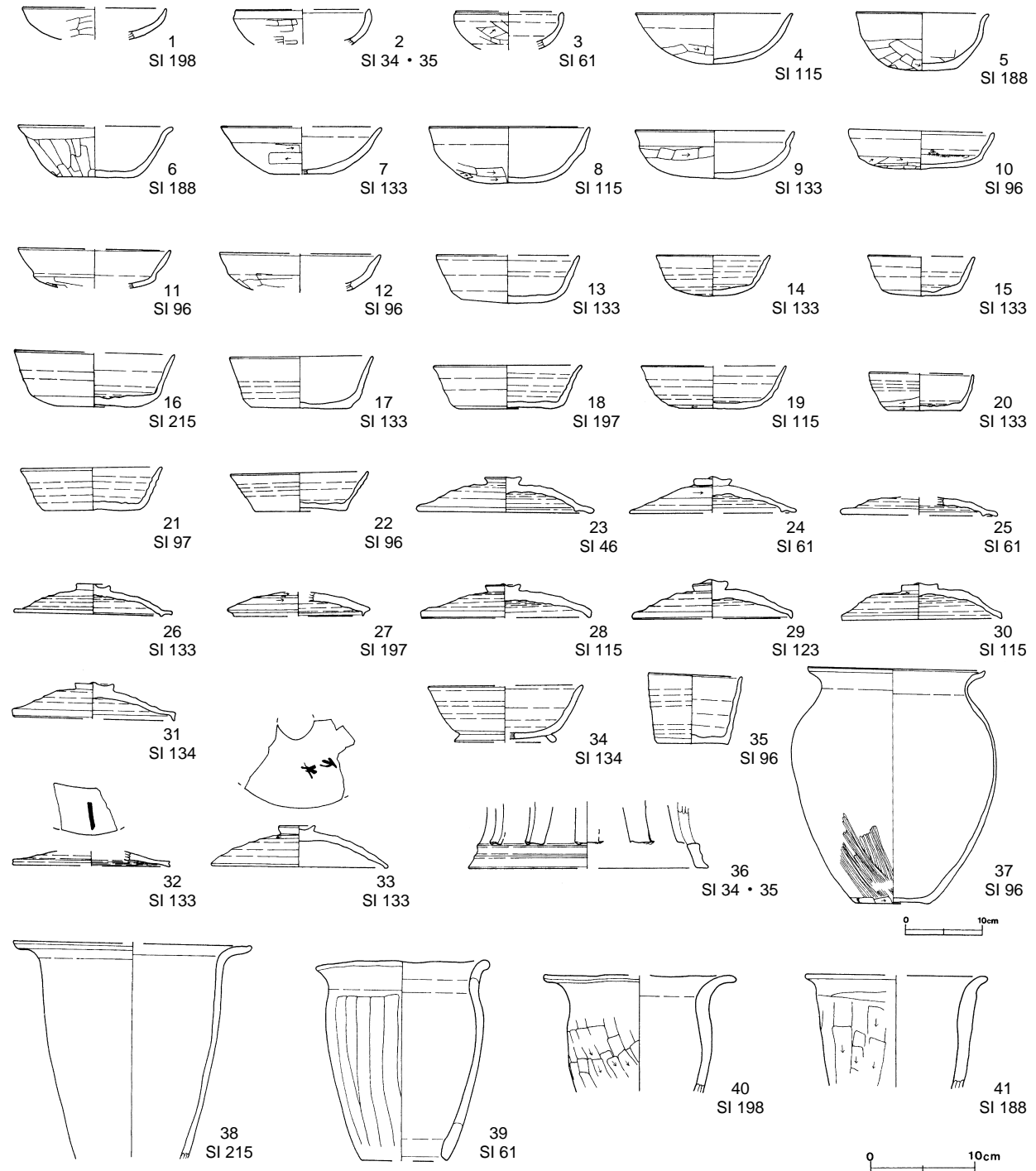
土師器甕は体部が内彎気味に、または、直線的に立ち上がり、口縁部が外反するものである。口縁部は外反度合いの弱いもの（39・41）と強いもの（38・40）がある。底部が確認できるものは1点のみであり、無底式である。調整は、口縁部が横ナデ、体部が横ナデまたは縦位のヘラ削りである。

土師器甕は、体部上位に最大径を持ち肩に張りのあるもので、口縁部のつまみ上げは明瞭でない。胴部下半

に縦位のへら磨きが、胴部下端に手持ちへら削りが施されている (37)。

須恵器甕は、破片であり、全容は不明である。縦位の平行叩きが施された体部片のほか、口縁上部に断面三角形の隆帯を持ち、体部外面に同心円叩きが施されたものもみられる。

その他に、須恵器円面硯 (36)、同小形鉢 (35) が出土している。



第594図 宮後遺跡 期の土器群

Ⅱ期 (8世紀中葉)

食膳具は、土師器が少なくなり須恵器が大部分を占めるようになる。

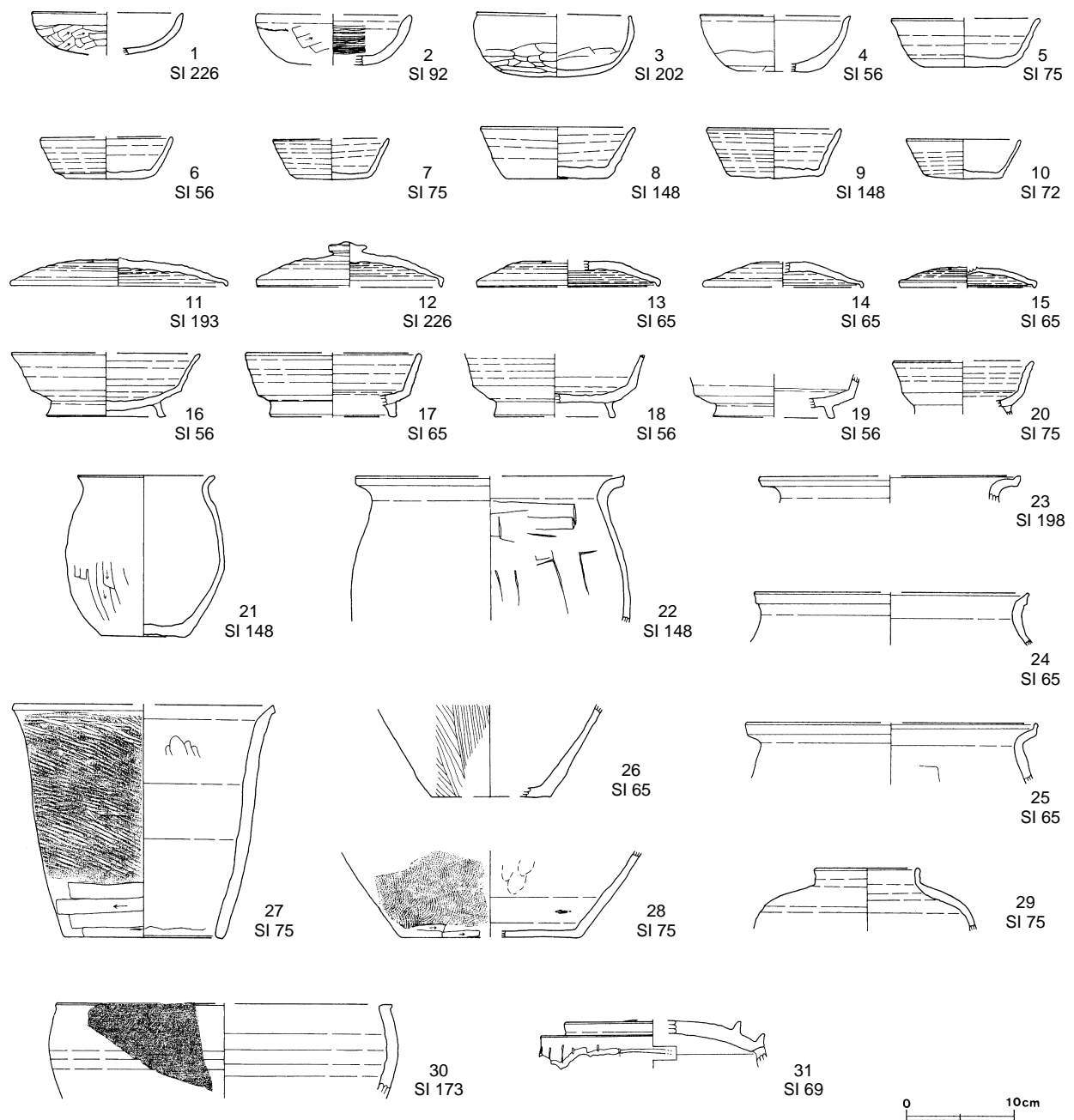
須恵器杯は平底のB類 (5~7)・C類 (8~10) がみられる。前段階と同様に大 (5・8)・中 (6・9)・小 (7・10) に分けられ、大形が口径約14cm, 中形が約口径12cm, 小形が口径約10cmである。いわゆる二次底

部面を有するB類の底部周縁は、回転ヘラ削りを施したものがみられる。B類及びC類の底部は、回転ヘラ削りを施したものが多く、ほかに回転ヘラ切り後、ナデまたはヘラナデを施したものもみられる。

土師器坏は丸底のA類（1～3）・平底のB類（4）がみられる。いずれも体部外面または底部にヘラ削りが、口縁部には横ナデが施されている。A類にはヘラ磨きが施され内面黒色処理されたもの（2）もみられる。

須恵器高台付坏は、当該期から増加する。高台は前段階のものより高くなり、より底部の内側につけられる。口縁部は、外傾するもの（17）と、外反するもの（16）がみられる。高台付坏は、大（16）・中（17）・小（20）に分けられ、大形が口径約19cm、中形が約口径16cm、小形が口径約13～14cmである。

須恵器蓋は、天井部はやや扁平であり、口縁端部は短く垂下している。つまみが確認できるものは1点で、扁平な擬宝珠状である。口径は、約20cmのもの、約16cmのもの、約14cmのもの、約12cmのものに分けられ、口径が約16cmのものは須恵器高台付坏とセットになるものと思われる。



第595図 宮後遺跡 期の土器群

煮沸具・貯蔵具は前段階に比べて、須恵器の占める割合が若干多くなって来る。須恵器甗（27）、鉢（30）、短頸壺（29）が新たに確認される。

土師器甗は、破片であり全容は不明であるが、体部下半に縦位のヘラ磨きが施されているもの（26）が確認されている。口縁部のつまみ上げは、前段階より明瞭になってくる（22～25）。また、当該期から体部下半に縦位のヘラ削りが施されている小形甗がみられる（21）。

須恵器甗も、破片であり全容は不明であるが、前段階と同様に外面に同心円叩きが施されたものも認められる（28）。

須恵器甗は、外面に横位の平行叩き、下端にヘラ削りが施された無底式のものである。

Ⅲ期（8世紀後葉）

食膳具は、当該期において、須恵器の占める割合が多くなり、器種も豊富になる。

須恵器坏はC類が中心となり、当該期において、前段階の浅身の坏に加えて、深身のものがみられるようになる（3～6）。計測値は、口径13～14cmのものがほとんどであり、なかに、口径約12cmとやや小振りのものもみられる。底部は、ヘラ切りのもので、ヘラ切り後にナデを施したものが多く、回転ヘラ削りのものもみられる。

土師器坏は、A類にヘラ磨きが施され、内面黒色処理のもの（1）が前段階に引き続いてみられる。当該期のものは、薄手で、口縁部内面に稜を持っている。体部外面にはヘラ削り後にナデが、口縁部には横ナデが施されている。

当該期から土師器高台付皿（2）が加わる。体部内・外面にはロクロナデが施され、底部は回転ヘラ切り後、高台を貼り付けている。

須恵器高台付坏は、前段階の一番大形のものが見られなくなり、口径が約16cmのもの（14）と口径約14cmのもの（15）が見られ、新たに口径約10cmのもの（16）が見られるようになる。口縁部は外反するものが多い。底部の調整は、いずれも回転ヘラ削りである。

須恵器蓋は、擬宝珠状のつまみを持ち、口縁端部が短く垂下する（7～13）。口径約16cmのものが確認され、須恵器高台付坏の口径の合うものとセットになると思われる。また、新たに擬宝珠状のつまみを持ち、口縁端部が長く垂下するもの（26・27）が見られ、それは短頸壺（28）の口径の合うものとセットになると思われる。計測値は、口径が約17cmのものと、口径が約13cmのものがある。

須恵器の器種で、当該期から新たに加わるものとして、盤（20・21）と高盤（17～19）がある。

須恵器盤は、口径約20cmのものと、口径約17cmのもの、大・小が確認される。底部は丸底気味で、体部と口縁部の境にはっきりとした稜をもっている。底部の調整は回転ヘラ削りである。

須恵器高盤は、裾が大きく開き、透かしを持つもの（17・19）と、持たないもの（18）がある。坏部の径が、約22cmと大形のもの（17）のほかに、脚部片からみて、中形と小形のものもあるようである。

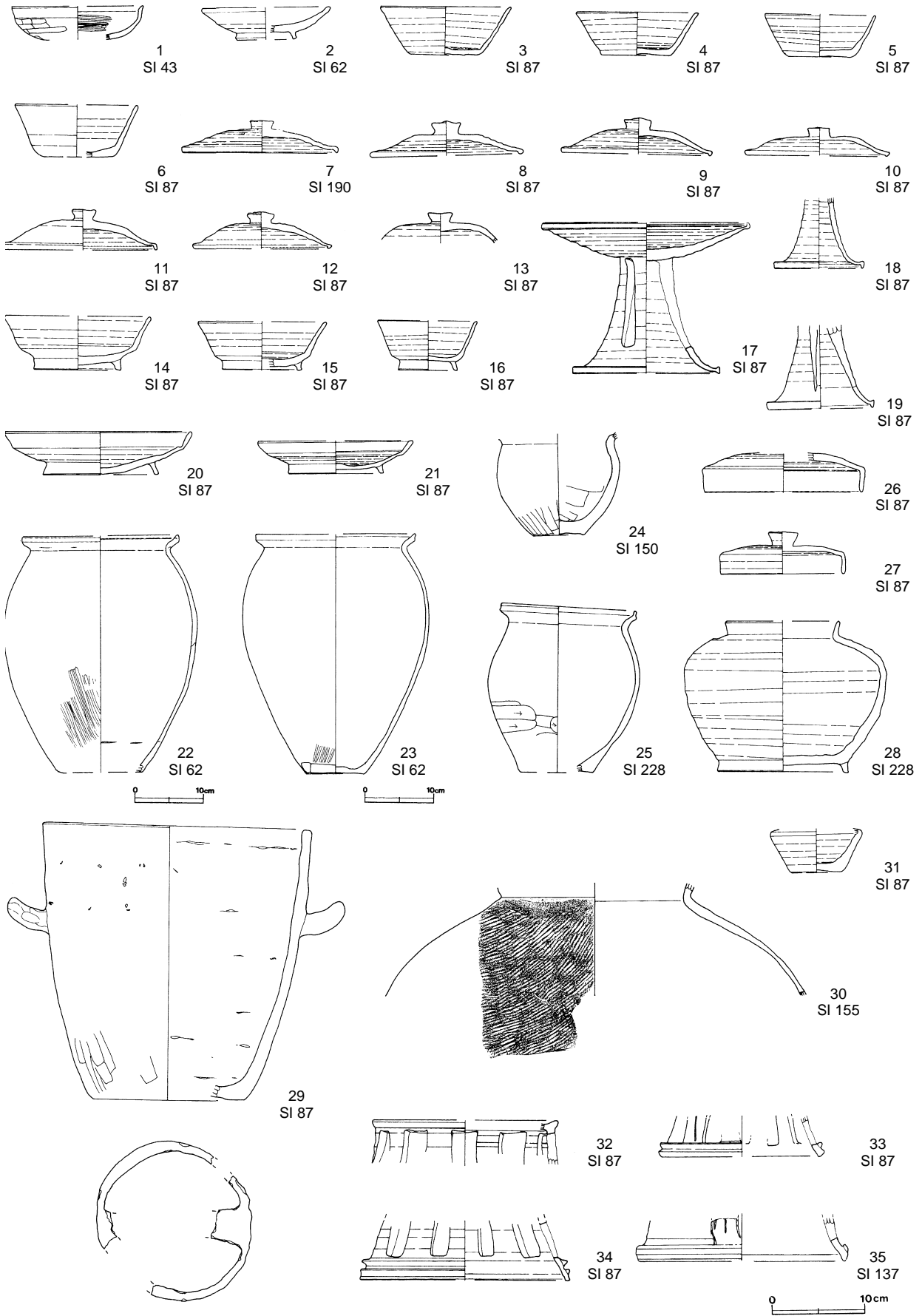
煮沸具・貯蔵具は、須恵器の割合は多くなるものの、依然として土師器が多い。

土師器甗は、口縁部をつまみ上げ、体部下半に縦位のヘラ磨きが施された常総型甗（22・23）が引き続いてみられる。

須恵器甗は、破片であり、全容は不明であるが、櫛歯状工具による波状文を施した口縁部片、斜位の平行叩きを施したもの（30）がみられる。

須恵器甗は、体部外面にロクロナデが、下端にヘラ削りが施され、把手の付く2孔式のもの（29）が新たにみられる。

その他に、須恵器小形短頸壺 (31)、同円面硯 (32~35) が出土している。



第596図 宮後遺跡 期の土器群

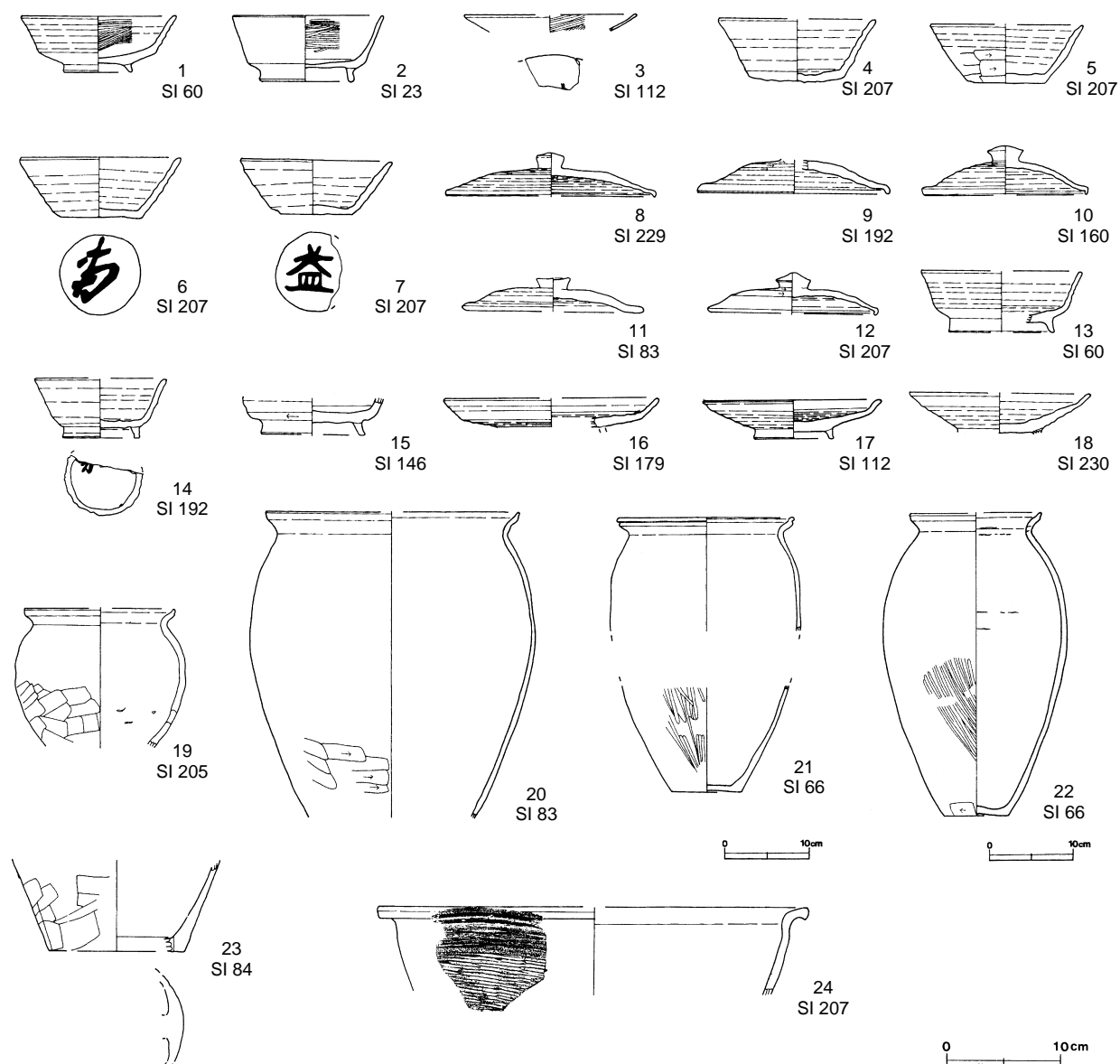
Ⅳ期（9世紀前葉）

須恵器坏は、当期以降C類のみになる。前段階と同様に、深身で、口径が13～14cmであるが、前段階のものよりも口径と底径との差が若干大きくなる（4～7）。底部の調整は、回転ヘラ削りのものが多く、ほかに、ヘラ削り後ナデのものと一方向の手持ちヘラ削りのものがみられる。

土師器坏は、当期において確認できず、食膳具では、土師器高台付坏が少量みられるだけになる。土師器高台付坏は、体部下端に稜を持つもの（1・2）であり、須恵器高台付坏を模倣したものと思われる。調整は、ヘラ磨きで内面に黒色処理が施されている。

須恵器高台付坏は、体部下端の稜が前段階のものよりも弱くなるもの（13～15）がみられる。計測値は、口径約14cmのもの（13）と、口径約11cmのもの（14）が確認される。

須恵器盤は、口縁部の屈曲が弱くなるもの（16～18）がみられる。



第597図 宮後遺跡 期の土器群

須恵器蓋は、前段階と同様に、擬宝珠状のつまみを持ち、口縁端部が短く垂下するもの（8～10・12）がほとんどであるが、ほかに、天井部が扁平で、口縁部が水平になり端部を丸く収めているもの（11）も1点確認

されている。口径14～15cmのもの、口径17～18cmのものがある。

煮沸具・貯蔵具は、前段階よりさらに須恵器の割合が増える。土師器の甑はみられなくなり、破片であり全容は不明であるが、須恵器の甑（23）のみとなる。

土師器甕は、大形のもので体部下半にヘラ磨きを施したもの（21・22）に加え、横位のヘラ削りを施したものの（20）がみられ、調整がヘラ削りのものは大（20）と小（19）に分けられる。長胴であり、口縁部は明瞭につまみ上げられている（22）。

須恵器甕は、破片であり全容は不明であるが、口縁部片は、前段階と同様に、波状文を施したものに、無文のものが確認される。

その他、須恵器高盤、同長頸瓶の破片が出土している。

V期（9世紀中葉）

食膳具は、前段階から一転して、土師器の占める割合が増え、器種も豊富になる。

須恵器坏は、前段階のものより口径と底径の差がさらに大きくなり、体部は直線的に大きく開くもの（13～15）がみられる。計測値は、口径が13～14cmである。調整は体部下端に回転ヘラ削りのものが極少量みられる。底部は、①回転ヘラ切りのもの、②回転ヘラ切り後、ヘラナデ及びびナデのもの、③回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り及びびヘラ削りのものがみられ、①と②のものが多い。

土師器坏は、ロクロ成形のD類がみられるようになる。口径と底径の差が大きいもの（3・4）と小さいもの（1・2）がみられ、それぞれ浅身のもの、深身のものがある。なかに口縁部が外反するものがみられる。計測値は、口径が約15cmでやや大形のもの、口径13～14cmのものがあり、後者が大部分を占める。

土師器鉢は、大形の坏ともいえるような浅身のもの（5）と、深身のもの（6）が極少量みられる。

土師器碗は、高台が低いもの（9・10）と、高いもの（7・8）があり、なかに口縁部が外反するものがある。計測値は、前者が口径約13cm前後、後者が口径約16cmである。

土師器高台付皿は、体部が直線的に立ち上がり口縁部に至るもの（11）と、内彎気味に立ち上がり口縁部が外反するもの（12）がある。口径が約15cmの大形のもの、口径が12～13cmの小形のものがある。

上記の土師器の調整は、ヘラ磨きでいずれも内面黒色処理が施され、体部下端及び底部は回転ヘラ削りである。

須恵器高台付皿は、当期から新たに加わる（21・22）。計測値は、口径14～15cmである。

須恵器盤（20）及び高台付坏（16～19）は、わずかにみられる程度になる。

煮沸具・貯蔵具は、依然として須恵器の占める割合が多い。

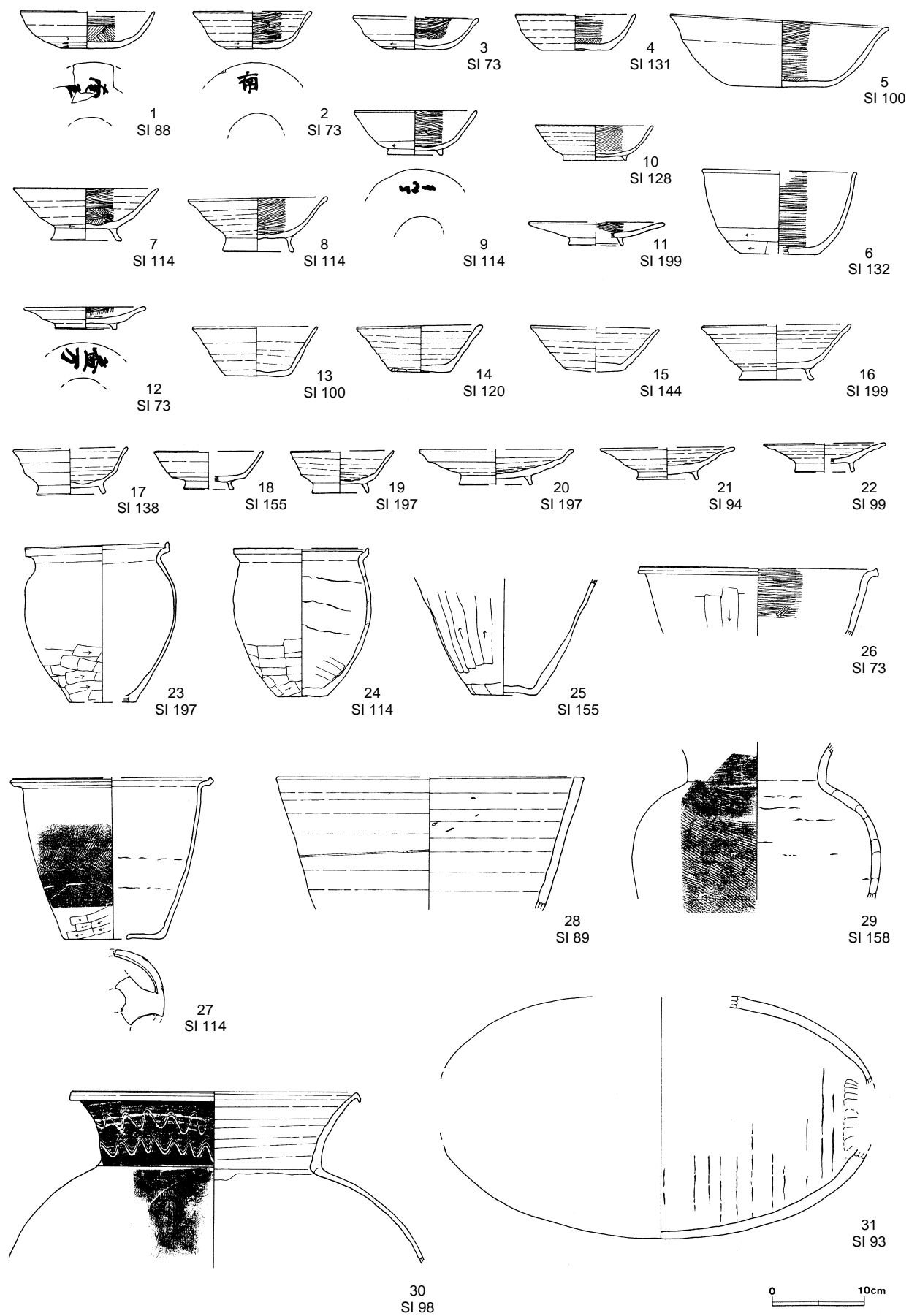
当期から、土師器の鉢形の甑が新たに加わる（26）。調整は、外面が縦位のヘラ削り、内面がヘラ磨きで、内面に黒色処理が施されている。

土師器の甕は、大形のもの全容は不明であるが、小形のもの（23・24）は体部が前段階よりもやや長胴化し、また、体部の最大径が口径とほぼ同じになる。体部下半には横位のヘラ削りが施されている。

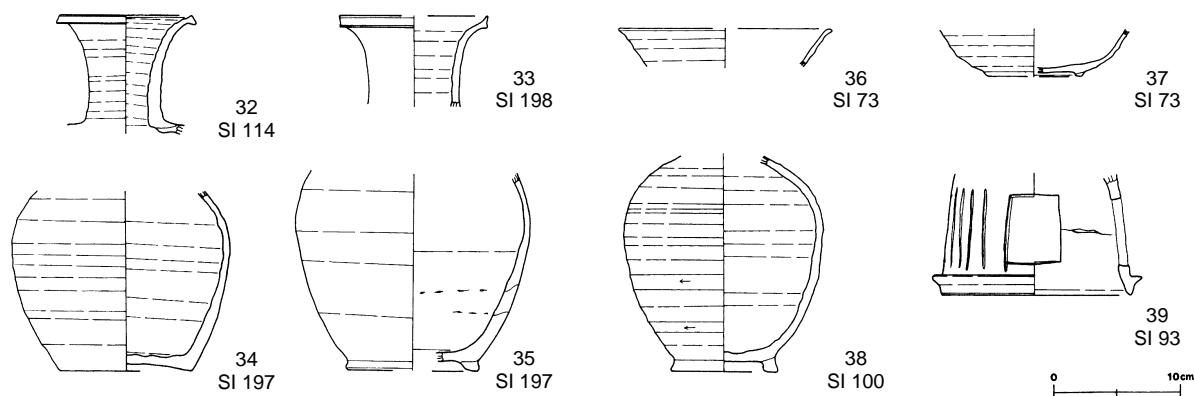
須恵器甕は、口縁端部が下方に突出し、肩の張りが弱くなる（30）。

須恵器甑は、直線的に外傾し、内・外面にロクロナデが施されたもの（28）がみられる。また、外面に格子目叩きが施されたもの（27）もみられる。

その他に、須恵器長頸瓶（32～35）、同横瓶（31）、同円面硯（39）、灰釉陶器碗（36・37）、同長頸瓶（38）が出土している。



第598図 宮後遺跡 期の土器群(1)



第599図 宮後遺跡 期の土器群(2)

Ⅵ期(9世紀後葉)

食膳具は、ほとんどが土師器で占められるようになり、須恵器は坏のみが少量みられる程度になる。

須恵器坏は、前段階より底径がわずかに拡大し、体部が内彎気味に立ち上がるもの(17・18)のみになる。

土師器坏は、D類のものであり、前段階のものと同様に、口径と底径の差が大きいものと小さいもの、浅身のものと同身のものが見られる。なかに口縁部が外反するものがある。計測値は、やはり口径13~14cmのものがほとんどであり、新たに口径約18cmの大形のもの(7)も見られる。

土師器高台付皿は、前段階のものと同様大きな変化は見られないが、なかに高台の高いもの(10)も見られるようになる。

土師器碗は、高台の低めのものが見られなくなる。また、体部が直線的に開く足高高台碗が1点認められる(13)。

土師器鉢は、前段階と同様大きな変化は見られないが、より大形のもの(15・16)が加わる。上記の土師器の調整は、坏に底部へラ磨きのもの1点、鉢に体部下端に手持ちへラ削りのもので1点みられるほかは、いずれもへラ磨きで内面黒色処理が施され、体部下端及び底部には回転へラ削りが施されている。

煮沸具・貯蔵具も、土師器の占める割合が多くなる。

土師器甕は、口縁部をつまみ上げたものほかに、口縁端部を丸く収めたもの(22)も見られるようになる。前者は破片であり、その全容は不明であるが、後者は縦位のへラ削りが施されている。

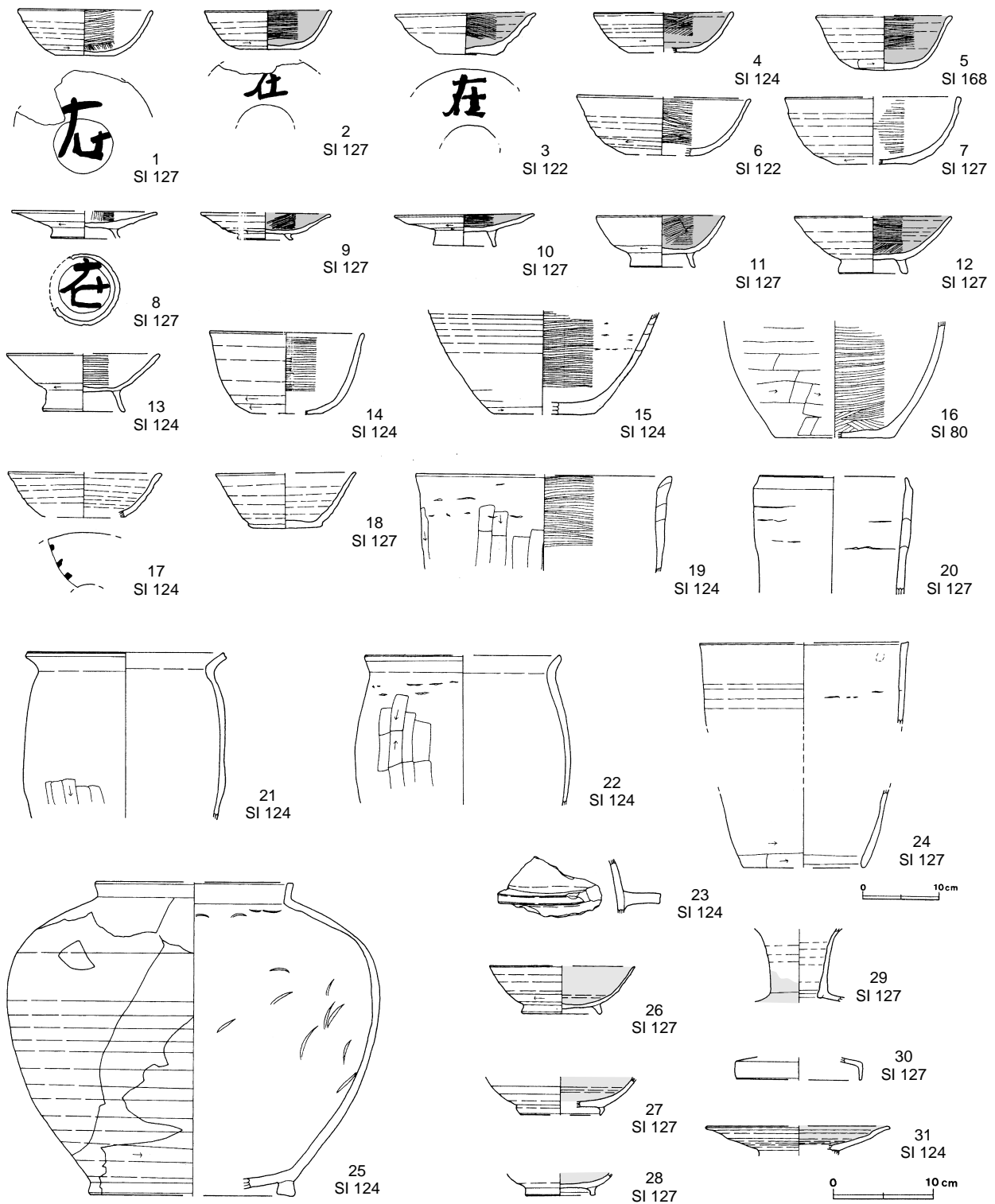
土師器甕も、口縁端部を丸く収めたもの(19)が認められる。調整は、内面がへラ磨き、外面が縦位のへラ削りで、内面に黒色処理が施されている。

土師器鉢は、筒状のもの(20)が見られる。また、当該期から、新たに土師器羽釜が加わる(23)。

須恵器甕は、ロクロナデが施されたもの(24)のみになる。

その他に、灰釉陶器碗(26~28)、同段皿(31)、同蓋(30)、同短頸壺(25)、同長頸瓶(29)が出土している。

以上のように、当遺跡の奈良・平安時代の土器は、6期にわたる変遷が認められる。各期の年代的な位置づけは、須恵器の多くが木葉下窯産の製品であることから、木葉下産須恵器の編年による年代観などを参考に、次のように考えておく。Ⅰ期は8世紀前葉、Ⅱ期は8世紀中葉、Ⅲ期は8世紀後葉、Ⅳ期は9世紀前葉、Ⅴ期は9世紀中葉、Ⅵ期は9世紀後葉である。



第600図 宮後遺跡 期の土器群

(2) 奈良・平安時代の集落変遷

ここでは、6期にわたる土器の変遷をもとに、住居跡及び主な出土遺物について各期の様相を述べる。



第601図 宮後遺跡 期の遺構群



第602図 宮後遺跡 期の遺構群



第603図 宮後遺跡 期の遺構群



第604図 宮後遺跡 期の遺構群



第605図 宮後遺跡 期の遺構群



第606図 宮後遺跡 期の遺構群

I 期（8世紀前葉）

この時期の住居跡は14軒で、調査1区に3軒、2区に4軒、3区に1軒、5区に6軒と遺跡の南部及び西部に集中している。この期は小支谷を挟んで立地する綱山遺跡や大塚遺跡との関連が強いと思われる。遺物は、第61・96・115・116・133・134号住居跡から刀子・鍬・鎌・鋤先・鉸具等の金属製品が出土している。中でも役人が使用する腰帯具（鉸具）が2軒の住居跡から1個ずつ出土していることが特筆され、第133号住居跡からは円面硯と墨書土器（「万益」カ）と金属製品（刀子・鎌・鉸具）が一緒に出土しており、宮後遺跡の中心的な家であったことや、土器に書かれた墨書からは、開墾や農作業を行うにあたって豊作を祈ったことが窺える。また、建て替えがあったと考えられる第34・35号住居跡からは、静岡県湖西産の須恵器の甕の口縁部片が出土していることも特筆される。また、第44号掘立柱建物が確認できたことから、この時期に5区には、堅穴住居以外に掘立柱建物が造られ始めたと考えられる。

II 期（8世紀中葉）

この時期の住居跡は10軒で、住居数の変化はあまり見られない。調査2区に5軒、3区に4軒、5区に1軒と遺跡の西部に集中しており、隣接する大塚遺跡との関連が考えられる。遺物は、第56・65・75号住居跡から金属製品（鍬・刀子）、紡錘車が出土している。

III 期（8世紀後葉）

この時期の住居跡は13軒で、調査1区に2軒、2区に5軒、3区に3軒、4区に1軒、5区に2軒と、どちらかといえば西部に集中しているが、遺跡全体に広がりを見せる。遺物は、第62・69・87・118・137号住居跡から刀子・鉄斧・鋤先の金属製品が、また、円面硯及び紡錘車が出土している。第87号住居跡からは、円面硯及び刀子と併せて「益」「万」等と墨書された土器が出土していることも注目される。文字は楷書体で書かれている。

IV 期（9世紀前葉）

この時期の住居跡は21軒で、前時期より倍近くに増え、人口の増加が窺われる。調査1区に1軒、2区に9軒、3区に3軒、4区に4軒、5区に4軒と遺跡の北部から中央部及び南部にまとまっている。今まで住居がなかった4区の小支谷の先端にも住居が構築されるようになる。遺物は、第66・84・86号住居跡から刀子・鍬等の金属製品が、第105号住居跡から緑釉陶器が出土している。緑釉陶器は、胎土が精選され、畿内周辺で作られたと考えられるものである。物資の集散地と考えられている奥谷遺跡に近いとは言え、貴重な物を入手できる基盤があったことが窺える。

V 期（9世紀中葉）

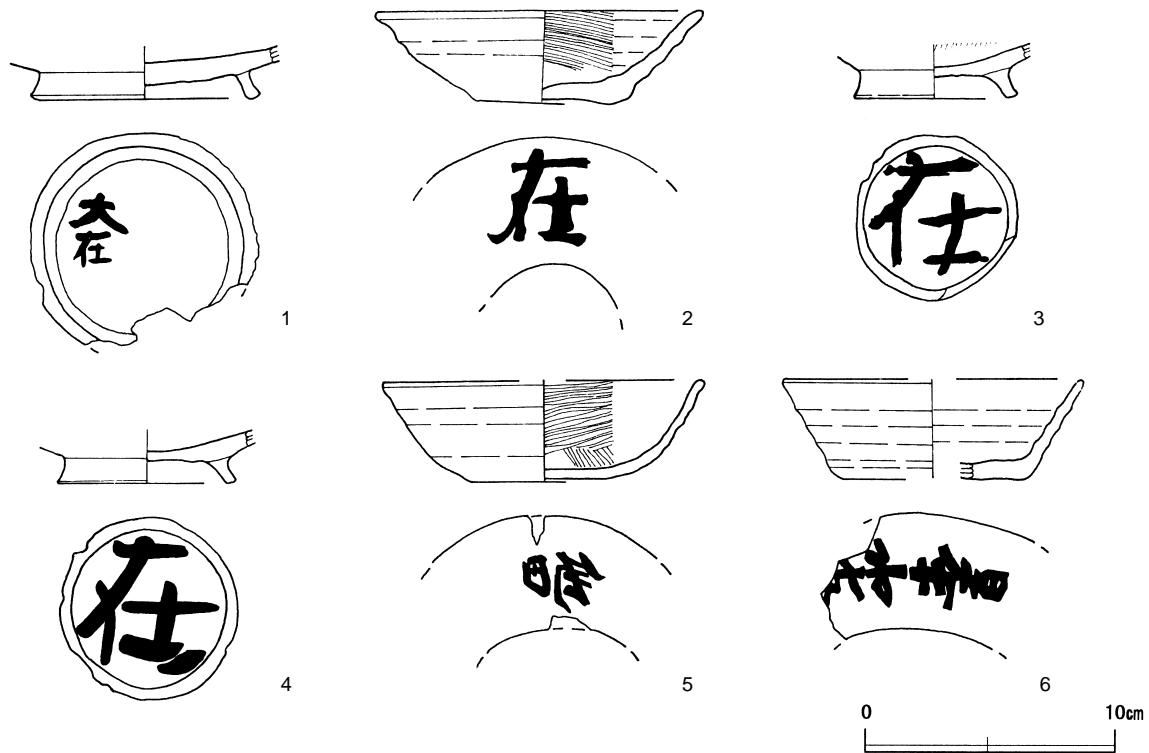
この時期の住居跡は33軒と前時期よりさらに増えて当遺跡での最大規模となる。掘立柱建物も住居同様に、この時期多く建てられたようである。調査1区に4軒、2区に8軒、3区に5軒、4区に6軒、5区に10軒で、やはり遺跡の南部にまとまっている。遺構数の増加は、人口の増加等が考えられる。遺物は、第55・57・88・93・94・95号住居跡から刀子・鎌・馬具等の金属製品が、第58・73・85・93・94・97・98・100号住居跡から円面硯や灰釉陶器がそれぞれ出土している。また、4区の住居跡の1軒をのぞき金属製品や灰釉陶器が出土しており、この時期の中心的な家が集まっていたと思われる。中でも第93号住居跡は、馬具の一部が出土していることから馬を飼っていたこと、灰釉陶器の出土から財力的基盤があったことも窺える。第88号住居跡からは、刀子が6本も出土し、また「南主」と書かれた墨書が出土していることが注目される。墨書土器は、33軒の住居跡中16軒から出土している。

VI期（9世紀後葉）

この時期の住居跡は10軒と前時期の約3分の1に減る。調査1区に3軒、3区に3軒、5区に4軒で、やはり遺跡の南部にまとまっている。住居の数は減るものの、5区では大型の第127号住居跡を中心にして、掘立柱建物がまわりに巡るように建てられていたことが考えられ、また、その第127号住居跡の出土遺物からも経済的に豊かな人々の存在が想像される。遺物は、第80・122・127号住居跡から刀子・鎌・鍬・火打金・鍵等の金属製品が、第122・124・127号住居跡から円面硯や灰釉陶器や腰帯具がそれぞれ出土している。第124号住居跡から出土した灰釉陶器は大形の短頸壺で、黒笹90号窯式段階のものと思われる。なお、掘立柱建物跡は短期間に建て替えが行われていたようである。5区の西部の第127号住居跡からは、大量の焼土等が検出され、その中から竹のようなものの炭化物や鍵などが出土している。焼土は、近くの掘立柱建物跡の柱穴からも出土しており、覆土の堆積状況から住居や掘立柱建物などが焼けた後、埋められたと思われる。焼土は住居等の壁材と思われ、近くの粘土採掘坑の粘土等を使用しているかどうか分析してみたが、成分が違うという結果が出た。当期以後の住居跡は確認できず、この時期をもって集落としての終焉を迎えると思われる。

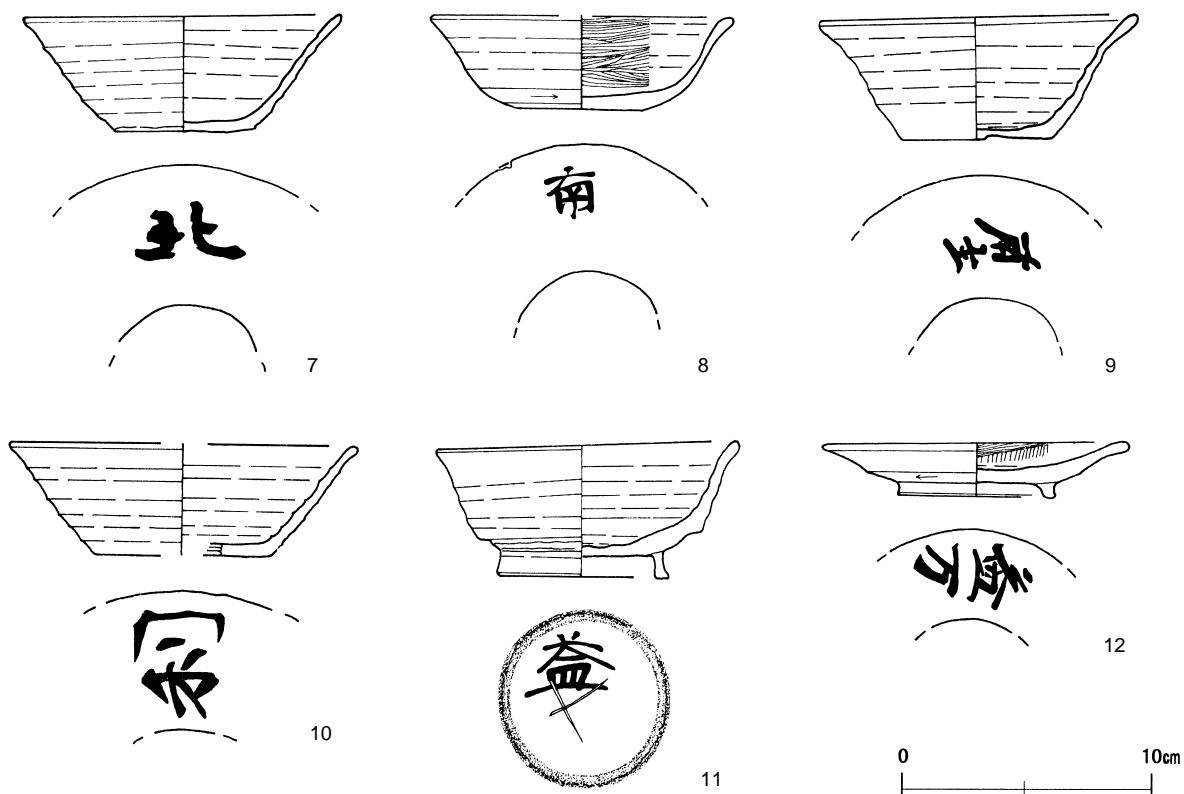
このほかに出土遺物から判断して平安時代と考えられる住居跡が13軒ある。

当遺跡の奈良・平安時代を特徴づけるものとして墨書土器がある。表18から、8世紀中葉から出現し、9世紀中頃にピークを迎え、9世紀の終わりに終焉したことが分かる。墨書土器の出土点数は119点あり、その内推定した文字を含めて判読できるものは108点ある。器種では土師器が全体の約70%を占め、須恵器は8世紀代に多い傾向があることが分かる。主な文字を挙げてみると、①名字（他田・日奉部：第594図5・6）、②吉祥的な文字（利・益万・万益・益：第594図10・11・12）、③方位を表すような文字（北・南・南主：第594図7・8・9）、④家がつく文字（子家・畠家・多了家・家）、⑤地域ないし集団を表すと思われる文字（大在・



第607図 宮後遺跡出土墨書土器（1）

1：遺構外 2：第122号住 3・4：第127号住 5：第105号住 6：第62号住



第608図 宮後遺跡出土墨書土器（2）

7：第132号住 8・11：第73号住 9：第49号住 10：第55号住 12：第62号住

在：第594図1～4），⑥その他（中上・村・生）等である。まず①の「日奉部」は、鹿の子C遺跡の漆紙文書にみられ、墨書土器としては県内で初めての出土である。墨書された須恵器坏の時期が、住居の時期と合わないことから、それらは投棄されたものと思われるが、石原遺跡では8世紀前半の第16号住居跡から出土している。宮後遺跡の近くにも「他田日奉部」を名乗る一族がいたことが想像できる。次に、8世紀中葉から出現し、9世紀後葉に多く出土する「在」という文字は、墨書全体の約40%を、5区で出土した文字の約64%を占めることから当集落の中心的な文字と言える。また、「在」という文字（第594図2・3・4）に筆跡の違いが見られ、文字の書ける人が、複数いたことが窺える。

当遺跡から小橋川沿いに遡った台地の大山原地区からは「前家□□」と墨書された須恵器坏が出土していること、当遺跡と隣接した大塚遺跡、綱山遺跡、石原遺跡の立地等から小橋川を挟んだ兩岸の台地上には、平安時代の大きな集落が存在したことが考えられる。

最後に紡錘車（石製や土製）の出土数は、4点と少ない。金属製のものは、出土していない。つまり、織物は宮後集落の特産物ではなかったと考えられ、鎌・鋤先などの農具の出土からこの集落は農業を基盤としていたと考えられる。

表 18 宮後遺跡墨書土器一覽

混入

時期	1 ~ 4 区			5 区		
	文字	器種・器形・部位・墨書方向	遺構	文字	器種・器形・部位・墨書方向	遺構
期 (8 C 前葉)				万益力 益力 在力 在	須・蓋・外・横 須・蓋・外 須・坏・底 須・高台付坏・外	SI133 ↓
期 (8 C 中葉)				在力	土・坏・底 土・坏・体・正	SI136 ↓2点
期 (8 C 後葉)	益 上(籠書) 日奉部古力 益 益 万 益	須・盤・底 須・坏・底 須・高台付坏・底 須・坏・体・横 石原遺跡SI16から出土 須・高台付坏・底 須・高台付坏・底 須・坏・底 須・坏・底 須・坏・底 須・高台付坏・底	SI36 SI150 SI74 SI62 ↓ SI87 ↓	在	須・坏・底 須・坏・底	SI137 ↓
期 (9 C 前葉)	万 万 益 益 南	須・坏・底 須・高台付坏・底 土・高台付坏・底 須・坏・底 須・坏・底 須・坏・底	SI192 ↓ SI205 ↓	他田 在	土・坏・体・横 土・高台付皿・体 須・坏・体 土・坏・体・正 土・高台付皿・底	SI105 SI112 ↓ SI130 ↓
期 (9 C 中葉)	利 益万 南 在力 家力 家力 南主 子家 家力 在 益 南主 益 在力	土・坏・体 須・坏・体・横 土・高台付皿・体・横 土・坏・体・正 土・坏・体・横 土・坏・体・横 須・坏・体・横 土・坏・体・横 土・坏・体・底 土・坏・体・横 土・坏・体・横 土・坏・体 土・高台付皿・体 土・高台付皿・体 須・坏・体・横 土・坏・底 土・坏・体・横 土・坏・体・正 須・坏・体・ 須・坏・体	SI55 ↓ SI73 ↓3点 SI93 ↓ SI88 ↓ SI94 ↓ SI189 SI197 ↓	中上力 在 畠家 家 家力 畠家 (籠書) 多了家 在力 在 在 在 北 万 在 十万 在力	土・坏・体・正 須・坏・体・横 土・坏・体・横 土・坏・体・横 土・高台付皿・体・横 土・高台付皿・体・横 須・坏・底 土・坏・体・横 土・坏・体 土・坏・底 土・高台付坏・体・横 土・高台付坏・底 土・高台付坏・底 須・坏・底 土・高台付坏・底 須・坏・体・正 須・高台付坏・底 土・坏・底 土・坏・底 土・坏・体	SI98 SI99 2点 SI100 ↓ SI114 ↓ SI128 SI131 ↓ SI132 ↓ SK824 ↓ SK943
期 (9 C 後葉)	在	土・坏・体・横 土・坏・底	SI47 SI67	大畠 家力 在 在 在力 在力 在力 在 在力 在力 在力 在力	土・坏・体・横 土・坏・体・横 土・坏・体・横 土・坏・体・正 土・坏・体・正 土・坏・体 土・坏・底 土・坏・体・横 須・坏・体・横 須・坏・体・横 土・坏・体・正 土・坏・体・正 須・坏・体・正	SI122 ↓ 4点 ↓ 4点 ↓ 2点 ↓ SI124 ↓2点 ↓2点

時期	1 ~ 4 区			5 区		
	文字	器種・器形・部位・墨書方向	遺構	文字	器種・器形・部位・墨書方向	遺構
				在 在 在力 在 在力 在 在力	土坏体 土坏体正 土坏底 土坏底 土高坏底 土高坏底 土高坏底 土高皿底 須坏底	SI127 3点 2点 4点 3点 2点 3点
時期不明 遺構外	北 在力 万	土坏体 土坏底 須坏体 須坏底	遺構外 ↓	大在 在力 大 在 益万力 南 在 在 在力 家 生 在力 寸 = 村力 大在 大在 前力	須坏底 土坏体正 須坏体横 土高坏底 土坏底 土高皿底 須坏底 土高皿体横 土坏体 土椀体横 土椀体横 土坏体 須坏底 須坏底 須坏底 須盤底 須坏底 土坏体	SB19 SB23 SB28 P38 P63 P76 P264 遺構外 2点

表 19 宮後遺跡の主な金属製品・灰釉陶器・円面硯等一覧

丸数字は出土点数

時期	1 ~ 4 区		5 区	
	遺物	住居跡	遺物	住居跡
期 (8世紀前葉)	円面硯 刀子	SI34・35 SI 61	刀子 鉄 鍬 鉄 鍬 紡錘車 鋤 先 鉸 具 鉤 刀子 円面硯 刀子 鎌 鉸 具 鉤 鉄 鍬	SI 96 ↓ SI 97 SI 115 ↓ SI 133 ↓ SI 134
期 (8世紀中葉)	鉄 鍬 刀子 紡錘車 鉄 鍬 刀子	SI 56 SI 65 ↓ SI 75 ↓	灰釉陶器	SI 136
期 (8世紀後葉)	円面硯 鉄 斧 刀子 円面硯 紡錘車	SI 69 SI 62 SI 87 ↓	鋤 先 円面硯	SI 118 SI 137

時期	調査区		5 区	
	1 ~ 4 区		遺 物	住 居 跡
期 (9世紀前葉)	刀子	SI 66	緑釉陶器	SI 105
	刀子	SI 84		
	刀子	SI 86		
	鉄 鏝	↓		
期 (9世紀中葉)	灰釉陶器	SI 197	灰釉陶器	SI 98
	刀子	SI 55	灰釉陶器	SI 100
	鎌	SI 57	紡錘車	SI 128
	灰釉陶器	SI 58		
	灰釉陶器	SI 73		
	灰釉陶器	SI 85		
	刀子	SI 93		
	鎌	↓		
	馬 具			
	円面硯			
	灰釉陶器	↓		
	刀子	SI 95		
	刀子	SI 88		
	鎌	↓		
刀子	SI 94			
期 (9世紀後葉)	鎌	↓	鉄 鏝	SI 122
			円面硯	↓
			灰釉陶器	SI 124
			灰釉陶器	↓
			腰帯具	SI 127
			刀子	↓
			鎌	
			鉄 鏝	
			火打金	
			鍵	
			円面硯	
		灰釉陶器	↓	

3 中・近世

中世の遺構として堀1条，地下式塋18基，竪穴状遺構11基，粘土貼土坑1基，土坑墓1基，井戸跡7基，道路状遺構1条が検出された。平安時代（9世紀後葉）に集落としての機能がなくなってから，しばらく間をおいて14世紀代にコの字状の堀が掘られた。当時は，大戸氏がこの一帯を治めていたと思われるが，居城の所在地は不明である。当遺跡付近に城館が存在した記述がないため，堀等の遺構の性格は不明である。第1号竪穴状遺構は，長軸5.59m，短軸2.88mの長方形で，柱穴が2か所並び，東壁側にスロープを持っている。その形態から倉庫と思われ，堀の内側の中央部付近にあることから堀に伴うものと思われる。堀は15世紀代に廃絶され，踏み固めの状況から，埋没する過程で通路として利用されたと考えられる。

15世紀後半から地下式塋（第1号）が造られ始めた。第3号地下式塋は，15世紀後半から16世紀前半に位置づけられることや堀の内外に存在することから，1世紀ほどの間に地下式塋は造られたと思われる。また，地下式塋や遺構外から茶臼が，それぞれ出土している。当時，お茶は武士や上流階級しか嗜まなかったようであることから，有力な人がいたと考えられる。また，第4号井戸跡は断面形がラッパ状で，錠状の掘り込みを持っている。ここから常滑産と瀬戸産の15世紀後半から16世紀前半に位置づけられる陶器が出土している。同じ錠状の掘り込みを持つ第5号井戸跡からは，馬の骨が出土している。これらの状況から廃棄時に祭祀的なことが行われたことが考えられる。

その後、当遺跡のある近藤地区は、16世紀後半に佐竹氏の所領に、さらに江戸時代には旗本領となり、「今藤」という名が文書に登場した。

以上のことから、当遺跡は、縄文時代から中・近世まで人々の生活の舞台となった複合遺跡であることが明らかになった。

註

- 1) 川又清明 「澗沼前川流域における弥生時代後期の遺跡の分布状況」『研究ノート』第9号 茨城県教育財団 2000年6月
- 2) 海老澤稔 『東日本弥生時代後期の土器編年』〔第2分冊〕茨城県 東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会 2000年1月
- 3) 茨城県教育財団「やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 石原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第163集 2000年3月
- 4) 山本静男 「外山遺跡5号住居跡についての一考察」『年報』3 茨城県教育財団 1984年3月

参考文献

- ・飯島一生 「北関東自動車(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 矢倉遺跡・後口原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第135集 1998年3月
- ・長谷川聡 「北関東自動車(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大作遺跡・大畑遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第136集 1998年3月
- ・中村敬治・江幡良夫 「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 南小割遺跡・権現堂遺跡・親塚遺跡・後原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第129集 1998年3月
- ・茨城県考古学協会 『茨城県における弥生時代研究の到達点～弥生時代後期の集落構成から～』 1999年11月
- ・黒沢彰哉 「茨城県における古式土師器の問題」『婆良岐考古』第3号 婆良岐考古同人会 1981年3月
- ・海老澤稔 「十王台式と伴出する土器群の考察」『婆良岐考古』第9号 婆良岐考古同人会 1987年5月
- ・佐藤次男 「茨城における弥生時代終末期の様相－とくに十王台式土器と五領式土器の共存関係について」『考古学叢考』下巻 吉川弘文館 1988年10月

付 章

宮後遺跡第110・115号住居跡出土土器及び 第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び鉱物組成等について

茨城県工業技術センター窯業指導所

1. 目 的

茨城町宮後遺跡から出土した土器片と第4号粘土採掘坑から採取した粘土2種の元素組成及び鉱物組成分析を行い、これらから当該粘土が土器片の原料か否かの推定を行った。

2. 調査対象試料

茨城町大字近藤222-3 茨城町宮後遺跡：第110・115号住居跡及び第4号粘土採掘坑

- 試料① 土器片：IS-1 / SI-115 / 1区
- 試料② 土器片：IS-1 / SI-115 / 3区 上層
- 試料③ 土器片：IS-1 / SI-115 / 1区 中層
- 試料④ 土器片：IS-1 / SI-110 / 3区 上層
- 試料⑤ 白粘土：IS-1 / 第4号粘土採掘坑
- 試料⑥ 粘 土：IS-1 / 第4号粘土採掘坑

3. 測定項目及び測定方法

(1) 元素組成

試料を100℃で乾燥させた後、タングステンカーバイド製振動ミルにより粉碎し、蛍光X線分析に供した。

蛍光X線分析はガラスビート法（四ほう酸リチウム：試料=10：1希釈）により前処理後、蛍光X線分析装置を用い、周期律表でNa以上の元素の測定を行った。

(2) 鉱物組成

試料を風乾させた後、タングステンカーバイド製振動ミルにより粉碎し、分析に供した。鉱物組成は、X線回析（粉末法）により測定した。

4. 測定結果

(1) 元素組成分析結果

元素組成分析結果を表1に示す。各試料の主構成元素は表1に示した10成分であり、他の元素はほとんど検出されなかった。

表 1 元素組成分析結果

試料名	SiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	TiO ₂	MnO	CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O	P ₂ O ₅
試料 IS-1 / SI-115 / 1 区	67.00	23.73	4.05	1.08	0.00	1.03	0.47	1.26	1.29	0.09
試料 IS-1 / SI-115 / 3 区上層	70.46	22.14	3.57	0.11	0.00	0.41	0.40	1.29	0.97	0.65
試料 IS-1 / SI-115 / 1 区中層	69.78	22.63	3.53	1.09	0.00	0.42	0.31	1.24	0.96	0.04
試料 IS-1 / SI-110 / 3 区上層	66.04	24.19	5.91	0.90	0.00	0.36	0.37	1.29	0.85	0.10
試料 IS-1 第 4 号粘土採掘坑白 粘土	55.50	32.88	4.66	0.88	0.00	2.53	1.57	0.71	1.16	0.11
試料 IS-1 / 第 4 号粘土採掘坑 粘土	65.94	22.35	7.11	1.48	0.11	0.80	0.62	0.99	0.60	0.00

(2) 鉍物組成分析結果

鉍物組成分析結果を図 1 - 1 ~ 図 1 - 6 及び表 2 に示す。

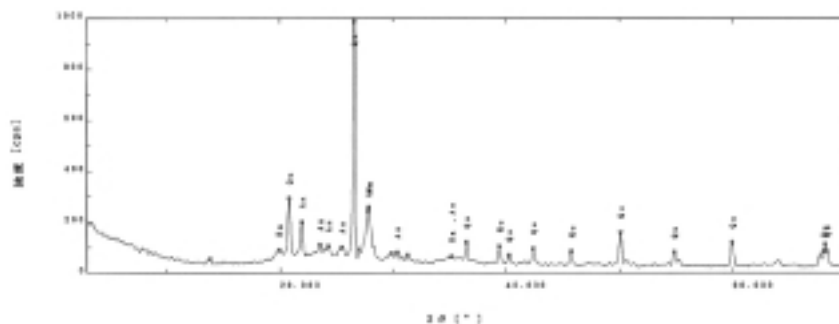


図 1 - 1 X線回析試験結果 試料 土器片 : IS - 1/SI - 115/ 1 区

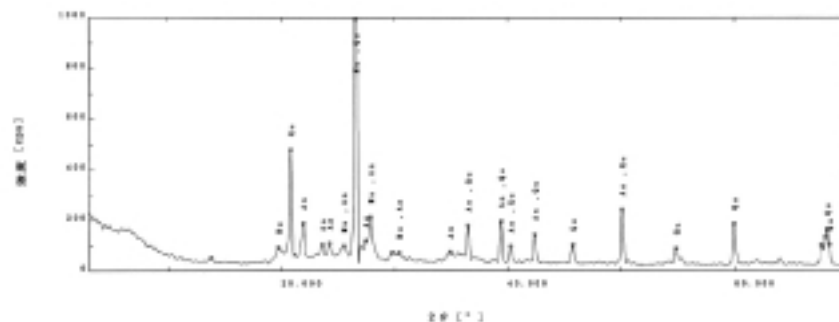


図 1 - 2 X線回析試験結果 試料 土器片 : IS - 1/SI - 115/ 3 区 上層

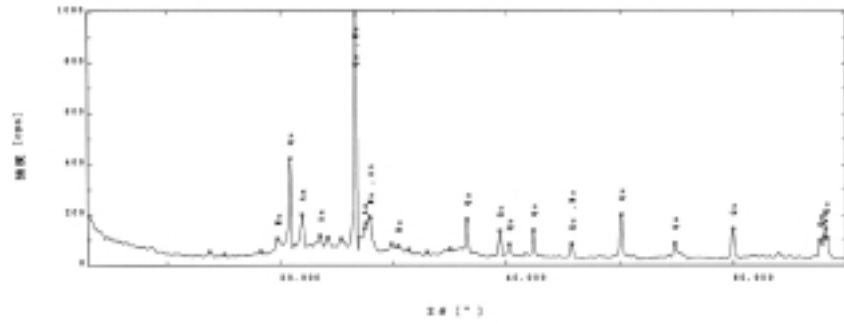


図 1 - 3 X線回析試験結果 試料 土器片：IS-1/SI-115/ 1区 中層

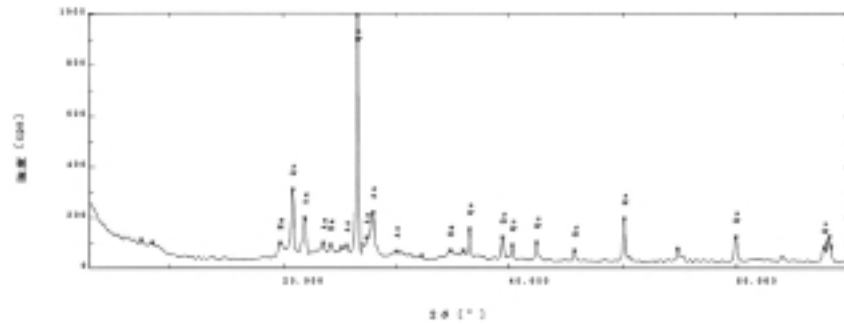


図 1 - 4 X線回析試験結果 試料 土器片：IS-1/SI-110/ 3区 上層

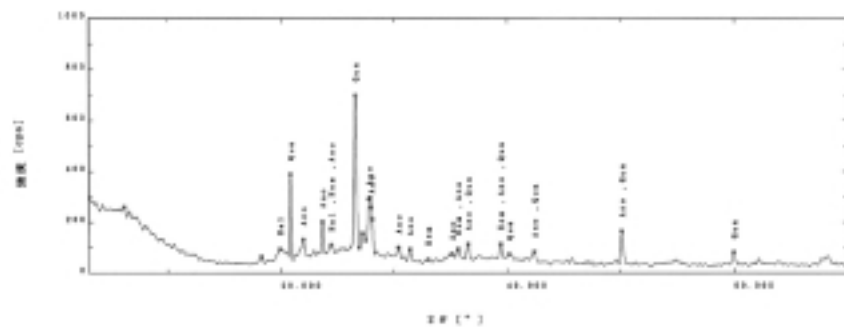


図 1 - 5 X線回析試験結果 試料 白粘土：IS-1/第4号粘土採掘坑

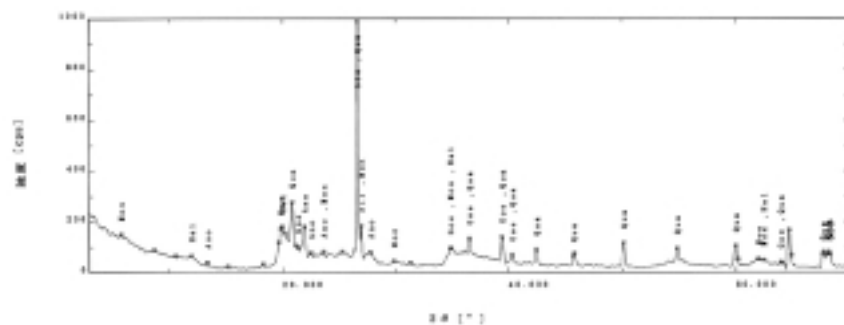


図 1 - 6 X線回析試験結果 試料 粘土：IS-1/第4号粘土採掘坑

凡例 Qu：石英 (SiO₂) An：アノサイト (長石類) Mu：ムスコサイト (雲母類) Ha：ハイクサイト (粘土類)
 Mo：モネイト (粘土類) Al：アルロン (粘土類) He：ヘクトサイト (酸化鉄)

各土器片の鉱物組成は図1-1～1-4及び表2から、試料②、③は石英／長石／雲母系のほぼ同様の組成であり、試料①及び④は石英／長石／粘土系の組成であった。しかし、第4号粘土採掘坑の粘土2種とは大きく組成が異なり、特に石英の含有割合が大きく異なっている。

表2 宮後遺跡出土土器片の鉱物組成 (同定した鉱物及び簡易定量値)

鉱物種		鉱物名	5IS-1 /	3IS-1 /	5IS-1 /	3IS-1 /	粘土採掘坑 白粘土	粘土採掘坑 粘土
			SI-115 / 1区	SI-115 / 3区 上層	SI-115 / 1区 中層	SI-110 / 3区 上層		
石英	33-1161	Quartz	82 %	87 %	87 %	81 %	63 %	68 %
長石類	09-0465	Anorthite, sodian, orderd	13 %		9 %	11 %		
	18-1202	Anorthite, sodian, intermediat					26 %	
	20-0528	Anorthite, sodian, orderd		10 %				7 %
雲母類	25-0649	Muscovite- 2 m # 2, calcian						
	34-0175	Muscovite- 2 m # 2		3 %	4 %			2 %
粘土類	29-1487	Halloysite-7 A	5 %			8 %	8 %	7 %
	09-0451	Halloysite-10 A						1 %
	13-0259	Montmorillonite-14 A						
	38-0449	Allophane						8 %
その他	33-0664	Hematite, syn					2 %	
	29-0713	Goethite						

5. 考察：元素組成および鉱物組成分析結果に基づく出土品に関する考察

元素組成分析結果をIg.lossを除いた珪酸分 (SiO₂)、アルミナ分 (Al₂O₃) アルカリ土類成分 (CaO + MgO)、アルカリ成分 (Na₂O + K₂O) および鉄分 (Fe₂O₃) のグループにまとめ、土器片4種を図2に示す。

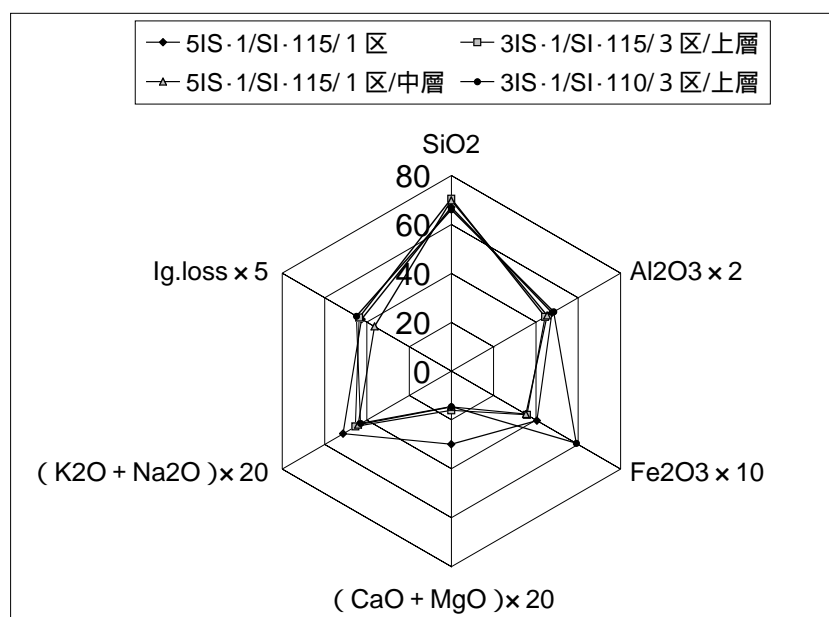


図2 元素組成比較：宮後遺跡出土土器片

図2から試料②3IS-1 / SI-115 / 3区上層と試料③：5IS-1 / SI-115 / 1区中層はほぼ同じ元素組成

であった。また、試料①：5IS-1/SI-115/1はFe₂O₃（鉄分）がやや多く含まれるほかは前者とほぼ同じ組成であった。

次に、第4号粘土採掘坑採取粘土2種と各土器片の元素組成比較を図3-1～3-4に示す。

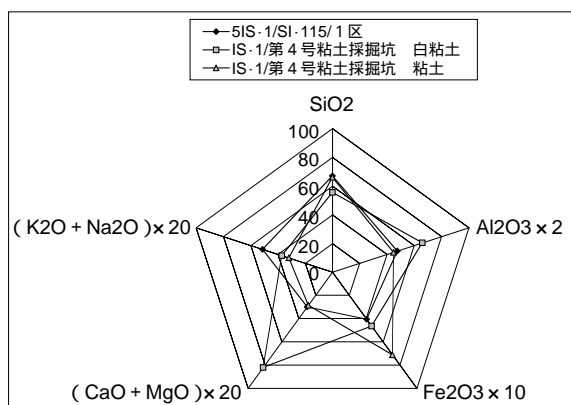


図3-1 元素組成比較：5IS-1/SI-115/1区と粘土

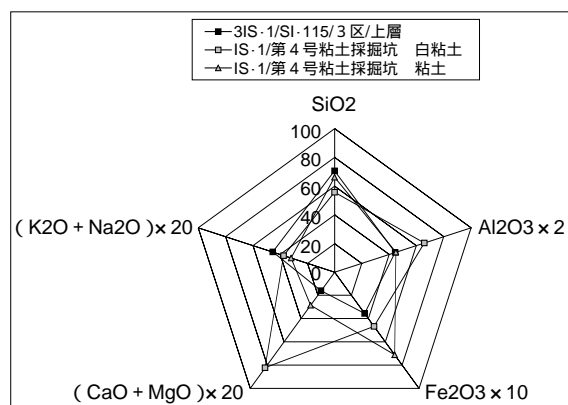


図3-2 元素組成比較：3IS-1/SI-115/3区/上層と粘土

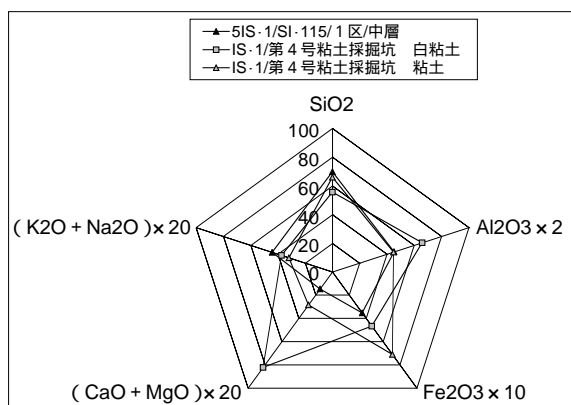


図3-3 元素組成比較：5IS-1/SI-115/1区/中層と粘土

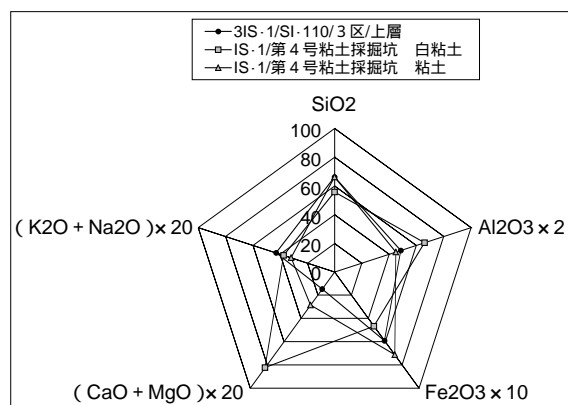


図3-4 元素組成比較：3IS-1/SI-110/3区/上層と粘土

図3-1から試料①の元素組成は第4号粘土採掘坑採取粘土2種と異なり、2種の粘土の混合とも考えられない。試料②、試料③及び試料④も図3-2、図3-3及び図3-4から、同様に異なる材質であると考えられる。

鉱物組成についても試料②、③が石英/長石/雲母系、試料①・④が石英/長石/粘土系と土器片の鉱物組成には差異があるが、両者との石英の含有割合が第4号粘土採掘坑の粘土2種と比較高い割合であることが判明した。

以上のことから各土器片は、粘土採掘坑から掘り出された粘土だけで製作されたのではない推察できる。

6. まとめ

- ・ 蛍光X線分析による各試料の主構成元素は通常土壌等に含有される10成分であり、他の元素はほとんど検出されなかった。
- ・ X線回折の結果から試料②③が石英/長石/雲母系、試料①④が石英/長石/粘土系の鉱物組成であり、第4号粘土採掘坑採取粘土よりも高い石英の含有量であった。
- ・ 各土器片の原料は、第4号粘土採掘坑の粘土が原料と仮定しても、これらの材料だけで作られたものとは考えられない。

宮後遺跡第127号住居跡覆土及び 第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び鉱物組成等について

茨城県工業技術センター窯業指導所

1. 目的

茨城町宮後遺跡から出土した壁材と思われる焼土と焼土を埋めていたと考えられる土（埋め土）が同じまたは異なるものかの判定を行うために、元素組成及び鉱物組成分析を行った。また、壁材としたと思われる当遺跡の第4号粘土採掘坑から採取した粘土2種について同様の測定を行い、材質的な知見から当該粘土が第127号住居跡の壁材か否かの判定を行った。

2. 調査対象試料

茨城町大字近藤222-3 茨城町宮後遺跡：第127号住居跡及び第4号粘土採掘坑

試料① 焼土：IS-1 / SI-127

試料② 埋め土：IS-1 / SI-127

試料③ 白粘土：IS-1 / 第4号粘土採掘坑

試料④ 粘土：IS-1 / 第4号粘土採掘坑

3. 測定項目及び測定方法

(1) 元素組成

試料①, ②, ③, ④について行った。

試料を100℃で乾燥させた後、タングステンカーバイド製振動ミルにより粉碎し、蛍光X線分析に供した。

蛍光X線分析はガラスビート法（四ほう酸リチウム：試料=10：1希釈）により前処理後、蛍光X線分析装置を用い、周期律表でNa以上の元素の測定を行った。

(2) 鉱物組成

元素組成と同様に試料①, ②, ③, ④について行った。

試料を風乾させた後、タングステンカーバイド製振動ミルにより粉碎し、分析に供した。鉱物組成は、X線回析（粉末法）により測定した。

4. 測定結果

(1) 元素組成分析結果

元素組成分析結果を表1に示す。各資料の主構成要素は表に示した12成分であり、他の元素はほとんど検出されなかった。

表 1 元素組成分析結果

試料名	Ig.loss	SiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	TiO ₂	MnO	CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O	P ₂ O ₅	total
試料 IS-1 / SI-127 焼土	8.05	47.86	26.42	9.04	1.19	0.16	0.65	1.38	1.04	0.59	0.19	96.57
試料 IS-1 / SI-127 埋め土	12.26	52.59	19.62	7.17	1.00	0.20	1.12	1.29	0.98	0.77	0.25	97.25
試料 第4号粘土採掘 坑白粘土	15.22	46.08	27.30	3.87	0.73	0.00	2.10	1.30	0.59	0.96	0.09	98.24
試料 第4号粘土採掘 坑粘土	9.59	58.32	19.77	6.29	1.31	0.10	0.71	0.55	0.88	0.53	0.00	98.05

(2) 鉱物組成分析結果

鉱物組成分析結果を図1-1～図1-4及び表2に示す。

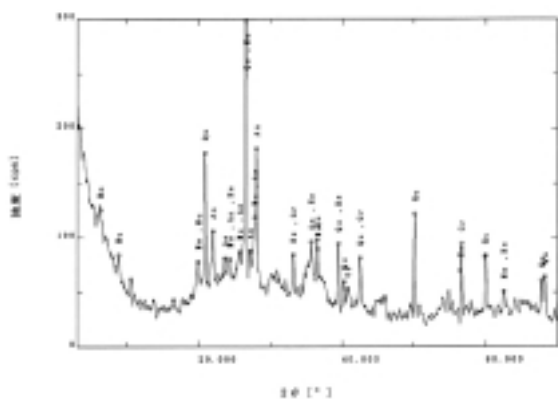


図1-1 X線回析測定結果：試料 焼土

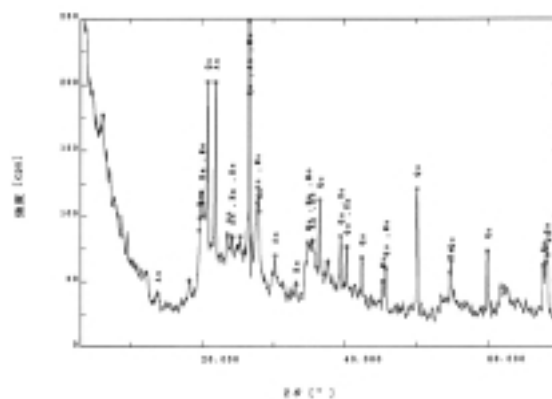


図1-2 X線回析測定結果：試料 埋め土

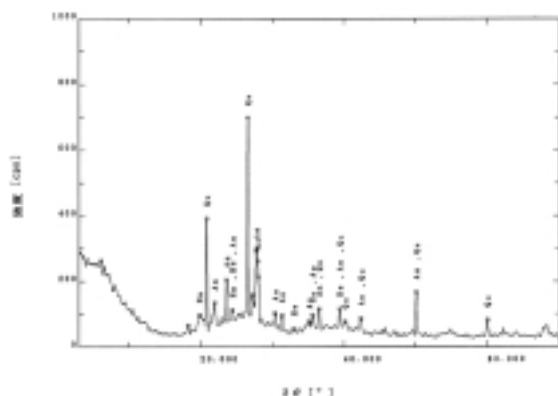


図1-3 X線回析測定結果：試料 白粘土

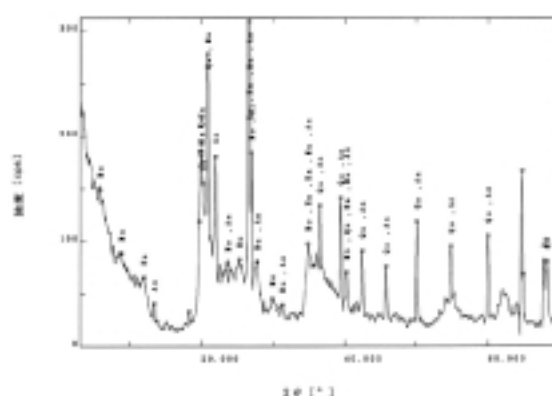


図1-4 X線回析測定結果：試料 粘土

凡例 Qu：石英 (SiO₂) An：アノサイト (長石類) Mu：ムスコサイト (雲母類) Ha：ハイクサイト (粘土類)
Mo：モントモサイト (粘土類) Al：アルモン (粘土類) He：ヘマタイト (酸化鉄)

表 2 鉱物組成分析結果

		鉱物名	試料	試料	試料	試料
			SI-127 焼土	SI-127 埋め土	粘採坑白粘土	粘採坑 粘土
石英	33-1161	Quartz	66 %	71 %	63 %	68 %
長石類	09-0465	Anorthite, sodian, orderd	12 %	9 %		
	18-1202	Anorthite, sodian, intermediat			26 %	
	20-0528	Anorthite, sodian, orderd				7 %
雲母類	25-0649	Muscovite- 2 m # 2, calcian	2 %	4 %		
	34-0175	Muscovite- 2 m # 2				2 %
粘土類	09-0453	Halloysite-7 A		3 %		
	29-1487	Halloysite-7 A			8 %	7 %
	09-0451	Halloysite-10 A				1 %
	29-1498	Montmorillonite-15 A	11 %	10 %		
	38-0449	Allophane				8 %
その他	33-0664	Hematite, syn	1 %	3 %	2 %	
	03-0801	Grossular, hydroxylian	8 %			

各試料から石英，アノーサイト（長石）を同定した。試料①，②，④からマスコバイト（白雲母），試料②，③，④からハロサイト，試料①，②からモンモリロナイトを試料①，②，③からヘマタイト（酸化第二鉄）を同定した。試料①焼土からGrossular, hydroxylian (CaAl₂ (SiO₄, Co₃, OH)) を，試料④からアロフェンを同定した。これらの鉱物は他試料からは同定できなかった。なお，試料①，②から同定したモンモリナイトの存在を確定するにはさらに確認作業が必要である。

5. 考察：元素組成及び鉱物組成分析結果に基づく出土品に関する考察

元素組成分析結果をI_g.lossを除いた珪酸分 (SiO₂)，アルミナ分 (Al₂O₃) アルカリ土類成分 (CaO + MgO)，アルカリ成分 (Na₂O + K₂O) および鉄分 (Fe₂O₃) のグループにまとめ，焼土と埋め土を図2に，焼土と4号粘土採掘跡粘土2種を図3に示す。

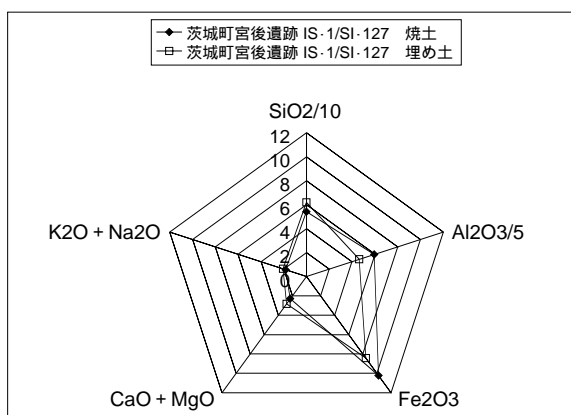


図 2 宮後遺跡 IS-1/SI-127：焼土及び埋め土の元素組成

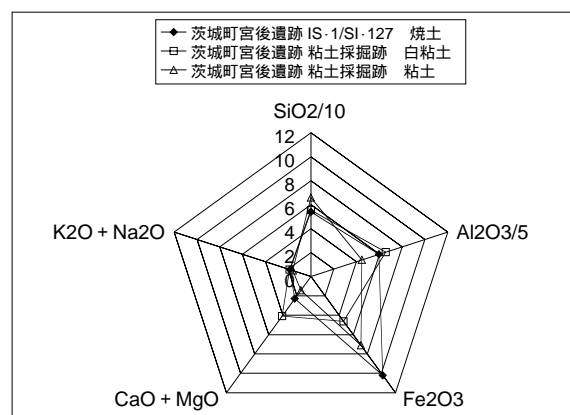


図 3 宮後遺跡 IS-1/SI-127：焼土と粘土採掘跡後土の元素組成

図2から、試料①及び試料②の元素組成は、アルミナ分及び鉄分に差異が認められ、異なる材質であると考
えられる。

図3から、試料①に対し試料③及び試料④は、鉄分、アルミナ分及びアルカリ土類成分に差異が認められ、
異なる材質と思われる。

また、鉱物組成についてもX線回折の結果（図1-1～1-4及び表2）から、元素組成分析の結果と同様
に、試料①、②、③及び④は異なる材質であると考えられる。

これらのことから、焼土は埋め土とは別のものであると考えられる。また、焼土の材料は、第4号粘土採掘
坑で採取された材料だけで作られたものとは考えられず、今回の調査対象外の材料が用いられているか、調査
対象の材料に加えて他の場所から採取した材料を使用しているとも考えられる。

6. まとめ

- ・ 蛍光X線分析による各試料の主構成元素は通常土壌等に含有される10成分であり、他の元素はほとんど
検出されなかった。
- ・ X線回折の結果から、各試料とも、通常土壌等に含有される石英、長石、雲母、ハロイサイト、モンモ
リロナイトなどを同定した。
- ・ 試料①焼土からは、他の試料にはないGrossular, hydroxylan ($\text{CaAl}_2(\text{SiO}_4, \text{CO}_3, \text{OH})$)を同定
した。
- ・ 元素組成及び鉱物組成から、試料①焼土と試料②埋め土は、異なる材質であると考えられる。同様に試
料①焼土と試料③第4号粘土採掘坑白粘土及び試料④第4号粘土採掘坑粘土は、異なる材質と思われる。
- ・ 焼土の材料は、第4号粘土採掘坑で採取された材料だけで作られたものとは考えられず、今回の調査対
象外の材料が用いられているか、または調査対象の材料に加えて他の場所から採取した材料を使用してい
るとも考えられる。

写 真 图 版



平成10年度調査区全景（北から）

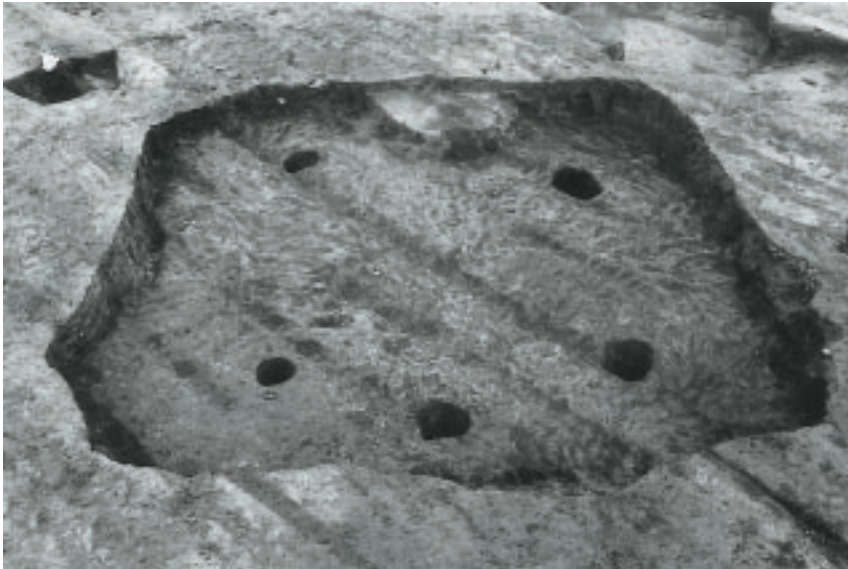


平成11年度調査区全景（東から）

PL2



第 1 号住居跡
遺物出土狀況

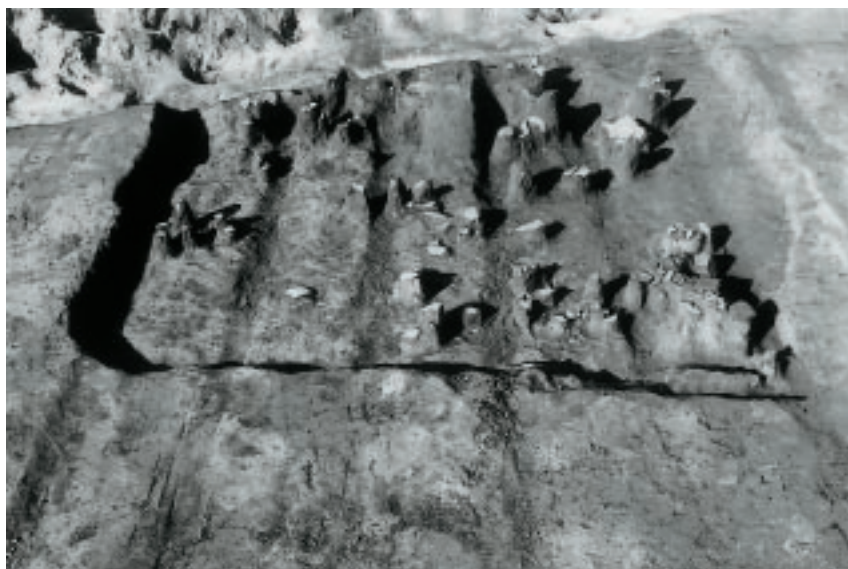


第 3 号住居跡
完掘狀況



第 8 号住居跡
竈遺物出土狀況

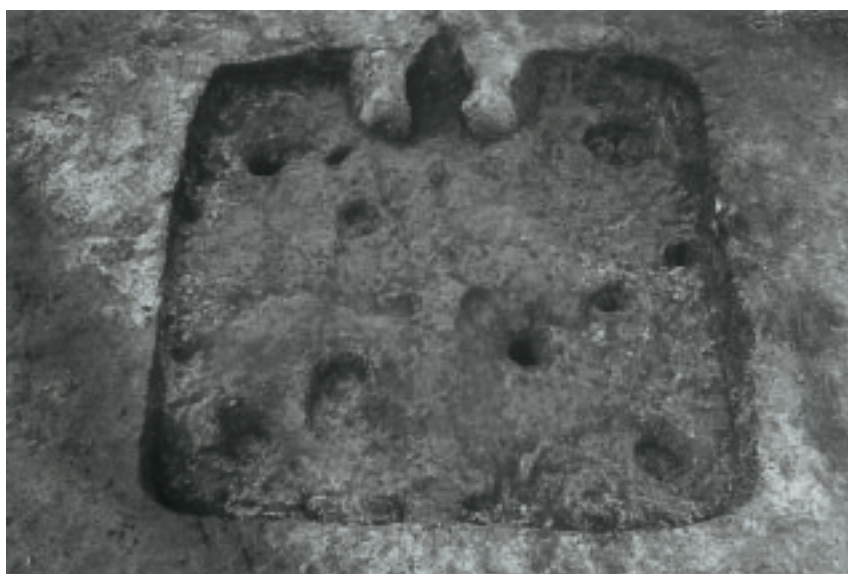
第26号住居跡
遺物出土狀況



第32号住居跡
遺物出土狀況



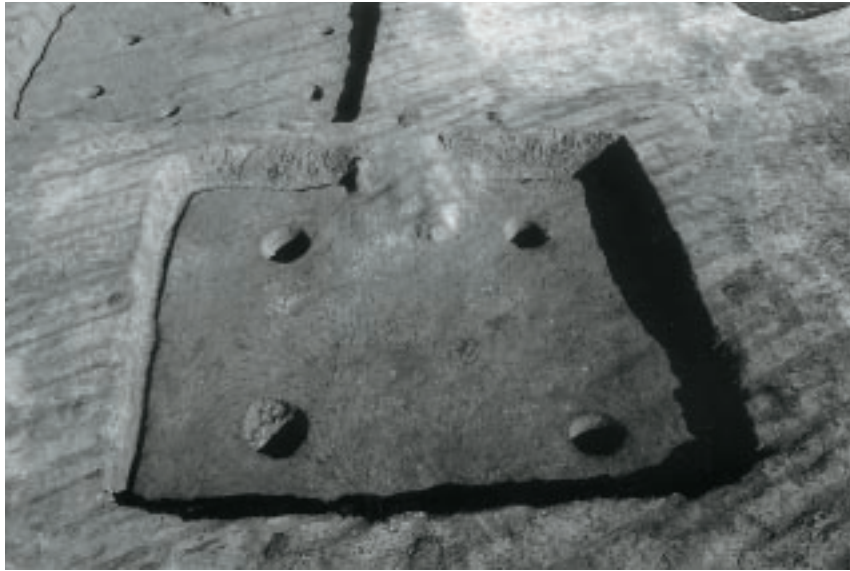
第36号住居跡
完掘狀況



PL4



第36号住居跡
遺物出土状況



第56号住居跡
完掘状況



第56号住居跡
遺物出土状況

第58号住居跡
完掘狀況



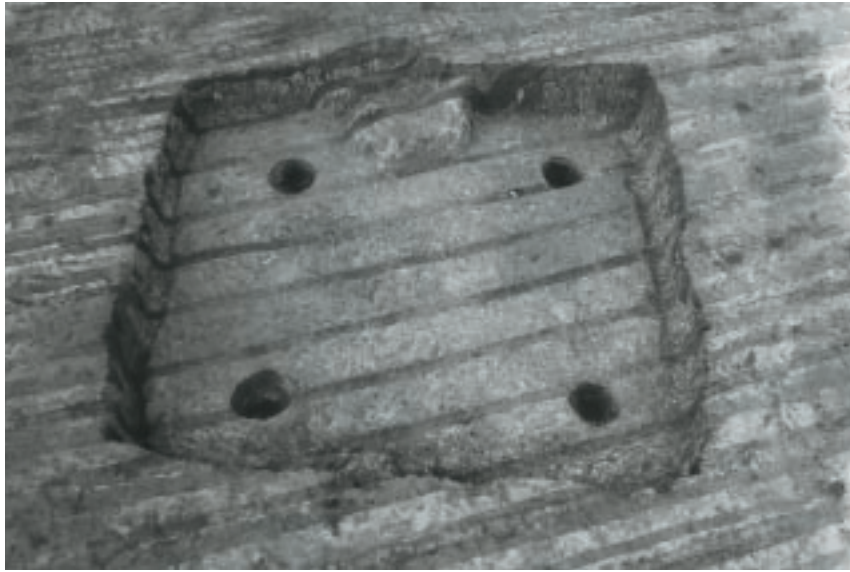
第62号住居跡
遺物出土狀況



第67号住居跡
遺物出土狀況



PL6



第69号住居跡
完掘狀況



第72号住居跡
遺物出土狀況



第75号住居跡
遺物出土狀況

第85号住居跡
遺物出土狀況



第87号住居跡
遺物出土狀況



第87号住居跡
遺物出土狀況



PL8



第 88 号住居跡
遺物出土狀況



第 95 号住居跡
遺物出土狀況



第 97 号住居跡
完掘狀況

第97号住居跡
遺物出土状況



第99号住居跡
竈遺物出土状況



第100号住居跡
遺物出土状況





第101号住居跡
遺物出土状況



第102号住居跡
遺物出土状況



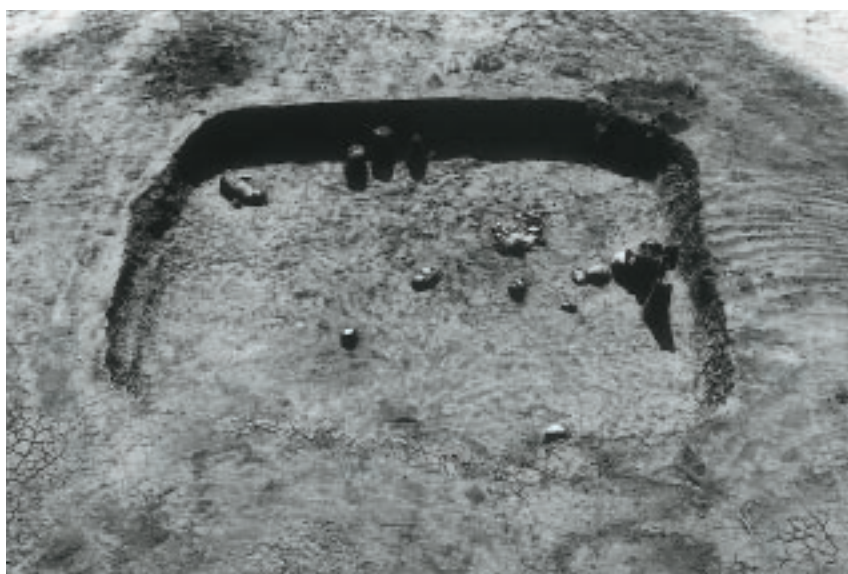
第103号住居跡
遺物出土状況



第104号住居跡
完掘狀況



第110号住居跡
完掘狀況



第110号住居跡
遺物出土狀況



第 111 号住居跡
完 掘 状 況



第 112 号住居跡
完 掘 状 況



第 117 号住居跡
遺 物 出 土 状 況



第118号住居跡
遺物出土状況



第122号住居跡
遺物出土状況



第123・124号住居跡
遺物出土状況



第124号住居跡
遺物出土状況



第126号住居跡
完掘状況



第127・130・131号住居跡
遺物出土状況

第129号住居跡
完掘狀況

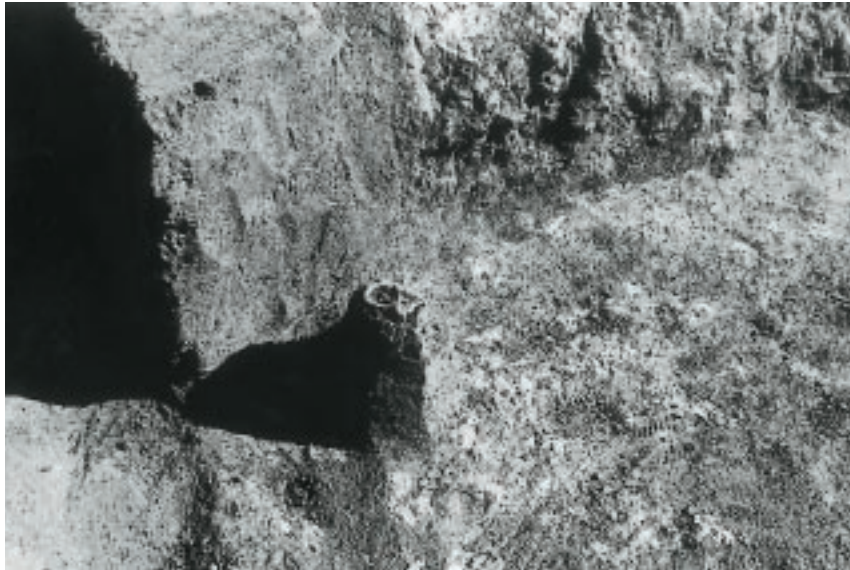


第133号住居跡
完掘狀況

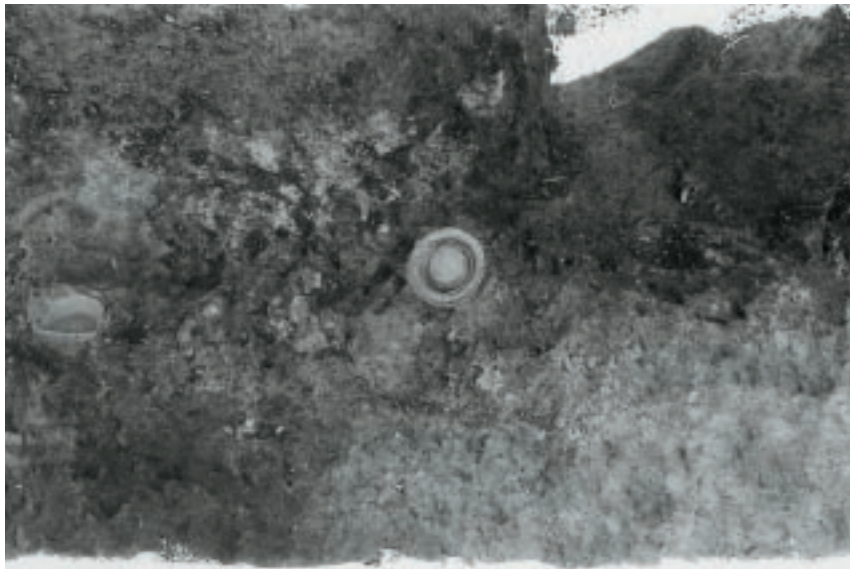


第133号住居跡
遺物出土狀況

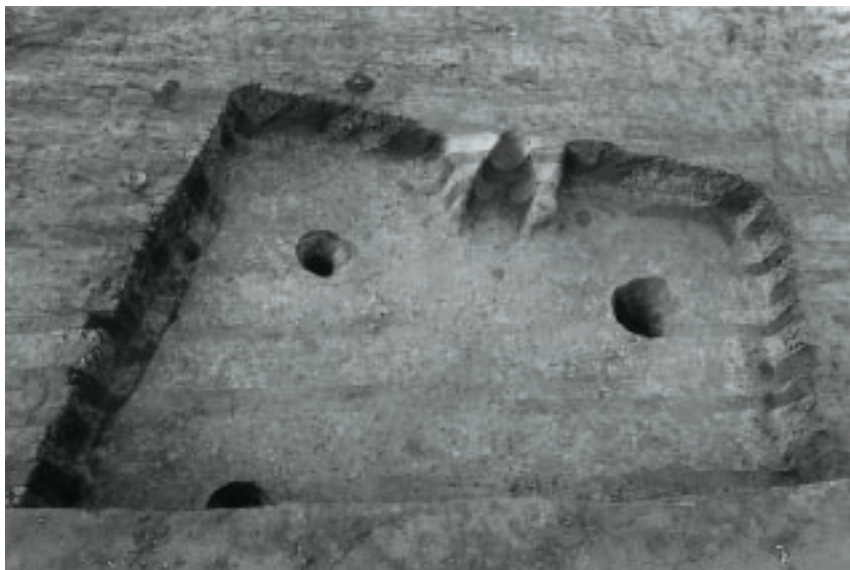




第 133 号住居跡
遺物出土狀況



第 133 号住居跡
遺物出土狀況



第 143 号住居跡
完掘狀況



第143号住居跡
遺物出土状況



第144号住居跡
遺物出土状況



第146号住居跡
完掘状況



第 148 号住居跡
完 掘 状 况



第 148 号住居跡
遺 物 出 土 状 况



第 148 号住居跡
遺 物 出 土 状 况



第150号住居跡
完掘狀況



第150号住居跡
遺物出土狀況



第150号住居跡
遺物出土狀況



第 150 号住居跡
遺物出土狀況



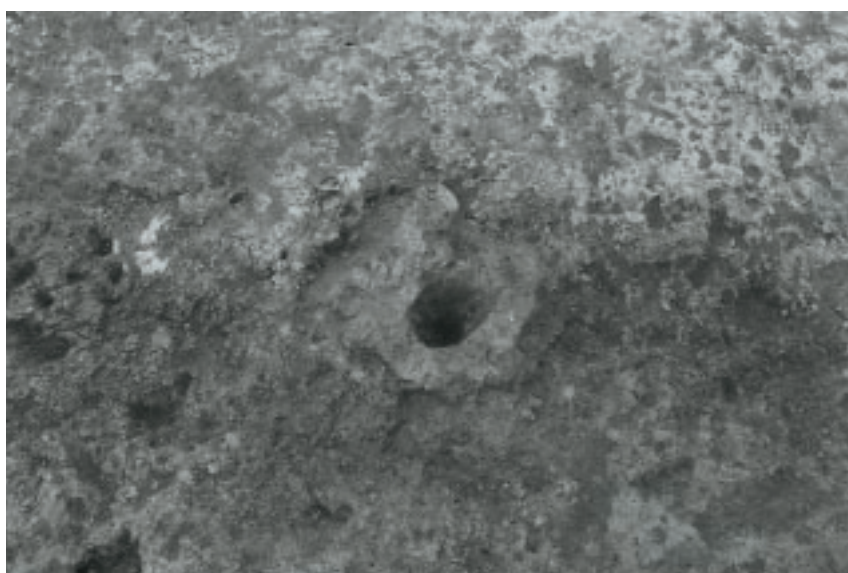
第 155 号住居跡
完 掘 状 況



第 155 号住居跡
遺物出土狀況



第158号住居跡
完掘狀況



第158号住居跡
炉完掘狀況



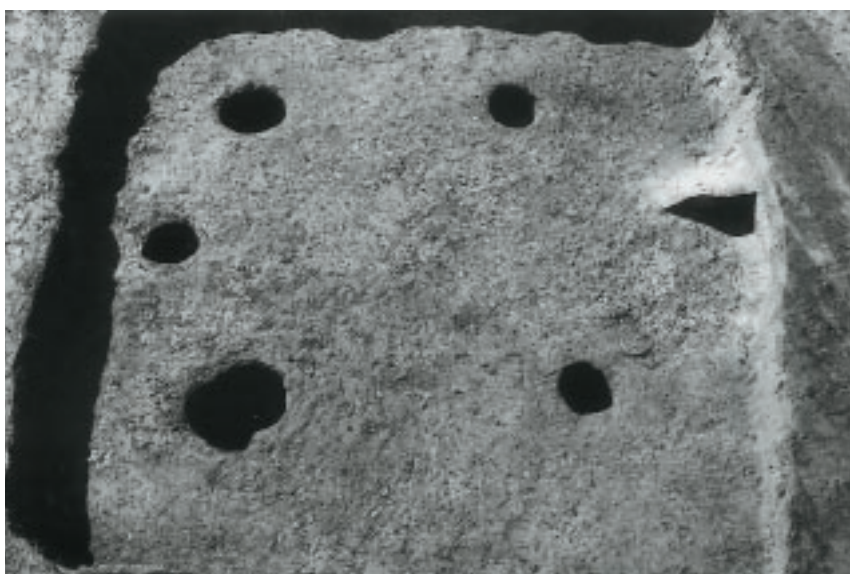
第161号住居跡
完掘狀況



第 161 号住居跡
遺物出土狀況



第 171 号住居跡
完掘狀況



第 173 号住居跡
完掘狀況



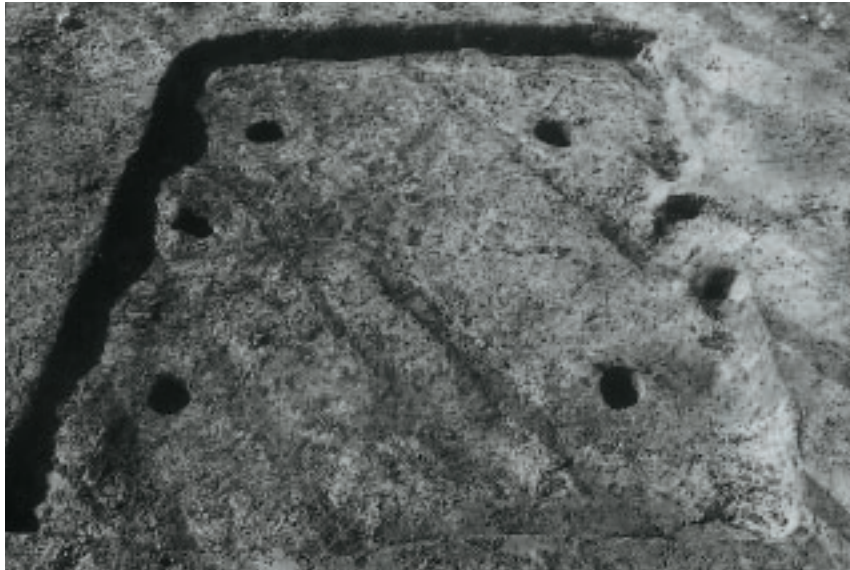
第 173 号住居跡
遺物出土狀況



第 178・179 号住居跡
完 掘 状 況



第 179 号住居跡
遺物出土狀況



第 183 号住居跡
完 掘 状 況



第 185 号住居跡
完 掘 状 況



第 187 号住居跡
完 掘 状 況

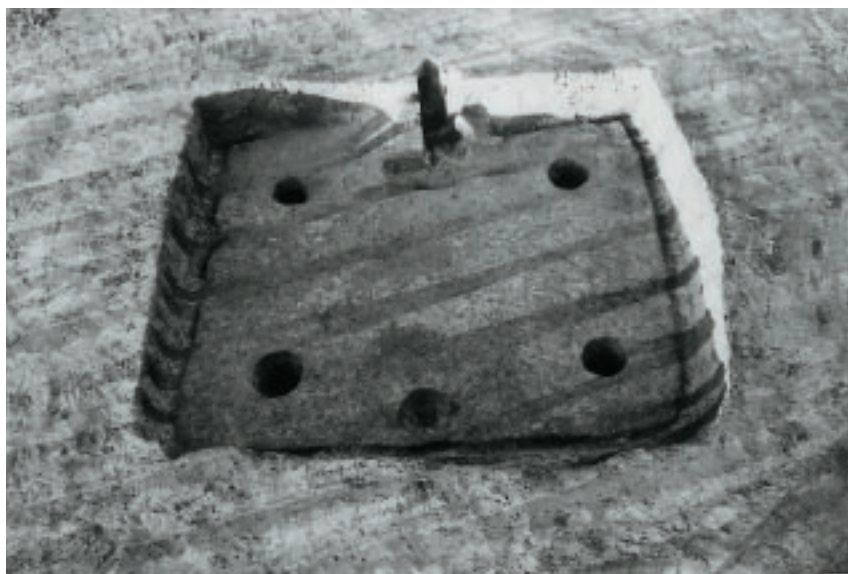
第187号住居跡
完掘狀況

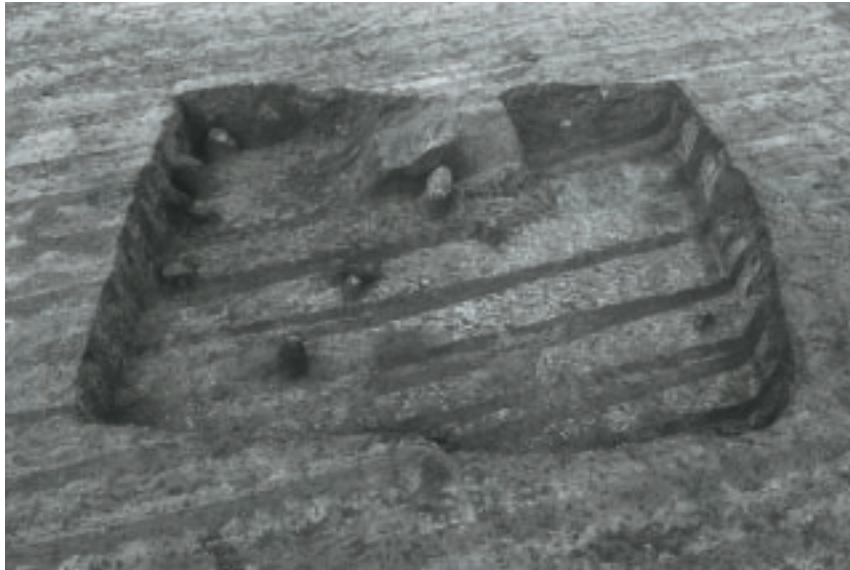


第187号住居跡
遺物出土狀況



第188号住居跡
完掘狀況





第 188 号住居跡
遺物出土狀況

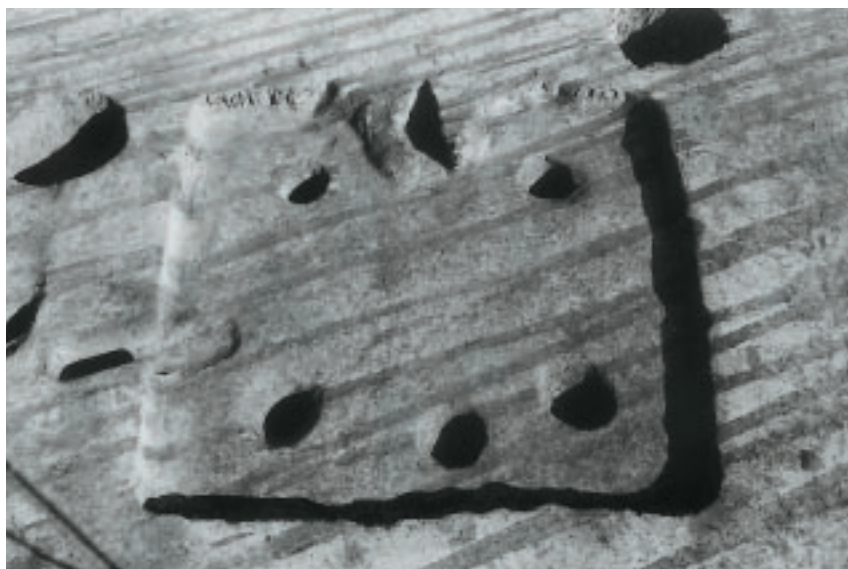


第 189 号住居跡
完 掘 状 况

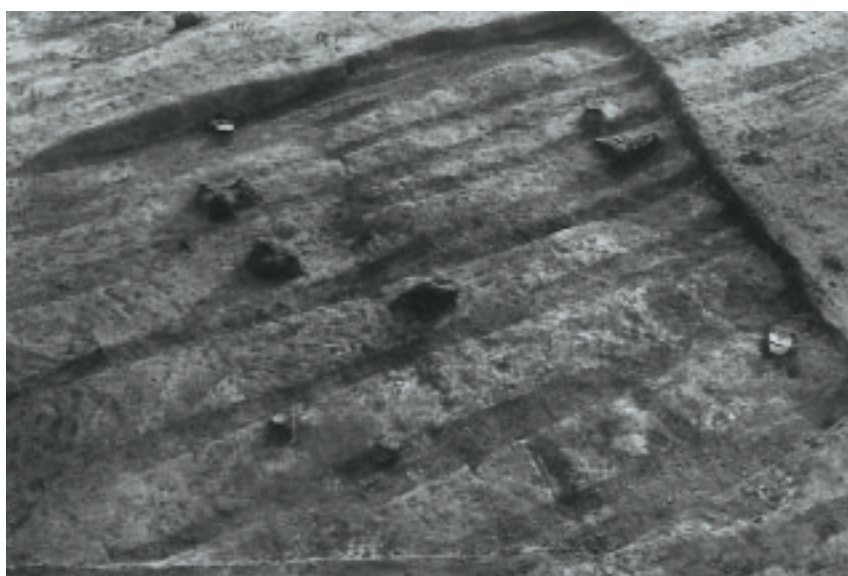


第 189 号住居跡
遺物出土狀況

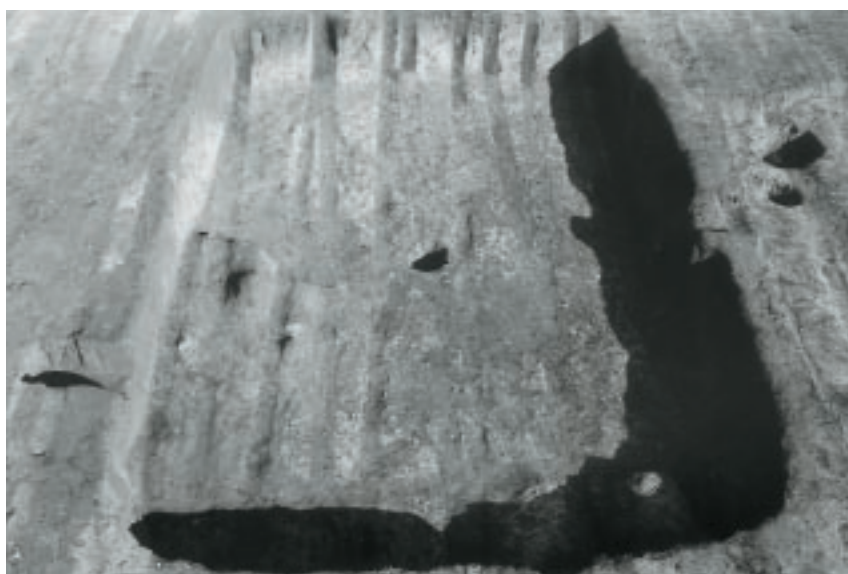
第190号住居跡
完掘狀況



第190号住居跡
遺物出土狀況



第192号住居跡
完掘狀況

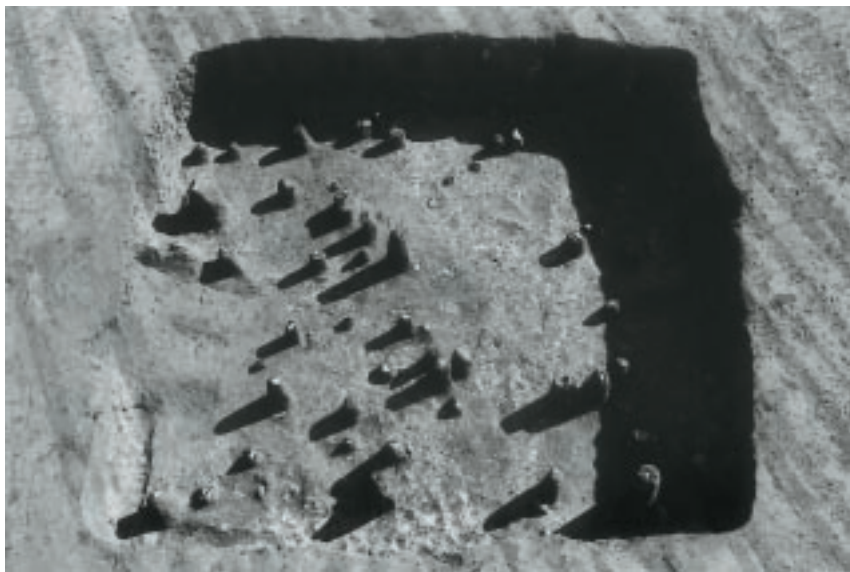




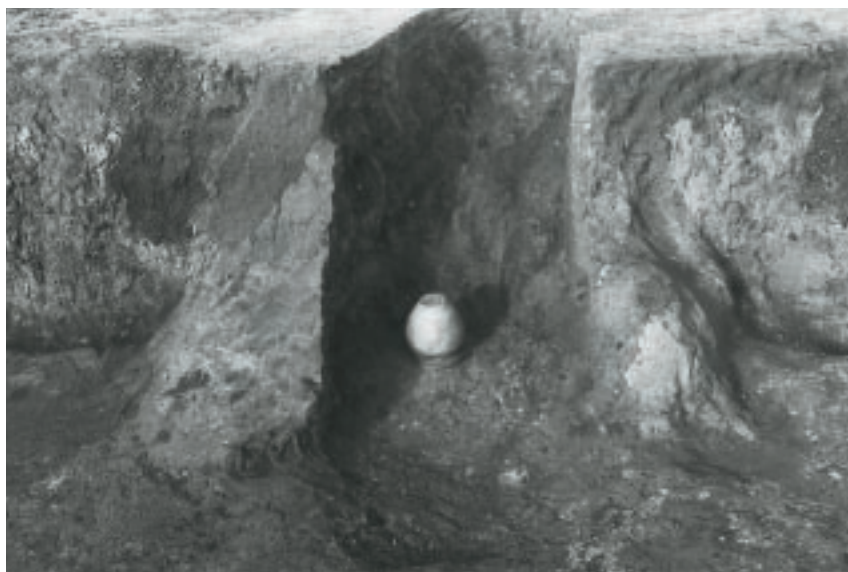
第 192 号住居跡
遺物出土狀況



第 197 号住居跡
完 掘 状 况



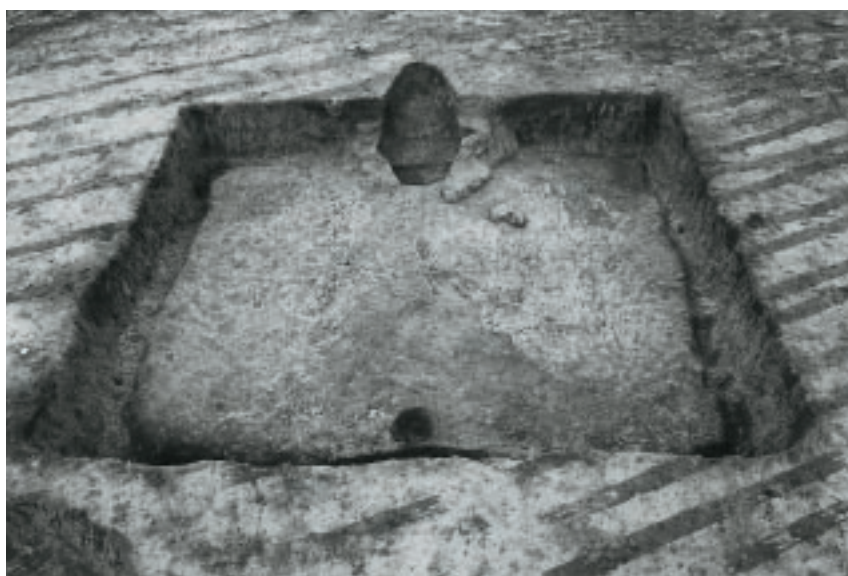
第 197 号住居跡
遺物出土狀況



第197号住居跡
竈遺物出土状況



第205号住居跡
遺物出土状況



第207号住居跡
完掘状況



第207号住居跡
遺物出土状況



第213・231号住居跡
完掘状況



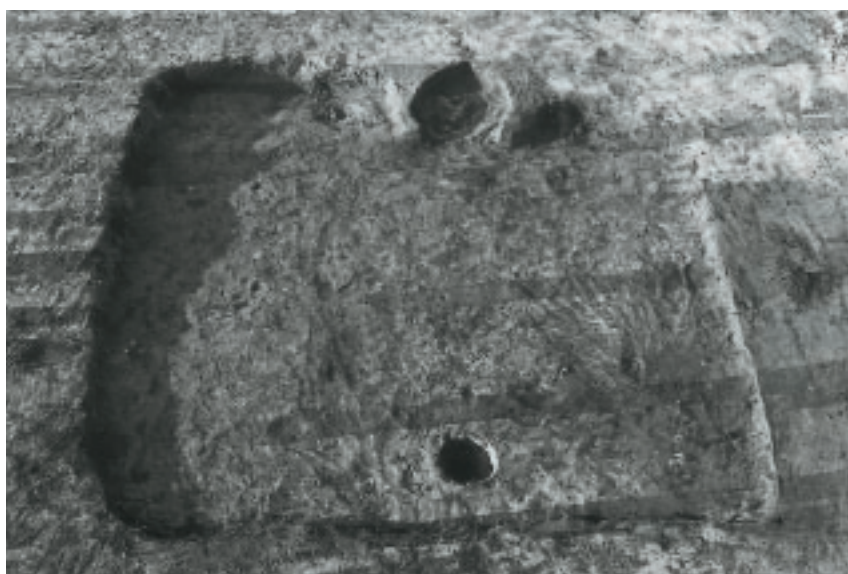
第215号住居跡
完掘状況



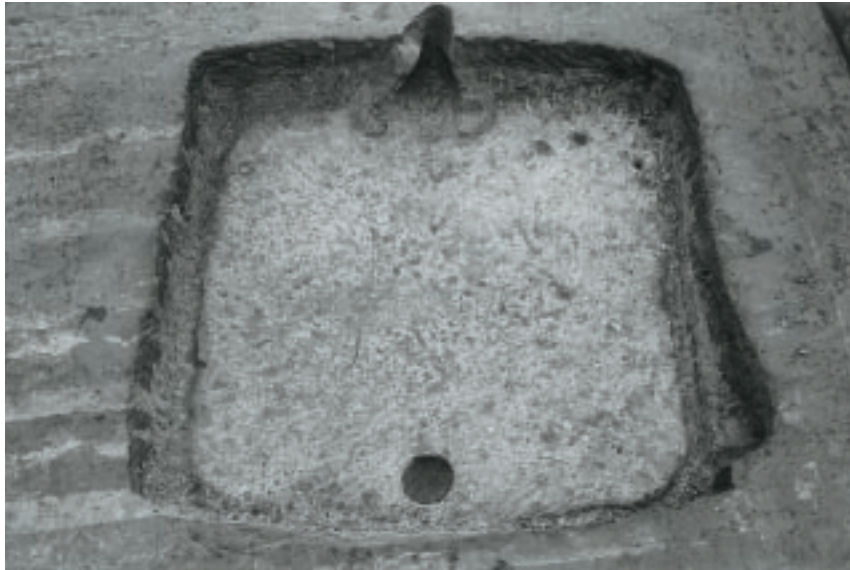
第215号住居跡
遺物出土状況



第220号住居跡
遺物出土状況



第221号住居跡
完掘状況



第 223 号住居跡
完 掘 状 況



第 223 号住居跡
遺 物 出 土 状 況



第 223 号住居跡
遺 物 出 土 状 況



第225号住居跡
完掘狀況



第225号住居跡
遺物出土狀況



第226号住居跡
遺物出土狀況



第227・232号住居跡
完掘状況

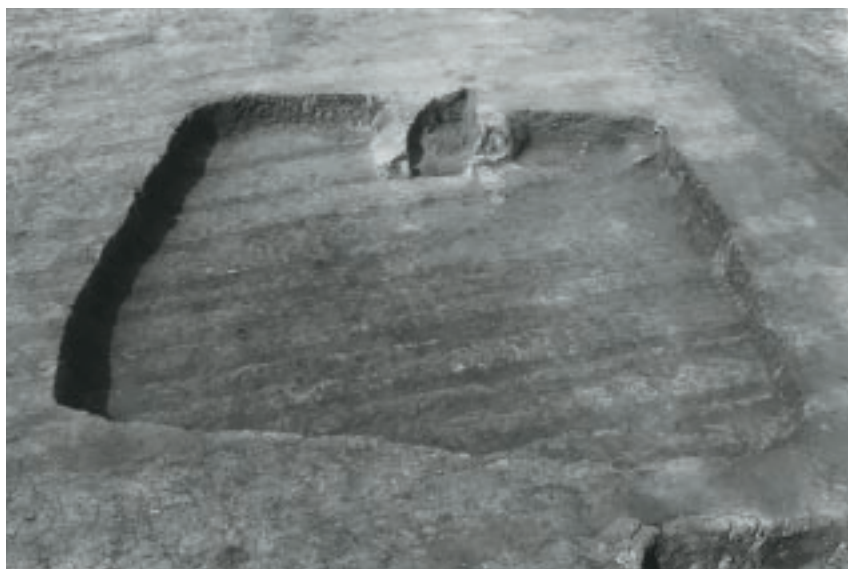


第227・232号住居跡
遺物出土状況

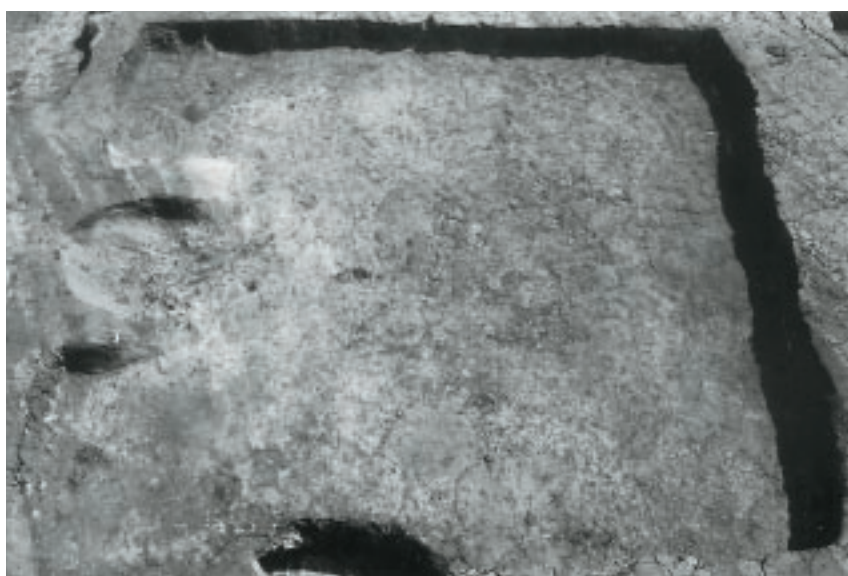


第228号住居跡
遺物出土状況

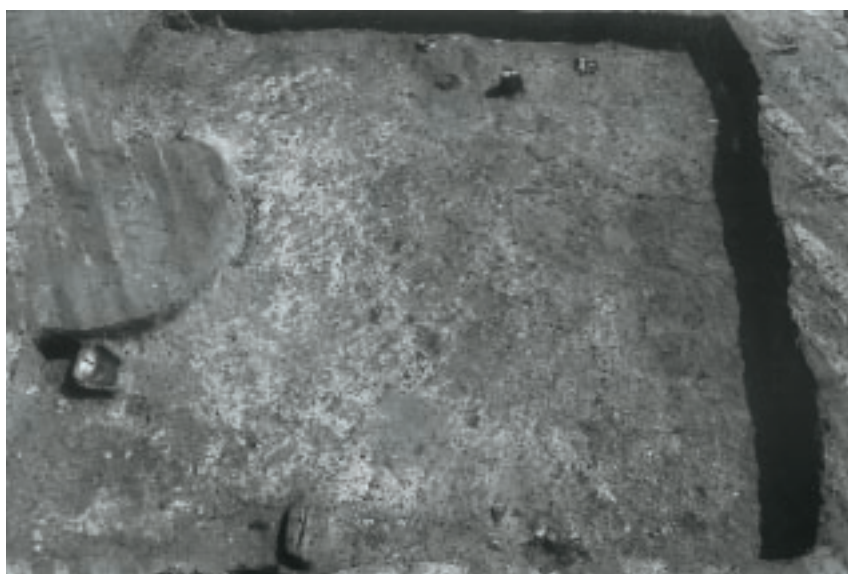
第229号住居跡
完掘狀況

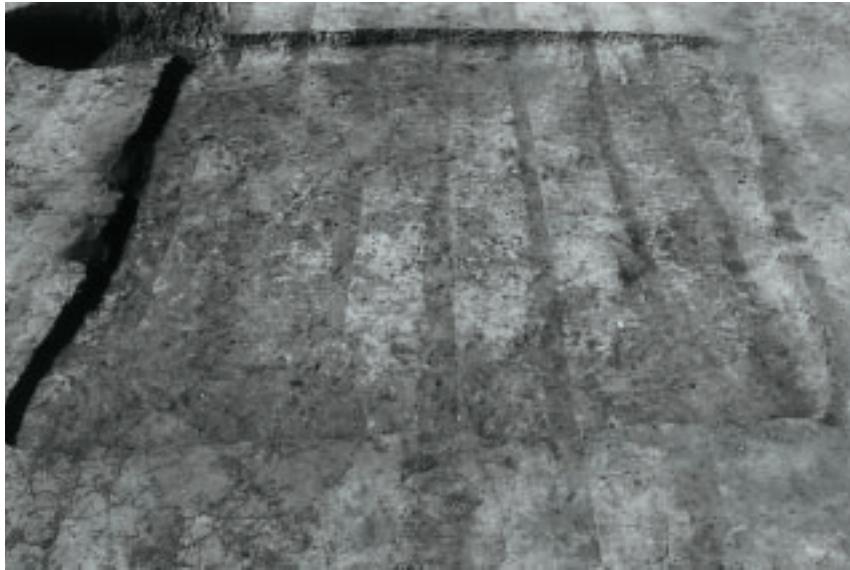


第230号住居跡
完掘狀況



第230号住居跡
遺物出土狀況





第237号住居跡
完掘状況



第2号掘立柱建物跡
確認状況



第3号掘立柱建物跡
確認状況

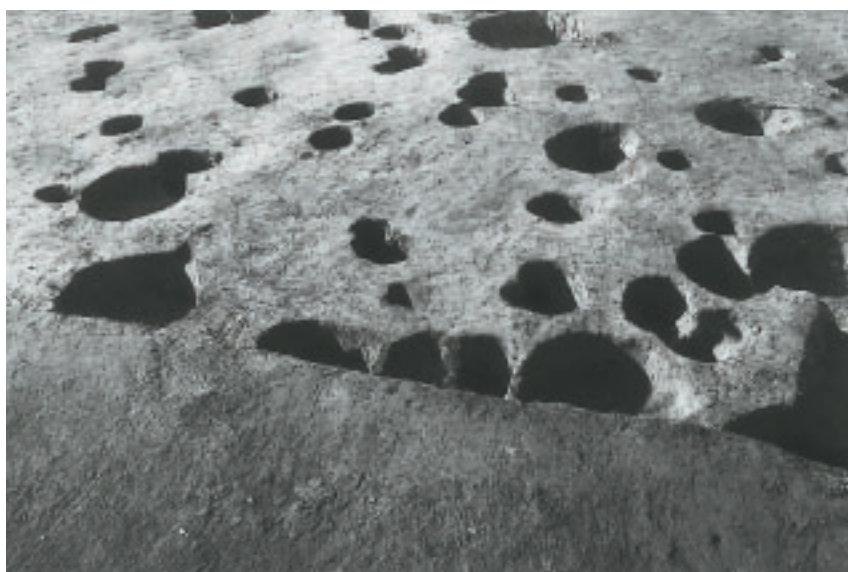
第4号掘立柱建物跡
確認状況



第6号掘立柱建物跡
完掘状況



第38号掘立柱建物跡
完掘状況

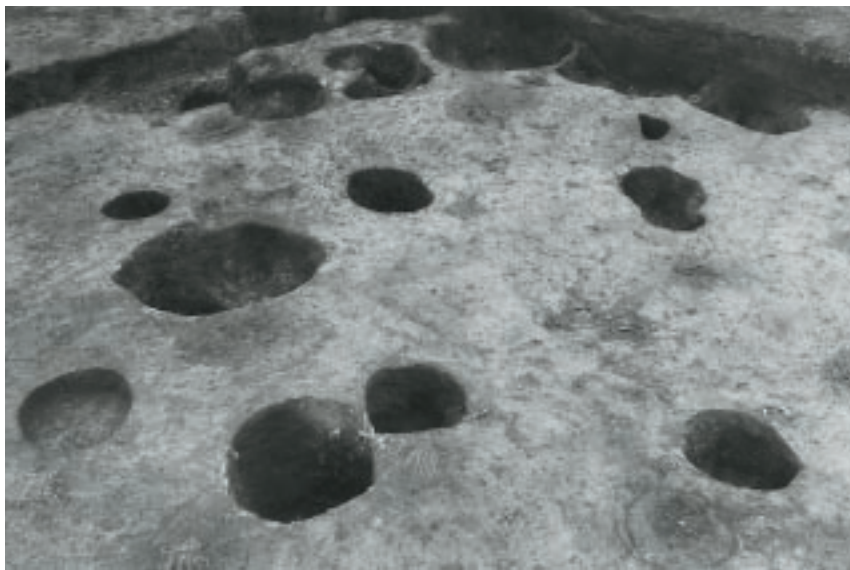




第7号掘立柱建物跡
完掘狀況



第12号掘立柱建物跡
完掘狀況



第36号掘立柱建物跡
完掘狀況



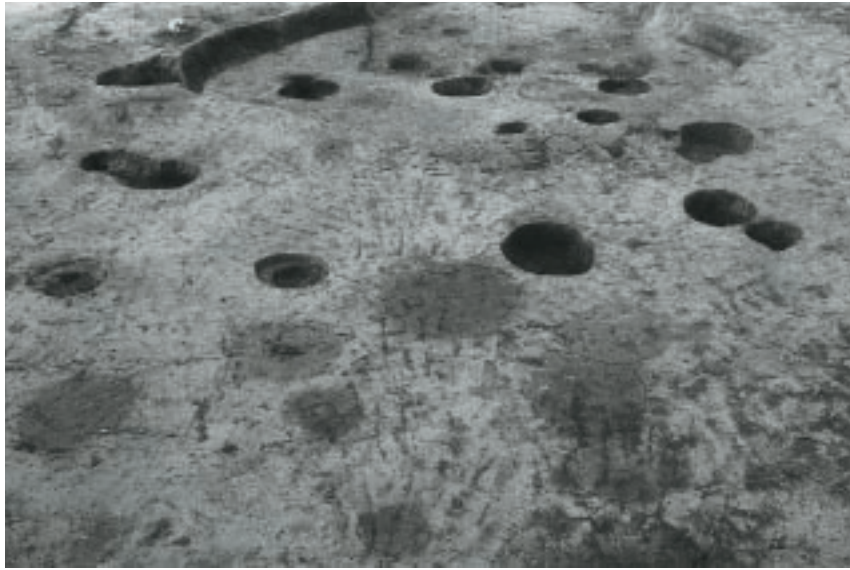
第18号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



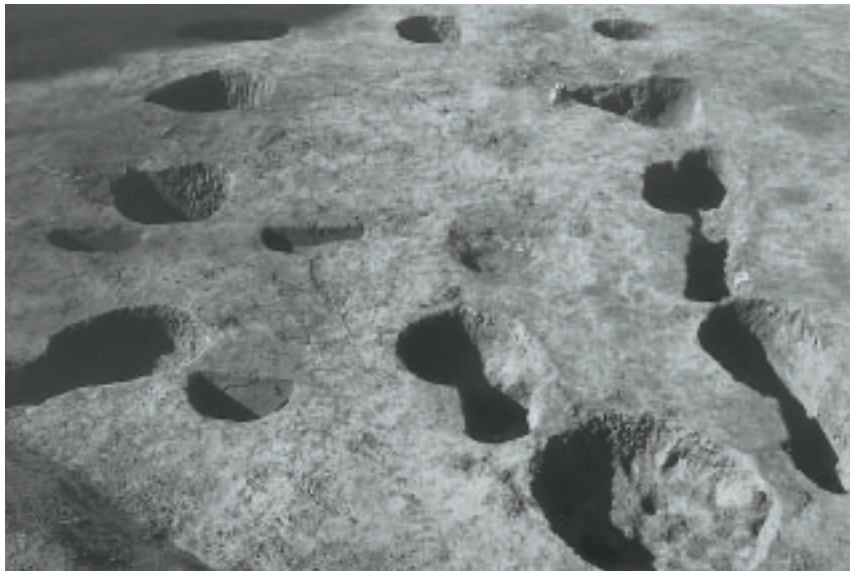
第41号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第19号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第20号掘立柱建物跡
完掘状況



第31号掘立柱建物跡
完掘状況



第29号掘立柱建物跡
完掘状況



第33号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



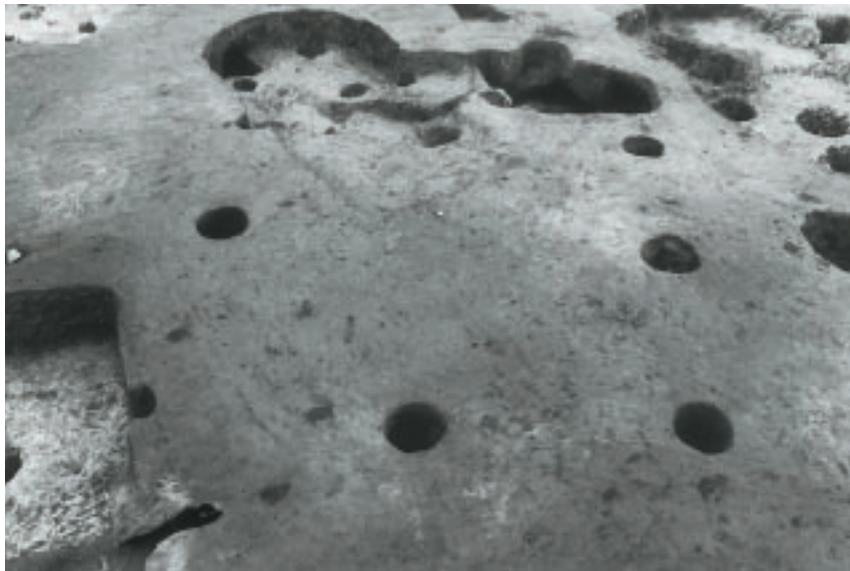
第25号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第49号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第53号掘立柱建物跡
完 掘 状 況

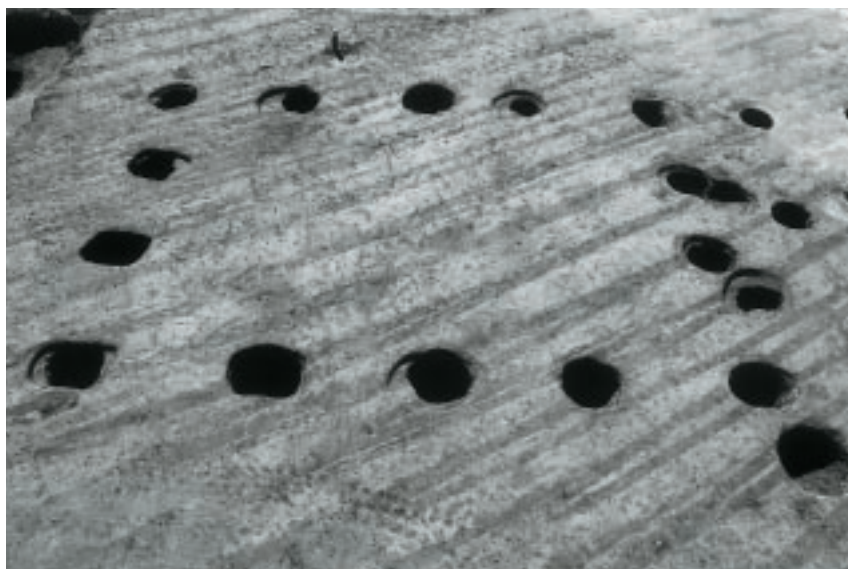


第54号掘立柱建物跡
完 掘 状 況

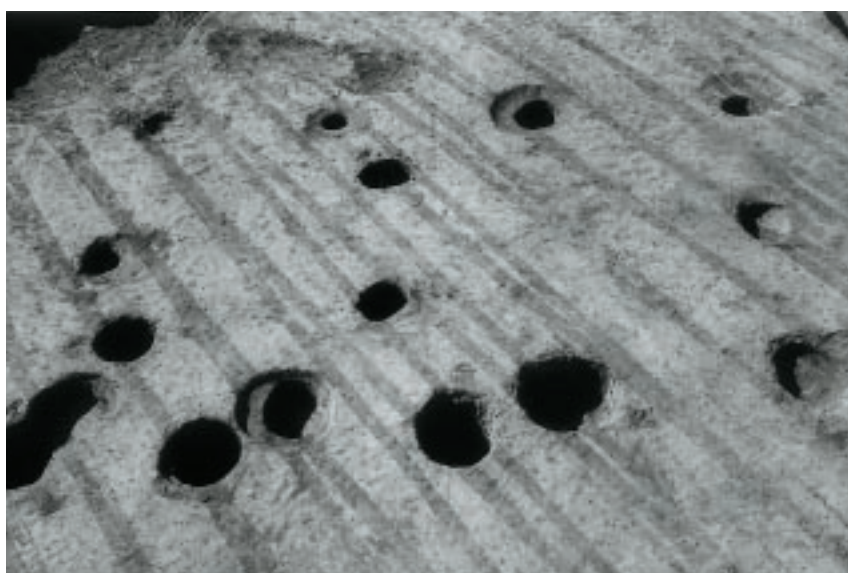


第54号掘立柱建物跡
遺 物 出 土 状 況

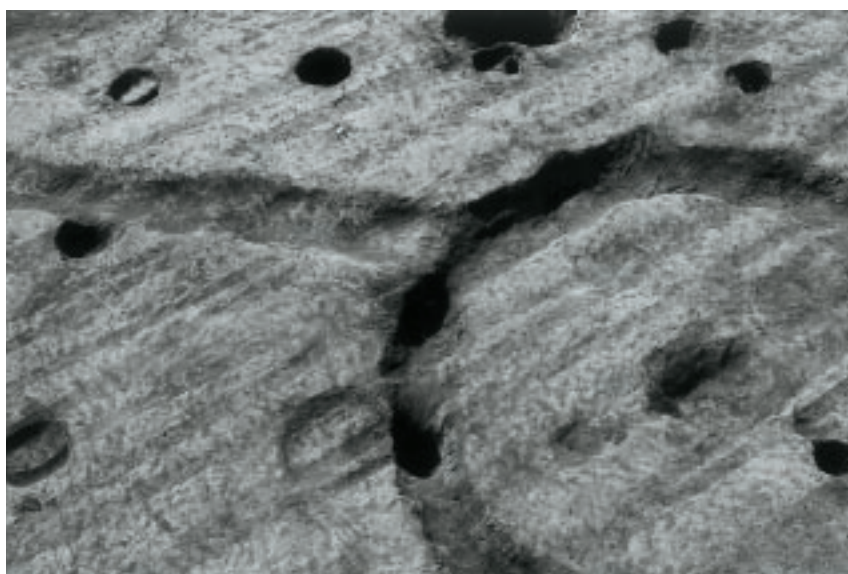
第56号掘立柱建物跡
完 掘 状 況

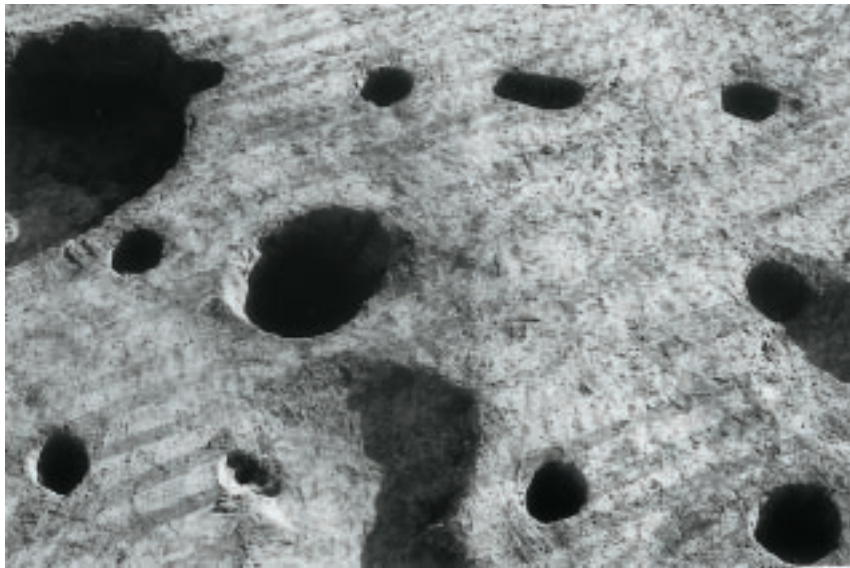


第57号掘立柱建物跡
完 掘 状 況

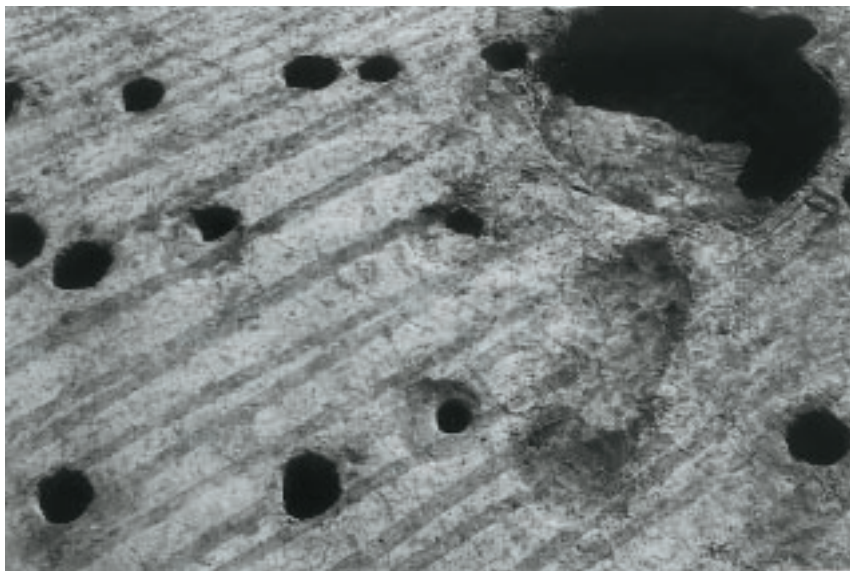


第58号掘立柱建物跡
完 掘 状 況





第59号掘立柱建物跡
完掘狀況

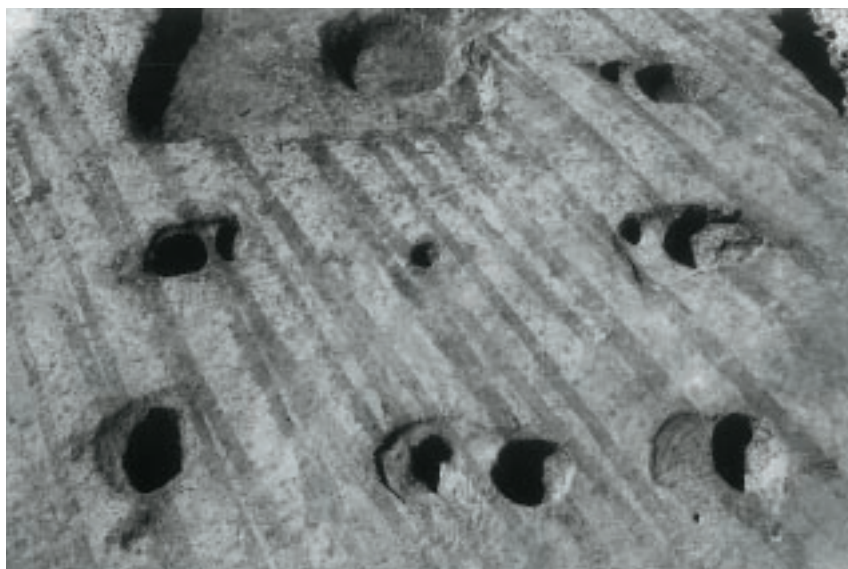


第60号掘立柱建物跡
完掘狀況

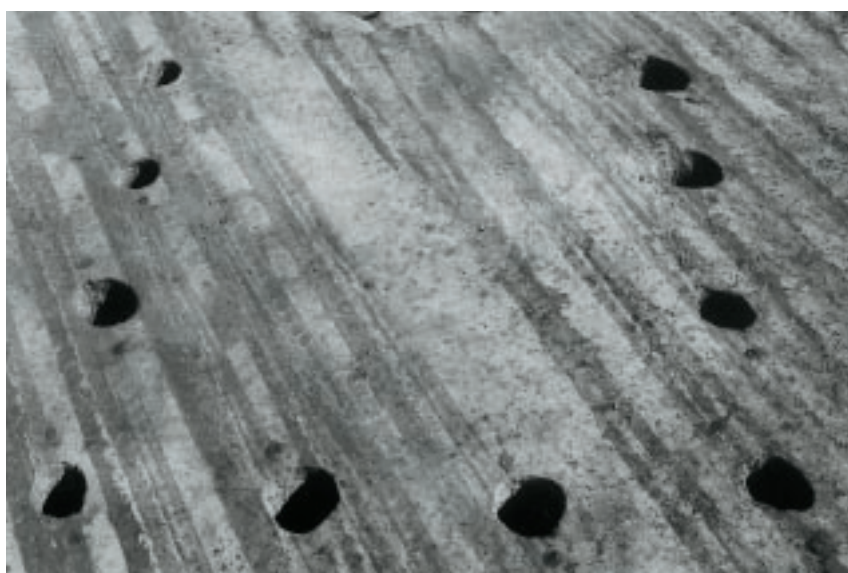


第61号掘立柱建物跡
完掘狀況

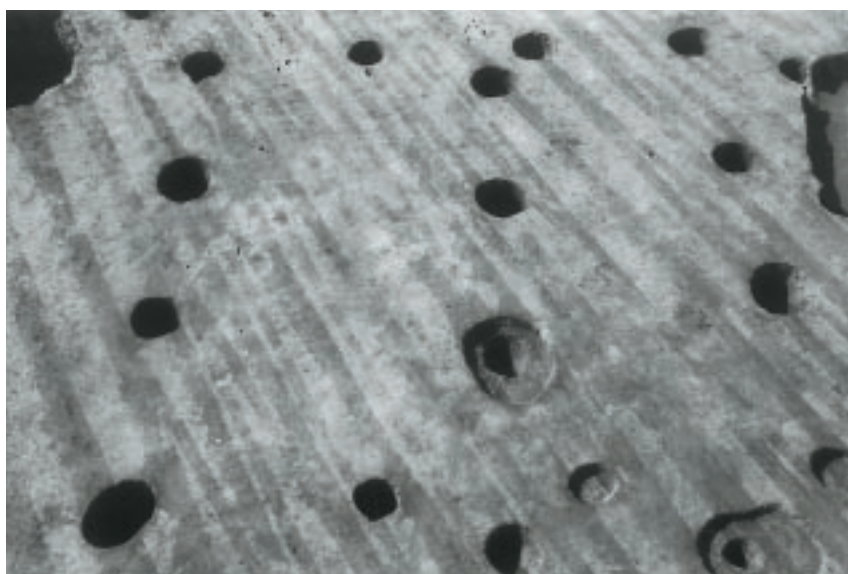
第62号掘立柱建物跡
完 掘 状 況

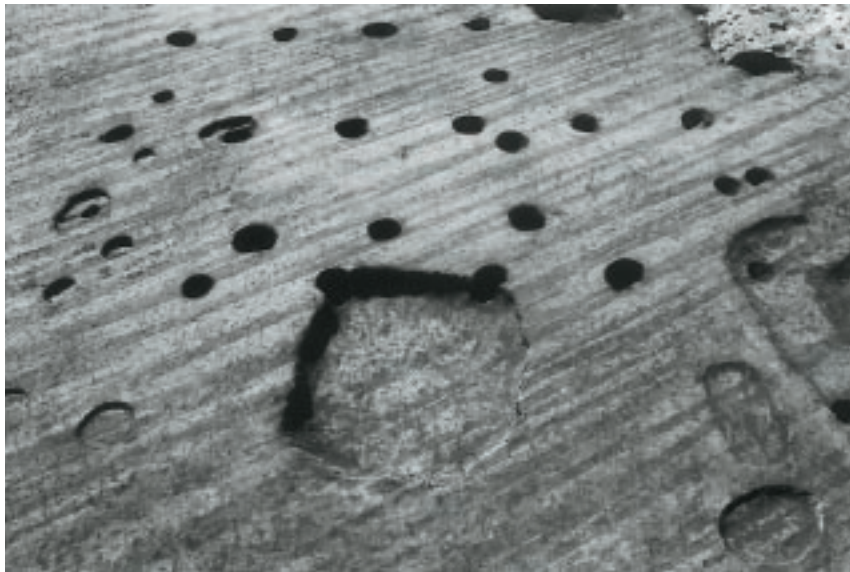


第63号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第64号掘立柱建物跡
完 掘 状 況

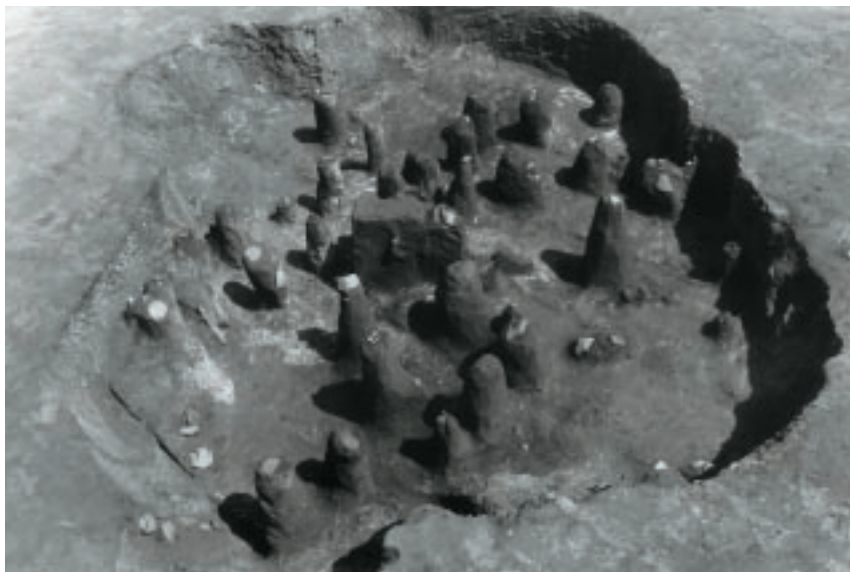




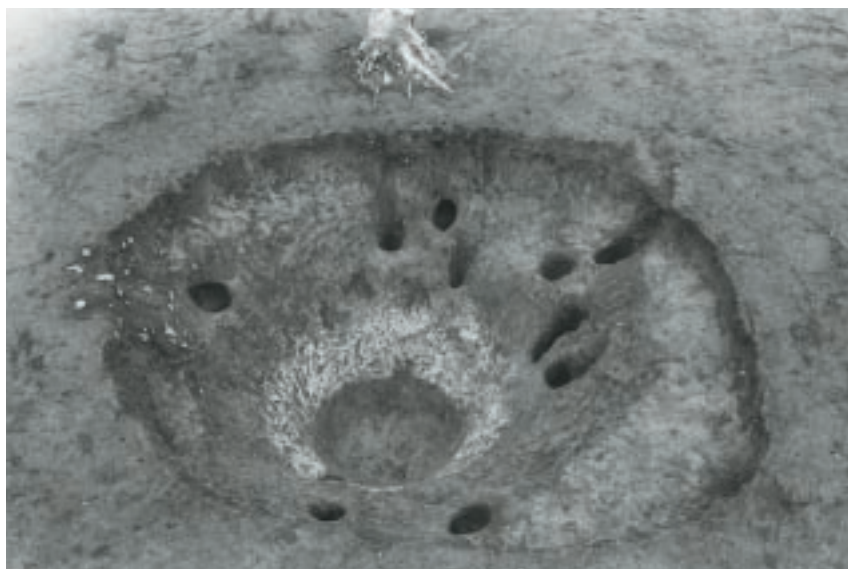
第65号掘立柱建物跡
完掘狀況



第23号溝
完掘狀況



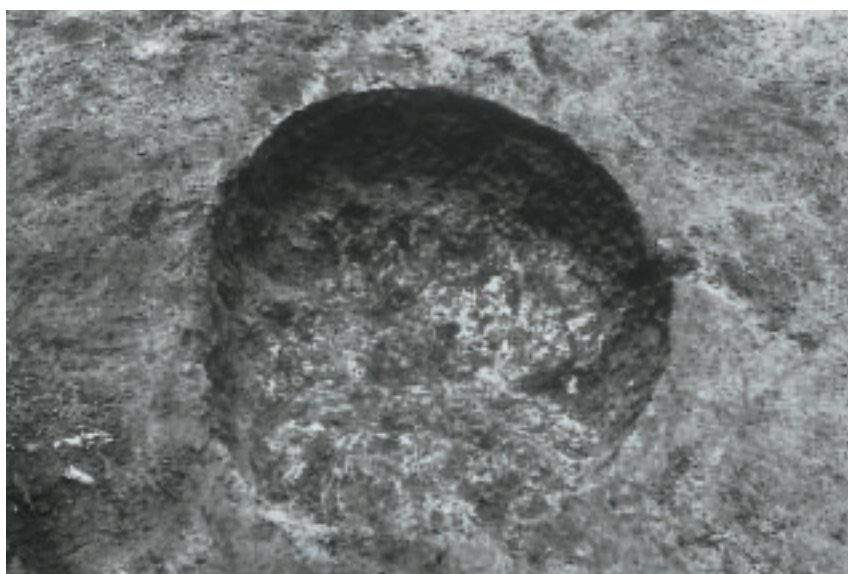
第773号土坑
遺物出土狀況



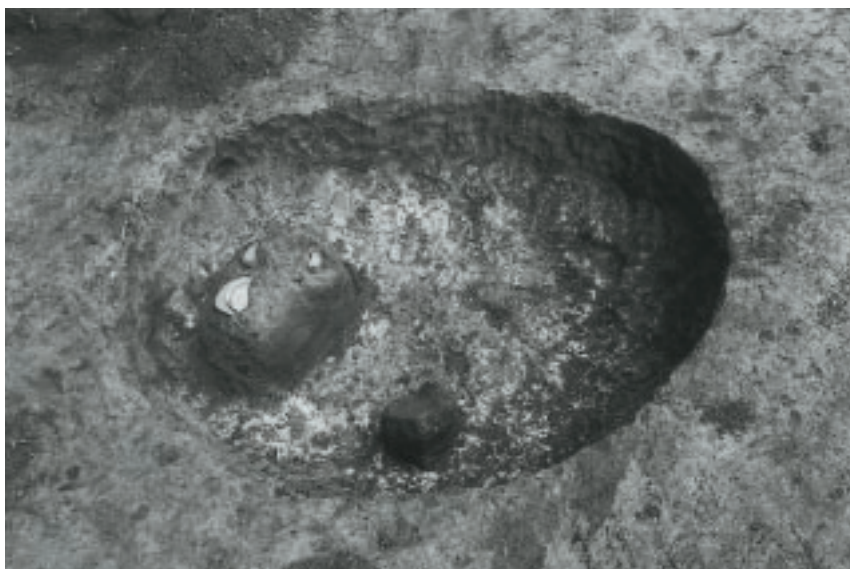
第 8 2 4 号 土 坑
完 掘 状 况



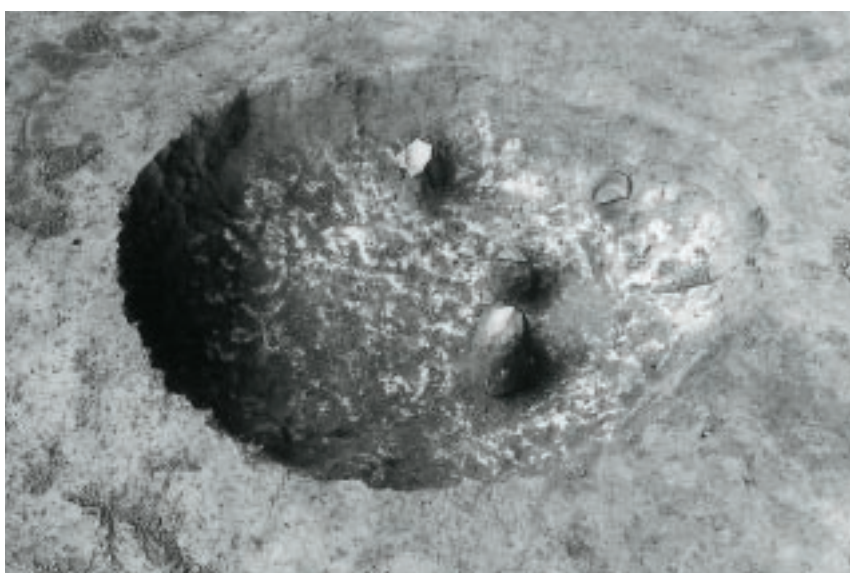
第 8 5 1 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



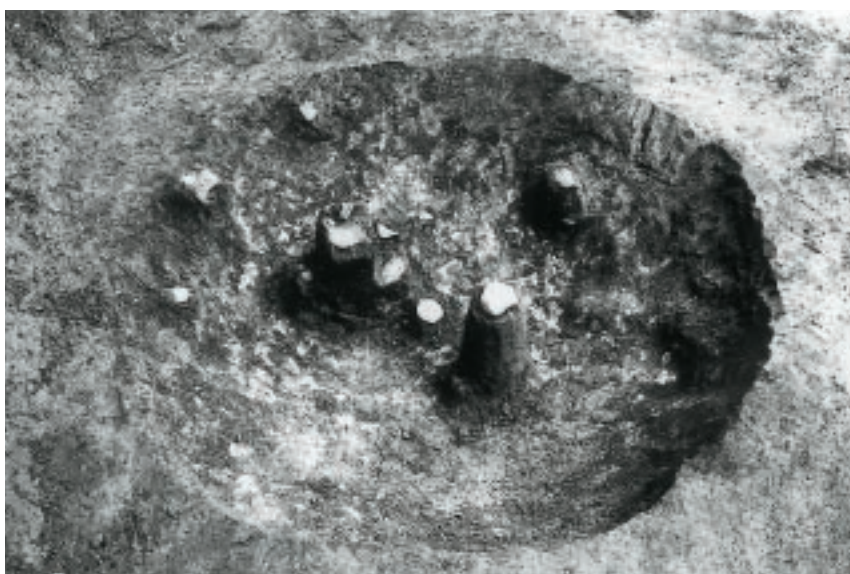
第 8 5 2 号 土 坑
完 掘 状 况



第 8 5 2 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况

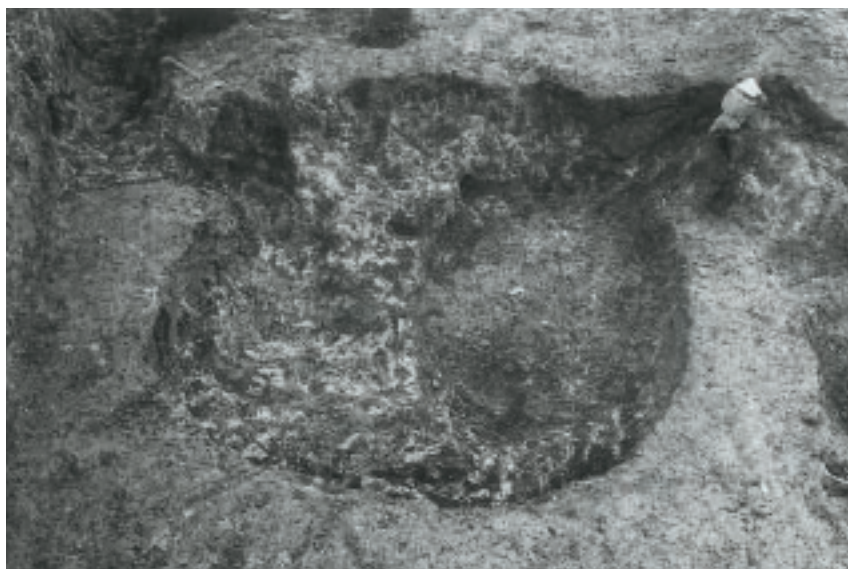


第 8 5 3 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况

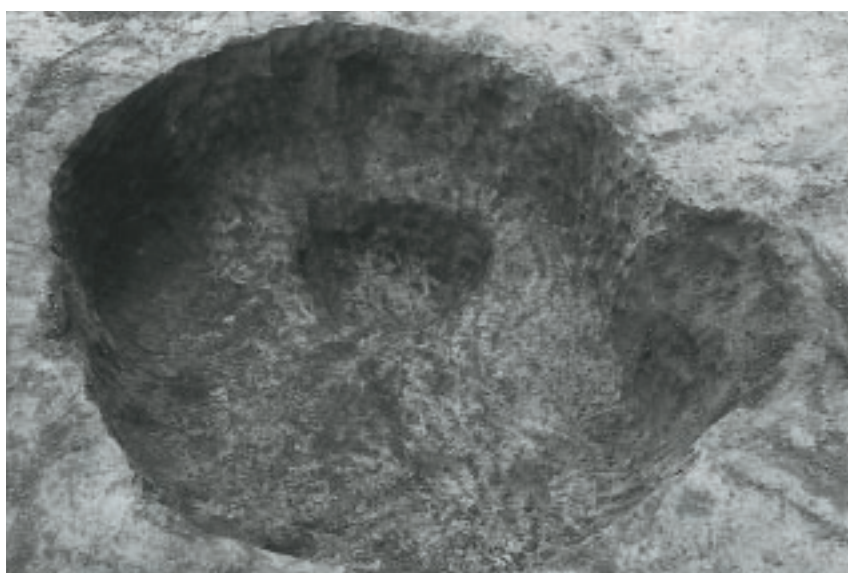


第 8 5 7 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况

第 893 号土坑
完 掘 状 况



第 940 号土坑
完 掘 状 况



第 943 号土坑
遺 物 出 土 状 况

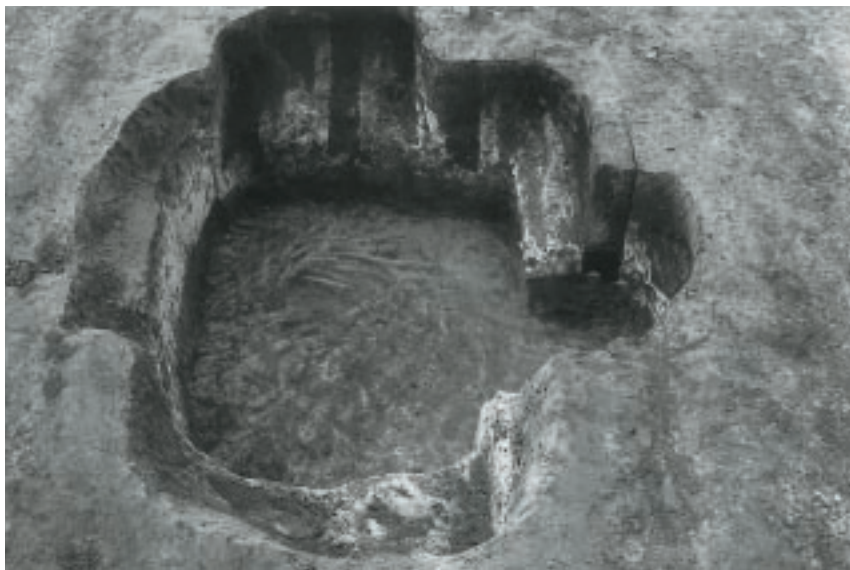




第 1 号ピット群
完 掘 状 況



第 1 号地下式壙
完 掘 状 況



第 2 号地下式壙
完 掘 状 況

第 4 号地下式墳
完 掘 状 況

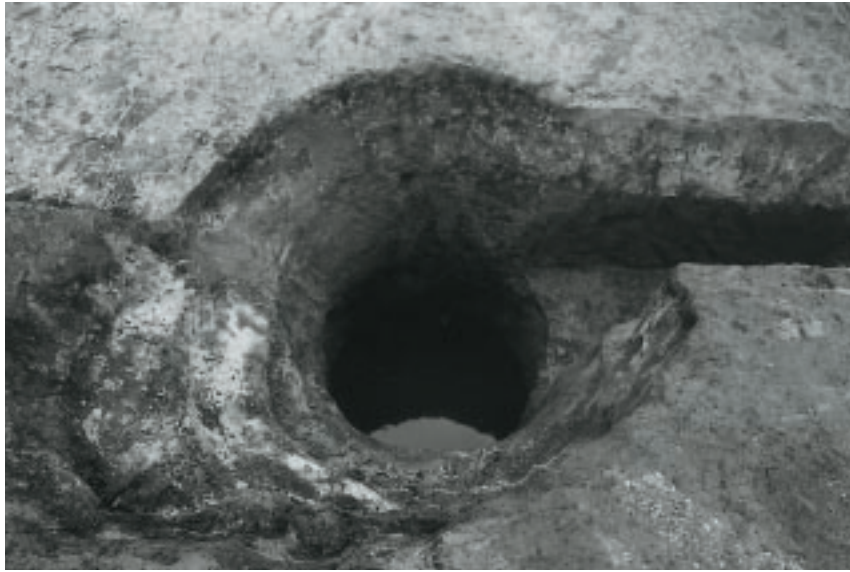


第 9 号地下式墳
完 掘 状 況



第 18 号地下式墳
完 掘 状 況

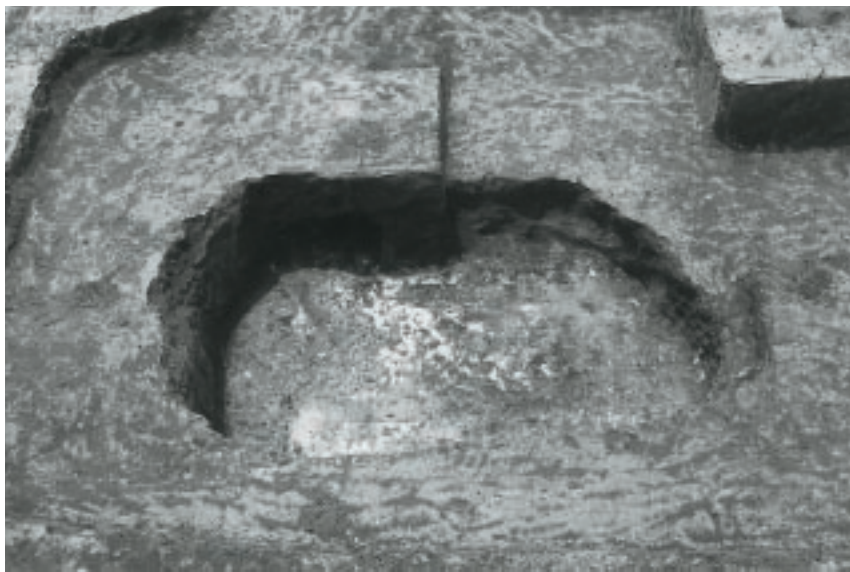




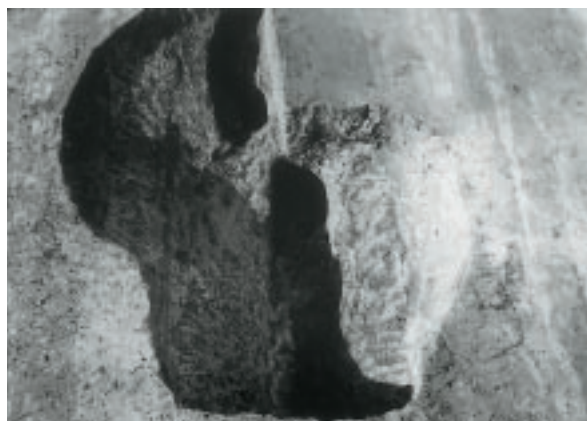
第 4 号 井 戸 跡
完 掘 状 況



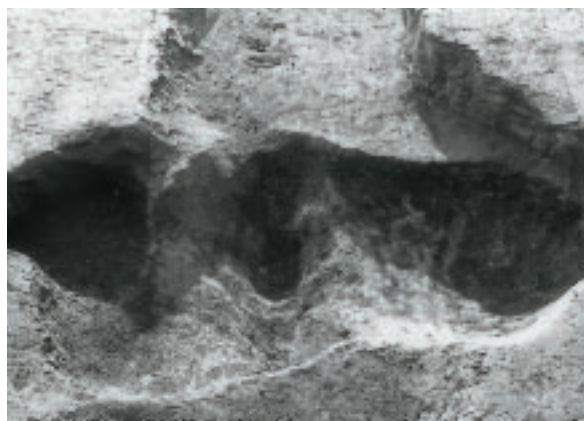
第 9 号 井 戸 跡
完 掘 状 況



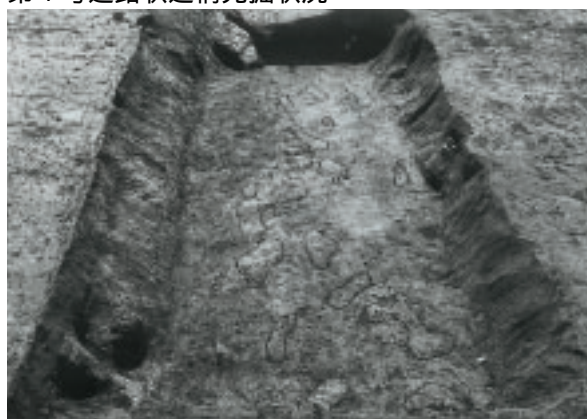
第 2 号 土 坑 墓
完 掘 状 況



第 1 号道路状遺構完掘狀況



第 5 号火葬土坑完掘狀況



第 1012 号土坑完掘狀況



調査 2 区南部完掘狀況



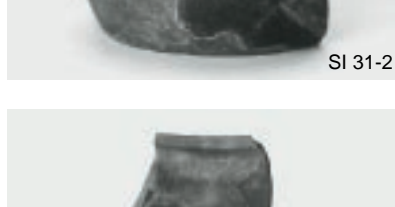
第 1 号掘完掘狀況



第 2 号遺物包含層遺物出土狀況



第101・103・110・126号住居跡出土遺物







SI 64-2



SI 66-4



SI 66-5



SI 67-1



SI 68-1



SI 71-4



SI 72-1



SI 72-5



SI 72-6



SI 72-8



SI 73-2



SI 75-7



SI 66-9



SI 67-2



SI 73-6



SI 69-14



SI 75-12



SI 74-4



SI 66-2



SI 66-1



SI 71-1



SI 83-5



SI 87-27



SI 87-29



SI 87-31



SI 87-32



SI 87-59



SI 87-58



SI 87-10



SI 87-11



SI 87-12



SI 87-13



SI 87-14



SI 87-15



SI 87-16



SI 87-48



SI 87-38



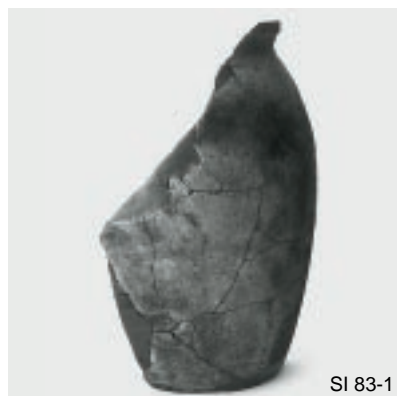
SI 87-37



SI 87-46



SI 87-54



SI 83-1



SI 75-14



SI 88-5



SI 88-12



SI 88-13



SI 93-1



SI 94-1



SI 94-11



SI 94-12



SI 95-4



SI 96-1



SI 96-7



SI 96-9



SI 97-3



SI 97-4



SI 94-15



SI 96-14



SI 89-1



SI 93-15



SI 87-64



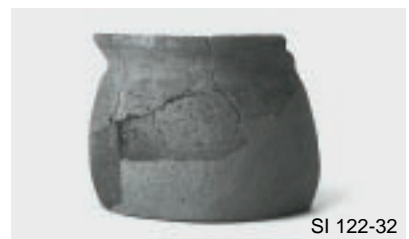
SI 91-6



SI 87-63













SI 173-4



SI 190-2



SI 173-3



SI 173-2



SI 187-3



SI 187-4



SI 187-5



SI 188-1



SI 188-2



SI 188-7



SI 197-1



SI 197-2



SI 197-8



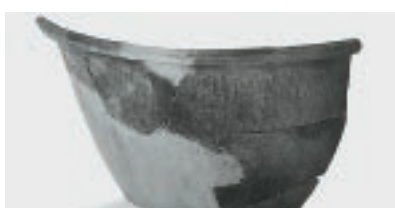
SI 205-5



SI 202-1



SI 192-6



SI 197-19



SI 197-20



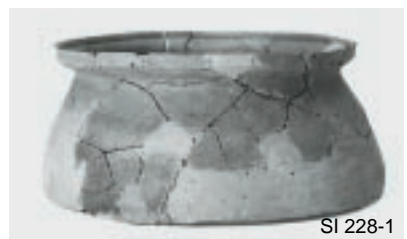
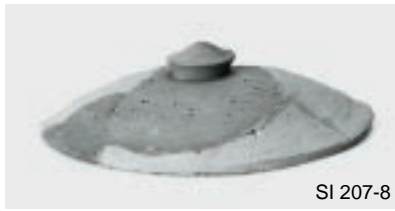
SI 179-1



SI 197-7



SI 197-17





SK 773-3



SK 773-4



SK 823-2



SK 824-4



SK 824-3



SK 824-1



SK 824-2



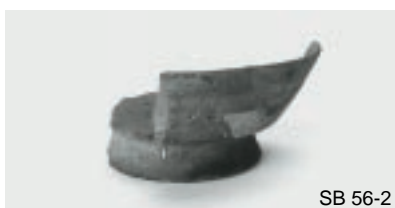
SI 230-1



SI 230-2



SB 54-1



SB 56-2



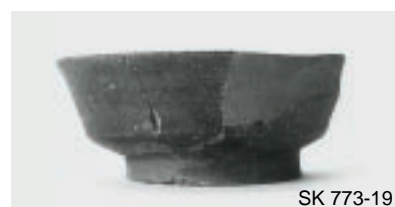
SK 773-13



SK 773-14



SK 773-15



SK 773-19



SK 824-5



SK 824-7



SK 773-22



SI 228-5



SK 943-8



豎穴状遺構 3-1

第 230・228 号住居跡，第 54・56 号掘立柱建物跡，第 773・823・824・943 号土坑，第 3 号豎穴状遺構出土遺物



SK 857-2



SK 898-1



SK 941-1



P 264-6



SX 2-11



SK 943-1



SK 943-3



SK 943-6



SK 1894-1



P 76-3



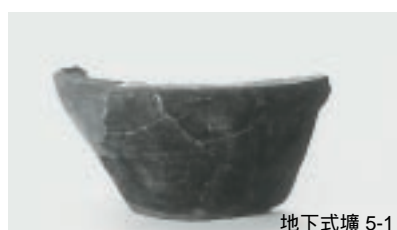
SX 2-23



遺構外-35



遺構外-36



地下式墳 5-1



堀 1-5



SD 15-1



堀 1-7



SD 9-2



遺構外-41

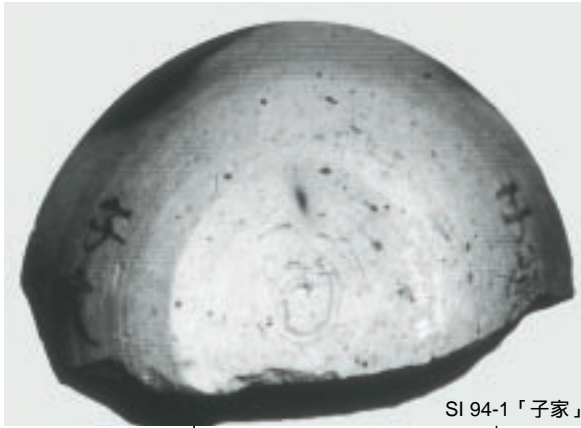


SK 943-10

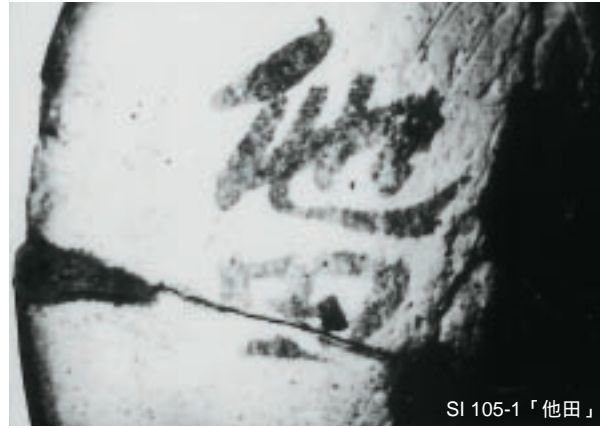


遺構外-47

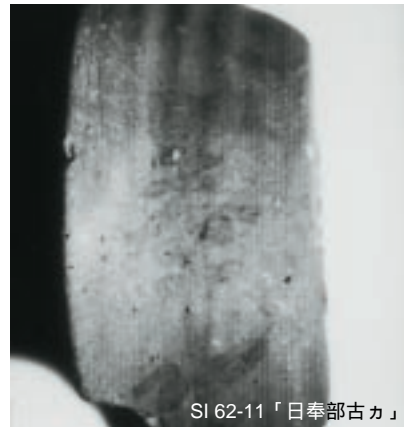
第 857・898・941・943・1894 号土坑，第 1 号ピット群，第 2 号遺物包含層，第 5 号地下式墳，第 1 号堀，第 9・15 号溝，遺構外出土遺物



SI 94-1 「子家」



SI 105-1 「他田」



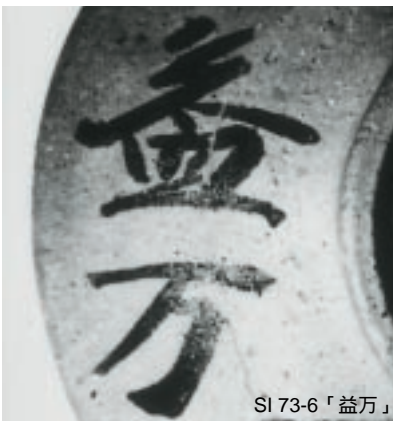
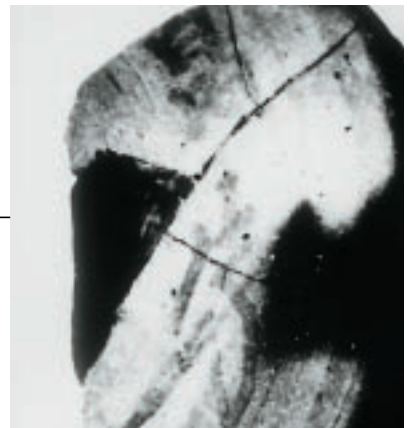
SI 62-11 「日奉部古カ」



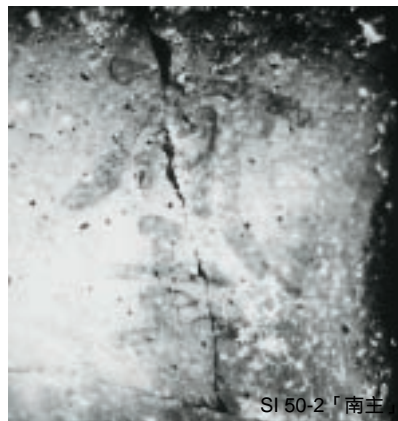
SI 114-2 「多了家」



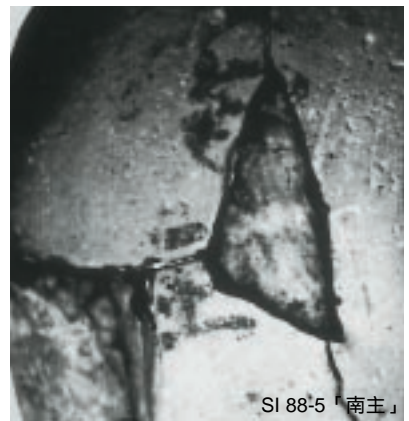
SI 100-1 「畠家」



SI 73-6 「益万」



SI 50-2 「南主」

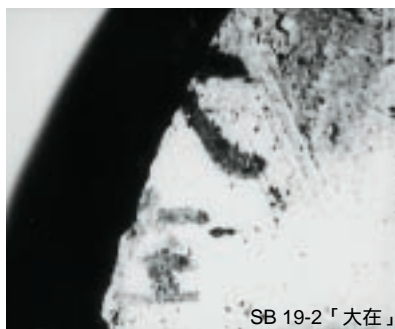


SI 88-5 「南主」

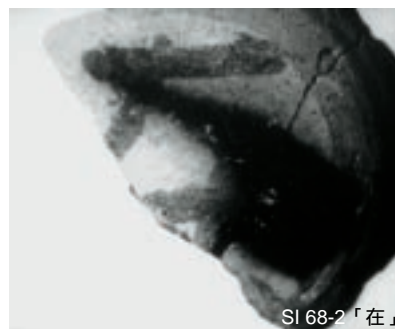
墨書土器(1)



遺構外-17「大在」



SB 19-2「大在」



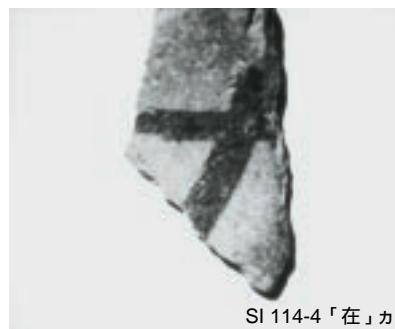
SI 68-2「在」



SI 94-7「在」



SI 99-14「在」



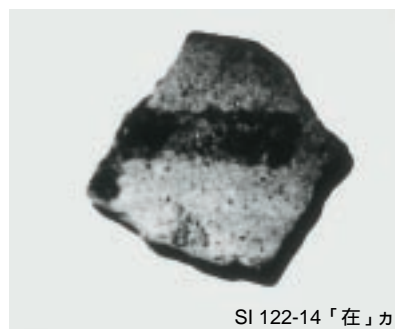
SI 114-4「在」カ



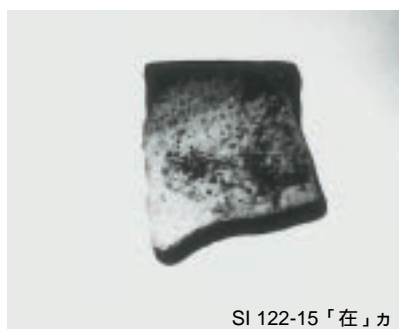
SI 122-1「在」



SI 122-21「在」カ



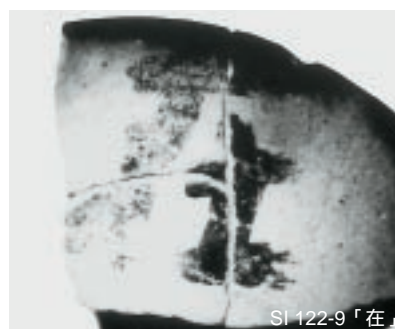
SI 122-14「在」カ



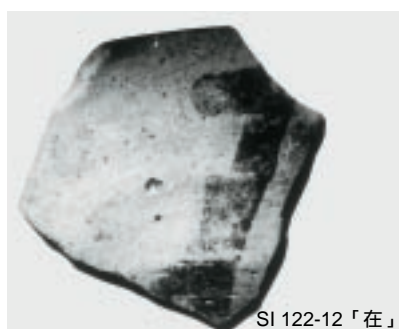
SI 122-15「在」カ



SI 122-11「在」



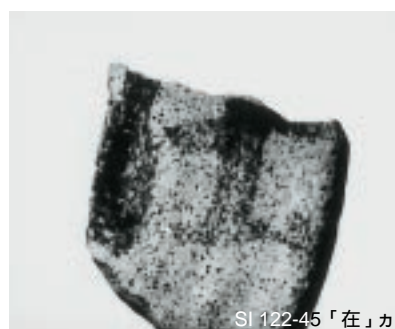
SI 122-9「在」



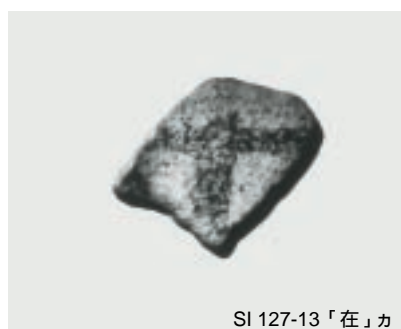
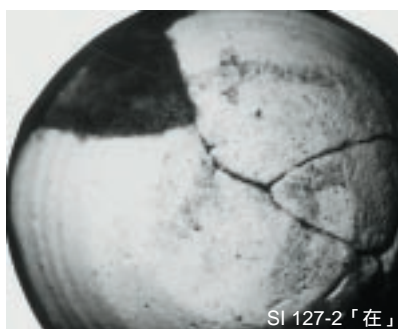
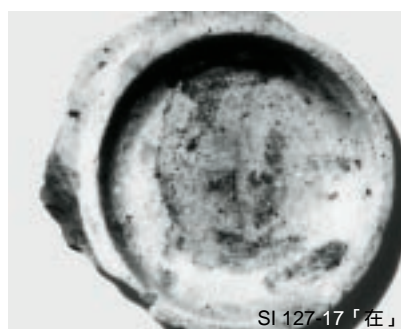
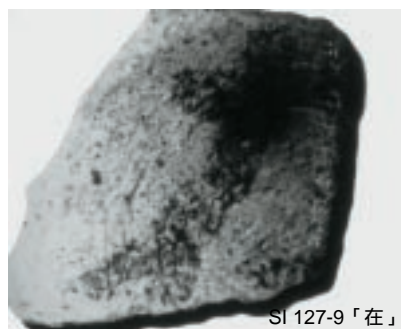
SI 122-12「在」



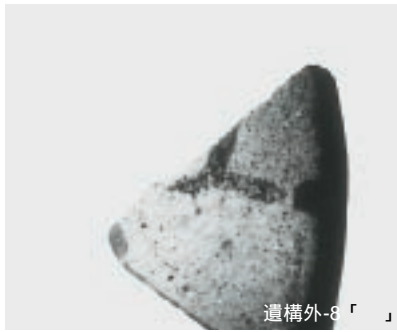
SI 122-16「在」



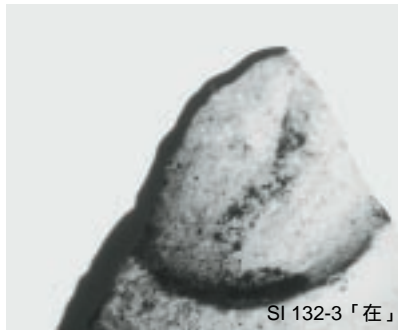
SI 122-45「在」カ



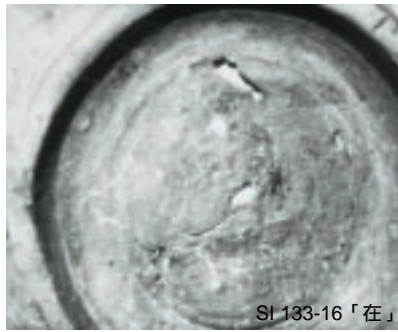
墨書土器(3)



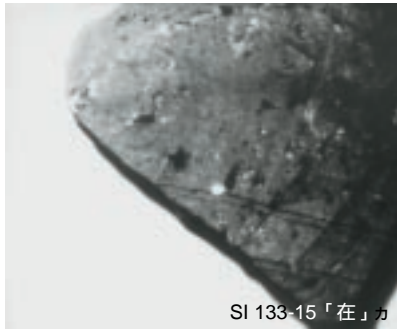
遺構外-8「カ」



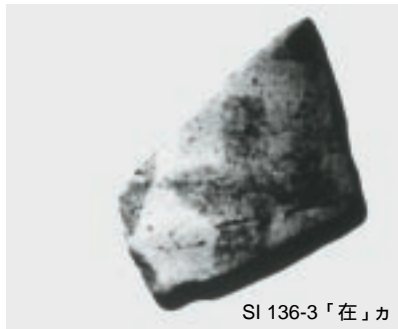
SI 132-3「在」



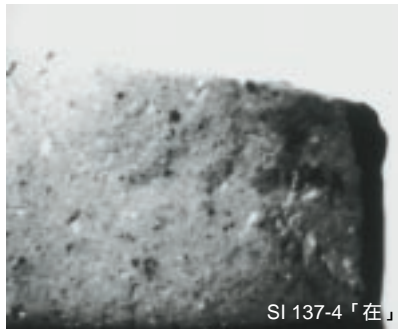
SI 133-16「在」



SI 133-15「在」カ



SI 136-3「在」カ



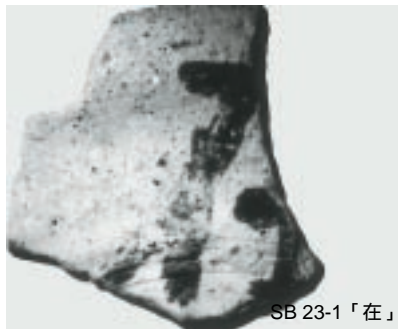
SI 137-4「在」



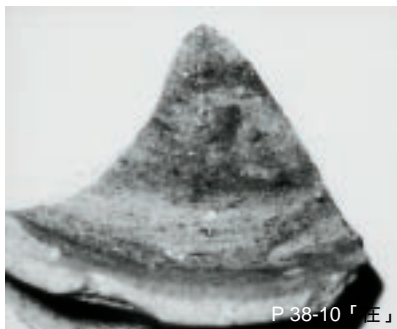
SK 943-2「在」カ



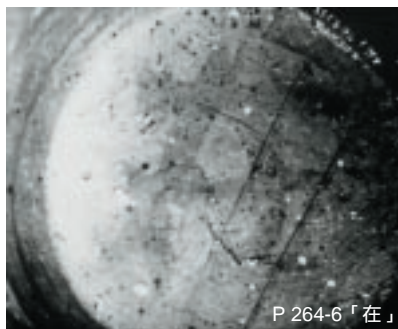
SK 824-2「在」



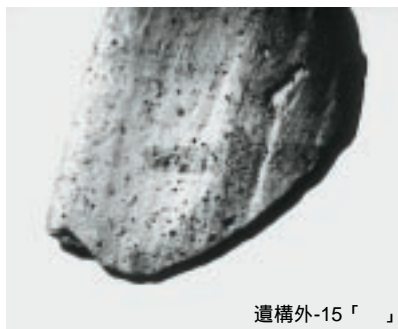
SB 23-1「在」



P 38-10「在」



P 264-6「在」



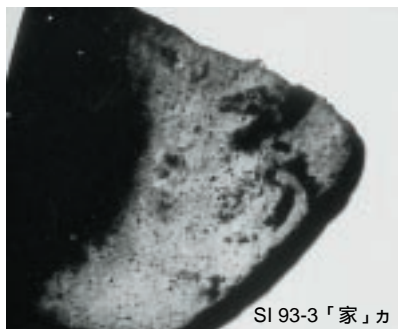
遺構外-15「カ」



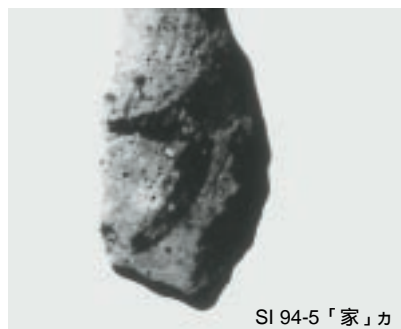
遺構外-7「在」カ



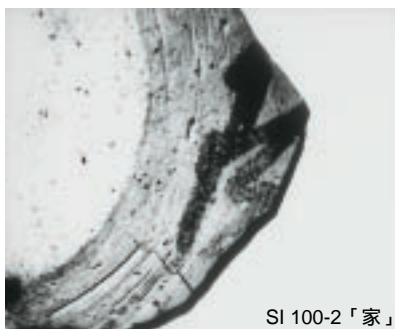
遺構外-12「在」



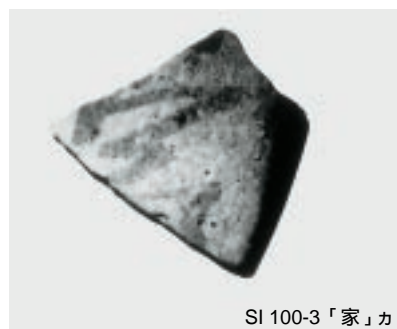
SI 93-3「家」カ



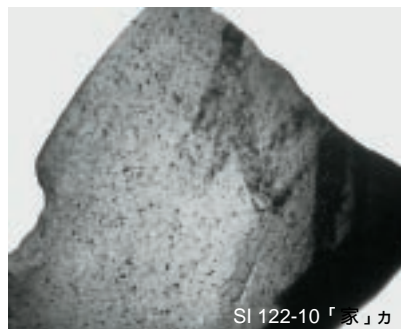
SI 94-5 「家」カ



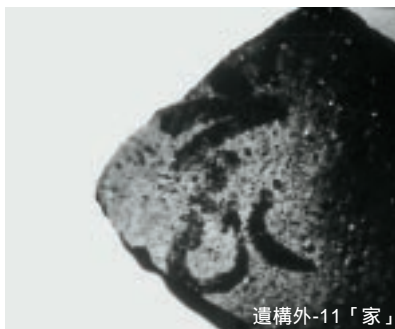
SI 100-2 「家」



SI 100-3 「家」カ



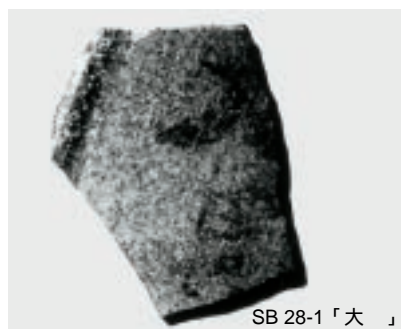
SI 122-10 「家」カ



遺構外-11 「家」



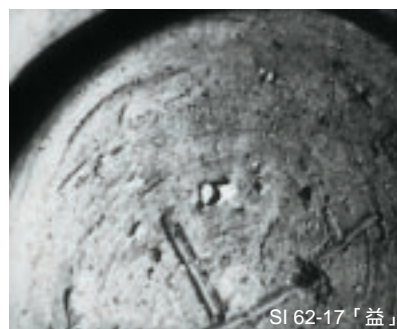
SI 55-7 「利」



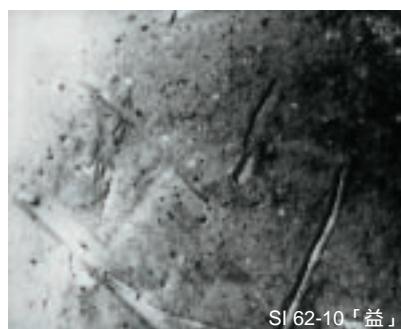
SB 28-1 「大」



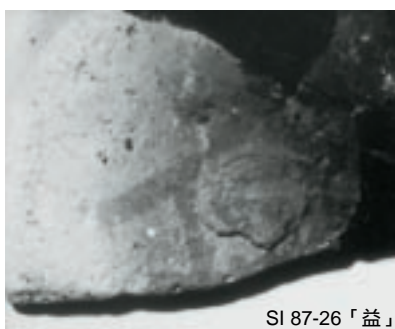
SI 122-3 「大」



SI 62-17 「益」



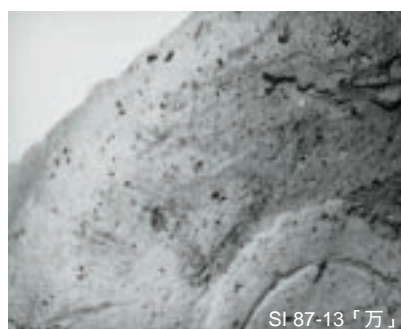
SI 62-10 「益」



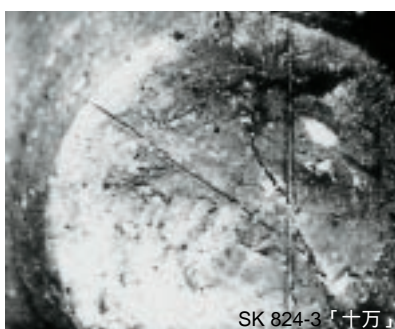
SI 87-26 「益」



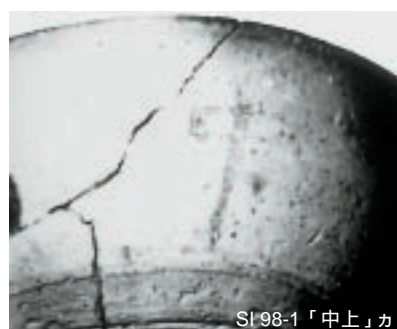
P 63-1 「益」万



SI 87-13 「万」



SK 824-3 「十」万

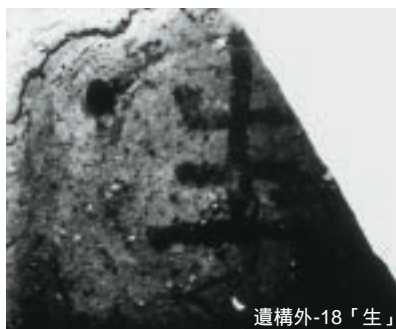


SI 98-1 「中上」カ

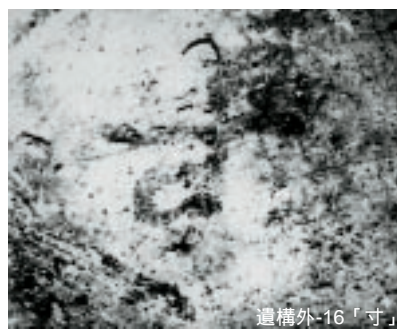
墨書土器(5)



SI 128-1 「出」



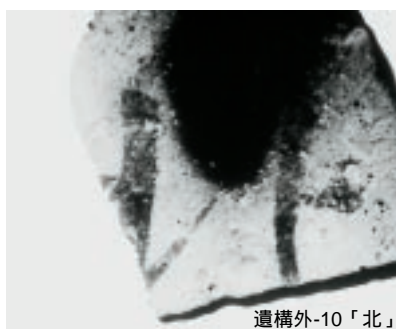
遺構外-18 「生」



遺構外-16 「寸」



SI 132-7 「北」



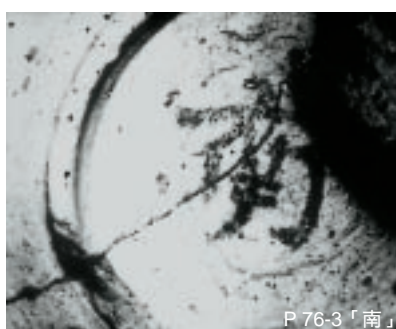
遺構外-10 「北」



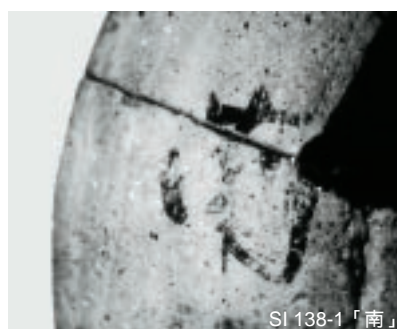
SI 73-2 「南」



SI 73-4 「南」



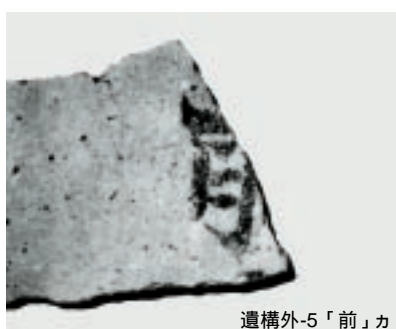
P 76-3 「南」



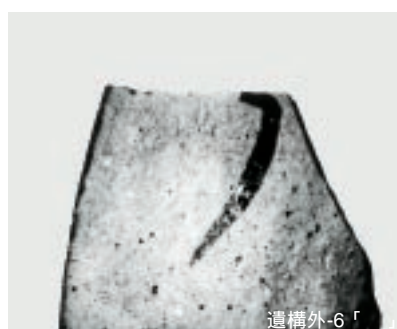
SI 138-1 「南」



SI 73-5 「南」



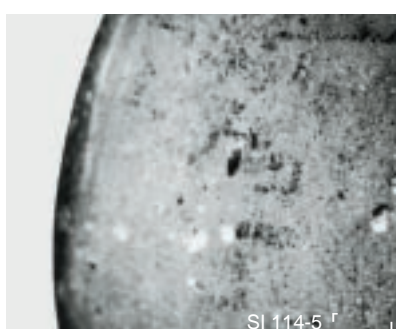
遺構外-5 「前」カ



遺構外-6 「南」



SI 93-8 「家」カ

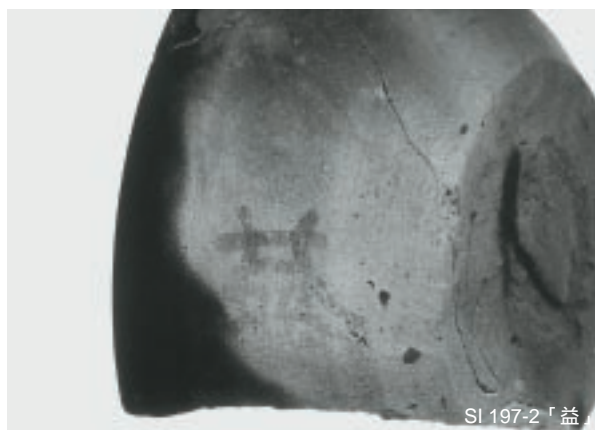
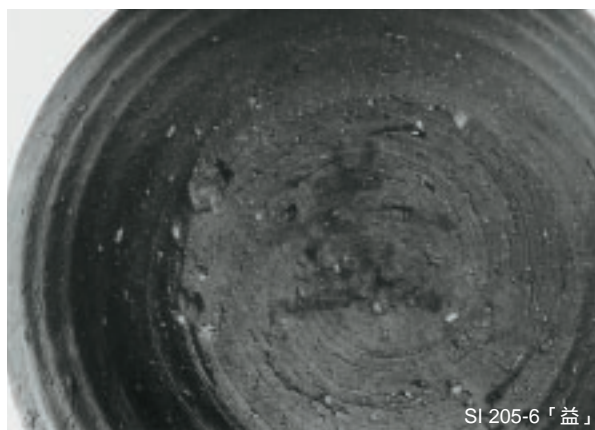
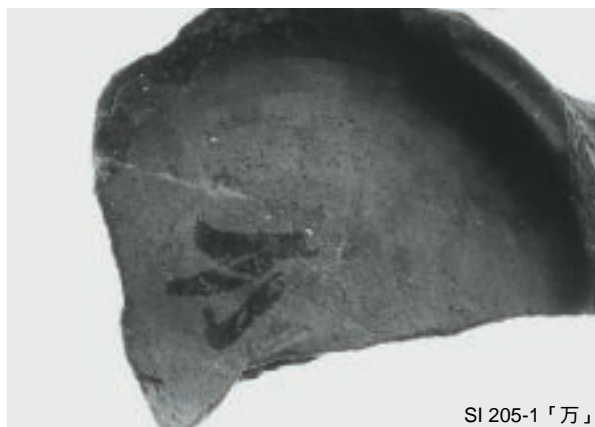
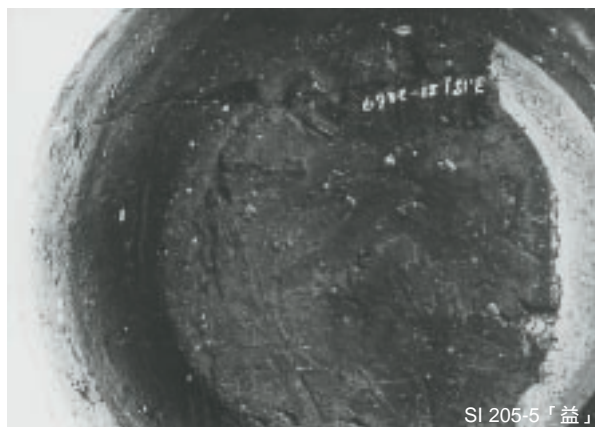


SI 114-5 「家」

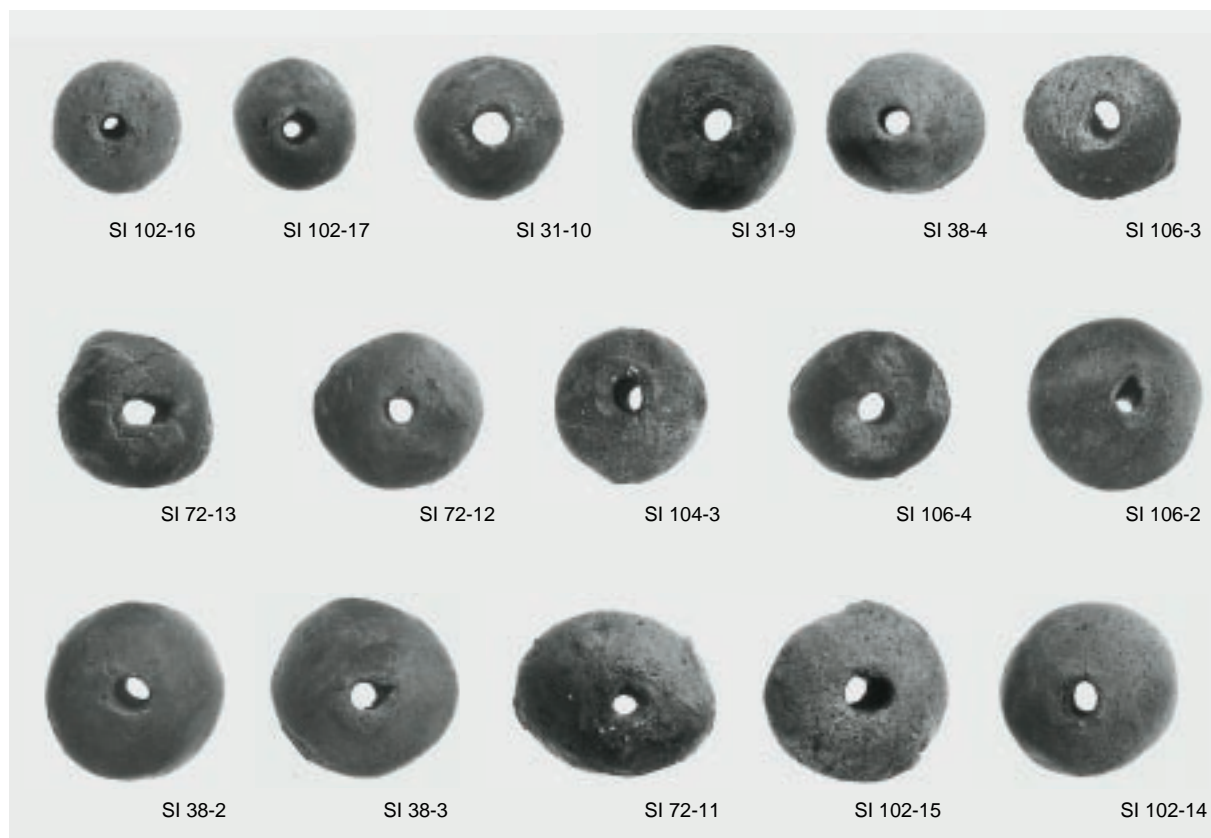


SI 127-6 「家」

墨書土器 (6)



墨書土器(7)



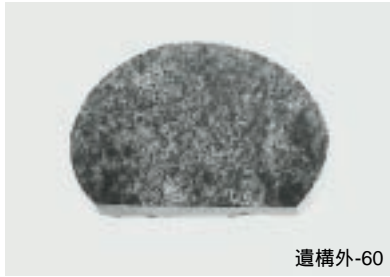
出土土製品（土玉・紡錘車・管状土錘・支脚）



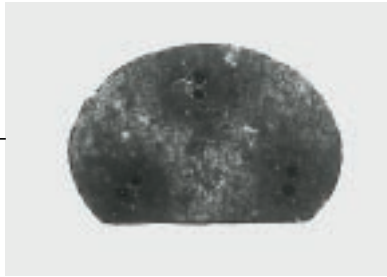
遺構外-61



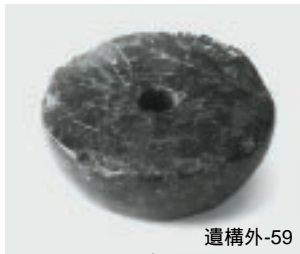
SI 124-32



遺構外-60



SI 124-33



遺構外-59



SI 87-70



SI 155-13



SI 227-4



SI 65-21



SI 110-17

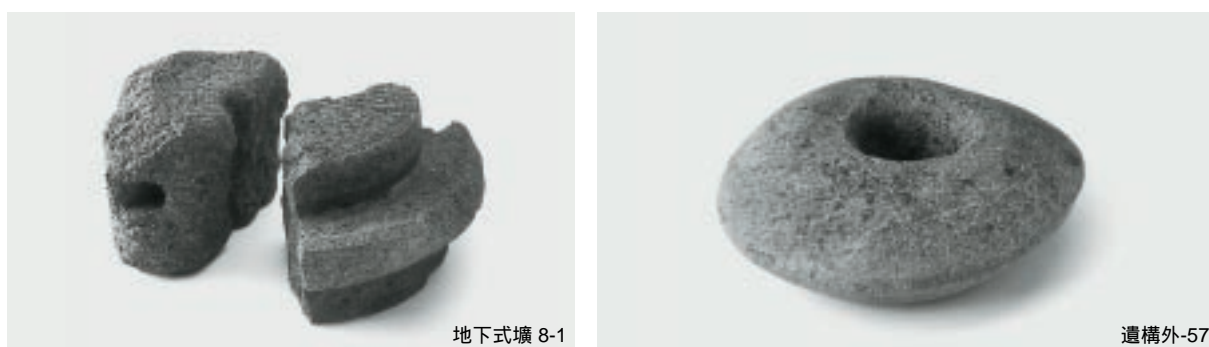
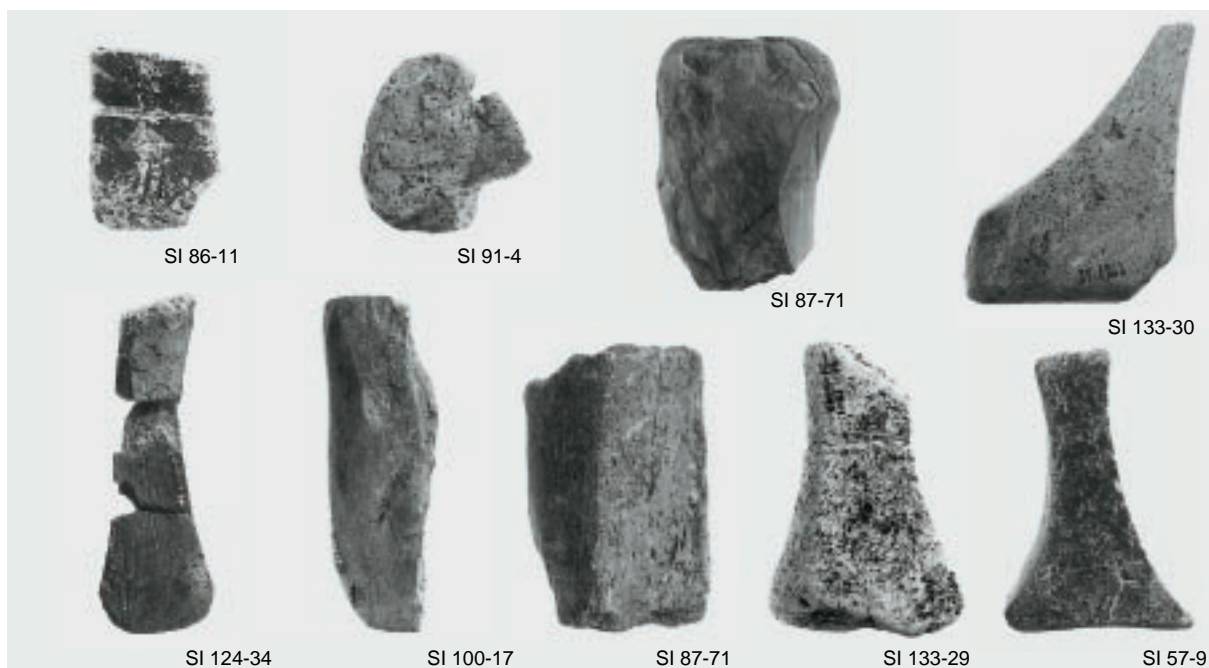
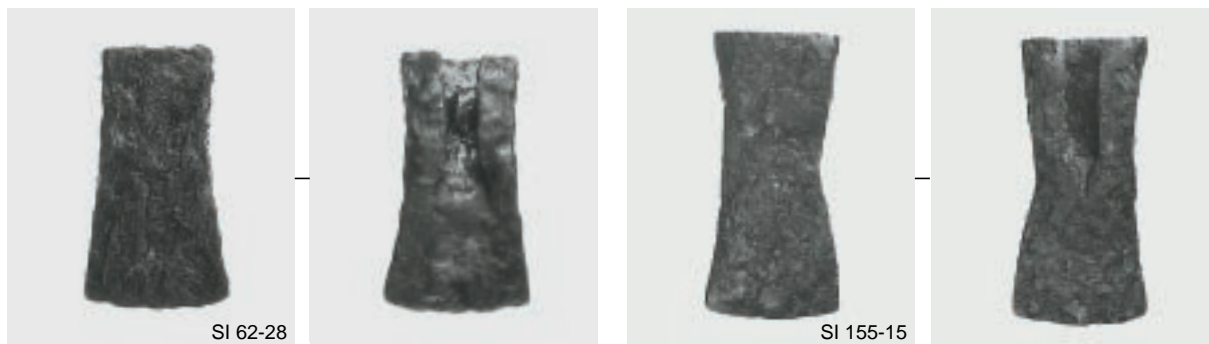


SI 104-5



SI 101-15

出土石製品（丸鞆・巡方・紡錘車・敲石・炉石）



出土金屬製品（鐵斧），出土石器・石製品（砥石・石皿・石臼・環狀石斧）



SI 173-6



SI 127-92



SI 97-12

SI 122-69

SI 127-91



SI 69-16



SI 127-93



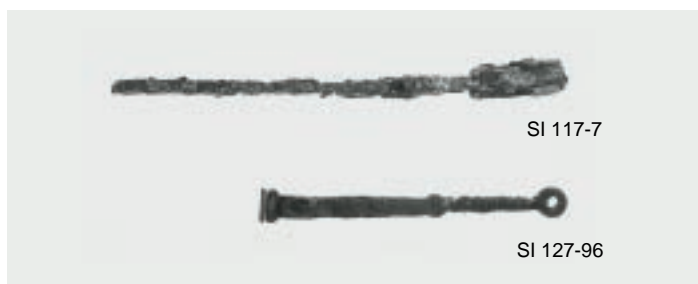
SI 207-14



SI 127-95

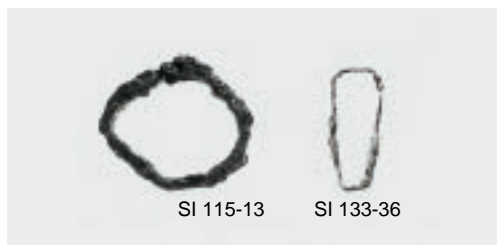


SI 93-24



SI 117-7

SI 127-96

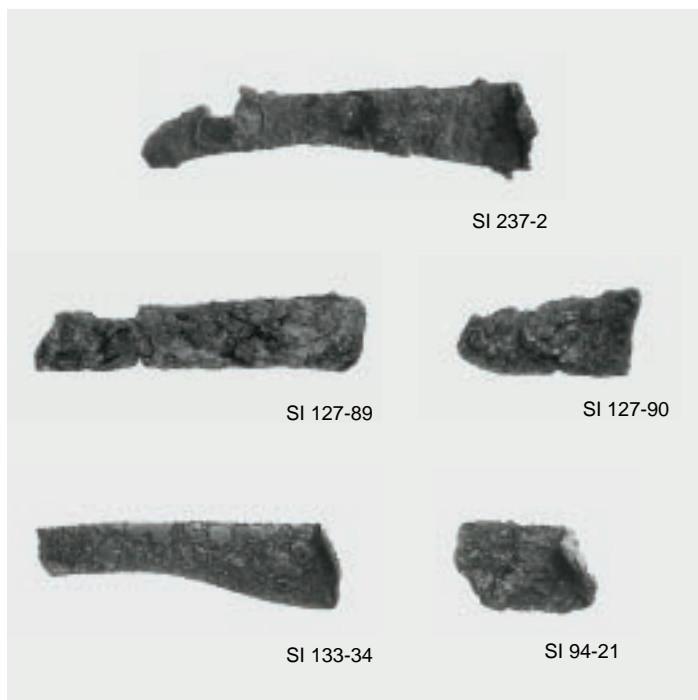


SI 115-13

SI 133-36



SI 118-10



SI 237-2

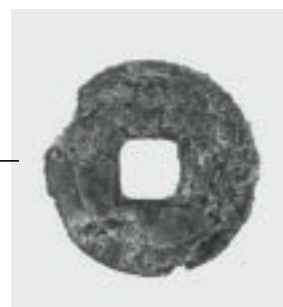
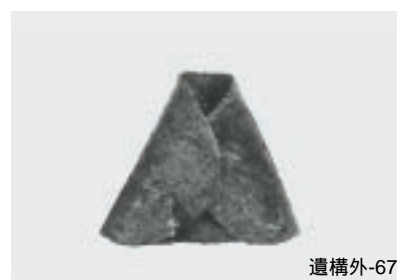
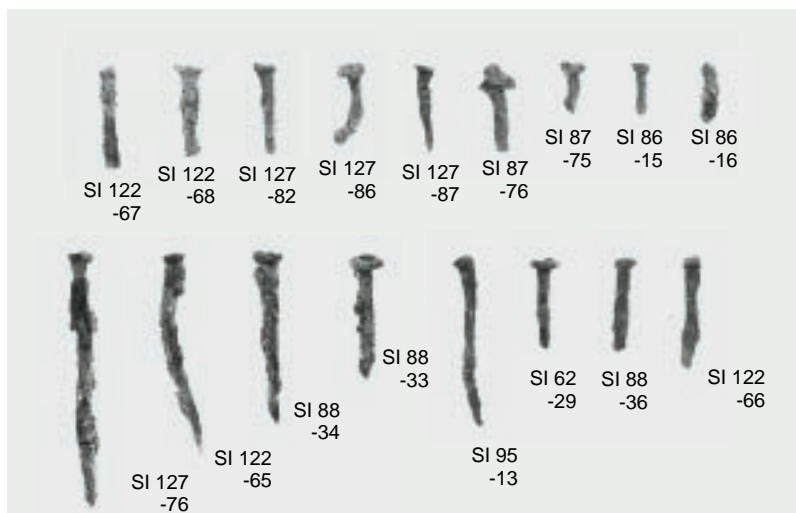
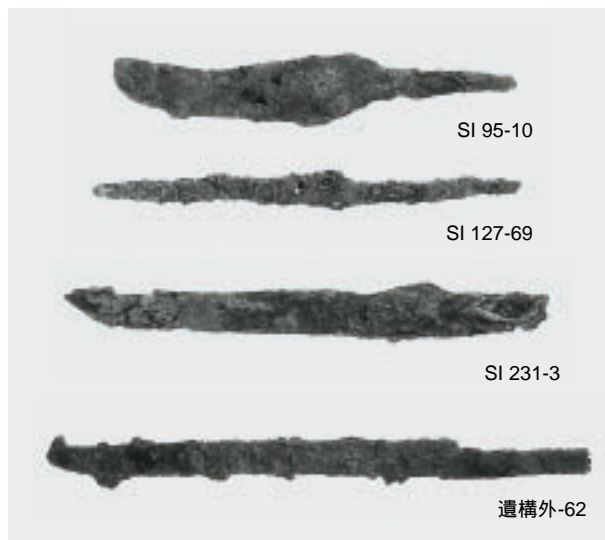
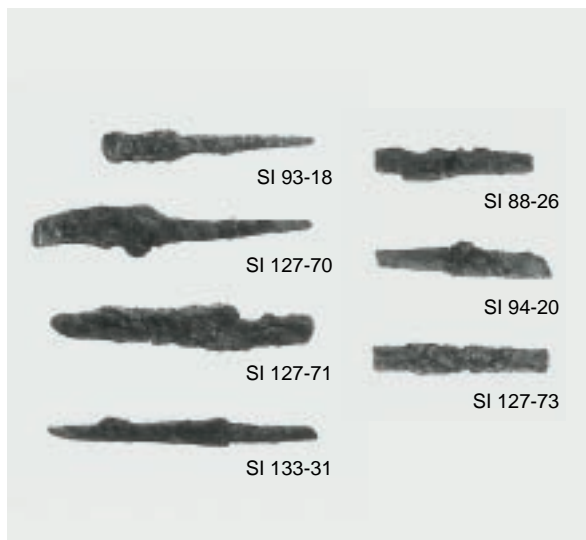
SI 127-89

SI 127-90

SI 133-34

SI 94-21

出土金属製品（鏃・鏃・鏃・鋤先・火打金・馬銜・鍵・鎌・不明）



出土金屬製品（刀子・小刀・釘・鉸具・古錢・不明）

茨城県教育財団文化財調査報告第241集

宮 後 遺 跡 3

やさしさのまち「桜の郷」整備事業
に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

下 巻

平成17(2005)年 3月22日 印刷
平成17(2005)年 3月25日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (有)平電子印刷所
〒970-8024 いわき市平北白土字西ノ内13
TEL 0246-23-9051